

**2018年度
文学部 講義概要
(シラバス)**

法政大学

大学での学びを、自分の手で

文学部長 小秋元 段

「文学部は就職に不利」という言葉をときどき耳にします。しかし、それは数十年前の話であって、今日、文学部に所属していることが、皆さんの就職に不利益に働くことはありません。

しかし、文学部の教員としていささか実感することは、文学部生のなかには就職活動に向かない人が、他学部より多いのではないか、ということです。文学部の門をたたいた皆さんのなかには、利益や効率を重視する社会の常識に違和感を抱いている人も多いことでしょう。そして、社会で活発に活動することよりも、一人静かに書を読み、ものを考えることを好むタイプが多いはずです。今もって「文学部は就職に不利」といわれてしまう理由は、このようなところにあるのかもしれません。

大学は就職のための予備校ではありませんが、社会に出るための「身の構え」を作る重要な場所です。4年間の学業を終えたあと、皆さんは社会と何らかの関わりをもち、他者に貢献してゆくことが求められます。学生時代がそのための準備期間であることは間違いありません。

社会に出るための「身の構え」を作るといって、アルバイトやサークル活動などを通じて社会性を養うことを想起する人も多いことでしょう。しかし、大学という教育機関に籍を置く以上、皆さんには学業を通じてそれを実現してもらいたいと考えます。

総合大学である法政大学には、広範な領域を網羅するかのごとく、あらゆる授業科目が開設されています。そして、私たちの文学部のなかには、領域や研究方法を異にする6つの学科が存在しています。皆さんはそのなかの1つの学科に属することになりますが、それ以前に法政大学の、そして文学部の学生でもあるわけですから、全学的な視点や学部を俯瞰する視点で、知の構築を志してください。

現代社会が直面する複雑な課題は、1つの領域の知識・方法だけで解決できるものではありません。そのためにも、他の領域を少し意識的に、手厚く学ぶことによって、複数の視座を獲得することが必要です。社会へ出るための「身の構え」も、そうした努力のなかから作られてゆくものです。そのように考えたとき、総合大学の、しかも文学部に学ぶ皆さんには、実に多くの学びの選択肢が準備されていることになります。

そもそも、利益や効率を重視するがゆえに生じた現代社会の課題を解決できるのは、世の中の動きに流されず、確固とした見識をもつ人々です。人間と文化の本質を考察の対象とする文学部各学科のカリキュラムは、もちろんこうした見識の養成に力点を置いているわけですが、皆さんがさらに自信をもって社会と対峙してゆくためには、大学時代に複数の知の領域を学び、自らの知に強みを与えることが大切です。

シラバスを読むことは、そのための第一歩です。

学部・学科の＜教育目標＞・＜学位授与方針：ディプロマ・ポリシー＞・＜カリキュラム・ポリシー＞

【文学部】

＜教育目標＞

文学部は、各学科のカリキュラムのもと、以下に示すような人材を育成する。

1. 古今東西の文献・資料・情報を研究・調査することにより、広い視野・深い教養にもとづく独創的な思考力を発揮できる人間。
2. 歴史・世界・社会の中で客観的に自らの位置を見定め、柔軟な感受性をもって他者を理解し、多様な価値観を公正に評価できる人間。
3. 当面する課題を検証し、解決策を考え、それを説得力をもって発信できる人間。

＜ディプロマ・ポリシー＞

文学部は、各学科のカリキュラムのもと、所定の単位を修得し以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」を授与する。

1. 各専門分野の学問内容や研究方法を理解している。また、幅広い教養を備えている。
2. 自ら問題を発見し解決していく思考力や調査力を有している。
3. 自らの考えを論理的に表現できる文章力やプレゼンテーション能力を有している。また、他者と協力し議論しながら多角的に問題をとらえることができる

＜カリキュラム・ポリシー＞

文学部では、各学科のカリキュラムのもと、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. プレゼンテーションやディスカッション等の能力を涵養するため、各学科の専門科目として「ゼミナール」や「演習」を設置している。
2. 文章読解・資料調査・レポート作成・ディベート等の基礎的なスキルを涵養する初年次教育として、「基礎ゼミ」等を設置している。
3. 幅広い知識や教養を涵養するため、市ヶ谷リベラルアーツセンター科目の単位を卒業所要単位に含めている。
4. グローバルな問題意識を涵養するため、全学科を対象とする「共通科目」や他学科開講科目を設置している。
5. 課題を発見し検証していく思考力や表現力を涵養するため、「卒業論文」を4年間の集大成として位置づけている。

【哲学科】

＜教育目標＞

哲学科は、「自由と進歩」という大学建学の精神のもとで、深い哲学的教養、人間理解、広い視野に裏付けられた次のような人材を育成することを目標とする。

1. ものごとを論理的に深く考えて、説得力のある議論と問題の解決策を提示し、発信できる人間。
2. 国際的な視野と多様な関心をもって、世界と人間・社会のありかたとその課題を洞察し、広く他者に心に向けて積極的に主張を展開できる人間。
3. 時代や権威に流されず「進取の気象」にあふれて、ものごとに向かって前向きな姿勢を保ちつつ考察し、発信できる人間。

＜ディプロマ・ポリシー＞

哲学科は、所定の単位の修得により以下に示す水準に達した学生に対して「学士（文学）」の授与を認める。

1. 哲学的専門性を備えた知識をもつとともに、深い教養と国際的な広い視野をもっている。

2. 古今の哲学者のテキストを正しく理解でき、同時に哲学的知見を現代の諸問題に応用する力を有している。
3. 論理的な理解力や表現力をもち、説得力のある仕方でも口頭での発表や文章による表現ができる。
4. ディスカッション等において哲学的教養に裏打ちされた豊かなコミュニケーション能力を示せる。
5. 哲学的な問題発見能力と独創的な発想力・問題解決能力をもっている。

＜カリキュラム・ポリシー＞

哲学科は、学科の人材育成の目的を達成するために以下に示す教育課程を編成する。

1. 文章読解、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成の基礎力を涵養するために、初年次に基礎ゼミを設置している。
2. 国際的な幅広い知識を獲得し、広い視野でものごとを思考できる能力の養成をはかるために、リベラルアーツ科目を卒業所要単位に含めている。
3. 専門科目については、哲学科卒業に相応しい学力を段階的に身につけられるようにするために、概論科目・哲学史科目および基礎演習からはじめて、特講科目、演習（ゼミ）を経て卒業論文に至るという発展的な教育課程を編成している。
4. 視野の広い問題意識を養うために、文学部の「共通科目」、および他学科共通科目の履修を可能にしている。
5. 学生がみずから問題を発見し、解決してゆく力を養うために、卒業論文を四年間の学びの集大成として位置づけている。

【日本文学科】

＜教育目標＞

日本文学科は、所定の教育課程のもと日本の文学・言語・芸能の歴史と現状を専門的に学ぶことにより、以下に示すような資質・能力を備えて、国際化・情報化が進む 21 世紀社会において自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成する。

1. 日本文学の作品世界のみならず、現代の様々な事象を繊細に感受できる豊かな感性。
2. 豊かな感性によって感受した様々な事象について、論理的に分析・考察する能力。
3. 分析・考察の結果を独自の世界や思想を構築することに結びつけられる創造性。
4. 上記の資質・能力によって得た一連の成果を社会に向かって魅力的に発信していく表現力。

＜ディプロマ・ポリシー＞

日本文学科は、所定の教育課程のもと、所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認める。

1. 日本の文学・言語・芸能の歴史と現状についての基本的な知識を身につけている。
2. 所属する文学・言語・文芸の三コースいずれかの領域における正確な読解力を有している。
3. 自ら問題を発見し、その問題について考察を深められる思考力を有している（文学・言語コース）。
自ら主題を発見し、その主題について構想を深められる想像力を有している（文芸コース）。
4. 自らの研究や発想の成果を的確に伝えられる日本語の表現力を有している。

＜カリキュラム・ポリシー＞

日本文学科は、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 1 年次においては、大学生の学びに必要とされる能力の習得のため、少人数制による初年次教育科目を設置するとともに、専門教育への導入として、日本の文学・言語・芸能、また中国文学について基本的な知識を修得できる科目を配置している。
2. 専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・文芸の 3 コースを設置し、学生は 2 年次からそのいずれかに籍を置き、少人数制のゼミナールに所属する。より正確な読解力、深い思考力・想像力、的確な表現力、問題発見・解決能力を涵養するため、専門分野に関する科目および隣接領域に関する科目を、段階的に、また体系的に履修できるよう配置している。
3. 教養教育科目（市ヶ谷リベラルアーツセンター科目）の単位を卒業所要単位に含むこととする。センター

のカリキュラムに従って履修することにより、さらに幅広い学問分野の知識を得て、柔軟かつ多角的な認識力・思考力・問題解決力等を涵養する。

4. 4年次においては、ゼミナール担当教員の指導のもと、卒業論文の執筆に取り組む。なお、卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成とし、大学での研鑽の成果を発揮するものとして位置づける。

【英文学科】

＜教育目標＞

英文学科では、文学部全体の教育目標のもと、以下に示すような人材を育成する。

1. 英語という「言語」を基礎に、文学を学ぶことによって自他の人生や世界をより深く考えることのできる思考力と倫理意識を持つ人間。
2. 英語という「言語」を基礎に、言語学を学ぶことによって科学的な分析力と思考力を持つ人間。
3. 「人間とは何か」という問いを、英語を中心とした言語を通して思索することのできる人間。
4. 言葉を通して、人間的なものへの高い感受性と共感力を持つと同時に、その共感を、単なる情緒的感覚としてではなく、言葉によって他者に語りうる論理性を備えた柔軟な理性的な人間。
5. 英語力、日本語力、読解力、文章力、論理的思考力、分析能力を持つ人間。

＜ディプロマ・ポリシー＞

英文学科では、文学部全体のディプロマ・ポリシーのもと、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（文学）」の授与を認める。

1. 論理的な日本語力・英語力とそれに基づく高度なコミュニケーション能力を備えている。
2. 批判的・論理的思考力とそれに基づく課題発見力・課題解決力を有している。
3. 自らの文化や言語を、グローバルな文脈の中で相対化・客観化して捉える能力を有している。
4. 英米文学・文化研究または科学的な英語学・言語学研究の基礎的な知識をもとに、一つの課題の解決のために、様々な知識を有機的に結びつける能力を有している。

＜カリキュラム・ポリシー＞

英文学科では、文学部全体のカリキュラム・ポリシーのもと、以下に示す教育課程を編成している。

1. 1年次においては、「演習科目」として、基礎ゼミにおいて導入教育を行ない、同時に、概説科目を配置してさまざまな分野への導入となる「講義科目」を設置している。
2. 2年次においては、学生各自の基礎的な英語力を向上させるための Speaking や Writing などの実践的な科目とともに、学問への興味をかき立てるように、少人数教育としての2年次演習および専門科目を配置している。
3. 3年次においては、専門的な知識が深められるように、併設されている専門科目と合わせて少人数制のゼミを配置している。
4. 4年次においては、学生各自が選んだ研究テーマを卒業論文としてまとめられるように、担当教員の手厚い面談指導と添削指導を行なっている。
5. 上記の1～4と並行して、4年間の学生生活を通して幅広い英語力の獲得や文化交流ができるように、海外の提携大学への短期・中期の留学制度を設定している。

【史学科】

＜教育目標＞

史学科は、所定のカリキュラムのもと、以下に示すような人材を育成する。

1. 具体的な史料に基づいた歴史学の方法論を習得することにより、歴史学への学問的関心を深め「歴史を見る眼」を持つことのできる人間。
2. 史料を博捜しその価値を判断する能力をもち、史料を適切に活用した実践的な研究ができる人間。
3. 現代社会、さらには未来への展望をも含めた人類史を、「歴史を見る眼」から判断することのできる人間。

＜ディプロマ・ポリシー＞

史学科は、所定のカリキュラムのもと、所定の単位を修得し以下に示す水準に達した学生に対し、「学士（文学）」の授与を認める。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望することができる。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自立的に問題を発見・追究・検証することができる。
3. 発表・討論において、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解することができる。
4. 次世代の教育に歴史学の成果を生かし、また、文化遺産の継承に貢献することができる。

＜カリキュラム・ポリシー＞

史学科では、所定のカリキュラムのもと、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 1年次には教養教育に加え、国際的な視野と幅広い知識を身につけるため、日本史・東洋史・西洋史の概説を設置している。
2. 新入生が大学における多様な授業に十分に適応し、その能力を発揮することが可能になるよう、初年次教育科目として「基礎ゼミ」を設置している。
3. 2年次以降、日本史・東洋史・西洋史の三専攻に分かれ、演習（ゼミ）を中心とした歴史学の専門的教育に入る。
4. 自立的に研究できる能力を向上させるため、演習とともに史料の活用や外書の読解能力を実践的に訓練する授業を設置している。
5. 自分の専攻にとどまらず幅広い学識を得るために履修できる多様な講義科目を設置している。
6. 4年生は所属ゼミ担当教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成していく。課題を発見し検証していく思考力や表現力を涵養するため、「卒業論文」を学科における学業の集大成として位置づけている。

【地理学科】

＜教育目標＞

地理学科は、学科が提供するカリキュラムの下、以下に示すような人材を育成する。

1. 地理学の方法論を学ぶことによって地理学的視点から「地域の特性」を理解する能力をもった人材。
2. 地理学的見方・考え方から得られた「地域の特性」を自ら社会に発信する意欲をもった人材。
3. 目の前にある「社会的な問題」に対し、自ら率先して取り組み、解決する能力を持った人材。

＜ディプロマ・ポリシー＞

地理学科は、地理学科のカリキュラムのもと所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認める。

1. 人間の生活の舞台である地球表層の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身につけている。
2. 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
3. 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

＜カリキュラム・ポリシー＞

地理学科では、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 幅広い知識や教養を涵養するため、市ヶ谷キャンパスのリベラルアーツ科目の単位を卒業所要単位に含めている。また、1年次には「基礎ゼミ」で、大学での学習方法の基礎・基本を身につけさせる。

2. 地理学科の専門科目は、1年次では入門的な科目、2年次以降は地理学の様々な分野の基礎的知識を身につけるため各論科目が配置されている。また、主に3年次以降において、地理学の方法論や研究法を身につける、演習や実習科目が配置されている。
3. フィールドワークを通じて地域の実態を調査し、その結果をもとにレポートを作成することによって、調査技能、研究方法および文章表現能力を身につけさせる「現地研究」が必修科目の一つとして配置されている。
4. プレゼンテーションや討論を通して、地理学の研究手法や体系を学び、問題解決能力や卒業論文作成の基礎的能力を身につけるため、演習（ゼミ）が配置されている。
5. 課題を発見し検証していく思考力や表現力を涵養するため、「卒業論文」を4年間の集大成として位置づけている。優秀な学生が早期に研究活動に専念できるよう、3年次で早期卒業し大学院修士課程へ進学する5年一環プログラムも用意されている。

【心理学科】

＜教育目標＞

心理学科では、以下に示すような人材を育成する。

1. 幅広い心理学の知識・技能を獲得することで、人や社会に対して多面的かつ客観的に洞察することができる人間。
2. 心に関わるさまざまな問題を専門的な立場から検討でき、自らの力で新たな知識を生み出せる人間。
3. 的確なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、グループ活動能力を有し、他者と協働しながら自分自身の持つ知識・技能を活用し、社会に向けて効果的に発信できる人間。

＜ディプロマ・ポリシー＞

心理学科のカリキュラムのもと、所定の単位を修得し以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の学位の授与を認める。

1. 人の認知について科学的理解をすることができる。
2. 人の発達について科学的理解をすることができる。
3. 観察・実験・調査を通して、心の機能を測定し、分析することができる。
4. 国内外の先行研究や社会的要請をふまえて、自ら課題を設定することができる。
5. 研究・学習成果を的確に他者に伝えることができる。
6. 研究・学習目標を達成するために、他者と協働することができる。

＜カリキュラム・ポリシー＞

心理学科は、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 人の心を研究するために必要な知識・技能を偏りなく修得できるように「認知」と「発達」の二領域を中心とした専門科目を配置している。
2. 心理学の全領域に関わる基本的な知識・技能を学生が修得することを促すために、選択必修の学科基礎科目という科目区分を設定している。
3. 1年次に基礎ゼミ、2年次には演習Ⅰ・Ⅱ、3年次と4年次には研究法Ⅰ・Ⅱを配置し、一貫して少人数での演習形式の科目を履修できるようにし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を系統的かつ継続的に修得できるようにしている。
4. それまでに修得した知識・技能を活用して、人間の心について自らが検討する価値のある問題を設定した上で、科学的・客観的に分析し、その研究成果を明瞭に記述する能力を涵養するため、「卒業論文」を4年間の集大成として位置づけている。

◇◆◆◇ 目

次 ◇◆◆◇

「巻頭言」 文学部長 小秋元段	p. 1
文学部全体および各学科の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	p. 2
文学部の組織と専任教員	p. 8
共通科目	p. 15
哲学科	p. 23
日本文学科	p. 69
英文学科	p. 157
史学科	p. 251
地理学科	p. 309
心理学科	p. 369
文学部専任教員紹介	p. 449

※講義概要（シラバス）は、原則として「文学部生の履修の手引き」のカリキュラム表に載っている順序にて掲載されています。

文学部の組織と専任教員

文学部には哲学科、日本文学科、英文学科、史学科、地理学科、心理学科を置きます。
学部長、学科主任、名誉教授、専任教員は次のとおりです。

学部長・学科主任	
文学部長	小秋元 段
教授会主任	小倉 淳一
教授会副主任	林 容市
学科主任	
哲 学 科	内藤 淳
日本文学科	伊海 孝充
英 文 学 科	丹治 愛
史 学 科	大塚 紀弘
地 理 学 科	中島 弘一
心 理 学 科	島宗 理

名 誉 教 授	
安 岡 昭 男	栃 木 利 夫
黒 川 欣 映	竹 内 章
泉 谷 治	富 田 公 博
伊 藤 玄 三	堀 江 拓 充
羽 田 陽 子	山 名 弘 史
西 野 春 雄	佐 藤 典 人
勝 又 浩	

文学部専任教員

哲 学 科	教 授	牧 野 英 二 星 野 勉 安孫子 信 菅 沢 龍 文 中 釜 浩 一 奥 田 和 夫	教 授	笠 原 賢 介 山 口 誠 一 D・ハイデンライヒ 酒 井 健 安 東 祐 希 内 藤 淳
日 本 文 学 科	教 授	坂 本 勝 間 宮 厚 司 千 野 明日香 スティーヴン・ネルソン 中 沢 け い 小秋元 段 阿 部 真 弓 藤 村 耕 治	教 授 専任講師 助 教	加 藤 昌 嘉 中 丸 宣 明 田 中 和 生 尾 谷 昌 則 小 林 ふみ子 伊 海 孝 充 遠 藤 星 希 村 山 龍
英 文 学 科	教 授	結 城 英 雄 宮 川 雅 椎 名 美 智 利根川 真 紀 日 中 鎮 朗 石 川 潔 大 沢 ふよう 山 下 敦	教 授 准 教 授 助 教	丹 治 愛 川 崎 貴 子 ブライアン・ウィスナー 山 崎 暁 子 小 島 尚 人 韓 沛 君
史 学 科	教 授	後 藤 篤 子 加 納 格 中 村 純 小 口 雅 史 長 井 純 市 塩 沢 裕 仁	教 授 准 教 授 専任講師	小 倉 淳 一 齋 藤 勝 北 川 香 子 大 塚 紀 弘 松 本 剣 志 郎
地 理 学 科	教 授	中 俣 均 中 島 弘 一 吉 田 智 米 家 志乃布 伊 藤 達 也 前 全 英 明	准 教 授 助 教	片 岡 義 晴 小 寺 浩 二 小 原 丈 明 山 口 隆 子 羽佐田 紘 大
心 理 学 科	教 授	高 橋 敏 治 吉 村 浩 一 渡 辺 弥 生 福 田 由 紀 島 宗 理	教 授 専任講師	藤 田 哲 也 越 智 啓 太 田 嶋 圭 一 荒 井 弘 和 林 容 市

下記の科目については右側に記載している学科、学部のシラバスを確認してください。また、同じ学科でカリキュラムの変更によって科目名が変わっている場合には、新カリキュラムの科目名のシラバスを参照にしてください。

→
→
→
→
→
→

⇒

⇒

⇒
⇒
⇒

⇒
⇒
⇒

⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒

↑↑↑↑↑

– 10 –

A2459	日本文芸研究ゼミナール6
A2461	日本文芸研究ゼミナール7
A2462	日本文芸研究ゼミナール7
A2463	日本文芸研究ゼミナール8
A2465	日本文芸研究ゼミナール9
A2469	日本文芸研究ゼミナール16
A2471	日本文芸研究ゼミナール11
A2472	日本文芸研究ゼミナール11
A2473	日本文芸研究ゼミナール12
A2474	日本文芸研究ゼミナール12
A2475	日本文芸研究ゼミナール13
A2476	日本文芸研究ゼミナール13
A2477	日本文芸研究ゼミナール14
A2478	日本文芸研究ゼミナール14
A2479	日本文芸研究ゼミナール15
A2481	日本文芸研究特講(1)古代A
A2482	日本文芸研究特講(1)古代A
A2483	日本文芸研究特講(1)古代B
A2484	日本文芸研究特講(1)古代B
A2485	日本文芸研究特講(2)古代A
A2487	日本文芸研究特講(2)古代B
A2489	日本文芸研究特講(3)中世A
A2491	日本文芸研究特講(3)中世B
A2497	日本文芸研究特講(7)近代A
A2498	日本文芸研究特講(5)近世A
A2499	日本文芸研究特講(5)近世B
A2505	日本文芸研究特講(7)近代A
A2506	日本文芸研究特講(7)近代A
A2507	日本文芸研究特講(7)近代B
A2508	日本文芸研究特講(7)近代B
A2509	日本文芸研究特講(8)現代A
A2511	日本文芸研究特講(8)現代B
A2513	日本文芸研究特講(9)表現A
A2515	日本文芸研究特講(9)表現B
A2517	日本文芸研究特講(10)言語A
A2519	日本文芸研究特講(10)言語B
A2521	日本文芸研究特講(11)漢文A
A2522	日本文芸研究特講(11)漢文A
A2523	日本文芸研究特講(11)漢文B
A2524	日本文芸研究特講(11)漢文B
A2525	日本文芸研究特講(12)韻文A
A2527	日本文芸研究特講(12)韻文B
A2529	日本文芸研究特講(13)演劇A
A2531	日本文芸研究特講(13)演劇B
A2533	日本文芸研究特講(14)児童文芸A
A2535	日本文芸研究特講(14)児童文芸B
A2537	日本文芸研究特講(15)沖縄文芸A
A2538	日本文芸研究特講(15)沖縄文芸A
A2539	日本文芸研究特講(15)沖縄文芸B
A2540	日本文芸研究特講(15)沖縄文芸B
A2542	日本文芸研究特講(16)特域A
A2544	日本文芸研究特講(16)特域B
A2545	日本文芸研究特講(17)日本学A
A2547	日本文芸研究特講(17)日本学B
A2549	日本文芸研究特講(18)音楽芸能史A
A2551	日本文芸研究特講(18)音楽芸能史B

日本文学科(共通)

授業コード	科目名
A2557	日本言語学特殊研究A
A2559	日本言語学特殊研究B
A2581	文化史1
A2582	文化史2
A3667	言語心理学

英文学科

授業コード	科目名
A2821	比較文化論
A2822	演劇講義A
A2823	演劇講義B
A2864	時事英語演習A
A2865	時事英語演習B
A2963	シェイクスピア講読A

⇒	A2625,A2626	ゼミナール6A・B	P85/86
⇒	A2631,A2632	ゼミナール9A・B	P89
⇒	A2633,A2634	ゼミナール10A・B	P90
⇒	A2635,A2636	ゼミナール11A・B	P91/92
⇒	A2637,A2638	ゼミナール12A・B	P93/94
⇒	A2627,A2628	ゼミナール7A・B	P86/87
⇒	A2639,A2640	ゼミナール13A・B	P95
⇒	A2641,A2642	ゼミナール14A・B	P96
⇒	A2643,A2644	ゼミナール15A・B	P97
⇒	A2645,A2646	ゼミナール16A・B	P98
⇒	A2647,A2648	ゼミナール17A・B	P99
⇒	A2649,A2650	ゼミナール18A・B	P100
⇒	A2651,A2652	ゼミナール19A・B	P101
⇒	A2653,A2654	ゼミナール20A・B	P102
⇒	A2655,A2656	ゼミナール21A・B	P103
⇒	A2661	日本文芸研究特講(2)中古A	P105
⇒	A2663	日本文芸研究特講(2)中古C	P106
⇒	A2662	日本文芸研究特講(2)中古B	P105
⇒	A2664	日本文芸研究特講(2)中古D	P106
⇒	A2657	日本文芸研究特講(1)上代A	P104
⇒	A2658	日本文芸研究特講(1)上代B	P104
⇒	A2665	日本文芸研究特講(3)中世A	P107
⇒	A2666	日本文芸研究特講(3)中世B	P107
⇒	A2669	日本文芸研究特講(4)近世A	P108
⇒	A2671	日本文芸研究特講(4)近世C	P109
⇒	A2670	日本文芸研究特講(4)近世B	P108
⇒	A2673	日本文芸研究特講(5)近代A	P110
⇒	A2675	日本文芸研究特講(5)近代C	P111
⇒	A2674	日本文芸研究特講(5)近代B	P110
⇒	A2676	日本文芸研究特講(5)近代D	P112
⇒	A2677	日本文芸研究特講(6)現代A	P113
⇒	A2678	日本文芸研究特講(6)現代B	P113
⇒	A2687	日本文芸研究特講(9)表現A	P119
⇒	A2688	日本文芸研究特講(9)表現B	P120
⇒	A2685	日本文芸研究特講(8)言語A	P117
⇒	A2686	日本文芸研究特講(8)言語B	P118
⇒	A2681	日本文芸研究特講(7)漢文A	P114
⇒	A2683	日本文芸研究特講(7)漢文C	P115/116
⇒	A2682	日本文芸研究特講(7)漢文B	P115
⇒	A2684	日本文芸研究特講(7)漢文D	P116/117
⇒	A2695	日本文芸研究特講(12)詩歌A	P122
⇒	A2696	日本文芸研究特講(12)詩歌B	P123
⇒	A2689	日本文芸研究特講(10)演劇A	P120
⇒	A2690	日本文芸研究特講(10)演劇B	P121
⇒	A2697	日本文芸研究特講(13)児童文芸A	P123/124
⇒	A2698	日本文芸研究特講(13)児童文芸B	P124/125
⇒	A2699	日本文芸研究特講(14)沖縄文芸A	P125
⇒	A2701	日本文芸研究特講(14)沖縄文芸C	P126
⇒	A2700	日本文芸研究特講(14)沖縄文芸B	P126
⇒	A2702	日本文芸研究特講(14)沖縄文芸D	P127
⇒	A2707	日本文芸研究特講(16)特域C	P129
⇒	A2708	日本文芸研究特講(16)特域D	P130
⇒	A2703	日本文芸研究特講(15)国際日本学A	P127/128
⇒	A2704	日本文芸研究特講(15)国際日本学B	P128/129
⇒	A2693	日本文芸研究特講(11)音楽芸能史A	P121
⇒	A2694	日本文芸研究特講(11)音楽芸能史B	P122

授業コード	科目名	ページ
⇒	A3660	言語学特講Ⅰ
⇒	A3661	言語学特講Ⅱ
⇒	A2707	日本文芸研究特講(16)特域C
⇒	A2708	日本文芸研究特講(16)特域D
⇒	心理学科のシラバスを確認すること。	
⇒		P374/375

授業コード	科目名	ページ
⇒	A2981	比較文化論(1)
⇒	A2982	英米文化概論A
⇒	A2983	英米文化概論B
⇒	A2984	Academic Writing A
⇒	A2985	Academic Writing B
⇒	A2967	英米文学特殊講義Ⅲ
⇒		P184/185
⇒		P187/188
⇒		P188/189
⇒		P219/220
⇒		P220/221
⇒		P180

A2964	シェイクスピア講読B	⇒	A2968	英米文学特殊講義Ⅳ	P181
A3674	人工知能	⇒	⇒	心理学科のシラバスを確認すること。	P423
A2268	ラテン語1	⇒	⇒	哲学科のシラバスを確認すること。	P66
A2269	ラテン語2	⇒	⇒		P67
A2405	日本文芸史ⅠA	⇒	⇒		P75
A2407	日本文芸史ⅠB	⇒	⇒	日本文学科のシラバスを確認すること。	P76
A2429	日本文芸史ⅡA	⇒	⇒		P79
A2431	日本文芸史ⅡB	⇒	⇒		P80
A3601	心理学概論	⇒	⇒		P371
A3602	心理学史	⇒	⇒		P372
A3619	脳の科学	⇒	⇒		P372
A3620	認知心理学	⇒	⇒	心理学科のシラバスを確認すること。	P373
A3622	発達心理学	⇒	⇒		P373/374
A3623	教育心理学	⇒	⇒		P435
A3624	学習心理学	⇒	⇒		P375/376

史学科(2011年度以前入学者)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A3132	日本近代史演習Ⅰ	⇒	A3203	日本近代史演習	P273/274
A3133	日本近代史演習Ⅱ	⇒	A3203	日本近代史演習	P273/274

史学科(共通)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A2249	東洋哲学史1	⇒	⇒	哲学科のシラバスを確認すること。	P57
A2250	東洋哲学史2	⇒	⇒		P58
A2561	中国文芸史A	⇒	⇒	日本文学科のシラバスを確認すること。	P140/141
A2563	中国文芸史B	⇒	⇒		P141/142

地理学科(共通)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A3496	環境倫理学(1)	⇒	A3817	環境と倫理(1)	P22
A3497	環境倫理学(2)	⇒	A3818	環境と倫理(2)	P22
A3819	歴史地理学(1)	⇒	⇒	共通科目のシラバスを確認すること。	P17
A3820	歴史地理学(2)	⇒	⇒		P17

地理学科(2017年度以前入学者)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A3492	地学実験(コンピュータ活用含む)(1)	⇒	A3509	地学実験(1)(コンピュータ活用含む)	P320
A3493	地学実験(コンピュータ活用含む)(1)	⇒	A3510	地学実験(1)(コンピュータ活用含む)	P321
A3494	地学実験(コンピュータ活用含む)(2)	⇒	A3511	地学実験(2)(コンピュータ活用含む)	P322
A3495	地学実験(コンピュータ活用含む)(2)	⇒	A3512	地学実験(2)(コンピュータ活用含む)	P323

心理学科(2011年度以前入学者)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A3603	心理教育統計学Ⅰ	⇒	A3701	心理統計法Ⅰ	P379
A3604	心理教育統計学Ⅱ	⇒	A3702	心理統計法Ⅱ	P380
A3605	心理統計学実習Ⅰ	⇒	A3703	心理統計法実習Ⅰ	P380
A3606	心理統計学実習Ⅰ	⇒	A3704	心理統計法実習Ⅰ	P381
A3607	心理統計学実習Ⅱ	⇒	A3705	心理統計法実習Ⅱ	P381
A3608	心理統計学実習Ⅱ	⇒	A3706	心理統計法実習Ⅱ	P382
A3609	心理学基礎実験	⇒	⇒	A3707,A3709 心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ	P382/383/384
A3610	心理学基礎実験	⇒	⇒	A3708,A3710 心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ	P383/384/385
A3635	演習Ⅱ(1)【演習Ⅱ(1)a】	⇒	A3711	演習Ⅱ(1)	P398/399
A3636	演習Ⅱ(2)【演習Ⅱ(1)b】	⇒	A3712	演習Ⅱ(2)	P399/400
A3637	演習Ⅱ(3)【演習Ⅱ(2)a】	⇒	A3713	演習Ⅱ(3)	P400/401
A3638	演習Ⅱ(4)【演習Ⅱ(2)b】	⇒	A3714	演習Ⅱ(4)	P401/402
A3639	演習Ⅱ(5)【演習Ⅱ(3)a】	⇒	A3715	演習Ⅱ(5)	P402/403
A3679	心理学外書講読Ⅰ	⇒	A3720	心理学英語Ⅰ	P434
A3681	教育心理学特講	⇒	A3723	言語心理学特講	P427/428
A3688	人格心理学Ⅰ	⇒	A3724	人格心理学	P440
A3689	人格心理学Ⅱ	⇒	A3725	集団社会心理学	P440/441
A3692	カウンセリングⅠ	⇒	A3726	カウンセリング心理学	P443
A3693	カウンセリングⅡ	⇒	A3727	心理学特殊講義Ⅱ	P448
A3695	身体運動と健康	⇒	A3729	身体活動と健康	P444
A3696	心理学外書講読Ⅱ	⇒	A3730	心理学英語Ⅱ	P448

心理学科(共通)

授業コード	科目名	⇒	授業コード	科目名	ページ
A3672	科学哲学Ⅰ	⇒	A2226	哲学特講(8)－1	P41/42
A3673	科学哲学Ⅱ	⇒	A2227	哲学特講(8)－2	P42

文学部 講義概要（シラバス）

共通科目

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理

本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大坂城の意義、大阪のまちづくり
第 14 回	歴史観光都市・観光地の取り組み①	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に旅行して、地域と観光の在り方を経験してください。テレビの旅行番組や旅行記なども読んで、様々な国や地域の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。授業内で配布したプリントは持ち込み不可ですが、あらかじめ、試験のテーマは予告します。欠席者には、最終授業日に今までの余ったプリントがあれば、まとめて配布します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用。

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。

授業内で北方領土問題やアイヌ民族に関するビデオ観賞をしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	NHK スペシャルのビデオ鑑賞を通して、北方領土問題を考える
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題の歴史を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の領土問題や先住民族に関する文献を自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世日本と蝦夷地-古地図からみる北海道』2018 年予定、法政大学出版局

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用。

民俗学Ⅰ

山本 志乃

授業コード：A3809

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことであり。民俗学は、そうした人々の記憶や行動の中に刻印された「文字化されにくい歴史」を、主にフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質し、かつて伝承されてきた習慣や風習なども変化を余儀なくされている。この授業では、日本人が培ってきた時間認識や空間認識、ことばと身体が織り成す豊かな伝承世界が民俗社会において果たしてきた役割などについて、自らの身近な生活や体験に照らし合わせながら、主体的に考え、発見することをめざす。

【到達目標】

この授業では、日本の民俗文化の特徴を、身近な具体例から実態的に理解することを目的とする。とくに高度経済成長期における生活文化の変遷に着目し、その背景となる社会変化をとらえる。また民俗学の主たる研究方法であるフィールドワークについて、その方法と意義を学ぶ。そして、日本文化の多様性を理解し、日本の地域社会の現状や国際社会との関係について考察を深める。

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、必要に応じて受講者から意見を求める場合もある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	民俗学への誘い①	「民俗学」の誕生と研究方法
第2回	民俗学への誘い②	先人の軌跡Ⅰ・南方熊楠と柳田国男
第3回	民俗学への誘い③	先人の軌跡Ⅱ・渋沢敬三と宮本常一
第4回	住まう	住居の地域性と空間認識の特徴
第5回	食べる	高度経済成長期以前の食生活
第6回	祭る	年中行事とその意味
第7回	祀る	社寺の成り立ちとその原点
第8回	祈る	身近な言い伝えと祈願
第9回	語る	口承文芸の役割
第10回	うたう	民間芸能の担い手たち
第11回	あそぶ	娯楽と遊びの変遷と意味
第12回	商う	行商人の生活誌
第13回	身近な生活の記録	民俗文化財と地域博物館
第14回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に1回、簡単なフィールドワークとそれについてのレポート提出を課すので、指定する期日までに必ず提出すること（未提出者は履修放棄とみなします）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『現代民俗学入門』佐野賢治他編、吉川弘文館、1996年
『講座日本の民俗学』全11巻、雄山閣、1996年
『日本民俗文化大系』全14巻、小学館、1985年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、レポート（25％）、平常点（15％）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除き、極力控えること。

民俗学Ⅱ

山本 志乃

授業コード：A3810

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことであり。その民俗の生成基盤である自然環境に着目し、日本人が自然環境とどのように関わってきたのかを、生産と信仰の両面から考える。これらは、人が自然に向かい合い、技術を駆使し、ことばを練り上げて思想へと高めていく「生きていく方法」としての民俗であり、現代的な課題でもある地域文化の再生にいかに関与しうるのか、その可能性をあわせて考える。授業は「民俗学Ⅰ」を履修していることを前提に進める。受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。各自が問題意識を持って主体的に取り組むことを期待する。

【到達目標】

この授業では、春学期でとらえた民俗社会の基本事象をふまえ、日本社会の地域性と多様性について、具体的な事例から理解を深めることを目的とする。まず地域ごとに異なる自然環境に適応した複合生産の具体像を理解し、そのうえで、地域社会で培われてきた伝説・伝承をとらえて、地域文化の多様性を実態的に理解する。さらには、身近な生活の歴史を学ぶことの意義を理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式だが、受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	自然観の民俗	自然を知る
第2回	サトの暮らしと成り立ち①	稲作のムラ
第3回	サトの暮らしと成り立ち②	畑作のムラ
第4回	海付きのムラに生きる	百姓漁師と海女百姓
第5回	山に生きる	ヤマンドの世界
第6回	イチとマチ	物と人の交流
第7回	「聖地」の景観	神々の風景をよみとく
第8回	地域の伝説①	土地の成り立ち
第9回	地域の伝説②	旅する神々
第10回	地域の伝説③	川と水
第11回	地域の伝説④	語られる災害
第12回	地域の伝説⑤	怪異の世界
第13回	地域の伝説⑥	自然界の生き物
第14回	総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期内の前半に1回、レポートを提出する。レポート作成にあたっては、課題に従って各自で題材を設定し、参考文献を探して調べる（期限内にレポート未提出の場合は履修放棄とみなす）。作成したレポートに基づき、学期の後半で簡単な口頭発表をする場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『日本の民俗』全13巻、吉川弘文館、2008年
『講座日本の民俗学』全11巻、雄山閣、1996年
『神と自然の景観論』野本寛一、講談社学術文庫、2006年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、レポート（25％）、平常点（15％）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除いて極力控える。

イスラム世界論Ⅰ

大塚 修

授業コード：A3811

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イスラム世界を体感できる場としたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第 3 回	イスラムの教義	六信五行など
第 4 回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第 6 回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第 7 回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第 10 回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 13 回	20 世紀のイスラム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 14 回	総括	総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。イスラム世界に関する諸問題について、講義で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

イスラム世界の歴史だけではなく、社会や文化についても詳しく紹介する。

イスラム世界論Ⅱ

大塚 修

授業コード：A3812

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の多様な在り方について解説するが、この授業では、イスラム世界の中でも特にイランを中心とする地域に焦点を当てる。1979 年のイラン・イスラム革命以降、イスラム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化の実態についてはあまり知られていない。前近代において、イスラム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラムという宗教やその文化を考える上で看過できない重要な位置をしめる。この授業では、イスラム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラムの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

【到達目標】

この授業は、イランを中心とする地域の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、イランをはじめとする現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム諸国の中から、一般的なイスラム像ではなくることのできない、イランの歴史を扱う。授業の前半部では、現代のイラン・イスラム共和国の社会と文化に関する基礎的知識について、後半部では、イランにおけるイスラムの受容から現代に至るまでの歴史について、政治史だけではなく、文化史にも焦点を当てながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イランという国やイラン人を体感できる場としたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イランに対するイメージ
第 2 回	イランとイラン人	イランにおける多様な民族と言語
第 3 回	シーア派とは何か？	イランの国教イスラム教シーア派
第 4 回	イランの暦と祝祭	イランに特有の暦と祝祭
第 5 回	ペルシア語とペルシア語文化圏	イランの国語ペルシア語
第 6 回	イラン高原のイスラム化	イラン高原におけるイスラムの受容
第 7 回	イラン高原におけるトルコ人	トルコ系ムスリム諸王朝の支配
第 8 回	モンゴル帝国とイラン	モンゴル系イルハーン朝の支配
第 9 回	サファヴィー朝とイラン	シーア派の国教化
第 10 回	ガージャール朝	ガージャール朝時代のイラン社会と列強の進出
第 11 回	パフラヴィー朝	パフラヴィー朝時代のイラン社会と国際社会
第 12 回	イラン・イスラム革命	イラン革命が国際社会に与えたインパクト
第 13 回	現代のイラン	革命後のイランと国際社会
第 14 回	総括	総括、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジア・中央アジア地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

永田雄三編『西アジア史Ⅱ（イラン・トルコ）』山川出版社、2002
 坂本勉・鈴木董編『イスラム復興はなるか』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。イランに関する諸問題について、授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

画像や映像を多用して、イランの社会や文化についても詳しく紹介する。

【その他の重要事項】

「イスラム世界論Ⅱ」は春学期に開講される「イスラム世界論Ⅰ」の内容を踏まえて解説するので、春学期と併せて受講することが望ましい。

文学部生のキャリア形成

長井 純市、大沢 ふよう、小寺 浩二

授業コード：A3813

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話いただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中の「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

＊この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

【授業の進め方と方法】

さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行います。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/13)
第2回	ゲスト講師の講演（1）	人材紹介 (4/20)
第3回	ゲスト講師の講演（2）	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/27)
第4回	ゲスト講師の講演（3）	国家公務員 (5/11)
第5回	ゲスト講師の講演（4）	中・高校教員 (5/18)
第6回	Workshop（1）	学内講師によるワークショップ (5/25)
第7回	ゲスト講師の講演（5）	出版・編集業務 (6/1)
第8回	ゲスト講師の講演（6）	人事関係 (6/8)
第9回	ゲスト講師の講演（7）	銀行業務（1）(6/15)
第10回	ゲスト講師の講演（8）	外資系サービス業 (6/22)
第11回	Workshop（2）	キャリアセンター職員によるワークショップ (6/29)
第12回	ゲスト講師の講演（9）	銀行業務（2）(7/6)
第13回	ゲスト講師の講演（10）	民間放送業（総合職）(7/13)
第14回	まとめ	総括レポート作成 (7/20)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】

適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

① 毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの・出席カードを兼ねる）の成績（80％）

② 学期末レポートの成績（20％）

※①②は授業の評価のために必須とします。①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。その時以外の提出は認められません。また、4回以上の欠席（①小レポートの未提出）がある場合にはDないしE評価とします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。

多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。

そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

① ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

② 定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。

③ 3名の担当教員が全授業に同席し、担当します。

現代のコモンセンス

阿部 真弓、酒井 健、福田 由紀

授業コード：A3814

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。

この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【授業の進め方と方法】

学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答を行い、最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出する。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。また、受講希望者数が過多と判断された場合には選抜を行なうことがある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	対人問題（1）	KYと引きこもり
第 3 回	対人問題（2）	心の悩みとメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範（1）	身近なハラスメントとDV問題
第 5 回	社会と規範（2）	職場と法令遵守
第 6 回	社会と規範（3）	職業モラルと社会人のマナー
第 7 回	実践と倫理（1）	医療と倫理的ジレンマ
第 8 回	実践と倫理（2）	正義と人権
第 9 回	実践と倫理（3）	メディアと倫理
第 10 回	社会と文化（1）	地域社会の現状と問題
第 11 回	社会と文化（2）	差別と社会
第 12 回	社会と文化（3）	異文化との共生
第 13 回	まとめ	議論の総括とディスカッション
第 14 回	授業内レポート	授業内レポートの執筆と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的ではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回のレポート（10～15分程度でまとめるものであり、出席カードを兼ねる）（80 %）
- ②学期末試験（レポート形式）（20 %）

①②は成績評価のために提出必須とする。また、4 回以上の欠席（①レポートの未提出）がある場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、D 評価とする。授業開始までに配付資料を受け取って着席していないものは遅刻とみなす。遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】

「他の受講生の意見も知ること、自分の考えが深められた」という声が多いので、質疑・応答の充実をはかるとともに、グループディスカッションやクリッカーによるアンケート等をできるだけ授業に取り入れていきたい。

【その他の重要事項】

3 名の担当者が全授業に同席し、担当する。

環境と倫理（1）

相原 博

授業コード：A3817

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない 20 世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが 21 世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考えて自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用のあり方を批判してきました。もともと現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになっていきます。春学期の授業では、人間と家畜や実験動物との関係、そして生物多様性の保護について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】

環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいのか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言することが必要になります。さらに体験型の実習として自然観察会を行う予定です。受講希望者には、秋学期も引き続き受講することを勧めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、倫理学の基礎	授業の概要と方法を説明する、倫理学とは何か
第 2 回	倫理学の基礎理論、功利主義および義務論	行為の善悪を決めるのは結果か、それとも動機か
第 3 回	環境倫理学の基礎	環境倫理学とは何か
第 4 回	環境倫理学の歴史	環境倫理学はどのような議論を展開してきたのか
第 5 回	グループディスカッション (1)	家畜や実験動物の扱いについて受講生と議論してみよう
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ、動物解放論	人間は家畜や実験動物とどのように関係すべきか
第 7 回	動物の権利論	動物には権利があるのか
第 8 回	自然観察会（体験型実習）	都会の自然を観察する（詳細は初回の授業で説明）
第 9 回	動物解放論への批判、生命への畏敬	個々の動物を保護するだけでよいのか
第 10 回	自然への畏敬の念	人間が他の生物を殺して食べることをどう考えるか
第 11 回	グループディスカッション (2)	生物多様性の保護について受講生と議論してみよう
第 12 回	グループディスカッション (2) のまとめ、土地倫理	なぜ生物多様性を保護しなければならないのか
第 13 回	ディープ・エコロジー	地球環境と個々の人間との関係をどのように考えるべきか
第 14 回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に自ら関心を持ち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行っていない場合には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。
加藤尚武編『環境と倫理 新版』、有斐閣アルマ、2005 年
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005 年
鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996 年
なお個別のテーマについては、授業中に参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および授業後のレポート 40 %、学期末試験 60 %を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

環境と倫理（2）

相原 博

授業コード：A3818

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない 20 世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが 21 世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考えて自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用のあり方を批判してきました。もともと現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになっていきます。秋学期の授業では、途上国への廃棄物の輸出、そして原子力発電の是非について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】

環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいのか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言することが必要になります。さらに体験型の実習として自然観察会を行う予定です。なお秋学期からの新規受講生については、レポートの提出を課題とします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、環境倫理学の基礎	授業の概要と方法を説明する、環境倫理学とは何か
第 2 回	環境倫理学の展開	近年の環境倫理学はどのような議論を展開しているのか
第 3 回	環境プラグマティズム	環境倫理学は環境問題の解決に役立つのか
第 4 回	グループディスカッション (1)	廃棄物の輸出について受講生と議論してみよう
第 5 回	グループディスカッション (1) のまとめ、環境正義論	廃棄物の輸出は正義になっているだろうか
第 6 回	里山の環境倫理	日本の自然をどう考えるべきか
第 7 回	自然観察会（体験型実習）	都会の自然を観察する（詳細は初回の授業で説明）
第 8 回	社会的リンク論	生活と生業の立場から環境問題を考えるとうなるか
第 9 回	環境問題の原点としての公害	水俣病から何を学ぶべきか
第 10 回	グループディスカッション (2)	原子力発電の是非について受講生と議論してみよう
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ、未来世代への責任	未来の人間についてどう考えるべきか
第 12 回	現代社会と無痛文明論	大量消費社会のなかでよく生きるためにはどうすればよいのか
第 13 回	環境倫理学における持続可能性	持続可能な開発をどう考えるべきか
第 14 回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に自ら関心を持ち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行っていない場合には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。
加藤尚武編『環境と倫理 新版』、有斐閣アルマ、2005 年
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005 年
鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996 年
なお個別のテーマについては、授業中に参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および授業後のレポート 40 %、学期末試験 60 %を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

哲学科

哲学科の卒業論文について

「卒業論文」授業コード：A2000 8単位

【卒業論文の目標・目的】

自ら設定したテーマの下に卒業論文を作成することによって、4年間哲学科で学んできたことを集大成することを目指します。卒業論文の作成は、哲学科生に求められる、1) 問題・テーマを自ら発見する能力、2) 参照すべき文献資料を的確に読解する能力、3) 問題に関する自分の考察を他者（読者）に対して理路整然と述べ伝える能力、4) 思索し、分析し、明晰に論述する能力などが確実に培われたことを、自分自身で確認する作業でもあります。

【卒業論文の概要と方法】

卒業論文の作成のほとんどは自力で行なうことになるため、しっかりと準備をととのえ、執筆作業を着実に進めていく必要があります。また、論文作成にあたって、作成作業の進捗状況を指導教員に適宜報告し、必要なアドバイスを得ることも疎かにしてはなりません。ただし、卒業論文の指導は、通常の授業のように毎週定期的には実施されるわけではありませんので、卒論指導の詳細や面談等の具体的な事柄については、指導教員と十分に相談する必要があります。

卒業論文の作成は、テーマを選定するところからすでに始まっています。そのテーマは、これまで学び考える中で芽生えた哲学的関心の中から自分で選定します。そのテーマによって、指導教員の希望も自ずと決まってくるはずです。4月の春学期が始まって間もなく、「指導教員申込書」を提出し、これによって指導教員が決定されます。また、指導教員による哲学演習を受講していることが条件となっていますので、こちらの申込みも忘れないようにしなければなりません。

【卒業論文の評価基準】

卒業論文は必修です。1年間かけて卒論を書き上げ、期日内に提出した後に面接審査を受け、一定の評価を得なければ卒業することができません。

提出された卒業論文は、『哲学科・卒業論文の執筆から提出・面接審査まで（卒論シラバス補足用）』（卒論ガイダンスで配布予定）に示された評価項目および面接審査の結果を総合的に判断し、卒論指導教員がA⁺、A、B、C、D、Eの成績評価を行ないます。

【その他】

春学期の開始に先立って、卒業論文にかかわる説明会（卒論ガイダンス）を開催します。必ず出席する必要があります。このガイダンスでは、主として以下の事柄について説明します。

- ① 卒論指導の申込みに必要な書類の配布や申込み手続き
- ② 卒論を完成させるまでの流れ
- ③ 卒論提出の締切りと面接審査
- ④ 卒論を作成する上で心得ておくべき事項など

なお、卒論指導を希望できる教員は、文学部哲学科の専任教員のうち哲学演習を担当する教員に限られています。また、卒論の執筆に際しては、卒論ガイダンスで配布された資料を必ず参照するようにしてください。

哲学概論 1

牧野 英二

授業コード：A2304

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の概要と目的は、グローバル化し複雑化する現代社会に望ましい哲学の基礎と方法を学ぶことにあります。特に東日本大震災・福島原発事故以後の災害が多発する日本や世界の現実を踏まえて、本年度春学期の授業では、学生は、これらの観点から哲学の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。

【到達目標】

本授業は哲学科の必修の専門基礎科目なので、学生は、授業に臨み、到達目標として他の専門科目や二年度以降の専門科目の学習に必要な基礎的知識を理解し説明できるようになり、哲学的思索の方法を身につけられるようにする。これらの到達目標を実現するために、学生は、他の哲学的専門科目との関係についても、哲学的な文献及び資料の解説を手がかりに基礎知識や重要語句・術語を理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】

本授業では、授業形態・進め方は双方向的な講義形態を採用します。授業方法としては、グローバル化や危機の現状及び日常生活と哲学との関係を明らかにします。哲学の生成の場である日常生活に根差して持続可能な哲学の学問的性格を多面的・立体的・有機的に浮き彫りにします。

また、古代から現代までの東西の優れた哲学者・思想家の英知を広く、深く学びます。そうすることで、これまで哲学の世界で何が問われてきたのか、哲学者が取り組んだ課題とは何であったか、そして今後取り組むべき哲学的課題を明らかにします。

さらに、多様化する宗教・美学や芸術・科学技術等との関係から、哲学が直面する主要な課題と現代の哲学的営みの意義を明らかにします。なお、受講生の授業内容の理解向上のため、また予習・復習の到達度を確認して、それを手掛かりとして、その都度、詳細レジュメを配布しますので、それらの資料を活用して、毎回リアクションペーパーまたは課題レポートを提出してもらい、次の授業に活用します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	グローバル化と危機の時代の哲学の特徴	現代社会における哲学の基礎概念の学習
第 2 回	哲学概論の学び方	哲学概論の学習方法
第 3 回	哲学と驚異	哲学と常識との比較
第 4 回	哲学と科学の関係と相違	哲学と科学との比較
第 5 回	哲学の固有性と超越	哲学と宗教との比較
第 6 回	哲学と美・崇高の関連	哲学と芸術との比較
第 7 回	哲学的思索と懐疑	懐疑的方法の意義
第 8 回	哲学的思索の方法の応用	懐疑的方法の課題
第 9 回	哲学と日常生活を破壊する事態	常識の二義性と哲学的態度
第 10 回	哲学と人生の危機	限界状況の哲学的意味
第 11 回	哲学と本来性	哲学と実存との関連
第 12 回	哲学と技術	哲学的知と技術の関係
第 13 回	分析と総合	分けることと分かることとの区別と関係
第 14 回	春学期のまとめとして、分り方方のパターンの哲学的特徴の理解	哲学概論 1 の締めくくりとして、思考の枠組みと哲学的原理の理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の適切な理解と春学期の講義の継続的な把握を効率的に実現するために、毎回、講義課題に関連した主要概念の予習と授業後の復習として、講義中に指定した参考文献の指定箇所や、重要概念の理解を深める授業外の準備学習を行います。毎回授業の終了時まで、に、次の準備に必要な基礎概念や基本文献の学習内容について必ずその範囲を予習して授業に臨みます。同時に、前回の準備学習の理解度・到達度を確認できるように、毎回、小レポートの提出による理解の到達度を確認します。

【テキスト（教科書）】

春学期全体を通じて使用するテキストは決めていません。そのつど、必要に応じて教員が準備した文献や資料を使用します。主要参考文献：牧野英二著『岩波人文書セレクション カントを読むーポストモダニズム以降の批判哲学』（岩波書店）、2014 年、2800 円。牧野英二著『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！ 和辻倫理学の今日的意義』（法政大学出版局、2010 年）。その他の関連する文献については、授業中に適宜お知らせします。また必要に応じてコピー資料を配布します。

【参考書】

入門的な叙述の参考文献や本講義で部分的に使用する予定の参考書を数点挙げておきます。

デイヴィッド・エドモンズ『哲学がかみつく』（柏書房）、ロジェ＝ポール・ドロワ『娘と話す哲学ってなに？』（現代企画室）、中村雄二郎『哲学入門』（中公新書）、今村他編『現代思想の冒険者たち』（31 巻、講談社）、デカルト『方法序説』（岩波文庫）、カント『プロレゴメナ』（岩波文庫）、ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（岩波文庫）、ハイデガー『存在と時間』（中公クラシックス）、西田幾多郎『善の研究』『思索と体験』（岩波文庫）、九鬼周造『随筆集』（講談社学術文庫）、和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波全書）、牧野英二『持続可能性の哲学への道』（法政大学出版局）、牧野英二編『新・カント読本』（法政大学出版局）他。

【成績評価の方法と基準】

到達目標の達成度に応じて、次の方法と基準により成績評価を行います。毎週提出する小レポート（14 回 × 5 点 = 70 点、70%）と春学期末の課題レポート 1 回（30 点、30%）の提出により、総合評価（合計 100 点、100%）を行います。したがって平素毎回授業に出席して、その都度レポートを提出することが 2 単位認定（60 点、60%以上が合格）の不可欠の条件になります。これらにより、学習内容の到達目標を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、学生からの質問や意見・要望をくみ取り、疑問点や誤解の生じないように、また内容理解をより深めるために、さらに授業時間内にその時間内での学習内容と到達点を確認できるよう、理解度調査などにも力点を置き、一層の授業改善の工夫に努めます。

【その他の重要事項】

本講義は、双方向的な講義形態を採用していますので、授業中の学生からの質問は、大いに歓迎します。ただし、講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは、許されません。哲学は、すべての個別科学と深くかわる性格の学問ですから、受講生の皆さんは、入学時の緊張感や知的好奇心を持続・発展させて、積極的に講義に臨んでください。

哲学概論2

牧野 英二

授業コード：A2305

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の概要と目的は、グローバル化し複雑化する現代に相応しい哲学の基礎と方法を学ぶことにあります。特に東日本大震災・福島原発事故以後の災害が多発する日本社会の現実を踏まえて、本年度秋学期講義では、学生は、これらの観点から哲学の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との関連や関連に留意して、概括的に学びます。

【到達目標】

本授業は哲学科の必修の専門基礎科目なので、学生は、授業に臨み、到達目標として他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な基礎的知識を理解し説明できるようになり、哲学的思索の方法を身につけられるようにする。これらの到達目標を実現するために、学生は、他の哲学的専門科目との関係についても、哲学的な基礎知識や重要語句・術語を理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】

この授業では、授業形態・進め方は双方向的な講義形態を採用します。授業方法としては、グローバル化や危機の現状及び日常生活と哲学との関係を明らかにします。哲学の生成の場である日常生活に根差して持続可能な哲学の学問的性格を多面的・立体的・有機的に浮き彫りにします。

また、古代から現代までの東西の優れた哲学者・思想家の英知を広く、深く学びます。そうすることで、これまで哲学の世界で何が問われてきたのか、哲学者が取り組んだ課題とは何であったか、そして今後取り組むべき哲学的課題を明らかにします。

さらに、多様化する宗教・美学や芸術・科学技術等との関係から、哲学が直面する主要な課題と現代の哲学的営みの意義を明らかにします。なお、受講生の授業内容の理解向上のため、また予習・復習の到達度を確認して、それを手掛かりとして、その都度、詳細レジュメを配布しますので、それらの資料を活用して、毎回リアクションペーパーまたは課題レポートを提出してもらい、次の授業に活用します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	グローバル化時代の哲学的思考の特徴・意義・課題	現代社会における哲学の基礎概念の把握と新たな課題の理解
第2回	日本人の哲学観	近代以降の日本人の哲学の理解と研究方法の特徴と課題
第3回	存在と認識	あることとすることとの関連
第4回	真理と虚偽	真の知識の特徴と意義
第5回	存在論と認識論	存在の二義性の特徴と意義
第6回	あるがままと知覚	知覚や観察の制限
第7回	認識の普遍性と理論負荷性	視点とアスペクト知覚の構造
第8回	自己意識と自己同一性の危機	自分の存在の確実性
第9回	人格と性格の区別	ペルソナと自我の存在
第10回	理性批判と言語批判	理性の法廷と言語ゲーム
第11回	理性批判と言語分析	歴史的理性と言語論的転回
第12回	言語哲学と応用哲学	心の存在と消去主義
第13回	倫理学と環境倫理	人間と自然環境の影響
第14回	本学期的締めくくりにふさわしい、倫理学的及び哲学的な課題の全体的把握	哲学概論2のまとめとして、社会や文化の変化と環境の変化に即した哲学の意義を共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の適切な理解と秋学期全体の講義の継続的な把握を効率的に実現するために、毎回、講義課題に関連した主要概念の予習と授業後の復習として、講義中に指定した参考文献の指定箇所や、重要概念の理解を深める授業外の準備学習を行います。毎回授業の終了時まで、次の準備に必要な基礎概念や基本文献の学習内容について必ずその範囲を予習して授業に臨みます。同時に、前回の準備学習の理解度・到達度を確認できるように、毎回、小レポートの提出による理解の到達度を確認します。

【テキスト（教科書）】

秋学期の授業全体を通じて使用するテキストは決めていません。必要に応じて、そのつど教員が準備した文献や資料を使用します。主要参考文献：牧野英二著『岩波人文書セレクション カントを読むーポストモダニズム以降の批判哲学』（岩波書店）、2014年、2800円。牧野英二著『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！ 和辻倫理学の今日的意義』（法政大学出版局、2010年）。その他の関連する文献については、授業中に適宜お知らせします。また必要に応じてコピー資料を配布します。

【参考書】

入門的な叙述の参考文献や本講義で部分的に使用する予定の参考書を数点挙げておきます。

デイヴィッド・エドモンズ『哲学がかみつく』（柏書房）、ロジェ＝ポール・ドロワ『娘と話す哲学ってなに？』（現代企画室）、中村雄二郎『哲学入門』（中公新書）、今村他編『現代思想の冒険者たち』（31巻、講談社）、デカルト『方法序説』（岩波文庫）、カント『プロレゴメナ』（岩波文庫）、ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（岩波文庫）、ハイデガー『存在と時間』（中公クラシックス）、西田幾多郎『善の研究』『思索と体験』（岩波文庫）、九鬼周造『随筆集』（講談社学術文庫）、和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波全書）、牧野英二『持続可能性の哲学への道』（法政大学出版局）、牧野英二編『新・カント読本』（法政大学出版局）他。

【成績評価の方法と基準】

到達目標の達成度に応じて、次の方法と基準により成績評価を行います。14回の講義の毎回小レポートを提出してもらい（14回×5点＝70点、70%）、その評価に加えて、さらに秋学期末に課題レポートの提出（30点、30%）の提出により、総合評価（合計100点、100%）を行います。したがって、毎回、授業に出席して、その都度レポートを提出することが2単位認定（60点、60%以上が合格）の不可欠の条件になります。これらにより、学習内容の到達目標を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、学生からの質問や意見・要望をくみ取り、疑問点や誤解の生じないように、また内容理解をより深めるために、さらに授業時間内にその時間内での学習内容と到達点を確認できるよう、理解度調査などにも力点を置き、一層の授業改善の工夫に努めます。

【その他の重要事項】

本講義は、双方向的な講義形態を採用していますので、授業中の学生からの質問は、大いに歓迎します。ただし、講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは、許されません。哲学は、すべての個別科学と深くかかわる性格の学問ですから、受講生の皆さんは、入学時の緊張感や知的好奇心を持続・発展させて、積極的に講義に臨んでください。

論理学概論 1

安東 祐希

授業コード：A2306

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・命題はどのように表すことができるのか。
- ・命題が「正しい」とはどういうことか。

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理的な言明	日常言語における例
第 2 回	命題の正しさ	命題の真偽
第 3 回	命題の組み立て	論理結合子
第 4 回	主語と述語	変数と述語記号
第 5 回	「全て」と「存在」	量子化
第 6 回	形式的表現の整理	括弧の省略
第 7 回	命題論理の意味	付値と真理値関数
第 8 回	「ならば」の解釈	含意の真理表
第 9 回	論理的とは何か	恒真命題と妥当な推論
第 10 回	述語の取り扱い	1 変数述語記号の解釈
第 11 回	関係の取り扱い	2 変数述語記号の解釈
第 12 回	述語論理の意味	量子化の解釈
第 13 回	量化の組合せ	量子化の順序
第 14 回	より豊かな表現	n 変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題ごとの時間配分に注意したい。

【その他の重要事項】

単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論 2」を履修することが望ましい。

論理学概論 2

安東 祐希

授業コード：A2307

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、推論の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・推論はどのように表すことができるのか。
- ・論理的な推論をすべて作り出す方法はあるか。

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	前提と結論の表現	推件式の定義
第 2 回	妥当性の表現	恒真な推件式
第 3 回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第 4 回	「または」の分析	選言の恒真分解
第 5 回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第 6 回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第 7 回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第 8 回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第 9 回	演繹体系の定義	LK 証明図の推論規則
第 10 回	構造規則の練習	簡単な LK 証明図
第 11 回	演繹体系の実際	やや複雑な LK 証明図
第 12 回	演繹体系の補足	cut 推論図
第 13 回	演繹体系の性質	健全性と完全性
第 14 回	まとめ	日常言語と形式体系

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題ごとの時間配分に注意したい。

【その他の重要事項】

履修にあたり、春期科目「論理学概論 1」の内容を理解していることが求められる。

倫理学概論 1

星野 勉

授業コード：A2308

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、いかに生きるべきか、いかに為すべきかという問いを発することなしには生きることのできない存在であるが、このような問いに答えるには、どう生きることが善く生きることであり、どう行為することが正しく行為することであるかという善悪や正邪の判断が必要となる。この授業では、善悪や正邪の判断の基準を開かれた姿勢で探究することを通じて、人間らしく生きるためにはどのような生き方、行為の仕方を選んだらよいかを学ぶ。

【到達目標】

- 1) 善悪、正邪の判断の基準やその根拠を、開かれた姿勢で論ずることができる。
- 2) いかに行為するべきか、いかに生きるべきかという問いに答えることができる。

【授業の進め方と方法】

倫理学の基礎理論を系統的に学習する。
プリントによりながら講義形態で授業を進める。
毎回出席調査を兼ねた簡単なアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	トロッコ問題を考える
第 2 回	倫理学とは何か？	行為と責任、倫理規範
第 3 回	倫理学への挑戦（1）	道徳判断は感情表現か？
第 4 回	倫理学への挑戦（2）	道徳判断は相対的か？
第 5 回	I. 利己主義 1) 救命艇状況を考える	私さえ助かればよいのか？
第 6 回	I. 利己主義 2) 道徳の社会契約説	利己主義から社会契約へ
第 7 回	I. 利己主義 3) 利他主義	利他主義の可能性
第 8 回	II. 功利主義 1) ベンサム	「最大多数の最大幸福」とは？
第 9 回	II. 功利主義 2) ミルと功利主義	「満足した豚」か「不満足なソクラテス」か？
第 10 回	III. 義務論 1) カント	義務は絶対的か？
第 11 回	III. 義務論 2) 人格の尊厳	目的としての人格
第 12 回	III. 義務論 3) 刑罰論	なぜ刑罰は正義なのか？
第 13 回	IV. 徳倫理学 1) アリストテレス	行為の善さと人柄の善さ
第 14 回	IV. 徳倫理学 2) 近現代の徳倫理学	ヘーゲルの人倫とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業で紹介された文献、参考書などに当たって、論点を整理すると同時に、授業内容の理解を深めておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

- 1) 星野・三嶋・関根編『倫理思想辞典』山川出版社、1997 年
- 2) マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』鬼澤忍訳、早川書房、2010 年

【成績評価の方法と基準】

善悪、正邪の判断の基準やその根拠を開かれた姿勢で論ずることができるかどうかを、期末試験（60 %）、出欠調査を兼ねたアクションペーパー（40 %）によりながら、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室を熱い議論の場とするために、ただ知識を伝達するというよりは、問題を投げ掛けるかたちで授業を進める。また、質問にも丁寧に対応する。

倫理学概論 2

星野 勉

授業コード：A2309

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、環境破壊や生死のあり方を問う生命倫理など、深刻な倫理問題に直面している。この授業では、「倫理学概論 1」で検討した善悪や正邪の判断の基準を、このような倫理問題に応用することによって、それらに対処する実践知を養う。

【到達目標】

「倫理学概論 1」で検討した善悪、正邪の判断の基準を、応用倫理学の領域に適用することによって、私たちが直面している倫理問題に対処する実践知を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

プリントによりながら講義形態で授業を進める。
毎回出席調査を兼ねた簡単なアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	応用倫理学の視点	現代社会の倫理問題
第 2 回	I. 環境倫理学 1) 環境倫理学とは？	地球環境問題
第 3 回	I. 環境倫理学 2) 生態系と科学・技術	科学・技術の功罪
第 4 回	I. 環境倫理学 3) 自然保護をめぐる	自然に生存権はあるか？
第 5 回	I. 環境倫理学 4) 世代間倫理	未来世代への責任
第 6 回	I. 環境倫理学 5) 地球の有限性	持続可能な社会
第 7 回	I. 環境倫理学 5) 自然観の東西比較	和辻哲郎の「風土」論
第 8 回	II. 生命倫理学 1) 生と死の問題	死とは？
第 9 回	II. 生命倫理学 2) 生命倫理学とは？	医の倫理とインフォームドコンセント
第 10 回	II. 生命倫理学 3) 脳死と臓器移植	人の死の定義
第 11 回	II. 生命倫理学 4) 生命の質	自然死と安楽死
第 12 回	II. 生命倫理学 5) 妊娠中絶をめぐる	妊娠中絶をめぐる論争
第 13 回	II. 生命倫理学 6) 「いのち」の選別と優生思想	出生前診断と選択的中絶
第 14 回	II. 生命倫理学 7) エンハンスメント	治療から人間改造へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業で紹介された文献、参考書などに当たって、論点を整理すると同時に、授業内容の理解を深めておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

- 1) 森岡正博『生命学に何ができるかー脳死・フェミニズム・優生思想ー』勁草書房、2001 年
- 2) M.J. サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由』ナカニシヤ出版、2010 年

【成績評価の方法と基準】

私たちが直面している倫理問題に対処する実践知を身につけているかどうかを、期末試験（60 %）、出欠調査を兼ねたアクションペーパー（40 %）などによりながら、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室を熱い議論の場とするために、ただ知識を伝達するというよりは、問題を投げ掛けるかたちで、授業を進める。質問にも丁寧に対応する。

西洋哲学史Ⅰ－１

金子 佳司

授業コード：A2310

春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「哲学とは何か」という問題に対しては様々な答えが提出され、統一された見解はありません。しかし、「そもそも哲学とは何であったのか」という歴史的事実は、客観的に述べることができます。この授業では、哲学の始まりとされているミレトス派から哲学者プラトンの登場までをたどりながら、哲学 (philosophia) がどのようにして始まったのかを確認していきます。

【到達目標】

この授業は、哲学 (philosophia) の起源である古代ギリシア哲学を学び、もともと哲学がどのようなものであったかを学生のみなさんが理解することを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話も交えていきたいと思います。また、授業の内容の理解を確認するために、随時、小テストを行ないます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業計画の説明 哲学の始まり	「哲学」という日本語の語源である「ピロソ피아 (philosophia)」の起源を追う。
第 2 回	ギリシア哲学の本質	ギリシア哲学が全体としてどのようなものであったかを概観する。
第 3 回	初期自然哲学 (1) ミレトス派	哲学の始まりとされているミレトス派の哲学を学ぶ。
第 4 回	初期自然哲学 (2) クセノパネス、ピュタゴラス派、ヘラクレイトス	ミレトス派に次ぐとされているクセノパネス、ピュタゴラス派、ヘラクレイトスの哲学を学ぶ。
第 5 回	初期自然哲学 (3) エレア派	哲学の歴史に大きな変化をもたらしたとされるエレア派のパルメニデスとゼノンの哲学を学ぶ。
第 6 回	初期自然哲学 (4) 多元論の哲学	エレア派の影響下で生まれた、エンペドクレス、アナクサゴラス、デモクリトスによる多元論の哲学を学ぶ。
第 7 回	ソフィスト	ギリシア社会に大きな影響を与えた職業教師 (ソフィスト) であるプロタゴラスとゴルギアスについて学ぶ。
第 8 回	ソクラテス (1) いわゆる「ソクラテス問題」	何も書き残さなかったソクラテスの哲学をどのようにして学ぶかを考える。
第 9 回	ソクラテス (2) 「ソクラテスの弁明」	プラトン『ソクラテスの弁明』に登場するソクラテスの主張を学ぶ。
第 10 回	ソクラテス (3) 「クリトン」	プラトン『クリトン』に登場するソクラテスの主張を学ぶ。
第 11 回	ソクラテス (4) プラトン初期対話篇	プラトン初期対話篇に登場するソクラテスの主張を学ぶ。
第 12 回	プラトン (1) 哲学者プラトン	政治家志望だったプラトンがなぜ哲学者になったのかを考える。
第 13 回	プラトン (2) イデア論	プラトン哲学の中心的な学説とされるイデア論について学ぶ。
第 14 回	まとめ	哲学の始まりからプラトンの登場までを振り返り、そもそも哲学とは何であったのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業で取り上げる予定の範囲を教科書で予習すること。
毎回、授業が終わったあと、その日の授業の内容を復習し、後で自分にわかるようにノートを作り、次の授業につなげていくこと。

【テキスト（教科書）】

加藤信朗『ギリシア哲学史』（東京大学出版会）

【参考書】

授業中に随時紹介するが、教科書の巻末にある「参考文献」の欄も参照すること。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】の欄に記した「達成目標」の達成度を次の方法で確認し、評価します。

授業中に随時行なう小テスト（４回行なう予定）と定期試験（期末試験）で評価します（小テスト 30 % + 定期試験 70 %）。詳しくは、第 1 回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

西洋哲学史Ⅰ－２

金子 佳司

授業コード：A2311

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学 (philosophia) という学問は古代ギリシアで始まりましたが、この授業では、その哲学が古代ギリシア人たちによってどのように継承されていったかを確認していきます。すなわち、後の哲学史に大きな影響を与えたプラトンとアリストテレスの哲学がどのようなものであったか、そして、ギリシアがグローバル化したヘレニズム期に哲学がどのように変化したか、さらには、古代ギリシア哲学がどのように終焉を迎えたかをたどります。

【到達目標】

この授業は、哲学 (philosophia) の起源である古代ギリシア哲学を学び、もともと哲学がどのようなものであったかを学生のみなさんが理解することを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話も交えていきたいと思います。また、授業の内容の理解を確認するために、随時、小テストを行ないます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プラトン (1) 『パイドン』	イデア論が本格的に展開される『パイドン』における議論を検討する。
第 2 回	プラトン (2) 『饗宴』	人間の恋心であると同時に恋の神でもあるエロースの本質を追求する『饗宴』における議論を検討する。
第 3 回	プラトン (3) 『パイドロス』	弁論術とは何かという問題を恋 (エロース) の問題と絡めながら追求する『パイドロス』における議論を検討する。
第 4 回	プラトン (4) 『国家』	正義に基づく理想国家とはどのような国家であるかが追求される『国家』における議論を検討する。
第 5 回	プラトン (5) 後期哲学	後期においてプラトン哲学は変質したのかどうかを検討する。
第 6 回	アリストテレス (1) 知識論	「知っている」とはどういうことかという問題を探究する知識論を学ぶ。
第 7 回	アリストテレス (2) 存在論	「ある (存在)」の根本原因を探究する第一哲学を学ぶ。
第 8 回	アリストテレス (3) 倫理学	人間のエートス (性格) を研究する倫理学 (エーティカ) を学ぶ。
第 9 回	アリストテレス (4) 政治学	ポリス的 (ポリリーティコン) 動物である人間の共同体、つまり国家 (ポリス) のあり方を研究する政治学 (ポリリーティカ) を学ぶ。
第 10 回	ヘレニズム期の哲学 (1) ストア派	ヘレニズム期にゼノンによって始められ、ローマ時代にまで大きな影響を与えたストア派の哲学を学ぶ。
第 11 回	ヘレニズム期の哲学 (2) エピクロス派	原始論の継承者であると同時に代表的な快楽主義者でもあるエピクロスによって始められたエピクロス派の哲学を学ぶ。
第 12 回	ヘレニズム期の哲学 (3) 懐疑主義	ピュロンによって始められ、アカデメイア派でも同様の考えを持つ者が現われた懐疑主義の哲学を学ぶ。
第 13 回	古代末期の哲学	ローマ帝国が変質し滅亡する古代末期の哲学の置かれた状況と新プラトン主義哲学を学ぶ。
第 14 回	まとめ	ギリシア哲学の隆盛、継承、衰退の過程を振り返り、哲学と時代の変化との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業で取り上げる予定の範囲を教科書で予習すること。
毎回、授業が終わったあと、その日の授業の内容を復習し、後で自分にわかるようにノートを作り、次の授業につなげていくこと。

【テキスト（教科書）】

加藤信朗『ギリシア哲学史』（東京大学出版会）

【参考書】

授業中に随時紹介するが、教科書の巻末にある「参考文献」の欄も参照すること。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】の欄に記した「達成目標」の達成度を次の方法で確認し、評価します。

授業中に随時行なう小テスト（４回行なう予定）と定期試験（期末試験）で評価します（小テスト 30 % + 定期試験 70 %）。詳しくは、第 1 回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

西洋哲学史Ⅱ－1

菅沢 龍文

授業コード：A2312

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンス期から18世紀の哲学者カント以前の啓蒙思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、古今東西の諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

- (1) 西洋近代の諸哲学思想についての基礎知識を得る。[知識]
- (2) 西洋近代思想の意味を歴史的に考える態度を養う。[態度]
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などについて、西洋近代の哲学思想の観点から考えることができる。[技術]

【授業の進め方と方法】

授業はプリントを配布してプロジェクターを用いる講義です。毎回の課題プリントの提出が課せられます。プリントに疑問や感想を書くことができ、適宜之に対する応答がなされ、理解を深めることができます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第2回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第3回	ジョルダノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第4回	デカルト (1)	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第5回	デカルト (2)	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第6回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第7回	ライプニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第8回	ベーコン、ホッブズ	(1) 帰納法、(2) ホッブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第9回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第10回	パークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第11回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第12回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第13回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第14回	15～18世紀半ばの西洋思想	(1) 人間、宇宙、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントや参考書などによって授業内容の復習をし、必要に応じて思想家の原典も読み、次の授業のテーマと内容については参考書で関連箇所を調べて読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

近代西洋哲学史についての書物で自分に合ったものを使用してください（参考書欄参照）。授業時にはプリントを中心に用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』4～7巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
- (2) 春学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- (1) を 70% (2) を 30% の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。

西洋哲学史Ⅱ－2

菅沢 龍文

授業コード：A2313

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の 18 世紀のカントから 19 世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、古今東西の諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

- (1) 西洋近代の諸哲学思想についての基礎知識を得る。[知識]
- (2) 西洋近代思想の意味を歴史的に考える態度を養う。[態度]
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などについて、西洋近代の哲学思想の観点から考えることができる。[技術]

【授業の進め方と方法】

授業はプリントを配布してプロジェクターを用いる講義です。毎回の課題プリントの提出が課せられます。プリントに疑問や感想を書くことができ、適宜之に対する応答がなされ、理解を深めることができます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	カント (1)	(1) コペルニクスの転回、(2) アプリオリな総合判断、(3) 現象と物自体、など
第 2 回	カント (2)	(1) 仮象、(2) アンチノミー、(3) 理念の統制的使用、など
第 3 回	カント (3)	(1) 定言命法、(2) 目的の国、(3) 最高善、など
第 4 回	フィヒテ	(1) カント哲学の発展的継承、(2) 自我と非我、(3) 無神論論争、など
第 5 回	シェリング	(1) 自然哲学、(2) 同一哲学、(3) 神の実存、など
第 6 回	ヘーゲル (1)	(1) カントからの自立、(2) フィヒテ、シェリングからの自立、(3) 弁証法、など
第 7 回	ヘーゲル (2)	(1) 精神の現象学、(2) 論理学、(3) 法哲学、など
第 8 回	ショーペンハウアー	(1) 根拠律、(2) 意志と表象としての世界、(3) ペシミズムと解脱、など
第 9 回	キルケゴール	(1) アイロニー、(2) 実存の三段階、(3) 絶望と信仰
第 10 回	ニーチェ	(1) 主知主義の批判、(2) 超人、(3) ニヒリズム、など
第 11 回	フォイエールバッハ、マルクス	(1) 神学の本質は人間学、(2) マルクスの近代市民社会批判、(3) 史的唯物論、など
第 12 回	ベンサム、ミル	(1) 功利主義、(2) ミルの功利主義と経験主義、(3) 自由論、など
第 13 回	コント、スベンサー	(1) 実証哲学、(2) 社会有機体説、(3) 社会進化論、など
第 14 回	18 世紀末～19 世紀末の西洋思想	(1) 人間、世界、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントや参考書などによって授業内容の復習をし、必要に応じて思想家の原典も読み、次の授業のテーマと内容については参考書で関連箇所を調べて読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

近代西洋哲学史についての書物で自分に合ったものを使用してください（参考書欄参照）。授業時にはプリントを中心に用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9 巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルバ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（梓出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
- (2) 秋学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- (1) を 70 % (2) を 30 % の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。

基礎演習 1

安孫子 信

授業コード：A2206

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

■パスカルの人間観を学びます。

ーパスカル (1623-62) の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。
ーテキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】

■パスカルの人間観に迫り、その中で哲学の基礎力を鍛えます。

ー『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。
ーテキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【授業の進め方と方法】

■テキスト読解とレポート作成

ー『パンセ』は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。
ーその際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。
ーすなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。
ーなお学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件 その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件 その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判 その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判 その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判 その 3
第 13 回	理性	理性の批判 その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想史上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ー毎回提出の小レポートを作成します。
ー学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。

【テキスト（教科書）】

パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳、中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】

野田又男『パスカル』（岩波新書）
松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）
前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

基礎演習 2

中釜 浩一

授業コード：A2209

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的な考え方・論じ方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

哲学的な諸問題を自ら考えることを通して、哲学史的な知識ではなく、哲学的に思考・分析するとはどういうことかを理解し、一層進んだ研究テーマへ向かう能力を高める。

【授業の進め方と方法】

T. ネーゲル「哲学ってどんなこと」をテキストとして、さまざまな哲学的問題を議論・検討し、毎回小レポートを提出して、哲学的に論ずる能力を養う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学とはどういう活動か	授業の目的・方針に関する解説
第 2 回	懐疑論と独我論（その 1）	テキスト第二章. 懐疑論の理解
第 3 回	懐疑論と独我論（その 2）	テキスト第二章. 懐疑論に対する応答
第 4 回	懐疑論と独我論（その 3）	テキスト第二章. 懐疑論は克服できるか
第 5 回	他者問題（その 1）	テキスト第三章. 他者問題とは何か.
第 6 回	他者問題（その 2）	テキスト第三章. 他者は理解できるか.
第 7 回	心身問題（その 1）	テキスト第三章. 他者問題とは何か.
第 8 回	心身問題（その 2）	テキスト第四章. 二元論と物理主義
第 9 回	自由と決定論（その 1）	テキスト第六章. 自由とは何か
第 10 回	自由と決定論（その 2）	テキスト第六章. 自由は可能か
第 11 回	道徳の根拠（その 1）	テキスト第七章. 道徳的動機とはなにか
第 12 回	道徳の根拠（その 2）	テキスト第七章. なぜ道徳的でなければならないのか.
第 13 回	人生の意味（その 1）	テキスト第九章. 人生は意味があるのか.
第 14 回	人生の意味（その 2）	テキスト第九章. 人生の意味を考えることに何の意味があるのか.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プラトン、デカルト、ヒューム、カントなど、哲学の古典を少なくとも数冊は読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】

野矢茂樹「哲学の謎」講談社現代新書

永井均「子供のための哲学」講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

哲学的問題の理解と哲学的思考法の習熟度（授業での質疑と毎回の小レポート）：85%

論理的な論述の習熟度（期末レポート）15%

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的発言を引き出すように留意する。

【その他の重要事項】

初回の授業で、授業の方法、単位を取得するための条件等を説明するので、必ず出席すること。

基礎演習 1

中釜 浩一

授業コード：A2207

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的な考え方・論じ方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

哲学的な諸問題を自ら考えることを通して、哲学史的な知識ではなく、哲学的に思考・分析するとはどういうことかを理解し、一層進んだ研究テーマへ向かう能力を高める。

【授業の進め方と方法】

T. ネーゲル「哲学ってどんなこと」をテキストとして、さまざまな哲学的問題を議論・検討し、毎回小レポートを提出して、哲学的に論ずる能力を養う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学とはどういう活動か	授業の目的・方針に関する解説
第 2 回	懐疑論と独我論（その 1）	テキスト第二章. 懐疑論の理解
第 3 回	懐疑論と独我論（その 2）	テキスト第二章. 懐疑論に対する応答
第 4 回	懐疑論と独我論（その 3）	テキスト第二章. 懐疑論は克服できるか
第 5 回	他者問題（その 1）	テキスト第三章. 他者問題とは何か.
第 6 回	他者問題（その 2）	テキスト第三章. 他者は理解できるか.
第 7 回	心身問題（その 1）	テキスト第四章. 心身はいかに関係しているか
第 8 回	心身問題（その 2）	テキスト第四章. 二元論と物理主義
第 9 回	自由と決定論（その 1）	テキスト第六章. 自由とは何か
第 10 回	自由と決定論（その 2）	テキスト第六章. 自由は可能か
第 11 回	道徳の根拠（その 1）	テキスト第七章. 道徳的動機とはなにか
第 12 回	道徳の根拠（その 2）	テキスト第七章. なぜ道徳的でなければならないのか.
第 13 回	人生の意味（その 1）	テキスト第九章. 人生は意味があるのか.
第 14 回	人生の意味（その 2）	テキスト第九章. 人生の意味を考えることに何の意味があるのか.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プラトン、デカルト、ヒューム、カントなど、哲学の古典を少なくとも数冊は読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】

野矢茂樹「哲学の謎」講談社現代新書

永井均「子供のための哲学」講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

哲学的問題の理解と哲学的思考法の習熟度（授業での質疑と毎回の小レポート）：85%

論理的な論述の習熟度（期末レポート）15%

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言を積極的に引き出すように留意する。

基礎演習 2

安孫子 信

授業コード：A2210

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

■パスカルの人間観を学びます。

ーパスカル（1623-62）の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。

ーテキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】

■パスカルの人間観に迫り、その中で、哲学の基礎力を鍛えます。

ー『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。

ーテキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【授業の進め方と方法】

ー「パンセ」は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。

ーその際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。

ーすなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。

ーなお学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件 その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件 その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判 その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判 その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判 その 3
第 13 回	理性	理性の批判 その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ー毎回提出の小レポートを作成します。

ー学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。

【テキスト（教科書）】

パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳、中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】

野田又男『パスカル』（岩波新書）

松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）

前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

哲学特講（1）－1

堀江 聡

授業コード：A2212

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新プラトン主義を本格的に掘り下げてみる。予備知識として、プラトン、アリストテレス哲学の最低限の知識を身につけ、それを元にプロティノスから始まる新プラトン主義の本質とギリシア、ビザンツ、イスラーム、ラテンにおける変奏、つまり後代におけるさまざまな影響史を概観する。絶対者をいかに把握するか、そして、いかにして絶対者と一になるかが主要関心事となる。

【到達目標】

西洋精神史の根幹をなすプラトニズムに関し、通常の哲学史の教科書レベルを超えて深く内部の襞に分け入り、その面白さと関連領域への思想波及の甚大さを認識すること。

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、質疑応答の時間を設けるに吝かではない。希望があれば、演習形式を一部導入しても構わない。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学史の軸。	アラビア哲学、中世ユダヤ哲学をも含めた古代中世哲学史の射程。
第 2 回	前提としてのプラトン哲学。	造物主・範型・悪。
第 3 回	前提としてのアリストテレス哲学。	直知の直知としての絶対者。
第 4 回	ボルフュリオス『プロティノス伝』（その 1）。	生涯・著作・人となり。
第 5 回	ボルフュリオス『プロティノス伝』（その 2）。	「聖者伝」とは何か。
第 6 回	プロティノスの哲学体系。	形而上学と救済論の二面性。
第 7 回	プロティノスによる神との合一体験の表白。	権威的テキストのラテン・ビザンツ・アラビア・ユダヤにおける本歌取り。
第 8 回	キリスト教徒最大の敵ボルフュリオス。	その形而上学と三位一体論への影響。
第 9 回	啓示哲学の可能性。	『カルデア神託』とイアンブリコスに探る。
第 10 回	プロクロスの幾何学的精神。	ヘーゲルが絶賛するその体系性。
第 11 回	パリとサン・ドニの哲学散歩。	擬ディオニュシウス・アレオパギタの位階論。
第 12 回	アカデメイア最後の学頭ダマスキオス。	「語りえぬもの」という絶対者の把握。
第 13 回	総括。	言及しそこなった論点・観点の補遺。
第 14 回	授業内試験、まとめ。	筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたコピーは目を通し、紹介した参考文献は積極的に読み進めることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、プリント配布。

【参考書】

『新プラトン主義を学ぶ人のために』（堀江聡 他編著）、世界思想社、2014 年。プロティノス『エネアデス（抄）I/II』中公クラシックス、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

新プラトン主義の概要が把握できたか確認する最終回の試験（70%）および出席状況＋リアクションなどの平常点（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

哲学特講（１）－２

山下 真

授業コード：A2213

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは「ハイデガー哲学と〈存在の問い〉」です。20 世紀ドイツの哲学者、マルティン・ハイデガーの思想を多面的に取り上げ、その独自性と意義を考察します。

ハイデガーは、1927 年に発表した名著『存在と時間』によって、現代哲学に甚大な影響を与えました。そこでは、自己の死や不安にさらされた人間存在について鋭利な構造分析が展開されています。それは、今日の社会的日常性の中で画一化された〈実存〉としての各人に、自己省察を迫るものです。しかし他方で、この書物の本来の目的は、「存在とは何か？」という古代以来の哲学の究極問題の解明にあります。伝統的な〈存在の問い〉は、どのように新たに問い直されたのか。本講義を通じて学生は、まず『存在と時間』の基本思想とその意義を理解します。その上で、最終的に未完に終わった同書への批判や、ハイデガーのナチス加担という暗い側面をも捉えながら、おおよそ彼の中期思想までの展開を学ぶことになります。同時に、哲学史的背景や、他の哲学者たちとの影響関係についても考察を深めていきます。

【到達目標】

以下の三点の達成が学生の目標となります。

① 名著『存在と時間』を中心に、ハイデガー哲学の課題と基本概念、その特質を学ぶ。

② 西洋思想の伝統と現代哲学との接点、また、20 世紀の社会状況との関連をも広く視野に入れ、ハイデガーの思索を導いた問題意識を理解する。

③ 今日の社会に生きる私たちにとって〈存在の問い〉がどんな意味を持ち得るのか、その可能性を主体的に考察する。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、ハイデガーが思考した中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ハイデガー哲学の特徴と時代背景
第 2 回	『存在と時間』（1）	〈存在論的差異〉とは何か
第 3 回	『存在と時間』（2）	基礎存在論の構想、〈現存在〉としての人間
第 4 回	『存在と時間』（3）	〈世界-内-存在〉と世界性の構造
第 5 回	『存在と時間』（4）	共存在と〈ひと〉、日常性と頹落
第 6 回	『存在と時間』（5）	〈開示性〉の分析：気分と了解、言語
第 7 回	『存在と時間』（6）	〈不安〉という根本気分から〈気遣い〉の概念へ
第 8 回	『存在と時間』（7）	時間性の究明と〈死への先駆〉
第 9 回	『存在と時間』（8）	〈良心の呼び声〉と負い目
第 10 回	『存在と時間』（9）	〈先駆的決意性〉における根源的時間
第 11 回	『存在と時間』の残した諸問題	主著の途絶、ナチス問題、他者性をめぐっての批判
第 12 回	〈形而上学〉と存在の開示	中期思想への転回、存在の生起と〈無〉
第 13 回	芸術作品と真理	〈隠れなさ〉としての真理概念
第 14 回	存在の問いの意義と射程	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や、指定した参考文献を読解することによる、各回の予習・復習の実施。場合によっては小レポート課題の執筆。

内容の連続性が高いので、欠席が多いと展開が解らなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、できるだけ休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しません。

【参考書】

■ハイデガーの主著とその邦訳

Martin Heidegger, *Sein und Zeit* (1927), Tübingen, Max Niemeyer Verlag.

ハイデガー『存在と時間』：細谷貞雄訳（ちくま学芸文庫、全 2 巻、1994 年）、原佑／渡邊二郎訳（中央公論新社、全 3 巻、2003 年）

■さしあたりの入門的解説書

木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書、1993 年）

細川亮一『ハイデガー入門』（ちくま新書、2001 年）

古東哲明『ハイデガー＝存在神秘の哲学』（講談社現代新書、2002 年）

その他の参考文献は、配布資料に記載して授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50 %）と、学期末の課題レポート（50 %）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な実例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。

哲学特講（２）－１

酒井 健

授業コード：A2214

春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス現代思想の根本的な斬新さと深さについて学ぶ。

カフカ論の重要論考を扱うが、とりわけブランショのカフカ論はフランス現代思想の白眉と言ってよく、その読解を通して、思索を深めていきたい。

【到達目標】

20 世紀前半に活動した小説家カフカとフランス現代思想の接点を学ぶ。

具体的なテーマは、実存の問題としては、生の未完了性、曖昧さ、優柔不断、さまよい、解決なき恋愛、死への意識。エクリチュールの問題としては、書く主体（誰が書いているのか）、なぜ書くのか（作品への要請、作品からの要請）、どのように書くのか（ストーリーの問題とその切断）。宗教の問題としては神の理不尽さ、救済のなさなどを理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式。テキストを読解しながら、小説家カフカの作品と実存に対するバタイユ、ブランショ、ドゥルーズ＝ガタリの解釈を比較検討する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要説明	今学期の授業の進め方の説明。カフカの紹介。フランス現代思想の紹介
第 2 回	カフカとバタイユ（1）	カフカの人と作品に対するバタイユの理解の特徴
第 3 回	カフカとバタイユ（2）	父親と近代社会に対するカフカの姿勢とバタイユの解釈
第 4 回	カフカとバタイユ（3）	カフカの幼少性とバタイユの至高性
第 5 回	カフカとブランショ（1）	ブランショの解釈の特徴―「終わりなき」という視点
第 6 回	カフカとブランショ（2）	ブランショの解釈の特徴―「書く行為」という視点
第 7 回	カフカとブランショ（3）	ブランショの解釈の特徴―「神と宗教」という視点
第 8 回	カフカとブランショ（4）	ブランショの解釈の特徴―「作品」という視点
第 9 回	カフカとドゥルーズ＝ガタリ（1）	ドゥルーズ＝ガタリと 1970 年代の新たな思潮
第 10 回	カフカとドゥルーズ＝ガタリ（2）	ドゥルーズ＝ガタリの「マイナー文学」という視点
第 11 回	カフカとドゥルーズ＝ガタリ（3）	ドゥルーズ＝ガタリと「セリー」という視点
第 12 回	カフカとドゥルーズ＝ガタリ（4）	ドゥルーズ＝ガタリと「リゾーム」という視点
第 13 回	バタイユ、ブランショ、ドゥルーズ＝ガタリ	現代思想と文学
第 14 回	試験、まとめ	授業の内容に沿った論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

カフカの小説を読んでおくこと。現代思想の入門書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで配布

【参考書】

①『文学と悪』バタイユ著、ちくま学芸文庫 ②『カフカからカフカへ』ブランショ著、書肆心水 ③『カフカ（新訳）』ドゥルーズ＝ガタリ著、法政大学出版局、④『バタイユ入門』酒井健著、ちくま新書など。授業の開始時に詳細を紹介。

【成績評価の方法と基準】

カフカと現代思想の接点をどの程度理解しているかに基準を置いて、成績評価を行う。具体的には、記述試験（50%）と授業への積極的な貢献度（レスポンスカードの内容等、50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評であった。これに慢心せず、逐一、学生の新たなニーズに応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

「宗教論2（キリスト教思想史）」の受講が望ましいが、履修の必要条件ではない。宗教論系、文学論系の教養科目を積極的に履修しておいてほしい。

哲学特講（2）－2

市川 崇

授業コード：A2215

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス現代思想における共同体論を学ぶ授業です。18世紀末から20世紀に至るユートピア思想の系譜を簡単に振り返った後、ジョルジュ・バタイユ、モーリス・ブランショ（『明かしえぬ共同体』）、ジャン＝リュック・ナンシー（『無為の共同体』）における共同体論、さらにジャック・デリダによるこれらの思想の相対化の試み、「来るべき民主主義」という着想を概説します。また、ジャック・ランシエール、アラン・バディウらによるデリダ思想を批判する試みも取り上げます。

【到達目標】

フランス現代思想についての基本的知識の獲得を目指します。現代フランスの哲学者たちによる共同体についての議論の概要を把握することができます。デリダの「差延」、「脱構築」とは何か、「脱構築」が可能にする社会的正義についての考察を理解し、21世紀における社会で共同体について考える意義を理解できるようになるでしょう。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で進められます。数回に1度、履修者の理解度を確認するため、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業全体の紹介。成績評価方法の確認。	各回のトピック。テーマの紹介。
第2回	フランスにおけるユートピア思想の概観（1）	ジャン＝ジャック・ルソー、サン＝シモンのユートピア
第3回	フランスにおけるユートピア思想概観（2）	シャルル・フーリエのユートピア、マルクス・エンゲルスのユートピア思想批判
第4回	バタイユの共同体論（1）	民主共産主義サークルの活動。「ファシズムの心理構造」
第5回	バタイユの共同体論（2）	社会学研究会の活動。「魔法使いの弟子」
第6回	ナンシーの共同体論（1）	「無為の共同体」
第7回	ナンシーの共同体論（2）	「無為の共同体」
第8回	ブランショの共同体論（1）	「明かしえぬ共同体」
第9回	ブランショの共同体論（2）	「明かしえぬ共同体」
第10回	デリダの「差延」概説	「エクリチュールと差異」、「哲学の余白」
第11回	デリダの「脱構築」概説	「哲学の余白」、「プラトンのパルマキア」
第12回	デリダの共同体論（1）	『友愛のポリティックス』
第13回	デリダの共同体論（2）	『マルクスの亡霊たち』
第14回	ランシエールの民主主義論	『不和』、『民主主義への憎悪』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布されたプリントを読み返し、その主要なトピックを把握することが大切です。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

ジョルジュ・バタイユ『魔法使いの弟子』景文館。ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』以文社。モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』ちくま文庫。ジャック・デリダ『友愛のポリティックス』みすず書房、『マルクスの亡霊たち』藤原書店。ジャック・ランシエール『民主主義への憎悪』インスクリプト。アラン・バディウ『コミュニズムの仮説』水声社。

【成績評価の方法と基準】

平常点と学期末レポート。平常点20%、学期末レポート80%の割合で評価する。また到達目標にあるデリダの基本概念、脱構築が可能にする社会的正義の理解を50%、21世紀の社会において共同体について考える意義の理解を50%という割合に設定する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は内容がやや難解であるとの意見が見られたので、今年度はより丁寧な説明を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業後に随時、質問を受け付けます。

哲学特講（3）－1

松本 力

授業コード：A2216

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ること、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになる。

【到達目標】

デカルトにとっての理性とは何か。その理性をもちいて到達する「考える私」の確かさ、そして「考える私」と「誠実なる神」との関係について考察することで、デカルト哲学の中心的概念を理解し、説明できるようになることが到達目標である。

【授業の進め方と方法】

デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を読み進め、毎回、授業内容についての確認のアンケートを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覺すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱う箇所を読み込み、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト 省察 情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】

野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）によりデカルト哲学の重要概念の理解を確認することになるが、その重要概念にたどり着くまでの議論の理解を毎授業時の授業アンケート（30 %）により確認する。

【学生の意見等からの気づき】

必ず授業前にテキストを読んでおくこと。

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知る事が不可欠である。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき その 1	ソシュールと『一般言語学講義』と歴史的な背景の説明
第 3 回	まえおき その 2	比較言語学と音韻論の成立とソシュールの関係
第 4 回	まえおき その 3	ソシュール以後の言語学とソシュールの関係
第 5 回	まえおき その 4	言語学以外の分野へのソシュールの影響
第 6 回	前年度までの内容	序論から第一編の第三章の前半
第 7 回	第一部 一般原理	第三章 静態言語学と進化的言語学 後半
第 8 回	第二部 共時言語学	第一章 概説
第 9 回	第二部 共時言語学	第二章 言語の具体的実在体
第 10 回	第二部 共時言語学	第三章 同一性、実在、価値
第 11 回	第二編 共時言語学	第四章 言語価値
第 12 回	第二編 共時言語学	第五章 統合関係と連合関係
第 13 回	第二部 共時言語学	第六章 言語の機構
第 14 回	まとめ 次年度への展望など	定期試験は実施しない

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文 80 %

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

受講状況 20 %

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で学生が議論できる時間を設ける

哲学特講（4）－1

菅沢 龍文

授業コード：A2218

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『純粋理性批判』を読む
－ 自然科学と形而上学を批判する －

【到達目標】

- (1) カントの批判哲学ひいては近代哲学の基本知識を身につける。[知識]
- (2) 自然科学について批判的に考えることができる。[態度]
- (3) 神・自由・不死を扱う形而上学について批判的に考えることができる。[態度]
- (4) 論理的な文章を読み解くことができる。[技術]
- (5) 論理的な文章を書くことができる。[技術]

【授業の進め方と方法】

- (1) カントが推薦する入門書である J・シュルツの『カント『純粋理性批判』を読むために』をテキストとします。
- (2) プロジェクターを用いて説明し、毎回の課題プリントにより理解度を確かめます。
- (3) 前回の課題を中心に次回冒頭に復習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	問題の発端	形而上学という問題について考える
第 2 回	天動説から地動説へ	カントのコペルニクス的転回について考える。
第 3 回	分析判断と総合判断	アприオリな総合判断について考える。
第 4 回	空間と時間	カントに独特な空間・時間論について考える。
第 5 回	直観と思考	純粋悟性概念（カテゴリー）について考える。
第 6 回	自然科学の対象	自然科学的な知識の本質について考える。
第 7 回	推理と理念	理念の導出、および真理と仮象について考える。
第 8 回	魂の不死	思考する自我の存在について考える。
第 9 回	自由と必然性	自由と必然性との両立について考える。
第 10 回	神の存在	神の存在証明の不可能性について考える。
第 11 回	現象の統一	諸現象の統一性について考える。
第 12 回	哲学と数学	哲学的知識と数学的知識の区別を考える。
第 13 回	理性の関心と道徳	理性のもつ関心と、道徳的世界について考える。
第 14 回	自然科学の限界と、形而上学の意義	『純粋理性批判』の意義について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 授業と並行してテキストを読み進める。
- (2) 興味関心の湧いた箇所については、カント自身の『純粋理性批判』や『プロレゴメナ』の該当箇所を読む。

【テキスト（教科書）】

J・シュルツ著『カント『純粋理性批判』を読むために』（梓出版社）

【参考書】

カント著『純粋理性批判』（平凡社ライブラリー、光文社古典翻訳文庫、他）／カント著『プロレゴメナ』（岩波文庫、他）／中島義道著『『純粋理性批判』を噛み砕く』（講談社）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 毎回の課題プリントの出来ぐあい、参加態度
- (2) セメスター末の期末レポートの点数
- (1) を 7 割、(2) を 3 割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

哲学特講（4）－2

近堂 秀

授業コード：A2219

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら、カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

実際に『純粋理性批判』を読んでみる。そのうえで、関連文献を参照しながら、現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。基本的な講義形式で行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第 5 回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的感性論」
第 6 回	『純粋理性批判』を読む (2)	「空間概念の形而上学的究明」
第 7 回	『純粋理性批判』を読む (3)	「空間概念の超越論的究明」
第 8 回	『純粋理性批判』を読む (4)	「結論」
第 9 回	『純粋理性批判』を読む (5)	ハイデガーの『純粋理性批判』解釈
第 10 回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第 14 回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと言語分析哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ 30 % と 70 % の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

学生の内容理解度に応じて授業内容を調整する。

哲学特講（5）－1

D. ハイデンライヒ

授業コード：A2220

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ショーペンハウアー、人生論と諸芸術

【到達目標】

ドイツのモラリスト哲学の人気名作 *Aphorismen zur Lebensweisheit* (日本語タイトル：『幸福について：人生論』) を精読し、その思想と芸術性について考える。ワーグナーのオペラからアメリカのフィルム・ノワールまで、ショーペンハウアー哲学が諸芸術へ与えた偉大な影響力について学ぶ。

注：いわゆる『幸福論』を学ぶことによって幸福になれると考える学生には向いていません。

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、テキスト購読（和訳）、全員での討議によって授業を構成する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
第 2 回	ヨーロッパ・モラリスト 哲学史上のショーペンハウアー	グラシアン、モンテーニュなどの影響について
第 3 回	「人のあり方について」精読（1）	健康、力、美などについて
第 4 回	「人のあり方について」精読（2）	気質、道徳的性格、知性などについて
第 5 回	「人の有するものについて」精読（1）	人が持っているものについて
第 6 回	「人の有するものについて」精読（2）	財産、あらゆる意味での所有物について
第 7 回	「人の与える印象について」精読（1）	人が他人の考えのなかに占める地位について
第 8 回	「人の与える印象について」精読（2）	名誉、名声などについて
第 9 回	ショーペンハウアーの道徳論と動物	ショーペンハウアーの同情と動物倫理について
第 10 回	ショーペンハウアーと文学（1）	T. マン『ブッデンブローック家の人々』について
第 11 回	ショーペンハウアーと文学（2）	T. マン『魔の山』について
第 12 回	ショーペンハウアーと音楽、オペラ	ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』などについて
第 13 回	ショーペンハウアーと映画	フィルム・ノワール『桃色の馬に乗れ』などについて
第 14 回	授業内試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳本（指定テキスト）を各自で購入し、授業の前に該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

ショーペンハウアー：『幸福について：人生論』新潮文庫 1958 年。（¥637）

【参考書】

R. ザフランスキー：『ショーペンハウアー：哲学の荒れ狂った時代の一つの伝記』法政大学出版局 1990 年。その他。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）：60%、学期末試験：40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

テキストを購入し、毎回読んでくることが受講の前提となります。

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳とは、およそ人間の絶対的な価値を意味し、人間に対する敬意や尊重の根拠になるものです。日本でも近年、クローン技術を規制する法律などのなかで、人間の尊厳が言及されるようになりました。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があり合意に至っていません。そこでこの授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、生命倫理学の議論も考慮しつつ、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では、厳しい批判もあり、人間の尊厳の内実が問い直されています。受講生には、生命倫理学の多様な問題をもとに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずですが。

【到達目標】

第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。第二に、人工妊娠中絶や尊厳死など、現代医療の問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。第三に、現代医療の問題について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、コミュニケーションカードを活用し、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また発言できることが必要になります。なお受講生を選抜する可能性があるため、初回の授業には必ず出席すること。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、第二次世界大戦と人間の尊厳	授業の概要と方法、ナチスによる大量虐殺と「生きるに値しない生」について説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	カントの尊厳概念	現在に大きな影響を与えた、カントの尊厳概念を説明する
第 5 回	グループディスカッション (1)	人工妊娠中絶について受講生と議論してみよう
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	人工妊娠中絶の問題点を説明する
第 7 回	マルセルの尊厳概念	第二次世界大戦後の概念として、マルセルの尊厳概念を説明する
第 8 回	近年の諸理論	人間の尊厳に关する、近年の代表的理論を説明する
第 9 回	尊厳の帰属	尊厳の担い手は誰かについて説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	尊厳死について受講生と議論してみよう
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	尊厳死の問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点を説明する
第 13 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する
第 14 回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の人権問題や医療問題に関心を持ち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行っていない場合には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年

金子晴男『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年

その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とコミュニケーションカードの記述によって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末試験によって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、現代医療の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の医療現場は様々な先端科学と結びつき、医学的処方を多様化させている。私たちは、そうした状況下で、自分や家族の「生命」をどのように扱われるかを知り、どのように扱うかの決断に関与しなければならない。本授業では、ある状況下でいかなる選択が「理に適っている」か、哲学的見解を手掛かりにしながら、主体的に考察する。

【到達目標】

現代の医療技術の発展から生じうる諸問題に関して、「私とは誰か」ならびに「家族とは何か」を問う哲学的見解を踏まえ、広い視野をもって考察する態度の獲得を目指す。

【授業の進め方と方法】

教員が授業用に作成した資料を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。

毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	私たちの「家族」が直面する医療問題	医療技術の発展と少子高齢化社会との軋轢
第 2 回	近代哲学における「恋」と「愛」	ショーペンハウアーの「性愛」とヘーゲルの「精神」
第 3 回	現代哲学における「結婚」の形態	ラッセルの「自由主義」とフロムの「技法」
第 4 回	「医療倫理」から「生命倫理」へ	「バタナリズム」と「インフォームドコンセント」
第 5 回	「死の処方」をめぐる混乱	「安楽死」を決定する権利は「誰」にあるか
第 6 回	「介護」にあたって気遣うべきこと	メイヤロフの「ケアリング」と「死の学び」
第 7 回	「シンガー事件」のプロファイル	ヒトとモノを分ける境界線はどこにあるか
第 8 回	生殖医療における「親の干渉」	「人工妊娠中絶」の条件とその形骸化
第 9 回	「不便」を「不幸」にさせないために	デイドロの「折衷主義」における「他者」への態度
第 10 回	「夢の医療」における「夢」とは何か	再生医療がもたらす「光」と忍び寄る「影」
第 11 回	「科学技術」が人間を利用する	フッサールからハイデggerを経てフーコーへ
第 12 回	「生命」には本当に「価値」があるのか？	人間像の崩壊による「倫理」の無効化
第 13 回	「善／悪」を定める対話の可能性	ハーバーマスの「討議倫理学」からみた「生命倫理」
第 14 回	「電脳義体」は「誰」の夢をみるか	先端科学が思い描かせる「近未来」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
毎回、前回の授業で解説した内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
授業内で十分に解説できない部分については、参考書を挙げるので、各自で参照する。

【テキスト（教科書）】

大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアルー「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2017 年（2800 円＋税）

【参考書】

担当教員作成の補足資料（参考書の指示を含む）を授業中に適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（70 %）、平常点（30 %）の比率で評価し、60 点以上を及第点とする。
試験評価は、受講者各自が、「家族」における「自己」を踏まえた上で、現代の医療問題をどのように評価するか、という観点から行う。
そのさいには、「知識の正確さ」と「設問と回答の対応」を重視し、その上に、学生各自の考察の「独自性」と「説得力」を加算する。
また、リアクションペーパーや E メール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了後に口頭で受けつける。また、リアクションペーパーや E メールでの質問も随時、受けつける。

哲学特講（6）－2

小井沼 広嗣

授業コード：A2223

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現象学という「現象」とは“体験”のことであり、現象学とは、一言でいえば、みずからの意識体験を内省しつつ、問題とする当の事象の“本質”を記述する、という方法的態度をとる哲学のことである。

E・フッサールによって創始された現象学は、現代哲学の一大潮流を形成したのみならず、心理学、社会学、教育学、看護学などの諸分野にも受容され、様々な仕方で応用が試みられている。この授業では、そうしたフッサール現象学の根幹をなす「現象学的還元」と「本質観取（形相的還元）」という二大方法の意義を学ぶとともに、晩年のフッサールが取り組んだ「生活世界」の問題と「相互主観性」の問題をも概説する。また、現象学的な思考法をみずから実践し、体得するために、特定の意識体験（幸福、不安、自由、正義など）を主題とした「本質観取」のワークショップを計三回に渡って行う。

【到達目標】

- ①フッサール現象学の基本モチーフと方法を説明できる。
- ②「生活世界」とは何か、「間主観性」とは何か、また、それらがなぜ現象学において重要となるのか、を説明することができる。
- ③現象学的な思考法を体得し、自分自身や人間一般の生のあり様をよりよく理解するうえでの技法として活用することができる。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で進める。
- ・毎回、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・現象学的方法を用いたグループ・ディスカッションを計三回に渡って行う予定である。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と成績評価の確認／講義内容の概説
第 2 回	フッサール現象学のモチーフと射程	認識問題と「学問」の基礎づけ
第 3 回	フッサール現象学の方法	現象学的還元と本質観取
第 4 回	本質観取のワークショップ	グループ・ディスカッション
第 5 回	志向的体験の本質構造①	私たちの意識体験はいかなる構造を有しているのか？
第 6 回	志向的体験の本質構造②	意識作用と意識内容の相関関係
第 7 回	本質観取のワークショップ	グループ・ディスカッション
第 8 回	事物知覚の現象学	「現実」はいかに構成されるのか？
第 9 回	相互主観性の問題①	いかにして他人の心を知りうるのか？
第 10 回	相互主観性の問題②	ハイデgger、サルトル、レヴィナスの他者論
第 11 回	生活世界の問題①	近代の物理学的世界観はどのように成立したのか？
第 12 回	生活世界の問題②	生きた世界とは？／ハイデggerの実存論
第 13 回	本質観取のワークショップ	グループ・ディスカッション
第 14 回	総括と展望	現象学の意義と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・あらかじめ予習用プリントを配布することがあるので、その場合はあらかじめ読んでくこと。
- ・ワークショップにさいしてはその前の回の授業時に事前課題を課すのでやってくる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

フッサール『現象学の理念』みすず書房
フッサール『イデーン I（I・II）』みすず書房
フッサール『ブリタニカ草稿』ちくま学芸文庫
フッサール『デカルト的省察』岩波文庫
フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』中公文庫

【成績評価の方法と基準】

出席（30 %）、リアクションペーパー（15 %）、ワークショップの事前準備（15 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価する。上述した到達目標との関係では、出席とリアクションペーパーによって①②の達成度を、ワークショップの事前準備と期末レポートによって③の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ディスカッションが好評を得ているので、今年度もそれを取り入れた授業を行う。

哲学特講（7）－1

鶴澤 和彦

授業コード：A2224

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生きるということは、どのようなことなのでしょう。わたしたちは、身近な人やペットの死を悼むことで「いのち」のかけがえのなさや神聖さ（SOL）に気づきます。他方で、医療技術の進歩にともない、医療を自分で選択する機会も増えつつあります。たとえば、終末期患者が「生活の質」（QOL）を維持するために、延命治療の中止や安楽死を求めているケースもあります。この場合、わたしたちは、SOL と QOL とのモラル・ジレンマをどのように考えたらいのでしょうか。本授業は、これらの事例を通して生命倫理に関する基礎的知識を習得し、生死のテーマに関する思考力、判断力、表現力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ①人の誕生と死に関する倫理的問題を挙げ、それに関する自分の考えや立場を理由づけることができる。
- ②具体的な事例に即して倫理学の概念や学説を理解し、それを文章にまとめることができる。
- ③グループディスカッションと全体発表を通じて、自他の見解の相違を知り、自分の考えをより一層深めることができる。

【授業の進め方と方法】

本授業は、プロジェクター等の AV 機器と授業支援システムを使いながら講義形式で行います。各授業の開始時にリアクションペーパー（RP と略記）を配布し、次回の授業終了時に回収します。また、授業支援システムの RP 電子版で課題を提出することもできます。さらに、各テーマの終了時に全体ディスカッションを行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	教員の自己紹介、授業目標、到達目標、授業内容、授業の進め方、受講上の注意について説明します。
2	倫理学とは何か	倫理学の基本概念、道徳と倫理学の相違、倫理学の問題領域と方法論、事実命題と規範命題を解説します。
3	生命倫理学の歴史	生命・医療倫理学の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言など）を解説します。
4	終末期：第1章「命の終わりは誰が決めるのか」	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択肢を説明します。
5	終末期：第1章「命の終わりは誰が決めるのか」	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）を考えていきます。
6	終末期：第1章「命の終わりは誰が決めるのか」	医療資源の配分における正義の原則、医学思想史及び医師の職業倫理の観点から「ヒポクラテスの誓い」を説明します。
7	終末期：第1章「命の終わりは誰が決めるのか」	第3回から第5回のリアクションペーパーの内容をふまえ、そのテーマに関して全体ディスカッションを行います。
8	コンピテンス：第3章「判断能力はだれが決めるのか」	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意（PC）について考察します。
9	コンピテンス：第3章「判断能力はだれが決めるのか」	自律原理とコンピテンス（自律概念、判断能力の概念、コンピテンスの概念）、生命倫理の基本原則について説明します。
10	コンピテンス：第3章「判断能力はだれが決めるのか」	精神機能検査、コンピテンスの臨床基準、スライディング・スケールを説明します。
11	コンピテンス：第3章「判断能力はだれが決めるのか」	第7回から第9回のリアクションペーパーの内容をふまえ、そのテーマに関して全体ディスカッションを行います。
12	生殖医療：第4章「命の質は誰が決めるのか」	生殖（補助）医療の概念・種類・歴史、人工授精と体外受精、着床前診断、羊水検査、エコー検査、精子バンクについて説明します。
13	生殖医療：第4章「命の質は誰が決めるのか」	新型の着床前診断（アレイCGH法）、新型の出生前診断（NIPT）、遺伝カウンセリングを解説します。
14	生殖医療：第4章「命の質は誰が決めるのか」	第11回から第12回のRPの内容をふまえ、そのテーマに関してグループディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所に通し、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考者や関連書籍を使って、専門用語の意味等を理解してください（約1時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）や返却されたリアクションペーパーのコメントを読み直してください。また、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをノートにまとめてください（約1時間）。

【テキスト（教科書）】

小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10: 4480688684

【参考書】

トム・L・ピーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10: 4792360641

【成績評価の方法と基準】

- ①授業時に課題として配布される RP の評価は全体評価の 25 %。RP の評価については、生命倫理に関する基礎的知識ならびにその議論を正しく理解しているかどうか、また、自分の考えを明確に表現できているかどうかを基準とする。
- ②グループディスカッション及び全体発表への積極的参加は 25%。共同討議の評価は、自分と異なる立場の特徴をよく理解できているかどうか、また、それを踏まえたうえで、自分の考えをより深め、説得的に表現することができているかどうかを基準とする。
- ③筆記試験は全体評価の 50%、試験問題は以下三つの設問から成る。生命倫理の基礎知識を問う問題が2題、生命倫理のテーマに関する思考力、判断力、表現力を問う論説問題が1題。

【学生の意見等からの気づき】

病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、授業支援システムにアップロードしてある教材（講義原稿など）で欠席した授業の内容を学習しておいてください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するため、学内外でインターネット、パソコン、プリンター等を使用します。

【その他の重要事項】

授業支援システムのメーリングリストの機能を使って、受講生に連絡を取るため、登録時に連絡可能なメールアドレスを記入してください。また、オフィス・アワーについては、授業内、あるいは、授業後に質問を受け付ける。さらに、随時、弟子メールでも質問を受け付ける。

哲学特講（7）－2

大森 一三

授業コード：A2225

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「西洋教育哲学史」です。本授業では、古代から現代に至るまでの西洋教育思想、教育哲学を中心に学び、教育哲学の固有の課題と特徴を学び、考察してゆきます。

【到達目標】

教育哲学がこれまでどのような問題を扱い、解決を与えようとしてきたのか、さらに、現在の教育哲学がどのような課題を抱えているのかを理解し、広い視野を持って思考できるようになることが本授業の到達目標です。

【授業の進め方と方法】

授業は講義とディスカッションを組み合わせて行います。また、授業内でレポートを作成していただき、翌週の授業ではそのレポートの紹介を行いながら議論を進めてゆきます。

講義の内容は、教育哲学・教育思想が西洋哲学の起源である古代ギリシャからどのように生まれたのかを確認し、その後、ヨーロッパで「教育学」が確立してゆく 18 世紀に至るまで、時系列で諸教育思想の歴史と影響関係を考察してゆきます。19 世紀以降に関しては、トピックに応じて考察を進めてゆきます。また、関連する現代的な問題や現代の社会についても主体的に考察してゆきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	リエンテーション	教育思想、教育哲学とは何か。公民教育、歴史教育の観点から
第 2 回	西洋教育思想の淵源	古代ギリシャにおける教育思想の考察
第 3 回	ローマ・教父哲学での教育思想	ヘレニズムから教父哲学における教育思想の考察
第 4 回	ルネサンスの教育思想	ルネサンス期の教育思想の考察
第 5 回	宗教改革と教育	宗教改革期からコメニウスの教育思想の考察
第 6 回	18 世紀の教育思想	教育思想における「子供の発見」について
第 7 回	「教育学」の萌芽（1）	18 世紀ドイツの哲学と「教育学」について
第 8 回	「教育学」の萌芽（2）	公教育-国家による教育について
第 9 回	ヘルバルト派とロマン主義	ヘルバルト派教育学と日本への影響、およびロマン主義の教育思想について
第 10 回	英米系教育思想	ロックからデューイに至るまでの教育思想について
第 11 回	教育学と心理学（1）	ディルタイとディルタイ派の教育学
第 12 回	教育学と心理学（2）	発達心理学とケア倫理学と教育学の関係について
第 13 回	「世界市民主義的教育」とは何か	教育哲学における「世界市民主義」について
第 14 回	西洋教育思想史の概観	まとめ。あらためて全体像をとらえなおす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後の復習。事前に予習すべきテキストがあるときは、授業内で指示します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を適宜、授業内で配布。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート（40%）、期末レポート（40%）に加え、ディスカッションへの参加や発言（20%）などから、どの程度、教育哲学固有の課題を理解し、その課題に対する考察が深められているかということを判定し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をできるだけ取るようにします。

哲学特講（8）－1

木島 泰三

授業コード：A2226

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では西洋の古代から現代までの哲学史・科学史を「近代科学と目的論的自然観」を軸に、時系列順にたどっていく。以下その概要を述べる。古代ギリシャの自然哲学は西洋哲学の始源であると共に西洋における自然科学の源流でもある。古代科学の集大成とも言えるアリストテレスの自然学はライバルの原子論を退け、目的論的自然観の体系を打ち立てた。近代初期になり、原子論が復権し近代科学が成立した後も、神の意図を基礎にした自然目的論（デザイン論）は生き延びた。ダーウィンの自然淘汰説は目的論的に説明されてきた自然現象を科学的世界像の内部に適切に組み込むことに成功したが、これは一方で、「究極目的」という概念の最終的な解体もあり、その人間観への影響は現在もなお進行中と見ることもできる。以上の流れに沿いつつ、各局面で哲学者たちが何を考えたのかを学んでいく。

【到達目標】

西洋における近代科学の成立と発展の歴史を、それと連動した自然観、人間観の変化と共にたどる作業は、現代社会を広い視野から主体的に考察するための有益なアプローチである。今学期は「近代科学と目的論的自然観」をテーマに「目的論的自然観」という伝統的な自然観が近代自然科学の成立と共にどのような変転をたどったかという問題を軸に、近代科学の歴史と哲学史の相互的な発展を見ていく。

到達目標は次の 2 点である：(1) 講義で取り上げた哲学的諸問題や歴史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。(2) その知識をベースに、「近代科学と目的論的自然観」について各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：近代科学の自然観と目的論的自然観	授業の概要を述べる。
第 2 回	古代ギリシャにおける自然哲学のはじまり	西洋の哲学／科学の源流としての、ソクラテス以前の自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	ソクラテス・プラトンの自然哲学批判	ソクラテスやプラトンがもたらしたのは自然哲学から道徳哲学への転回であつたと共に、目的論的自然観の積極的提唱でもあったことを示す。
第 4 回	アリストテレスの目的論的自然観	アリストテレスが構築した、古代自然哲学の集大成であると共に、目的論的自然哲学の体系化でもある自然哲学を見ていく。
第 5 回	17 世紀科学革命とアリストテレスの自然学の解体	初期近代に場面を移し、アリストテレスの目的論的自然観の解体と機械論的自然観の成立を概観する。
第 6 回	デカルトの機械論的自然観と二元論	デカルトによる機械論的自然観の徹底と、それと表裏の関係にある心身二元論の哲学を見ていく。
第 7 回	スピノザによる目的論的自然観の徹底的批判	スピノザによる、心身両側面にわたる機械論的自然観の徹底を見ていく。
第 8 回	ライプニッツにおける機械論と目的論の調和	ライプニッツ哲学を、機械論的自然観と目的論的自然観との調停の試みを中心に見ていく。
第 9 回	ニュートンとイギリスの自然神学	ライプニッツと同時期に、いくぶん異なる経路から目的論的自然観の部分的復権を目指していたニュートンとその前後のイギリス自然神学思想を見ていく。
第 10 回	ヒュームの『対話』に見る自然神学批判	ヒューム『自然宗教に関する対話』を、イギリス自然神学の伝統への内在的批判として、またダーウィン以前の機械論哲学と目的論的自然観をめぐる思想状況のスケッチとして見ていく。
第 11 回	ダーウィンによる自然神学の解体	ダーウィンの基本的な着想の解説と、それによるデザイン論的自然神学の解体を見ていく。
第 12 回	ダーウィン主義の受容と展開	ダーウィン後の進化論の素早い受容と自然淘汰説の遅い受容を、19 世紀から 20 世紀前期までの生物や社会をめぐる思想と共に見ていく。
第 13 回	現代のダーウィン主義的人間観とその諸問題	20 世紀後半のダーウィン主義の本格的な受容と現代の進化論的人間観を、目的論的自然観の最終的な解体の過程として考察する。

第 14 回 まとめ：自然と目的／授業内試験／レポート回収
現代の問題からこれまでの授業を振り返った上で授業内試験・レポート回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、主要な参考書としては以下を挙げる：ギリシャ時代の科学思想について、ファリントン『ギリシャ人の科学（上・下）』（岩波新書青版——絶版だが、ネットで古書がある程度出回っている）、17 世紀科学革命についての概説書として、バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）。17 世紀からダーウィンの時代までの、主にイギリスの自然思想および自然神学思想を学べる書として、松永俊男『ダーウィンの時代——科学と宗教』（名古屋大学出版会）。20 世紀末のダーウィン主義受容の状況を詳しく学べる書として、ウリカ・セーゲルストローレ『社会生物学論争史』（みすず書房）。自然観と人間観に関する哲学史の展開を学べる書として、大東・奥田・菅沢・大貫編著『自然と人間——哲学からのアプローチ』（梓出版社）。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる、「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (80 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (10 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (10 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

哲学特講（8）－2

中釜 浩一

授業コード：A2227

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュームとイギリス経験論の哲学の主要な論点を学ぶ

【到達目標】

近世最大の哲学者と称せられるデイヴィッド・ヒュームの理論哲学の理解を、ロックやバークリーらの経験論の哲学との対比のもとで深めるとともに、その現代的インパクトを理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回リアクションペーパーを課する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イギリス古典経験論の特徴	イギリス古典経験論の哲学的な位置づけ
第 2 回	ロック（1）	ロック哲学の概要（1）
第 3 回	ロック（2）	ロック哲学の概要（2）
第 4 回	バークリー（1）	バークリー哲学の概要（1）
第 5 回	バークリー（2）	バークリー哲学の概要（2）
第 6 回	ヒューム（1）	印象と観念（1）
第 7 回	ヒューム（2）	印象と観念（2）
第 8 回	ヒューム（3）	因果論（1）
第 9 回	ヒューム（4）	因果論（2）
第 10 回	ヒューム（5）	因果論（3）
第 11 回	ヒューム（6）	因果論（4）
第 12 回	ヒューム（7）	懐疑論（1）
第 13 回	ヒューム（8）	懐疑論（2）
第 14 回	まとめ	ヒュームとイギリス経験論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

哲学史のテキストでイギリス経験論に関する記述を確認する。

ロック、バークリー、ヒュームの主要テキストの講義と関わる箇所を各自読んでおく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない

【参考書】

ロック「人間悟性論」 岩波文庫
バークリー「人知原理論」 岩波文庫
ヒューム「人間本性論」 法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

ヒュームとイギリス経験論の議論の理解（各回のリアクションペーパーの提出とその内容）：60 %
ヒュームの議論の批判的評価（期末のレポート：40 %）
ただし期末レポートの提出は必須の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書説明と筆記を基本とする従来のやり方を踏襲するが、適宜必要に応じてプリントを配布することもある。

【その他の重要事項】

初回の授業で、授業の方法、単位を取得するための条件等を説明するので、必ず出席すること。

国際哲学特講

安孫子 信

授業コード：A2301

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 〈異文化理解〉の問題を海外で学びます。
—文化理解の問題を教室だけではなく、学期末に海外に出かけ、実際に異文化との接触の中で学びます。
- 海外研修ではストラスブール大学（フランス）とハイデルベルグ大学（ドイツ）で合同ゼミを行います。
- 日本語学科の学生たちとの合同ゼミで、交流は日本語で行います。
- 合同ゼミの合間をぬって、滞在地フランス、ドイツの文化遺産を見学し、食を始めとする生活文化に触れます。

【到達目標】

- 〈自文化〉を学び直します。
—合同ゼミでは〈異文化〉の例として〈日本文化〉を取り上げます。そのため半期の教室授業では〈日本文化〉を学び直します。
- 〈異文化〉を肌で知ります。
—海外研修では、フランス、ドイツの風物とともに、交流する学生たちの考え方に直接触れて、両文化をいわば肌で学びます。
- 〈異文化理解〉の意味を学び直します。
—〈日本文化〉理解に打ち込むフランス、ドイツの学生たちとの交流を通して、〈異文化理解〉が知識の問題ではなく、生き方の問題であることを学びます。
- 〈自分〉の見直しが生じます。
—「今までの大学生活で自分は何をしてきたのだろう」、「初めて外国語を本当に勉強したいと思った」などの言葉が、帰路に学生たちの口からもれます。〈異文化理解〉で何より理解されてくるのは、実はあるべき〈自分〉の姿です。

【授業の進め方と方法】

- 国内での授業
—9 月からの授業期間には、教室で通常のゼミ形式の授業を行います。
—ただそれは、学期末に行う海外研修に備えてのもので、合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます。扱うテーマはハイデルベルク大学、ストラスブール大学との協議の上で、夏休み明けに決定します。
- ストラスブール大学との間では、秋学期の通常授業期間中に、スカイプで合同ゼミの予行演習を 3 - 4 回行います。
- 海外での研修
—2 月に 1 週間、フランス、アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所（CEEJA）に滞在し、そこを拠点として、ハイデルベルグとストラスブールに移動しながら、両大学の学生と合同の授業を 5 回行います。
- その他の時間には、アルザスの歴史と現在に触れる多方面的の見学を行います。
- 注意事項
—この特講での単位取得には海外研修参加が必要です。
—ですから、長時間の飛行機での移動が健康上可能であること、また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります。
- 参加費は旅費・滞在費すべてを含めて 25 万円ほどを予定しています。なおその内の 4 分の 1(上限 5 万円)については大学から一人一人に補助が出ます。（以上の数字はあくまでも目安です。為替レートや航空運賃の変動に左右されます）。
- これは特講ですので 2 年生～4 年生まで受講可能です。ただ他の特講とは違って複数回の受講はできません。他方で、2 年生の特講受講の上限は、この特講を取るときは 6 単位まで引き上げられます（そうでなければ 4 単位まで）。
- また受講者数は 20 名を目途としています。それを大きく超える受講希望者がいた場合には、受講希望者に前もって提出してもらう「受講希望理由」と過年度の成績（GPA）とで選抜を行う場合があります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の意義と流れの説明。
第 2 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(1)	「世界における日本文化の位置」の検討
第 3 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(2)	「月の隠れた面」の検討
第 4 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(3)	「因幡の白兔」の検討
第 5 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(4)	「シナ海のヘロドトス」の検討
第 6 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(5)	「仙厓―世界を甘受する芸術」の検討
第 7 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(6)	「異様を手なずける」の検討
第 8 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(7)	「アメノウズメの淫らな踊り」の検討

第 9 回	レヴィ＝ストロースの『月の裏側－日本文化への視角』(8)	「知られざる東京」の検討
第 10 回	動物と社会－日本とドイツ (1)	木村人志「動物法をめぐる「法文化仮説」」の検討
第 11 回	動物と社会－日本とドイツ (2)	福田直子『ドイツの犬はなぜ吠えない?』の検討
第 12 回	日本の現代文学―大江健三郎における政治と性 (1)	「セブンティーン」の検討
第 13 回	日本の現代文学―大江健三郎における政治と性 (2)	「政治少年死す」の検討
第 14 回	総括	参加者からの問題提起を受けて、全体で総括の討論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 扱うテキストに事前に目を通す。
- 当番の各回でレジュメ発表準備を行う。
- 節目節目で小レポート（リアクション・ペーパー）を作成する。
- 海外合同ゼミでのパワポ発表準備を行う。
- 海外合同授業での代表質問準備を行う。

【テキスト（教科書）】

※授業計画中に上げたものは、どれも昨年度の合同ゼミでの共通テキストで、今年度のものについては、今後、ハイデルベルグ大学およびストラスブール大学との協議で、合同ゼミテーマと同時に決定されます。

【参考書】

- ※滞在するアルザスについては次のようなものがあります。
- 新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』（東京書籍）
- 内田日出美『物語ストラスブールの歴史』（中公新書）
- 内村草彦『アルザス文化史』（人文書院）

【成績評価の方法と基準】

学期内の通常の教室授業での平常点が 5 割、海外研修の合同ゼミでの平常点が 5 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、2 つの評価方法の各々で、自文化理解 2 割、異文化理解 3 割、異文化理解の意味の理解 3 割、自分の理解 2 割の割合で勘案を行います。

【学生の意見等からの気づき】

国内・国外のプログラムの充実を図りつつも、過密・過重にならない工夫を行っていきます。

【その他の重要事項】

この特講についての「説明会」を 4 月新学期時に開催します。関心ある人は参加して下さい。（「説明会」の詳細については別途掲示します）。

哲学演習（1）

安孫子 信

授業コード：A2230

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ベルクソンの『笑い』を通じて〈生の哲学〉を学びます】

—宮崎駿『千と千尋の神隠し』の冒頭と結末の二場面から始めましょう。

【引越し車中】母親「もうシャンとしてちょうだい 今日は忙しいんだから」（ブワッ） 母親に叱られふて腐れる千尋。

【ハクとの別れ】ハク「さあ行きな 振り向かないで」（タタ・・ダッ） 駆け出す千尋。

—（ブワッ）から（タタ・・ダッ）へ、これが千尋の物語の全体です。それにしても、この冒頭と結末のあいだに、千尋には何が起こったのでしょうか？

—カオナシらを伴って訪れた銭婆宅で、銭婆が千尋に与えた謎の言葉と、帰路、ハク（竜）の背上で起こったこと。

【銭婆宅】

千尋「でも あのヒントかなにかもらえませんか？」

銭婆「一度あった事は忘れないものさ 思い出せないだけで」

千尋「・・・・」

【ハクの背上】

千尋「でもいま思い出したの その川の名は・・その川はね コハクがわ・・」

—鍵は〈思い出す〉こと、〈記憶〉です。私たちの人生は、〈記憶〉が支えている私たちの内的な〈生〉と強く結びついています。二場面の間にあったのは、この〈記憶〉、すなわち、内的な〈生〉の回復です。—バスカルなら、「いつもぬぐっているオウムのくちばし」の幾何学の精神から、〈打ちこむ〉そして〈賭ける〉という繊細の精神への移行、と言うでしょう。

—『千と千尋の神隠し』の二場面の対比の問題を、本年度は、ベルクソンの『笑い』（1900 年）を手がかりに考えます。喜劇（当時のお笑い）を涉猟しつつ、ベルクソンは笑いがわれわれを（ブワッ）から（タタ・・ダッ）へと開くこと、しかしそれには限界があること、そしてむしろ悲劇こそが開く力を持つことを示していきます。こうして、本書は、実は、ツァラトゥストラの哄笑（大笑い）へと登りつめていくニーチェの〈生の哲学〉を、鋭く批判するものとなっています。

【到達目標】

- a. ベルクソンの〈生の哲学〉を通じて、（ブワッ）という擬態語が象徴する現代社会の閉塞の問題に気づきます。
- b. その閉塞を破り、（タタ・・ダッ）と活気ある状態に社会を開くことで、喜劇（笑い）が有する力と、その限界とを学びます。
- c. 社会を根底から開くことで、悲劇が有する力を学びます。

【授業の進め方と方法】

—授業では毎回テキスト箇所を定め、レポーターの発表を手がかりに、全員でテキスト読解を進めます。

—毎回、授業内容への感想や意見を記したリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

—学年末にはまとめのレポートを提出してもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ベルクソンの人と思想の概説と春学期ゼミの流れの確認
第 2 回	第 1 章「おかしさ一般」(1)	「人間的であること」「無感動」、「純粹理知」の検討
第 3 回	第 1 章「おかしさ一般」(2)	「こわばり」と「しなやかさ」の検討
第 4 回	第 1 章「形のおかしさ」	「形のおかしさ」の検討
第 5 回	第 1 章「運動のおかしさ」	「運動のおかしさ」の検討
第 6 回	第 1 章「おかしさの膨張力」(1)	「機械的であること」の検討

第 7 回	第 1 章「おかしさの膨張力」(2)	「肉体的であること」の検討
第 8 回	第 1 章「おかしさの膨張力」(3)	「物的であること」の検討
第 9 回	第 1 章「おかしさの膨張力」(4)	「芸術と技巧」の検討
第 10 回	第 2 章「状況のおかしさ」(1)	「びっくり箱、操り人形、雪だるま」の検討
第 11 回	第 2 章「状況のおかしさ」(2)	「繰り返し」の検討
第 12 回	第 2 章「状況のおかしさ」(3)	「ひっくり返し」の検討
第 13 回	第 2 章「状況のおかしさ」(4)	「交叉」の検討
第 14 回	総括	春学期ゼミの総括の討論を行います

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	導入	ベルクソンの人と思想の再説と秋学期ゼミの流れの確認
第 16 回	第 2 章「言葉のおかしさ」(1)	「機智的なもの」の検討
第 17 回	第 2 章「言葉のおかしさ」(2)	「滑稽なもの」の検討
第 18 回	第 2 章「言葉のおかしさ」(3)	「不条理なもの」の検討
第 19 回	第 2 章「言葉のおかしさ」(4)	「移調」の検討
第 20 回	第 3 章「性格のおかしさ」(1)	「非社交性」の検討
第 21 回	第 3 章「性格のおかしさ」(2)	「一般的なもの」の検討
第 22 回	第 3 章「性格のおかしさ」(3)	「芸術とシンボル」の検討
第 23 回	第 3 章「性格のおかしさ」(4)	「芸術と個性」の検討
第 24 回	第 3 章「性格のおかしさ」(5)	「芸術と真摯さ」の検討
第 25 回	第 3 章「性格のおかしさ」(6)	「喜劇とドラマ（悲劇）」の検討
第 26 回	第 3 章「性格のおかしさ」(7)	「虚栄心」の検討
第 27 回	第 3 章「性格のおかしさ」(8)	「職業と分業」の検討
第 28 回	総括	秋学期ゼミの総括の討論を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

—毎回、当該箇所のテキストの検討を行って授業に参加します。

—毎回、授業後に次回授業時に提出する、リアクション・ペーパーを作成します。

—学期に数回、発表レジュメを作成してレポーター役を果たします。

—学年末にまとめのレポートを作成します。

【テキスト（教科書）】

ベルクソン『笑い』（増田靖彦訳、光文社古典新訳文庫）

※読みやすい新訳です。

【参考書】

久米・中田・安孫子（編）『ベルクソン読本』（法政大学出版局）

平井・藤田・安孫子（編）『ベルクソン「物質と記憶」を解剖する』（書肆心水）

平井・藤田・安孫子（編）『ベルクソン「物質と記憶」を診断する』（書肆心水）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レジュメ発表 30 %、まとめのレポート 30 % で評価します。到達目標の達成度との関係で言えば、各評価方法で、閉塞の問題への気づき 35 %、喜劇の力の理解 35 %、悲劇の力の理解で 30 % といった割合で勘案を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業ではできるだけ皆さんの日常に近い場所で考えてもらえるように努めます。

哲学演習（2）

金子 佳司

授業コード：A2231
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プラトンの「ソクラテスの弁明」「クリトン」「ゴルギアス」を読解し、その理解を踏まえ、また、岩田靖夫『ソクラテス』における議論を導きの糸としながら、ソクラテス哲学の問題点を検討する。

【到達目標】

ソクラテス哲学にどのような問題点があるのか、また、それぞれの問題点に関してどのような解釈があるのかを知り、そのうえで、それらの問題点に関して、学生諸君が自分なりの解釈を持つことがこの授業の目標である。

【授業の進め方と方法】

プラトンの「ソクラテスの弁明」「クリトン」「ゴルギアス」を講読した上で、岩田靖夫『ソクラテス』で取り上げられている論点を発表してもらう。そして、講読や発表の際には、学生相互での議論も行なう。また、必要に応じて教員による説明も交える。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業計画の説明 ソクラテスを知るための資料の問題	ソクラテスを知るためにはどんな資料があり、それらの資料からどんなソクラテス像が浮かび上がるかを検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 1 章)
第 2 回	ソクラテスの生涯	ソクラテスの生涯を知る。特に、彼の人生の後半生の時代のアテナイの政治状況を知る。(岩田靖夫『ソクラテス』第 2 章)
第 3 回	プラトン『ソクラテスの弁明』(第 1 章～第 7 章)	古くからの非難に対するソクラテスの弁明の内容を知る。 予習レポート No.1 提出
第 4 回	プラトン『ソクラテスの弁明』(第 8 章～第 15 章)	正式な告訴に対するソクラテスの弁明の内容を知る。
第 5 回	プラトン『ソクラテスの弁明』(第 16 章～第 24 章)	ソクラテスの生き方そのものに対する弁明の内容を知る。
第 6 回	プラトン『ソクラテスの弁明』(第 25 章～第 33 章)	有罪判決が下った後のソクラテスの弁論の内容を知る。
第 7 回	プラトン『クリトン』(第 1 章～第 9 章)	クリトンによる脱獄の勧告と、それに対するソクラテスの応答の内容を知る。 予習レポート No.2 提出
第 8 回	プラトン『クリトン』(第 10 章～第 17 章)	擬人化された国法と国民（市民）ソクラテスとの架空対話の内容を検討する。
第 9 回	プラトン『ゴルギアス』(第 1 章～第 7 章)	弁論術とは何であるかという問いに対するゴルギアスの答えを確認する。 予習レポート No.3 提出
第 10 回	プラトン『ゴルギアス』(第 8 章～第 15 章)	ゴルギアスの考える弁論術による説得がどのようなものであるかを確認する。
第 11 回	プラトン『ゴルギアス』(第 16 章～第 24 章)	弁論術とは何であるかという問いに対するソクラテスの答えを確認する。
第 12 回	プラトン『ゴルギアス』(第 25 章～第 31 章)	不正を犯しながら幸福な人間はいるかという問題に関する議論を検討する。
第 13 回	プラトン『ゴルギアス』(第 32 章～第 36 章)	不正を犯した場合、罰を受けるのと受けないのとではどちらが大きな災厄かという問題に関する議論を検討する。
第 14 回	プラトン『ゴルギアス』(第 37 章～第 43 章)	カリクレスの主張する自然本来の正義に関する議論を検討する。 予習レポート No.4 提出

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	プラトン『ゴルギアス』(第 44 章～第 49 章)	優れた人間は自己の欲望を支配するの かという問題に関する議論を検討する。 課題レポート No.1 提出
第 16 回	プラトン『ゴルギアス』(第 50 章～第 54 章)	すべての快楽は善いものであり、快楽を感じれば幸福である、と言えるのかという問題に関する議論を検討する。
第 17 回	プラトン『ゴルギアス』(第 55 章～第 61 章)	快楽と善の関係に関する議論を検討する。
第 18 回	プラトン『ゴルギアス』(第 62 章～第 69 章)	不正を加えることと不正を受けることの利害に関する議論を検討する。
第 19 回	プラトン『ゴルギアス』(第 70 章～第 75 章)	真の政治家とは何か、真の政治とは何かという問題に関する議論を検討する。
第 20 回	プラトン『ゴルギアス』(第 76 章～第 83 章)	正しい者と不正な者に関する物語（ミュートス）の意味を検討する。
第 21 回	反駁的対話について	ソクラテスの哲学的吟味の方法が反駁的対話（エレンコス）であることを学ぶ。(岩田靖夫『ソクラテス』第 3 章)

第 22 回	反駁的対話の論理構造について	ソクラテスの反駁的対話（エレンコス）がどのような論理構造を持つものであるかを学ぶ。(岩田靖夫『ソクラテス』第 4 章)
第 23 回	無知について	ソクラテスにおける無知と知の関係に関する議論を検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 5 章)
第 24 回	イロニーについて	ソクラテスがなぜイロニー（エイロネイア）を駆使するのかを検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 6 章)
第 25 回	正義について	プラトン「クリトン」をもとにしながら、正義とは何かという問題を検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 7 章)
第 26 回	ダイモニオンについて	ソクラテスの哲学においてダイモニオン（ダイモンからの合図）がどのように位置づけられるのかという問題を検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 8 章)
第 27 回	死と希望について	ソクラテスの哲学において死がどのように位置づけられるのかという問題を検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 9 章)
第 28 回	幸福について	ソクラテス哲学を踏まえて、幸福とは何かという問題を検討する。ソクラテスの哲学においてダイモニオン（ダイモンからの合図）がどのように位置づけられるのかという問題を検討する。(岩田靖夫『ソクラテス』第 10 章)

課題レポート No.2 提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、教科書の予定の範囲をあらかじめ読んでおくこと。
予習したことを確認するための「予習レポート」を提出すること（4 回）。
授業の内容の理解を確認するための「課題レポート」を提出すること（夏休み明けと学年末の 2 回）。

【テキスト（教科書）】

中公クラシックス『プラトン「ソクラテスの弁明」ほか』（中央公論新社）
岩田靖夫『増補・ソクラテス』（ちくま学芸文庫／筑摩書房）

【参考書】

加来彰俊『ソクラテスはなぜ死んだのか』（岩波書店）
田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書／岩波書店）
その他の文献は、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】の欄に記した「達成目標」の達成度を次の方法で確認し、評価します。

予習レポート（4 回）（20 %）、担当範囲の発表（10 %）、授業中の議論への参加の積極性的確性（20 %）、課題レポート（2 回）（50 %）で評価します。
なお、無断欠席は減点します（1 回につきマイナス 2 点）が、やむを得ず欠席する場合には、口頭ではなく必ず書面で報告してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

哲学演習（3）

菅沢 龍文

授業コード：A2232

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カントの『実践理性批判』を読む

【概要】人間の心の奥深くには善悪を見極める良心があると考えられる。その良心の源泉であるとカントが考える純粋実践理性について、テキストに沿って考究する。

【目的・意義】人間は自由であること、および徳と幸福について深く考える。

【到達目標】

今年度は、『実践理性批判』の分析論および弁証論の読解により、人間の道徳的な心の働き、善悪の概念、道徳感情についての理解を深める。また、次の能力を高めることを目標とする。

【読解力・理解力】テキストや他人の発言を正しく理解して、考察できる。

【思考力・推定力】主要な問題を発見して、問題を論理的に考え、解決できる。

【文章力・表現力】分かりやすい文章でレポートし、質疑応答で相手を説得できる。

【授業の進め方と方法】

カントの『実践理性批判』を第1編「分析論」の第3章「動機論」の最後を終えて第4章「批判的解明」（自由論）を読み、第2編「弁証論」の前半（道徳的幸福論）を読む。演習では毎回の提出課題となる確認プリントがある。これへのレスポンスが次の復習となる。そして、受講者が交替で毎回の内容について整理や考察をしてレポートする。そのレポートについて疑問や意見を出し合うことで、理解を深める。なお、学生にとって難解な箇所については解説する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 授業紹介 (2) カントの道徳思想と『実践理性批判』
第2回	『実践理性批判』の「動機論」について	107-124 段落
第3回	道徳的狂信について	125-127 段落
第4回	人格における人間性	128-129 段落
第5回	人格性の理念	130-131 段落
第6回	理論理性と実践理性	132-133 段落
第7回	『純粋理性批判』の「分析論」との比較	134-135 段落
第8回	幸福論と道徳論	136-137 段落
第9回	自由の可能性	138 段落
第10回	自由と自然必然性	139-140 段落
第11回	自由の比較的概念	141 段落
第12回	自然の機構と自由との矛盾の解消	142 段落
第13回	良心	143 段落
第14回	神の決定という困難の提示	144-145 段落

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	先の困難の解消	146-148 段落
第16回	自由のアンチノミーの解決	149 段落途中（テキスト 262 頁 4 行目）まで
第17回	道徳性の原則	149 段落途中（テキスト 261 頁 4 行目）から
第18回	(1) 一つの純粋理性 (2) 弁証論	150-151 段落
第19回	最高善	152-153 段落
第20回	最高善と道徳法則	154-156 段落
第21回	(1) 最高という概念 (2) 徳と幸福の結合	157-158 段落
第22回	エピクロス学派とストア学派	159-161 段落
第23回	実践理性の二律背反	162-163 段落
第24回	最高善の実践的可能性	164-166 段落
第25回	エピクロス学派とストア学派——最高善の可能性をめぐって	167 段落
第26回	感性的衝動と道徳的動機	168 段落
第27回	自己の安らぎ	169 段落
第28回	安らぎと幸福	170-171 段落

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外にすべきこと

- (1) 前回の箇所を復習しておく。
- (2) 今回の箇所を読んで、分からない所を把握して、できるだけ調べておく。
- (3) 関連文献を読む。

【テキスト（教科書）】

カント『訳注 実践理性批判』宇都宮芳明訳（以文社）

※出版社で在庫切れのため、当該箇所をプリントして配布します。

【参考書】

- (1) カント『人倫の形而上学の基礎づけ』（『道徳形而上学の基礎づけ』）※これは諸訳が存在するので、ゼミで紹介する。
- (2) カント『実践理性批判』の諸訳書
※諸々の訳書についてはゼミで紹介する。
- (3) 高峯一愚『カント実践理性批判解説』（論創社）
※これは絶版なので図書館等を活用してください。
- (4) 『カント事典』（弘文堂）※現在は縮刷版が出ています。
- (5) 中島義道『悪への自由 カント倫理学の深層文法』（勁草書房）
その他、ゼミで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 参加の姿勢、および毎回の提出物やレポートなどで確認された到達目標達成度
- (2) 夏と学年末のレポートにより確認された到達目標達成度
- (1) を 70 %、(2) を 30 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声でゆっくりと分かりやすく話すように心がけます。

【その他の重要事項】

カント哲学をこれから詳しく学ぼうという学生にもよく分かるように解説する。

哲学演習（４）

酒井 健

授業コード：A2233

年間・４単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学と芸術の交わりを考察する。20 世紀フランスにおける哲学のテーマと芸術表現の呼応を感覚と理性の両方で理解する。

【到達目標】

今年度は春学期に 1920-30 年代のフランスにおけるレフ・シュストフの尖端的な神学思想（デカルトとパスカルの神概念を実存的に比較検討した論文『ゲッセマネの夜』）に注目し、これに呼応させるかたちで秋学期にジョルジュ・バタイユの聖性論と芸術論を学んでいく。キリスト教の神概念の新たな展開と、さらに広い宗教観、そして新たな芸術論の視界へ感性と理性を開いて、思索することの楽しさを体感していく。

【授業の進め方と方法】

演習であるので学生の発表が主体をなす。春学期と秋学期の最初に導入として大きな問題点を指摘し、解説する。そのあとは学生の発表が続く。授業の内容を復習して深く理解するために受講者には毎回、授業の内容に関して課題を出し、次回に提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期概要説明	授業の概要説明。シュストフとバタイユの紹介。
第 2 回	シュストフ読解（１）	『ゲッセマネの夜』第 1 章の発表と読解。
第 3 回	シュストフ読解（２）	『ゲッセマネの夜』第 2 章の発表と読解。
第 4 回	シュストフ読解（３）	『ゲッセマネの夜』第 3 章の発表と読解。
第 5 回	シュストフ読解（４）	『ゲッセマネの夜』第 4 章の発表と読解。
第 6 回	シュストフ読解（５）	『ゲッセマネの夜』第 5 章の発表と読解。
第 7 回	シュストフ読解（６）	『ゲッセマネの夜』第 6 章の発表と読解。
第 8 回	シュストフ読解（１）	『ゲッセマネの夜』第 7 章の発表と読解。
第 9 回	シュストフ読解（７）	『ゲッセマネの夜』第 8 章の発表と読解。
第 10 回	シュストフ読解（１）	『ゲッセマネの夜』第 9 章の発表と読解。
第 11 回	シュストフ読解（８）	『ゲッセマネの夜』第 10 章の発表と読解。
第 12 回	シュストフ読解（９）	『ソラ・フィデの哲学』第 1 章「理性と狂気」の発表と読解。
第 13 回	シュストフ読解（10）	『ソラ・フィデの哲学』第 2 章「真理の支配と常識の滅亡」の発表と読解。
第 14 回	まとめ、試験	春学期の授業内容を復習するために論述試験を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期概要説明	バタイユの宗教観と芸術論の紹介。とくに十字架上のイエスをめぐる彼の考察を中心に。
第 16 回	バタイユの芸術論（１）	『ランスの大聖堂』の発表と読解第 1 回
第 17 回	バタイユの芸術論（２）	『ランスの大聖堂』の発表と読解第 2 回
第 18 回	バタイユの芸術論（３）	論文「聖なるもの」の発表と読解第 1 回
第 19 回	バタイユの芸術論（４）	論文「聖なるもの」の発表と読解第 2 回

第 20 回	バタイユの芸術論（５）	論文「アカデミックな馬」の発表と読解第 1 回
第 21 回	バタイユの芸術論（６）	論文「アカデミックな馬」の発表と読解第 2 回
第 22 回	バタイユの芸術論（７）	論文「プロメテウスとしてのファン・ゴッホ」の発表と読解
第 23 回	バタイユの芸術論（８）	ゴヤ論の発表と読解第 1 回
第 24 回	バタイユの芸術論（９）	ゴヤ論の発表と読解第 2 回
第 25 回	バタイユの芸術論（10）	「芸術、残虐の実践としての」の発表と読解第 1 回
第 26 回	バタイユの芸術論（11）	「芸術、残虐の実践としての」の発表と読解第 2 回
第 27 回	バタイユの芸術論（12）	「芸術、残虐の実践としての」の発表と読解第 3 回
第 28 回	まとめ、試験	秋学期の授業内容を復習するために論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に沿って課題を出し、論述の宿題を課す。起承転結の展開が明瞭に見える論理的な記述の訓練を積む。

【テキスト（教科書）】

授業の際にコピーにて配布の予定。

【参考書】

①シュストフ『悲劇の哲学』近田友一訳、現代思潮社、②シュストフ『ソラ・フィデの哲学』植野修司・天野和男共訳、雄渾社、③デュルケム『宗教生活の原初形態』（上・下）、古野清人訳、岩波文庫、④『言語と文化』第 9 号別冊（『ドキュマン』特集、法政大学言語・文化センター紀要、2012 年 3 月発行）⑤江澤健一郎『ジョルジュ・バタイユの“不定形”の美学』水声社、⑥酒井健『若きバタイユとシュストフの教えー「星の友情」の軌跡』『言語と文化』第 15 号（2018 年 1 月発行）

【成績評価の方法と基準】

新たな神学の展開と新たな宗教観、芸術論の展開の対応をどの程度理解しているかに応じて成績評価を行う。具体的には、毎回のレポート（30%）、発表（20%）、期末の論述試験（50%）を総合して成績評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

概ね学生の授業評価は好評であった。慢心することなく、受講生の新たなニーズに応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使って発表レジュメを事前に受講生に公開して、発表での理解を進捗させる。

【その他の重要事項】

「宗教論 2（キリスト教思想史）」の履修が望ましいが履修の必要条件というわけではない。その他、宗教論、芸術論の授業を積極的に履修してほしい。

哲学演習（5）

笠原 賢介

授業コード：A2234
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実な時代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない哲学者ニーチェを取り上げる。代表作『ツァラトゥストラ』を読み、現代的な意義を考えてみたい。

一般に流布されたニーチェについての既成観念を取り払って、ニーチェの言葉に直接耳を傾け、対話してゆくことを目指す。ニーチェの他の作品との関係、現代哲学・思想・芸術への影響、ニーチェの時代のコンテクストにもふれてゆく。

『ツァラトゥストラ』第 1 部のなかで、前年度取り上げなかったいくつかの章を読んだ後、第 2 部と第 3 部を読み進める。それとあわせて『ツァラトゥストラ』の全体像に迫る。

【到達目標】

ニーチェの代表作『ツァラトゥストラ』を読むことで、ニーチェ思想についての理解を深める。一般に流布されたニーチェ像を越えて、ニーチェ思想の現代的な意義、魅力、問題点を各人の目にとらえる。ニーチェの時代のコンテクスト、現代哲学・思想、芸術に与えた影響をとらえる。

【授業の進め方と方法】

『ツァラトゥストラ』の第 1 部のなかのいくつかの章を取り上げた後、第 2 部、第 3 部を読み進める。

テキストはニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』上・下（氷上英廣訳）、岩波文庫を用いる。

毎回、取り上げる範囲と報告者を決めて進めてゆく。報告者は、レジュメを作成し、担当箇所を解さばぐした上で、問題点や疑問点を提起する。討論を通して、内容への理解を深めるという形で進めてゆく。必要に応じて、補いのプリントを配る。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方について。ニーチェについての導入的な話をする。
第 2 回	ニーチェの人間観と自然観	ニーチェについてのイメージを出し合いながら、『ツァラトゥストラ』の主題を考える。以下の進度は、おおよその目安である。
第 3 回	「世界の背後を説く者」（第 1 部）	ニーチェ哲学の基本的な立場をとらえる。
第 4 回	「隣人への愛」（第 1 部）	ニーチェの倫理をとらえる。
第 5 回	「創造者への道」（第 1 部）	「善」、「悪」についてのニーチェの考えをとらえる。
第 6 回	「贈り与える徳」（第 1 部）	第 1 部の最後の章。「創造」についてのニーチェの考えをとらえる。第 1 部の内容をまとめる。
第 7 回	「鏡を持った幼な子」（第 2 部）	第 2 部の始めの章。第 2 部の方向性をとらえる。
第 8 回	「至福の鳥々で」（第 2 部）	「生」についてのニーチェの考えをとらえる。
第 9 回	「毒ぐもタランテラ」（第 2 部）	ニーチェのデモクラシー批判と対話・対決する。
第 10 回	「舞踏の歌」（第 2 部）	「生」と「哲学」の関係についてのニーチェの考えをとらえる。
第 11 回	「墓の歌」（第 2 部）	「時間」についてのニーチェの考えをとらえる。
第 12 回	「自己超克」（第 2 部）	ニーチェの「力への意志」についての考えをとらえる。
第 13 回	ニーチェと芸術（1）	『ツァラトゥストラ』やニーチェを扱った芸術作品を取り上げる。作品はゼミ参加者と話し合って決める。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に取り組んだ内容を振り返り、討論をおこなう。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期の復習と秋学期の展望	春学期レポートの回収。春学期の内容を整理し、秋学期の内容を展望する。
第 16 回	「救済」（第 2 部）	「瞬間」についてのニーチェの思想をとらえる。
第 17 回	「旅びと」（第 3 部）	第 3 部の始めの章。第 3 部と第 1 部、第 2 部とのちがいをとらえる。
第 18 回	「幻影と謎」（第 3 部）（1）	「永遠回帰」をめぐるニーチェの考えをとらえる。
第 19 回	「幻影と謎」（第 3 部）（2）	「永遠回帰」をめぐるニーチェの考えをとらえる。
第 20 回	「日の出前」（第 3 部）	「偶然性」をめぐるニーチェの考えをとらえる。
第 21 回	「三つの悪」（第 3 部）	人間の内部の「自然」、「欲望」についてのニーチェの考えをとらえる。

第 22 回	「重力の魔」（第 3 部）	ニーチェにおける「舞踏」の比喩の意味を捉える。
第 23 回	「古い石の板と新しい石の板」（第 3 部）	「価値の転換」をめぐるニーチェの考えをとらえる。
第 24 回	「快癒に向かう者」（第 3 部）	「永遠回帰」をめぐるニーチェの思想を考える。
第 25 回	「第二の舞踏の歌」（第 3 部）	「生」をめぐるニーチェの考えをとらえる。
第 26 回	「徴」（第 4 部）	全 4 部の『ツァラトゥストラ』の最後の章。『ツァラトゥストラ』全体の方向性をとらえる。
第 27 回	ニーチェと芸術（2）	『ツァラトゥストラ』やニーチェを扱った芸術作品を取り上げる。作品はゼミ参加者と話し合って決める。
第 28 回	秋学期のまとめと全体のまとめ	秋学期に取り組んだ内容を振り返り、春学期の内容と結び付けながら、討論とまとめをおこなう。秋学期レポートの回収。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の担当者は、担当箇所についてプリントを予め作成すること。補いの資料を配布した場合には、それを読んで、ポイントを確認すること。

【テキスト（教科書）】

『ツァラトゥストラはこう言った』上・下（氷上英廣訳）、岩波文庫。

【参考書】

柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。三島憲一他編『ニーチェ事典』、弘文堂。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。小林秀雄『ニイチェ雑感』（『新訂 小林秀雄全集 第 8 巻』）、新潮社。ニーチェ『ツァラトゥストラ』I・II（手塚富雄訳）、中公クラシックス。

【成績評価の方法と基準】

平常点（討論・質疑応答への参加と発表、リアクションペーパー）とレポート（春学期末、秋学期末それぞれ一回）によって、到達目標を基準にして評価する（平常点 50 %、レポート 50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

報告、質疑応答、討論に積極的に参加してほしい。

哲学演習（6）

牧野 英二

授業コード：A2235

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の概要と目的は、現代社会を善く生きるための「人間の条件」の特徴、意義、課題などを学ぶために、ハンナ・アーレント著『人間の条件』と彼女の主要著作を手がかりにして考察することにあります。本年度の授業では、学生は、「行為」「仕事」「労働」の概念に加えて「約束」や「赦し」「愛」などに着目して、アーレントの精神生活の政治哲学的意義を学び、身につけます。

【到達目標】

学生は、人間らしい善き生や活動的生活、アーレント独自の政治思想と自由、行為、言論、合意形成との関係などが理解できることを学習目標とする。授業に出席する際には、報告者として発表内容を具体的に説明できるとともに、毎回、司会者や質問者として、質疑応答を通じて、授業の到達目標の説明や関連付けなどの確認作業ができるようにする。

【授業の進め方と方法】

本講義では、人間らしい生とそのために必要不可欠な「人間の条件」について学びます。日本社会における望ましい「人間の条件とは何か」という課題をアーレントやクリステヴァのアーレント解釈が提起した哲学的課題とともに考察します。この授業は、通年の演習形式で双方向授業を行います。また、問題解決型学習やグループ討論の方法も採用して、受講生相互の理解を確認し同時に深めるよう工夫します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	アーレントの人と思想、その時代の基本的理解	アーレントと生きた時代の理解
第 2 回	精神生活の基本概念	アーレントの政治哲学の把握
第 3 回	クリステヴァのアーレント解釈の基本的理解	クリステヴァのアーレント解釈の理解と課題
第 4 回	赦しと約束の理解	クリステヴァとの関係把握
第 5 回	アーレントにおける自然と技術の思想	アーレントにおける自然と技術、哲学知との関係
第 6 回	西洋哲学における自然と人間との関係	西洋哲学史における自然と人間との関係理解
第 7 回	活動、仕事、芸術との関係	活動、技術と芸術の分化過程の把握
第 8 回	アーレントの人間概念	アーレント独自の人間の理解
第 9 回	ハイデガーとの人間概念の比較	ハイデガーの人間理解との差異とその理由
第 10 回	アーレントにおける人間の条件の考察	人間の条件の多面的考察
第 11 回	アーレントの世界及び仕事の概念	アーレントの政治哲学的考察の特徴
第 12 回	アーレントの科学技術概念	アーレントによる科学概念の政治哲学的考察
第 13 回	ヒューマニズム解釈上の論争点	ヒューマニズム解釈上の論争点の吟味・検討
第 14 回	アーレントの人間観や社会観の意義と制限	春学期の学習内容とその到達点の確認

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期の回顧と秋学期の展望	春学期の学習成果の確認と秋学期の課題との関連
第 16 回	クリステヴァのアーレント解釈の吟味・検討	クリステヴァのアーレント解釈の正確な理解と批判
第 17 回	現代科学とアーレントの思想との関連	現代科学に対する批判と評価の検討
第 18 回	近代の科学・技術とアーレントの労働批判	近代科学とアーレントによる活動との関係
第 19 回	近代の科学・技術とハイデガーの批判	近代科学とハイデガー批判の正確な理解
第 20 回	科学技術とアーレントの活動との関係	科学とアーレントの活動との関係把握
第 21 回	現代科学とアーレントの人間観	先端科学とアーレントの人間観
第 22 回	現代科学とアーレントの政治哲学	アーレントの政治哲学と科学との関係の理解
第 23 回	現代科学とアーレントの技術批判	先端科学とアーレントの技術論
第 24 回	アーレントの自然と労働、仕事、技術の把握	現代の科学技術と人間との関係
第 25 回	アーレントによる活動の意義	現代の科学技術における活動の役割
第 26 回	現代における政治哲学の意義	アーレントの政治概念の把握
第 27 回	現代社会における人間の条件	アーレントにおける人間の条件

第 28 回 アーレントにおける ヒューマニズム観の全体的把握 アーレントの人間観の総合的理解とその到達点の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、報告者の学生だけでなく、それ以外の参加者も、次週の学習範囲の英語またはドイツ語訳を読解し、アーレント、クリステヴァ、ハイデガーやヤスパーズ固有の主要概念や哲学・哲学史上の重要な概念を調べるなど予習して授業に臨む。また、演習終了後学生は、ゼミで議論になった主要論点や解釈の視点を整理して授業内容の理解を深められるよう、次回の授業に備えて復習する。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、Hannah Arendt, The Human Condition, 2.ed. 1998 を使用します。この書物の英語版とドイツ語版のコピーは担当教員が用意します。日本語の訳書は、ハンナ・アーレント著『人間の条件』（志水速雄訳、ちくま学芸文庫、1200 円）、ジュリア・クリステヴァ『ハンナ・アーレント講義』（論創社）を使用します。

【参考書】

主要な参考文献として、川崎修著『アーレント』（講談社）、ホーニグ編『ハンナ・アーレントとフェミニズム』（未来社）、ヴィラ著『アーレントとハイデガー』（法政大学出版局）、牧野英二著『「持続可能性の哲学」への道』（法政大学出版局）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

到達目標の達成度に応じて、次の方法と基準により成績評価を行います。1 年間 3 回のレポート報告（3 回 × 20 点 = 60 点, 60%）、春学期及び秋学期の小テスト（2 回 × 20 点 = 40 点, 40%）が単位認定の条件（合計 60 点, 60% 以上合格、100 点満点）になります。これらにより学習内容の到達目標を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、発表者の報告以外に、予め指名した司会者と質問者を中心に学生全員が議論に参加することで、授業終了までに全員が学習目標の到達点を確認し、理解し説明できるようにする。また、適宜、受講生にリアクションペーパーの提出を求め、それを授業内容及び方法に活用する。

【その他の重要事項】

授業時間外の学生の質問については、シラバス記載の曜日・時間・場所に指定されたオフィスアワーを学生が活用することで、授業での内容理解と到達目的の実現に努め、さらに授業改善に活用する。

哲学演習（7）

星野 勉

授業コード：A2236

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヘーゲルの『法の哲学』第三部「人倫（Sittlichkeit）」の「家族」、「市民社会」の章を読み進めながら、人と人との関係における人間のあり方を学ぶ。こうして、自由な人間のあり方を、抽象的ではなく、具体的な人間関係において考察する。

【到達目標】

- 1）ヘーゲルの著作など、難解な哲学のテキストを読み解くことができる。
- 2）家族や市民社会について哲学的に議論することができる。
- 3）自由や徳の問題についての哲学的考察を深めることができる。

【授業の進め方と方法】

- 1）受講者全員にヘーゲル『法の哲学』の該当箇所を割り当てる。
- 2）担当者はその箇所のレジュメを用意して、授業で発表する。
- 3）それにもとづいて、テキストの解釈について、テキストが投げかける問題について、全員で議論する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『法の哲学』とは？
第 2 回	人倫（倫理）の構造	『法の哲学』第三部「人倫」§142～147
第 3 回	義務と徳について	『法の哲学』第三部「人倫」§148～150
第 4 回	習俗について	『法の哲学』第三部「人倫」§151～153
第 5 回	社会契約説の批判	『法の哲学』第三部「人倫」§154～156
第 6 回	愛の概念について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§158～160
第 7 回	婚姻について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§161～165
第 8 回	一夫一婦制について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§166～169
第 9 回	家族の資産について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§170～172
第 10 回	子どもの教育について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§173～175
第 11 回	子どもの自立について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§176～179
第 12 回	家族の解体について	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§180
第 13 回	家族から市民社会への移行	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」§181
第 14 回	ヘーゲルの「家族」論	『法の哲学』第三部「人倫」第一章「家族」についてのとりまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	市民社会とは？	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§182～183
第 16 回	市民社会の二つの原理について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§184
第 17 回	特殊性の優位について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§185
第 18 回	人倫の喪失態について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§186
第 19 回	教養について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§187
第 20 回	欲求の体系と経済学について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§188～189
第 21 回	欲求とは？	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§190～193
第 22 回	欲求充足の仕方について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§194～195
第 23 回	労働について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§196～197
第 24 回	労働の機械化について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§198
第 25 回	相互依存の体系について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§199
第 26 回	普遍的資産について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§200
第 27 回	市民社会の階層構造について	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」§201～208
第 28 回	ヘーゲルの「市民社会」論	『法の哲学』第三部「人倫」第二章「市民社会」についてのとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：テキストの該当箇所を精読し、論点を整理しておく。

担当者は発表用にレジュメを用意する。

事後学習：授業で明らかになった論点を自分の言葉で取りまとめる。

【テキスト（教科書）】

◇ヘーゲル『法の哲学Ⅱ』、藤野渉・赤沢正敏訳、中公クラシックス、2001 年

【参考書】

1）ヘーゲル『法哲学講義』長谷川宏訳、作品社、2000 年

2）上妻精、小林靖昌、高柳良治『ヘーゲル法の哲学』有斐閣新書、1980 年

3）R.B. ビビン『ヘーゲルの実践哲学』星野勉監訳、法政大学出版局、2013 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標を達成しているかどうかを、期末レポート（60 %）、平常の報告・議論・リアクションペーパーなど（40 %）によりながら、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を全員参加の議論の場としたい。

哲学演習（8）

安東 祐希

授業コード：A2237

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゲーム理論について学ぶ。利害が影響し合う関係において、どのような考え方に基づいて意思決定をするべきか考察し、数学を用いて分析する。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

・「最適な戦略」における最適とは？ その数理的表現は？

・利害が対立する中、協力は可能か？ その数理的表現は？

具体例として、良く知られている「囚人のジレンマ」を以下に挙げる。

～～～

共犯の容疑者である A と B の二人が捕まり、別々に取り調べを受けている。各容疑者の選択肢は自白か黙秘のどちらかである。ここで、もし二人とも自白すればどちらも刑期 5 年であるが、一人が自白してもう一人が黙秘すれば、自白した者は刑期が 1 年に軽減され、黙秘した者は逆に刑期 10 年と重くなる。一方、もし二人とも黙秘を貫いた場合は証拠不十分でどちらも刑期 2 年にとどまる。このとき、容疑者たちはどうすべきであろうか。A は考える。B が自白した場合、自分も自白すれば 5 年だが黙秘すれば 10 年。B が黙秘した場合、自分が自白すれば 1 年だが黙秘すれば 2 年。つまり B の自白と黙秘、いずれにせよ A としては自白したほうが刑期が短くて済む。この考えは B の立場でも同様に成り立つから、A と B がそれぞれ自分の選択肢の範囲で利益を追求すれば、二人はどちらも自白を選ぶことになり、両者ともに刑期 5 年。これは最適な戦略といえるだろうか。二人とも黙秘していれば刑期 2 年だったはずなのだが…。

【授業の進め方と方法】

教科書に従い、例題を用いて演習を行う。また、授業はゼミ形式、すなわち参加者が分担箇所を決めて各々発表し、それに対して質疑応答することにより進められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	考えたいこと	概要説明
第 2 回	ゲーム理論とは何だろうか？	教科書第 1 章
第 3 回	選択と意思決定	教科書第 2 章
第 4 回	戦略ゲーム	教科書第 3 章
第 5 回	最適応答	教科書第 4 章第 1 節
第 6 回	ナッシュ均衡点とは？	教科書第 4 章第 2 節
第 7 回	均衡点の 2 つの考え方	教科書第 4 章第 3 節
第 8 回	均衡点の計算方法	教科書第 4 章第 4 節
第 9 回	支配戦略とマックスミニ戦略	教科書第 4 章第 5 節
第 10 回	囚人のジレンマ	教科書第 5 章第 1 節
第 11 回	個人合理性	教科書第 5 章第 2 節
第 12 回	集団合理性	教科書第 5 章第 3 節
第 13 回	ナッシュ均衡点とパレート最適性	教科書第 5 章第 4 節
第 14 回	協調と協力	教科書第 5 章第 5 節

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ゲームの木	教科書第 6 章第 1 節
第 16 回	先読み推論	教科書第 6 章第 2 節
第 17 回	ゲームの情報構造	教科書第 6 章第 3 節
第 18 回	展開形ゲームの戦略の概念	教科書第 6 章第 4 節
第 19 回	部分ゲーム完全均衡点	教科書第 6 章第 5 節
第 20 回	繰り返し囚人のジレンマ	教科書第 7 章第 1 節
第 21 回	フォーク定理	教科書第 7 章第 2 節
第 22 回	利己的動機と利他的動機	教科書第 7 章第 3 節
第 23 回	不完全情報とシグナル	教科書第 7 章第 4 節
第 24 回	不確実な相手とのゲーム	教科書第 8 章
第 25 回	交渉ゲーム	教科書第 9 章
第 26 回	グループ形成と利得分配	教科書第 10 章
第 27 回	進化ゲーム	教科書第 11 章
第 28 回	ゲーム実験	教科書第 12 章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の問題について、紙に書きながら試行錯誤して解を自ら導くことを目指し、十分な演習を行うこと。また、発表に際しては、内容を整理して、説明する項目の取捨選択を含めて準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門【新版】人間社会の理解のために』（有斐閣アルマ）2014 年

【参考書】

ウィリアム・パウンドストーン『囚人のジレンマ フォン・ノイマンとゲームの理論』（青土社）1995 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容（60％）において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による主体的な問題提示の機会がさらに増えるよう、工夫したい。

哲学演習（9）

中釜 浩一

授業コード：A2238

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代哲学の中心テーマである「心の哲学」について、心の存在、心の機能、脳と心、意識と無意識、自己等に関する現代の議論を検討し、「果たして心は存在するのか、存在するとしたらどのように存在するのか」を考える。

【到達目標】

ジョン・サール「マインド／心の哲学」をテキストとして、現代の種々の議論を検討し、学生間のディスカッションを通して「心」に対する理解を深めるとともに、哲学的議論の方法に熟達する。

【授業の進め方と方法】

テキストの各章に関し、担当学生による発表、反論、討論を行う。毎回コメントペーパーを課する

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第 2 回	第一章 心の哲学が抱える十二の問題（1）	学生による発表・反論・討論
第 3 回	第一章 心の哲学が抱える十二の問題（2）	学生による発表・反論・討論
第 4 回	第二章 唯物論への転回（1）	学生による発表・反論・討論
第 5 回	第二章 唯物論への転回（1）	学生による発表・反論・討論
第 6 回	第三章 唯物論への反論（1）	学生による発表・反論・討論
第 7 回	第三章 唯物論への反論（2）	学生による発表・反論・討論
第 8 回	第四章 意識と心身問題（1）	学生による発表・反論・討論
第 9 回	第四章 意識の心身問題（2）	学生による発表・反論・討論
第 10 回	第五章 意識の構造と神経生物学（1）	学生による発表・反論・討論
第 11 回	第五章 意識の構造と神経生物学（2）	学生による発表・反論・討論
第 12 回	第六章 志向性（1）	学生による発表・反論・討論
第 13 回	第六章 志向性（2）	学生による発表・反論・討論
第 14 回	ここまでのまとめ	教員によるまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後半の問題	教員による解説
第 16 回	第七章 心的因果（1）	学生による発表・反論・討論
第 17 回	第七章 心的因果（2）	学生による発表・反論・討論
第 18 回	第八章 自由意志（1）	学生による発表・反論・討論
第 19 回	第八章 自由意志（2）	学生による発表・反論・討論
第 20 回	第八章 自由意志（3）	学生による発表・反論・討論
第 21 回	第九章 無意識と行動（1）	学生による発表・反論・討論
第 22 回	第十章 無意識と行動（2）	学生による発表・反論・討論
第 23 回	第十章 知覚（1）	学生による発表・反論・討論
第 24 回	第十章 知覚（2）	学生による発表・反論・討論
第 25 回	第十一章 自己（1）	学生による発表・反論・討論
第 26 回	第十一章 自己（2）	学生による発表・反論・討論
第 27 回	第十一章 自己（3）	学生による発表・反論・討論
第 28 回	全体のまとめとディスカッション	学生によるフリーディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者とコメントータは分担部分に関するレジュメを作成する
司会者は発表者・コメントータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。
他のものは毎回のテキストを精読し、各自質問を用意しておく。

【テキスト（教科書）】

ジョン・サール「マインド・心の哲学」（朝日出版社）

【参考書】

トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（勁草書房）

ティム・クレイン「心は機械で作れるか」（勁草書房）など。

【成績評価の方法と基準】

心の哲学の諸問題の理解（授業内の発表と討論への参加）：85%

心に関する自らの哲学的立場の展開（期末レポート）：15%

【学生の意見等からの気づき】

司会・発表者・代表反論者以外の者がより多く議論に加わるように工夫する。

哲学演習（10）

山口 誠一

授業コード：A2239

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェの哲学魂を揺さぶったワーグナーの楽劇から、ニーチェのデビュー作『悲劇の誕生—あるいはギリシア精神とペシミズム』の世界へ案内します。さらにその世界のヘーゲル弁証法的側面へのスリリングな地下通路を踏み歩くことにします。

【到達目標】

ニーチェのヘーゲルの文章を正確に読み解いて卒業論文にしたりできます。また、学生はゼミレポートでは、プレゼンテーションスキルで難解な内容をわかりやすい言葉や概念図にして説明できます。映像から思想を読み取ることによって、基礎科目や総合科目で身に着けた映像哲学を発展させることにします。

【授業の進め方と方法】

現代日本でもっともよく親しまれているニーチェの原型を、ディオニュソスのなものとアポロンのなものの弁証法的関係に求めます。そのために『悲劇の誕生』を最初から関連資料も使用しながら精読します。ニーチェ関連映画やヘーゲルとニーチェ共通のルーツであるギリシア悲劇も鑑賞します。ゼミレポートや配布資料は、DVDに収録して卒論作成に使用できるようにします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミオリエンテーション	スライドショー形式によるビジュアルで詳細なゼミ紹介
第 2 回	映画『ワーグナーとコジマ』	哲学者ニーチェと音楽家ワーグナーとの思想的交流
第 3 回	弁証法的ニーチェについて	ヤスバース、ギース、ドゥルーズのニーチェ論紹介
第 4 回	晩期ニーチェの『悲劇の誕生』批判	『悲劇の誕生』「或る自己批判の試み」前半部の検討
第 5 回	晩期ニーチェのディオニュソス哲学	『悲劇の誕生』「或る自己批判の試み」後半部の検討
第 6 回	ディオニュソスのなものとアポロンのなもの	『悲劇の誕生』第 1 節前部の検討
第 7 回	アポロンの夢とディオニュソスの陶醉	『悲劇の誕生』第 1 節中間部の検討
第 8 回	ディオニュソス音楽「歓喜の歌」	『悲劇の誕生』第 1 節後部の検討
第 9 回	『悲劇の誕生』の弁証法哲学	関連資料「ドイツ近代哲学史におけるディオニュソス神話」前半部の検討
第 10 回	『悲劇の誕生』の弁証法(2)	関連資料「ドイツ近代哲学史におけるディオニュソス神話」後半部の検討
第 11 回	『曙光』序説について	ニーチェの自己否定の論理の検討
第 12 回	ヘーゲル弁証法について	矛盾の論理
第 13 回	意識経験の弁証法	『精神現象学』緒論の検討
第 14 回	前期のまとめ	19 世紀哲学史におけるニーチェの位置

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	根源一者としてのディオニュソス	『悲劇の誕生』第 4 節後半の検討
第 16 回	エマソンからニーチェへ到る新プラトン主義	エマソン「大霊」の検討
第 17 回	ディオニュソス文化の先駆者抒情詩人について	『悲劇の誕生』第 4 節前半の検討
第 18 回	審美的現象としての存在世界	『悲劇の誕生』第 4 節後半の検討
第 19 回	ニーチェの仮象論	関連資料「仮象—深さからして表面的」の検討
第 20 回	言語のリズムと意味	関連資料「創造的言語としての音声形象」の検討
第 21 回	ソフォクレスのギリシア悲劇	『悲劇の誕生』第 9 節前半の検討
第 22 回	アイスキュロスのギリシア悲劇	『悲劇の誕生』第 9 節後半の検討
第 23 回	ギリシア悲劇のディオニュソスの本質	『悲劇の誕生』第 10 節の検討
第 24 回	ギリシア悲劇の没落	『悲劇の誕生』第 10 節の検討
第 25 回	ギリシア悲劇とソクラテス	『悲劇の誕生』第 11 節の検討
第 26 回	ギリシア悲劇の現代的再生 (1)	『悲劇の誕生』第 21 節前半の検討
第 27 回	ギリシア悲劇の現代的再生 (2)	『悲劇の誕生』第 21 節後半の検討
第 28 回	ワーグナー楽劇の弁証法	ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』第 3 幕の鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で扱うテキストを事前に精読し、疑問点を明確にしておいてください。映像教材の場合には、該当作品をなるべく事前に鑑賞しておいてください。

【テキスト（教科書）】

主要テキストとしては、ニーチェ講読には、ニーチェ『悲劇の誕生』（塩屋竹男訳、ちくま学芸文庫）を用います。ドイツ語原典やそれ以外の参考文献やデジタルメディアは、その都度こちらで用意します。

【参考書】

K. ヤスパース『ニーチェ（上）（下）』（『ヤスパース選集』第18巻・第19巻）、草薙正夫訳、理想社、1966年

L. ギース『ニーチェ—実存主義と力への意志—』、樫山欽一郎・川原栄峰訳、理想社、1950年

廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』、平凡社ライブラリー

山口誠一著『ニーチェとヘーゲル』、法政大学出版局、

2010年

【成績評価の方法と基準】

原則として、テキストと映像の理解度（40%）と、夏期休暇課題レポート（30%）とゼミでのプレゼンテーション発表（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

映像と概念図などによるわかりやすさと哲学テキストの読みの深さを調和させてゆくことを心がけたいと思います。

哲学演習（11）**内藤 淳**

授業コード：A2240

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植原亮『自然主義入門』（勁草書房、2017年）を精読する。自然主義とは、人間やその心がどのようなもの「である」かに関する科学的知見を活用して、人間のあり方や道徳を考えようとする哲学的な立場で、いわば「科学に基づく哲学」を目指す考え方である。心理学を中心とした現代科学の知見に基づいてその立場を解説した同書を精読することで、人間に関する新しい科学的知見を習得すると共に、人間やその社会についての見方、考え方を広げることが授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 心理学や脳科学など、人間やその「心」に関する科学的な研究に基づく知見を身に付ける。
- (2) そうした知識を踏まえて人間やその社会のあり方に関して、自分なりの見方や意見を持てるようになる。
- (3) 専門的な説明文章を読んで適切に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
- (4) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

毎回あらかじめ報告者と応答者、小論担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。

なお、ここでの内容は、人間やその心理、道徳や社会に関する哲学的・科学的な検討がねらいであって、政治的主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・やり方の説明
第2回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第3回	『自然主義入門』講読	第1章「自然主義の輪郭」1、2、3
第4回	『自然主義入門』講読	第1章「自然主義の輪郭」4
第5回	『自然主義入門』講読	第2章「道徳と言語のネイティヴィズム」1
第6回	『自然主義入門』講読	第2章「道徳と言語のネイティヴィズム」2、3、4
第7回	『自然主義入門』講読	第3章「味わう道徳、学ぶ道徳」1
第8回	『自然主義入門』講読	第3章「味わう道徳、学ぶ道徳」2
第9回	『自然主義入門』講読	第3章「味わう道徳、学ぶ道徳」3、4
第10回	『自然主義入門』講読	第4章「生得的な心は科学する」1
第11回	『自然主義入門』講読	第4章「生得的な心は科学する」2
第12回	『自然主義入門』講読	第4章「生得的な心は科学する」3
第13回	『自然主義入門』講読	第4章「生得的な心は科学する」4
第14回	『自然主義入門』講読	第1～4章の総括

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	『自然主義入門』講読	第5章「経験主義の逆襲」1
第16回	『自然主義入門』講読	第5章「経験主義の逆襲」2、3
第17回	『自然主義入門』講読	第5章「経験主義の逆襲」4
第18回	『自然主義入門』講読	第6章「ふたつの心とサイボーグ」1、2
第19回	『自然主義入門』講読	第6章「ふたつの心とサイボーグ」3、4
第20回	『自然主義入門』講読	第7章「善き生・工学・道徳的進歩」1
第21回	『自然主義入門』講読	第7章「善き生・工学・道徳的進歩」2
第22回	『自然主義入門』講読	第7章「善き生・工学・道徳的進歩」3、4
第23回	『自然主義入門』講読	第8章「疑いとア・プリオリ」1
第24回	『自然主義入門』講読	第8章「疑いとア・プリオリ」2
第25回	『自然主義入門』講読	第8章「疑いとア・プリオリ」3、4
第26回	『自然主義入門』講読	第9章「自然化する哲学」1
第27回	『自然主義入門』講読	第9章「自然化する哲学」2
第28回	『自然主義入門』講読	第9章「自然化する哲学」3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。小論担当者は、担当箇所について自分の考えを論じた小論文を書く。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。

【テキスト（教科書）】

植原亮『自然主義入門』（勁草書房、2017 年）

【参考書】

金杉武司『心の哲学入門』（勁草書房、2004 年）

金井良太『脳に刻まれたモラル』（岩波書店、2013 年）

バトリシア・S・チャーチランド『脳がつくる倫理』（化学同人、2013 年）

中尾央『人間進化の科学哲学』（名古屋大学出版会、2015 年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①担当回の報告・コメント内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した (1)～(4) の達成度を評価する。①②の点数を基礎に、③の内容に応じて 0～30 % 程度の範囲で加点・減点して成績を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

科学哲学 1

中 釜 浩一

授業コード：A2241

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相論理と哲学（1）

【到達目標】

様相論理学の基本的概念、証明のテクニックを学び、論理学と哲学的議論との関連の理解を深める。（1）では通常の命題論理 P C と基本的様相体系 K とを扱う。

【授業の進め方と方法】

P C と K に関する基本的概念を説明する。タブロー法による証明の方法に習熟するため、多数の練習問題を解く。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と様相論理	通常の論理と様相論理の違い
第 2 回	命題論理とタブロー法（その 1）	命題論理の形式化
第 3 回	命題論理とタブロー法（その 2）	論証の妥当性に関するタブロー法による解法の説明（その 1）
第 4 回	命題論理とタブロー法（その 3）	論証の妥当性に関するタブロー法による解法の説明（その 2）
第 5 回	体系 K（その 1）	体系 K の基本概念の説明
第 6 回	体系 K（その 2）	体系 K のモデル
第 7 回	体系 K（その 3）	タブロー法の K への拡張（その 1）
第 8 回	体系 K（その 4）	タブロー法の K への拡張（その 2）
第 9 回	P C と K に関する練習問題とその解説	練習問題と解説
第 10 回	体系 T（その 1）	体系 T の基本概念の説明
第 11 回	体系 T（その 2）	体系 T のモデル
第 12 回	体系 T（その 3）	体系 T へのタブロー法の拡張（その 1）
第 13 回	体系 T（その 4）	体系 T へのタブロー法の拡張（その 2）
第 14 回	T に関する練習問題とその解説	T に関する練習問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を自分で解く。
論理学概論程度の内容を理解しておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）

中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】

タブロー法と様相概念の理解（授業時の練習問題の回答）：50 %
タブロー法の習熟と問題解答能力（期末の試験）50 %

【学生の意見等からの気づき】

現行の方式で効果が得られている。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 と合わせて、様相論理を一通り理解することになるので、科学哲学 2 を合わせて受講することを強く勧める。

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相論理と哲学（2）

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とし、タブローの方法を様相論理の体系S4、S5まで拡張する。さらに時制論理等についての同様の取り扱いを習得する。

【授業の進め方と方法】

S4とS5に関する基本的概念を説明し、タブロー法による証明の方法に習熟するため、多数の練習問題を解く。さらに同様の方法が時制論理に拡張できることを説明する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	体系K、T、およびタブロー法に関する復習	科学哲学Iの内容の復習
第2回	体系S4（その1）	体系S4の概念の説明
第3回	体系S4（その2）	S4のモデル
第4回	体系S4（その3）	タブロー法のS4への拡張（その1）
第5回	体系S4（その4）	タブロー法のS4への拡張（その2）
第6回	体系S5（その1）	体系S5の概念の説明
第7回	体系S5（その2）	S5のモデル
第8回	体系S5（その3）	タブロー法のS5への拡張（その1）
第9回	体系S5（その4）	タブロー法のS5への拡張（その2）
第10回	練習問題の解答と解説	練習問題の解答と解説
第11回	時制論理（その1）	様相論理と時制論理
第12回	時制論理（その2）	体系Ktとタブロー法
第13回	時制論理（その3）	体系Kt4とタブロー法
第14回	時制論理（その4）	体系Ctとタブロー法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を自分で解く。
論理学概論・科学哲学1の内容を理解しておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（粹出版）

【成績評価の方法と基準】

高度な様相概念とそれを用いた論証方法の理解（授業時の練習問題の回答）：50%
主種の様相論理・時制論理の各証明の習熟（期末の試験）：50%

【学生の意見等からの気づき】

現行の方式で効果が得られている。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくことを強く勧める。

現代思想2（フランスの思想）1

大池 惣太郎

授業コード：A2245

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降の哲学が繰り返し批判、解体、掘り崩しを行ってきた「主体」という概念について、主にフランスを中心とした現代思想の観点から批評的に考察する。行為や責任、思考の主体であるとはどのようなことか、「主体」の概念が現代哲学において批判的にとらえ返されたのはなぜか、フランス実存主義から構造主義への推移のなかで「主体」をめぐる言説はどのように変化したか、などの問いを課題文献とともに考察することを通じて、現代社会が暗黙のうちに要請している「主体」のあり方を捉え返し、自由、責任、能動性、思考といった概念の意味を自ら批評的に考察するための視点を学ぶことが、この授業の目的である。

【到達目標】

(1)上記の問いをはじめ、主体の自由、責任、能動性、思考といったテーマに関する問題について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
(2)発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
(3)単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだレポートを作成できるようにすること。

【授業の進め方と方法】

各授業で次のサブテーマに即した文献（長くないもの）を配布するので、受講者はそれを読み、質問事項を整理したうえで授業に出席する。授業のはじめにそれぞれの質問内容を整理し、問いを共有した上で授業を進める。また授業の終わりに相互にリアクションをする時間を設ける。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「主体以後」の現代思想
第2回	近代と「歴史」の概念について	近代的な主体の概念の前提とは何か
第3回	近代的主体の風景①	合理的主体の“thoughtlessness”について
第4回	近代的主体の風景②	コギトと神
第5回	サルトルと実存主義①	「責任」のいくつかの捉え方
第6回	サルトルと実存主義②	個人は「悪」をなし得ないか（人間主義について）
第7回	構造人類学①	レヴィ=ストロースと構造主義
第8回	構造人類学②	神話を考えるのは誰か
第9回	構造人類学③	構造的論的神話学の例
第10回	ソシュールと現代思想	意味と言語
第11回	ラカンと精神分析の倫理①	「分析主体」と欲望の主体
第12回	ラカンと精神分析の倫理②	精神分析の倫理
第13回	ラカンと精神分析の倫理③	四つの「主体」像
第14回	まとめ	現代社会のなかの主体性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された文献を読み、疑問点などを整理して授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

アレント『活動的生』（みすず書房）、サルトル『主体性とは何か？』（白水社）、レヴィ=ストロース『野生の思考』（みすず書房）、ラカン『精神分析の倫理』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

発表やディスカッションへの貢献など授業内での参加度（60%）と学期末レポート（40%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、20世紀以降の哲学が繰り返し批判、解体、掘り崩しを行ってきた「主体」という概念について、主にフランスを中心とした現代思想の観点から批評的に考察する。いわゆるポスト構造主義以降の哲学者たちが「主体」の概念を批判的に捉えたのはなぜか、またどのような方向へそれを解体・再定義しようとしたか、今日の技術社会は「主体」のあり方に関してどのような問題を投げかけているか、などの問いを課題文献とともに考察することを通じて、現代社会が暗黙のうちに要請している「主体」のあり方を捉え返し、自由、責任、能動性、思考といった概念の意味を自ら批評的に考察するための視点を学ぶことが、この授業の目的である。

【到達目標】

(1)上記の問いをはじめ、主体の自由、責任、能動性、思考といったテーマに関する問題について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
(2)発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
(3)単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだレポートを作成できるようになること。

【授業の進め方と方法】

各授業で次のサブテーマに即した文献（長くないもの）を配布するので、受講者はそれを読み、質問事項を整理したうえで授業に出席する。授業のはじめにそれぞれの質問内容を整理し、問いを共有した上で授業を進める。また授業の終わりに相互にリアクションをする時間を設ける。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「主体」の構成主義について
第2回	ドゥルーズ+ガタリの存在論①	反主体論としてみた「欲望機械」という考え方
第3回	ドゥルーズ+ガタリの存在論②	反主体論としてみた「内在平面」という考え方
第4回	フーコーと主体①	主体と近代の考古学
第5回	フーコーと主体②	「生存の美学」、あるいは主体化の様々な方法
第6回	フーコーと主体③	生と政治
第7回	「生-政治」批判	「潜勢力」について（アガンベン）
第8回	技術と主体化①	技術とは何か
第9回	技術と主体化②	産業世界のなかのナルシズム
第10回	技術と主体化③	技術と時間
第11回	技術論批判	「完全犯罪」について（ボードリヤール）
第12回	デリダの哲学①	エクリチュールと他者
第13回	デリダの哲学②	主体と死
第14回	まとめ	現代思想と主体

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された文献を読み、疑問点などを整理して授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

ドゥルーズ+ガタリ『哲学とは何か』（河出文庫）、フーコー『自己のテクノロジー』（岩波書店）、ステイグラー『愛すること、自分』を、そして「われわれ」を』（新評論）、デリダ『死を与える』（ちくま学芸文庫）

【成績評価の方法と基準】

発表やディスカッションへの貢献など授業内での参加度（60%）と学期末レポート（40%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

美学・芸術学1

武田 昭彦

授業コード：A2247

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美と愛がテーマであるが、春学期は近代美学の歴史を、芸術作品の解釈を手がかりに学んでいく。

【到達目標】

美とは何かを考察することが目的だが、具体的に美と芸術作品との関係が理解できるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。ときに、映像などを使い理解を深め、リアクションペーパーなどで学生諸君の達成度を確認する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	美学・芸術学の概観	東洋・西洋の美学関係の歴史を概観する。
第2回	ルネサンスの美学（1）	チェッリーニ：才能と規則、ミケランジェロ：画家と彫刻家。
第3回	ルネサンスの美学（2）	ミケランジェロの映画「華麗なる激情」鑑賞。
第4回	近代の美学（1）	デカルトの美学：音楽提要、自動人形、科学と芸術との関係。
第5回	近代の美学（2）	コンディヤックの美学：彫刻における感覚論。
第6回	近代の美学（3）	カント美学：彫刻のカント的定義、職人と技術。
第7回	ロマン主義の美学（1）	ヘーゲル美学：芸術作品の間接的認識。
第8回	ロマン主義の美学（2）	ヘーゲル美学：彫刻への直接的接近、彫刻の本質。
第9回	ロマン主義の美学（3）	ヘーゲル美学：かたち、素材、技術、彫刻史。
第10回	ロマン主義の美学（4）	ヘーゲルの革命：表現の客観性、天才と独自性。
第11回	ロマン主義の美学（5）	ヘーゲルの革命：藝術の死、彫刻の未来。
第12回	ロマン主義の美学（6）	ヘーゲルの革命：時代遅れの彫刻と生き延びる芸術。
第13回	ロマン主義の美学（7）	ポスト・ロマン主義の芸術、芸術家の優位、近代美学の結論。
第14回	期末試験	まとめと小論文問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美を理解するには、美術館・博物館・庭園などに行き、芸術作品にふれ、その経験を積むことである。

【テキスト（教科書）】

自作のプリントを配布する。

【参考書】

今道友信『美について』、『愛について』（以上、講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する小論文等の期末試験の成績によって100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

美学・芸術学 2

武田 昭彦

授業コード：A2248

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美と愛がテーマである。秋学期は愛の哲学を学んでゆく。

【到達目標】

愛とは何かを考えることが目的だが、具体的な作品を通して、エロース、隣人愛、自己愛、友情などを理解できるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこなう。ときにリアクションペーパーなどで学生諸君の理解度を確認する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	愛の形而上学概論	プラトン、キリスト教、ルネサンス、近代の愛を概観する。
第 2 回	エロース（1）	プラトン『饗宴』を読む：愛の神話。
第 3 回	エロース（2）	プラトン『饗宴』を読む：愛のエレンコス（吟味）。
第 4 回	エロース（3）	プラトン『饗宴』を読む：愛の秘技。
第 5 回	アウグスティヌスの愛（1）	アーレント『アウグスティヌスの愛の概念』：欲求としての愛。
第 6 回	アウグスティヌスの愛（2）	アーレント『アウグスティヌスの愛の概念』：創造者と被造者、愛と欲望。
第 7 回	アウグスティヌスの愛（3）	アーレント『アウグスティヌスの愛の概念』：隣人愛と社会生活。
第 8 回	ルソーの自己愛（1）	音楽劇『ピグマリオン』の講読。
第 9 回	ルソーの自己愛（2）	音楽劇『ピグマリオン』の版画を使った解釈：創作と自己贈与。
第 10 回	ルソーの自己愛（3）	音楽劇『ピグマリオン』の純粋な根源的自我の創造。
第 11 回	友情論（1）	キケロ『友情について』、ヒルティ『友情論』からの箴言。
第 12 回	友情論（2）	ボナール『友情論』：友情は恋愛以上ものである。
第 13 回	友情論（3）	ヘッセ『知と愛』：官能的な愛の浄化、母なるものの愛の救い。
第 14 回	期末試験	まとめと小論文問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

愛を考えるには、まず愛を経験すること。

【テキスト（教科書）】

自作のプリントを配布する。

【参考書】

今道友信『美について』、『愛について』（以上、講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する小論文等の期末試験の成績によって 100 % 評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

東洋哲学史 1

青野 道彦

授業コード：A2249

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インドで誕生した仏教についてその前史であるヴェーダの時代から見ていき、仏教がインドにおいてどのように展開していったのか思想史、教団史の双方から検討します。

【到達目標】

- ・仏教に関わる基本的な用語の意味を理解する。
- ・インド仏教の発展・展開を思想史的、教団史的側面から理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。資料はスライドで提示するとともに、適宜プリントを配布します。授業の最後にコメントペーパーの提出をお願いします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明及びインド亜大陸に関する概説
第 2 回	古代インドの思想	インダス文明とヴェーダの思想
第 3 回	反ヴェーダの思想	非正統バラモンの思想
第 4 回	ブッダの生涯	誕生から入滅
第 5 回	ブッダの入滅	葬送儀礼、仏塔建立
第 6 回	ブッダの言葉の伝承	仏典結集と仏教教団の分裂
第 7 回	仏教の基本教理	三宝、四諦・八正道ほか
第 8 回	仏教教団の成立	サンガのあり様
第 9 回	仏教教団の集団規則	律蔵の集団規則
第 10 回	比丘・比丘尼が遵守すべき規則	律蔵の個人規則
第 11 回	アビダルマの思想	煩瑣哲学
第 12 回	大乘仏教の成立	革新運動
第 13 回	まとめ	授業内容の再確認
第 14 回	試験及び解説	インド仏教用語及びインド仏教史の理解を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、授業中に紹介する参考書を読んで仏教について自ら積極的に学習してください。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜資料を配布します。

【参考書】

平川彰『インド仏教史』上・下、春秋社、1974/1979

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度・コメントペーパー（45 %）を考慮しつつ、インド仏教の基本用語およびインド仏教史への理解度を問う試験（55 %）に基づき評価します。※定期試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

視覚資料をできる限り用います。

東洋哲学史 2

松本 知己

授業コード：A2250

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インドに成立し、中国で漢訳された仏教は、日本における受容の過程で、文化はもとより、政治を含む社会全体に広汎な影響を与えた。他方、社会の要請に伴って変容しながら「日本仏教」として独自の発達を遂げた。本講義では、この日本仏教を考察するにあたって思想史の方法を用いる。具体的には平安・鎌倉時代における主要な仏教者の思想と実践を読み解くことが中心となるが、必要に応じ、政治状況、文化事象との関連や、神道など他思想との交渉に言及する。

【到達目標】

この授業は、仏教という宗教システムのうち、思想としての側面に着目し、その基本構造と、特に日本における歴史的な展開の多様性を理解することを目指す。全体を通じて、日本人の思想の形成に仏教が果たした役割を知り、ひいては現代社会に生きる我々と宗教との関係を考察する視点を獲得してもらいたい。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。受講者は、毎回の講義内容に関するコメント等をリアクションペーパーに記し、提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教思想概観	宗教・哲学としての仏教
第 2 回	漢訳仏教の世界	東アジア仏教の特徴概観
第 3 回	日本仏教の形成	仏教伝来と奈良時代までの受容形態
第 4 回	最澄の思想（1）	最澄の生涯と事績
第 5 回	最澄の思想（2）	法華教学、大乘戒独立及び円密一致の構想
第 6 回	空海の真言密教	空海的事績と密教の概要
第 7 回	日本天台の展開（1）	台密の集成 一 天台教学と密教の融合
第 8 回	日本天台の展開（2）	本覚思想の源流と展開
第 9 回	日本天台の展開（3）	本覚思想の諸相
第 10 回	日本天台の展開（4）	叡山浄土教 一 山の念仏 一
第 11 回	鎌倉仏教（1）	浄土教 一 法然を中心に 一
第 12 回	鎌倉仏教（2）	日蓮の法華教学
第 13 回	鎌倉仏教（3）	禅（荣西・道元）
第 14 回	まとめ	授業内容の総括と展望 一 現代日本人と仏教 一

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初学者にも平易に説明するため予習は必須ではないが、各回の講義後に参考文献等を用いた復習を行うことは必要である。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配付する。

【参考書】

大久保良峻編著『新・八宗綱要―日本仏教諸宗の思想と歴史―』（法蔵館、2001）
平川彰『インド・中国・日本仏教通史』新版（春秋社、2006）その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

受講者は、日本における仏教思想の歴史的な展開の理解に関するレポートを期末に提出する。評価は、当該レポートの完成度（60 %）と平常点（授業へのコメント内容など、40 %）によって行う。

※定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業が一段落したところで、学習内容のまとめを行いながら進行する。

宗教学 1（伝統宗教） 1

杉本 隆司

授業コード：A2251

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】

世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ 2 世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【授業の進め方と方法】

中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにがしかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。1. 古代異教の復活（ルネサンス）。2. カトリック＝異教論の登場（宗教改革）。3. 新大陸の異教との遭遇（大航海時代）。おもに西洋が経験したこの 3 つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です（授業計画参照）。なお、この授業は秋学期の「宗教学 1（伝統宗教）2」と連動しているため、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代（1）	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代（2）	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ＝キリスト教史（1）	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ＝キリスト教史（2）	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教（1）	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教（2）	教父の偶像崇拜批判
第 8 回	宗教改革と異教批判（1）	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判（2）	異教＝教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判（3）	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判（4）	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服（1）	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服（2）	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通していただくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ジル・ケベル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拜―その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
木崎喜代治『信仰の運命―フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2 つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

宗教学 1（伝統宗教） 2

杉本 隆司

授業コード：A2252

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して 19 世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】

宗教学の誕生は、19 世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」が自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗の思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な（ライックな）国民国家の形成をキリスト教（教会権力）の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし 17 世紀以降、異教問題は世俗の思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、19 世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。なお、この授業は春学期の「宗教学 1（伝統宗教）1」と連動しているので、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第 2 回	ルネサンスとユマニスム（1）	モアのユートピア宗教
第 3 回	ルネサンスとユマニスム（2）	新プラトン主義と合理主義神学
第 4 回	理論論と自然宗教（1）	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第 5 回	理論論と自然宗教（2）	スピノザの汎神論
第 6 回	理論論と自然宗教（3）	ロックの生得観念批判
第 7 回	啓蒙思想と宗教批判（1）	フランス啓蒙の自然宗教論
第 8 回	啓蒙思想と宗教批判（2）	ヒュームの理論論批判
第 9 回	啓蒙思想と宗教批判（3）	ド・ブ羅斯のフェティシズム論
第 10 回	仏革命とロマン主義（1）	革命宗教と非キリスト教化運動
第 11 回	仏革命とロマン主義（2）	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第 12 回	実証主義と人間の宗教（1）	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第 13 回	実証主義と人間の宗教（2）	デュルケムと宗教学の制度化
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見—宗教学と近代』岩波書店、2005 年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010 年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2 つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

日本思想史 1

頼住 光子

授業コード：A2260

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の思想文化を理解するために、日本倫理思想史において重要な役割を果たした「仏教思想」についてさまざまな側面から学びます。

【到達目標】

このクラスの学習目標は、日本の倫理思想の歴史を学び、日本思想に関する基礎的な知識を習得し、みずからの生き方を考えるための手がかりを得ることにあります。特に仏教を軸としながら日本思想の構造や具体相を検討します。

【授業の進め方と方法】

<授業概要>

倫理とは、広く、人間の生き方を根底から支える「理法」のことを指します。日本人の伝統的な倫理観について、言い換えれば、「これまで、日本人は何を信じ、何を願い、何を愛して生きてきたのか」また、これらの問題を、どのような筋道を立てて考えてきたのかということを検討してみたいと思います。その際に、この授業では仏教を中心として検討します。倫理観を考えるためには、世界観や人間観をもあわせて考える必要がありますが、仏教が、日本人の世界観、人間観等の形成に与えた影響はたいへんに大きなものであるといえます。この授業では、まず、仏教の基本的な考え方とその歴史を紹介し、仏教が日本人にどのように受容され、どのような思想として展開されたのかを、古代日本を中心として検討したいと思います。

<授業方法>

基本的には講義形式です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教とは何か	仏教とは何かという問題について、仏、法（真理・教え）、僧という三つの観点から考察を加えます。
第 2 回	釈迦の生涯と教え①	仏教前史の概略を説明したあとで、仏教成立の歴史的背景を検討します。その上で釈迦の生涯について伝資料を手掛かりとして説明します。
第 3 回	釈迦の生涯と教え②	釈迦の教えについて、四諦八正道や四法印を手掛かりとして説明します。また、仏教の基本的な考え方を解明し、その現代的意義についても言及します。
第 4 回	初期仏教と部派仏教	釈迦の在世中および弟子等の活躍した原始仏教の時代における教団や教義について説明し、それが「根本分裂」を経て、部派仏教になってはどのように変化したのかを説明します。
第 5 回	大乘仏教①	大乘仏教の起源について諸説を紹介するとともに、大乘仏教の基本的教義、とくに空の思想、仏身論、仏性説について解説します。
第 6 回	大乘仏教②	大乘仏教の思想について、般若経典、法華経、華嚴経などの原文を示しつつ、解明を図ります。
第 7 回	大乘仏教③	大乘仏教の思想について、浄土経典、維摩経、中論（龍樹作）などの原文を示しつつ、解明を図ります。
第 8 回	大乘仏教④	大乘仏教の思想について、唯識三十頌（世親作）、涅槃経、金光明経、大日経などの原文を示しつつ、解明を図ります。
第 9 回	アジア各地への仏教の伝播①	タイやミャンマー、スリランカ、ラオス、カンボジアなどで現在信仰されている上座部仏教（いわゆる小乗仏教）について説明し、さらに大乘仏教の伝播についても概略を説明します。
第 10 回	アジア各地への仏教の伝播②	中国仏教について、時代ごとにその特徴や思想の展開を説明します。
第 11 回	アジア各地への仏教の伝播③	中国仏教の原典について具体的に示し、解説します。それを通じて中国仏教の特徴がどのようなものであるかを示します。また、朝鮮仏教やチベット仏教についても説明します。
第 12 回	古代日本の仏教思想①	古代日本の仏教の歩みについて概観を説明し、外来思想としての仏教がどのように定着したのかを、日本書紀説話の解説や神信仰との関係を考察することで検討します。
第 13 回	古代日本の仏教思想②	聖徳太子の 17 条憲法や日本最古の仏教説話集である『日本霊異記』を手掛かりとして古代日本の仏教思想について検討します。
第 14 回	総括と試験	これまでの授業内容を総括し、試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外に行う活動としては、その日の学習予定箇所について、あらかじめテキストを読み、意味の分かりにくい言葉などがあったら辞書等で確認し内容を把握するという予習が挙げられます。

【テキスト（教科書）】

頼住光子著『日本の仏教思想—原文で読む仏教入門』（北樹出版、2010年）を指定いたします。

【参考書】

初学者向きの辞書としては、中村元『仏教辞典 第2版』（岩波書店、2002年）をお勧めいたします。（図書館等においてあります。）その他、単元ごとの参考書については、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に平常点を20%、試験を80%として成績を評価します。平常点は、授業の際の感想カード等で評価します。試験としては、講義をよく理解できているかどうか、基本知識を踏まえて自分なりの考え方を展開できるかどうかを基準として評価したいと思います。特に、仏教を手がかりとして日本思想の構造や具体相を理解できているかどうか、日本思想に関する基礎的な知識を習得しているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明については前提となる知識がなくてもわかるように初歩的なところから丁寧に説明したいと思います。

日本思想史2

頼住 光子

授業コード：A2261

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本思想史1」と基本的には同じです。春学期に引き続き、日本の伝統的な倫理観について、仏教を手がかりとして考えていきます。春学期を履修せずに秋学期だけ履修する学生にも理解し易いように、春学期の要点をまとめて最初に話します。

【到達目標】

日本の思想・文化を考える上で、見逃すことのできない仏教思想について基本概念を理解します。また、特に中世に焦点を絞り個々の思想家の特徴についても考えます。そのうえで、日本思想の基本構造や具体相を検討します。

【授業の進め方と方法】

＜授業の概要＞

倫理とは、広く、人間の生き方を根底から支える「理法」のことを指します。日本人の伝統的な倫理観について、言い換えれば、「これまで、日本人は何を信じ、何を願い、何を愛して生きてきたのか」また、これらの問題を、どのような筋道を立てて考えてきたのかということを検討してみたいと思います。

その際に、この授業では仏教を中心として検討します。倫理観を考えるためには、世界観や人間観をもあわせて考える必要がありますが、仏教が、日本人の世界観、人間観等の形成に与えた影響はたいへんに大きなものであるといえます。この授業では、まず、仏教の基本的な考え方を紹介し、それが日本人にどのように受容され、どのような思想として展開されたのかを、古代、中世から近世にかけて検討したいと思います。

＜授業の方法＞

基本的には講義形式です。

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	仏教とは何か①	日本仏教の特徴と仏教の歴史について概略を説明します。
第2回	仏教とは何か②	上座部仏教と大乘仏教の教義の特徴について説明します。大乘仏教については、仏典からの引用を示しつつ、その基本思想を説明します。
第3回	日本古代の仏教思想①	日本における仏教受容の諸問題を『日本書紀』や『日本霊異記』説話を手掛かりにして検討します。
第4回	日本古代の仏教思想②	最澄や空海の生涯について解説しつつ日本仏教の特徴を検討し、さらに、その思想を戒律や法華一乗（最澄）、即身成仏や曼荼羅思想（空海）の観点から説明します。
第5回	日本中世の仏教思想①	中世日本の仏教思想の展開を概観し、さらに、日本仏教史の一大画期をなした法然の生涯と思想を説明します。
第6回	日本中世の仏教思想②	インド～中国～日本の浄土教史の中でも注目すべき思想を展開した親鸞の生涯と思想を説明します。
第7回	日本中世の仏教思想③	日本思想史上、最高の思想家とも称される道元の生涯と思想を説明します。
第8回	日本中世の仏教思想④	法華一乗思想を徹底するとともに、日本思想に大きな影響を与えた日蓮の生涯と思想を説明します。
第9回	日本中世の仏教思想⑤	法然、親鸞の浄土思想とは対照的に神祇信仰との習合を行うとともに現世を浄土と考えた一遍の生涯と思想を説明します。
第10回	日本中世の仏教思想⑥	『発心集』等の仏教説話集や謡曲などを手掛かりとして、日本の仏教思想が文学にどのような影響を与えたのかを検討します。
第11回	日本中世の仏教思想⑦	天台本覚論などについて解説し、いわゆる顕密体制などを中心とした中世仏教の諸問題について検討します。
第12回	日本近世の仏教思想①	近世日本の仏教思想の展開を概観し、近世の特徴について検討します。また、鈴木正三の生涯と思想を説明します。
第13回	日本近世の仏教思想②	近世の重要な仏教思想家である禅僧盤珪、白隠、そして詩歌を通じて自己の禅思想を展開した良寛などの生涯と思想を説明します。
第14回	総括と試験	これまでの授業内容を総括し、試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外に行う活動としては、その日の学習予定箇所について、あらかじめテキストを読み、意味の分かりにくい言葉などがあったら辞書等で確認し内容を把握するという予習が挙げられます。

【テキスト（教科書）】

頼住光子著『日本の仏教思想—原文で読む仏教入門』（北樹出版、2010年）を指定いたします。

【参考書】

初学者向きの辞書としては、中村元『仏教辞典 第2版』（岩波書店、2002年）をお勧めいたします。（図書館等においてあります。）

その他、単元ごとの参考書については、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に平常点を20%、試験を80%として成績を評価します。

平常点は、授業の際の感想カード等で評価します。

試験としては、講義をよく理解できているかどうか、基本知識を踏まえて自分なりの考え方を展開できるかどうかを基準として評価したいと思います。特に中世に中心として個々の思想家の特徴や、日本思想の基本構造や具体相を理解できているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明については前提となる知識がなくてもわかるように初歩的なところから丁寧に説明したいと思います。

文化史1

伊藤 直樹

授業コード：A2262

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化を歴史的、かつ多角的に見ることの題材を、ドイツ18世紀後半～19世紀前半にとる。この時代の全体的な特徴を先立つ時代と、後に続く時代のなかでとらえたうえで、フリードリヒ大王、レッシング、カント、シュトゥルム・ウント・ドラング、初期ロマン派を考察してゆく。

学生には、毎回コメントカードを書いてもらい、それに対するフィードバックそれぞれ自体を授業に反映させながら、講義をすすめてゆく。

【到達目標】

この授業は、文化を歴史的に、かつ多角的に見る。つまり哲学史的、宗教史的、文学史的、教育学史的などの複数の視点を通して、政治家、文学者、哲学者の作品と思想を解明することをテーマとする。学生の目標は、このような歴史への多角的な視点を、できる限り自分のものとして持つことである。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行う。毎回リアクション・ペーパーを配布し、それへの応答をととして講義内容をより深く理解してもらい、かつそこから派生するさまざまな問題についても言及したい。

また、できる限り映像なども用いてゆきたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション —「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明／啓蒙主義について（1）	啓蒙主義の一般的特徴
第2回	啓蒙主義について（1）	啓蒙主義の歴史的位置、ドイツ啓蒙主義の固有な特徴。
第3回	フリードリヒ2世について（1）	歴史的状况、成し遂げたことなど
第4回	フリードリヒ2世について（2）	偉大なる功績と歪んだ性格
第5回	レッシング『賢人ナータン』について（1）	レッシングという人物、文学状況
第6回	レッシング『賢人ナータン』について（2）	『賢人ナータン』の紹介
第7回	レッシング『賢人ナータン』について（3）	『ナータン』をめぐる キリスト教か、ユダヤ教か、イスラム教か！？
第8回	カント「啓蒙とはなにか」(1)	カントという人物、ケーニヒスベルクという土地、思想的特徴、思想的革命思想としてのカント思想
第9回	カント「啓蒙とはなにか」(2)	☑文「啓蒙とはなにか」解説——「自分で考える」こと
第10回	カント「啓蒙とはなにか」(3)	☑文「啓蒙とはなにか」解説——コスモポリタニズムの思想
第11回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1)	ゲーテという人物、ゲーテと恋人たち、ゲーテとシュトゥルム・ウント・ドラングの仲間たち
第12回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(2)	映画鑑賞
第13回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(3)	作品解説：恋愛小説か、社会批判か、それとも自然礼賛か？
第14回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(4)	ヴェルターその後（死せるヴェルターと生きるゲーテ：「若きウェルテルの歎び」について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれのテーマに関して複数回の授業を行うので、その間に受講生は、レッシング、カント、ゲーテのいずれかのテキストに、かならず目を通す。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

テーマと方法が多岐にわたるため、参考書・参考資料はテーマごとに授業内で紹介するが、中心となるのは次の作品。レッシング『賢人ナータン』岩波文庫、カント「啓蒙とはなにか」岩波文庫、光文社文庫ほか、ゲーテ『若きウェルテルの悩み』岩波文庫、新潮文庫ほか

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（コメントペーパーでの応答など）30%；レポート70%

レポートのテーマは授業で取り扱った内容と関連したものになるが、レポートでは、講義の仕上がりとして、対象がさまざまな視点から捉えられることを踏まえた上で、自分なりの角☑から、対象を論じてもらうことになる。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

あまり触れることのなかった分野なので、逆に面白かった、という感想があった。

哲学科以外の受講生にとっては思想や哲学が、逆に哲学科の受講生にとっては文学や歴史が、興味深く思えるような授業内容を維持したい。

文化史 2

伊藤 直樹

授業コード：A2263

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。そのうえで、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』を、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。

○高橋是清『高橋是清自伝』○アゴタ・クリストフ『文盲 アゴタ・クリストフ自伝』○チャップリン『チャップリン自伝—若き日々』○室井滋『キトキトの魚』○鎌田實『「がんばらない」を生きる』○ハービー・ハンコック『ハービー・ハンコック自伝 新しいジャズの可能性を追う旅』○シュリーマン『古代への情熱—シュリーマン自伝—』○ときど『東大卒プログラマー 論理は結局、情熱にはかなわない』○岡本太郎『自分の中に毒を持って あなたは“常識人間”を捨てられるか』○福沢諭吉『福翁自伝』○小保方晴子『あの日』○草間彌生『無限の網』○梅原大吾『勝ち続ける意志力』○柳井正『一勝九敗』○CLAYTON&ELLEN KERSHAW『Arise』○栗原類『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』○ステイブ・ジョブズ『ステイブ・ジョブズ』○ロアルド・ダール『少年』○村田諒太『101%のプライド』○チョン・ダヨン『モムチャン式 10年後もキレイな女でいる方法』
いろいろあって、興味深い。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション — 「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明：自伝とはなにか	自伝の定義：ルジュヌスなどを手がかりに、自伝とはなにかということを明らかにします。
第 2 回	自伝とはなにか (2)	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第 3 回	自伝とはなにか (3)	さまざまな自伝を歴史的に概観します。
第 4 回	アウグスティヌス『告白』 (1)	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 5 回	アウグスティヌス『告白』 (2)	アウグスティヌスの『告白』の構造を説明します。
第 6 回	ルソー『告白』 (1)	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 7 回	ルソー『告白』 (2)	ルソーの『告白』の構造を説明します。
第 8 回	ゲーテ『詩と真実』 (1)	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 9 回	ゲーテ『詩と真実』 (2)	ゲーテの『詩と真実』の構造を説明します。
第 10 回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 11 回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 12 回	自伝紹介 1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第 13 回	自伝紹介 2	前回同様、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

11 月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。

【テキスト（教科書）】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。(自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。)

課題レポート。(授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。)

授業への積極的な貢献度(コメントカードの記述など) 30% レポート70%

自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分での自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生に感想を書いてもらいました。

「自伝を読んだことがある人も、ない人も、今一度自伝を読むことで、人生の幅が広がると思う。自分とは全く違う環境で生きてきた人や、自分が生まれていない過去の人物の自伝を読むと、最初は難しく思うだろうが、自分に無いもの、また、ここは似ていると共通点を見出すことができるのは、他にない体験だと思う」。

「あまり文学に詳しくないという方でも楽しんで受講できると思います。必ず興味を持てる本に出会える授業です。課題は少なくともありませんが、好きな本を読んでまとめる、自分史を実際に書いてみるなど、面白い内容なのでさほど大変ではないです」。

「大変おもしろい授業でした。とくに自伝紹介レポートと自伝小文の課題はよかったです。ルソーやアウグスティヌスの自伝を授業で学びましたが、やはりそれは偉人や特別な人という感じがして、自分とは遠いところにありました。しかし皆が書いた自分のことというのは、より身近で、また自分もそれを書くことによって自伝、自分史を深く理解できたように思いました」。

社会思想 1 (社会学概論) 1

岩野 卓司

授業コード：A2264

春学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。そういったことから、コミュニズムがもたらしてくれる「共同性」やアナキズムの「相互扶助」の考えが再び見直されている。この「共同性」や「相互扶助」の問題を授業でまず取り上げたい。また、家族の制度が崩壊しつつある今日、無縁社会が問題となっている。柳田国男の祖先神崇拜や折口信夫のマレイト論を授業で取り扱うので、家、家族、宗教について一緒に考えてもらいたい。また、今日、動物実験や肉食についていろいろと議論がある。ピーター・シンガーの「動物の解放」論や宮沢賢治の思想に触れながら、学生諸君には動物との共生についてともに考えてもらいたい。

【授業の進め方と方法】

講義形式

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	共同体とは何か？
第 2 回	コミュニズムの可能性	行き過ぎた資本主義を是正するために、共産主義とはことなるコミュニズムの可能性を探る
第 3 回	アナキズムの可能性	アソシエーション、相互扶助、贈与など、現代アナキズムの新しい可能性を探る
第 4 回	アナキズム人類学	グレーバーのアナキズム人類学
第 5 回	大杉栄と現代	現代においてアナキズムの思想をどう生かしていくべきかを考える。
第 6 回	無縁社会	未婚率の増大や老人の孤独死など現代における家族の崩壊と今後の展望
第 7 回	家と共同体	伝統的な家の概念と共同体の関係
第 8 回	柳田国男の民俗学	日本民俗学の可能性
第 9 回	柳田国男の祖先神	祖先崇拜と共同体
第 10 回	折口信夫のマレイト論	共同体と異人
第 11 回	動物と共生する共同体	動物とどう共生していくべきか。肉食や動物実験の是非
第 12 回	シンガーによる「動物の解放」	黒人解放、女性解放とならぶ動物の解放
第 13 回	宮沢賢治のイーハトヴの可能性	宮沢賢治が考えた、人間中心ではない共同体
第 14 回	まとめ	理解を確認するための復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみること。

【テキスト (教科書)】

授業でプリントを配布

【参考書】

モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』(ちくま文庫)
 岩野卓司編『共にあることの哲学』(書肆心水)
 岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』(書肆心水)
 マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)
 森元齋『アナキズム入門』(ちくま新書)
 栗原康『大杉栄伝』(夜光社)
 栗原康『現代暴力論』(角川新書)
 デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)
 NHK スペシャル取材班『無縁社会』(文春文庫)
 東浩紀『観光客の哲学』(ゲンロン)
 『柳田国男全集』(ちくま文庫)
 折口信夫『古代研究』(I-VI) (角川ソフィア文庫)
 『岡本太郎の宇宙』(I-VI) (ちくま学芸文庫)
 ピーター・シンガー『動物の解放』(人文書院)
 中沢新一『カイエ・ソヴァージュ』(講談社)
 『宮沢賢治全集』(ちくま文庫)
 金山秋男編『日本人の魂の古層』(明治大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20 %) 学期末の試験 (80 %)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

社会思想 1（社会学概論） 2

岩野 卓司

授業コード：A2265

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくとも、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに関「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

クリスマスやバレンタインのプレゼントや、お中元やお歳暮といったかたちで、僕らの身近には多くの贈与の習慣が存在している。今日、この贈与が注目を集めている。というも、ボランティア、臓器移植、ベーシックインカムといった今日の問題を語る際に贈与の論理が使われているからである。また、利益獲得の計算の上に立って発展した資本主義は、格差の増大、派遣労働者や失業、環境破壊といった今日多くの問題をもたらしており、再び贈与経済を見直そうという動きがあるからである。本講義では、贈与の今日的重要性を語った後、人類学者や哲学者が提案した贈与論を分析し、受講生諸君とその可能性と批判点を考えていき、来るべき贈与論を模索していきたい。

【授業の進め方と方法】

講義形式

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	贈与とは何か？	お中元やバレンタインなどの贈与の風習などに潜むわれの無意識
第 2 回	贈与の現代性	臓器移植、ボランティアなどの現代社会に必要な贈与
第 3 回	資本主義と贈与経済	ベーシック・インカムの可能性
第 4 回	マルセル・モース『贈与論』（1）	未開社会における贈与交換
第 5 回	マルセル・モース『贈与論』（2）	平和主義や協同組合と贈与の思想
第 6 回	レヴィ＝ストロース（1）	『親族の基本構造』における贈与交換のシステム
第 7 回	レヴィ＝ストロース（2）	ハロウィンとクリスマスにおける贈与の意味
第 8 回	バタイユ（1）	贈与とスカトロロジーの密接な関係
第 9 回	バタイユ（2）	地表の生命圏を可能にする、太陽によるエネルギーの贈与
第 10 回	デリダ（1）	「贈与は贈与でない！」という逆説
第 11 回	デリダ（2）	供儀と死の贈与
第 12 回	マリオン（1）	贈与の現象学的解明
第 13 回	マリオン（2）	愛の贈与
第 14 回	まとめ	理解の確認のための復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布のプリント、参考書をよく読み、復習しておくこと。さらに、自分の日常と照らし合わせながら、よく考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

岩野卓司『贈与の思想』（青土社）（予定）

【参考書】

山崎吾郎『臓器移植の人類学』（世界思想社）
仁平典弘『『ボランティア』の誕生と終焉』（名古屋大学出版会）
井上洋治『人工知能と経済の未来』（文春文庫）
原田泰『ベーシック・インカム』（中公新書）
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』（青弓社）
クロード・レヴィ＝ストロース『火あぶりにされたサンタクロース』（角川書店）
ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（とくま学芸文庫）
ジャック・デリダ『他者の言語』（法政大学出版）
ジャック・デリダ『死を与える』（ちくま学芸文庫）
ジャン＝リュック・マリオン『還元と贈与』（行路社）
ジャン＝リュック・マリオン『存在なき神』（法政大学出版）
岩野卓司『贈与の哲学 ジャン＝リュック・マリオンの思想』（明治大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）学期末の試験（80％）
到達目標にどれだけ近づいているかが成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

社会思想2（社会思想史）1

政井 啓子

授業コード：A2266

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想史」は、「社会とは何であり、人間と社会との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史である。本授業では、社会思想史における基本的な諸思想を学び、学生が、現代社会を分析して、よりよい社会のあり方を追求する際に、その知識を参考にできることを目標とする。

【到達目標】

春学期は、ヨーロッパ社会思想の源流として、愛知の営みが自覚的に始められた古代ギリシアでの「民主制」の確立とその終焉、さらに、ルネサンスと近代の理性主義的な学問探求の思考法を学ぶ。前半では、「民主制」がどのような理由によって支持されたのかを理解し、その上で「民主制」の危うさを説く諸思想の人間観を考察しながら諸々の国制の是非を再考する。後半は主に、哲学による自然科学の基礎付け、「個人」の自由意志の意義、平和な社会の形成などを考察する。本授業では古典にふれながら、常識や通説とされることを一度疑ってみることの重要性、順序正しく論理的に考えることの爽快さ、様々なイメージを描きながら想像力を柔軟にしていけることの大切さなど、学生が人間の思考活動の豊かさを実感し、そして自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行い、毎回、授業の終わりに質問や感想意見を書いてもらう。できれば授業内で討論する時間も設けたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	古代から近代までの社会思想の概観。レポートに関する説明。
第2回	ソフィスト達の思想	道徳的相対主義の流行、プロタゴラスの思想と民主制
第3回	ソクラテスの思想	「善く生きる」ということへの問い
第4回	プラトンの思想 1	知への愛とイデア論
第5回	プラトンの思想 2	理想の「国家」
第6回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第7回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第8回	ルネサンス期の思想	「自然」の研究
第9回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに、私は在る」、自然科学の基礎、物心二元論など
第10回	近代の自然法思想	社会契約説
第11回	道徳哲学の2潮流	利己主義と利他主義
第12回	モラルセンズ説の展開	ヒュームとアダム・スミス
第13回	功利主義思想	ベンサム
第14回	春学期のまとめ	「思想の自由」について、他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するプリントおよび授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『社会思想史』（法政大学通信教育部 発行）、プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介し、ほぼ毎授業プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポートと、数回的小レポート（授業内でも有り）を提出。大体の目安としては、レポート 50 %、小レポート 30 %、毎授業後の感想質問 20 %。期末レポートと小レポートでは、授業で扱う各思想を単に要約説明するだけではなくて、学習した内容を理解した上で、現代社会の問題と関係づけながら、各思想に対する自分自身の考えを論理的にまとめてもらう。詳しいことは最初の授業の時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書や配布資料を工夫して、できるだけ分かりやすく説明したい。

社会思想2（社会思想史）2

鈴木 由加里

授業コード：A2267

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会思想とは、狭義にとらえれば近代市民社会の成立過程において構築された社会形成の理論である。その中には、歴史の展開によって生じた個人間、諸階級、諸民族の利害抗争等社会問題に対する説明と有効な対策、いわゆる社会改革の理論も当然含まれている。例えば、近代市民社会において理想とされてきたのは、自由な個人が他の個人と手を携えて連帯する社会であり、その実現のために生み出されたのが「民主主義」という「装置」である。しかし、国際社会においては、政治、経済、宗教、民族、倫理、文化など多面的な価値体系が存在し、様々な問題が重層的に展開している。とすれば、その衝突は暴力的なものとなる。貧困、内戦、テロなどの諸問題は日々報道されているが、それらについて掘り下げて考える機会を持つことは少ない。メディアを通して与えられた出来事は、過剰な意味づけをされるか単なる情報として扱われるだけである。我々はそれに満足せず、立ち止まって考える必要がある。その手がかりとして、この授業では歴史的な出来事や同時代の諸問題をテーマにした記録映像作品（ドキュメンタリ映画）を扱う。諸作品を紹介し（一部を視聴）、さらにその背景についての知識を深め、「出来事と記録」について考察を試みたいと思う。本年は、歴史上行われた大量虐殺などのドキュメンタリ作品を材料にして、「目を覆わばかりの悲惨な出来事」として語られているものの意味を探り、歴史認識の問題を問い直すことを目的としたい。

【到達目標】

社会思想に関する学術的な「概念」を学び、かつ、映像作品の分析と解釈ができるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界で起きていることについて分析し、自分なりの見解を口頭及び文章で発表できるようにすることが到達目標である。

【授業の進め方と方法】

講義が中心であるが、ドキュメンタリ作品などの映像資料を多数紹介する予定である。講義 → 映像資料視聴 → ディスカッション → リアクション・ペーパー作成 という流れで授業を行う。リアクション・ペーパー（授業に関連したテーマについての短い考察を文章化）は毎回提出してもらう予定である。また、テーマ内容についての口頭での意見も求める。テーマごとに講義内容のレジュメ、参考文献票などを適宜配布する予定である。

なお、受講学生の興味関心にあわせて授業内容を変更する可能性がある。受講学生とは積極的に対話していきたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	社会思想とドキュメンタリ	何を学ぶのかを説明したあとに、45分程度の作品を視聴し、その意義を考える。
第2回	社会思想とはどのような学問か？	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	ドキュメンタリ作品とはどのようなものを言うのか？	フィクションとノンフィクションの違い。「事実」と「フィクション」という二項対立について考える。
第4回	エディトリアル・ドキュメンタリから学ぶ	情報と世論誘導について、「アトミックカフェ」を通して考えを深める。
第5回	N・チョムスキーの活動から学ぶ	民主主義と情報について「メディアと世論操作」をめぐるチョムスキーの主張を学ぶ。
第6回	キリスト教原理主義と反知性主義	アメリカにおけるキリスト教原理主義を通して、「原理主義」の問題を学ぶ
第7回	私的な事柄をテーマにしたドキュメンタリ作品と社会性について	個人的な記録と社会はどうつながるのか。「私的なことは政治的なこと」という言葉の意味を考える
第8回	ドキュメンタリと政治	レニ・リーフェンシュタールの作品を通して、スポーツとナショナリズムの始原を学ぶ。
第9回	「シヨア」語り得ぬものを語ることにについて	表象の限界についてユダヤ人虐殺をめぐる言説と映像。証言の意味を考える。
第10回	歴史修正主義について	恣意的な理解と歴史認識の違いは存在するのか？「歴史修正主義」が批判される理由について学ぶ。
第11回	アイヒマン問題について	人道に反する罪を裁くことはできるのか？加害者とは誰か？「アイヒマン裁判」について学ぶ。
第12回	インドネシア大虐殺①	加害者側からの語り。「アクトオブキリング」を参考に、加害者側にとっての語りとはどのような意味を持つのかを考える。

第 13 回	インドネシア大虐殺②	再び、被害者が語ると言うことについて。封じられてきた言葉を語ることの意味について考える。
第 14 回	語り得ぬものと歴史記述の問題	ドキュメンタリとは何か？ 映像作品の可能性はどこにあるのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、質問事項をまとめておく。

参考文献の一部を紹介しておいたので、それらを読んでおく。

授業後については、時間の関係上、映像資料などを一部分しか紹介出来ないことが多いので、できる限り全編を各自で視聴しておく。授業内で配布された資料に目を通し、学習を深めておこう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業で配布。

【参考書】

『レニ・リーフェンシュタールの嘘と真実』 スティーブン・バック 野中邦子訳 清流出版 2009

『社会思想史を学ぶ』山脇直司 ちくま新書 2009

『アウシュビッツと表象の限界』ソール フリードランダー編 上村忠男 他訳

『記憶／物語（思考のフロンティア）』岡真理 岩波書店 2000

『過去は死なない メディア・記憶・歴史』テッサ・モーリス-スズキ 岩波現代文庫

『空爆の歴史』荒井信一 岩波新書 1144 2008

『イェルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』ハンナ・アーレント（著）、大久保 和郎（翻訳）みすず書房 1969

これ以外にも、テーマごとの参考文献について印刷物にて配布。

【成績評価の方法と基準】

○出席は、単位取得の基本条件である。

2 回以上欠席した場合、代替措置として **ExtraReport** を提出してもらう。

出席は、授業内で作成されるリアクション・ペーパーの提出で確認する。

○レポートは 2 本提出 各 40% →80%

授業で学んだ「社会や出来事を語るための概念」を正しく使って論述することができるということはレポート作成の大前提である。

レポートの評価を 100 とすると、概念理解の正しさ 30% 論理構成力 30% 考察の深さユニークさ 30% 日本語表記としての正しさ 10 %

上記の基準が達成できてない場合は、レポートの再提出を求める。レポートの具体的な評価基準は授業時に印刷したものを配布する。

○平常点 授業への参加態度や授業内容の習熟度 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の知識量のばらつきをどう埋めるのが課題である。昨年度は、知識を補うための資料を配布したが、それを各自がきちんと消化しているかどうかを確認する時間がなかった。授業内容を削ってまで、復習をしているかどうかを確認するのは大学の授業としては妥当ではないだろう。基本的な文章作法を理解していない学生に対しては、文章の書き方についての資料を配付したが、それがレポートなどに反映されなかったのが残念である。レポートの苦手な学生に対しては、複数のエクストラレポートを提出してもらい手厚く指導していきたいと思う。

ラテン語 1

棟尾 正敏

授業コード：A2268

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学の授業です。古代ローマで使われていたラテン語を読むための基本的な知識を 1 年間かけて修得することを目指します。ラテン語 1・ラテン語 2 は独立した科目ですのでどちらか一方だけの履修も可能ですが、2 は 1 で修得したことを踏まえて授業を行うので、2 をとる場合は、通年で受講してください。私たちがこの 1 年間学ぶのは、古典ラテン語と呼ばれるものの基本事項です。古典ラテン語というのは紀元前 1 世紀から紀元後 1 世紀に書かれた文章語で、それ以降のラテン語の規範になります。散文ではカエサル、キケロー、リウィウス、詩ではウェルギリウス、ホラーティウス、オウィディウスらの書いた作品が代表的なものです。

【到達目標】

1 年後には辞書・文法書・註釈を使って、カエサルやウェルギリウス、オウィディウスのラテン語原典に取組めるようになることを目指します。

ラテン語 1 のみの場合は、ラテン語という言語は、基本的には、このような言語なのだなというイメージがつかめるようになります。

【授業の進め方と方法】

授業方法：下記の教科書を使い、1 課ごとに新出の文法事項を解説した後に練習問題を宿題にする、という形で授業を進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課	発音、アクセント
第 2 回	第 1 課	規則動詞・現在の活用
第 3 回	第 2 課	第 1・2 変化名詞の格変化など
第 4 回	第 3 課	第 1・2 変化形容詞、前置詞など
第 5 回	第 3、4 課	指示代名詞、動詞・完了過去、未来、第 3 変化名詞
第 6 回	第 4、5 課	第 3 変化名詞、動詞・完了
第 7 回	第 5 課	動詞・完了、過去完了、未来完了、第 3 変化形容詞
第 8 回	第 6 課	指示代名詞、動詞受動相・各時称、受動文
第 9 回	第 6、7 課	受動文、疑問詞と疑問文、関係代名詞、第 4・5 変化名詞
第 10 回	第 7、8 課	ローマ人の名前、目的分詞、完了受動分詞、動詞受動相時称の残り、命令法能動相
第 11 回	第 8、9 課	命令法受動相、述語的同格、不規則動詞の活用、形容詞の比較
第 12 回	第 9、10 課	比較級の格変化・用法、副詞の比較、部分を表わす述語的同格、形式受動相動詞、分詞の種類と作り方
第 13 回	第 10 課	分詞の用法、接合分詞
第 14 回	第 10 課	絶対的奪格

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題：初めこそ簡単ですがすぐに難しくなります。授業前の休み時間や授業日前夜寝る前に、等と考えていると手に負えなくなります。時間配分を考えてこなすようにしてください。

復習：ラテン語の名詞、代名詞、形容詞、動詞は、その一つ一つが多くの変化をし、かつ、その変化のパターンも多数あります。授業ではその一つ一つを解説しますが、これらの変化や他の多くの文法規則を自分で憶える努力をしてもらわなければなりません。

【テキスト（教科書）】

教科書として：中山恒夫『標準ラテン文法』白水社、1987 年、2,052 円：を使います。

【参考書】

ラテン語がヨーロッパ世界の中でどのような地位を占めるかについて：小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』中公新書（2006）

ラテン文学全般について：松本仁助・岡道男・中務哲郎編『ラテン文学を学ぶ人のために』世界思想社（1992）

ラテン語学習の参考として：山田晶「ラテン語に親しくなる方法」、梅棹忠夫・永井道雄編『私の外国語』中公新書（1970）所収

辞書についてはラテン語 2 の【参考書】を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

宿題である教科書章末の練習問題を丁寧にこなせば、ラテン語のしくみが感得されるようになります。評価はこの宿題の解答数により決まります（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

毎回出欠を取ります。

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

なお授業の進行状況、宿題の範囲などについては、法政大学のウェブ上の支援サイトのこの授業の掲示板で毎回報告し、授業で配布されたプリントの pdf 版も添付します。

ラテン語 2

棟尾 正敏

授業コード：A2269

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラテン語 1 を参照して下さい。

【到達目標】

ラテン語 1 を参照して下さい。

【授業の進め方と方法】

ラテン語 1 を参照して下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第 11 課	不定法の形・用法、数詞
第 2 回	第 11、12 課	数詞の続き、代名詞型形容詞、不定代名詞、動名詞の形と用法
第 3 回	第 12、13 課	動形容詞の形と用法、非人称動詞
第 4 回	第 13 課	属格・与格の用法
第 5 回	第 14 課	与格・対格・奪格の用法
第 6 回	第 14、15 課	奪格の用法、接続法の活用
第 7 回	第 15、16 課	接続法の主文の用法、時称対応、間接疑問文
第 8 回	第 16、17 課	目的文、結果文、時の文
第 9 回	第 17 課	接続詞 cum 、接続詞 quod
第 10 回	第 17、18 課	接続詞 quod 、条件文、譲歩文
第 11 回	第 18 課	比較文、関係文の特殊用法
第 12 回	第 18、19 課	関係文の特殊用法、関係文中の接続法
第 13 回	第 19 課	間接話法、副文の間接話法、条件文の帰結文の間接話法
第 14 回	第 19 課	宿題の答えあわせ 更にラテン語を勉強するための資料解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期になると、扱う内容も、宿題の練習問題も格段に難しくなります。宿題と復習に十分時間を割くようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

ラテン語 1 を参照して下さい。

【参考書】

授業では教科書以外の教材は一切必要ありませんが、以下辞書を幾つか挙げておきます。

初学者のために一番バランスのとれた辞書は、

D.P. Simpson, Cassell's Latin Dictionary, Houghton Mifflin Harcourt, 1968

羅英のほか英羅を含む。古典期の作家を読むだけならば後々まで利用できる。どうしても羅和辞典がいいという人には、

水谷智洋『改訂版羅和辞典』研究社、2009

学習用にしては用例が少し足りないが、近代までの語彙も割とカバーしてある点は便利。簡便ながら和羅を含む。同程度の外国語辞典に較べて価格が割高。

更に詳しい辞書については、著作権の切れた、羅英、羅仏、羅独辞典の、データがネット上で公開されており、誰でも簡単に利用できるようになっています。それらについては授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ラテン語 2 になると教科書章末の練習問題はかなり高度になります。授業後も教科書本文の例文と併せて丹念に復習すれば、古典期のラテン文を読むための十分な備えになります。評価は「到達目標」で示したラテン語原典に対する読解力向上を、練習問題の解答により評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

毎回出欠を取ります。

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

なお授業の進行状況、宿題の範囲などについては、法政大学のウェブ上の支援サイトのこの授業の掲示板で毎回報告し、授業で配布されたプリントの pdf 版も添付します。

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメートル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいです。また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古典ギリシア語の概要	文字の読み方
第 2 回	文字を知る	文字と発音
第 3 回	読み方の規則	発音と朗読
第 4 回	名詞・形容詞の変化 1	格変化の基礎
第 5 回	冠詞・形容詞の位置	練習問題 3
第 6 回	名詞・形容詞の変化 2	練習問題 4
第 7 回	動詞変化 1 現在・未来	練習問題 5
第 8 回	動詞変化 2 過去	練習問題 6
第 9 回	動詞変化 3 不定法	練習問題 6-2
第 10 回	動詞変化 4 アオリスト	練習問題 7
第 11 回	動詞変化の整理	練習問題 7-2
第 12 回	代名詞の用法	練習問題 8
第 13 回	動詞変化 5	練習問題 8-2
第 14 回	第 3 変化の名詞	練習問題 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

ギリシア語 2

白根 裕里枝

授業コード：A2271

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメートル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいです。すし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞変化の基礎
第 2 回	第 3 変化の名詞 2	練習問題 10-11
第 3 回	関係代名詞	練習問題 11
第 4 回	指示・強意代名詞	練習問題 12
第 5 回	比較級・約音動詞	練習問題 13-14
第 6 回	不規則な形容詞	練習問題 15-17
第 7 回	動詞変化 6	練習問題 18-19
第 8 回	分詞の用法	練習問題 20-21
第 9 回	接続法と条件文	練習問題 22
第 10 回	希求法と条件文	練習問題 23-24
第 11 回	中・受動相	練習問題 25-26
第 12 回	条件文	練習問題 27
第 13 回	接続法/希求法	練習問題 28-29
第 14 回	受動相・完了	練習問題 30-32

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ギリシア語という未知の言語に触れることのできる数少ない機会、で、難しいが、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。教科書の最後までやりとおすために、なお一層、計画を立ててじっくり進めたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単です。練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのもののへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

日本文学科

日本文学科の卒業論文について

「卒業論文」 授業コード：A2000

8単位

【卒業論文の目標・目的】

文学部日本文学科では、4年次において卒業論文（文芸コースは創作）を必修としています。卒業論文は、それまでに培ってきた専門的な知識、文献の読解力、論理的な思考力や文学的な想像力、日本語の表現力などあらゆる学業の成果を傾けて執筆する、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられます。卒業論文執筆の過程において、

- 1、日本文学の作品世界のみならず、現代の様々な事象を繊細に感受できる豊かな感性
- 2、その感性によって感受した様々な事象について、論理的に分析・考察する能力
- 3、その分析・考察の結果を独自の世界や思想を構築することに結びつけられる創造性
- 4、それら一連の成果を社会に向かって魅力的に発信していく表現力

を可能なかぎり発揮し、自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる能力を養い、すぐれた論文を完成させることを目標とします。

【卒業論文の概要と方法】

卒業論文は、通常は2・3年次で履修した選択必修科目「日本文芸研究ゼミナール」の担当教員の指導のもとで、執筆・完成を目指します。まず3年次の冬に「卒業論文指導願」と『卒業論文執筆のてびき』を受けとって各ゼミナールで説明を受け、次に4年次の5月に「卒業論文指導願」を文学部窓口に提出することにより、正式に指導教員が決定します。ゼミナールの担当教員以外の教員から指導を受けることも可能ですが、同じゼミナールを2年間継続して履修し、文献の読解力や論理的な思考力、あるいは文学的な想像力を養って問題意識を高めてきたことを考慮すると、ゼミナールの担当教員から指導を受ける方が、より適切に卒業論文のテーマを見出すことができるでしょう。教員の指導を受けながら完成した卒業論文は、1月の論文提出後に指導教員による面接審査を受けます。この口頭試問までが「卒業論文」という科目の内容に当たります。

指導の方法は、基本的に各教員による個人指導になりますが、教員の指導を受け身で待つのではなく、論文の主題も方法論も主体的に選び、積極的に研究を進めていくことが必要です。

論文の分量は、400字詰め原稿用紙で50枚以上です（ただし、文芸コースで創作が詩歌等である場合、指導教員に相談してください）。なお、ワープロソフトを使用した場合の分量は、400字詰め原稿用紙の字数から換算します。

【卒業論文の評価基準】

卒業論文の評価については、論文および面接審査の内容を総合的に考慮しますが、主として、以下の基準に照らしてA⁺ABCDEの判定を行います。

〈文学・言語コース〉

- 1、テーマ選択の独創性・妥当性
- 2、作品・資料に対する読解の正確さ
- 3、先行研究の適切な調査・整理
- 4、分析・論述・文章の適切さ

〈文芸コース〉

- 1、作品形式の適切さ
- 2、作品内容の創意工夫
- 3、文章表現の創意工夫

【その他】

・3年次の冬にはじまる卒業論文関係の行事や提出物については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の日本文学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意してください。

・優秀な論文は次年度に刊行される『日本文学誌要』に、すぐれた創作は次年度に刊行される『法政文芸』に、それぞれ掲載されます。

・所定の期日までに「卒業論文指導願」を提出しないと、卒業論文の提出が認められなくなることがあるので、注意してください。

大学での国語力

阿部 真弓、伊海 孝充、遠藤 星希、加藤 昌嘉、小林
ふみ子、坂本 勝、田中 和生、中丸 宣明、藤村 耕
治、村山 龍
共通
授業コード：A2413
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力”が必要とされます。

その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

【到達目標】

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考にすることができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる

以上のような力を身につけたうえで、「2000 字程度のレポートを書く」ことを、最終到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★毎回、漢字の小テストを実施します。

★1 時限分を使って、図書館ガイダンスを行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	自己紹介
2	ガイダンス 2	図書館ガイダンス（実施日はクラスによって異なります）
3	導入編 1	ノートの取り方
4	導入編 2	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編 3	文章を読む（要約）
6	導入編 4	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編 1	レポートの書き方
8	基礎編 2	資料の探し方
9	基礎編 3	文献引用の仕方
10	基礎編 4	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編 1	「問い」と「答え」の設定
12	発展編 2	章立て（目次）を検討する
13	発展編 3	レポート完成／相互採点
14	発展編 4	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の漢字テキストを、教員の指示に従って学習すること。

また、各回の課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

川鍋義一&小秋元段 編『新選 総合漢字問題集』（おうふう）

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック 2018』

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（20％）。4 回以上欠席すると、単位を修得できません。
2. 毎回実施する、漢字の小テスト（30％）。
3. 発表の内容・提出物の出来（50％）。課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「レポート作成の手順が分かった」という感想が多く寄せられました。

◎漢字の小テストは、語彙力養成の訓練だと考えてください。

◎全担当教員でミーティングを行い、授業内容を工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施する（昼間時間帯 10 コマ、夜間時間帯 1 コマ開講）。

日本文学概論 A

伊海 孝充

授業コード：A2401

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。

【到達目標】

日本の文学・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー形式で授業を担当し、各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。各回の担当教員および具体的な授業内容は授業計画の通りです。授業方法は、各教員がそれぞれ工夫を凝らした講義形式で行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	藤村耕治「ガイダンス」	本講義の内容・特徴・受講の仕方、成績評価などについての説明 アジアの中の日本現代文学①
第 2 回	中沢けい「日本現代文学・創作」	アジアの中の日本現代文学②
第 3 回	中沢けい「日本現代文学・創作」	アジアの中の日本現代文学②
第 4 回	田中和生「日本現代文学・創作」	近代批評
第 5 回	田中和生「日本現代文学・創作」	現代批評
第 6 回	藤村耕治「日本近現代文学」	研究と批評の違い
第 7 回	藤村耕治「日本近現代文学」	作品論の実践
第 8 回	中丸宣明「日本近現代文学」	近代小説の形成
第 9 回	中丸宣明「日本近現代文学」	話芸・演劇の近代
第 10 回	小林ふみ子「日本近世文学」	雅俗の近世文学—表現の多様性—
第 11 回	小林ふみ子「日本近世文学」	近世文学の視覚的表現—絵と文—
第 12 回	小秋元段「日本中世文学」	『平家物語』の魅力
第 13 回	小秋元段「日本中世文学」	『徒然草』序段の「誕生」
第 14 回	藤村耕治「総括」	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。特に、各回示される授業のねらいを意識して、復習をしっかり行うようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

各教員が必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

各教員が必要に応じて、紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中に実施する試験の成績を重視します（85％）、また、毎回提出してもらうリアクションペーパーにより、授業の理解度をチェックします（15％）。試験は記述式で、プリントや資料等を参照することはできません。なお、試験の詳細については掲示されますので、掲示板等に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるとともに、復習しやすくするため、各回の目標・ねらいをわかりやすく示します。

【学生が準備すべき機器他】

各教員が必要に応じて使用します。

日本文芸学概論 A

伊海 孝充

夜間時間帯

授業コード：A2402

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。

【到達目標】

日本の文学・芸能の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー形式で授業を担当し、各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。各回の担当教員および具体的な授業内容は授業計画の通りです。授業方法は、各教員がそれぞれ工夫を凝らした講義形式で行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	藤村耕治「ガイダンス」	本講義の内容・特徴・受講の仕方、成績評価などについての説明 アジアの中の日本現代文学①
第 2 回	中沢けい「日本現代文学・創作」	
第 3 回	中沢けい「日本現代文学・創作」	アジアの中の日本現代文学②
第 4 回	田中和生「日本現代文学・創作」	近代批評
第 5 回	田中和生「日本現代文学・創作」	現代批評
第 6 回	藤村耕治「日本近現代文学」	研究と批評の違い
第 7 回	藤村耕治「日本近現代文学」	作品論の実践
第 8 回	中丸宣明「日本近現代文学」	近代小説の形成
第 9 回	中丸宣明「日本近現代文学」	話芸・演劇の近代
第 10 回	小林ふみ子「日本近世文学」	雅俗の近世文学—表現の多様性—
第 11 回	小林ふみ子「日本近世文学」	近世文学の視覚的表現—絵と文—
第 12 回	小秋元段「日本中世文学」	『平家物語』の魅力
第 13 回	小秋元段「日本中世文学」	『徒然草』序段の誕生
第 14 回	藤村耕治「総括」	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。特に、各回示される授業のねらいを意識して、復習をしっかりと行うようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

各教員が必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

各教員が必要に応じて、紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらうリアクションペーパーを、平常点として重視します（30 %）。また、定期試験期間中に試験を行います（70 %）。試験は記述式で、プリントや資料等を参照することはできません。なお試験の詳細については掲示されますので、掲示板等に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるとともに、復習しやすくするため、各回の目標・ねらいをわかりやすく示します。

【学生が準備すべき機器他】

各教員が必要に応じて使用します。

日本文芸学概論 B

伊海 孝充

授業コード：A2403

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・芸能と、それらと深い関わりを持つ漢文学や中国文学の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。

【到達目標】

日本の文学・芸能と、それらと深い関わりを持つ漢文学や中国文学の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー形式で授業を担当し、各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。各回の担当教員および具体的な授業内容は授業計画の通りです。授業方法は、各教員がそれぞれ工夫を凝らした講義形式で行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	坂本勝「ガイダンス」	本講義の内容・特徴・受講の仕方、成績評価についての説明
第 2 回	伊海孝充「能楽研究」	能が描く空間①
第 3 回	伊海孝充「能楽研究」	能が描く空間②
第 4 回	阿部真弓「日本中世文学」	日記文学の面白さ
第 5 回	阿部真弓「日本中世文学」	本歌取り・物語取りは盗作か
第 6 回	加藤昌嘉「日本中古文」	写本・版本の姿
第 7 回	加藤昌嘉「日本中古文」	『源氏物語』の謎
第 8 回	坂本勝「日本上代文学」	上代文学の世界①
第 9 回	坂本勝「日本上代文学」	上代文学の世界②
第 10 回	スティーヴン・G・ネルソン「日本音楽史」	古典音楽の種目と楽器
第 11 回	スティーヴン・G・ネルソン「日本音楽史」	《越天楽》歌謡の系譜
第 12 回	遠藤星希「中国古典文学」	李白「静夜思」を読む
第 13 回	遠藤星希「中国古典文学」	白居易「長恨歌」を読む
第 14 回	坂本勝「総括」	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。特に、各回示される授業のねらいを意識して、復習をしっかりと行うようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

各教員が必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

各教員が必要に応じて、紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中に実施する試験の成績を重視します（85 %）。また、毎回提出してもらうリアクションペーパーにより、授業の理解度をチェックします（15 %）。試験は記述式で、プリントや資料等を参照することはできません。なお、試験の詳細については掲示されますので、掲示板等に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるとともに、復習しやすくするため、各回の目標・ねらいをわかりやすく示します。

【学生が準備すべき機器他】

各教員が必要に応じて使用します。

日本文学概論 B

伊海 孝充

夜間時間帯

授業コード：A2404

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・芸能と、それらと深い関わりを持つ漢文学や中国文学の歴史および現状について、各専門分野の視点を生かして概括し、その魅力を味わいます。

【到達目標】

日本の文学・芸能と、それらと深い関わりを持つ漢文学や中国文学の歴史および現状について、各専門分野の視点を理解して基礎的な知識を身につけ、研究の初歩的な方法について学ぶことを目指します。

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー形式で授業を担当し、各教員は自らの専門分野に関する講義を行います。各回の担当教員および具体的な授業内容は授業計画の通りです。授業方法は、各教員がそれぞれ工夫を凝らした講義形式で行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	坂本勝「ガイダンス」	本講義の内容・特徴・受講の仕方、成績評価についての説明
第 2 回	伊海孝充「能楽研究」	能が描く空間①
第 3 回	伊海孝充「能楽研究」	能が描く空間②
第 4 回	阿部真弓「日本中世文学」	日記文学の面白さ
第 5 回	阿部真弓「日本中世文学」	本歌取り・物語取りは盗作か
第 6 回	加藤昌嘉「日本中古文学」	写本・版本の姿
第 7 回	加藤昌嘉「日本中古文学」	『源氏物語』の謎
第 8 回	坂本勝「日本上代文学」	上代文学の世界①
第 9 回	坂本勝「日本上代文学」	上代文学の世界②
第 10 回	スティーヴン・G・ネルソン「日本音楽史」	古典音楽の種目と楽器
第 11 回	スティーヴン・G・ネルソン「日本音楽史」	《越天楽》歌謡の系譜
第 12 回	遠藤星希「中国古典文学」	李白「静夜思」を読む
第 13 回	遠藤星希「中国古典文学」	白居易「長恨歌」を読む
第 14 回	坂本勝「総括」	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の指示に従って、予習・復習を行うこと。特に、各回示される授業のねらいを意識して、復習をしっかりと行うようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

各教員が必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

各教員が必要に応じて、紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらうアクションペーパーを、平常点として重視します（30 %）。また、定期試験期間中に試験を行います（70 %）。試験は記述式で、プリントや資料等を参照することはできません。なお試験に関する詳細は掲示されますので、掲示板に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるとともに、復習しやすくするため、各回の目標・ねらいをわかりやすく示します。

【学生が準備すべき機器他】

各教員が必要に応じて使用します。

日本言語学概論 A

間宮 厚司

授業コード：A2409

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語に関する知識を幅広く修得し、応用のきく考える力を多面から養います。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の言語を大和古語と比較することで、問題の立て方、資料の集め方、論の組み立て方、書き方についても学びます。その他、日本語の興味深い点について、いろいろと紹介します。

【到達目標】

この授業は、1 年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本言語学への理解を深め、その魅力を知ることを到達目標にします。

【授業の進め方と方法】

授業はプリントとテキストを併用して進めます。前半は、プリントで具体例を示しながら、身近な日本語の意外に知られていない面を受講生と共に考えます。後半は、テキストを用いて、沖縄方言の古い姿を大和古語と比較することで、語源・文法・表記について丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	沖縄古語の語源（1）	グスク（城）の語源
第 3 回	沖縄古語の語源（2）	テダ（太陽）の語源
第 4 回	沖縄古語の語源（3）	オモロ（神歌）の語源
第 5 回	沖縄古語の語源（4）	アヂ（按司）の語源
第 6 回	沖縄古語の語源（5）	ミルヤ・カナヤ（神観念語）の語源
第 7 回	沖縄古語の語源（6）	アマミヤ・シネリヤ（神観念語）の語源
第 8 回	沖縄古語の語源（7）	オボツ・カグラ（神観念語）の語源
第 9 回	沖縄古語の語源（8）	チャウ（門）とウリズン（季節語）の語源
第 10 回	沖縄古語の文法（1）	係り結びの種類と用法
第 11 回	沖縄古語の文法（2）	形容詞の種類と方法 自称名詞ア・ワ（我）
第 12 回	沖縄古語の表記（1）	助詞ガの表記 助詞テの表記と語釈
第 13 回	沖縄古語の表記（2）	類推表記をめぐって 助詞ハの表記・発音
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『沖縄古語の深層 [増補版]』（森話社、2014 年、1900 円＋税）

【参考書】

山口佳紀編『暮らしのことば 新 語源辞典』（講談社、2008 年、4500 円）
山口仲美編『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003 年、3800 円）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の温度を調整してほしい。

日本語学概論 A

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2410

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進みます。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、議論の検討を行います。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	言語・ことば
第 2 回	「言語」とは？	言語本質論 1（一般言語学）
第 3 回	言語は記号？	言語本質論 2（記号論）
第 4 回	言語はコミュニケーションの手段？	言語本質論 3（言語使用）
第 5 回	言語が異なれば思考も違う？	人類言語学
第 6 回	比喩とは？	レトリック・比喩論
第 7 回	心とことばの関係は？	心理言語学 1（心とことば）
第 8 回	子どもはことばをどう獲得？	心理言語学 2（言語習得）
第 9 回	社会とことばの関係は？	社会言語学 1（社会とことば）
第 10 回	「方言」とは？	社会言語学 2（地域方言）
第 11 回	ことばからみる「らしさ」とは？	社会言語学 3（役割語）
第 12 回	ことばの世代差・男女差とは？	社会言語学 4（社会方言）
第 13 回	円滑な対人関係を築くことば遣いとは？	ボライトネス理論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（本授業は事前の予備知識は必要としないが）ことばに興味を持つ姿勢を日頃から身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる姿勢を身につける。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付けます。

日本語学概論 B

尾谷 昌則

授業コード：A2411

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

【到達目標】

各領域における基礎概念・用語を理解し、その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	外国語としてみた日本語
第 2 回	音韻論	音素、異音、音脱落、音添加など
第 3 回	形態論 (1)	形態素と語構成
第 4 回	形態論 (2)	連濁と複合語の意味
第 5 回	統語論 (1)	品詞と活用
第 6 回	統語論 (2)	文の要素と文法
第 7 回	統語論 (3)	4つの文法カテゴリー
第 8 回	意味論 (1)	語彙の意味
第 9 回	意味論 (2)	品詞の意味と文法
第 10 回	意味論 (3)	意味と認知
第 11 回	語用論 (1)	意味論から語用論へ
第 12 回	語用論 (2)	会話の含意
第 13 回	語用論 (3)	敬語と待遇表現
第 14 回	談話分析介	談話分析の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探し、それを次回講義のリアクションペーパーに書く。それが毎回の宿題である。

【テキスト（教科書）】

毎回独自のプリントを配布する。

【参考書】

『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか、朝倉書店）
『言語学大辞典』（三省堂）
『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）
『日本語学研究事典』（飛田良文ほか、明治書院）
『日本語語用論のしくみ』（加藤重広、研究社）
『日本語音声学のしくみ』（猪塚元・猪塚恵美子、研究社）
『認知意味論のしくみ』（初山洋介、研究社）
『日本語文法のしくみ』（井上優、研究社）
『日本語学のしくみ』（加藤重広、研究社）
『言語学のしくみ』（町田健、研究社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習でもあるため、そのような意識が学生に芽生えるよう注意したい。

日本語学概論 B

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2412

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用し、講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進みます。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、議論の検討を行います。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考えます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ことばの学問
第 2 回	ことばの様々な側面	言語学の射程・言語学の関連分野
第 3 回	言語の祖先はどのようなものか？	比較言語学
第 4 回	言語は世界に何種類あるのか？	言語普遍論・言語類型論
第 5 回	コミュニケーションとは何か？	語用論・コミュニケーション論
第 6 回	ことばの意味とは何か？	意味論・語彙論
第 7 回	品詞とは？ 文の構造とは？	統語論・文法論
第 8 回	単語とは何か？	形態論
第 9 回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第 10 回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第 11 回	文章が成立している背景とは？	テキスト言語学・談話分析
第 12 回	ことばでどう表現するか？	認知言語学
第 13 回	ことばは思考にどう影響するのか？	言語相対論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（本授業は事前の予備知識は必要としないが）各回に登場する用語・概念について、授業後、定義とその具体例が説明できるようにする。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる姿勢を身につける。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（50％）、期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付けます。

日本文芸史 I A

坂本 勝

授業コード：A2405

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】

（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	授業概説
第 2 回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第 3 回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第 4 回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第 5 回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第 6 回	『古今和歌集』	文学史における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第 7 回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第 8 回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第 9 回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第 10 回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第 11 回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第 12 回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第 13 回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第 14 回	試験	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。

【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補3訂版』（文英堂）

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

「定期試験期間」に行う筆記試験（86％）、各回のリアクションペーパー（14％）

【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

日本文芸史 I A

坂本 勝

夜間時間帯

授業コード：A2406

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】

(A) 古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。(B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。(C) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	授業概説
第 2 回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第 3 回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第 4 回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第 5 回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第 6 回	『古今和歌集』	文 g 飼う詩における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第 7 回	『土佐日記』	文学史における『土佐日記』の意義を学ぶ。
第 8 回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第 9 回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第 10 回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第 11 回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第 12 回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第 13 回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第 14 回	試験	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。

【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補三訂版』（文英堂）

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

「定期試験期間」に行う筆記試験（86 %）、各回のリアクションペーパー（14 %）

【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

日本文芸史 I B

阿部 真弓、小林 ふみ子

授業コード：A2407

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】

- (A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
- (B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【授業の進め方と方法】

中世と近世の担当で前半と後半を分担します。

講義を基本とし、適宜授業中に発言を求めることがあります。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世 1	中世的世界の始まり
第 2 回	中世 2	説話
第 3 回	中世 3	韻文
第 4 回	中世 4	随筆
第 5 回	中世 5	軍記物語
第 6 回	中世 6	お伽草子
第 7 回	中世 7	中世文学のまとめ
第 8 回	近世 1	近世の始まり 仮名草子
第 9 回	近世 2	近世前期～中期・上方の小説
第 10 回	近世 3	俳諧
第 11 回	近世 4	漢詩・和歌・狂歌
第 12 回	近世 5	人形浄瑠璃・歌舞伎
第 13 回	近世 6	近世中期・江戸の小説
第 14 回	近世 7	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を覚えているうちに復習し、試験に備えましょう。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付する。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間に行う筆記試験（85 %）と各回のリアクションペーパー（15 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。

文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることとは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

日本文芸史 I B

阿部 真弓、小林 ふみ子

夜間時間帯

授業コード：A2408

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】

(A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
(B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【授業の進め方と方法】

中世と近世の担当者で前半と後半を分担します。
講義を基本とし、適宜授業中に発言を求めることがあります。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世 1	中世的世界の始まり
第 2 回	中世 2	説話
第 3 回	中世 3	韻文
第 4 回	中世 4	随筆
第 5 回	中世 5	軍記物語
第 6 回	中世 6	お伽草子
第 7 回	中世 7	中世文学のまとめ
第 8 回	近世 1	近世の始まり 仮名草子
第 9 回	近世 2	近世前期～中期・上方の小説
第 10 回	近世 3	俳諧
第 11 回	近世 4	漢詩・和歌・狂歌
第 12 回	近世 5	人形浄瑠璃・歌舞伎
第 13 回	近世 6	近世中期・江戸の小説
第 14 回	近世 7	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を覚えているうちに復習し、試験に備えましょう。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付する。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間に行う筆記試験（70％）と各回のリアクションペーパー（30％）で総合的に評価する。6 限開講のこちらは各回のリアクションペーパーを重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないよう内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ること不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

文学概論 A

中丸 宣明

授業コード：A2425

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第 2 回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第 3 回	文学史の時代区分について	印刷から出版へ
第 4 回	文学史の時代区分について	IT 時代へ
第 5 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 1
第 6 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 2
第 7 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 1
第 8 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 2
第 9 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 3
第 10 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 1
第 11 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 2
第 12 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 3
第 13 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 1
第 14 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】

講義中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60％）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（40％）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

文学概論 A

岡野 幸江

夜間時間帯

授業コード：A2426

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学創作にはどのような要素が働き、文学作品はどのように成立するのか、前提となる事項について学びます。併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら文学鑑賞力を高めていきます。

【到達目標】

文学作品が成立する上で重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが学習の到達目標です。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらう時間も設けたいと思います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー春季授業のコンセプトについて	春季授業の概要について、これまでに読んだことのある作品で印象に残るものについて話し合います。
第 2 回	創作過程の分析	作家論、作品論、生成研究などについて、現在どのような研究状況かを考えます。
第 3 回	体験・実感／制作の前段階 1	作家の体験談をどう読むか、作品の前段階とは何かを考えます。
第 4 回	体験・実感／制作の前段階 2	二葉亭四迷『浮雲』の成立を「作家の苦心談」「余が言文一致の由来」「余が半生の懺悔」などから考えます。
第 5 回	モチーフと書き出し 1	書き出しが作品に与える影響について考えます。
第 6 回	モチーフと書き出し 2	樋口一葉「たけくらべ」「にぎりえ」から、作品のモチーフと書き出しについて考えます。
第 7 回	素材・題材の所在 1	作品の素材や題材はどこにあるか考えます。
第 8 回	素材・題材の所在 2	原民喜『夏の花』、大田洋子『屍の街』から素材や題材の問題を考えます。
第 9 回	想像力の働き 1	想像力が文学制作にどのような働きをするか考えます。
第 10 回	想像力の働き 2	野間宏『全体小説と想像力』から、想像力とは何かについて考えます。
第 11 回	意図と主題の関係 1	意図と主題の違いや関係性について考えます。
第 12 回	意図と主題の関係 2	芥川龍之介「文芸的な余りに文芸的な」を通し、大正期テーマ小説との関係を考えます。
第 13 回	作品解釈および鑑賞力向上についてのまとめ	取りあげた作品を振り返り作品解釈と鑑賞力向上に何が必要か考えます。
第 14 回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の考えをしっかりと表現できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016 年、2000 円＋税

【参考書】

『日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016 年、2600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

S:100 ～ 90 点、A:89 ～ 80 点、B:79 ～ 70 点、C:69 ～ 60 点、D：59 点以下 X:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさん作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】

取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

文学概論 B

中丸 宣明

授業コード：A2427

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を開く上での知識の確認。(春学期講義未受講者への対策指導あり)
第 2 回	メディア論	メディアとは何か 1 リテラシーと都市
第 3 回	メディア論	リテラシーの質
第 4 回	書籍出版論	仮名草子の世界
第 5 回	書籍出版論	江戸期の出版
第 6 回	書籍出版論	明治期の出版
第 7 回	新聞論	瓦版から
第 8 回	新聞論	幕末維新期の情報伝達
第 9 回	新聞論	明治期の新聞
第 10 回	雑誌論	江戸期のから伝統
第 11 回	雑誌論	投稿雑誌
第 12 回	雑誌論	文学雑誌へ／から
第 13 回	デジタルメディア論	I T 革命とは
第 14 回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると言うことを肝に命ずべし。

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】

授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60 %）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40 %）。リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

文学概論 B

岡野 幸江

夜間時間帯

授業コード：A2428

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学概論Aをふまえ、文学作品がどのような方法で描かれ、どのようなメッセージを発しているか、文学作品を分析、鑑賞するにあたって欠かせない事項について学びます。併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら、文学鑑賞力をさらに高めていきます。

【到達目標】

文学作品が表現されるうえで重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが学習の到達目標です。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらい場面も設けたいと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	構想・構成・筋・フィクション 1	構想・構成・筋・フィクションの関係性について考えます。
第 2 回	構想・構成・筋・フィクション 2	樋口一葉「にぎりえ」を通して、構想、構成、筋、フィクションについて考えます。
第 3 回	様々な表現・描写、技法・手法 1	様々な表現・描写論について考えます。
第 4 回	様々な表現・描写、技法・手法 2	梅崎春雄「桜島」「日の果て」を通し、表現・描写について考えます。
第 5 回	様々な表現・描写、技法・手法 3	芥川龍之介「枯野抄」を通して、技法・手法について考えます。
第 6 回	スタイル・文体・個性の創出 1	スタイルと文体の関係、作家の個性とは何かについて考えます。
第 7 回	スタイル・文体・個性の創出 2	田村俊子「生血」などを通して、スタイル・文体・個性の問題を考えます。
第 8 回	典型とは何か 1	文学作品において典型とはどのようなものかについて考えます。
第 9 回	典型とは何か 2	夏目漱石『それから』を通して、典型とは何かを考えます。
第 10 回	表現と思想の関係 1	観念や思想が形象化された表現とはどのようなものか考えます。
第 11 回	表現と思想の関係 2	カミュ『異邦人』を通して、思考・思想の生動化について考えます。
第 12 回	詩法・ドラマトゥルギーとは何か	詩法やドラマトゥルギーとは何か、ドラマとレーゼドラマの違いなどについて考えます。
第 13 回	まとめ	取りあげた作品を振り返り、鑑賞力の向上と作品研究へのいとぐちを考えます。
第 14 回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の考えをしっかりと表現できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの各章と取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

『芸文学講義』小田切秀雄、葺柿堂、2016 年、2000 円＋税

【参考書】

『日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016 年、2600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

S:100 ～ 90 点、A:89 ～ 80 点、B:79 ～ 70 点、C:69 ～ 60 点、D：59 点以下 X:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけ多くの作品に接することができるよう心掛けたいと思います

【その他の重要事項】

取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

日本文芸史 II A

藤村 耕治

授業コード：A2429

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。

文学史の事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力を身に付けることを目指します。

【授業の進め方と方法】

春学期セメスターでは、明治初期から中期、日本近代文学の発達の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品に当たりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。

授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	明治日本の国家政策と文芸①	文明開化と啓蒙主義思想
第 2 回	明治日本の国家政策と文芸②	江戸末期から明治に至る戯作文学の位置
第 3 回	近代文学の発端・坪内逍遙①	「小説神髓」を読む
第 4 回	近代文学の発端・坪内逍遙②	「小説神髓」と「当世書生気質」
第 5 回	二葉亭四迷の挑戦①	二葉亭四迷「浮雲」第一篇を読む
第 6 回	二葉亭四迷の挑戦②	二葉亭四迷「浮雲」第二・三篇を読む
第 7 回	二葉亭四迷の挑戦③	「浮雲」はいかに書かれたか
第 8 回	森鷗外の場合①	「舞姫」を再読する
第 9 回	森鷗外の場合②	「舞姫」が描いたもの
第 10 回	森鷗外の場合③	「浮雲」と「舞姫」
第 11 回	硯友社の文学①	硯友社と尾崎紅葉
第 12 回	硯友社の文学②	尾崎紅葉の初期作品を読む
第 13 回	硯友社の文学③	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む
第 14 回	近代文学の展開	紅露道鸚の時代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通してくることで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとういでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 70 %、授業内で随時行う小レポートやリアクションペーパーの提出率及び内容 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文学史の学習は、ともすれば作家や作品の羅列的暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

日本文芸史Ⅱ B

藤村 耕治

授業コード：A2431

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

Aと同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】

明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の見取り図	明治期の文芸史についての概括的な解説
第2回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第3回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論
第4回	浪漫主義の文学③	北村透谷と浪漫主義文学
第5回	女性作家の登場①	樋口一葉とその初期作品
第6回	女性作家の登場②	樋口一葉「たけくらべ」を読む
第7回	女性作家の登場③	樋口一葉「たけくらべ」の文学史的的位置
第8回	自然主義前史	ゾラの自然主義と日本自然主義前史
第9回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第10回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」の可能性
第11回	自然主義文学③	田山花袋「蒲団」を読む
第12回	自然主義文学④	自然主義から私小説へ
第13回	自然主義文学への反応①	夏目漱石の場合
第14回	自然主義文学への反応②	芥川龍之介の場合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【テキスト（教科書）】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【参考書】

日本文芸史ⅡAに同じ。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 70 %、授業内で随時行う小レポートやリアクションペーパーの提出率及び内容 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史ⅡAに同じ。

ゼミナールⅠ A

遠藤 星希

授業コード：A2615

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『唐詩選』精読】

『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514—1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 465 首の詩を収録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

1. 『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第2回	ガイダンス（2）	唐詩の形式と規則についての概説。
第3回	ガイダンス（3）	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第4回	『唐詩選』精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第5回	『唐詩選』精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第6回	『唐詩選』精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第7回	『唐詩選』精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第8回	『唐詩選』精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第9回	『唐詩選』精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第10回	『唐詩選』精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第11回	『唐詩選』精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第12回	『唐詩選』精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第13回	『唐詩選』精読（10）	担当者による発表と討論（10）
第14回	『唐詩選』精読（11）	担当者による発表と討論（11）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
- ・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
- ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
- ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

ゼミナール 1 B

遠藤 星希

授業コード：A2616

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『三体詩』精読】

『三体詩』は、南宋の周弼が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 494 首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

1. 『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3 年生と 2 年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	春学期の復習	春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。
第 3 回	『三体詩』精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第 4 回	『三体詩』精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第 5 回	『三体詩』精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第 6 回	『三体詩』精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第 7 回	『三体詩』精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第 8 回	『三体詩』精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第 9 回	『三体詩』精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第 10 回	『三体詩』精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第 11 回	『三体詩』精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第 12 回	『三体詩』精読（10）	担当者による発表と討論（10）
第 13 回	『三体詩』精読（11）	担当者による発表と討論（11）
第 14 回	『三体詩』精読（12）	担当者による発表と討論（12）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
 - ・村上哲見『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
 - ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
 - ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいうような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

ゼミナール 2 A

坂本 勝

授業コード：A2617

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身につける。21 世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	古事記について基本的な解説を行う。解説の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。
第 2 回	テキストについて	古事記のテキスト概説
第 3 回	研究史について	古事記の研究史概説
第 4 回	参考文献について	古事記研究の参考文献概説
第 5 回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第 6 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ	教員による春学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各 1 回のレポート提出（約 60%）、平常点（約 40%）。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

ゼミナール2 B

坂本 勝

授業コード：A2618

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身につける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます）

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	万葉集について基本的な解説を行う。解説の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。
第2回	テキストについて	万葉集のテキスト概説
第3回	研究史について	万葉集の研究史概説
第4回	参考文献について	万葉集研究の参考文献概説
第5回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第6回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第7回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第8回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第9回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第10回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第11回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第12回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第13回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第14回	まとめ	教員による秋学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各1回のレポート提出（約60%）、平常点（約40%）。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

ゼミナール3 A

加藤 昌嘉

授業コード：A2619

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』の“紫上系”の巻々を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の4つの力を養うことを目標とします。

1. 『源氏物語』の本文を正確に読む力
2. 問題点を発見し、調査する力
3. わかりやすいプレゼンをする力
4. 皆でディスカッションする力

【授業の進め方と方法】

◆春学期は、「若紫」～「賢木（榊）」巻を読みます。

◆2人1組の班が発表を行い、全員で議論します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	『源氏物語』概説
2	ガイダンス②	現代語訳の比較
3	若紫	A班発表
4	若紫	B班発表
5	紅葉賀	C班発表
6	紅葉賀	D班発表
7	紅葉賀	E班発表
8	花宴	F班発表
9	葵	G班発表
10	葵	H班発表
11	葵	I班発表
12	賢木（榊）	J班発表
13	賢木（榊）	K班発表
14	賢木（榊）	L班発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆各自、『源氏物語』『若紫』～「賢木（榊）」巻を読み進めること。

予習をして来ることが、ゼミ参加の必須条件です。

【テキスト（教科書）】

◆以下の現代語訳のいずれかを購入し、熟読すること。

◎林望 訳『謹訳源氏物語』1～2巻（祥伝社文庫）

◎大塚ひかり 訳『源氏物語』1～2巻（ちくま文庫）

◆以下のテキスト（原文&注釈）を座右に置いてください。

◎藤井貞和ほか 校注『源氏物語』1～2巻（岩波文庫）

【参考書】

◆以下の入門書を推薦します。

◎大野晋&丸谷オ一『光源氏の物語』上下巻（中公文庫）

◎清水婦久子『源氏物語の真相』（角川選書）

◎田口榮一『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術）

【成績評価の方法と基準】

◆以下の2点を重視します。

1. くわしく調査し、わかりやすいプレゼンを行ったかどうか（50%）
2. 毎回、意欲的にディスカッションに加わったかどうか（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆皆が自由に発言できる雰囲気作りを心がけます。

【その他の重要事項】

◆8月末に、ゼミ合宿を開催します（京都、伊勢など）

◆折にふれ、出光美術館や東京国立博物館へ出掛けます。

ゼミナール3 B

加藤 昌嘉

授業コード：A2620

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』の“紫上系”の巻々を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の4つの力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を正確に読む力
- 2、問題点を発見し、調査する力
- 3、わかりやすいプレゼンをする力
- 4、皆でディスカッションする力

【授業の進め方と方法】

◆秋学期は、「花散里」～「薄雲」巻を読みます。

◆2人1組の班が発表を行い、全員で討議します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	合評①	レポート討議
2	合評②	レポート討議
3	花散里	M班発表
4	須磨	N班発表
5	須磨	O班発表
6	明石	P班発表
7	明石	Q班発表
8	滯標	R班発表
9	滯標	S班発表
10	絵合	T班発表
11	絵合	U班発表
12	松風	V班発表
13	松風	W班発表
14	薄雲	X班発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆各自、『源氏物語』『花散里』～「薄雲」巻を読み進めること。予習をして来ることが、ゼミ参加の必須条件です。

【テキスト（教科書）】

◆以下の現代語訳のいずれかを購入し、熟読すること。

◎林望 訳『謹訳源氏物語』2～3巻（祥伝社文庫）

◎大塚ひかり 訳『源氏物語』2巻（ちくま文庫）

◆以下のテキスト（原文&注釈）を座右に置いてください。

◎藤井貞和ほか 校注『源氏物語』2～3巻（岩波文庫）

【参考書】

◆以下の入門書を推薦します。

◎工藤重矩『源氏物語の結婚』（中公新書）

◎今井源衛『源氏物語への招待』（小学館）

◎日向一雅『謎解き源氏物語』（ウェッジ）

【成績評価の方法と基準】

◆以下の3点を重視します。

- 1、くわしく調査し、わかりやすいプレゼンを行ったかどうか（40%）
- 2、毎回、意欲的にディスカッションに加わったかどうか（30%）
- 3、しっかりした内容のレポートを提出したかどうか（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

◆『源氏物語絵巻』や『源氏物語画帖』を使って、視覚的な場面把握ができるようにします。

ゼミナール4 A

阿部 真弓

授業コード：A2621

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『百人一首』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

【到達目標】

- ①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、中世の文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ④簡単なくずし字が読める。

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自が担当歌について調べ、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、変体仮名解読練習等を行います。また、夏休み中にゼミ合宿をします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (1)	『百人一首』概説
第2回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第3回	変体仮名解読練習	変体仮名についての解説・解読練習
第4回	変体仮名解読練習	変体仮名についての解説・解読練習
第5回	『百人一首』読解	発表と討論
第6回	『百人一首』読解	発表と討論
第7回	『百人一首』読解	発表と討論
第8回	『百人一首』読解	発表と討論
第9回	『百人一首』読解	発表と討論
第10回	『百人一首』読解	発表と討論
第11回	『百人一首』読解	発表と討論
第12回	『百人一首』読解	発表と討論
第13回	『百人一首』読解	発表と討論
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、発表される和歌について予習をした上で授業にのぞむこと。

・テキストは影印本ですので、各自、くずし字の解読練習に励んでください。

【テキスト（教科書）】

・笠間文庫 04〈影印シリーズ〉『百人一首』（笠間書院、2005年）

・『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988年）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容 40%（①②④）、レポート 40%（①②③）、討論への参加状況 20%（②）という配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

ゼミナール4 B

阿部 真弓

授業コード：A2622

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

御伽草子の作品を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

【到達目標】

- ①自らテーマを選び、考究する力を養う。
- ②文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを選び、調べ、考察したことを発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	御伽草子概説
第 2 回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 3 回	御伽草子研究	発表と討論
第 4 回	御伽草子研究	発表と討論
第 5 回	御伽草子研究	発表と討論
第 6 回	御伽草子研究	発表と討論
第 7 回	御伽草子研究	発表と討論
第 8 回	御伽草子研究	発表と討論
第 9 回	御伽草子研究	発表と討論
第 10 回	御伽草子研究	発表と討論
第 11 回	御伽草子研究	発表と討論
第 12 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括
第 13 回	卒業論文について	卒業論文執筆に関する説明
第 14 回	卒業論文ミニ発表会	3 年生による卒業論文テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

『新潮日本古典集成 御伽草子集』（松本隆信校注、新潮社、1980 年）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 %（①②③）、レポート 40 %（①②④）、討論への参加状況 20 %（③）という配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

ゼミナール5 A

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2623

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標はつぎのとおり。

1. 『平家物語』について、その内容や作品の特徴を正確に理解すること。
2. 作品研究を行うにあたり、自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけること。
3. 発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝える技術を身につけること。

【授業の進め方と方法】

『平家物語』を教材とする。2～3 人で 1 グループを作り、希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第 2 回	『平家物語』について	作品の解説
第 3 回	『平家物語』について	作品の解説
第 4 回	研究方法について	調査方法の解説
第 5 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 6 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 7 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 8 回	発表	発表 (A グループ)
第 9 回	発表	発表 (B グループ)
第 10 回	発表	発表 (C グループ)
第 11 回	発表	発表 (D グループ)
第 12 回	発表	発表 (E グループ)
第 13 回	発表	発表 (F グループ)
第 14 回	発表	発表 (G グループ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらおう。

【テキスト（教科書）】

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000 年）

【参考書】

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、および研究発表の内容に二分の一ずつの比重を置く。なお、欠席は二回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007 年度 京都
2008 年度 厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009 年度 平泉（岩手）
2010 年度 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011 年度 京都
2012 年度 呉、厳島神社（広島）
2013 年度 京都
2014 年度 松江、出雲、大森銀山
2015 年度 京都
2016 年度 札幌、小樽
2017 年度 京都

ゼミナール5 B

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2624

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。お伽草子を取りあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標はつぎのとおり。

1. お伽草子について、その内容や作品の特徴を正確に理解すること。
2. 作品研究を行うにあたり、自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけること。
3. 発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝える技術を身につけること。

【授業の進め方と方法】

お伽草子を教材とする。2～3 人で 1 グループを作り、希望する章段を取りあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第 2 回	お伽草子について	作品の解説
第 3 回	お伽草子について	作品の解説
第 4 回	研究方法について	調査方法の解説
第 5 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 6 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 7 回	調査	図書館で、グループごとに共同調査を行う
第 8 回	発表	発表 (A グループ)
第 9 回	発表	発表 (B グループ)
第 10 回	発表	発表 (C グループ)
第 11 回	発表	発表 (D グループ)
第 12 回	発表	発表 (E グループ)
第 13 回	発表	発表 (F グループ)
第 14 回	発表	発表 (G グループ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらおう。

【テキスト（教科書）】

市古貞次校注 日本古典文学大系『御伽草子』（岩波書店、1958 年）。絶版のため、古書店で購入すること。

【参考書】

徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）
神田龍身・西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容、レポートに三分の一ずつの比重を置く。なお、欠席は二回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007 年度 京都

2008 年度 厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）

2009 年度 平泉（岩手）

2010 年度 太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）

2011 年度 京都

2012 年度 呉、厳島神社（広島）

2013 年度 京都

2014 年度 松江、出雲、大森銀山

2015 年度 京都

2016 年度 札幌、小樽

2017 年度 京都

ゼミナール6 A

小林 ふみ子

授業コード：A2625

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。

韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は予言書「未来記」の形式をとった黄表紙 2 作品を読みくらべます。

【到達目標】

- (1) 辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す（2 年間を通じて）

【授業の進め方と方法】

数人ずつのグループに分かれ、担当箇所の内容を紹介し、そのおもしろさや作者の工夫について発表してもらいます。各学期に 1 グループ 2 回程度の担当とします。

それとは別に毎回授業のはじめに、文学史に即して近世文学の作品を簡単に紹介する 5 分スピーチをしてもらいます。それによって近世文学史についての知識を身につけ、卒業論文のテーマ選びに備えるとともに、ある内容を簡潔にまとめて他の人に効果的に伝える力を養う機会としたいと思います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	グループ①発表	作品 A 第 1 巻
第 4 回	グループ①発表	同上
第 5 回	グループ②発表	作品 A 第 2 巻
第 6 回	グループ②発表	同上
第 7 回	グループ③発表	作品 A 第 3 巻
第 8 回	グループ③発表	同上
第 9 回	グループ④発表	作品 B 第 1 巻
第 10 回	グループ④発表	同上
第 11 回	グループ⑤発表	作品 B 第 2 巻
第 12 回	グループ⑤発表	同上
第 13 回	グループ⑥発表	作品 B 第 3 巻
第 14 回	グループ⑥発表	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の班の担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。

【テキスト（教科書）】

『日本古典文学全集』（小学館 1971）より恋川春町画・作『無益委記』
『新編日本古典文学全集』（小学館 1999）より喜多川歌麿画・万象亭作『従夫未来記』（いずれもコピーで配布）

【参考書】

黄表紙を理解するのに鈴木俊幸『江戸の本づくし 黄表紙で詠む江戸の出版事情』（平凡社新書 2011）を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35 %）、各期末のレポート（4000 字程度・35 %）、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に 1 回）や発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマは昨年度実施した新 3 年生の話し合いで黄表紙（草双紙）となりました。学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ → 全体という流れを継続します。

【学生が準備すべき機器他】

発表時には全員分配付資料を印刷してきてください。
レポートなどの提出で授業支援システムを使用することがあります。

【その他の重要事項】

言うまでもなく、ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席は当然の前提です。積極的な参加を期待しています。合宿にも行きましょう！

ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。

意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

ゼミナール6 B

小林 ふみ子

授業コード：A2626

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる
関心が育っていいかと教員としては思いますが、どうしたいかしっかり議論して決めましょう。

【到達目標】

(1) 既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
(2) 研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
(3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
(4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。(2年間を通じて)

【授業の進め方と方法】

グループを作り、グループごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。
各学期に1グループ2～3回担当（グループ数による）。
発表グループは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。
秋学期も引きつづき、近世文学のさまざまな作品を簡単に紹介する5分スピーチをしてもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	グループ①	作品の概要紹介
第4回	グループ①	研究発表
第5回	グループ②	作品の概要紹介
第6回	グループ②	研究発表
第7回	グループ③	作品の概要紹介
第8回	グループ③	研究発表
第9回	グループ④	作品の概要紹介
第10回	グループ④	研究発表
第11回	グループ⑤	作品の概要紹介
第12回	グループ⑤	研究発表
第13回	グループ⑥	作品の概要紹介
第14回	グループ⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。

【テキスト（教科書）】

未定

【参考書】

『新版 近世文学研究事典』（おうふう 2006年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に1回）や発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

発表時には全員分配布資料を印刷してきてください。
レポートなどの提出で授業支援システムを使用することがあります。

【その他の重要事項】

みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていってくれることを期待しています。

ゼミナール7 A

Steven G. Nelson

授業コード：A2627

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1)『源氏物語』の中の音楽、2)『源氏物語』と同時代（10世紀～11世紀初頭）の音楽史との関係、3)『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（源氏能、箏組歌など）の事柄が含まれます。春学期はまず『源氏物語』第二部の音楽場面を研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

【到達目標】

・『源氏物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
・発表が明快に行えること
・問題点について客観的に討論できること
・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第7回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループ（数名）ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介・序説	自己紹介（全員）、教員による授業の進め方の説明、ゼミ名簿作成、発表スケジュールの調整など
第2回	ガイダンス①	紫式部と音楽 音楽場面の調査方法について
第3回	平安時代の音楽①	『源氏物語』に現れる楽器とその楽譜
第4回	平安時代の音楽②	年中行事や社寺の音楽：舞楽と国歌歌舞
第5回	平安時代の音楽③	御遊び、呂律、時の調子、音楽論
第6回	平安時代の音楽④	様々な声楽：詩歌の朗誦、催馬楽、風俗歌など
第7回	「若菜上」巻について	教習と伝授、音楽の伝承と「血統」
第8回	「若菜上」巻を読む①	梗概と音楽場面の紹介（グループX）
第8回	「若菜上」巻を読む②	発表（グループA）と討論 発表（グループB）と討論
第9回	「若菜下」巻について	23段
第9回	「若菜下」巻を読む①	梗概と音楽場面の紹介（グループY）
第10回	「若菜下」巻を読む②	発表（グループC）と討論 発表（グループD）と討論
第11回	「若菜下」巻を読む③	13・15段
第11回	「若菜下」巻を読む④	発表（グループE）と討論
第12回	「若菜下」巻を読む⑤	17段
第12回	「若菜下」巻を読む⑥	発表（グループF）と討論
第13回	「若菜上下」巻の総括	20・21段
第14回	春学期のまとめ、および卒業論文の中間発表	発表（各グループの補遺）と討論 春学期の授業の総括、およびゼミ4年生による中間発表 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 5分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することことが述べられるように考えておくこと。
第2～6回 事前配付の資料を読んでくること。
第7回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。
第14回 期末レポート・楽譜課題作成。

【テキスト（教科書）】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』④（小学館新編日本古典文学全集、全6冊のうち）。5月までに購入するように。

【参考書】

秋山虔他 編『源氏物語図典』（小学館）
小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』（笠間書院）
今井源衛『源氏物語への招待』（小学館）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30%、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30%、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

・9月にゼミの勉強会合を行う予定です。

・内容的に深く関わるので、2年次までに特講（11）「音楽芸能史A」の単位取得を済ませることが望ましいです。

ゼミナール7B

Steven G. Nelson

授業コード：A2628

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1）『源氏物語』の中の音楽、2）『源氏物語』と同時代（10世紀～11世紀初頭）の音楽史との関係、3）『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（源氏能、箏組歌など）の事柄が含まれます。秋学期では、春学期で行った『源氏物語』第二部の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した源氏能と箏組歌の例を1つずつ取り上げ、影響の有り様を考察します。

【到達目標】

- ・『源氏物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
- ・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
- ・発表が明快に行えること
- ・問題点について客観的に討論できること
- ・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第4回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループ（数名）ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合わせた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整、卒業論文の中間発表、講評
第2回	ガイダンス②	『源氏物語』の音楽研究（図書館ガイダンス）
第3回	ガイダンス③	『源氏物語』音楽研究史概説、古注釈と音楽
第4回	「若菜下」巻を読む⑤	発表（グループA）と討論 第38段
第5回	「柏木」巻について 「柏木」巻を読む①	梗概と音楽場面の紹介（グループW） 発表（グループB）と討論 第10・13段
第6回	「横笛」巻について 「横笛」巻を読む①	梗概と音楽場面の紹介（グループX） 発表（グループC）と討論 第3・5段
第7回	「横笛」巻を読む②	発表（グループD）と討論 第6・8段
第8回	「鈴虫」巻について 「鈴虫」巻を読む①	梗概と音楽場面の紹介（グループY） 発表（グループE）と討論 第1・2・3段
第9回	「鈴虫」巻を読む②	発表（グループF）と討論 第6・7段
第10回	「御法」巻について 「御法」巻を読む	梗概と音楽場面の紹介（グループZ） 発表（グループG）と討論 第2・3段
第11回	卒業論文の中間発表 ガイダンス④	ゼミ4年生による卒業論文の中間発表、講評
第12回	能《落葉》	『源氏物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について 発表（グループH）と討論
第13回	箏組歌《薄衣》	発表（グループI）と討論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業の総括、および卒業論文の講評 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1～3、11回 事前配付の資料を読んでくること。
- 第4回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。
- 第14回 期末レポート・楽譜課題作成。

【テキスト（教科書）】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』④（小学館新編日本古典文学全集、全6冊のうち）。

【参考書】

秋山虔他 編『源氏物語図典』（小学館）
小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』（笠間書院）
今井源衛『源氏物語への招待』（小学館）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30％、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30％、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40％

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

- ・3月前半に関西合宿を行う予定です。
- ・内容的に深く関わるので、2年次までに特講（11）「音楽芸能史B」の単位取得を済ませることが望ましいです。

ゼミナール 8 A

伊海 孝充

授業コード：A2629

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。その能を学ぶことによって、古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深め、多角的に能という芸能を捉えることができるようにする。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ること目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人の発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年1、2 回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第 2 回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第 3 回	能の種類	能の分類について解説する。
第 4 回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第 5 回	能の演技	実技体験（予定）。
第 6 回	能楽研究事始（1）	研究の方法と実践。
第 7 回	能楽研究事初（2）	「本説」と他芸能との関係。
第 8 回	謡曲精読（1）	脇能を口語訳しながら精読する。
第 9 回	謡曲精読（2）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第 10 回	謡曲精読（3）	變物を口語訳しながら精読する。
第 11 回	謡曲精読（4）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第 12 回	謡曲精読（5）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第 13 回	謡曲精読（6）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第 14 回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%

授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%

学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

能の基本事項の習得を徹底させていく。

ゼミナール 8 B

伊海 孝充

授業コード：A2630

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループごとの発表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけでなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。また1、2 回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第 2 回	グループ発表—課題曲 1（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 3 回	グループ発表—課題曲 1（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 4 回	グループ発表—課題曲 1（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 5 回	グループ発表—課題曲 1（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 6 回	グループ発表—課題曲 2（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 7 回	グループ発表—課題曲 2（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 8 回	グループ発表—課題曲 2（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 9 回	グループ発表—課題曲 2（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 10 回	グループ発表—課題曲 3（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 11 回	グループ発表—課題曲 3（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 12 回	グループ発表—課題曲 3（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 13 回	グループ発表—課題曲 3（本説）	課題曲の典拠の調査。
第 14 回	第 13 回 グループ発表—課題曲 3（まとめ）	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。

【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%

授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%

学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表者の人数を調整し、多くの者が発言できるようにする。

ゼミナール 9 A

中丸 宣明

授業コード：A2631

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀・20 世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学作品をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、岩波文庫版『日本近代短篇小説選 明治編・大正篇』、ないし『文壇出世作全集』（中央公論社, 昭和 10）を用いる。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容と期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

ゼミナール 9 B

中丸 宣明

授業コード：A2632

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール 9 A に引き続き、19 世紀・20 世紀前半の日本文学の研究。化政期（19 世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学作品をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるように、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、岩波文庫版『日本近代短篇小説選 明治編大正篇』ないし『文壇出世作全集』（中央公論社, 昭和 10）を用いる。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容と期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

ゼミナール１０Ａ

中丸 宣明

夜間時間帯

授業コード：A2633

春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

１９世紀・２０世紀前半の日本文学・文化の研究。基本的には日本の近代文学を、広く文化現象の中からとらえ返し、映像と文学、芸能と文学、唄・歌と文学などの諸メディアの関係性の中からとらえ返す。それぞれの関心に沿っての研究テーマを深める。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。

【テキスト（教科書）】

田山花袋徳田秋聲誕生五十年祝賀記念『現代小説選集』（新潮社、1920.11）

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容と期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

ゼミナール１０Ｂ

中丸 宣明

夜間時間帯

授業コード：A2634

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き１９世紀・２０世紀前半の日本文学・文化の研究。基本的には日本の近代文学を、広く文化現象の中からとらえ返し、映像と文学、芸能と文学、唄・歌と文学などの諸メディアの関係性の中からとらえ返す。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。

【テキスト（教科書）】

各自の信頼できるテキストによる。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容と期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

ゼミナール 1 1 A

藤村 耕治

授業コード：A2635

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探究すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。

このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。

担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの議論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについて的小レポート（800 字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。

毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第 2 回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第 3 回	女性作家の文学Ⅰ	尾崎翠「第七官界彷徨」①問題提起と討議
第 4 回	女性作家の文学Ⅱ	尾崎翠「第七官界彷徨」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 5 回	女性作家の文学Ⅲ	尾崎翠「第七官界彷徨」③先行研究の検討と総括
第 6 回	戦争文学Ⅰ	大岡昇平「野火」①問題提起と討議
第 7 回	戦争文学Ⅱ	大岡昇平「野火」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 8 回	戦争文学Ⅲ	大岡昇平「野火」③先行研究の検討と総括
第 9 回	無頼派の文学Ⅰ	坂口安吾「夜長姫と耳男」①問題提起と討議
第 10 回	無頼派の文学Ⅱ	坂口安吾「夜長姫と耳男」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 11 回	無頼派の文学Ⅲ	坂口安吾「夜長姫と耳男」③先行研究の検討と総括
第 12 回	ミステリー文学Ⅰ	横溝正史「獄門島」①問題提起と討議
第 13 回	ミステリー文学Ⅱ	横溝正史「獄門島」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 14 回	ミステリー文学Ⅲ	横溝正史「獄門島」③先行研究の検討と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。

【テキスト（教科書）】

各種文庫・作品集・個人全集・文学全集所収のものなど、いずれを用いても構いません。

【参考書】

併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくとうまいでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】

全出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

ゼミナール 1 1 B

藤村 耕治

授業コード：A2636

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論としての的確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【授業の進め方と方法】

戦後から現在にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。担当班（5 名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討論を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについて的小レポート（800 字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。

なお、下に挙げた作家・作品以外にも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第 2 回	耽美の文学Ⅰ	川端康成「片腕」①問題提起と討議
第 3 回	耽美の文学Ⅱ	川端康成「片腕」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 4 回	耽美の文学Ⅲ	川端康成「片腕」③先行研究の検討と総括
第 5 回	戦後派文学Ⅰ	堀田善衛「橋上幻像」①問題提起と討議
第 6 回	戦後派文学Ⅱ	堀田善衛「橋上幻像」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 7 回	戦後派文学Ⅲ	堀田善衛「橋上幻像」③先行研究の検討と総括
第 8 回	内向の世代の文学Ⅰ	古井由吉「杓子」①問題提起と討議
第 9 回	内向の世代の文学Ⅱ	古井由吉「杓子」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 10 回	内向の世代の文学Ⅲ	古井由吉「杓子」③先行研究の検討と総括
第 11 回	現代の文学Ⅰ	辻村深月「名前探しの放課後」①問題提起と討議
第 12 回	現代の文学Ⅱ	辻村深月「名前探しの放課後」②前回討議内容を受けての深化・発展
第 13 回	現代の文学Ⅲ	辻村深月「名前探しの放課後」③先行研究の検討と総括
第 14 回	総括	現代文学の展望について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講生も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。

【テキスト（教科書）】

各種文庫・作品集・個人全集・文学全集所収のものなど、いずれを用いても構いません。

【参考書】

併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくとう良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

ゼミナール12A

三井 喜美子

授業コード：A2637

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の児童文学及び児童文化を研究対象とし、子どもと文学（文化）の問題を探究する。児童文学とは何かを、児童文学史や児童文学の作者及び作品、児童文化史などを研究することを通して捉えていくこと。実際に創作もする。

【到達目標】

児童文学の研究課題を自ら設定し、参考文献及び資料のリストアップの方法を身につけ、グループで研究発表をすること。ディスカッションをすることができる。児童文学史の概要を理解すること。近代児童文学の誕生、『赤い鳥』の代表作家と作品、戦後児童文学作家と作品、反戦平和児童文学、現代児童文学の課題などについて理解することができる。作品創作をし、文集を作ること。

【授業の進め方と方法】

演習。グループ研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
テーマ別に学年混合グループを編成し、グループで協力して研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んだレポートを作成して提出すること。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの心得と今期の目標設定	ゼミに参加する心構えの確認。自己紹介。先輩からのアドバイス。目標設定。演習計画を立て、グループ編成。
第2回	研究資料作成について	資料の検索方法の紹介。図書館ガイダンス
第3回	研究計画の作成	グループごとに研究計画を作成し、資料収集
第4回	論文の書き方について	過去のレポートや論文を参考に、論文の書き方について講義
第5回	第1回ゼミ発表とディスカッション	第1グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第6回	第2回ゼミ発表とディスカッション	第2グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第7回	第3回ゼミ発表とディスカッション	第3グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第8回	第4回ゼミ発表とディスカッション	第4グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第9回	第5回ゼミ発表とディスカッション	第5グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第10回	ゼミ発表の総括	これまでの発表にし方を総括し、プレゼンテーションの工夫を考える
第11回	プレゼンテーションの工夫の紹介	第10回を受けて、発表しあい、プレゼンテーションの上達を図る
第12回	「私と児童文学」をテーマに個人プレゼン①	一人10分の持ち時間でプレゼンテーションをし、評価しあう
第13回	「私と児童文学」をテーマに個人プレゼン②	個人プレゼン2回目 評価しあう
第14回	今期の発表の総括	今期のゼミ発表から学んだことを発表し合い、各自の次の課題を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマを設定する。発表に向けてグループで立てた研究計画に応じて資料収集、資料整理などをして、発表準備を進める。グループで事前に発表内容を研究し、レジュメを作成する。
発表資料は前週配布。他のグループの発表で扱うテキストや資料については事前に読んでおく。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『日本児童文学大系』『児童文学辞典』『日本児童文学成立序説』『少年文学の系譜』その他必要に応じて順次紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20％ 発表60％ レポート20％

【学生の意見等からの気づき】

発表に向けた取り組み段階におけるアドバイスをメールなどを通して行うこと

【学生が準備すべき機器他】

ゼミのSNSを作成し、全体の連絡情報交換などを行う。

【その他の重要事項】

秋学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

ゼミナール 12B

三井 喜美子

授業コード：A2638

秋学期・2単位

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション能力を高めること。
ディスカッションが活発にできるようにすること。
ゼミのコミュニケーションを大事にすること。

【その他の重要事項】

春学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期ゼミナール 12A を受け、個人の研究テーマを探索する

【到達目標】

創作集の合評をし、創作活動を促進。
春期の研究を活かし、研究課題を新たに設定し、個人発表をすること。
研究をまとめて論文を作成する

【授業の進め方と方法】

演習。個人研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
春期の研究方法を活かし、個人で研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。
期末にディスカッション内容も盛り込んで論文としてまとめる。
創作合評会を行い、創作意欲を持つ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	創作提出。 夏期合宿のまとめ 秋期の研究計画作成	文集委員に創作を提出し、文集作成を開始する。 夏期合宿の成果を報告しあう。 秋期のゼミ計画を立てる
第 2 回	児童文学用語解説	過去にゼミで作成した児童文学用語集を読みあい、情報交換 新たな用語の抽出
第 3 回	児童文学用語解説の研究分担 創作集編集	2 年生は用語解説の個人発表を分担。 文集作成作業
第 4 回	個人発表 1	3 年生の個人発表。2 名
第 5 回	個人発表 2	3 年生の個人発表。2 名
第 6 回	個人発表 3	3 年生の個人発表。2 名
第 7 回	個人発表 4	3 年生の個人発表。2 名
第 8 回	個人発表 5	3 年生の個人発表。2 名
第 9 回	2 年生の個人発表 1	2 年生の個人発表。2 名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 10 回	2 年生の個人発表 2	2 年生の個人発表。2 名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 11 回	2 年生の個人発表 3	2 年生の個人発表。2 名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 12 回	2 年生の個人発表 4	2 年生の個人発表。2 名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 13 回	2 年生の個人発表 5	2 年生の個人発表。2 名 児童文学用語について発表を基に理解を深める。
第 14 回	合評会	創作合評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童文学作品を夏休み中に創作し、最初の講義で提出。
文集委員は編集。冊子作りは全員協力のこと。
3 年生は卒論を意識して課題を設定し、個人発表を充実させる。
ゼミ発表の課題図書を読む。
論文を書く

【テキスト（教科書）】

ゼミ作成児童文学用語集

【参考書】

児童文学概論 児童文学用語集 日本児童文学史 世界児童文学史 など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20 % 発表 40% 論文 20 % 創作作品 20 %

ゼミナール 13A

間宮 厚司

授業コード：A2639

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限り、発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業以外に懇親の場を設けてほしい。

ゼミナール 13B

間宮 厚司

授業コード：A2640

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限り、発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室を変えないでほしいという意見が多かった。

ゼミナール 14A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2641

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限り、発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業以外に懇親の場を多く設けてほしい。

ゼミナール 14B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2642

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限り、発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第2回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第3回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・発表（30％）・レポート（40％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室を変えないでほしいという意見が多かった。

ゼミナール 15A

尾谷 昌則

授業コード：A2643

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【授業の進め方と方法】

春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、コンコーダンスの使い方	様々なコーパスとツールの紹介
第 2 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 3 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 4 回	グループ発表 1	各グループの自己紹介とテーマ紹介
第 5 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表
第 6 回	論文レポート 1	定量的分析を行っている論文を読み、全員で討議する
第 7 回	グループ発表 2	各グループの研究テーマの先行研究について発表
第 8 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表
第 9 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表
第 10 回	論文 2	意味変化に関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表
第 12 回	論文レポート 1	2 年生による論文レポート
第 13 回	論文レポート 2	2 年生による論文レポート
第 14 回	グループ発表 3	各グループが調査したことを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が担当した論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

- (1) 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
- (2) 『日本語研究のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
- (3) 『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%

ディスカッション 30%

レポート課題 40%

半期のうちに 3 回欠席した者は即刻単位不認定とする。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

グループ発表用の PC。個人でノート PC を所有することが望ましい。

ゼミナール 15B

尾谷 昌則

授業コード：A2644

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本語を客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

- (1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。
- (2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
- (3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表 1	2 年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文 1	定量的分析を行って論文を読む
第 6 回	コーパス実習 1	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表 2	2 年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文 2	言語変化について定量的に分析した論文を読む
第 9 回	コーパス実習 2	KWIC コンコーダサなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表 3	2 年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表 4	2 年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に備え、各グループで毎週 1 回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

提出課題 40% 発表内容 30% ディスカッション 30%

半期のうちに 3 回欠席した者は単位不認定とする。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

グループ発表用の PC。個人でノート PC を所有することが望ましい。

ゼミナール 16A

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2645

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【授業の進め方と方法】

決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、KWIC の使い方	様々なコーパスの紹介を行う
第 2 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 3 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 4 回	グループ発表 1	各グループの自己紹介とテーマ紹介
第 5 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 6 回	論文 1	若者言葉に関する論文を読み、全員で討議する
第 7 回	グループ発表 2	各グループの研究テーマの先行研究について発表
第 8 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 9 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 10 回	論文 2	若者言葉とボライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表と質疑応答
第 12 回	論文リポート 1	2 年生により論文リポート
第 13 回	論文リポート 2	2 年生による論文リポート
第 14 回	グループ発表 3	各グループが調査したことを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が担当した論文の基本用語・重要概念については事前下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

- (1)『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
- (2)『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
- (3)『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】

発表内容 30 %、質疑応答の発言 30 %、レポート課題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

研究方法についての説明が足りなかったようなので、本年度はその点を重視した。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学

＜研究テーマ＞

認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク

＜主要研究業績＞

「アマルガム構文としての『「全然」＋肯定』に関する語用論的分析」（『言葉と認知のメカニズム』pp.103-115. ひつじ書房、2008 年）

「構文文法の歴史的背景と今後の展望」（『人間情報学研究』第 11 巻、pp.25-43. 2006 年）

「接続詞ケドの手続き的意味」（『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年）

『構文ネットワークと文法——認知文法論のアプローチ』（共著、研究社、2011 年）

ゼミナール 16B

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2646

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者ことばを客観的に見つけ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

- (1) 言語分析に必要な言語学の基礎概念やコーパス使用法を習得する。
- (2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
- (3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】

数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、2 年生はグループ発表中心で、3 年生は個人発表中心で行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表 1	2 年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文 1	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読む
第 6 回	コーパス実習 1	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表 2	2 年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文 2	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読む
第 9 回	コーパス実習 2	KWIC コンコーダンスなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表 3	2 年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表 4	2 年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に備え、各グループで毎週 1 回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

提出課題 40 % 発表内容 30 % ディスカッション 30 %
半期のうちに 3 回欠席した者は単位不認定とする。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークのための時間調整が難しい、各人の研究したいテーマが異なるためグループ・テーマが決まらない、という意見が多かったので、今年はそれらに配慮してグループを決めたい。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC。発表ではパワーポイント（Google のクラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（中納言版、国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

ゼミナール 17A

中沢 けい

授業コード：A2647

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品と関連した本も見つけてみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

ゼミナール 17B

中沢 けい

授業コード：A2648

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになります。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようにします。

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	同上	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	同上	人によって読み方はさまざまです。
第 11 回	同上	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第 12 回	同上	作品はイメージ通りに書けましたか。
第 13 回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 14 回	同上	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌

【参考書】

ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自ではかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

ゼミナール 18A

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2649

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第4回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品の関連図書を探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50％ゼミ誌作品 50％。評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

ゼミナール 18B

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2650

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第4回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	同上	読みかたは人によって異なります。
第10回	同上	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第11回	同上	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第12回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう
第13回	同上	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第14回	同上	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50％ゼミ誌作品 50％。評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

ゼミナール 19A

田中 和生

授業コード：A2651
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	詩を読む (4)	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	短歌を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む (4)	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む (5)	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む (6)	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

ゼミナール 19B

田中 和生

授業コード：A2652
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評 (1)	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評 (2)	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評 (3)	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評 (4)	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評 (5)	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評 (6)	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評 (7)	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評 (8)	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評 (9)	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評 (10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

ゼミナール20A

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2653

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	詩を読む(1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	詩を読む(2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	詩を読む(3)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	詩を読む(4)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	短歌を読む(1)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	短歌を読む(2)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	小説を読む(1)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	小説を読む(2)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	小説を読む(3)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	小説を読む(4)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	小説を読む(5)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	小説を読む(6)	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内するが、自発的な読書が肝要である。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特になありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表(3割)と参加状況(2割)、創作の内容(5割)によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したい。

ゼミナール20B

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2654

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評(1)	合評と作者質疑。
第4回	創作合評(2)	合評と作者質疑。
第5回	創作合評(3)	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評(4)	合評と作者質疑。
第8回	創作合評(5)	合評と作者質疑。
第9回	創作合評(6)	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評(7)	合評と作者質疑。
第12回	創作合評(8)	合評と作者質疑。
第13回	創作合評(9)	合評と作者質疑。
第14回	創作合評(10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特になありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容(5割)と平常点(5割)によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

ゼミナール 2 1 A

根本 昌夫

授業コード：A2655

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさん的小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること 文学を楽しむこと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解説

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座の概要
第 2 回	作品を書く前にすべきこと	文章の基本作法 1
第 3 回	同上	文章の基本作法 2
第 4 回	読むということについて 1	課題作品講評
第 5 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 1	吉本ばなな・小川洋子から川上未映子・本谷有希子まで
第 6 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 2	吉本ばなな・小川洋子から川上未映子・本谷有希子まで
第 7 回	読むということについて 2	課題作品講評
第 8 回	散文と詩	文章の基本作法 3
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 3	吉本ばなな・小川洋子から川上未映子・本谷有希子まで
第 10 回	読むということについて 3	課題作品講評
第 11 回	批評について	文章の基本作法 4
第 12 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 4	吉本ばなな・小川洋子から川上未映子・本谷有希子まで
第 13 回	読むということについて 4	課題作品講評
第 14 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 5	吉本ばなな・小川洋子から川上未映子・本谷有希子まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】

根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、提出作品 50 % の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】

特になし

ゼミナール 2 1 B

根本 昌夫

授業コード：A2656

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさん的小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること 文学を楽しむこと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解説

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文芸作品のジャンルと方法	1960 年代の文芸
第 2 回	読むということについて	提出作品講評
第 3 回	読むということについて	提出作品講評
第 4 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	村上春樹・島田雅彦から阿部和重・又吉直樹まで
第 5 回	読むということについて	1970 年代の文芸
第 6 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	提出作品講評 3
第 7 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	村上春樹・島田雅彦から阿部和重・又吉直樹まで
第 8 回	文芸作品のジャンルと方法	1980 年代の文芸
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	村上春樹・島田雅彦から阿部和重・又吉直樹まで
第 10 回	読むということについて 9	提出作品講評 5
第 11 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	村上春樹・島田雅彦から阿部和重・又吉直樹まで
第 12 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	村上春樹・島田雅彦から阿部和重・又吉直樹まで
第 13 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	2000 年代の文芸
第 14 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	2010 年代の文芸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】

根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、提出作品 50 % の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】

特になし

日本文芸研究特講（１）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	授業全体の概説
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回 72 点）に平常点（28 点出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

日本文芸研究特講（１）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回。72 点）と平常点（28 点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

日本文芸研究特講（２）中古 A

萩野 了子

授業コード：A2661

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化（世界観）に対する理解を深める。

【到達目標】

馴染み深い百人一首の歌を軸にしてその周辺歌や歌人に着目し、萬葉集や三代集など典拠となる歌集の表現を分析することで、和歌の正確な解釈が出来るようになり、当時の人々の世界観に、専門的な技能でもって迫る能力が身につく。

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	天智天皇（1）	天智天皇に始まる百人一首
第 5 回	天智天皇（2）	歌語「苦」について
第 6 回	持統天皇（1）	大和三山「天の香具山」
第 7 回	持統天皇（2）	萬葉集と新古今和歌集
第 8 回	猿丸大夫（1）	歌語「鹿」について
第 9 回	猿丸大夫（2）	動物の鳴き声について
第 10 回	小野篁（1）	貴種流離の人
第 11 回	小野篁（2）	説話における篁
第 12 回	在原兄弟（1）	行平詠、地名が持つ音について
第 13 回	在原兄弟（2）	業平詠、見立て技法について
第 14 回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男著・ちくま文庫）、『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20％）と、定期試験結果（80％）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

日本文芸研究特講（２）中古 B

萩野 了子

授業コード：A2662

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化（世界観）に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸に、その周辺歌や歌人の表現を学びながら、和歌の詠まれた背景や表現を自ら調査、分析し、当時の文学に関して自分の考えをまとめることが出来る。

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	小野小町（1）	掛詞技法について
第 5 回	小野小町（2）	美女の人生
第 6 回	陽成院	古代の筑波山
第 7 回	藤原敏行（1）	古代の人々の「夢」について
第 8 回	藤原敏行（2）	歌枕「住の江」について
第 9 回	素性法師（1）	男女の逢会について
第 10 回	素性法師（2）	動詞「来」について
第 11 回	三条右大臣	「言にしありけり」から「名にし負はば」へ
第 12 回	紀友則（1）	枕詞について
第 13 回	紀友則（2）	助動詞「らむ」について
第 14 回	まとめ	授業の総括とレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男・ちくま文庫）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20％）と、レポート（80％）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

日本文芸研究特講（２）中古C

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2663

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ◆テーマは、《古典のリメイク》です。
- ◆現代の作家たちが、日本の古典をどのように再生させ、新たな創造をしたのか、考察してゆきます。
- ◆中古（平安時代）の古典を中心にしますが、上代から現代まで、全時代の作品を、幅広く取り挙げます。

【到達目標】

- ◆A、現代の作家が、古典を、どのように翻訳し改変したかを学びます。
- ◆B、現代の作家が、古典を踏み台にして、どのように新作を創造したかを学びます。

【授業の進め方と方法】

- ◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	概説	翻訳／改作
2	町田康	『宇治拾遺物語』など
3	伊藤比呂美	『日本ノ靈異ナ話』など
4	橋本治	『窯変源氏物語』など
5	丸谷才一	『輝く日の宮』など
6	瀬戸内寂聴ほか	『藤壺』など
7	川端康成ほか	『浮舟』など
8	芥川龍之介ほか	『好色』など
9	室生犀星ほか	『虫姫日記』など
10	円地文子ほか	『なまこ物語』など
11	塚本邦雄ほか	『新撰小倉百人一首』など
12	中上健次	『宇津保物語』
13	授業内試験	筆記テスト
14	まとめ	優良テスト紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◆授業で取り上げられた作品を、自分でじっくり読んでみる。

【テキスト（教科書）】

- ◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

- ◆以下の現代語訳・入門書を推薦します。
- ◎池澤夏樹 編『日本文学全集』1巻～12巻（河出書房新社）
- ◎伊藤比呂美ほか『作家と楽しむ古典』（河出書房新社）
- ◎『池澤夏樹、文学全集を編む』（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

- ◆筆記テストの出来（80％）。授業で取り上げられた作品を読んだ上で試験に臨んでもらいます。
- ◆リアクションペーパー（20％）。質問や意見を書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

- ◆中古（平安時代）だけでなく、全時代を、広く見渡します。
- ◆小説だけでなく、映画・マンガ・アニメ、海外の文学なども、広く取り挙げます。

日本文芸研究特講（２）中古D

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2664

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ◆テーマは、《『源氏物語』以前、『源氏物語』以後》です。
- ◆『源氏物語』に影響を与えた先行作品と、『源氏物語』から影響を受けた後代作品を読んでゆきます。
- ◆中古（平安時代）だけでなく、中世（鎌倉～室町時代）・近世（江戸時代）の作品も取り挙げます。

【到達目標】

- ◆A、『源氏物語』が、先行作品をどのように踏まえたのかを学びます。
- ◆B、後代作品が、『源氏物語』をどのように踏まえたのかを学びます。

【授業の進め方と方法】

- ◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	概説	『源氏物語』とは？
2	出逢い&死	『伊勢物語』
3	王権	『うつほ物語』
4	昇天	『竹取物語』
5	外伝	『雲隠六帖』
6	続編	『山路の露』
7	評論	『無名草子』
8	歴史	『栄花物語』
9	新古今和歌	藤原定家など
10	宮廷日記	『とはずがたり』
11	能（謡曲）	「葵上」など
12	パロディ	『修紫田舎源氏』など
13	授業内試験	筆記テスト
14	まとめ	優良テスト紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◆授業で取り上げられた作品を、自分でじっくり読んでみる。

【テキスト（教科書）】

- ◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

- ◆以下の入門書・現代語訳を推薦します。
- ◎立石和弘&安藤徹『源氏物語の時空』（森話社）
- ◎鈴木健一『源氏物語の変奏曲—江戸の調べ—』（三弥井書店）
- ◎林望 訳『謹訳源氏物語』全10巻（祥伝社文庫）
- ◎大塚ひかり 訳『源氏物語』全6巻（ちくま文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ◆筆記テストの出来（80％）。授業で取り上げられた作品を読んだ上で試験に臨んでもらいます。
- ◆リアクションペーパー（20％）。質問や意見を書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

- ◆リアクションペーパーに書かれた質問や意見をもとに、授業内容を膨らませてゆきます。
- ◆日本の古典だけでなく、現代の小説・映画・マンガ・アニメ、海外の文学なども、広く取り挙げます。

日本文学研究特講（3）中世 A

小秋元 段

授業コード：A2665

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『平家物語』—日本文学科に入ったからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容を理解する。
2. 中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を深め、そこから『平家物語』の特徴を理解する。

【授業の進め方と方法】

毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 6 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～	巻 4「競」を講読し、平重盛・宗盛兄弟の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 7 回	いくさ語りの諸相～巻 4「橋合戦」～	巻 4「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係をを中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～	巻 7「忠教都落」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 10 回	木曾義仲の入京～巻 8「猫間」～	巻 8「猫間」を講読し、木曾義仲の人物像の特徴を中心に講義する。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	恩愛の絆～巻 10「維盛入水」～	巻 10「維盛入水」を講読し、平維盛の死と浄土思想の関係をを中心に講義する。
第 13 回	扇の的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 14 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」を講読し、平知盛の役割を中心に講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81 年）
新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93 年）

新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994 年）
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000 年）
大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
王新禧訳『全訳平家物語』（上海訳文出版社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

毎時のコメントカード…… 30 %

期末試験…… 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

日本文学研究特講（3）中世 B

小秋元 段

授業コード：A2666

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の説話と和歌—日本中世の主要な古典に触れよう

【到達目標】

1. 中世文学の歴史を理解する。
2. 説話と和歌を原文で読み、その内容を理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。中世という時代の概説。
第 2 回	『今昔物語集』 1	『今昔物語集』の解題・講読。
第 3 回	『今昔物語集』 2	『今昔物語集』の講読。
第 4 回	『宇治拾遺物語』 1	『宇治拾遺物語』の解題・講読。
第 5 回	『宇治拾遺物語』 2	『宇治拾遺物語』の講読。
第 6 回	『十訓抄』	『十訓抄』の解題・講読。
第 7 回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第 8 回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第 9 回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第 10 回	和歌の基礎知識	和歌および和歌集に関する解説。
第 11 回	院政期和歌の展開	院政期（平安時代末期）の歌風の変遷に関する解説。
第 12 回	本歌取りの誕生	本歌取りの誕生、理念、方法についての解説。
第 13 回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第 14 回	歌学書の世界	『無名抄』の解題・講読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自身のない学生は、個々に自習することを望む。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

『日本古典文学大辞典』全 6 巻（岩波書店、1983～85 年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998 年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990 年）

【成績評価の方法と基準】

毎時のコメントカード…… 30 %

期末試験…… 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

日本文芸研究特講（４）近世Ａ

浅沼 博

授業コード：A2669

春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では近世文芸の特性を理解するため、当時の主要ジャンルであった俳諧について広く学ぶことをテーマとする。

【到達目標】

代表的な近世俳諧を引用し、自分の言葉で具体的に論述できるよう、目標を定める。

【授業の進め方と方法】

教科書にそって俳諧の特性を解説しつつ、具体的に作品を読んでいく。またそれに即応した俳句・連句の創作演習を、アクティブ・ラーニングの一環として取り入れる。

具体的には句を書いた出席カードを提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	俳句・連句という呼称	俳諧連歌から俳句・連句への過程
第２回	「句」という単位	さまざまな呼称の所以
第３回	「二句一章」という方法	前句と付句の関係性について
第４回	取合せ vs. 二句一章	切字と付合の関係性について
第５回	二句一章 × 2 = 三句の渡り	前句の両義化について
第６回	三段切れ vs. 三句の渡り	三句の転じについて
第７回	芭蕉の連句・序	「山中三吟」の捌について
第８回	芭蕉の連句・破	「山中三吟」の自他場について
第９回	芭蕉の連句・急	「山中三吟」の版本化について
第１０回	芭蕉 vs. 西鶴	恋の座について
第１１回	西鶴 vs. 宗因	謡曲取りについて
第１２回	蕪村の連句	月の座について
第１３回	一茶の連句	花の座について
第１４回	試験	論述問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな俳諧用語が出てくるので、進捗状況に合わせてテキスト巻末の索引を活用する。

【テキスト（教科書）】

『俳句・連句 R E M I X』浅沼璞（東京四季出版） 定価 1800 円＋税

【参考書】

市販の歳時記（電子辞書版も可）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %（アクティブ・ラーニングを含めた授業への貢献度を問う）

論述試験 60 %（内容の具体性を評価基準とする）

【学生の意見等からの気づき】

創作演習を可能な範囲で多く行う。

【その他の重要事項】

常に教科書を持参すること。

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

小林 ふみ子

授業コード：A2670

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑い と 機知 を読み解く。

18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑い と 機知 を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】

- 江戸文芸の各ジャンルの特質・表現について理解する。
- うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
- 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。

【授業の進め方と方法】

各回、概説ののち、グループで作品読解に取り組み、そのあとに全体で共有する形式で進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第１回	導入 時代背景 短詩系文学①	江戸っ子の時代概説 川柳のうがちに触れる。
第２回	短詩系文学②	技巧を凝らして笑う狂歌と漢詩型に俗語を盛り込んで笑う狂詩を知る。
第３回	黄表紙の奇想①	子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙の概説。
第４回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解くー上
第５回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解くー下
第６回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本の概説。
第７回	見立絵本のしかけ②	妖怪見立て絵本『画本纂怪興』を読み解くー上
第８回	見立絵本のしかけ③	妖怪見立て絵本『画本纂怪興』を読み解くー下
第９回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説
第１０回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解-上
第１１回	滑稽本の表現力③	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解-下
第１２回	合巻の情緒①	黄表紙から筋立て重視に変化した合巻の概説。
第１３回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎田舎源氏』を読み解くー上
第１４回	合巻の情緒③ まとめ	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎田舎源氏』を読み解くー下 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週に配る各回の予習資料にもとづいて事前に作品を読解してくる。
単元ごとの課題に取り組んで提出する。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付する。

【参考書】

小林ふみ子『大田南畝 江戸に狂歌の花咲かす』岩波書店、2014)
日野龍夫『太平画譜他 江戸狂詩の世界』（平凡社東洋文庫、1991）
鈴木俊幸『江戸の本づくし—黄表紙で読む江戸の出版事情』（平凡社新書、2011）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとの小課題（400～600 字程度 × 5 回） 75 %（目標 1・2 の確認）
ラーニングポートフォリオ（ふりかえりシート） 10 %（目標 3 について論述）
毎回のリアクションペーパー 15 %で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。
講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
人数が多い場合はグループづくりの効率化の方法を考えます。

【学生が準備すべき機器他】

作品読解のため『広辞苑』『精選版日本国語大辞典』など電子辞書やアプリ、または前田勇『江戸語の辞典』（講談社学術文庫、品切れのため古書のみ入手可）の持ち込みを推奨。

【その他の重要事項】

単元ごとの課題では、作者の工夫を迫体験してもらうようにみなさん自身に創作に取り組んでもらいます。

日本文学研究特講（４）近世Ｃ

丹羽 みさと

夜間時間帯

授業コード：A2671

春学期・２単位

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸のパロディ本である黄表紙について学ぶ。

主に山東京伝の『御存商売物』（天明２〈1782〉年刊）を通し、江戸時代の絵の「読み方」や、本文に記された当時の情報を知る。授業全体を通し、近世資料の形態や特色、時代性などを理解する。同時に、近世資料を読むために必要なスキルである、崩し字も学習する。

【到達目標】

『御存商売物』で擬人化された様々な近世資料（洒落本や草双紙、読本や咄本、紅刷絵や錦絵など）の特色や関係性を知り、彼らで表現された当時の町人文化（市内の様子や家屋の構造、流行の言葉や小道具など）について、理解を深める。
また黄表紙という草双紙の「面白さ」や「挿絵と文章の関係」などを読み解き、観察力、読解力の獲得を目指す。
崩し字については基礎的な「ひらがな」の知識獲得を目標とする。

【授業の進め方と方法】

質疑応答を含めた講義形態で授業を行う。
適宜、リアクションペーパーの提出を求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 近世資料について	学習内容の説明 挿絵の読み方を学ぶ
第 2 回	山東京伝について	山東京伝の人物像や作品、作風を学ぶ
第 3 回	黄表紙、赤本について	近世期における草双紙の衰勢を知る
第 4 回	八文字屋本について	近世資料の出版地による差異を知る
第 5 回	和紙について	和本や一枚絵に使用されている和紙の種類を知る
第 6 回	洒落本について	黄表紙と同時代に流行していた近世資料を知る
第 7 回	寺院周辺の事柄を知る	仏書や寺院境内における大道芸などを知る
第 8 回	草双紙、錦絵について	江戸絵画の種類を知る
第 9 回	実用書について	塵劫記や年代記などの実用書を知る
第 10 回	いろはたんか・八卦について	和歌のパロディ本や占いについて知る
第 11 回	唐詩選・源氏物語について	伝統文芸について知る
第 12 回	節用集について	往来物や用文章などについて知る
第 13 回	和本の作成について	地本問屋の業態について知る
第 14 回	和本の販売について	近世期の行商や店売など販売形態について知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で扱った近世資料を実際に読んでみる。
崩し字の予習復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『御存商売物』等に関するプリントを配布する。

【参考書】

鈴木俊幸『江戸の本づくし』平凡社新書、平成 23 年
佐藤至子『山東京伝』ミネルヴァ書房 平成 21 年
小池正胤ほか『江戸の戯作絵本 1』教養文庫 平成 7 年
水野稔校注『黄表紙洒落本集』岩波書店 昭和 33 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験 60 %
崩し字小テスト 30 %

日本文芸研究特講（５）近代A

村山 龍

授業コード：A2673

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日本近代文学、とくに 1920～30 年代の文芸状況を学ぶことを目的とする。第一次世界大戦と第二次世界大戦の二つの大戦の間に挟まれた戦間期と呼ばれる時代に、日本文学が文化現象としてどのように立ち現れたのか。変動する〈時代〉と文学との関係を見ていくことで私たちの〈今〉を考える手がかりにしていきたいと考えている。

【到達目標】

1920 年代から 1930 年代にかけて、日本の文学をめぐる状況は大きく変化した。第一次世界大戦以後、〈ヨーロッパの没落〉によってそれまでの価値観や社会構造の再編が迫られたように、文学もまた新しい〈時代〉に適応しようとする様々な方法を模索していたのである。そのなかで登場したアヴァンギャルドと呼ばれる芸術潮流は、日本でもモダニズム文学とプロレタリア文学という二つの流れを取り、隆盛をきわめていく。そして両者ともに 1930 年代にピークを迎え、その後、文芸統制を含めた様々な要因によって退潮していくこととなったのである。本授業では日本近代文学を視座に、同時代の文化的状況を総合的に学習することを目指している。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第 2 回	戦前の日本の風景	文学の場として
第 3 回	コンテクストを読む	志賀直哉「小僧の神様」
第 4 回	エスぺラントの誕生①	国家制度との関わり
第 5 回	エスぺラントの誕生②	秋田雨雀「緑の野」
第 6 回	プロレタリア文学運動の射程と限界①	運動の背景
第 7 回	プロレタリア文学運動の射程と限界②	運動の理念
第 8 回	プロレタリア文学運動の射程と限界③	前田河廣一郎「川」
第 9 回	モダニズムの目指したものの①	モダニズムとは何か
第 10 回	モダニズムの目指したものの②	横光利一「機械」
第 11 回	モダニズムの目指したものの③	〈伝統〉の発見
第 12 回	文芸統制の変化①	戦前の検閲制度
第 13 回	文芸統制の変化②	文藝懇話会と児童文化統制
第 14 回	まとめ	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテキストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：40 %

・学期末レポート：60 %

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していない。

日本文芸研究特講（５）近代B

村山 龍

授業コード：A2674

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1933 年 9 月 21 日に宮澤賢治は 37 歳で没した。生前たった 2 冊しか本を残さなかったこの作家は、没後急激に名声を高めていくことになる。そして現在、賢治のテキストは人びとに知れわたり、日本の代表的な作家の一人になっている。「銀河鉄道の夜」、「雨ニモマケズ」というタイトルを知らない人はほとんどいないだろう。『春と修羅』も『注文の多い料理店』もわずかな数しか売れなかったにも関わらず、なぜ賢治は没後に評価を高めることができたのだろうか。1930 年代という時代の流れのなかで受容されていった宮澤賢治像を概観しつつ、形成されたイメージと賢治テキストとの関わりを中心に考察していきたい。

【到達目標】

この授業では宮澤賢治の没後受容を通じて、〈作家像〉もまた時代状況のコンテクストの中で生成されることを学ぶ。賢治の受容過程の学習とテキストの読解によって、物事を分析し複数の視点から考察することのできる相対的な思考を獲得できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業についての説明など
第 2 回	〈宮澤賢治〉を知る	一般的な理解について
第 3 回	現在の賢治受容	3.11 以後の〈宮澤賢治〉
第 4 回	没後の作品発表の経緯	草野心平・高村光太郎を中心とした受容
第 5 回	初期受容における横光利一の影響	文藝春秋講演会という契機
第 6 回	受容者の〈自画像〉①	生前評と『宮澤賢治追悼』
第 7 回	受容者の〈自画像〉②	二つの『宮澤賢治研究』
第 8 回	ユートピアへの憧れ①	アナキズムと文学
第 9 回	ユートピアへの憧れ②	1930 年代の〈理想郷〉
第 10 回	宮澤賢治と自然	「なめとこ山の熊」
第 11 回	宮澤賢治と科学	「フランドン農学校の豚」
第 12 回	宮澤賢治と宗教	「土神ときつね」
第 13 回	〈世界全体〉への志向	「銀河鉄道の夜」
第 14 回	まとめ	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテキストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：40 %

・学期末レポート：60 %

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していない。

日本文学研究特講（5）近代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2675

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈居場所〉をめぐる考察——近代文学を読む

〈居場所〉という語を用いて、近代文学に一つの切り口を与えてみたい。〈居場所〉ということ意識しないですむ人は幸せな人であるように、この何の引っかけもないような言葉が、いったん〈居場所〉を失った人間には非常に重く響くようになる。言うまでもなく〈居場所〉とは、衣食住が足りているというだけの場ではない。なによりも自分の存在が承認されるか、もしくは孤独であっても、自分の存在が脅かされずに落ち着いていられて、日常が永続的に繰り返される場でなければならない。

なぜ近代文学で〈居場所〉が問題になるかということ、人間に衣食住を保障してきたということの達成では近代に及ぶ時代はない。しかしその反面、近代は人々から〈居場所〉を解体し奪うことで発展してきた。近代は人間の価値を役に立つか否かで計る功利主義的な社会だからにほかならない。「役に立つ」人には〈居場所〉が与えられるが役立たない人間には与えられない。衣食は足りているのにちっとも幸福を感じられない社会、このような社会に疑問を呈してきたのがなによりも文学だった。このような身近でありながらもいせつな問題を切り口に近代文学を読みながら、同時に「臨床の知」としての文学の意味を考えていければと思う。

また今回は語り手を中心とした読みの方法論についても詳細に検討していきたい。そのために前半を基礎編として短編作品を読み、後半では発展編として夏目漱石の「坊っちゃん」を読みたい。

【到達目標】

- ① 近代文学の批評性を理解する。
- ② 文学テキストの批評性、想像／創造性を学ぶ。（文学テキストが歴史や哲学と異なり、芸術としてどのような表現の固有性や機能をもっているのか理解する。）
- ③ テキスト分析の基本を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行う。

- ① 授業で扱うテキストは一週間前に配布。
- ② 最初の授業で簡単な感想を提出する。（200字程度）
- ③ 一つの作品を読み終えた授業の後で演習プリント（授業で配布）を提出。
- ④ 授業は、a) テキストの基本構造をおさえる、b) テキストの批評性について考察する、c) テキストの文学史的意義について考察する、という手順ですめる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 近代文学と〈居場所〉	・授業の主旨説明—なぜ〈居場所〉なのか・「臨床の知」としての文学と広津和郎「散文芸術論」 ・授業計画についての説明
第2回	志賀直哉「城の崎にて」第1回 ①構造	・「城の崎にて」はなぜ小説か？ 物語の構造を読む
第3回	志賀直哉「城の崎にて」第2回 ②批評と評価	・「城の崎にて」の問いかけるラジカルな存在論について ・志賀直哉の近代思想
第4回	樋口一葉「十三夜」第1回 ①構造	・語りと視点について——上昇と没落の近代を読む
第5回	樋口一葉「十三夜」第2回 ②批評と評価	・一葉の対峙した近代—明治20年代と一葉
第6回	泉鏡花「龍潭譚」第1回 ①構造	・語りのレトリックと記号としての空間・境界
第7回	泉鏡花「龍潭譚」第2回 ②批評と評価	・鏡花の反近代—鏡花に於ける〈幽界〉の意味
第8回	芥川龍之介「奉教人の死」第1回 ①構造	・〈方法〉の実験を読む—なぜ「奉教人の死」は近代文学なのか
第9回	芥川龍之介「奉教人の死」第2回 ②批評と評価	・芥川の賭け—「奉教人の死」と初期小説 ・芥川の挫折と死—「或る阿呆の一生」
第10回	夏目漱石「坊っちゃん」第1回 ①構造	・一人称の語りの問題—特に冒頭表現を中心に
第11回	夏目漱石「坊っちゃん」第2回	・物語内容と語り ・複数の視点の生み出す重層構造について考える
第12回	夏目漱石「坊っちゃん」第3回	・アレゴリーとしての「坊っちゃん」 ・漱石の発見した〈居場所〉
第13回	夏目漱石「坊っちゃん」第4回	・漱石の近代批判の射程—「坊っちゃん」と「現代日本の開花」と「私の個人主義」

第14回 まとめ・近代文学＝〈居場所〉をめぐる批評と想像力
・授業で扱わなかった作品をふくめ〈居場所〉をめぐる近代文学の系譜について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習

- ・授業で扱う作品を事前にしっかり読みこんでほしい。（二回以上は読むこと）
- ・演習ノートにわかったことを書きこんでみる。

復習

- ・授業のノートを参照しながらもう一度作品を読みなおしてみる。

【テキスト（教科書）】

「坊っちゃん」（新潮文庫）

後のテキストは授業で配布する。

【参考書】

- ・西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）文学作品をどう読めばよいのかということについて貴重なヒントを与えてくれる。専門領域を超えて文学研究者が読まなければならない必読書。
- ・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい参考書。
- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点（50％）作品ごとに演習ノートを提出（5回）。その他、授業への参加度。
- ② 試験（50％）学期末に行う。授業で学んだ内容について問う。

【学生の意見等からの気づき】

読みの方法論を教えてほしいという要望をよく耳にしました。今年度は方法論を意識した授業を心がけたいと思っています。

日本文芸研究特講（5）近代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2676

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＊近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。

→ この授業では、近代の小説を読みます。文学史的な知識を学ぶと同時に、一人称の小説を対象に語りの構造、および視点に注目し、小説の解釈との関係を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析をしてもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説を読み、文学史的な位置づけについて理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。

【授業の進め方と方法】

講義+教室内での意見交換によって進行予定。

→ 受講者数によりですが、アクティブラーニングとしてグループワークを取り入れる予定です。

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。

ワーク②：語り・視点を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	森鷗外『舞姫』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第3回	森鷗外『舞姫』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第4回	泉鏡花『外科室』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第5回	泉鏡花『外科室』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第6回	谷崎潤一郎『富美子の足』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第7回	谷崎潤一郎『富美子の足』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第8回	江戸川乱歩『押絵と旅する男』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第9回	江戸川乱歩『押絵と旅する男』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第10回	夢野久作『少女地獄』『殺人リレー』①	小説の背景について学ぶ。 ワーク：登場人物、内容、語りの構造・視点について理解する。
第11回	夢野久作『少女地獄』『殺人リレー』②	語りの構造・視点を分析する。 ワーク：語りの構造・視点と解釈の関係について考える。
第12回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を分析、発表する。
第13回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を分析、発表する。
第14回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定されたテキストを読んでくること。

→ 授業時にテキストの内容について感想を述べてもらいます。

・授業時に行う数回のワークに望むための予習。

→ 慣れてきたら、ワークは課題にしていきます。

【テキスト（教科書）】

テキストは以下。適宜、プリントを配布します。

森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

泉鏡花『外科室・海城発電』岩波文庫

谷崎潤一郎『谷崎潤一郎フェティシズム小説集』中公文庫

江戸川乱歩『江戸川乱歩短編集』岩波文庫

夢野久作『少女地獄』角川文庫

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』岩波新書

廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房

石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①平常点＝リアクションペーパー、授業内での発言など（40％）

②授業内ワーク（30％）

③学期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、毎回、グループワークを取り入れていました。他の人の意見を聞くのが刺激になるという声が多いので、基本的にはこのやり方を踏襲したいと思っています。

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑誌『青鞥』に拠った女性作家の作品をジェンダーとセクシュアリティの観点から読む。20世紀初頭に編制され今日まで機能しているジェンダー規範を確認し、規範形成過程と文学の相関の様相を知る。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するため方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【授業の進め方と方法】

講義形式による。リアクションペーパーの提出を課して、学生からの疑問やコメントに対応することで、双方向的な授業構築を目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期に扱う内容についての概説
第2回	セクシュアリティの近代(1)	いわゆる日本型自然主義文学の成立とその主題
第3回	セクシュアリティの近代(2)	当時の社会における「性欲」の焦点化
第4回	一煤煙事件の波紋	近代小説文体の完成と文学の社会化＝男性ジェンダー化の同期について
第5回	『青鞥』のメディア戦略	雑誌『青鞥』創刊時のメディア戦略の様相
第6回	平塚らいてうと『青鞥』	平塚らいてうが『青鞥』創刊に果たした役割
第7回	与謝野晶子と『青鞥』	与謝野晶子による『青鞥』への関与の様相
第8回	中間まとめ	ここまでの内容のふりかえり
第9回	『青鞥』の作家(1)	茅野雅子の作品を読む
第10回	『青鞥』の作家(2)	水野仙子の作品を読む
第11回	『青鞥』の作家(3)	森しげの作品を読む
第12回	性の政治と『青鞥』(1)	『青鞥』の三論争の概略を知る(1)
第13回	性の政治と『青鞥』(2)	『青鞥』の三論争の概略を知る(2)
第14回	全体まとめ	春学期のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に1910年代の社会状況や文学状況についての基礎知識を確認し、準備学習とする。復習の際は、講義で取り上げられた内容を確認し、紹介された文献を入手して読むなどして、知識の定着につとめる。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『『青鞥』人物事典』（大修館書店、2001）、『明治女性文学論』（翰林書房、2007年）、その他、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（出席、コメント等）20％、期末レポート80％とし、総合的に評価する。期末レポートの評価にあたっては、近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から読解するために必要な基本的知識が身についているか、またその知識を適切に運用できているかを採点の基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の学修目標、および事後学修の指標を明確にし、学生の便宜に供したい。

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑誌『青鞥』に拠った女性作家の作品をジェンダーとセクシュアリティの観点から読む。20世紀初頭に編制され今日まで機能しているジェンダー規範を確認し、規範形成過程と文学の相関の様相を知る。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するため方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【授業の進め方と方法】

講義形式による。リアクションペーパーの提出を課して、学生からの疑問やコメントに対応することで、双方向的な授業構築を目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期に扱う内容についての概説
第2回	森鷗外と性欲概念	森鷗外が考案した「性欲」という訳語の包含する概念について
第3回	森鷗外「半日」の波紋	文壇復帰作にして唯一の私小説の概要と影響
第4回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	創作者の妻の創作行為に向けられるハラスメントについて
第5回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげの代表作「波瀾」を読む
第6回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」を読む
第7回	鷗外・しげのインターテクスチュアリティ	鷗外夫妻の相互参照的創作活動について
第8回	中間まとめ	ここまでのまとめ
第9回	与謝野晶子と自然主義	自然主義文学全盛期の与謝野晶子について
第10回	主題としての出産	明治40年代の与謝野晶子が扱った主題について
第11回	思想としての出産	明治40年代の与謝野晶子が到達した思想について
第12回	家庭への解放と女性の国民化	近代家族と女性の国民化＝ジェンダー化の相関について
第13回	家庭からの逸脱 ―与謝野晶子と森鷗外	与謝野晶子と森鷗外の影響関係について
第14回	全体のまとめ	秋学期のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に1910年代の社会状況や文学状況についての基礎知識を確認し、準備学習とする。復習の際は、講義で取り上げられた内容を確認し、紹介された文献を入手して読むなどして、知識の定着につとめる。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『『青鞥』人物事典』（大修館書店、2001）、『明治女性文学論』（翰林書房、2007年）、その他、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（出席、コメント等）20％、期末レポート80％とし、総合的に評価する。期末レポートの評価にあたっては、近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から読解するために必要な基本的知識が身についているか、またその知識を適切に運用できているかを採点の基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の学修目標、および事後学修の指標を明確にし、学生の便宜に供したい。

日本文芸研究特講（7）漢文 A

遠藤 星希

授業コード：A2681

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【諸子百家の文を読む】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「治長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第 6 回	儒家の思想（5）	『荀子』を読む：「勸学篇」「修身篇」等より
第 7 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 8 回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第 9 回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 10 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 11 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 12 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲說篇」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 定期試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『戦国策』と『史記』を読む】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第3回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第4回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第5回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第6回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』精読（3）	「呉太伯世家」より
第10回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第12回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%定期試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

日本文芸研究特講（7）漢文C

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2683

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある故事成語の典故を用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。

先ず、先秦時代の有名な書物の比較的短文のもの、レ点・一二点などを用いるシンプルな文章から始め、当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を培う。

【到達目標】

漢文の読み方を基本から理解し、同時に中国古典に対する理解力を深める。

漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。

テキストに有名な故事成語の典故や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する視野を持つ。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。

各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち榮辱を知る」の成語を学ぶ。
第5回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』『春秋左氏伝』について解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかの部分を読む。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分の部分を精読し、当時の諸国の秦に対する印象を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	まとめ	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験	授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を30%、試験を70%で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
1回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

日本文芸研究特講（7）漢文D

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2684

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話を用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
先ず、当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。
テキストに有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。
各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分を精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第4回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていたのかを理解する。
第6回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	本紀について解説し、歴史上欠かせない人物である秦の始皇帝とその時代について知る。
第7回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を本紀を読むことで理解する。
第8回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを、原文から学ぶ。
第9回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第10回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第11回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。
第12回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第13回	まとめ	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験	授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を30%、試験を70%で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

日本文芸研究特講（8）言語A

尾谷 昌則

授業コード：A2685

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉には、人間が出来事をどう捉えているかが反映されており、その「捉え方」によって意味や構文が変化・拡張することもある。例えば日本語の「とる」という語には「取る／捕る／録る／撮る／採る／執る／摂る／盗る」など様々あるが、それらの意味には共通点と相違点がある。本講義では、このような事例を取り上げ、共通点と相違点について皆で検討しながら、人間の「捉え方」が言葉の意味にいかん反映されているのかを学ぶ。

【到達目標】

- (1) 言葉には様々な「捉え方」が反映されていることを理解する。
- (2) 認知言語学の基本となる諸概念を理解する。
- (3) それらの概念を利用して、多義語の意味構造を説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、回答をリアクションペーパーに書いてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ことばの記号性	形式と意味の結びつきについて考える
第2回	「捉え方」とことばの意味	ことばに反映される「捉え方」について考える
第3回	プロトタイプとことばの意味	ことばの意味のプロトタイプについて考える
第4回	スキーマとことばの意味	言葉の意味のスキーマについて考える
第5回	イメージ・スキーマと比喩	比喩を支えるイメージスキーマについて考える
第6回	意味のネットワーク	意味同士のつながりについて考える
第7回	メタファー（隠喩）	メタファーとそれを支える概念基盤について考える
第8回	メトニミー（換喩）	メトニミーとそれを支える概念基盤について考える
第9回	概念メタファー	メタファー理論について紹介する
第10回	方向性のメタファー	経験基盤に基づくメタファーについて考える
第11回	色彩語	色彩とメタファーの関係について考える
第12回	構文の意味	意味と形式が結びついた「構文」について考える
第13回	ことばのダイナミズム	言葉（特に意味）の変化について考える
第14回	ことばと文化	文化が反映されたことばについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探しておき、それを次回講義のリアクションペーパーに書く、という課題を与えるので、常に身の回りの「ことば」に気を配るようにしておいてほしい。

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』 谷口一美著、ひつじ書房、1200円

【参考書】

『日本語研究のための認知言語学』（初山洋介著、研究社）
『認知意味論：言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（初山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界 認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 60% 授業時に提出する小レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生がじっくり考える時間をとったことが講評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第2回	『万葉集』の基礎知識	テキストの4～20頁を解説
第3回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(1)	テキストの第1話
第4回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(2)	テキストの第2話と第2話補遺
第5回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(3)	テキストの第3話導入と第3話
第6回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(4)	テキストの第4話と第5話
第7回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(5)	テキストの第6話と第7話
第8回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(6)	テキストの第8話と第9話
第9回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(7)	テキストの第10話と第11話
第10回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(8)	テキストの第12話と第13話
第11回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(9)	テキストの第14話と第15話
第12回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(10)	テキストの第16話と第17話
第13回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較(11)	テキストの第18話と第19話
第14回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説』（森話社、2011年、1900円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの144頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の温度を調整してほしい。

日本文学研究特講（9）表現A

小池 昌代

授業コード：A2687

春学期・2単位

【学生が準備すべき機器他】

未定。授業内で告知。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語表現のなかの口承文芸的要素に注目し、詩と歌謡、語りとはそれぞれどんな特質を持つのかを考察しながら、韻文を中心に具体的な作品に触れ、その魅力を味わう。

【到達目標】

アイヌや琉球にも視野を伸ばし、和歌・短歌・俳句・今様・和讃・落語、近代文学の語りなど、様々な形式の作品を比較・鑑賞する。まずは、作品に親しむことを目的としています。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。毎回資料を配布します。リアクションペーパーを毎回提出していただき、翌週、質問などに答えます。授業内で鑑賞文を書いていただくこともあります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	日本文学の底を流れる歌心とはどんなものでしょう。今期、取り上げるテキストを総合的に紹介し概説します。
第2回	『百人一首』の世界（1）	「百人一首」の成り立ちや和歌の構造を知り、作品の鑑賞を通して、和歌の面白さを学びます。
第3回	『百人一首』の世界（2）	作品鑑賞（～60番）
第4回	『百人一首』の世界（3）	作品鑑賞（～100番）
第5回	『梁塵秘抄』を読む（1）	口伝集を紐解き、『梁塵秘抄』の成り立ちや背景にある考え方などについて学びます。
第6回	『梁塵秘抄』を読む（1） ー歌謡を読む	代表的な歌を鑑賞します。
第7回	和讃を読む	和語で書かれたリズムミカルな仏教讃歌を鑑賞します。
第8回	俳句・短歌の世界（1）	詩型の違いとそれぞれの成り立ち
第9回	俳句・短歌の世界（2）	具体的な作品を見てみましょう。
第10回	落語の語り	「まんじゅうこわい」「時そば」を取り上げます。
第11回	近代文学の声（1）	樋口一葉の文章を取り上げます。
第12回	近代文学の声（2）	夏目漱石の文章を取り上げます。
第13回	アイヌ神謡を読む	アイヌ語による神謡の世界を音声とともに味わいます。
第14回	琉歌と「おもろそうし」	琉球の豊かな歌謡を音声とともに味わいましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる作品はごく一部。興味を持った分野に積極的に読みを広げていくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を、毎回の授業で配布。

【参考書】

池澤夏樹個人編集 日本文学全集30巻『日本語のために』（河出書房新社）、大岡信『歌謡そして漢詩文』（岩波書店）。その他は未定。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を含む授業への積極的な取り組み60%、レポートなどの提出物40%

【学生の意見等からの気づき】

朗読やコメント執筆など、学生が授業に主体的に参加し、意見交換できるような要素を、授業に工夫して取り入れたい。

日本文芸研究特講（９）表現 B

小池 昌代

授業コード：A2688

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の重要な詩人の作品を通して、さまざまな表現方法を知り、詩の表現の豊かさを鑑賞します。

【到達目標】

近・現代の詩人の詩や散文を読み、意見交換を通して、読みを豊かに広げます。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業。毎回、担当教員が作成した資料を配布。リアクションペーパーを毎回、提出していただき、翌週、質問などに答えます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	宮沢賢治の詩	『心象スケッチ 春と修羅』より
第 2 回	宮沢賢治の童話	「貝の火」「毒もみのすきな署長さん」
第 3 回	萩原朔太郎の詩	『月に吠える』『青猫』より
第 4 回	中原中也の詩	『山羊の歌』『在りし日の歌』より
第 5 回	金子光晴の詩文	紀行文と詩を読みます。
第 6 回	石牟礼道子の詩文	ポリフォニックな声の在りかを探ります。
第 7 回	岡井隆の短歌・詩	短歌と詩と散文。それぞれの表現でどんなことが為し得るのか、その違いも見てみましょう。
第 8 回	入沢康夫の詩	初期の詩から後期まで、その変遷も見てみましょう。
第 9 回	飯島耕一の詩	初期の詩から晩年の作品まで、全体を見渡します。
第 10 回	白石かずこの詩	現代口語自由詩の「自由」についても考えてみましょう。
第 11 回	金時鐘の詩	朝鮮語と日本語とのほざまに生きた詩人の運命についても考えてみましょう。
第 12 回	大岡信の詩	日本の古典詩歌に深くつながった詩人です。その仕事を広く見てみましょう。
第 13 回	大岡信の評論	『うたげと孤心』など
第 14 回	藤井貞和の詩	古典詩歌や神話など、詩に流れ込んでいる言葉の水脈を探ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げるかどうかにかかわらず、他の作品も積極的に読んでみる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を、毎回の授業で配布。

【参考書】

授業内でその都度、教示しますが、いずれの詩人も文庫になっています。岩波文庫、思潮社現代詩文庫など、各自探してみてください。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を含む授業への積極的な取り組み 60%、レポートなどの提出物 40%。

【学生の意見等からの気づき】

学生への適切なフィードバックや学生同士が意見交換によって読みを深めていけるような工夫を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

未定。授業内で告知。

日本文芸研究特講（10）演劇 A

伊海 孝充

授業コード：A2689

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世の芸能（特に能）を通して、源義経（牛若丸）の生涯について学ぶ。義経に関する物語は「判官物」と称され、多くの芸能にも影響を与えた。今回は義経の生涯を3区分に分けた上で、それぞれの代表的な作品を取り上げ、義経の伝承と芸能との関係を概説していく。

【到達目標】

本講義では、義経伝承の概説と能という芸能の基本を理解することを目標とする。義経の生涯を通して、能の表現の多様性を理解していく。また、能楽を始めとする古典芸能の基本的な知識を吸収することも目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	能という芸能と判官物
第 2 回	「判官物」について（1）	牛若丸と中世文学・中世芸能
第 3 回	牛若・弁慶邂逅譚①	五条という空間
第 4 回	牛若・弁慶邂逅譚②	能「橋弁慶」の前場
第 5 回	牛若・弁慶邂逅譚③	能「橋弁慶」の後場
第 6 回	「判官物」について（2）	義経の源平合戦
第 7 回	八島合戦と文芸①	八島語りの芸能史
第 8 回	八島合戦と文芸②	能「八島」の前場
第 9 回	八島合戦と文芸③	能「八島」の後場
第 10 回	「判官物」について（3）	義経の都落ちと郎党たち
第 11 回	能「安宅」①	勧進帳と義経の打擲
第 12 回	能「安宅」②	弁慶の舞
第 13 回	能「安宅」③	後代の芸能への影響
第 14 回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 50%

授業内小テスト（2～3回） 20%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業内でグループワークなども取り入れていく。

日本文芸研究特講（10）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。

【到達目標】

本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。また、狂言は作品が作られた時代の文化を反映した史料でもある。狂言を通して、中近世の人間の姿についても考えていく。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能と狂言の関係
第2回	棒縛①	狂言「棒縛」を読む
第3回	棒縛②	太郎冠者について
第4回	棒縛③	酒宴と芸と謡
第5回	柿山伏①	狂言「柿山伏」を読む
第6回	柿山伏②	狂言が描く〃宗教。
第7回	柿山伏③	狂言と物真似
第8回	柑子①	狂言「柑子」を読む
第9回	柑子②	狂言の語り
第10回	柑子③	狂言のパロディ
第11回	朝猿①	狂言「朝猿」を読む
第12回	朝猿②	狂言の素材
第13回	朝猿③	狂言が描く動物
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 50%

授業内小テスト（2～3回） 20%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で演習やグループワークを取り入れていく。

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

Steven G. Nelson

授業コード：A2693

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の古典音楽（1）古代から中世にかけて成立したジャンル。日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】

本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持つほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【授業の進め方と方法】

春学期では序説のあと、古代から中世にかけて成立した諸種目を取り上げて、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽的特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、CDなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングCD（1枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序説 日本において音楽とは	授業履修の意味を確認 自己紹介 アンケートなど 概念規定 時代区分など
第2回	日本の楽器	楽器の種類・分類法 文学作品の演奏場面 描かれた楽器
第3回	雅楽とは	諸種目と歴史の流れ
第4回	国風歌舞	神への奉納としての歌舞
第5回	舞楽	平安の年中行事 左舞と右舞
第6回	管絃	御遊とは何か 音楽と音楽說話
第7回	催馬楽	途絶えた音楽の復興
第8回	朗詠	「二の句が継げない」
第9回	声明とは	日本の仏教と音楽 法会と法要
第10回	声明の言語と音楽様式①	梵語と漢語の曲種
第11回	声明の言語と音楽様式②	漢文訓読体と和文の曲種
第12回	講式	「語る」声明の特徴
第13回	琵琶伴奏の音楽①	平家語り 歴史の流れ
第14回	琵琶伴奏の音楽②	平家語り 曲節構造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習：

- 第1回 テキスト pp. 11-13 「分類用語」
- 第2回 テキスト 次の項目の図を中心に見ておくこと。 pp. 33-35 「楽器」、pp. 41-44 「楽器」、pp. 51-54 「楽器」、pp. 64-66 「囃子」、pp. 88-95 「楽器」、pp. 119-121 「楽器」、pp. 133-136 「楽器」
- 第3回 テキスト p. 17 「雅楽」
- 第4回 テキスト pp. 21-24 「国風歌舞」～「大歌」
- 第5回 テキスト pp. 17-21 「概論」の内「舞楽」～「伎楽」
- 第6回 テキスト pp. 24-25 「管絃」、p. 26 「御遊」
- 第7回 テキスト p. 24 「催馬楽」
- 第8回 テキスト p. 24 「朗詠」
- 第9回 テキスト pp. 36-37 「仏教音楽」「声明」、pp. 40-41 「法会」
- 第10回 テキスト p. 37 「梵唄」、p. 38 「唄」～「讃」
- 第11回 テキスト pp. 37-38 「論義（論議）」、「和讃」
- 第12回 テキスト p. 37 「講式」
- 第13回 テキスト pp. 45-46 「琵琶楽」、pp. 46-48 「雅楽」・「平家」、pp. 51-52 「琵琶」～「平家琵琶」

【テキスト（教科書）】

『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%、リスニングCDの内容を問う試験（持ち込み不可）40%、期末レポート（試験時に提出）30%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史B

Steven G. Nelson

授業コード：A2694

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の古典音楽（2）中世から近世にかけて成立したジャンル。
日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】

本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持つほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【授業の進め方と方法】

秋学期では春学期に続いて、中世から近世にかけて成立したジャンルを取り上げ、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽的特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、CDなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングCD（1枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	能とは	中世の歌舞劇の歴史と現状
第2回	能の音楽	小段構造、リズム法など
第3回	三味線音楽	江戸時代の歌と語りの伴奏楽器 種目のさまざま 義太夫節と人形浄瑠璃（文楽）
第4回	浄瑠璃①	常磐津節と歌舞伎舞踊
第5回	浄瑠璃②	清元節と歌舞伎舞踊
第6回	浄瑠璃③	江戸音曲の代表
第7回	長唄	箏組歌、段物など
第8回	箏曲	三味線組歌、端歌など
第9回	地歌	手事物、京風手事物
第10回	地歌箏曲	江戸で流行った流派
第11回	山田流箏曲 尺八	本曲と外曲
第12回	琵琶伴奏の音楽	薩摩琵琶・筑前琵琶
第13回	浪花節（浪曲）	近代日本大衆芸能の代表
第14回	国家と国歌	あの独特な響きは何から生まれたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習：

- 第1回 テキスト pp. 57-63 「能」～「能・狂言の役籍と流儀」
第2回 テキスト pp. 64-72 「音楽」
第3回 テキスト pp. 76-80 「三味線音楽」～「種類」、pp. 88-93 「三味線」
第4回 テキスト p. 78 「浄瑠璃」、pp. 80-81 「義太夫節」、pp. 102-106 「人形浄瑠璃」
第5回 テキスト pp. 78-79 「豊後系浄瑠璃」、pp. 82-83 「常磐津節」
第6回 テキスト p. 83 「清元節」、pp. 96-98 「楽曲構成用語」
第7回 テキスト p. 78 「うた」、pp. 84-85 「長唄」、pp. 79 「観賞用長唄」
第8回 テキスト pp. 119-126 「箏曲」～「箏組歌」・「段物」
第9回 テキスト pp. 114-118 「地歌」～「楽譜」
第10回 テキスト pp. 126-128 「地歌系箏曲」・「合奏」
第11回 テキスト p. 126 「山田流箏曲」、pp. 131-133 「尺八音楽」～「本曲」・「外曲」
第12回 テキスト pp. 49-51 「薩摩琵琶」・「薩摩琵琶」、pp. 53-56 「薩摩琵琶」・「薩摩琵琶」（楽器）
第13回 テキスト p. 87 「説経節」・「浪曲」
第14回 特になし。正月の間、どんな古典音楽が、どこから聞こえたが、気に留めておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %、リスニングCDの内容を問う試験（持ち込み不可）40 %、期末レポート（試験時に提出）30 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

できるだけ同じ特講の春学期、音楽芸能史Aを合わせて履修してください。

日本文芸研究特講（１２）詩歌A

池井 昌樹

授業コード：A2695

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1966年の第一作から2018年現在までの自作詩を、70冊の手書き清書ノート及び17冊の単行詩集を軸に講義します。市井で働きながら詩を書き続けた私にとっての詩の意味、詩の価値、生の輝きについて。

【到達目標】

詩の力。詩の無力。詩とヒトとの関りについて正しく理解する。

【授業の進め方と方法】

とりあえず本年は講義形式から始めます。

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業について説明します。
第2回	第一詩集「理科系の路地まで」、第四詩集「旧約」を中心に	朗読と講義
第3回	第二詩集「鮫肌鉄道」	朗読と講義
第4回	第三詩集「これは、きたない」、第五詩集「沢海」	朗読と講義
第5回	第六詩集「この生は、気味悪いなあ」、第七詩集「ほたいのいる家」	朗読と講義
第6回	第八詩集「水源行」、第九詩集「黒いサンタクロース」	朗読と講義
第7回	第十詩集「晴夜」	朗読と講義
第8回	第十一詩集「月下の一群」	朗読と講義
第9回	第十二詩集「一輪」	朗読と講義
第10回	第十三詩集「童子」	朗読と講義
第11回	第十四詩集「眠れる旅人」	朗読と講義
第12回	第十五詩集「母家」	朗読と講義
第13回	第十六詩集「明星」	朗読と講義
第14回	第十七詩集「冠雪富士」 ／レポート提出	朗読と講義 総括、レポートの提出説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩にのみ限らない様々な言語表現、言語にのみ限らない様々な芸術文化、芸術文化にのみ限らない様々な日常
市井での出会いとときめきを何よりも先ず。

【テキスト（教科書）】

「池井昌樹詩集」（ハルキ文庫）、「現代詩文庫 164 池井昌樹詩集」（思潮社）

【参考書】

上記に未収録の単行詩集（「一輪」より「冠雪富士」まで全て思潮社）
「手から手へ」（集英社）

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう感想 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

日本文芸研究特講（12）詩歌B

池井 昌樹

授業コード：A2696

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らが詩を書き続ける中で出会った近現代詩の鑑賞と解釈。それらの詩が「私」を超えやがて「普遍」へと昇華されて行く神秘について、背景となる時代状況を併せて講義します。

【到達目標】

絶えず「詩」とともに在り続けた「ヒト」。時代を超えるその不可避について正しく理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。テーマとなる作品及び年譜をプリントして毎回配布します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業について説明します。
第2回	私の「谷内六郎」体験	『遠い日のうた』『旅の絵本』『谷内六郎画集』を中心に。
第3回	私の「北原白秋」体験	『思ひ出』『邪宗門』を中心に。
第4回	私の「萩原朔太郎」体験	『月に吠える』『青猫』を中心に。
第5回	私の「三好達治」体験	『測量船』『南窓集』『閑花集』を中心に。
第6回	私の「山村暮鳥」体験	『聖三稜玻璃』『雲』を中心に。
第7回	私の「八木重吉」体験	『秋の瞳』を中心に。
第8回	私の「田中冬二」体験	『青い夜道』を中心に。
第9回	私の「宮沢賢治」体験	『春と修羅』を中心に。
第10回	私の「中原中也」体験	『山羊の歌』『在りし日の歌』を中心に。
第11回	私の「草野心平」体験	『第百階級』『日本沙漠』を中心に。
第12回	私の「山本太郎」体験	『礼問者の惑いの唄』『死法』を中心に。
第13回	私の「会田綱雄」体験	『鹹湖』『狂言』『汝』『遺言』を中心に。
第14回	私の「長田宏」体験	『長田弘全詩集』『最後の詩集』を中心に。／レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回テーマとなる諸作品の多くが文庫化されていますので自主的に役立てて下さい。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントして配布します。プリントはファイルしてレポートに役立てて下さい。

【参考書】

思潮社版『現代詩文庫』の各「近代詩人篇」及び新潮、角川、講談、集英、ハルキ他、各文庫版詩集。

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう感想 70%、レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

板書・資料をより密にし、各作家、各作品の背景をより詳細にします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

日本文芸研究特講（13）児童文芸A

三井 喜美子

授業コード：A2697

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的な講義を理解する。児童文学とは何か自分なりに定義をし、それを研究する事の意味や意義を自覚しながら学問探求することをめざす。日本児童文学の成り立ちを理解する

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を伝えることができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解すること。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えること。また、代表的な作家の業績をとらえること。実際に児童文学の創作をし、合評会で意見交換ができる。

【授業の進め方と方法】

講義。講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、合評会を行うこと。出席表に感想を書き、講師とコミュニケーションをとること。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様性について視野を広げる
第2回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第3回	小波の「こがね丸」	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の発展を考えることができる
第4回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第5回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第6回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体と特徴を理解することができる
第7回	小川未明「赤いろうそく」と人魚	作品の評価を巡って、児童文学史における各作品の価値を理解することができる
第8回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第9回	鈴木三重吉の求めたものの	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第10回	浜田広介	広介童話といわれる作風の特徴を理解することができる
第11回	創作合評	童心主義とは何かを理解する 実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第12回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える
第13回	千葉省三その他	大人の文学と子どもの文学その1 子どもを描くということについて考える
第14回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。

児童文学短編を創作すること。

合評会をして作品評価をすること

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集

小川未明・浜田広介・坪田譲治・新美南吉は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学

『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業感想）30 % 児童文学（掌編）の創作 25 % 合評会参加 15 % 作品の感想文 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。

学生同士の交流を取り入れること。

スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は 6 月末ころを目安に提出し、グループで合評会を行い、優秀作品の選考をする。

合評及び選考会は必ず出席のこと。実費で作品集製本予定。

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、秋学期では特に昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って、それぞれの作風や表現の特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批判的に見据えていく視座として、児童文学を考えいけることができる。推薦絵本の作品評価をプレゼンテーションする。

【到達目標】

現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介を通して、児童文学の可能性を考えることができる。児童文学の作品評価をプレゼンテーションすることができる

【授業の進め方と方法】

講義。特に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。永遠の児童文学、新たな児童文学の観点を意識して、絵本のビブリオバトルを行う。推奨作品をプレゼンテーションする。制限時間は 3 分。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	大人も楽しむ児童文学 ビブリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	宮沢賢治	宮沢賢治の故郷と文学
第 4 回	宮沢賢治	民話的作品の世界を理解することができる
第 5 回	宮沢賢治	表現の特徴と効果を理解することができる
第 6 回	宮沢賢治	銀河鉄道の夜を通して見えてくる賢治の世界を理解することができる
第 7 回	幼年童話	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 8 回	戦争児童文学	「かわいそうなぞう」を巡って。事実を語ることと文学的真実について理解することができる
第 9 回	戦争児童文学	今西祐行「一つの花」「ヒロシマの歌」を中心に。児童文学と国語教科書の問題について理解することができる
第 10 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる
第 11 回	歴史児童文学	歴史を語ることの意味と文体について考えをまとめることができる
第 12 回	少年少女小説	児童と大人の狭間の読者論的理解
第 13 回	ファンタジー	日本のファンタジーの出發を理解し、特徴を捉えることができる
第 14 回	ファンタジー	ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

日本文学研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球の建造物であるぐすくは様々な謎を秘めている。そのぐすくを謡うのが『おもろさうし』のおもろ（神歌）である。1609 年に最終編纂されたと考えられる『おもろさうし』（おもろをまとめた冊子）は琉球王国初の文字資料である。『おもろさうし』のおもろがいかにぐすくを謡っているかを知り、琉球文学と琉球史に親しむことを目標とする。

【到達目標】

おもろは謎の多い歌謡であり、馴染みにくい側面がある。しかし、おもろは琉球王国の成り立ちとも深く関わっており、大変興味深い世界が展開している。そのおもろ、そしてぐすくを深く知ることは、琉球文化の根幹を理解することでもある。日本の中の南の異文化を深く理解することは、日本文化の持つ多様な側面の一つを理解することでもある。多様な文化のせめぎあう現代、文学世界から日本の多様性を知ることは、学生諸君の将来の無形の財産になる、と考える。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを用い、講義中心とする。ただ、馴染みにくい説明が多くなるため、映像資料や写真資料も適宜、用いる。また琉球・沖縄文化を深く知るために、授業内容からやや離れた音源なども鑑賞する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ぐすくとは何か	ぐすくについて概説する。
第 2 回	ぐすくの語源	ぐすくの語源についての様々な論を概説する。
第 3 回	尚真王について	琉球王国の黄金時代を築いた第二尚氏の王、尚真王について概説する。
第 4 回	尚真王のおもろ世界について	尚真王を謡ったおもろについて概説する。
第 5 回	ぐすくの石を割る道具について	ぐすくの石を割る道具について概説する。
第 6 回	ぐすく造営のおもろについて	ぐすくを造営する事象を謡うおもろについて概説する。
第 7 回	造営のおもろと歴史事象について	ぐすくを造営するおもろが実際の歴史事象とリンクをする場合がある。その事例について概説する。
第 8 回	「げらへ」という言葉について	ぐすく造営に関わってたびたび登場する「げらへ」という言葉を概説する。
第 9 回	何を「げらへる」のか	おもろ世界では何を「げらへる」と謡うのかを概説する。
第 10 回	「げらへる」主体について	おもろ世界では誰が「げらへる」のかを概説する。
第 11 回	誰が「げらへる」のか	「げらへる」主体は工事を命じた人物や工事に従事する人物のほか、神の場合がある。そのことを概説する。
第 12 回	美称辞としての「げらへ」	美称辞として用いられる「げらへ」について概説する。
第 13 回	造営に関わる語	「げらへる」以外の造営に関わる語について概説する。
第 14 回	石について	ぐすくの石垣の石、信仰の対象、そして呪的な石について概説する。授業の内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをよく読み、内容の理解につとめる。わからない言葉があったら、琉球・沖縄関係の辞典や地名辞典などを参照し、自分なりの理解につとめる。

【テキスト（教科書）】

『ぐすく造営のおもろ 立ち上がる琉球世界』（福寛美、新典社、2015 年、1000 円＋税）

【参考書】

『『おもろさうし』と群雄の世紀 三山時代の王たち』（福寛美、森話社、2013 年、3456 円）

【成績評価の方法と基準】

授業では毎回、出席をとる。平常点と試験（記述形式）をあわせて評価する。成績評価は平常点 30 %、試験結果 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの内容に留意し、授業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルを行う。グループごとの推薦作品をプレゼンテーションし、最終バトルを決着させる。講義で取り上げる作品は事前に読むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】

別冊太陽特集絵本 ○○年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】

出席表にその日の講義の感想を書き、教員とコミュニケーションをとること。平常点とその日の感想 30 %、ビブリオバトルによる推薦絵本プレゼンテーション 30 % ビブリオバトルに参加 20 % レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

教員とのコミュニケーションをとること。

学生間のコミュニケーションをとること。

プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】

OHC の使用

【その他の重要事項】

ビブリオバトルには参加必須。

推薦絵本の紹介は、事前に紹介文を提出し、発表当日はそれを印刷したものを全員に配布するので、あらすじなどは基本的に発表内容に含めなくて良い。

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の一部の奄美群島には独特の民謡、シマウタが存在する。シマウタは個性的であると同時にシャーマン性を帯びている。その歌のシャーマン性を学び、歌や人の声の持つ力を理解することを授業の目的とする。その学びを通し、捉えがたく、文章で表現することが難しい人の情動、感動の本質に迫りたい。

【到達目標】

奄美群島は南西諸島の一部にすぎない。しかし、多様な文化を持っている。その文化の一端としてのシマウタは多彩な展開をしている。そのシマウタの世界やウタ（流行歌、現代の歌）の持つ民俗や神話性を深く理解する過程で、日常生活とは次元の異なる歌語の豊かさを知ることを到達目標とする。その豊かさを知ることは、若い学生の人生の豊かさに通じる、と考える。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを用い、講義中心とする。ただ、馴染みにくい説明が多くなるため、映像資料や写真資料も適宜、用いる。また琉球・沖縄文化に含まれるが独自の奄美文化を深く知るために、授業内容からやや離れた音源なども鑑賞する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	現代の歌手のシャーマン性	現代の流行歌の歌手のシャーマン性について概説する。
第2回	藤圭子	往年の名歌手、藤圭子の才能についての言説を確認する。
第3回	歌の力	歌の持つシャーマン性や影響力について概説する。
第4回	替女（ごぜ）について	かつて日本中を旅していた盲目の女芸人、替女について概説する。
第5回	替女の歌の力 1	替女の歌の力について概説する。
第6回	替女の歌の力 2	替女の歌の力について概説する。
第7回	替女のシャーマン性 1	替女は芸人であるが、シャーマン性を持つ存在とみなされていた。そのあり方を概説する。
第8回	替女のシャーマン性 2	替女は芸人であるが、シャーマン性を持つ存在とみなされていた。そのあり方を概説する。
第9回	継承されるもの	継承される歌の才能について概説する。
第10回	歌と神霊の世界 1	神霊と深く関わる奄美のシマウタについて概説する。
第11回	歌と神霊の世界 2	神霊と深く関わる奄美のシマウタについて概説する。
第12回	生と死	生と死をつなぐシマウタ、ほかの歌について概説する。
第13回	歌声	かつての民俗の中での歌の価値と、驚異的な歌声を持っていた人々について概説する。
第14回	歌とシャーマン	歌うことの意義と、歌の持つシャーマン性を確認し、授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをよく読み、内容の理解につとめる。わからない言葉があったら、琉球・沖縄関係の辞典や地名辞典などを参照し、自分なりの理解につとめる。

【テキスト（教科書）】

『歌とシャーマン』福寛美、南方新社、2015年、1620円

【参考書】

『うたの神話学』福寛美、森話社、2010年、3024円

【成績評価の方法と基準】

授業では毎回、出席をとる。平常点と試験（記述形式）をあわせて評価する。成績評価は平常点 30％、試験結果 70％とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの内容に留意し、授業をすすめる。

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸C

小山 和行

夜間時間帯

授業コード：A2701

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって表現された世界の多様な魅力にアプローチする。

【到達目標】

沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する〈南からのまなざし〉に注目していく。

【授業の進め方と方法】

- ① 琉球王権の特質および王国形成史について、神話、伝承、歌謡を通して理解を深める。
- ② 南西諸島各地の祭りについてビデオやテープを活用しながらその魅力とともに〈宇宙観〉を考える。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	太平洋文化圏の中の沖縄	文化的位置の理解
第2回	オモロにみる英雄たち①	舜天王の伝承
第3回	オモロにみる英雄たち②	察度王の伝承
第4回	オモロにみる英雄たち③	英祖王の伝承
第5回	琉球王国の成立①	第一尚王統について
第6回	琉球王国の成立②	尚真王の治世①
第7回	琉球王国の成立③	尚真王の治世②
第8回	琉球王権の特質①	オナリ神信仰について
第9回	琉球王権の特質②	王国の神女組織
第10回	琉球王権の特質③	琉球の神々
第11回	琉球王権儀礼と久高島①	麦の初穂祭り①
第12回	琉球王権儀礼と久高島②	麦の初穂祭り②
第13回	琉球王権儀礼と久高島③	イザイホウ祭り①
第14回	琉球王権儀礼と久高島④	イザイホウ祭り②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習

【テキスト（教科書）】

- ①『沖縄の歴史と文化』（外間守善著 中公新書）
- ②毎回配布のプリント資料
- ③映像資料

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と講義内容を中心に最終回のレポート（60％）提出（必須）を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸D

小山 和行

夜間時間帯

授業コード：A2702

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって表現された世界の多様な魅力にアプローチする。

【到達目標】

沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する＜南からのまなざし＞に注目していく。

【授業の進め方と方法】

- ① 沖縄本島、奄美地方、先島（宮古、八重山）の民謡を鑑賞しながら、言語表現としての＜ウタ＞の問題について探求する。
- ② 南西諸島各地の祭りについて、ビデオやテープを活用しながら理解を深め、その多様な魅力とともに＜島の生活と文化＞について考える。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界①	＜島ウタ＞と八月踊り
第2回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界②	＜島ウタ＞と＜節祭り＞①
第3回	奄美－＜ウタ＞と伝承の世界③	＜島ウタ＞と＜節祭り＞②
第4回	宮古－＜ウタ＞と伝承の世界①	狩俣の祖神祭
第5回	宮古－＜ウタ＞と伝承の世界②	来間島のヤーマスブナカ
第6回	宮古－＜ウタ＞と伝承の世界③	宮古の民謡
第7回	八重山－＜ウタ＞と伝承の世界①	竹富島の種取り祭り
第8回	八重山－＜ウタ＞と伝承の世界②	八重山の民謡
第9回	宮古の歴史と文化	琉球王権と宮古島
第10回	八重山の歴史と文化	琉球王権と八重山
第11回	久高島の祭祀的世界①	年中行事①
第12回	久高島の祭祀的世界②	年中行事②
第13回	久高島の祭祀的世界③	年中行事③
第14回	南西諸島の祭祀歌謡を考える	歌謡の多様なジャンルに触れる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習

【テキスト（教科書）】

- ①『沖縄の歴史と文化』（外間守善著 中公新書）
- ②毎回配布のプリント資料
- ③祭りの映像資料

【参考書】

参考書は、必要に応じてアドバイスする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と講義内容を中心に最終回のレポート（60％）提出（必須）を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

Steven G. Nelson

授業コード：A2703

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894] の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

- ・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
- ・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
- ・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や美術が世界的に知られていったプロセスを知る

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学 プレゼンテーションと討論
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	オールコック、アストン等
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	チェンバレン、ハーン
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	プレゼンテーションと討論
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第10回	日本美術とジャポニスム	オペレッタ《ミカド》 オペラ《蝶々夫人》 プレゼンテーションと討論
第11回	ジャポニスムと音楽①	
第12回	ジャポニスムと音楽②	
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回 テキスト pp. 10-17
第7回 テキスト pp. 18-23
第8回 テキスト pp. 64-69、70-77
第14回 テキスト pp. 104-111
その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (30 %)、プレゼンテーションと議論への参加度 (30 %)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40 %)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

Steven G. Nelson

授業コード：A2704

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1 ～ 3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」 プレゼンテーションと討論
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第 7 回	60 ～ 70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 8 回	日本人論の特徴	プレゼンテーションと討論
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 10 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	第 10 章 “The Dilemma of Virtue” デールの「恥の文化の恥」論
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 2 回 テキスト pp. 182-187

第 6 回 テキスト pp. 214-219、266-271

第 7 回 テキスト pp. 248-253

第 11 回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (30 %)、プレゼンテーションと議論への参加度 (30 %)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40 %)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『菊と刀』に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

日本文芸研究特講 (16) 特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707

春学期・2単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の文化を学ぶ

おもてなし現象の裏側で、わたしたちは日本の文化を忘れつつあります。グローバル化も要因の1つでしょう。そんな忘れられつつある文化をいくつか取り上げ、かつての日本文化やその背景にあった精神などを学習していき、それによっておもてなしブームに流されるだけではなく、各自がしっかりとした日本文化像を抱けるようにしたいと思います。

【到達目標】

歴史を振り返りながら日本文化を掘り起こし改めて見つめ直すことで、昨今の日本文化ブームに終わらず、より深い理解を得て、今後の学習や生活等にも活かせるようになる。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で進める。毎回リアクションペーパーを提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方を説明する。
第2回	注目される日本文化	おもてなし現象等について考える。
第3回	和歌と日本文化	日本文化としての和歌に着目し学習する。
第4回	和歌と日本文化	日本文化としての和歌に着目し学習する。
第5回	和歌と日本文化	日本文化としての和歌に着目し学習する。
第6回	色町と日本文化	日本文化としての色町に着目し学習する。
第7回	色町と日本文化	日本文化としての色町に着目し学習する。
第8回	色町と日本文化	日本文化としての色町に着目し学習する。
第9回	落語と日本文化	日本文化としての落語に着目し学習する。
第10回	落語と日本文化	日本文化としての落語に着目し学習する。
第11回	落語と日本文化	日本文化としての落語に着目し学習する。
第12回	日本文化と心	心のあり方に着目し、日本文化について学習する。
第13回	日本文化と心	心のあり方に着目し、日本文化について学習する。
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の理解と定着ため、リアクションペーパーを小レポートや宿題等の代わりに活用する。その他、中間レポートと期末レポートによって、理解をより深める。

【テキスト (教科書)】

購入する教科書は特にない。

【参考書】

・安原眞琴監督作品：ドキュメンタリー映画「最後の吉原芸者四代日みな子姐さんー吉原最後の証言記録」(DVD)
・安原眞琴著『東京おいしい老舗散歩』(東海大学出版)
・安原眞琴監修『超初心者のための落語入門』(主婦と生活社)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 40 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・遅い時間の授業にもかかわらず熱心な学生が多いため、教える側でもできるだけ内容を濃くしながらも分かりやすく講義できるように、毎回楽しく準備しています。
・授業中に挙手して意見交換することはほとんどありませんが、リアクションペーパーはその代わりとしても用いていますので、大いに活用してください。
・また、アクティブラーニングの一環として、ビデオや画像等多用し、講義しています。

【学生が準備すべき機器他】

記録のために、リアクションペーパーを写メすることをすすめています。そのためスマホがあればお持ち下さい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんので、授業後に教壇の前に来てください。もっと時間を要する場合は、メールで対応します。安原眞琴公式サイトから御連絡ください。

日本文芸研究特講（16）特域D

湯本 豪一

夜間時間帯

授業コード：A2708

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の妖怪文化と漫画文化の歩みと広がり

【到達目標】

日本のユニークな文化である妖怪と漫画について、その歩みと広がりを通観し、理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

妖怪文化と漫画文化が大きな広がりをもせた江戸時代から言及して、近代における展開についてもみていきますが、できるだけ原資料を紹介し、それらを直接見たり触れたりすることによって当時の人々が妖怪や漫画とどのように接していたかも知っていただきたいと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要	授業内容の把握
第2回	妖怪文化について	妖怪文化の広がり
第3回	江戸時代の妖怪文化	絵巻のなかの妖怪
第4回	同上	錦絵のなかの妖怪
第5回	同上	版本のなかの妖怪
第6回	同上	多様な妖怪資料の検討
第7回	明治時代の妖怪文化	メディアのなかの妖怪
第8回	もう一つの妖怪文化	幻獣とは？
第9回	漫画文化について	漫画文化のルーツ
第10回	江戸時代の漫画	江戸時代の漫画の隆盛
第11回	同上	風刺画の登場
第12回	明治時代の漫画	メディアのなかの漫画
第13回	大正時代の漫画	漫画界の新しい流れ
第14回	昭和戦前期の漫画	戦前、戦中の漫画の動向
	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

妖怪や漫画に関する展覧会などがあつたら可能な限り見ておいてください。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント、授業の最後に提出するレポート 50 パーセントで配点します。

【学生の意見等からの気づき】

原資料を全員が時間中に余裕を持って見られるようにできるだけ配慮します。

ゼミナール入門

伊海 孝充、遠藤 星希、尾谷 昌則、加藤 昌嘉、小林 ふみ子、田中 和生、中沢 けい、中丸 宣明、藤村 耕治、村山 龍

授業コード：A2605

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科では、2 年次以降、所属するゼミナールによって文学／言語／文芸の 3 コースに分かれます。ゼミナールでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4 年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミナールに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

【到達目標】

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
2. わかりやすいレジュメを作成することができる
3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる

以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができる」ことを、最終到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

グループ発表や個人発表を授業の中心とします。文献調査、レジュメの作成、口頭発表、質疑応答など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★1 時限分を使って、合同ゼミナールガイダンスを開催します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	自己紹介・課題選択
2	ガイダンス 2	合同ゼミナールガイダンス（日時は掲示板で発表）
3	準備編 1	テーマを考える
4	準備編 2	文献調査
5	準備編 3	グループ内ミーティング
6	準備編 4	レジュメの準備
7	発展編 1	グループ発表・質疑応答
8	発展編 2	グループ発表・質疑応答
9	発展編 3	グループ発表・質疑応答
10	発展編 4	グループ発表・質疑応答
11	応用編 1	個人発表・質疑応答
12	応用編 2	個人発表・質疑応答
13	応用編 3	個人発表・質疑応答
14	応用編 4	個人発表・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成や口頭発表の準備を怠りなく進めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック 2018』

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への積極的な参加（20％）。4 回以上欠席すると、単位を修得できません。
2. 発表の内容（40％）、質疑への積極的な参加（40％）。発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「プレゼンやディスカッションのノウハウが身についた」という感想が多く寄せられました。

◎全担当教員でミーティングを行い、授業内容を工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施する（10 コマ開講）。

日本語史 A

阿部 美菜子

授業コード：A2433

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語を概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】

日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【授業の進め方と方法】

テキストのほか、プリントや映像資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代の日本語（1）	話し言葉中心の社会
第 2 回	奈良時代の日本語（2）	文字との出会い
第 3 回	奈良時代の日本語（3）	万葉仮名
第 4 回	奈良時代の日本語（4）	日本固有の文字
第 5 回	奈良時代の日本語（5）	発音
第 6 回	平安時代の日本語（1）	日本語最古の文章
第 7 回	平安時代の日本語（2）	和語による翻訳
第 8 回	平安時代の日本語（3）	カタカナの誕生
第 9 回	平安時代の日本語（4）	「万葉仮名」から「草仮名」への変化
第 10 回	平安時代の日本語（5）	ひらがなの表現
第 11 回	鎌倉・室町時代の日本語（1）	係り結びの法則（強調表現）
第 12 回	鎌倉・室町時代の日本語（2）	係り結びの法則（疑問・反語表現）
第 13 回	鎌倉・室町時代の日本語（3）	係り結びの衰退、消滅
第 14 回	鎌倉・室町時代の日本語（4）	武士の言葉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布資料を事前に読んで上で授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、780 円＋税

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

日本語史 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2434

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	奈良時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第 3 回	奈良時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第 4 回	奈良時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第 5 回	奈良時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（4）
第 6 回	平安時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第 7 回	平安時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第 8 回	平安時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第 9 回	平安時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第 10 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第 11 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第 12 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第 13 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート（50%）と最終授業時に提出する大レポート（50%）の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室が広すぎるという意見があったので、事務課と相談します。

日本語史 B

阿部 美菜子

授業コード：A2435

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代および明治時代以後の日本語を中心に概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】

日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【授業の進め方と方法】

テキストのほか、プリントや映像資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語概観	先学期の復習、確認
第 2 回	江戸時代の日本語（1）	「話し言葉」と「書き言葉」
第 3 回	江戸時代の日本語（2）	表記と発音
第 4 回	江戸時代の日本語（3）	町人の言葉
第 5 回	江戸時代の日本語（4）	人称代名詞
第 6 回	江戸時代の日本語（5）	敬語表現
第 7 回	明治時代以後の日本語（1）	東京語を標準語へ
第 8 回	明治時代以後の日本語（2）	漢字カナ交じり文
第 9 回	明治時代以後の日本語（3）	言文一致への高い壁
第 10 回	明治時代以後の日本語（4）	二葉亭四迷の功績
第 11 回	明治時代以後の日本語（5）	「である」体
第 12 回	受講生の発表（1）	レポートを基にした発表（奈良時代～平安時代）
第 13 回	受講生の発表（2）	レポートを基にした発表（鎌倉・室町時代～江戸時代）
第 14 回	受講生の発表（3）	レポートを基にした発表（明治時代以後）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布資料を事前に読んで授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、780 円＋税

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

日本語史 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2436

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	江戸時代の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポートの報告（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第 3 回	江戸時代の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第 4 回	江戸時代の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第 5 回	江戸時代の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（4）	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出（4）
第 6 回	明治時代から戦前の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（5）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第 7 回	明治時代から戦前の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（6）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第 8 回	明治時代から戦前の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（7）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第 9 回	明治時代から戦前の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（8）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第 10 回	戦後の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（9）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第 11 回	戦後の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（10）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第 12 回	戦後の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（11）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）

第 13 回	戦後の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レ ポート報告 (12)	プリント等で解説し、授業中に小 レポートを提出 (12)
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (30%) と最終授業時に提出する大レポート (40%) と発表 (30 %) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

座席指定は良いという意見が多くあったので、続けることにします。

日本文法論 A

尾谷 昌則

授業コード：A2437

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】

- (1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解する。
- (2) 学校文法の不備・例外について理解する。
- (3) 日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、回答をリアクションペーパーに書いてもらう。

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	品詞	品詞の定義と問題点について
第 2 回	活用	活用のしくみとその問題点について
第 3 回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第 4 回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第 5 回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第 6 回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第 7 回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第 8 回	助動詞 (1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第 9 回	助動詞 (2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第 10 回	助動詞 (3)	モダリティに関して
第 11 回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第 12 回	敬語	敬語の分類とその問題点
第 13 回	文章・談話	文よりも大きな単位の研究について
第 14 回	文法	総括として、文法とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探しておき、それを次回講義のリアクションペーパーに書く、という課題を与えるので、常に身の回りの「ことば」に気を配るようにしておいてほしい。

【テキスト（教科書）】

山田敏弘 2004. 『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版。（¥1,600）

【参考書】

庵功雄ほか 2000. 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。（¥2,310）
町田健 2002. 『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（¥735）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 % 小レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

日本文法論 B

尾谷 昌則

授業コード：A2439

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が使用していることばには、規則を逸脱している表現が多くある。そういった「拡張・逸脱表現」を「単なる例外」として片付けるのではなく、認知言語学の観点から、文法理論の中にどう位置づけることができるのかを考える。

【到達目標】

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話をするようにじっくり、ゆっくりに進めて行きたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	伝統文法から認知言語学まで	言語学史を概観する
第 2 回	認知言語学の特徴 1	記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について
第 3 回	認知言語学の特賞 2	スキーマやプロトタイプについて
第 4 回	動的用法基盤モデル	Langacker の Usage-based モデルについて
第 5 回	構文文法	構文の定義とネットワークについて
第 6 回	類推拡張	類推に基づく拡張について
第 7 回	構文の分析 1	構文に反映されるスキヤニングについて
第 8 回	構文の分析 2	構文に反映される語用論の意味について
第 9 回	構文の分析 3	構文の拡張と再分析
第 10 回	構文の分析 4	文法化と主観化について
第 11 回	事例研究 1	論文（文法化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 12 回	事例研究 2	論文（主観化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 13 回	事例研究 3	論文（スキヤニングに関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 14 回	まとめ	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探しておき、それを次回講義のリアクションペーパーに書く、という課題を与えるので、常に身の回りの「ことば」に気を配るようにしておいてほしい。

【テキスト（教科書）】

『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200 円税抜）

【参考書】

参考書・参考資料等

『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編集、大修館書店）
『新編 認知言語学キーワード事典』（辻幸夫、研究社）
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか編著、朝倉書店）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語研究のための認知言語学』（舂山洋介著、研究社）
『認知意味論：言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（舂山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開－メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界 認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 % 小レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がじっくり考える時間をとったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

日本文学史 A

中沢 けい

授業コード：A2441

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学史 A 前半ではまず文語文を使っていた古代から近世までの概観を見て行きます。文語文が口語文に切り替わるのは明治時代です。幕末から明治期にかけてなぜそのような大きな変化がおきたのでしょうか？ この変化は近代社会の成立とかかわった変化です。近代の文章が形を整える昭和初期までをあつかいます。

【到達目標】

文章は時代によって変化します。変化の流れをつかみましょう。また変化の理由を考察する力を身につけましょう。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。日本の文章の歴史と変化を実際の文章を読みながら学んで行きます。また映像資料を視聴し、文章が歴史的に変化して行く時代背景について理解を求めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	原稿用紙はいつ生まれたのか	原稿用紙の重要性について。
第 3 回	近代口語文とは何か	現在使われている文章についてお話しします。
第 4 回	和文と漢文	なぜに日本語の文章には和文と漢文風の表現があるのか？
第 5 回	20 世紀初頭の映像視聴	20 世紀初頭の映像を視聴します。
第 6 回	文語文から口語文へ	なぜ文章改良運動が必要であったの考察します。
第 7 回	文語文の時代を振り返る	古代、中古の文章の特徴を考察します。
第 8 回	文語文の時代を振り返る	中世、近世の文章の特徴を考察します。
第 9 回	「福沢諭吉全集緒言」を読む	口語文の成り立ちを考察します。
第 10 回	第一次世界大戦の映像を見てみましょう	第一次世界大戦の映像を見てみましょう
第 11 回	中原中也の詩と小林秀雄の評論	第一次世界大戦後の変化を考察します。
第 12 回	世界大恐慌時代の映像を見る	アメリカの登場を考察します。
第 13 回	ジャズエイジの作家たちと村上春樹	ジャズエイジの作家たちが村上春樹に与えた影響を考察します。
第 14 回	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントを必ず読んでください。文章を成立させた時代背景を考えるために授業時に配布されたプリント以外にも同時代の文章を読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントして配布します。プリントは課題提出時に必要になります。ファイルして下さい。

【参考書】

授業計画に示されてる文章を図書館で探して下さい。映像資料は「映像の世紀」（NHK）を使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう映像の感想 50 % レポート 50 %。授業時に書いてもらう映像の感想では視覚的な情報を言語化する努力を求めます。レポートでは授業を使用した文章を読み込む力を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

時代背景と文章の関連性がつかめなくなることがあります。授業中の積極的な質問は大歓迎です。疑問に思ったことはどんどん質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

400 字詰め原稿用紙のアプリケーション

日本文学史 A

小池 昌代

夜間時間帯

授業コード：A2442

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典は常に新しく、様々なヒントを現代の表現にもたらしてくれる。日本語表現の歴史を追いかけて、古典に親しみ、自分たちの現代日本語及び現代日本文学を、読み書き両面で、さらに豊かないきとしたものにしよう。

【到達目標】

『古事記』から『新古今集』までを取り上げ、ときに原文と現代訳とを往復しながら、ときに自ら現代語へと翻訳する試みを通して、古典に親しみます。

【授業の進め方と方法】

人数によっては担当を決め、演習方式とします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方について話しあいます。
第 2 回	古事記（1）	古事記の成り立ち。
第 3 回	古事記（2）	抜粋の読解と現代日本語への翻訳の試み。
第 4 回	万葉集（1）	万葉集の成り立ち。
第 5 回	万葉集（2）	柿本人麻呂、山上憶良ほか作品鑑賞。
第 6 回	古今和歌集（1）	古今和歌集の特徴とはなんだろう。作品鑑賞。
第 7 回	古今和歌集（2）	作品鑑賞。
第 8 回	土佐日記（1）	土佐日記の特徴と作品の意義、現代語訳の試み。
第 9 回	土佐日記（2）	作品の読解と現代語訳の試み。
第 10 回	伊勢物語（1）	伊勢物語の特徴と作品の意義、現代語訳の試み。
第 11 回	伊勢物語（2）	作品の読解と現代語訳の試み。
第 12 回	堤中納言物語	「虫めづる姫君」（予定）読解と現代語訳の試み。
第 13 回	新古今和歌集（1）	新古今和歌集の特徴とはなんだろう。和歌の読解。
第 14 回	新古今和歌集（2）	作品鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれも事前に作品の概要を掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。毎回、レジュメを配布。

【参考書】

いずれも、多くの参考書が刊行されています。各回の授業内でわかりやすいものを教示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み 70%、提出物 30%。

【学生の意見等からの気づき】

一方的でなく、教師と学生、学生と学生、相互の交流を通して授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

未定。授業内で告知。

日本文学史 B

中沢 けい

授業コード：A2443

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学史 B では、A の内容を踏まえながら、近代から 1970 年代までの文芸に現われた文章の変化を見てゆきます。その際、世界の政治情勢が文芸ひいては文学に大きな影響を与えたことを映像資料を視聴しながら理解してもらうことを狙いとしています。

【到達目標】

文章は時代精神の形成とともに変化します。時代精神はどのような変化をしたのかを世界の中の日本、アジアの中の日本という視点で見えてゆきます。歴史の大きな流れの中にある文章の変化についての認識を作りましょう。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。日本の文章の歴史と変化を実際の文章を読みながら学んで行きます。また映像資料を視聴し、文章が歴史的に変化して行く時代背景について理解を求めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日中戦争、太平洋戦争の終了と文章の変化	戦後と呼ばれる時代の始まりにどのような文章の変化があったのかを考察します。
第 3 回	1945 年以降の戦争について	第二次世界大戦の終了は戦争の全ての戦争の終了ではありません。アジアに起きた戦争について考察します。
第 4 回	朝鮮戦争の映像を見ましょう	第二次世界大戦後の世界の変化に注目しましょう。
第 5 回	ベトナム戦争の映像を見ましょう	社会の変化が文章をも変化させます。
第 6 回	アメリカ社会の変貌を描いた映像を見る	現在への影響を考察します。
第 7 回	大正から昭和初期に確立近代口語文について考察します。	印刷技術と出版文化の関係を考察します。
第 8 回	アメリカの反戦運動、黒人公民権運動の映像を見る	現在を理解するため
第 9 回	テクノロジーと文章	活版印刷からネットまでの変化を考察。
第 10 回	ノンフィクションの興亡	メディアで起きていることについて考察。
第 11 回	映像のアーカイブ化	映像記録と文章記録の違いとは何か。
第 12 回	今何が起きているのか	現在の状況について考察します。
第 13 回	文学の変容と文章の変容について	文章の変化について考える。
第 14 回	レポートの課題説明	レポートの課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

印刷技術から生まれた正書法について理解するために原稿用紙のアプリケーションを使うことをおすすめします。手書きする必要はありませんが、原稿用紙のアプリケーションを用いてレポートなどを制作しましょう。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントして配布します。プリントは課題提出時に必要になります。ファイルして下さい。

【参考書】

授業計画に示されている文章を図書館で探して下さい。映像資料は「映像の世紀」(NHK)を使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう映像の感想 50% レポート 50%。授業時に書いてもらう映像の感想では視覚的な情報を言語化する努力を求めます。レポートでは授業を使用した文章を読み込む力を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

文章の未来について考察するようにしましょう。また情報技術 (IT) は文章にどのような変化をもたらすのかを考えながら知識を収集する努力をしてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

400 字詰め原稿用紙のアプリケーション。

日本文学史 B

小池 昌代

夜間時間帯

授業コード：A2444

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典は常に新しく、様々なヒントを現代の表現にもたらしてくれる。「方丈記」以降、日本語表現の変遷を追いながら、古典に親しむ。

【到達目標】

「方丈記」から「高瀬舟」まで、ときに原文と現代語訳を往復し、自ら現代語訳を試みながら、表現の根底に流れるものをつかむ。

【授業の進め方と方法】

人数によっては担当を決め、演習方式とします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方について話し合います。
第 2 回	鴨長明『方丈記』（1）	作品の成り立ち、背景。作品鑑賞と現代語訳の試み。
第 3 回	鴨長明『方丈記』（2）	作品鑑賞と現代語訳の試み。
第 4 回	『宇治拾遺物語』（1）	作品の成り立ち。作品鑑賞と現代語訳・翻案の試み（1）
第 5 回	『宇治拾遺物語』（2）	作品鑑賞と現代語訳・翻案の試み（2）
第 6 回	『閑吟集』	作品鑑賞。
第 7 回	松尾芭蕉『奥の細道』（1）	抜粋を読みます。
第 8 回	松尾芭蕉『奥の細道』（2）	引き続き、抜粋鑑賞と現代語訳への試み。
第 9 回	蕪村句集	蕪村の表現の特異な面白さを味わう。
第 10 回	近松門左衛門『曾根崎心中』	浄瑠璃の文体を、原文の一部とその現代語訳で楽しみます。
第 11 回	福沢諭吉『学問のすずめ』	時代背景を掴みながら、その抜粋を読みます。
第 12 回	樋口一葉『たけくらべ』（1）	擬古文を音読しながら味わってみましょう。
第 13 回	樋口一葉『たけくらべ』（2）	引き続き、抜粋の読解と現代語訳の試み。
第 14 回	森鷗外『高瀬舟』	作品鑑賞と意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に作品の概要をつかんでおく。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを作成、配布する。

【参考書】

授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み 70%、提出物 30%。

【学生の意見等からの気づき】

教師と学生、学生と学生とが、相互に交流し、意見交換によって刺激を与え合えるよう、工夫を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

未定。授業内で告知。

文章表現論 A

田中 和生

授業コード：A2445

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

【到達目標】

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くことという自由さと困難さを実感します。

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価をする機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第 2 回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第 3 回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第 4 回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第 5 回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第 6 回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第 7 回	具体的に書く	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第 8 回	物語の力	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第 9 回	別の角度から考える	自分の言葉を見つけたとはどういうことかを理解します。
第 10 回	紋切り型と一般論	批評的な言葉に触れます。
第 11 回	批評性のある文章	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第 12 回	感情のなかで書く	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 13 回	作文を評価する 2	文章の終わりについて考察します。
第 14 回	書き終わりは突然に	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要時応じて指示しますが、とくに 2 回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波アクティブ新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に 4 回ほど 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

文章表現論 B

田中 和生

授業コード：A2447

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書くこととする。

次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価する機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第 2 回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第 3 回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第 4 回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第 5 回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第 6 回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 7 回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第 8 回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第 9 回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第 10 回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第 11 回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第 12 回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第 13 回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 14 回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に 4 回ほど 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

日本文芸批評史 A

川鍋 義一

授業コード：A2553

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批評だの評論だのというのは、一体、なんでしょうか？ それは文学原論ともいうべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。

要するに鵬外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。

ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というものあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。

ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということ小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したことないことを描けるのか？」ということ有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。

そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すのではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。

上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことからについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということ、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 5 講（6 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

春学期は『小説神髓』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第 2 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の言語
第 3 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の内容
第 4 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第 5 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第 6 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第 7 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第 8 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第 9 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第 10 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第 11 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第 12 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第 13 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第 14 回	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%

授業中に数回書いてもらうアクション：10%

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

日本文芸批評史 B

川鍋 義一

授業コード：A2555

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたたかいかから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。

秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。

したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。

それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。

昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。

秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでもいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	その文学史・思想史上の意義
第 9 回	戦後左翼の分岐点 小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」	『新日本文学』について
第 10 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	『近代文学』について
第 11 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」論争	『政治と文学』
第 12 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	本多文読解
第 13 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	吉本文読解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%

授業中に数回書いてもらうアクション：10%

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

日本言語学特殊研究 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2558

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30%）・質疑応答の発言（20%）・レポート（50%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、この授業を担当していません。

日本語学特殊研究 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2560

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と今回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と今回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と今回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30％）・質疑応答の発言（20％）・レポート（50％）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、この授業を担当していません。

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第 2 回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第 3 回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第 4 回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第 5 回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第 6 回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第 7 回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第 8 回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第 9 回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第 10 回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第 11 回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 12 回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第 13 回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第 14 回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％定期試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。

・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第 2 回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第 3 回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第 4 回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第 5 回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第 6 回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第 7 回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第 8 回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第 9 回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第 10 回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第 11 回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第 12 回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第 13 回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第 14 回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隱の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005 年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 定期試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

「書誌学」とは、本そのものを研究対象とする学問である。本の形態や歴史、料紙や書肆など幅広く精査し、それを踏まえて、その本の作成年代や伝播などについて追究するものである。本授業では、とくに日本の江戸時代以前の本に関して講じてゆく。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎、ならびに、本にまつわる語文化を学ぶ。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代以前の写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【授業の進め方と方法】

江戸時代以前の本を取りあげながら、書誌学の概念と基礎的事項を講義する。本にまつわる文化や、それらを生み出した人々の知についても広く触れたい。また、書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解説（翻刻）作業も行う。

書誌学については配布プリントをもとに進め、くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設ける。

なお、毎授業終了後リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第2回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第3回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第4回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第5回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第6回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第7回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第8回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説
第9回	版本の歴史（2）	・中世までの印刷の歴史について ・キリシタン版について
第10回	版本の歴史（3）	・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第11回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第12回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第13回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第14回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業プリントに予め目を通し、授業に臨む。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努める（なお、この復習用プリントは添削のうえ返却するので、授業内容のまとめ等に活用すること）。
- ・博物館や美術館などで催される関連展示に積極的に足を運ぶ。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでに持っていればそれでよい）。書誌学についてはプリントを配布する。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80％）に、平常点（20％）を加味して評価する。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とする。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたい。

メディアと社会**中沢 けい****夜間時間帯**

授業コード：A2568

秋学期・2 単位**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

【到達目標】

社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報義出の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1 冊の本には多様な著作権者の権利が交錯しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	表現の対象になる人々の権利 1	取材対象者の権利、モデル問題などを考えます
第 5 回	同上	河原理子講師（朝日新聞編集委員）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鶴飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	山口昭男（元岩波書店社長）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	読者と創作者（詩）	文芸のエッセンスである詩を楽しみましょう。
第 13 回	読者と創作者（詩）	池井昌樹講師（詩人）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分（％）」：レポート 30％ 平常点 70％

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

音楽芸能史特殊研究 A

野川 美穂子

授業コード：A2569

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能の魅力（三曲を中心に）

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに三曲）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い三曲（地歌・箏曲、尺八楽、胡弓楽）を取りあげます。まずは三曲に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌の魅力も引き出す多彩な作品を紹介していきます。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲・段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴②	尺八本曲の魅力。
第 13 回	胡弓楽の歴史と特徴。	胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 14 回	他の種目との関連。 明治時代の三曲。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。 明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。三曲の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

音楽芸能史特殊研究 B

野川 美穂子

授業コード：A2571

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の音楽芸能の魅力（歌舞伎、文楽を中心に）

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（歌舞伎、文楽を中心に）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎を取りあげます。また、大正時代以降の新しい状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃①	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。
第 9 回	豊後系浄瑠璃②	艶のある新内節の魅力。歌舞伎舞踊を支える長唄の魅力。
第 10 回	長唄①	長唄の多様性。
第 11 回	他の種目との関連（1）	道成寺物の魅力。
第 12 回	他の種目との関連（2）	石橋物の魅力。
第 13 回	近代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションによる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

編集理論 A

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2709

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を迫体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	作者／編集者／読者	テキストに編集という行為はどういう作用を及ぼし、編集者とはいったいどういう存在なのか考えます。
第 2 回	編集の流れ 1	実際の編集作業の流れを、DVD の視聴を通じて理解します。
第 3 回	編集の流れ 2	「ゲラ」の動きを中心に、作家／編集者／校正者／印刷・製本業者の協働を考えます。
第 4 回	資材論 1	印刷用紙の大きさと書籍・雑誌の判型の関係を歴史的に考察します。
第 5 回	資材論 2	「紙」の性質の考察のほか、書籍作りには不可欠な資材について学びます。
第 6 回	文字考	書籍や雑誌に使われる文字の大きさや種類、字形／字体／書体の関係について学びます。
第 7 回	文字と版面	書籍や雑誌のページがどのように設計されるのか、その基礎を学びます。
第 8 回	台割と折	書籍・雑誌の全体のページ展開がどのように構成されているのか、その原則を学びます。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。また当用漢字から新常用漢字に至る国語・国字問題も考察します。
第 10 回	装幀考	そのテキストにふさわしい造本とはどのようなものか、造本感覚について学びます。
第 11 回	現代の印刷・製本について	印刷および製本の基礎的な知識について学びます。
第 12 回	現代の書籍・雑誌の流通	書籍・雑誌の流通は固有な制度によって成り立っています。その制度の問題点を含め、流通全体を概観します。
第 13 回	定価と印税	書籍・雑誌の定価はどのようにして決められていくのか、また印税の歴史についても考察します。
第 14 回	読書／読者考	書店や図書館などの「購書空間」「選書空間」「読書空間」の変遷を含め、本を読むという行為の歴史を考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

編集理論 B

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紙も印刷術も存在しない時代の書物作りから現代の web 空間でのテキストまで、書物の歴史を概観し、旧来の書物制作者から「近代的編集者」がいかに特化し誕生したかを考察します。またテキストと編集行為との関係、さらには加速化するネット社会における新たなテキスト状況についても概観します。

【到達目標】

編集理論 A で対象とした現代の書籍や雑誌は決して「最高の到達点」ではありません。むしろ切り捨ててしまった面や退化したところも多くあります。書物の姿は時代とともに変遷します。書物制作の歴史を学ぶことにより、書物がそれぞれの時代に提示してきた「豊饒さ」を新たに認識し、編集という行為の歴史的・文化史的意義を学び、同時に電子書籍をはじめとした現代の web 空間におけるテキストのあり方も考えます。

【授業の進め方と方法】

書物制作の歴史を西洋・東洋ともに概観します。また電子書籍や web 空間での新たな問題も考察します。DVD 視聴や、可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	書物におけるアナログ／デジタル	なぜ今書物の歴史を学ぶことが大切なのか、その意義を考えます。
第 2 回	紙以前の書写材料	パピルス、羊皮紙、バイラーンなど、紙以前の資材とそれによって作られた書物について考察します。
第 3 回	紙の発明とその伝播	紙はいかに作られたのか、中国から西欧への伝播と、東西での製紙法の差を概観します。
第 4 回	書物の形態考	卷子本と冊子（コデックス）を中心に、様々な書物の「かたち」を紹介し、書物の「かたち」が読書という行為に与えた影響を考えます。
第 5 回	日本・東洋の書物史 1	百万塔陀羅尼から写経、摺經、写本の時代を考察します。
第 6 回	日本・東洋の書物史 2	膠泥活字、木活字、銅活字、鉛活字による中国・朝鮮・日本の古活字の時代を考察します。
第 7 回	日本・東洋の書物史 3	浮世草子をはじめとした近世の書物制作と、書物問屋という出版制度を考察します。
第 8 回	西洋の書物史 1	グーテンベルク以前の、ギリシア・ローマ時代の書物制作、中世の写本文化を概観します。
第 9 回	西洋の書物史 2	グーテンベルクの印刷術の発明とその影響、ルネッサンス、宗教改革、大航海時代の書物のあり方を概観します。
第 10 回	西洋の書物史 3	産業革命以降の書物制作で、ウィリアム・モリスの「プライベート・プレス」の試みとペーパーバックの誕生について概観します。
第 11 回	画像表現の歴史	手書きによる挿画、版画の利用、写真の印刷への応用というヴィジュアル・コミュニケーションの変遷を考察します。とりわけ「写真」の果たした役割を考えます。
第 12 回	日本における近代書物の誕生	整版から鉛活字による組版、和装本から洋装本へと移行する明治 20 年間の書物制作者のさまざまな試みを考察します。
第 13 回	出版と書物の大衆化	大正末から昭和初めの円本ブーム以降、戦後の流通革命、印刷技術の革新により、書物が一気に大衆化していくことの意味を考えます。
第 14 回	電子書籍と web 空間	テキストが紙媒体であることを脱ぎ捨てようとする現代、そこでは編集という行為はどうなっていくのか、その意味を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して、調べてください。書物の歴史については、日本史・世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50%、期末に提出してもらったレポートの結果 50% により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

編集実務 A

谷村 順一

夜間時間帯

授業コード：A2574

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を学びます。

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具体的には Adobe Photoshop、Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	DTP とはなにか？	DTP の概略についての講義
第 3 回	Adobe Photoshop ①	Photoshop を用いた画像の切り抜きと合成について
第 4 回	Adobe Photoshop ②	Photoshop を用いた写真のレタッチについて
第 5 回	Adobe Photoshop ③	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲の作成）
第 6 回	Adobe Photoshop ④	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスの作成）
第 7 回	Adobe Photoshop ⑤ Illustrator や InDesign との連携	Photoshop で作成したビットマップ画像を、Illustrator や InDesign といったベクター画像を扱うアプリケーションで使用する方法について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	Adobe Illustrator ①	長方形ツールと楕円形ツールを用いて基本的なオブジェクトの作成方法について
第 10 回	Adobe Illustrator ②	オブジェクトの塗りと線の設定方法について
第 11 回	Adobe Illustrator ③	Illustrator の基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて
第 12 回	Adobe Illustrator ④	テキストツールを用いた文字の入力方法について
第 13 回	Adobe Illustrator ⑤	Illustrator で作成したオブジェクトを Photoshop で使用する方法について
第 14 回	小課題	小課題作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。

【テキスト（教科書）】

・『文字の組方ルールブック タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ

※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題，期末課題で評価します。
平常点 30 % 小課題＋期末課題 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

※授業の性質上，自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら，その本の「どこ」が気になるのか，「何」に惹かれるのか，意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため，24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。

※「情報科学実習 1・2（f コース中の DTP 入門編）」を事前に履修しておくとうりいい。

編集実務 B

谷村 順一

夜間時間帯

授業コード：A2576

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を学びます。

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的には Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍，雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び，実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。数回の小課題の作成とプレゼン，期末課題には小冊子の作成を予定しています。

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し，プレゼンを行ってもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第 3 回	Adobe InDesign ①	誌面作成の基礎となる版面の設定
	グリッドフォーマットの作成	方法について
第 4 回	Adobe InDesign ②	マスターページの役割と文字の流
	マスターページの設定	し込みの実際について
第 5 回	Adobe InDesign ③	組版の基本となる各種設定について
	文字組み設定	
第 6 回	Adobe InDesign ④	ルビの振り方について
	ルビ	
第 7 回	Adobe InDesign ⑤	Photoshop や Illustrator で作成した各種画像の取り込み方について
	画像の取り込み	
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	総合課題①	ラフの作成
	Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	
第 10 回	総合課題②	素材の準備
	Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	
第 11 回	総合課題③	各種アプリケーションを用いたレイアウト作業
	Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	
第 12 回	総合課題④	提出データの最終確認
	Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	
第 13 回	発表と講評	発表と講評
第 14 回	発表と講評	発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。

【テキスト（教科書）】

・『文字の組方ルールブック タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ

※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30 % 小課題+期末課題 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、24名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※Illustrator,Photoshopを扱う編集実務Aと併せて履修することのぞましい。

※「情報科学実習1・2（fコース中のDTP入門編）」を事前に履修しておくことよりいい。

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作者人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について解説しながら、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。加えて、受信者が簡単に発信者になれるSNS時代に身を置いていることがどれだけ危険か、について注意喚起したい。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得してほしい。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えてきたかを紹介しつつ、「鈍感力」に裏付けられた「謝り力」を身につけることを目指す。

どんな職業についても、必ず関わる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

前半は知的財産権、著作権の実際を講義、解説し、ジャンル、メディアによる違いを質疑、討論も含めながら、明らかにする。後半においては、編集実務を交えたグループワークやテーマを決めたプレゼンテーションなど、制作現場の模擬体験を通じて、判断の基準を理解する。具体的な作業については、受講人数によって決定します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と手順、進め方。	法律家ではない現場から見た考え。こんなにある身近な知的財産権。
第2回	知的財産権には何があるか	著作権も知的財産権の一つ。創作物の何を守らなければいけないのか？
第3回	それでは著作権には何があるか。	過去のトラブルの具体的事例から、著作権を侵害しないための注意点を理解する。
第4回	「生まれたて写真週刊誌のドタバタ」 個々の権利について出版現場から考える①	週刊誌「FRIDAY」編集者としてのエピソードから、著作権保護を考える。
第5回	「引用となるかならぬか」 個々の権利について出版現場から考える②	男性ヴィジュアル誌「PENTHOUSE」編集現場の体験から、引用、パロディについて考える。
第6回	「平凡なアイデアに魂は宿らない」 個々の権利について出版現場から考える③	文芸誌「群像」小説誌「小説現代」編集者としての経験から、資料と史料などについて考える。
第7回	「盗用と剽窃」 個々の権利について出版現場から考える④	文庫、書籍編集者としての体験から、アイデア、企画について著作権の立場から考える。
第8回	ジャンルから考える①	音楽、文芸、写真、美術、建築、など、著作権の視点で、表現を眺める。
第9回	ジャンルから考える② グループワーク「ディベートしてみよう」	受講者が二つに分かれ、写真家同士、この争いは、どちらが勝ちか、討議してみよう。くじ引きで裁判官三人選出。
第10回	ジャンルから考える③ グループワーク「ディベートしてみよう」	原告側の主張を調べ、著作権の各権利から、侵害を訴える。被告側は、反論する。
第11回	ジャンルから考える④ グループワーク「ディベートしてみよう」	被告側の主張を調べ、反証する。原告側は反論。

- 第12回 ジャンルから考える⑤ さて、判決は？ 勝つのはどっ
グループワーク「ディ ち？
ベートしてみよう」
- 第13回 誰でも発信できる危険 知らないと大変な危機に見舞われ
な時代 るかも。
受信者が発信者と一緒になったと
き、悲劇に襲われる
- 第14回 総括 編集者がいつもさきにめいじてい
ること、「編集者とは何か」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。いまリアルタイムに起きた事件を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などを理解していた方が、授業内容の理解の手助けになると思います。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて、配付資料を準備します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により、把握する。しかる後、受講人数によって決定する、グループワーク等の実務体験からメディアと社会について考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第2回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について考える。
第3回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。
第4回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道、誤報とねつ造。
第5回	テレビについて考えてみる①	テレビがテレビから追い出される日。
第6回	テレビについて考えてみる②	事実と真実。切り取られた真実。
第7回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。
第8回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力。
第9回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。
第10回	出版について考えてみる②	名作からスタンダードに。
第11回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第12回	メディアの企画を制作してみる②	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第13回	制作した企画を発表する。	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第14回	総括	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。 SNS時代のメディア。電子書籍とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けになると思います

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

古文・漢文の基礎

阿部 亮太

授業コード：A2603

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・“古文の読み方”と“漢文の読み方”を復習する授業です。（春学期のみの授業）

・以下のような学生を対象として開かれる、基礎力養成講座です。

(1) 授業で古文漢文を読むとき苦労している学生、(2) 卒論のために古文漢文を読み込む必要がある学生、(3) 教育実習で古文漢文を教えることになった学生、(4) 訳本に頼らずに『源氏物語』や『史記』などを読みたい学生

【到達目標】

・“古典文法・漢文句法のメカニズムを理解し、古文漢文を自力で訳せるようになること”が、この授業の最大目標です。

【授業の進め方と方法】

- ・後掲のテキストを使って、文法（グラマー）を確認します。
- ・プリントを使って、読解（リーディング）・訳出を行います。
- ・毎回、『確認テスト』を実施します（期末試験は行いません）。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	読解のコツ	腕試しテスト
第 2 回	古文（1）	活用・用言
第 3 回	古文（2）	助動詞
第 4 回	古文（3）	助動詞
第 5 回	古文（4）	助動詞
第 6 回	古文（5）	助詞
第 7 回	古文（6）	敬語
第 8 回	古文（7）	和歌
第 9 回	漢文（1）	文型
第 10 回	漢文（2）	否定
第 11 回	漢文（3）	疑問・反語
第 12 回	漢文（4）	使役・受身
第 13 回	漢文（5）	比較・仮定・抑揚
第 14 回	漢文（7）	願望・詠嘆・接続語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・後掲のテキストをしっかりと予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】

・授業では、以下の2冊を使用します。必ず購入して持参すること。
古文……仲光雄『古文上達 基礎編―読解と演習 45 一』（Z 会）
漢文……三羽邦美『漢文句法 演習ドリル【改訂版】』（旺文社）

【参考書】

・以下の辞典を推薦します。

古文……大野晋ほか編『岩波古語辞典【補訂版】』（岩波書店）
林巨樹ほか編『新全訳古語辞典』（大修館書店）
中村幸弘編『ベネッセ全訳古語辞典【改訂版】』（ベネッセ）

漢文……小川環樹ほか編『新字源【改訂新版】』（角川書店）

・以下の入門書を推薦します。

古文……小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫）
漢文……前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回実施する《確認テスト》の出来（85％）。
- ・遅刻なく出席し意欲的に授業に臨んだか否か（15％）。
- ・4 回以上欠席した学生は、単位を得られません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校で習った（が、すっかり忘れている）古典文法・漢文句法を、基礎から丁寧に説明する予定です。

古文・漢文の基礎

加藤 昌嘉

授業コード：A2604

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆“古文の読み方”と“漢文の読み方”を復習する授業です。（秋学期のみの授業）

◆以下のような学生を対象として開かれる、基礎力養成講座です。

(1) 授業で古文漢文を読むとき苦労している学生、(2) 卒論のために古文漢文を読み込む必要がある学生、(3) 教育実習で古文漢文を教えることになった学生、(4) 訳本に頼らずに『源氏物語』や『史記』などを読みたい学生

【到達目標】

◆“古典文法・漢文句法のメカニズムを理解し、古文漢文を自力で訳せるようになること”が、この授業の最大目標です。

【授業の進め方と方法】

- ◆後掲のテキストを使って、文法（グラマー）を確認します。
- ◆プリントを使って、読解（リーディング）・訳出を行います。
- ◆毎回、『確認テスト』を実施します（期末試験は行わない）。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	読解のコツ	腕試しテスト
2	古文（1）	用言
3	古文（2）	助動詞
4	古文（3）	助動詞
5	古文（4）	助動詞
6	古文（5）	助詞
7	古文（6）	敬語
8	古文（7）	和歌
9	漢文（1）	S V O C 文型
10	漢文（2）	否定
11	漢文（3）	疑問・反語
12	漢文（4）	使役・受身
13	漢文（5）	比較・抑揚
14	漢文（6）	接続語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆後掲のテキストを、毎回、予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

◆授業では、以下の2冊を使用します。必ず購入して持参すること。
◎仲光雄『古文上達 読解と演習 45【基礎編】』（Z 会）
◎三羽邦美『漢文句法 演習ドリル【改訂版】』（旺文社）

【参考書】

◆以下の古語辞典を推薦します。

◎林巨樹ほか編『新全訳古語辞典』（大修館書店）

◆以下の入門書を推薦します。

◎前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ◆毎回実施する《確認テスト》の出来（85％）。意欲的に授業に臨んだか否か（15％）。
- ◆4 回以上欠席した学生は、単位を得られません。

【学生の意見等からの気づき】

◆高校で習った（が、すっかり忘れている）古典文法・漢文句法を、基礎から丁寧に説明する予定です。

書道(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2711

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くことによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基礎的な鑑賞力や、書を愛好する心情も養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたら良い字が書けるのか、「心の欲する所に従って、矩を踰えず」という境地を最終目標と考え方・制作手順・制作方法をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の基本的な筆使い・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思則老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思則老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)
第16回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)
第17回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)
第18回	行書①	行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史
第19回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第20回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第21回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第22回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第23回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)
第24回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」(大筆)
第25回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」(大筆)
第26回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」(大筆)
第27回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」(小筆)
第28回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）と清書課題および夏休みの宿題をもって行います（80％）。
適時レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）／硯一面／墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）／文鎮／水滴（スポイドも可）／半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）／雑巾一枚／古新聞紙数枚／下敷（書道用フェルト）／その他必要な用具は事前に連絡

書道(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2712

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くことによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基礎的な鑑賞力や、書を愛好する心情も養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたら良い字が書けるのか、「心の欲する所に従って、矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の基本的な筆使い・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思則老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思則老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)
第 16 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)
第 17 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)
第 18 回	行書①	行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史
第 19 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 20 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 21 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 22 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 23 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)
第 24 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」(大筆)
第 25 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」(大筆)
第 26 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)
第 27 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)
第 28 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）と清書課題および夏休みの宿題をもって行います（80％）。
適時レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）／硯一面／墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）／文鎮／水滴（スポイドも可）／半紙（毎回最低 20 枚ぐらい用意）／雑巾一枚／古新聞紙数枚／下敷（書道用フェルト）／その他必要な用具は事前に連絡

美術史（西洋）A

安藤 智子

授業コード：A2577

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀を中心としたフランス近代美術史を概観しながら、「近代性（モデルニテ）」とは何か、様々な角度から検証する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報
第 2 回	美術史の概念と用語の解説	美術史の基礎概念と用語 美術史の学習方法・参考文献
第 3 回	ロココ美術	宮廷文化、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナル
第 4 回	フランス革命期の美術	ダヴィッドと新古典主義
第 5 回	美術制度	アカデミーとサロン、アングルの個性
第 6 回	ロマン主義	ジュリコー、ドラクロワ
第 7 回	風景画の展開とレアリズム	バルビゾン派、クールベとレアリズム
第 8 回	マネ	マネの近代性
第 9 回	印象派 1	印象派の誕生
第 10 回	印象派 2	印象派の展開と影響
第 11 回	ジャポニスム	日本趣味の流行と影響
第 12 回	ポスト印象派 (1)	印象派の超越—セザンヌ
第 13 回	ポスト印象派 (2)	印象派の超越—ゴッホ、ゴーガン
第 14 回	象徴主義とナビ派	ルドンと象徴主義、ボン＝タヴェン派とナビ派

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国立西洋美術館の常設展など、19 世紀のフランス美術が展示してある場所に出向き、実際に美術作品を見てほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン 1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）と、平常点（20 %）を参考に成績評価を決定する。フランス美術に関する基礎的知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含むが、履修人数によっては授業毎に提出してもらう記述コメント参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ作品の実物を見る機会を増やしてもらうために、授業中に、現在都内で見られる展覧会の紹介を行う。

美術史（西洋）B

安藤 智子

授業コード：A2578

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術史の流れを大まかに捉えながら、近代性（モデルニテ）の問題を考察するとともに近代性をめぐる芸術運動がヨーロッパ諸国へと伝播していく過程を検討します。

【到達目標】

美術史の流れを把握し、表象されたイメージを重層的に考察し、より能動的に芸術作品を見る姿勢を習得すること。

【授業の進め方と方法】

芸術作品の画像を見ながら、時系列に従って作品を解説していきます。あわせてその芸術作品が制作された社会的背景を考察し、制作当時の鑑賞者の反応を検討することによって、作品の理解をより深めたいと思います。授業中に紹介された芸術作品について、感想を書いて授業内に提出していただくこともあります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会の案内
第 2 回	象徴主義	ゴーガンとナビ派、及びモロー、ルドンなど物語性のある絵画 スーラの作品とその色彩理論
第 3 回	新印象主義	世紀末のバリーに住む外国人画家たち
第 4 回	世紀末美術とエコール・ド・パリ	
第 5 回	フォーヴィスム	マチスを中心とする画家たち
第 6 回	キュビズム	ピカソ、ブラックを中心としたセザンヌからの影響を受けた造形様式、絵画空間の変容
第 7 回	ドイツ表現主義	カンディンスキーを中心とした抽象絵画とその誕生
第 8 回	抽象芸術	無主題、無対象の芸術の展開
第 9 回	未来派とダダ・シュルレアリスム	第一次世界大戦とアヴァン・ギャルドの芸術の諸動向
第 10 回	アメリカ抽象表現主義	ボロック、ロスコなど
第 11 回	モダニズムと美術批評	アメリカ抽象表現主義とグリーンバーグによるモダニズムについての美術評論
第 12 回	近代絵画コレクション	フランス近代絵画のイギリスへの伝播—コートールド・コレクションとバーンス・コレクション
第 13 回	秋の展覧会	この時期に開催されている展覧会の紹介
第 14 回	コンテンポラリー・アート	現在制作されているコンテンポラリー・アートを紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な美術展覧会に出向き、実際の芸術作品を鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。
授業内に資料を配付致します。

【参考書】

授業中に適宜ご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（80 %）と、出席状況や授業内コメント（20 %）を参考にして評価を出します。また、受講者の人数によっては、レポートでの評価に変更する可能性もあります。ただし、授業全体の 3 分の 1 を超えて欠席した場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

開催中の展覧会などを積極的に紹介して行きます。

情報リテラシー実習Ⅰ

谷村 順一

授業コード：A2601

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

氾濫する情報の中から、自分に必要な情報を見つけ出し、使えるカタチに編集する。

【到達目標】

レポート作成や卒業論文作成といった、人文社会科学系の学生に必要なコンピュータ・リテラシーの基本となる「日本語による文書作成」技術の習得を目的とします。

【授業の進め方と方法】

電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学ぶとともに、読みやすい文書とは何かについて考え、「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」なども用いながら様々なアプローチを試みます。

本授業では情報実習室を利用します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	Microsoft Word ①	文字入力と変換
第3回	Microsoft Word ②	書式設定
第4回	Microsoft Word ③	案内状を作成する (インデント設定など)
第5回	Microsoft Word ④	暑中見舞いを作成する (画像の扱い方)
第6回	Microsoft Word ⑤	メニューを作成する (段組の設定)
第7回	Microsoft Word ⑥	表の入った文書を作成する
第8回	小課題	小課題作成
第9回	Microsoft Excel ①	Excelの基本操作について
第10回	Microsoft Excel ②	セル、行、列について
第11回	Microsoft Excel ③	ワークシート
第12回	Microsoft Excel ④	数値、連続するデータなどの入力
第13回	Microsoft Excel ⑤	表の作成（罫線などの設定方法）
第14回	Microsoft Excel ⑥	数式と関数

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	小課題	小課題作成
第16回	秋学期ガイダンス	秋学期ガイダンス
第17回	Microsoft PowerPoint ①	PowerPointの基本操作
第18回	Microsoft PowerPoint ②	入力と書式 (書体について)
第19回	Microsoft PowerPoint ③	入力と書式 (行間、インデント等について)
第20回	Microsoft PowerPoint ④	デザインとレイアウト (テーマの設定)
第21回	Microsoft PowerPoint ⑤	デザインとレイアウト (背景と配色)
第22回	Microsoft PowerPoint ⑥	スライドの切り替え方法 (アニメーションとトランジションの設定)
第23回	小課題	小課題作成
第24回	総合課題	総合課題作成
第25回	総合課題	総合課題作成
第26回	総合課題	総合課題作成
第27回	総合課題	総合課題作成
第28回	総合課題	総合課題作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% + 課題 70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

受講に際しては情報センターのユーザー登録情報が必要です。各自、受講前に必ず確認のこと。

情報リテラシー実習Ⅱ

永保 敏伸

夜間時間帯

授業コード：A2602

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、情報処理の基礎科目を受講し、文章作成ソフト（Word など）、表計算（Excel など）、プレゼンテーション（PowerPoint など）の基本的な扱い方を習得した学生を対象とする。

その上で、Word を中心とした「日本語による文章作成」技術の習得は他の講義と重複する部分が多いので、本講義では大学生として備えておくことが望まれる Word 以外のスキルを中心に身に付けることを目的とする。

特に、パソコンやスマホを情報発信の道具として幅広く活用する方法を学ぶ。

【到達目標】

- 本講義では「情報リテラシー」に関して、
- ①必要な情報を整理し的確にまとめることができる。
 - ②その際に必要なツールを選択できる。
 - ③そのツールを使い情報を発信することができる。

という点に特に着目する。

単に Word や Excel といったソフトウェアの使い方に終始するのではなく、その時々の最新トピックを紹介し、見聞を広げるチャンスも提供する。全体を通して幅広く、実践的な内容を扱う予定である。

【授業の進め方と方法】

講義は、原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある。

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の、講義前の習熟度を考慮し決める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	電子メールをビジネスツールとして使う	就職活動でも電子メールのスキルは欠かせない。その際に、企業とのやり取りを想定して、電子メールの扱い方を知る。
第 2 回	情報化社会の検索方法	インターネット時代の情報の探し方を深め、日々行う「検索」を更に効率的に行う。
第 3 回	パソコンとスマホ	情報化時代におけるデジタル端末（スマホやタブレットなど）を知る。
第 4 回	インターネット	社会基盤（インフラ）となったインターネットを知る。
第 5 回	ウィンドウズ（windows）	パソコンを動かす仕組み（ソフトウェア）を知る。
第 6 回	スマホ活用① Googleマップで GPS	位置情報（ジオタグ）を活用する。
第 7 回	スマホ活用② 写真撮影と加工方法	撮影した写真を、SNS などのメディアで活用する方法を知る。
第 8 回	インターネットサービス①	インターネットを使った最新の技術を紹介する。
第 9 回	インターネットサービス②	インターネットを使ったサービス（SNS など）の紹介と活用方法を知る。
第 10 回	「ネチケット」とマナー	インターネット利用時の心構え、マナー、留意点を知る。
第 11 回	文章作成（Word）① ビジネステンプレート活用	業務に活用できるテンプレートの活用方法を知る。
第 12 回	文章作成（Word）② 様々な印刷媒体の活用	はがき、封筒、ラベル用紙、写真用紙（L 版など）、定型用紙など、様々な用紙へ自由に印刷する方法を知る。
第 13 回	Word と Excel の連携①	ビジネスレター作成時などにおいて、効率的に効果的な文章を作成する方法を知る。
第 14 回	総合実習	春学期で取り扱った事項を総合した実習。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	セキュリティ	コンピュータウイルスなどから守る術を知る。
第 16 回	情報倫理と法令遵守	インターネットを利用する際の心遣いと、法整備の現状を知る。
第 17 回	ビジネスプレゼン（プレゼン技術）	商談を想定し、効果的にプレゼンを行うための要素を知る。
第 18 回	プレゼンテーション（PowerPoint）①	概要説明。
第 19 回	プレゼンテーション（PowerPoint）②	基本インターフェイスの使い方、スライド設定と操作、文字入力、段落と箇条書き設定、グラフ作成、表作成。
第 20 回	プレゼンテーション（PowerPoint）③	プレゼンテーション総合実習。

第 21 回	クラウドコンピューティング	最新技術を活用した「知的生産術」の紹介と、複数人でのオンライン共同作業の仕方を知る。
第 22 回	著作権	デジタルデータの特徴を知り、今後の活用方法を知る。
第 23 回	表計算（Excel）① Excel 基本操作	Excel の基本操作に関して、基礎科目で学習した内容の習熟度の確認と実習。
第 24 回	表計算（Excel）②	Excel 関数に関して、基礎科目で学習した内容の習熟度の確認と実習①
第 25 回	表計算（Excel）③	Excel 関数に関して、基礎科目で学習した内容の習熟度の確認と実習②
第 26 回	表計算（Excel）④	ビジネス文章（Excel）の作成方法及び活用方法を知る。
第 27 回	Word と Excel の連携②	差し込み印刷を用いた大量文章の効率的な処理方法を知る。
第 28 回	総合実習「情報リテラシー」の総合実習	秋学期のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確認するために、各回終了後に小課題を課す。内容は各回の到達状況によって変わるが、基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要時は、講義時にその内容に即した教科書や参考書を適宜紹介する。

【参考書】

- 会田和弘 2009.『情報セキュリティ入門』。共立出版、149p.
 大嶋淳俊 2012.『情報活用学入門-情報化社会の「攻め方」・「守り方」(情報リテラシーを超えて)』。学文社、204p.
 岡本敏雄ほか 2017.『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』。技術評論社、255 p
 小林貴之・谷口郁生・毒島雄二 2009.『これからの情報リテラシー』。共立出版、227p.
 久野靖・佐藤義弘・辰巳丈夫・中野由章 2017.『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2017』。日経 BP 社、199 p.

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（40 %）
実習科目であるので、各回における講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）が重要である。
- 小課題（30 %）
各回の講義終了時に、その講義内で扱った事項に関する小課題を課す。その課題を提出してもらい、講義の習熟度を確認する。
- 各期末の課題提出（30 %）
各期末に、それまでに扱った内容を網羅する形で課題を課す。これは習熟度を確認するとともに、どれだけ各自がその情報や技術を自分のものとして獲得できたかを確認する。
いかに積極的に情報を深めていけるのかという点が重要である。

【学生の意見等からの気づき】

講義と実習のバランス、進捗や難易度、講義資料の提示方法、実習時間などは、出来る限り学生のレベルに応じて調整する。

【その他の重要事項】

初回講義時に今後の進め方等を説明し、作業も予定しているので、受講希望者は必ず出席すること。
 初回に出席できなかった場合は、2 回目講義開始前に担当講師に相談をすること。

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

英文学科

● 英文学科の卒業論文について ●

「卒業論文」授業コード：A2000 8単位

【卒業論文の目標・目的】

文学部英文学科では、卒業論文（論文の分量としては、400 字詰め原稿用紙に換算して 35 枚以上、英語の場合は 5000 語以上）を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成される、4年間の学業の集大成です。学科の教育目標ののっとり、① 批判的思考能力の涵養、② 英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを、目的とします。

【卒業論文の概要と方法】

「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行われますが、3年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です（登録は4年次の科目ですが、1年間だけでできるものではありません）。英文学科全体では11月に予備提出をすることになっています。（教員によっては10月締め切りもあります。）1月の卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、この、一般の授業でいえば定期試験に相当する口頭試問までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し執筆・作成することが求められます。

【卒業論文の評価基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、A +、A、B、C、D、Eの判定をおこないます。

- ① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
- ② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
- ③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
- ④ 文章が明晰で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
- ⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【その他】

- ・ 3年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
- ・ 卒論予備提出手続きを経ること。
- ・ 「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
- ・ 卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃（plagiarism）についてはくれぐれも留意すること。
- ・ 優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

英語史 A

大沢 ふよう

授業コード：A2901
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語史というと、なぜ古い英語を勉強するのかと疑問を感じる人がいるかもしれませんが、現代英語は例外が多く、外国人学習者にとっては見かけより習得が困難であるといわれます。しかし、英語の変化を少し振り返るだけでその例外にも、ある規則性が働いていることがわかり現代英語の理解も容易になります。この授業はその目的のためにあります。古英語から現代に至るまでの英語の変化の基本的知識の獲得をめざします。音韻変化、文字体系の変化、文法の変化などについて学びます。

【到達目標】

現代英語は、例外の集まりのように思えるが、実はその背後には体系性があり、また規則性があることを理解することをめざします。現代英語についてのより深い理解が得られることをめざします。英語を例外の集まりとして丸暗記するのではなく、法則に基づいた逸脱として理解できるようになります。

【授業の進め方と方法】

英語がはじまった 5 世紀ごろから今日にいたるまでの、英語の変化についての基本的な知識を得ることを目標とします。内容は、英語そのものの起源と発達、つまり内面史に重点をおいて講義していきます。が、随時外面史つまり英語国民の歴史にも触れ、どのようにして今日の英語と英国という国が成立していったかを考えていきます。古英語、中英語、近代英語の順に、発音、語彙、文法の変化についてみていきます。A では、英語の成立から古英語までを講義する予定です。授業方法は、講義形式で行います。しかし、聞きっぱなしということにならないように、工夫してみたいと思います。質問はいつでも歓迎します。

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
回		
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明 英語史を学ぶ意義 インド・ヨーロッパ祖語など 言語の類似性は音韻体系が決めるとなる
第 2 回	英語の親族語	多くの兄弟言語の存在
第 3 回	英語の位置づけ	英語成立の歴史的背景について アングロ＝サクソン七王国と古英語の方言
第 4 回	ゲルマン系言語	キリスト教化と文字文化
第 5 回	古英語：外面史 (1)	古英語の母音
第 6 回	古英語：外面史 (2)	古英語の子音
第 7 回	古英語：文字	名詞の性とは：3つの性が存在した
第 8 回	古英語の発音 (1)	名詞の格：格の果たした役割
第 9 回	古英語の発音 (2)	形容詞・指示詞・副詞など
第 10 回	古英語：名詞	動詞の人称変化
第 11 回	古英語の文法：格	春学期のまとめと試験
第 12 回	古英語の文法：修飾語類	
第 13 回	古英語の文法：動詞	
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は、英米人の学生を対象に書かれた専門の入門書を使用するので、自分の英語力を向上させる良い機会だと考えて、自分で教科書をすべて読むくらいの態度で臨んでください。英語の文そのものについても質問する場合がありますので、辞書を引きながら英文解釈もやってみてください。

また、必ず専用のノートを用意して、講義を耳で聞きながら、要点をメモできるように努力してください。必ず後で役に立つと思います。

【テキスト（教科書）】

Charles Barber 著 The Story of English 出版社・英宝社です。他の文献からも内容を取り入れます。必要に応じて、プリントを配布する予定です。

授業の前に必ず目を通しておいください。

【参考書】

初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。
1 冊推薦すると
中尾俊夫・寺島迪子著 『図説英語史入門』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

評価は最終授業時間内に行う試験の結果で評価します。加えて授業中に行う小テストや提出物も評価に加えます

試験 80 %+小テスト・提出物 20%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの展開速度を遅くして、理解しやすくする。

【その他の重要事項】

この授業は、A・B と一応独立した科目となっていますが、春学期・秋学期と通年を通じて履修することを勧めます。英語の歴史を A だけ履修しても、その後の歴史を知らないという意味がありません。また、B から履修しても、その前の事情を知らない理解が難しくなります。留学などの事情で春学期だけ履修したり、秋学期から履修するということを除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

英語史 B

大沢 ふよう

授業コード：A2902
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語史というと、なぜ古い英語を勉強するのかと疑問を感じる人がいるかもしれませんが、現代英語は例外が多く、外国人学習者にとっては見かけより習得が困難であるといわれます。しかし、英語の変化を少し振り返るだけでその例外にも、ある規則性が働いていることがわかり現代英語の理解も容易になります。この授業はその目的のためにあります。古英語から現代に至るまでの英語の変化の基本的知識の獲得をめざします。

【到達目標】

現代英語は、例外の集まりのように思えるが、実はその背後には体系性があり、また規則性があることを理解することをめざします。現代英語についてのより深い理解が得られることをめざします。

【授業の進め方と方法】

5 世紀ごろから今日にいたるまでの、英語の変化についての基本的な知識を得られるように講義します。内容は、英語そのものの起源と発達に重点をおいて講義していきます。が、随時、英語国民の歴史にも触れ、どのようにして今日の英語と英国という国が成立していったかを考えていきます。古英語、中英語、近代英語の順に、発音、語彙、文法の変化についてみていきます。B では古英語以降から近代英語にいたるまでを講義します。授業方法は、講義形式で行います。しかし、聞きっぱなしということにならないように、工夫してみたいと思います。質問はいつでも歓迎します。

【授業計画】

秋学期	テーマ	内容
回		
第 1 回	古英語の文法	語彙・借用語-古英語の語彙構成
第 2 回	古英語を取り巻く状況	バイキングの襲来
第 3 回	古英語の変化	スカンジナビア語の英語に及ぼした影響
第 4 回	古英語から中英語へ	移行期の政治的背景
第 5 回	中英語 (1)	ノルマン人の征服：フランス人による支配
第 6 回	中英語 (2)	水準化・フランス語の影響・綴り字の変化
第 7 回	中英語に起きた変化 (1)	文法の変化：格変化の衰退
第 8 回	中英語に起きた変化 (2)	文法の変化：他の語形変化の衰退
第 9 回	中英語の語彙	語彙の変化、フランス語の影響
第 10 回	中英語から近代英語へ	時代背景：国力の増大・植民地経営
第 11 回	近代英語	印刷術の導入：及ぼした影響
第 12 回	発音変化	大母音推移
第 13 回	近代英語の文法	文法に起きた変化：規範文法の確立
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は、英米人の学生を対象に書かれた専門の入門書を使用するので、自分の英語力を向上させる良い機会だと考えて、自分で教科書を読み進むくらいの態度で臨んでください。

また、必ず専用のノートを用意して、講義を耳で聞きながら、要点をメモできるように努力すること。

【テキスト（教科書）】

Charles Barber 著 The Story of English 出版社・英宝社です。他の文献からも内容を取り入れます。必要に応じて、プリントを配布する予定です。授業の前に必ず目を通しておいください。

【参考書】

初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終週に行う試験で 80 %評価します。また、授業で行う小テストや提出物も評価の対象とします。

試験 80 %+ 小テスト・提出物 20%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの速度を工夫して理解しやすさをめざす。

【その他の重要事項】

この授業は、A・B と一応独立した科目となっていますが、春学期・秋学期と通年を通じて履修することを勧めます。英語の歴史を A だけ履修しても、その後の歴史を知らないという意味がありません。また、B から履修しても、その前の事情を知らない理解が難しくなります。留学などの事情で春学期だけ履修したり、秋学期から履修するということを除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

英文学史 A

丹治 愛

授業コード：A2903

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを学習する。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力の向上をめざす。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— <i>Beowulf</i>	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 2 回	中世後期—— <i>Chaucer, The Canterbury Tales</i> ; <i>Malory, Le Morte d'Arthur</i> ; <i>Langland, Piers Plowman</i>	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— <i>More, Utopia</i>	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的状况を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— <i>Spenser, The Faerie Queene</i> ; <i>Shakespeare: The Sonnets</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的状况を学習する。
第 5 回	<i>Shakespeare</i> 映画を見て、デイスカッション	<i>Shakespeare</i> 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— <i>Shakespeare, Richard II</i> ; <i>King Lear</i> ; <i>As You Like It</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的状况を学習する。
第 7 回	17 世紀—— <i>Bunyan, Pilgrim's Progress</i> ; <i>Milton, Paradise Lost</i> ; <i>Paradise Regained</i>	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— <i>Defoe, Robinson Crusoe</i>	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— <i>Wordsworth & Coleridge, Lyrical Ballads</i>	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 10 回	19 世紀前半（詩）—— <i>Blake, Milton</i> , <i>Wordsworth, The Prelude</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的状况を学習する。
第 11 回	<i>Austen</i> 映画を見て、デイスカッション	<i>Austen, Sense and Sensibility</i> を見て、その内容について議論する。
第 12 回	19 世紀前半（小説）（1）—— <i>Austen, Sense and Sensibility</i> ; <i>Pride and Prejudice</i> ; <i>Northanger Abbey</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状况を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2）—— <i>Austen, Emma</i> ; <i>Mansfield Park</i> ; <i>Persuasion</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

Shakespeare の作品ひとつと *Austen* の作品ひとつ。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

『ケンブリッジ版イギリス文学史』全 4 巻（研究社）

Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパーなどの平常点 10 %
中間レポート 40 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

質問は授業中に積極的におこなってください。

英文学史 B

丹治 愛

授業コード：A2904

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを学習する。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上をめざす。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半—— Dickens, <i>Oliver Twist</i> , Bronte, <i>Wuthering Heights</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば（小説）—— Gaskell, <i>North and South</i> ; Eliot, <i>Adam Bede</i>	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（小説）的状况を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば（詩）—— Tennyson, “In Memoriam”; Arnold, “Dover Beach”	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（詩）的状况を学習する。
第 5 回	19 世紀末—— Hardy, <i>Tess of the D'Urbervilles</i> ; Morris, <i>News from Nowhere</i>	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 6 回	20 世紀前半（1）—— Gissing, <i>The Private Papers of Henry Ryecloft</i>	1900 年代の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 7 回	映画 <i>Howards End</i> を見てディスカッション	映画 <i>Howards End</i> を見て、その内容について議論する。
第 8 回	20 世紀前半（2）—— Forster, <i>Howards End</i> ; Maurice	1910 年代の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 9 回	20 世紀前半（3）—— Woolf, <i>Mrs. Dalloway</i> ; <i>Between the Acts</i>	戦間期の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（4）—— Country House Novels	いくつかのカントリーハウス・ノヴェルをとりあげながら、カントリーハウスの文化史をたどる。
第 11 回	20 世紀後半（1）—— Osborne, <i>Look Back in Anger</i> ; Sillitoe, “The Loneliness of the Long-Distance Runner”	第二次大戦後の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 12 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、ディスカッション	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、その内容について議論する。
第 13 回	20 世紀後半（2）—— Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i>	20 世紀後半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

授業であつかう作品のうち 2 つ（1 つは *The Remains of the Day*）。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

『ケンブリッジ版イギリス文学史』全 4 巻（研究社）

Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。

リアクションペーパーなどの平常点 10%

中間レポート 40%

期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は 601 研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうの努力をしていただきたい。）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタンの英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義と自己信頼。ソロとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いのが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20 %)、(2) 作品 2 冊を読んだレポート (40 %)、(3) 期末試験 (40 %)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

こわくならないようにやさしく話すこと。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカネス」（ナショナル・アイデンティティとかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステイヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲアリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第 12 回	トマス・ピンチョンとジョン・バーズ	ポストモダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 作品 2 冊を読んだレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当なし。レポートの数を減らしてみる。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」との継続履修が望ましい。

英語学概論 A

片見 彰夫

授業コード：A2804
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

扱うのは、「世界の英語」「形態論」「意味論」「語用論」「文体論」「英語教育」などの分野である。それぞれの分野の理論的な枠組みや研究の現状を学び、自分の興味のある分野がそれらのどこに、どのように位置づけられるのかを探し、今後の自分の研究テーマを探し、アプローチの仕方を学び、探求していく能力が養えるように、講義形式で進めていく。

【到達目標】

英語学概論 AB の両方を履修することによって、「英語の音声の仕組み」「英文法」「英語の歴史的変遷・国際共通語としての英語」についての十分な理解を得ることが、この授業の到達目標である。「英語学概論 A」では、英語学の諸領域のうち、「世界の英語」「形態論」「意味論」「語用論」「文体論」「英語教育」について、主要な理論的枠組みと考え方、その応用の仕方について学習することを目的としている。英語を教える立場になった時に、「英語の綴りと音声の仕組み」「英文法」「英語の歴史的変遷」「国際共通語としての英語」について正しく説明することができるだけの知識を習得することを目指している。

【授業の進め方と方法】

内容理解チェックや練習問題を通して主体的な学びを促す。「英語学」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識、歴史的か現代英語のかなど、研究者によって捉え方は異なっている。こうした視点のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されることになる。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もある。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していくことになる。さらに予習、復習課題を解くことで、理解の定着をはかっていく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「英語学概論」にはどうい う分野があるのか？	各分野の扱う事象と特徴について
第 2 回	「世界の英語」（1）	世界語としての英語について
第 3 回	「世界の英語」（2）	英語が話されている国と地域、英語の バリエーションについて
第 4 回	「英語の形態論」（1）	形態論の概説、単語の仕組みについて
第 5 回	「英語の形態論」（2）	形態素について
第 6 回	「英語の意味論」（1）	意味論とは何か？
第 7 回	「英語の意味論」（2）	意味の拡張としてのメタファーについ て
第 8 回	「英語の語用論」（1）	語用論とは何か？ 言葉の「意味」とは 何か？
第 9 回	「英語の語用論」（2）	語用論の演習、コミュニケーション論 との関連について
第 10 回	「英語の文体論」（1）	文体論とは何か？ 文体論が焦点を当 てる事象とは何か？
第 11 回	「英語の文体論」（2）	英語のテキスト分析の方法、言語の規 則性について
第 12 回	「英語教育」（1）	英語教育の現状と問題点について
第 13 回	「英語教育」（2）	英語教育のこれからの展望について
第 14 回	まとめと試験と概説	定期試験は実施しない

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト中の練習問題は、事前の指示に従って、解答してから出席することが大切である。その際の不明点の答えを探ることが、講義からの学びとなるからである。発展的学習のために、参考文献も紹介する。適宜、小テストを行うので、復習を行って理解を確認する習慣をつけてほしい。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他著 First Steps in English Linguistics 『英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（20％）、レポート（10％）、試験及び小テスト（70％）

【学生の意見等からの気づき】

「本年度より新規担当につきフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、毎時間必携。

【その他の重要事項】

教員と受講者、そして受講者どうしのインタラクションが重視される。相互の働きかけを大事にしてほしい。積極的な受講姿勢を高く評価する。

英語学概論 B

大沢 ふよう

授業コード：A2805
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、統語論では、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的基礎となるような内容がみつきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第 11 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 12 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 13 回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第 14 回	学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所は必ず事前に読んでおく。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけてください。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

初回の授業で詳しい文献リストを配布する予定です。また、指定した教科書以外からの文献も利用する場合があります。その場合は、該当箇所をこちらで用意して配布します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。試験は基本的に記述式で行います。選択肢から答えを選ぶような方式の試験は極力行わない方針です。

試験 80％

平常点 20％

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの展開の速度が速く、ノートが取りづらいと言う指摘があったので、その点を改善したいと思います。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。また、授業の内容をまとめた資料などを配布しますが、それ以外に自分でもきちんとノートを取る習慣を身につけてください。話を聞きながら、あるいは画面を見ながら、重要だと思ったことを記録できる能力は一生役にたちます。

授業の構成は順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。
出席は毎回とります。

言語学概論 A

石井 創

授業コード：A2806

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」の誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論や意味論、音声学・音韻論といった、言語学の諸分野でどのような言語の謎が扱われているのかを紹介していきます。その紹介を通じて、言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れることが目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 言語的な事実の気づきに敏感になる、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として進めます。具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。よって、受講者は答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にしてください。質疑応答やリアクションペーパーを書く時間も設ける予定ですので、その姿勢によって得られた疑問点や不明点は積極的に発信してください。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントについては、時間の許す限り次の授業内で紹介していくつもりです。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	形態素と語の内部
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	統語論 1	語よりも大きなまとまり
第 7 回	統語論 2	X-bar Theory
第 8 回	統語論 3	句構造から文構造へ
第 9 回	統語論 4	生成文法における「移動」と「痕跡」
第 10 回	音声学・音韻論 1	音声の産出、子音と母音
第 11 回	音声学・音韻論 2	音節とモーラ
第 12 回	意味論 1	動詞のあらわす事象
第 13 回	意味論 2	テンス・アスペクト
第 14 回	心理言語学	文理解で生じるあいまいさの解消

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業を進めていきます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業をしてください。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、同じく授業で学んだ方法でその現象について考える習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 100%
2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）

【学生の意見等からの気づき】

1. 用語説明について、「くどい」あるいは「不足」という逆の感想を得た。新年度は説明を聞いている受講生の反応を前年度以上に細かく観察することで、適切な分量の説明を目指す。
2. リアクションペーパーで得られた質問・コメントの授業内紹介はおおむね好評であったが、紹介に時間を割きすぎ、結果その日の授業での説明目標が達成できないことがあった。新年度は紹介の時間をきちんと制限することで、そのような事態にならないよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは基本的には授業支援システムで配布します。よって、普段使用するメールアドレスを授業支援システムに登録しておいてください。

言語学概論 B

川崎 貴子

授業コード：A2807

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語学の様々な分野を紹介します。言語データを様々な角度から分析する楽しさに触れていただければと思います。言語学の基礎知識を応用し、身の回りの言語現象について深く考えることが目的です。

【到達目標】

この授業では理論言語学の諸分野を紹介します。各分野の基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、言語学の複数分野の知識を応用し、実際の言語現象を分析できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

自然言語の現象、様々な「不思議」を講義形式で紹介しつつ、皆様にも問題を解きながら一緒に考えていただくことによって、言語学の理論を学び親しんでいただきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学とは？
第 2 回	言語知識	言語知識の中身
第 3 回	意味・語用論 1	曖昧さ、丁寧表現 1
第 4 回	意味・語用論 2	曖昧さ、丁寧表現 2
第 5 回	形態論 1	語のなりたち・形態素
第 6 回	形態論 2	複合語
第 7 回	統語論 1	語のカテゴリ
第 8 回	統語論 2	句のなりたち
第 9 回	統語論 3	文の構造
第 10 回	音声学・音韻論 1	英語・日本語の子音
第 11 回	音声学・音韻論 2	英語・日本語の母音/モーラ・音節
第 12 回	言語と文化	言語相対性理論
第 13 回	言語心理学	言語と知覚/マルチモダリティ
第 14 回	応用言語学	言語理解・獲得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 指示される映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。
- 言語学は積み重ねの学問ですので、授業の復習を各自行うことがとても重要です。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布致します。また、授業支援システムにも、配布プリントをアップロードいたします。

【参考書】

教科書はありませんが、参考文献を授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様々な内容を広く扱うことで、新たな気づきを得てくれる学生も多いようです。より授業外での学習にも自主的に取り組んでもらえるよう、課題を提案していこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて、課題のお知らせや読むべき文献の紹介を行います。

【その他の重要事項】

特になし

英語・言語学講義 A

秋山 孝信

授業コード：A2808

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知言語学入門：「人間の一般的な認知能力が、言語使用の基盤となっている」という考え方について議論する。豊富な事例の観察を通して、人間による世界の捉え方がことばの意味と不可分であることを確認する。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は以下の通りである。

- ・認知言語学の基本概念を英語の事例を挙げながら説明できる。
- ・概念形成手段としてのメタファー・メトニミー・シネクドキの諸特性を説明できる。
- ・英語の動詞・前置詞・副詞の中には、人間の外界における経験がその意味拡張を動機づけているものが多い。その意味拡張のメカニズムを説明できる。
- ・名詞の可算性・質量性を左右する意味的原理を説明できる。

【授業の進め方と方法】

人間による事態把握の仕方が、ことばの形式・意味と密接な関係にあることを確認する。授業は毎回ハンドアウトを配付し、それに沿って講義を進める。基本的に講義形式で授業を行うが、随時ペアワークなどで演習問題を解き、理解を深めてもらう。抽象的な議論に留まることを避け、多くの事例を観察しながら実感を伴って理解できるよう指導する。毎回の授業終了時には、リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	図と地の分化と言語分析	図と地という知覚分化の概念を言語分析に適用する。また、「プロファイル」と「ベース」、さらに「トラジェクター」と「ランドマーク」へと議論を進める。"The table is under the cup." という文が不自然に感じられる理由は？
第 2 回	トラジェクターとランドマークの応用：前置詞 in の分析	トラジェクターとランドマークを利用して、前置詞 in の意味体系を考える。"? the jar in the lid" (? 蓋の中の瓶) という表現が不自然なのはなぜだろうか。
第 3 回	概念形成手段としてのメタファー	メタファーを単なる言葉の綾としてではなく、概念形成の手段として捉え、その特性について考察する。"They're over the moon about their trip to Japan." は、どのように解釈される？
第 4 回	メトニミーとシネクドキの特性	メトニミーとシネクドキを概念形成の手段として捉え、その種類と特性について議論する。"The Pentagon has been left with egg on its face." の表す意味は？
第 5 回	心的走査と主体化	ことばの多義性の要因となる「心的走査」と「主体化」について考える。"His forthcoming novel promises well." における promises の意味は？
第 6 回	類像性 (iconicity) とは	日常言語の形式のある側面は、これに対応する意味によって動機づけられているという考え方について検討する。"a (large/ mahogany/ oval/ lovely) table" を自然な語順に並び替えるとどうなるのか？ またその理由は？
第 7 回	副詞 up の多義性 1	「上向き垂直方向の位置と動き」を中核スキーマとする up の多義性について考察する。"crumple up the paper" 「紙をくしゃくしゃに丸める」における up の意味は何だろうか。
第 8 回	副詞 up の多義性 2	up の非空間的意味について考察する。"look up the word in a dictionary" における up の意味は何だろうか。
第 9 回	前置詞 at の意味体系	「点」を中心義にもつ前置詞 at は、どのような意味体系を成しているのだろうか。"He keeps all his clients at arm's length." における at の意味は？
第 10 回	可算名詞と質量名詞	英語名詞の加算性・質量性それぞれの特徴を洗い出し、可算・質量名詞の相違は、文脈に依存し、「人間のものの捉え方」を反映していることを確認する。equipment, furniture, jewelry が質量名詞扱いになる理由は？

第 11 回	可算名詞と質量名詞（特殊事例）	「二肢類名詞」「一部の病名」「複数質量名詞」「単複同形名詞」をはじめとした特殊な名詞を吟味し、その用法の背後にある原理を吟味する。「はしか」は英語で measles と表現し、 measle と言わない理由は？
第 12 回	不定冠詞の意味と機能	英語不定冠詞の機能と用法について議論する。
第 13 回	定冠詞の意味と機能 1	英語定冠詞の機能と用法について議論する。特に specificity と definiteness の相違について理解を深める。"a former US president" と "the former US president" における解釈上の違いは？
第 14 回	定冠詞の意味と機能 2	特に後方照応の the の用法について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業内で示す参考文献を読むと共に、授業用ハンドアウトをよく読んでくること。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜、ハンドアウトを配付する。但し、毎回辞書を持参すること。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、特に平易なものを以下に挙げる。
菅井三実 (2015) 『人はことばをどう学ぶかー 国語教師のための言語科学入門ー』くろしお出版
瀬戸賢一、山添秀剛、小田希望 (2016) 『解いて学ぶ認知言語学の基礎』大修館書店
初山洋介 (2010) 『認知言語学入門』研究社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) 試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

興味深く受講して頂いているようですが、PPT 画面の切り替えに早い時があるようです。今年度は、さらに気を付けます。

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および、訳や作文の実習。
なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により変更の可能性があります。下記の通りに行く保証はありません。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説（その 1）……英語の冠詞
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説（その 2）……日本語の助詞、および英語の倒置構文
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 3）	ハとガは、本当はもっとややこしい……。
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	<i>do</i> の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	<i>do</i> の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	<i>do</i> の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えて（書いて）きてください。

また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 % での評価となります。

公平性を最重視するので、個人的な事情（努力の有無や、体育会所属など）は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していませんが、学期中にも履修者から要望を募りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（言語の変化／ことばの乱れ／地域方言／外来語／コミュニケーション／アイデンティティー／男女のことば／言語どうしの接触／言語政策／…）、講義では日本語社会を対象にこれらを全般的に扱いつつ、「若者語・流行語」については多少重点的に取り上げる。毎回の課題準備とグループワークを通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【授業の進め方と方法】

講師による一方向的な講義形式ではなく、毎回、グループワークおよび簡単な口頭報告を中心に進行することを想定している。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明
第2回	言語変化の原動力・音素と異音	言語が変化する背景について考える。 また、「ガ行子音（鼻濁音）」をめぐる問題を取り上げる。
第3回	漢字のゆくえ	漢字をめぐる諸問題について考える。
第4回	正しい日本語・乱れた日本語	「言葉の正しさ」をめぐる問題を取り上げる。
第5回	地域方言	方言をめぐる問題について考える。
第6回	若者ことば	若者語・流行語について考察する。
第7回	敬語	現代の敬語について考える。
第8回	ことばの接触・変化・外来語	言語接触・言語変化について取り上げる。特に、外来語に着目する。
第9回	言語計画・公用語・多言語社会	言語政策のトピックを紹介する。
第10回	男ことば・女ことばとジェンダー	ことばづかいの性差や「役割語」について考える。
第11回	配慮表現	さまざまな「配慮表現」に対する受け止め方の違いについて紹介する。
第12回	ら抜きことば	「ら抜きことば」の実態と規範意識について考察する。
第13回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第14回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備には1回あたり1時間～2時間程度はかかるはずなので、その旨承知されたい。また、場合によっては授業時間外での学生どうしによる事前準備等も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『新世代の言語学 ―社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003年、1,800円＋税）

http://www.9640.jp/book_view/?274

内容に比して安価であり、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。

- （1）『応用社会言語学を学ぶ人のために』（ダニエル・ロングほか編、世界思想社、2001年、1,600円＋税）
- （2）『社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる（改訂版）』（東照二著、研究社、2009年、2,300円＋税）
- （3）『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、840円＋税）
- （4）『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、800円＋税）
- （5）『日本語の配慮表現の多様性』（野田尚史ほか、くろしお出版、3,700円＋税）

【成績評価の方法と基準】

毎回の事前準備課題 20%

グループワークでの議論活性化への寄与度 20%

最終レポート 60%

全出席を求めるものではないが、毎回の講義に出席して自分なりに考える習慣をつけていかない限り、最終レポートが及第点に至ることはおそくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したものも、不可となる。また、学ぼうとする他の学生の意欲をそぐような行為（講義中の無用なスマホ操作や、講義に無関係な私語）があった場合、レポートを提出する権利を認めないので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更によりフィードバックできません）

【学生が準備すべき機器他】

「ふだんよく見るメールアドレス」「wordが使える環境」「配布資料を綴じるためのA4縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（SNSアカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。

また、レポートの執筆はwordを用いることを原則とする（添削を加えるため）。word以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。

本講義は、英語の知識を前提としない。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。きちんと努力する者、なにかを真剣に知ろうとするものが集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の幅広さを知っていただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったと思います。

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集と参考書・辞書などについて知識を持っている。

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	スタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリスとアメリカの特性。
第 7 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカ短篇小説
第 8 回	話法について	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 10 回	イギリスの短篇小説を読む（1）	19 世紀イギリス短篇小説。
第 11 回	Voice について	「態」と声。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	スタイルについて	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
 豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
 E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
 英米の文学史（教室でリストを配布する）
 その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
 レポート 20 パーセント
 期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

プリントの配布の方法、映像の操作など、習熟するようにいたします。

英米文学講義ⅠB

宮川 雅

授業コード：A2908

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用語、方言、引用、その他。
第2回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコードダンス。
第3回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第4回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第5回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20世紀アメリカの短篇小説。
第6回	注釈について	注釈について。
第7回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第8回	アイルランドの短篇小説を読む	19世紀アイルランド短篇小説を読む。
第9回	翻訳について	誤訳、直訳、意訳。
第10回	英詩の構造	versification, rhyme, meter, foot.
第11回	オーストラリアの短篇小説を読む	20世紀のオーストラリア短篇小説を読む。
第12回	キャラクターについて	round character と flat character.
第13回	イギリスの短篇小説を読む（2）	20世紀のイギリス短篇小説を読む。
第14回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでほしい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

プリントの配布の方法、映像の操作など、習熟するようにいたします。

英米文学講義ⅡA

丹治 愛

授業コード：A2909

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

18世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870年以前）までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力の向上もめざす。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第2回	Defoe, Robinson Crusoe	Robinson Crusoe をテキストにして、ビカレスク小説について学習する。
第3回	Swift, Gulliver's Travels	Gulliver's Travels をテキストにして、風刺文学について学習する。
第4回	Gulliver's Travels（映画）	Gulliver's Travels の映画を見て、その内容を議論する。
第5回	Richardson, Pamela	Pamela をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第6回	Fielding, Joseph Andrews	Joseph Andrews をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第7回	Sterne, Tristram Shandy	Tristram Shandy をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第8回	Walpole, The Castle of Otranto	The Castle of Otranto をテキストにしてゴシックについて学習する。
第9回	The Castle of Otranto（映画）と Radcliffe, The Italian	The Castle of Otranto の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第10回	Austen, Northanger Abbey	Northanger Abbey をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第11回	Northanger Abbey（映画）	Northanger Abbey の映画を見て、その内容について議論する。
第12回	Bronte Sisters, Jane Eyre & Wuthering Heights	Jane Eyre & Wuthering Heights をテキストにして、女性の文学について学習する。
第13回	Dickens, Oliver Twist	Oliver Twist をテキストにして、社会小説について学習する。
第14回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書く

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史 8 小説Ⅰ』『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

- 1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 - 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパーなどの平常点 10 %
中間レポート 40 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

英米文学講義ⅡB

丹治 愛

授業コード：A2910

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19世紀末から21世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

19世紀末から21世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（19世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして19世紀末までの小説の展開を概観する。
第2回	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見てディスカッション	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見て、その内容を議論する。
第3回	世紀末のゴシック（1）恐怖小説とファンタジー—— <i>Dr. Jekyll and Mr. Hyde</i> , <i>Dracula</i> , <i>The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr. Jekyll and Mr. Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第4回	世紀末のゴシック（2）ミステリーとSF—— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーとSFについて学習する。
第5回	唯美主義—— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第6回	主観的・内的リアリズム—— <i>Heart of Darkness</i> , <i>The Secret Agent</i> , <i>Mrs. Dalloway</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第7回	芸術家小説—— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> , <i>Sons and Lovers</i> , <i>To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第8回	アンチユートピア—— <i>Nineteen Eighty-Four</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> をテキストにして、アンチユートピアについて学習する。
第9回	怒れる若者たち——"The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner" をテキストにして1950年代の小説について学習する。
第10回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション—— <i>The French Lieutenant's Woman</i>	<i>The French Lieutenant's Woman</i> などをテキストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第11回	マジック・リアリズム—— <i>Midnight's Children</i>	<i>Midnight's Children</i> などをテキストにして、マジック・リアリズムについて学習する。
第12回	映画 <i>Atonement</i> を見てディスカッション	映画 <i>Atonement</i> を見て、その内容について議論する。
第13回	ポストモダン・メタフィクション—— <i>Atonement</i>	<i>Atonement</i> をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
第14回	期末試験とまとめ	全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史9 小説Ⅱ』『講座英米文学史10 小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパーなどの平常点10%
 中間レポート40%
 期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

英語学講義 A

大沢 ふよう

授業コード：A2911

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造、つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、異なる意味を持つ場合があるのは、表面からは見えない、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。複雑な英文を読みこなすにはこのような構造の知識が不可欠であることを学び、適宜、様々な分析アプローチについても接することになります。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、確実な知識が持てるようになります。英語力も確実に向上していきます。単語の意味がわかれば全文の意味が簡単に類推できるような初歩的なレベルの英文ではない、複雑な思考のもとに書かれた英文がきちんと読めるようになります。又、英語・言語の分析法の代表的なものについて、ある程度の知識を持つことができるようになります。

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行いますが、できるだけ実際の問題をとく機会を設けたいと思います。時々課題を与えるので真剣に取り組んでください。また、授業で扱う資料は研究書や論文からの抜粋を使用するので、それも学生に順番にあてて説明させることから授業を開始していきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	英語統語論について	英語学概論 B で学んだことの復習と発展
第 3 回	品詞	今までの知識を再確認しよう －例として「名詞って何？」と聞かれたらどう答えますか
第 4 回	実際の英語	実際に問題を解いてみよう－初歩的な英語が完璧に理解できているだろうか？
第 5 回	代表的な統語構造－その 1	英語の統語構造のうち代表的なものを取り上げて分析していく。学校で学んだことを思い出そう－名詞構文
第 6 回	代表的な統語構造－その 2	学校で学んだ文法を思い出そう－名詞構文、動名詞など
第 7 回	代表的な統語構造－その 3	「名詞」のように見えるが、実は「文」と同じ？
第 8 回	英語における主語	主語はどのように表せるのか －名詞句に主語って？
第 9 回	伝統的な分析	目的語はどのように表せるのか－名詞句に目的語って？
第 10 回	中間のまとめ	伝統文法の不十分性について考えよう
第 11 回	名詞化	Nominalization 【名詞化】という興味ふかい現象について考えます
第 12 回	理論を用いた分析	生成文法を用いた分析－ (1) : 生成文法による英語の分析について解説します
第 13 回	理論を用いた分析の応用	生成文法を用いた分析－ (2) : 名詞句を生成理論を使って分析してみると
第 14 回	春学期のまとめ	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおく必要があります。授業外学習を奨励するために、授業開始時に、簡単な小テストを行う場合があります。

【テキスト（教科書）】

1 冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

研究社新大英和辞典

ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】

最終試験が 60% : 正解することのみでなく、正解を導き出す論理的筋筋も評価の対象とします。勘や、まぐれでは、正解は得られません。

授業中に行う小テストなどの結果 30%

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をチェックし、柔軟に対応していきます。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていただきます。

英語学講義 B

大沢 ふよう

授業コード：A2912

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。また、様々な分析アプローチについても知識が得られるようになります。

【到達目標】

英語の基本的な構造についての、知識が得られます。英語力の向上も目指します。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになります。非母語話者向けに書かれた平易な日常的な事柄について書かれた英文ではなく、ある程度の専門的な内容をふくむ高度の英文が読みこなせるようになります。

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行いますが、できるだけ実際の問題をとく機会を設けたいと思います。授業中は必ず学生を順番に指名して質問したり、資料の英文を読んで説明してもらうなど、学生参加を心がけます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の初歩	幾つかの基本的事実について、どの程度理解しているか
第 3 回	現代英語の初歩	実際に問題を解いてみよう－基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	there	there－理解しているようで知らない事実
第 5 回	there is ～構文	there「そこに」という場所を表す意味だと思っていませんでしたか？
第 6 回	虚辞 (expletive) としての there	存在しているのに、「意味」を持たない不思議な存在「虚辞」について
第 7 回	there の不思議	there は様々な意外な場所に現れることができる
第 8 回	中間のまとめ	これまでの内容のまとめ
第 9 回	there 構文	統語テストをかけてみよう
第 10 回	there 構文	少し昔を振り返ると、意外な事実に出づかります
第 11 回	理論を使った分析	理論的な分析で there 構文を説明してみます－ (1)
第 12 回	理論を使った分析	理論的な分析で there 構文を説明してみます－ (2)
第 13 回	日英比較	少し、日本語との比較も考えてみましょう－ there にあたる日本語は？
第 14 回	秋学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおく必要があります。授業時間の開始時に、簡単な質問をして予習したかどうかどうかチェックしたりすることで予習を奨励します。

【テキスト（教科書）】

1冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。

辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

研究社新大英和辞典

ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】

最終試験が60%：正解することのみでなく、正解を導き出す論理的道筋も評価の対象とします。勘やまぐれで正解が得られるような問題は出題しません。授業中に行う小テストなどの結果：30%
平常点：10%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を常にチェックし、柔軟に対応していきます。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていただきます。

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の進行形の意味分析、および日本語における時制を考えます。

【到達目標】

- ・日本語訳に騙されないで英語の意味を捉える姿勢を身につける。
- ・見かけに騙されず論理的に分析の妥当性を論じる姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。

但し、「先生が正解を教えてください」とは思わないでください。教員が主張をする場合も、その主張が間違っている可能性は大いにあります（あると思うべきです）。

なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更します。下記の通りに行く保証はありません。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	方法論的な注意	文法概念は必要悪!!
第 3 回	状態と動作	英語（および日本語）における状態表現と動作表現の違い
第 4 回	時制とアスペクト	時制すなわち「どこにいるの？」アスペクトすなわち「どの部分？」
第 5 回	述語／eventuality の基本的な分類	Vendler/Dowty 流の Aktionsarten
第 6 回	英語の進行形 1	英語の進行形の基本的な意味 (Kamp & Reyle 分析)
第 7 回	英語の進行形 2	進行形であらわせる丁寧さ
第 8 回	日本語のル形とタ形	時制説とアスペクト説の紹介
第 9 回	井上 (2001) の時制説	井上 (2001) による分析およびその改訂
第 10 回	telicity	主節のタ形、再論
第 11 回	時制概念の拡張 1	事態の時間、話者の時間
第 12 回	時制概念の拡張 2	従属節：相対テンス
第 13 回	相対テンスへの反例？	共同批判の紹介
第 14 回	まとめ	まとめ、カバーしきれなかった事柄の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を他の文法の問題（特に、英語以外の言語、例えば日本語）にも応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情（努力の有無、体育会所属など）は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと思われる箇所を大幅にカットし（春学期）、取り上げる分野を新しくしました（秋学期）。また、リアクションペーパーを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します。授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

言語学講義Ⅰ B

石川 潔

授業コード：A2914

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

意味、統語論、音声に関する言語学の理論が心理学的な行動実験によって裏付けられるか、裏付けられないかを考えます。

【到達目標】

科学的な仮説の優劣の比較方法の初歩を身につけること。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。

なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更します。下記の通りに行く保証はありません。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	秋学期の指針
第 2 回	aspect の意味計算 1	cross-modal priming による研究例
第 3 回	aspect の意味計算 2	self-paced reading による研究例
第 4 回	aspect の意味計算 3	eye-tracking による研究例
第 5 回	英語における「動詞句」の実在性 1	古典的な証拠
第 6 回	英語における「動詞句」の実在性 2	新たな解釈
第 7 回	日本語に「動詞句」は存在するか 1	理論的な可能性
第 8 回	日本語に「動詞句」は存在するか 2	読み時間についての実験
第 9 回	日本語に「動詞句」は存在するか 3	実験結果の代替解釈の理解のための準備
第 10 回	日本語に「動詞句」は存在するか 4	実験結果の代替解釈
第 11 回	音声知覚における語彙効果 1	古典的な知見
第 12 回	音声知覚における語彙効果 2	日本語の調音に関する事実
第 13 回	音声知覚における語彙効果 3	日本語での知覚に関する知見
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ、今後の学習についての指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を言語以外の日常生活にも応用してみてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情（努力の有無、体育会所属など）は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと思われる箇所を大幅にカットし（春学期）、取り上げる分野を新しくしました（秋学期）。

また、リアクションペーパーを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義Ⅰ A」と連続履修すること。

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語は身近すぎて、日ごろ、深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

ある言語、例えば、自分の母語について考えることによって、言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。講義の後、その日の講義に関連してリアクションペーパーを書いてもらいます。提出されたリアクションペーパーを確認することで、次の講義を始めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	言語の知識	音体系の知識、語の知識、言語学的知識の創造
第 3 回	言語の普遍的特性	文法の発達
第 4 回	人間の脳	脳のモジュール構造
第 5 回	言語の進化	言語の起源、神から人類への贈り物、最初の言語
第 6 回	形態素、語形変化の規則	拘束形態素と自由形態素
第 7 回	造語、文法上の形態素	合成語、頭字語、逆形成、短縮語、混成語、屈折形態素
第 8 回	文法的か、非文法的か？	文法性の基盤、文法性の基盤ではないもの
第 9 回	文構造	統語範疇、句構造樹
第 10 回	句構造規則	成長する樹形図、構造的あいまい性、成長しない樹
第 11 回	文の関連性	変形規則、構造依存規則、統語依存
第 12 回	音変化の規則性	音対応、祖語
第 13 回	形態変化、統語変化、語彙変化	新語の付加、借用、語彙の消失、意味変化
第 14 回	死語の再建	比較言語学、比較再建、史的証拠

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んでください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

【成績評価の方法と基準】

授業後のリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語は身近すぎて、日ごろ、深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

ある言語、例えば、自分の母語について考えることによって、言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【授業の進め方と方法】

講義中心に進めますが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。講義の後、その日の講義に関連してリアクションペーパーを書いてもらいます。提出されたリアクションペーパーを確認することで、次の講義を始めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	語彙意味論	意味特性、-nyms
第 3 回	句と文の意味	句の意味、文の意味、文の真実
第 4 回	語用論	言語学的コンテキスト、状況のコンテキスト
第 5 回	調音音声学	母音、子音
第 6 回	音素	言語の音韻単位
第 7 回	弁別的素性	素性の値
第 8 回	韻律音韻論	音節構造、語強勢、文強勢と句強勢
第 9 回	言語獲得のメカニズム	模倣、強化、類推
第 10 回	子供は文法を構築する	生得説、言語獲得の段階、最初の言語、文法の発達
第 11 回	チンパンジーは人間の言語を習得できるか	グア、ピギ、ワショー
第 12 回	人間の頭の働き	理解、構文処理、発話
第 13 回	ビジン語とクレオール語	ビジン語、クレオール語
第 14 回	言語、性、ジェンダー	有標形と無標形、言語とジェンダー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

【成績評価の方法と基準】

授業後のリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2917

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。

一授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。

一宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは授業支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験・・・100 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

楽しんで勉強して下さった方々が多かったように思います。抽象的な内容をわかりやすく伝えられるよう、工夫を重ねていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2918

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ることを目標とします。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見いだし、記述できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

— 授業内容の復習をすることがとても重要です。
— また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
— 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
— 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは授業支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 …… 100 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは執筆段階では手元にありません。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号 (IPA) などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号 (子音)
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号 (母音)
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

— 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
— 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
— 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは授業支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 …… 100 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

楽しんで勉強してくださった方々が多かったように思います。抽象的な内容をわかりやすく伝えられるよう、工夫を重ねていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ることを目標とします。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

—授業内容の復習をすることがとても重要です。
—また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
—授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
—宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは授業支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ……100 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは執筆段階では手元にありません。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

文学研究方法論 A

丹治 愛

授業コード：A2969

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、文学批評とはどのようなものか、どのようなプロセスで進めていくものかを学習することである。概論のあとは、具体的にテキスト（イギリス小説）を分析していく。そのプロセスで、小説を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群を学習する——ストーリー／プロット／ディスコース、キャラクター、語り手（ナレーター）と視点人物、イメージとシンボルとアレゴリー、ジャンルなど。最終的に、学習した方法論にしたがって、ひとつの文学作品についての個々の学生の解釈を確認しあう。

【到達目標】

文学批評とはどのような行為なのかを学習したうえで、ひとつの作品（イギリス小説）を選び、それを対象として具体的に解釈の方法を実践的に訓練する。その訓練のプロセスをとおして、文学研究の具体的方法論を身につけるとともに、英語の読解力、批判的読解（クリティカル・リーディング）をとおして論理的にものを考える力、リサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【授業の進め方と方法】

原則的には講義形式であるが、毎回、それと関連して適宜課題を出すので、学習と出席は不可欠である。具体的なテキストとしては、Thomas Hardy, *Tess of the d'Urbervilles* (1891) を使用するので、これは必読である。作品を精読しながら、その結果をいかに解釈へとつなげていくかを実践してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の目的および授業の概要について説明する。
第 2 回	文学批評とは何か	テキストの多義性と解釈の複数性について学習する。自分なりの解釈を見つけることの重要性を理解する。
第 3 回	論証とリサーチ	自分なりの解釈が主観的であっても、誤読ではないことを論証すること、リサーチをして論証を補強することの重要性を理解する。
第 4 回	映画を見る	映画をとおして、自分なりの解釈を見つける訓練をする。
第 5 回	プレゼンテーションとディスカッション	映画の解釈について相互に議論する。
第 6 回	『テス』第 1 編を読む	『テス』の第 1 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 7 回	『テス』第 2 編を読む	『テス』の第 2 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 8 回	『テス』第 3 編を読む	『テス』の第 3 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 9 回	『テス』第 4 編を読む	『テス』の第 4 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 10 回	『テス』第 5 編を読む	『テス』の第 5 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 11 回	『テス』第 6 編を読む	『テス』の第 6 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 12 回	『テス』第 7 編を読む	『テス』の第 7 編を精読し、重要なディテールについて議論する。
第 13 回	『テス』——プレゼンテーション	『テス』に関する自分なりの解釈を相互に発表する。
第 14 回	『テス』——ディスカッション	『テス』に関して、相互に議論し、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指定の文献を読んだ上で授業に出席すること。発表の前には、わかりやすい資料をつくるなど準備をきちんとすること。

【テキスト（教科書）】

Thomas Hardy, *Tess of the d'Urbervilles* (Penguin Classics)

【参考書】

トマス・ハーディ『テス』上下（岩波文庫）
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技法』（白水社）
Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業にたいする積極的参加）
期末試験か期末レポート（受講者数によって）50%（授業内容の理解度を見る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言・議論の機会を増やす。

【その他の重要事項】

出席を重視する。
文学研究方法論 B（秋学期）を履修することが望ましい。

文学研究方法論B

丹治 愛

授業コード：A2970
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、文学批評とはどのようなものか、どのようなプロセスで進めていくものかを学習することである。この授業では、文学作品の解釈にとって有用な、さまざまな批評理論を中心に学習する。それぞれの批評理論の理論的基盤、それに関連する基本的な概念群・キーワード群を学習し、さらに具体的な作品群を精読し、批評理論を作品解釈に活用する訓練をする。

【到達目標】

この授業は文学批評のための批評理論を学習することを目的とする。批評理論とはどのような機能をもっているかをはじめに学習し、個々の批評理論の理論と方法論、概念とキーワードなどを学習したうえで、それぞれの批評理論に応じてイギリス小説を選び、それを対象として批評作品を具体的に読んでいく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解力、批判的読解（クリティカル・リーディング）をとおして論理的にものを考える力、リサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【授業の進め方と方法】

原則的には講義形式であるが、毎回、それと関連して適宜課題を出すので、予習と出席は不可欠である。具体的なテキストとしては、**Thomas Hardy, *Tess of the d'Urbervilles***（1891）を使用するので、これは必読である。授業内であつかういくつかの「テス」論については、その内容をプレゼンテーションしてもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の目的、前学期の授業の概要および今学期の授業の概要について説明する。
第 2 回	ジャンル論——悲劇の構造	『テス』のジャンル論的批評を読む。
第 3 回	ジャンル論とは何か？	ジャンル論について講義する。
第 4 回	ナラトロジー——作者と語り手	『テス』のナラトロジーの批評を読む。
第 5 回	ナラトロジーとは何か	ナラトロジーについて講義する。
第 6 回	マルクス主義批評——階級とイデオロギー	『テス』のマルクス主義的解釈を読む。
第 7 回	マルクス主義批評とは何か？	マルクス主義批評について講義する。
第 8 回	中間的まとめ	これまでの授業のまとめをしながら、理解度を確認する。
第 9 回	フェミニズム批評——家庭の天使と墜ちた女	『テス』のフェミニズム的解釈を読む。
第 10 回	フェミニズム批評とは何か？	フェミニズム批評について講義する。
第 11 回	フェミニズム批評——ガイノクリティシズム	フェミニズム批評のなかのガイノクリティシズムについて講義する。
第 12 回	新歴史主義・文化研究——宗教と唯物論	『テス』の新歴史主義的・文化研究的解釈を読む。
第 13 回	新歴史主義とは何か、文化研究とは何か？	新歴史主義・文化研究について講義する。
第 14 回	まとめ	授業全体をまとめ、理解度をチェックする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指定の文献を読む。プレゼンテーションのときには、わかりやすいハンドアウトの作成など、じゅうぶんな準備をする。

【テキスト（教科書）】

Thomas Hardy, *Tess of the d'Urbervilles* (Penguin Classics)

【参考書】

トマス・ハーディ 『テス』（岩波文庫）
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
丹治愛編『批評理論』（講談社選書メチエ）
ピーター・バリー『文学理論講義』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（リアクションペーパーなどにおける授業にたいする積極的参加）
期末試験あるいはレポート（受講者数による）50%（授業内容の理解度を見る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表・議論の機会を増やす。

【その他の重要事項】

文学研究方法論A（春学期）を履修することが望ましい。履修していない学生は、あらかじめ「テス」を熟読しておくこと。

英米文学特殊講義 I

宮川 雅

授業コード：A2965
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アメリカ文学における自然・超自然」をテーマとし、アメリカ文学における「自然」の意味を考えながら、ヨーロッパを含めて歴史的に概観する。
アメリカ的なロマン主義、ヒューマンイズム、個人主義の思想的中心に位置するラルフ・ウォルド・エマソンは、『自然』（1836）の冒頭で「自然」の定義をおこなって、「哲学的に考察すると、宇宙は＜自然＞と＜魂＞から構成されている」、だから『《非我》NOT- ME』なるもの、つまり魂以外のものは、自然も、人工も、人間も、肉体も、すべて＜自然＞なのだ、と言っている。この「曖昧」な規定は＜霊＞の次元が導入されることでさらに曖昧になるのだが、一方で「人間も自然の一部です」と言った宮沢賢治につながる方向をもちつつ、他方で（魂を重視するように見える点で）人間中心主義（anthropocentrism）・擬人主義（anthropomorphism）として断罪されるエマソンの思想を枠どっているようにも見える。

メタ-フィジカル meta-physical な傾斜の強いアメリカ文学においては、自然（**physis = nature**）がスーパー-ナチュラ **super-natural** への契機（エマソンの言葉では「器官 **organ**」）となるのは自然かもしれないが、初期のビュリタンの時代から「自然」に対する意味づけは複雑であった。その複雑な思想を、宗教、神秘主義、環境主義、美学、イデオロギーなどと絡めながら歴史的に考察する。（超自然）については、自然との関係で考えることにより、話が拡散するのを抑えることをこころがける。中心は「自然」である。）

【到達目標】

- (1) アメリカ文学作品で描かれている「自然」を通して、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (2) アメリカ文学作品で描かれている「超自然」を通して、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を「自然・超自然」に関して得ている。
- (4) 欧米の「自然」の概念史を語れる。
- (5) ネイチャー・ライティングとエコクリティシズムの意義について説明できる。

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布して講義形式で進める。中心的テキストは精読する。リアクション・ペーパーを書いてもらい、理解を確認しながら関心の方向をさぐり、必要ならば修正する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	natural と supernatural	イントロダクション：「自然」の意味について
第 2 回	エマソンの『自然』を丁寧に読む (1)	自己信頼と三分説
第 3 回	エマソンの『自然』を丁寧に読む (2)	エコロジーと神秘主義
第 4 回	キリスト教と自然	自然の本とタイポロジー（アメリカの植民地時代）、自然忌避と自然崇拜、 native American と自然
第 5 回	楽園と農園、エデンとアルカディア	フロンティア・荒野・自然
第 6 回	自然描写と美学	“ideal landscape”の多義性
第 7 回	自然・人間・神	ゴシックの思想的地位
第 8 回	ポーの風景庭園	ビューティフル、サブライム、ピクチャレスク
第 9 回	大理石の牧神と五月柱	ホーソーンの自然・超自然、祝祭空間としての自然
第 10 回	アメリカ自然主義と超自然	幽霊と心霊研究の時代
第 11 回	“nature fakers”	シートン、ローズヴェルト、国立公園
第 12 回	ネイチャー・ライティングの伝統／禅と自然	ビート・ジェネレーション
第 13 回	砂の楽園	エドワード・アビー（1927-89）
第 14 回	エコクリティシズムの行方	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書目のリストを配布するので、積極的に読んでもらいたい。エマソンについてはなかば演習ふうに精読するので、事前にプリントを読んでおいてほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に教室で配布。

【参考書】

・Dorothy Scarborough, *The Supernatural in Modern English Fiction* (1917)
・Christopher Hussey, *The Picturesque: A Study in the Point of View* (1927)
・Henry Nash Smith, *Virgin Land: The American West as Symbol and Myth* (Harvard UP, 1950) H・N・スミス 永原誠訳『ヴァージンランド——象徴と神話の西部』（研究社, 1971）

・ Leo Marx, *The Machine in the Garden: Technology and the Pastoral Ideal in America* (OUP, 1964) レオ・マークス 榎原・明石訳『楽園と機械文明』(研究社, 1972)
 ・ Kenneth Clark, *Civilisation* (1969); *Landscape into Art* (1949); *Gothic Revival* (1928)
 ・ 高山宏『目の中の劇場——アリス狩り**』(青土社, 1985)
 ・ Don Scheese, *Nature Writing: The Pastoral Impulse in America* (Twayne, 1996)
 ・ Richard Mabey, ed., *The Oxford Book of Nature Writing* (OUP, 1997)
 ・ 志村正雄『神秘主義とアメリカ文学——自然・虚心・共感』(研究社, 1998)
 ・ 森松健介『近世イギリス文学と《自然》』(中央大学出版部, 2010) ; 『イギリス・ロマン派と《緑》の詩歌』(中央大学出版部, 2013)
 ・ 伊藤詔子『ディズナル・スワンプのアメリカン・ルネサンス』(音羽書房鶴見書店, 2017)
 ・ その他、教室でリストを配布したり指示したりする

【成績評価の方法と基準】

小テスト (20 %) と試験 (30 %) とレポート (30 %) と授業への積極的参加度 (リアクション・ペーパーなど) (20 %) で総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

リアクションを喚起するようこころがける。

英米文学特殊講義Ⅱ

小島 尚人

授業コード：A2966

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「アフリカン・アメリカンの文学を読む」をテーマとし、アメリカ黒人文学について学ぶ。黒人による文学作品が米国特有の黒人奴隷制と人種差別の歴史の中からどのようにして生まれてきたのか、何を問題としてきたのかを、代表的な作家・作品に触れることを通じて学び、理解することを目指す。

【到達目標】

- ・アメリカ黒人文学の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。
- ・文学作品の解釈の実践を通して、文学研究の意義を理解し、その基本的方法を身につける。
- ・作品の一部を英語で講読することを通して、英語読解能力を向上させる。

【授業の進め方と方法】

アメリカ黒人文学の歴史についていくつかの時代区分を設定し、それぞれの時代の歴史的背景と黒人たちの抱えていた諸問題を講義する。その上で各時代を代表する作家を紹介し、作品の一部を教室内で実際に読む（予習として事前に作品を読んでくることを求める場合もある）。毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述する形で、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらい。そのような実践の積み重ねを通じて、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、アメリカ黒人の歴史の概観
第 2 回	奴隷制下の黒人文学①	労働歌、黒人霊歌、slave narrative
第 3 回	奴隷制下の黒人文学②	フレデリック・ダグラスとハリエット・ジェイコブズ
第 4 回	解放民のゆくえ①	黒人の教育、社会的地位向上の試みと文学の役割
第 5 回	解放民のゆくえ②	プランテーション小説とチャールズ・チェズナット『魔法使いの女』
第 6 回	ハーレム・ルネサンス①	花ひらく黒人文化、その背景と代表的作家たち
第 7 回	ハーレム・ルネサンス②	ネラ・ラーセン『白い黒人』
第 8 回	20 世紀の黒人音楽	ブルース、ゴスペル、ジャズからヒップホップまで
第 9 回	自然主義と抗議の文学	リチャード・ライト『アメリカの息子』
第 10 回	モダニズムと自己の内面①	ラルフ・エリスン『見えない人間』
第 11 回	モダニズムと自己の内面②	ジェイムズ・ボールドウィン「サニーのブルース」
第 12 回	公民権運動とブラック・アート	“black is beautiful” に込められたメッセージ
第 13 回	黒人文学の現在①	トニ・モリスン『青い目がほしい』『ビラヴィッド』
第 14 回	黒人文学の現在②	モリスン以降の作家たち

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱う作品を事前に読む（作品の抜粋がプリントで事前に配布される）。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での課題に対応できるようにしておく。
- ・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

Henry Louis Gates Jr., ed. *The Norton Anthology of African American Literature*. 3rd edition. 2 vols. W. W. Norton, 2014.
 William L. Andrews, Francis Smith Foster, and Trudier Harris, eds. *The Oxford Companion to African American Literature*. Oxford UP, 1997.
 荒このみ『アフリカン・アメリカンの文学—「私には夢がある」考』平凡社, 2000 年。
 橋本福夫『黒人文学の世界』未来社, 1967 年。
 大内義一『アメリカ黒人文学』評論社, 1972 年。
 ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業内ワークシート課題：30 %
 学期末定期試験（課題図書を各自事前に読んだ上で回答する問題を含む）：70 %

【学生の意見等からの気づき】

記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立つという意見をいただいたので、この授業でも実施したいと考えています。

【その他の重要事項】

必須ではないが、「英米文化概論 A / 演劇講義 A」を受講し、米国における黒人奴隷制と人種差別の歴史および南部文化について基本的な理解を得た上で履修することが望ましい。

英米文学特殊講義Ⅲ

結城 英雄

授業コード：A2967

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

シェイクスピアは英文学のカノンと呼ばれている。この授業ではその作品をジャンル別に読み、その魅力について考えられるようになることを目的とする。400 年以上も前に書かれたものであることからすれば、現代の読者には異文化になっている。どう読めるのか、どう読んだらいいのかなど、現代文学との接点も学ぶ。

【到達目標】

シェイクスピアの時代は現代とは異なる世界観を基にしている。この授業ではそうした事情を学ぶ。またこの作家の幅の広さ、あるいは人生観なども学び、その後の文学と比較し、一人一人の学生が私見を持てるようになる。

【授業の進め方と方法】

講義形式。リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	シェイクスピアとは？	生涯
第 2 回	シェイクスピアの時代	世界観
第 3 回	喜劇 (1)	<i>As You Like It</i>
第 4 回	喜劇 (2)	<i>The Merchant of Venice</i>
第 5 回	喜劇 (3)	<i>Trilby</i>
第 6 回	史劇 (1)	<i>King Richard II</i>
第 7 回	史劇 (2)	<i>King Richard III</i>
第 8 回	史劇 (3)	<i>Henry V</i>
第 9 回	悲劇 (1)	<i>Romeo and Juliet</i>
第 10 回	悲劇 (2)	<i>King Lear</i>
第 11 回	悲劇 (3)	<i>A Thousand Acres</i>
第 12 回	ロマンス (1)	<i>The Tempest</i>
第 13 回	ロマンス (2)	<i>Caliban's Voice</i>
第 14 回	まとめ	レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

Sean McEvoy, *Shakespeare* (London: Routledge, 2012).

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%) とともに、授業での貢献度 (30%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（今回が初めての担当）。

英米文学特殊講義Ⅳ

結城 英雄

授業コード：A2968

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

シェイクスピアは英文学のカノンと呼ばれている。この授業ではその作品をイギリスの帝国支配下にあったアイルランドとの関連で読み、その魅力について考えられるようになることを目的とする。400 年以上も前に書かれたものであることからすれば、その作品は現代の読者にとって異文化になっている。どう読めるのか、どう読んだらいいのかなど、その後の文学との接点も学ぶ。

【到達目標】

シェイクスピアの作品は現代とは異なる世界観を基にしている。この授業ではそうした事情を学ぶ。またこの作家の幅の広さ、あるいは人生観なども学び、その後の文学と比較し、一人一人の学生が私見を持てるようになる。

【授業の進め方と方法】

講義形式。リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	シェイクスピアの時代背景 (1)	アイルランドとの接続
第 2 回	シェイクスピアの時代背景 (2)	帝国主義の拡大
第 3 回	シェイクスピアと読者 (1)	ゲーテの擁護
第 4 回	シェイクスピアと読者 (2)	トルストイの批判
第 5 回	シェイクスピアと読者 (3)	ジョイスの皮肉
第 6 回	シェイクスピアと読者 (4)	G. B. ショーの応答
第 7 回	現代的読解 (1)	W. B. イェイツとの比較
第 8 回	現代的読解 (2)	Tom Stoppard との比較
第 9 回	現代的読解 (3)	Arnold Wesker との比較
第 10 回	批評 (1)	censorship
第 11 回	批評 (2)	rewriting
第 12 回	批評 (3)	reprising
第 13 回	批評 (4)	talking back to Shakespeare
第 14 回	まとめ	レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

Sean McEvoy, *Shakespeare* (London: Routledge, 2012)

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%) とともに、授業での貢献度 (30%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（今回が初めての担当）。

英語・言語学特殊講義 A

片見 彰夫

授業コード：A2923

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史的知識を現代英語のより深い理解へと活かします。日常生活や就職活動における英語の重要性は、耳にたこができるほど繰り返されています。そして、現代では道具としての英語という概念も浸透し、英語を使うという事は 1 つのスキルとまでなっています。そのなかで、あえて英語を専攻し研究することの意義とはなんでしょう？ その目的の 1 つは、英語という言葉を通して人間を見つめることだと考えています。英文科の学生の専門性は、英語圏の文学、文化の知識を前提にしています。英語研究によって分析力と思考力を高め、さらに人間への理解、共感力を深めて載きたいと思っています。

本講座では、読書する姿勢も養っていきます。それは知識を吸収するだけではない、自ら問いを立てて思考する読書です。著者に疑問を投げかけて、答えを自ら探っていく過程です。

授業では、現代英語と比較しながら、古中英語のテキストを読み、その言語変化に着目し、作品の背景を学びます。教員からの一方的な講義にならないように、アクティブラーニングのスタイルも取り入れ、グループ学習や教員と受講生とのやり取りの時間を大切にします。

【到達目標】

- ・日頃の英語学習で疑問に感じていた項目（例えば、なぜ動詞活用には規則と不規則があるのか？ なぜ **feet** のような母音交替による複数形があるのか？ 等々の由来が理解できる
 - ・英語とヨーロッパ諸言語との関係性が理解できる。
 - ・原文に触れながら、英語散文の発達について理解できる。
 - ・グループ学習を通して、クラスメートと英語についての議論ができる。
 - ・自ら問いを設けて、その答えを見つける手段を見出すことができる。
- ☆英語を学ぶ楽しさと、専門的知識が深まることによる自信を実感して頂きたいと思っています。

【授業の進め方と方法】

指定テキストの指定箇所を事前に読んでくることが前提となります。講義ではその内容について質問をしますので、解答することが導入となります。その内容について講義を行いますが、毎時間受講生は問いを与えられます。グループディスカッション、または個別にその答えを考えることとなります。そして、古中英語のテキストの読みを行います。題材に選ぶのは、英文散文史上では重要とされながらも、日本人にはあまり読まれているとはいえない作品です。そこで生じた疑問点は貴重なものです。大きな課題に通じるかもしれません。レポート報告を行い、その小さな問いを発展させて、英語学への核心へとつながるように導いていけたらと考えています。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方。テキストの確認。
第 2 回	音、形式、意味の点からの、現代に至るまでの英語の変遷	1.Our Changing Language
第 3 回	現代英語の特徴について	2.Some Features of Modern English
第 4 回	英語史の 3 大区分とヨーロッパ言語との関係 古英語で書かれた年代記の文体	3.The Three Periods of English Anglo- Saxon Chronicle(1) 抜粋前半
第 5 回	古英語の語彙 古英語で書かれた年代記の語彙	4.The Old English Vocabulary Anglo- Saxon Chronicle(2) 抜粋後半
第 6 回	古英語の音韻と語彙、文法	5.The Structure of Old English

第 7 回	中英語の成り立ちについて (外面史)	6.The Middle English Language (1)pp.53-60 A Revelation of Love (1) 抜粋前部
第 8 回	中英語の成り立ちについて (方言)	6.The Middle English Language (2)pp.61-65 A Revelation of Love (2) 抜粋中部
第 9 回	中英語の成り立ちについて (語彙)	6.The Middle English Language(3) A Revelation of Love (3) 抜粋後部
第 10 回	中英語の音韻	7.The Structure of Middle English (1)66-68 The Book of Margery Kempe
第 11 回	中英語の語彙	7.The Structure of Middle English (2)pp.69-72 The Death of King Arthur (1) 抜粋前半
第 12 回	中英語の文法	7.The Structure of Middle English (3)pp.73-76 The Death of King Arthur (2) 抜粋後半
第 13 回	古中英語の重要事項を再確認し、現代英語と比較する。	既習事項のまとめ
第 14 回	到達度確認テスト	学習内容の定着を図ることを目的にテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は必ず読んでから講義に臨んでください。毎時、疑問点の確認作業を兼ねた質疑応答から始まりますので、すべての内容を理解する必要はありません。疑問点だけを拾い上げてくることが準備では大切です。

過去の英語を知るうえで、現代英語の確かな知識が土台となります。日々英語を学ぶことを習慣つけましょう。例えば、英語ニュースを毎日視聴する、英語で日記やメモを書く等が考えられます。

【テキスト（教科書）】

授業内で活用するリファレンスとして、以下のテキストを指定します。適宜、文体論、語用論のハンドアウトを配布するので、併用して理解を深めて下さい。なお、辞書は毎回必携です。

Henry Alexander. 1972. The Story of Our Language, 成美堂, ¥2,376

【参考書】

ブラッグ, M.2004. 『英語の冒険』アーティストハウス.
チェインバーズ, W. 1987. 『英語散文の連続性について』英潮社新社.
グッデン, P.2012. 『物語 英語の歴史』悠書館.
家入葉子. 2007. 『ベーシック英語史』ひつじ書房.
菊池繁夫・上利政彦 (編) 2016. 『英語文学テキストの語学的研究法』九州大学出版会.

堀田隆一. 2016. 『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』研究社.

中尾俊夫・児馬修. 1990. 『歴史的にさぐる現代の英文法』(共編著) 大修館書店.

寺澤盾. 2008. 『英語の歴史 過去から未来への物語』中公新書.

宇賀治正朋. 2000. 『英語史』開拓社.

The History of English in 10 Minutes, <http://www.open.edu/openlearn/languages/english-language/the-history-english-ten-minutes> (The Open University)

【成績評価の方法と基準】

テキスト担当箇所の発表：10%

口頭発表、平常点 (含グループディスカッション) :30%

レポート:30%

到達度確認テスト:30%

【学生の意見等からの気づき】

「本年度より新規担当につきフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】

授業時も必ず辞書は持参すること。

【その他の重要事項】

教員と受講者、そして受講者どうしのインタラクションが重視されます。相互の働きかけを大事にしてください。積極的な受講姿勢を高く評価します。

英語・言語学特殊講義 B

片見 彰夫

授業コード：A2924

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史的知識を現代英語のより深い理解へと活かせます。授業では、現代英語と比較しながら、近代・現代英語のテキスト（英文学史において最重要文献の一つとされる欽定訳聖書、Jane Austen 作品等の一部抜粋）を読み、その言語変化と多様性に着目し、作品の背景を学びます。文学と語学研究を分けてとらえる考え方がありますが、語用論、文体論とはその仕切りを取り外し相乗効果を発揮することができる研究分野です。また、文体論や語用論は活発に研究されていますが、通時的な観点からみれば研究する余地が多分に残されている魅力的な学問でもあります。

英文科の学生の専門性は、英語圏の文学、文化の知識を前提にしています。英語研究によって分析力と思考力を高め、さらに人間への理解、共感力を深めて載きたいと思っています。技術としての英語運用力を超えた人間を育てる業として、文学部で学ぶ理由がそこにあると思っています。

教員からの一方的な講義にならないように、アクティブラーニングのスタイルも取り入れ、グループ学習や教員と受講生とのやり取りの時間を大切にします。

【到達目標】

- ・様々な英文の文体（スタイル）の差異に注意を向けることができる。
- ・話者の発話意図について、語用論の立場から分析する姿勢をもつことができる。

- ・英文学史上、非常に重要である欽定訳聖書、萌芽期の小説の背景的知識を得ることができる。

- ・グループ学習を通して、クラスメートと英語についての議論ができる。

- ・自ら問いを設けて、その答えを見つける手段を見出すことができる。
- ☆英語を学ぶ楽しさと、専門的知識が深まることによる自信を実感して頂きたいと思っています。

【授業の進め方と方法】

指定テキストの指定箇所を事前に読んでくることが前提となります。講義ではその内容について質問をしますので、解答することが導入となります。その内容について講義を行います。毎時間受講生は問いを与えられます。グループディスカッション、または個別にその答えを考えることになります。そして、欽定訳聖書や、Jane Austen, Henry Fielding といった萌芽期の小説のテキストの読みを行います。題材に選ぶのは、英文散文史上では重要とされる散文作品です。同じ担当者の同科目 A と継続して受講することによって、古英語から現代に至る英語散文の発達について概観することになります。学びで生じた疑問点は貴重なものです。大きな課題に通じるかもしれません。レポート報告を行い、その小さな問いを発展させて、英語学への核心へとつながるように導いていけたらと考えています。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文体を意識したテキストの読み方	文体論について説明
第 2 回	語用論を意識したテキストの読み方	語用論について説明
第 3 回	近代英語の特徴	8.The Modern Period: Vocabulary (1)pp.77-82 Henry Fielding の Tom Jones (1) 抜粋前部
第 4 回	近代英語の語彙	8.The Modern Period: Vocabulary (2)pp.83-87 Henry Fielding の Tom Jones (2) 抜粋中部
第 5 回	近代英語の文法	9.The Structure of Modern English (1)pp.88-96 Henry Fielding の Tom Jones (3) 抜粋後部

第 6 回 近代英語の構造

第 7 回 意味の変化（文法）

第 8 回 意味の変化（語彙）

第 9 回 文体の差異

第 10 回 口語体の広がり

第 11 回 様々な語形成

第 12 回 英語と米語の違い（発音と文法）

第 13 回 英語と米語の違い（語彙）

第 14 回 到達度確認テスト

9.The Structure of Modern English (1)pp.97-104
Jane Austen の Pride and Prejudice (1) 抜粋前部
10.Changes in Meaning (1) pp.105-110
Jane Austen の Pride and Prejudice (2) 抜粋中部
10.Changes in Meaning (1) pp.111-115
Jane Austen の Pride and Prejudice (3) 抜粋後部
11.Levels in Language; the Rise of Informal Language pp.116-121
The Authorized Version, The Gospels (1) 抜粋前部
11.Levels in Language; the Rise of Informal Language pp.122-126
The Authorized Version, The Gospels (2) 抜粋中部
12.Other Processes of Word-Creation
The Authorized Version, The Gospels (3) 後粋後部
13.British and American English: Pronunciation, Forms and Syntax
14.British and American English: Differences in Vocabulary
学習内容の定着を図ることを目的にテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は必ず読んでから講義に臨んでください。毎時、疑問点の確認作業を兼ねた質疑応答から始まりますので、すべての内容を理解する必要はありません。疑問点だけを拾い上げてくることが準備では大切です。

過去の英語を知るうえで、現代英語の確かな知識が土台となります。日々英語を学ぶことを習慣つけましょう。例えば、英語ニュースを毎日視聴する、英語で日記やメモを書く等が考えられます。

【テキスト（教科書）】

授業内で活用するリファレンスとして、以下のテキストを指定します。適宜、文体論、語用論のハンドアウトを配布するので、併用して理解を深めて下さい。なお、辞書は毎回必携です。

Henry Alexander. 1972. The Story of Our Language, 成美堂, ¥2,376

【参考書】

アロット, N. 2014. 『語用論キータム事典』 開拓社.
秋元実治. 2017. 『シャーロックホームズの英語』 開拓社.
ヒッチングズ, H. 2014. 『英語化する世界, 世界化する英語』 みすず書房.
加藤重広・滝浦真人 (編) 『語用論研究法ガイドブック』 ひつじ書房.
金水敏・高田博行・椎名美智 (編) 2014. 『歴史語用論の世界』 ひつじ書房.
ロッジ, D. 1997. 『小説の技巧』 白水社.
高田博行・椎名美智・小野寺典子 (編著) 2011. 『歴史語用論入門』 大修館書店.
寺澤盾. 2013. 『聖書でたどる英語の歴史』 大修館書店.
内田聖二 (編) 2009. 『英語談話表現辞典』 三省堂.
Yule, G. 1996. Pragmatics, Oxford University Press. (英文だが読みやすい入門書)

【成績評価の方法と基準】

テキスト担当箇所の発表：10%
口頭発表、平常点 (含グループディスカッション) :30%
レポート:30%
到達度確認テスト:30%

【学生の意見等からの気づき】
「本年度より新規担当につきフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
授業時も必ず辞書は持参すること。

【その他の重要事項】
教員と受講者、そして受講者どうしのインタラクションが重視されます。相互の働きかけを大事にしてください。積極的な受講姿勢を高く評価します。

比較文化論（１）

小島 尚人

授業コード：A2981

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「アメリカ文学の中の日本／日本文学の中のアメリカ」をテーマとし、日米の諸文化間の影響・交流関係を多面的に学習する。それを通じて、文化の多様性および異文化理解の歴史を理解するとともに、幅広いコンテキストから現在の社会や文化を問い直す視座を獲得することを目的とする。

【到達目標】

・近代日本においてアメリカ文学がどのように受容されてきたかの概要を述べることができる。
・アメリカ文学において日本がどのような位置を占めてきたかの概要を述べることができる。
・日米の文学の相互影響関係を学習することを通じて、文化の多様性および異文化交流の意義と課題についての視野を広げ、柔軟な考えを持つことができる。
・自国の文化を相対化して考える力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

扱う資料・作品（日本語および英語）を事前に配布し、予習してきていることを前提に、講義形式で授業を行う。毎回レスポンス・ペーパーの形で学んだ内容に対する意見や質問を書き、翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。学期前半で学んだ知識（英語表現の理解も含む）を中間試験で定着させ、その学習内容を踏まえて、学期後半で扱われる作品の中から一つを選んで期末レポートを完成させる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、「異文化」とは何か
第 2 回	新世界と旧世界	アメリカ的アイデンティティの形成とヨーロッパの影
第 3 回	『白鯨』の中の日本	捕鯨の文化史、ジョン万次郎とペリー来航
第 4 回	フランクリンと立身出世	「弗蘭克林の十二徳の歌」ほか
第 5 回	アメリカン・ルネサンスと文明開化	エマソン、ロングフェロー、ホイットマン
第 6 回	ビュリタニズムと物質主義	内村鑑三の見たアメリカ
第 7 回	アメリカ文学の受容・翻訳史（１）	エドガー・アラン・ポーの場合
第 8 回	アメリカ文学の受容・翻訳史（２）	マーク・トウェインの場合
第 9 回	これまでのまとめと中間試験	授業内中間試験ののち、異文化交流の体験談を聞くまたは読む
第 10 回	日系アメリカ人の歴史と文学（１）	ハワイ移民から黄禍論、強制収容まで
第 11 回	日系アメリカ人の歴史と文学（２）	代表的作家と作品の紹介
第 12 回	文学から見る戦後日本とアメリカ（１）	敗戦が変えたもの、変わらぬもの
第 13 回	文学から見る戦後日本とアメリカ（２）	戦後知識人とアメリカ留学
第 14 回	文学から見る戦後日本とアメリカ（３）	村上春樹と現代アメリカ文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品を事前に読む（作品の抜粋がプリントで事前に配布される）。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での課題に対応できるようにしておく。
・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

Domínguez, César, Haun Saussy and Darío Villanueva, eds. *Introducing Comparative Literature: New Trends and Applications*. London: Routledge, 2015.

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）

松村昌家（編）『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1995 年）

加藤典洋『アメリカの影』（講談社文芸文庫、2009 年）

D. ダムロッシュ『世界文学とは何か』（秋草俊一郎ほか訳、国書刊行会、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題およびリアクション・ペーパー）：20 %

中間試験：40 %

学期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため該当しませんが、担当している他の講義科目同様、リアクション・ペーパー等を通じて受け取った受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第 2 回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第 3 回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第 4 回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第 5 回	Americalization	Family and national identity
第 6 回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第 7 回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第 8 回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第 9 回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第 10 回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第 11 回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第 12 回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第 13 回	Group Presentations (1)	Group presentations on "Family" and "Ethnicity"
第 14 回	Group Presentations (2)	Group presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions
- 2) Preparing for a group presentation

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.
Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.
King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%

Unannounced quizzes: 20%

Group presentation: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

Comparative Culture(3)

小島 尚人

授業コード：A2989

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the ways the counterculture movement challenged the established norms of American society
2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第 2 回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 3 回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 4 回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 5 回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第 6 回	Race	From Civil Rights to Black Power
第 7 回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第 8 回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第 9 回	Sexuality	The gay liberation
第 10 回	Environmentalism	Rachel Carson, <i>Silent Spring</i>
第 11 回	International	Counterculture in Japan and the UK
第 12 回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第 13 回	Group Presentations (1)	Group presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第 14 回	Group Presentations (2)	Group presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions
- 2) Preparing for a group presentation

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.

Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%

Unannounced quizzes: 20%

Group presentation: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

英米文化概論 A

小島 尚人

授業コード：A2982

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ南部はその歴史を通じて北部とは異なる独自の文化を発展させ、アメリカの国民文化形成に大きな影響を及ぼしてきた。そのため、アメリカの文化を理解するうえで、南部文化と南北対立の歴史を知っておくことは重要なことである。この授業では、映像作品を主な題材として、アメリカ南部の文化とその歴史を学ぶ。また、2015 年度以前入学者が本科目を「演劇講義 A」として履修する事情に鑑み、とくに学期後半ではアメリカ南部を舞台とした演劇を扱う。南部の代表的な劇作家であるリリアン・ヘルマンとテネシー・ウィリアムズの戯曲について、映画版を鑑賞しながら学んでいく。

【到達目標】

- ・アメリカ南部の文化と南北対立の歴史について理解し、語れるようになる。
- ・奴隷制、人種差別、南北戦争といったトピックについて、多面的な理解ができるようになる。
- ・これらのテーマが、アメリカの演劇や映画、文学においてどのように扱われているかについて自覚的になり、今後の作品鑑賞に役立てることができる。

【授業の進め方と方法】

授業は、映像を見ながら、それについて教員がパワーポイントなどで解説を加えていく形式で進む。毎回リアクション・ペーパーの提出あり。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明ののち、アメリカ南部と北部の関係を概説。地理と歴史の勉強。
第 2 回	<i>12 Years A Slave</i> (1)	映画 <i>12 Years A Slave</i> (『それでも夜は明ける』) を三部に分け、その一番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 3 回	<i>12 Years A Slave</i> (2)	映画 <i>12 Years A Slave</i> (『それでも夜は明ける』) を三部に分け、その二番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 4 回	<i>12 Years A Slave</i> (3)	映画 <i>12 Years A Slave</i> (『それでも夜は明ける』) を三部に分け、その三番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 5 回	<i>Gone with the Wind</i> (1)	映画 <i>Gone with the Wind</i> (『風と共に去りぬ』) を三部に分け、その一番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 6 回	<i>Gone with the Wind</i> (2)	映画 <i>Gone with the Wind</i> (『風と共に去りぬ』) を三部に分け、その二番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 7 回	<i>Gone with the Wind</i> (3)	映画 <i>Gone with the Wind</i> (『風と共に去りぬ』) を三部に分け、その三番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 8 回	前半のまとめ	前半部で学んだ事項を、二作品の内容を対比的に振り返りながらまとめる。中間テストの準備。
第 9 回	中間テスト／アメリカ南部の演劇	授業内中間テストののち、アメリカ南部の演劇について概説。
第 10 回	リリアン・ヘルマン (1)	ヘルマンの戯曲 <i>The Little Foxes</i> の同タイトルの映画版 (邦題『偽りの花園』) の前半部を見て、南部と北部というテーマから分析する。
第 11 回	リリアン・ヘルマン (2)	ヘルマンの戯曲 <i>The Little Foxes</i> の同タイトルの映画版 (邦題『偽りの花園』) の後半部を見て、南部と北部というテーマから分析する。
第 12 回	テネシー・ウィリアムズ (1)	ウィリアムズの戯曲 <i>The Glass Menagerie</i> の同タイトルの映画版 (『ガラスの動物園』) を二部に分け、その一番目を見て、旧南部／新南部というテーマから分析する。
第 13 回	テネシー・ウィリアムズ (2)	ウィリアムズの戯曲 <i>The Glass Menagerie</i> の同タイトルの映画版 (『ガラスの動物園』) を二部に分け、その二番目を見て、旧南部／新南部というテーマから分析する。
第 14 回	学期のまとめ	ヘルマン、ウィリアムズにおける南部の主題を振り返って学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う映画の原作を翻訳でいいので積極的に読む。理解が深まるだけでなく、期末レポートの準備にもなる。
・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】

授業中に鑑賞する映画作品の原作の翻訳：
ソロモン・ノーサップ『12 イヤーズ ア スレープ』小池雅美訳、花泉社、2014 年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（岩波文庫版、新潮文庫新訳版、新潮文庫旧訳版、の三種類がある）
リリアン・ヘルマン「子狐たち」（『リリアン・ヘルマン戯曲集』所収）小田島雄志訳、新潮社、1995 年。
テネシー・ウィリアムズ『ガラスの動物園』小田島雄志訳、新潮文庫、1988 年。
その他の参考文献は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点および毎回提出のリアクション・ペーパー： 30 %
中間テスト： 30 %
期末レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーに書かれた内容をまとめたハンドアウトを翌週に配布してフィードバックをおこなったところ、他の受講者がどんなことを考えているのかが分かってとてもよかった、という感想をいただきました。好評だったので、今年度も実施する予定です。講義科目ですが、皆さんの意見や分析、感想、質問へのレスポンスを出来る限り紹介し、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

DVD が再生・視聴できる機器環境。

英米文化概論 B

小島 尚人

授業コード：A2983

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカの国民文化の形成と発展において「西部」（というイメージ）が果たした役割とその問題について学ぶ。2015 年度以前入学者が本科目を「演劇講義 B」として履修する事情に鑑み、「西部」の演劇化／スペクタクル化を主要テーマとし、19 世紀後半のダイム・ノヴェルやワイルド・ウエスト・ショーから 20 世紀の西部劇映画へ、という歴史的系譜を踏まえて、学期を通じてさまざまな映像作品を鑑賞し、分析する。

【到達目標】

・アメリカの西部開拓史について、先住アメリカ人の排除の歴史も含めて、多面的に理解し語れるようになる。
・「西部」や「フロンティア」のイメージがどのようにアメリカの文化の根幹にかかわっているか、理解できるようになる。
・これらのテーマが、アメリカの演劇や映画、文学においてどのように扱われているかについて自覚的になり、今後の作品鑑賞に役立てることができる。

【授業の進め方と方法】

授業は、映像を見ながら、それについて教員がパワーポイントなどで解説を加えていく形式で進む。毎回リアクション・ペーパー（クイズ形式の設問を含む場合もある）の提出あり。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明ののち、「西部」の移動過程、アメリカ西部開拓史について概説。歴史と地理の勉強。
第 2 回	アメリカ文化と「フロンティア」神話	ターナーの学説を紹介し、「西部」をアメリカの国民性の源泉とみなすフロンティア観の構築過程を概観する。映画『ボカホンタス』を一部観る。
第 3 回	<i>The Last of the Mohicans</i> （1）	1992 年版の映画『ラスト・オブ・モヒカン』の前半部を見ながら、フロンティアものの源流とも言える同作品（原作 1826 年）の特徴、政治的力学などを学ぶ。
第 4 回	<i>The Last of the Mohicans</i> （2）	1992 年版の映画『ラスト・オブ・モヒカン』の後半部を見ながら、フロンティアものの源流とも言える同作品（原作 1826 年）の特徴、政治的力学などを学ぶ。
第 5 回	「西部」のスペクタクル化	ダイム・ノヴェルについて。パッファロー・ビルの生涯とワイルド・ウエスト・ショーについて。
第 6 回	<i>Annie Get Your Gun</i> （1）	ブロードウェイ・ミュージカル『アニーよ銃を取れ』の映画版（1950 年）の前半部を見ながら、歴史的背景や「西部」の表象を分析するとともに、「ミュージカル西部劇」というジャンルについても考える。
第 7 回	<i>Annie Get Your Gun</i> （2）	ブロードウェイ・ミュージカル『アニーよ銃を取れ』の映画版（1950 年）の後半部を見ながら、歴史的背景や「西部」の表象を分析するとともに、「ミュージカル西部劇」というジャンルについても考える。
第 8 回	前半のまとめ	前半部で学んだ事項や鑑賞した作品を振り返りながら、ターナーのフロンティア論を再び検証する。中間テストの準備。
第 9 回	中間テスト／「西部劇映画」というジャンル	授業内中間テストののち、西部についての見世物／演劇の後継者としての「西部劇映画」の勃興についての概説。『大列車強盗』鑑賞。
第 10 回	<i>Stagecoach</i> （1）	ジョン・フォード『駅馬車』（1939 年）の前半部を見ながら、古典的西部劇について学ぶ。南北／東西の描かれ方など。
第 11 回	<i>Stagecoach</i> （2）	ジョン・フォード『駅馬車』（1939 年）の後半部を見ながら、古典的西部劇について学ぶ。南北／東西の描かれ方など。
第 12 回	<i>Soldier Blue</i> （1）	ラルフ・ネルソン『ソルジャー・ブルー』（1970 年）の前半部を見ながら、ニューシネマ西部劇について学ぶ。
第 13 回	<i>Soldier Blue</i> （2）	ラルフ・ネルソン『ソルジャー・ブルー』（1970 年）の後半部を見ながら、ニューシネマ西部劇について学ぶ。

第 14 回 西部劇の比較考察と学期 これまでの学習内容を踏まえて『駅馬車』と『ソルジャー・ブルー』の二作品を比較考察し、西部劇を分析するための方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介された参考書を読んだり、映画を観たりする。学んだ内容の理解が深まるだけでなく、期末レポートの準備にもなる。
・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。

【テキスト（教科書）】
なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】
猿谷要『西部開拓史』岩波新書、1982 年。
亀井俊介『サーカスが来た！ アメリカ大衆文化覚書』平凡社ライブラリー、2013 年。
阿部珠理（編著）『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
山口ヨシ子『ダイムノヴェルのアメリカ 大衆小説の文化史』彩流社、2013 年。
川本徹『荒野のオデュッセイア 西部劇映画論』みすず書房、2014 年。
ほか、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点および毎回提出のリアクション・ペーパー：30 %
中間テスト：30 %
期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパーに書かれた内容をまとめたハンドアウトを翌週に配布してフィードバックをおこなったところ、他の受講者がどんなことを考えているのかが分かってとてもよかった、という感想をいただきました。好評だったので、今年度も実施する予定です。講義科目ですが、皆さんの意見や分析、感想、質問へのレスポンスを出来る限り紹介し、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
DVD を再生・視聴できる機器環境。

比較文学 A

山下 敦

授業コード：A2824
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる諸文化間の相互の影響・交流関係を、文字作品・視覚作品等の具体的な表現において分析、読解し、その背景にある文化形成の全体像を作品表現の内に把握する能力を身につけることを目的とする。また、作品自体に向き合うことによって、人間の精神的所産としての文学・芸術作品を感受し、思考する能力を養う。

現代の文化が生まれる源流にあたる時期に、ヨーロッパでどのような文学・芸術が新しく生成してきたかを知り、またそれが当時の日本とどう関わりを持っていたかを確かめながら、身近な都市文化の始まりを知る。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパでは芸術の観念が大きく転回する。世紀末芸術が花開き、また印象主義を始まりとして色彩の自立が促され、のちの抽象表現につながる。そうした新しい表現の背景には、日本の芸術と文化の大きな影響があった。そのさまを、主に明治期前後の日本と 19 世紀末のヨーロッパ諸都市を対象として相互の文化的関連のあり方に見出していく。

【到達目標】
20 世紀初頭のヨーロッパにおける社会環境や生活感情の転換が、芸術表現にどのような変化をもたらしたかを大局的に把握する。その上で、個々の作品表現において、時代と芸術観念の転換の特徴を具体的に指摘できるようにする。講義では、19 / 20 世紀転換期以降のヨーロッパの新しい芸術表現のあり方を理解し、その背景にどのような考え方の転換や表現上の実験があり、現代の大衆文化に展開してきたかを確認しながら、現代都市文化の源を学び取ることを目標とする。同時に、その当時のヨーロッパと日本の間にあった密接な結びつきを理解することを試みる。

【授業の進め方と方法】
春学期には、主にハプスブルク帝国の帝都ウィーンを一例として 19 世紀末芸術と二次元表現の装飾性を主要なテーマとする。そしてアール・ヌーヴォーを経て現代都市の大衆文化につながる 20 世紀文化との連続性が理解できるようにしたい。講義では、まずそれぞれに新しい試みを孕んでいた絵画その他の芸術作品を詳細に見る。受講生には、代表的な作品について細部の観察と自身の感受性についてのコメントの提出が求められる。その上で、受講生のコメントに基づいて、その時代に描かれた作品をよく見ながら、背景にどのような考え方の転換や芸術上の実験があり、それ以前と比べてどう変容したのかを考えていきたい。そして、新しい都市文化の成立を芸術の諸分野で問題にする。

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の概略と紹介
第 2 回	クリムトの『接吻』	ウィーン分離派とクリムトのポスター
第 3 回	ビアズレーとジャポニスムⅠ	戯曲『サロメ』とビアズレーの挿絵表現
第 4 回	ビアズレーとジャポニスムⅡ	グラフィックな表現とジャポニスムの意味
第 5 回	ガレの自然観念と日本の芸術	ガレのガラス器と浮世絵『北斎漫画』
第 6 回	日本工芸とジャポニスム	加賀の金箔とシーボルトの日本植物園
第 7 回	モダン・ポスターの誕生	パリの芸術家の二次元表現
第 8 回	ミュシャとアール・ヌーヴォー	二次元表現のヨーロッパの展開
第 9 回	明治の日本と万国博覧会	パリ万国博と夏目漱石の見聞録
第 10 回	ウィーン万博と日本庭園	オーストリア皇太子の『日本日記』
第 11 回	象徴主義の芸術	ラファエル前派と漱石『虞美人草』
第 12 回	ウィーン分離派とモダニズム	世紀末ウィーン建築の機能性と装飾性
第 13 回	クリムトの芸術スキャンダル	新しい芸術表現と社会的モラルの軋轢
第 14 回	ウィーンのジャポニスム	クリムト芸術と「金」の工芸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容をよく確認し、各種資料に当たり各自でさらに理解を深めておく。また、講義中に扱われた作品を図書館等で再度確認し、その作家の全体像を各自で把握しておく。

【テキスト（教科書）】
講義の内容に沿って随時プリントを配布する。

【参考書】
授業内容に即して随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義時における平常点 (ca.20%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (ca.80%) によって行う。講義時に作品に対する感受性と内容の理解度を高めるとともに、学期末にはその文化的連関の総合的な把握が求められる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
講義の全体を理解するために、比較文学 AB を通年で履修することを推奨します。

比較文学 B

山下 敦

授業コード：A2825

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる諸文化間の相互の影響・交流関係を、文字・視覚作品等の具体的な表現において分析、読解し、その背景にある文化形成の全体像を作品表現の内に把握する能力を身につけることを目的とする。また、作品自体に向き合うことによって、人間の精神的所産としての文学・芸術作品を感受し、思考する能力を養う。

現代の文化が生まれる源流にあたる時期に、ヨーロッパでどのような芸術・文学が新しく生成してきたかを知り、またそれが当時の日本とどう関わりを持っていたかを確かめながら、身近な都市文化の始まりを知る。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパでは芸術の観念が大きく転回する。世紀末芸術が花開き、また印象主義を始まりとして色彩の自立が促され、のちの抽象表現につながる。そうした新しい表現の背景には、日本の芸術と文化の大きな影響があった。そのさまを、主に明治期前後の日本と 19 世紀末のヨーロッパ諸都市を対象として相互の文化的関連のあり方に見出していく。

【到達目標】

20 世紀初頭のヨーロッパにおける社会環境や生活感情の転換が、芸術表現にどのような変化をもたらしたかを大局的に把握する。その上で、個々の作品表現において、時代と芸術観念の転換の特徴を具体的に指摘できるようにする。講義では、19 / 20 世紀転換期以降のヨーロッパの新しい芸術表現のあり方を理解し、その背景にどのような考え方の転換や表現上の実験があり、現代の大衆文化に展開してきたかを確認しながら、現代都市文化の源を学び取ることが目標とする。同時に、その当時のヨーロッパと日本の間にあった密接なつながりを理解することを試みる。

【授業の進め方と方法】

秋学期にはワイマール共和国下の芸術都市ミュンヘンを起点に、ヨーロッパにおける抽象表現の誕生と 20 世紀の開始を主要なテーマとする。また、ドイツの芸術家たちが日本の伝統文化に見出した新しさの意味を把握する。そして、アール・デコを経て現代都市の大衆文化につながる 20 世紀の文化との連続性が理解できるようにしたい。

講義では、まずそれぞれに新しい試みを孕んでいた絵画その他の芸術作品を詳細に見る。受講生には、代表的な作品について細部の観察と自身の感受性についてのコメントの提出が求められる。その上で、受講生のコメントに基づいて、その時代に描かれた作品をよく見ながら、背景にどのような考え方の転換や芸術上の実験があり、それ以前と比べてどう変容したのかを、文字資料の検討を含めて考える。そして、芸術表現の大衆化について、受講生の総合的な理解を深めていきたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の概略～装飾から抽象へ
第 2 回	抽象表現の誕生	カンディンスキーと青い騎士
第 3 回	クレーと線の思考	クレー『創造的告白』と東洋的思考
第 4 回	抽象表現と都市空間	モンドリアンの新造形主義
第 5 回	印象主義のおさらい	ジャボニスムの先駆
第 6 回	タウトのユートピア建築	アルプス建築とジードルンク構想
第 7 回	タウトの日本美発見	タウトの著作『日本文化私観』
第 8 回	桂離宮と究極の現代	月見のための書院建築
第 9 回	バウハウスの実験	日常生活のデザイン
第 10 回	バウハウスと日本人	グロピウスと山脇道子
第 11 回	イタリア未来派とスピードの美	マリネッティの『未来派宣言』
第 12 回	アール・デコ・グラフィック	現代都市文化の表現
第 13 回	都市表現の同時代性	パリの日本人：里見宗次
第 14 回	モボ・モガと都市風景	大正期のポスターと杉浦非水

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容をよく確認し、講義プリントを含めて各種資料に当たり、各自でさらに理解を深めておく。また、講義中に扱われた作品を図書館等で再度確認し、その作家の全体像を各自で把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

講義の内容に沿って随時プリントを配布する。

【参考書】

授業内容に即して随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義時における平常点 (ca.20%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (ca.80%) によって行う。講義時に作品に対する感受性と内容の理解度を高めるとともに、学期末にはその文化的連関の総合的な把握が求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

講義の全体を理解するために、比較文学 A B を通年で履修することを推奨します。

英語表現演習 (Writing)(1) A

吉川 純子

授業コード：A2826

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、英文パラグラフの構成や種類を学び、パラグラフが書けるようにした上で、それをもとに英文エッセイを書いてみます。論理的な文章の書き方、読み方がわかるようになり、論理的思考力を向上させることを目指します。

【到達目標】

アカデミックな英文エッセイの基本単位であるパラグラフの構造がわかる。論理的な英文パラグラフが書ける。短い英文エッセイが書ける。

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って演習を行います。英文パラグラフやエッセイを課題として提出し、添削指導を受けます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフとは何か？
第 2 回	英文パラグラフの構造	3 つの構成要素
第 3 回	統一性とは何か？	脱線のないパラグラフ
第 4 回	首尾一貫性とは何か？	論理的なパラグラフ
第 5 回	語りのパラグラフ	物語のパラグラフ
第 6 回	定義のパラグラフ	XX とは何か？
第 7 回	プロセスのパラグラフ	マニュアル、レシピなど
第 8 回	原因のパラグラフ	何かが起こった原因を分析する
第 9 回	結果のパラグラフ	何かの影響を分析する
第 10 回	比較のパラグラフ	2 つのものの類似点を述べる
第 11 回	対照のパラグラフ	2 つのものの相違点を述べる
第 12 回	パラグラフからエッセイへ	パラグラフをつなげてエッセイに
第 13 回	意見のエッセイ	何かを主張する
第 14 回	まとめ	今期学んだことを生かして英文パラグラフを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習、課題の提出。

【テキスト（教科書）】

津田塾大学英文科編『パラグラフから始める英文ライティング入門』改訂版 研究社、2001。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。英和・和英大辞典および勝俣銓吉郎編『新編英和活用大辞典』（研究社）の利用を勧める。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（出席、予習など）30%、提出課題 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

英語表現演習 (Writing)(1) B

吉川 純子

授業コード：A2827

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文エッセイのプランニング、構成などを学び、問題演習を重ねることで、論理的でわかりやすい英文エッセイを書く力をつけます。

【到達目標】

アカデミックな英文エッセイの種類と構成がわかる。自分の考えを英文でわかりやすく表現できる。

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、問題演習を行い、課題の提出をし、添削を受けてさらに良いエッセイにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アカデミック・エッセイとは何か？
第 2 回	よいトピックとは何か？	トピックの選び方
第 3 回	アイデアの作り方	クラスター法を学ぶ
第 4 回	Thesis Statement とは何か？	論文の核となる主張
第 5 回	アカデミック・エッセイの構成	パラグラフとエッセイは相似形の構成
第 6 回	アウトラインとは何か？	アカデミック・エッセイの設計図
第 7 回	リサーチのしかた	データベースの使い方など
第 8 回	文献の明示のしかた	剽窃をしないために
第 9 回	アカデミック・エッセイの 3 要素 (1) Introduction	単なる前置きではない
第 10 回	アカデミック・エッセイの 3 要素 (2) Body	論証のしかた
第 11 回	アカデミック・エッセイの 3 要素 (3) Conclusion	答を出す
第 12 回	見直し、書き直しのポイント	内容面と形式面
第 13 回	形式を整える	フォーマットのことなど
第 14 回	まとめ	短い英文エッセイを書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題の提出

【テキスト（教科書）】

Kate Elwood & Leonid Yoffe. *From Paragraph to Essay* 南雲堂 (2012)

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。
英和・和英大辞典および勝俣銓吉郎編『新編英和活用大辞典』（研究社）の利用を勧める。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（出席、予習など）30%、提出課題 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を勧めます。

英語表現演習 (Writing)(2) A

安藤 和弘

授業コード：A2828

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ入門講座。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものであるが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの講座では段階的に学び、学期末までに各自のモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりと構成を持たせて書くための、知識と技術を習得すること。

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。

【授業計画】

春学期	回	テーマ	内容
第 1 回	1	イントロダクション	講座の説明
第 2 回	2	演習第 1 回	Topics; Research
第 3 回	3	演習第 2 回	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	4	演習第 3 回	The Working Outline
第 5 回	5	演習第 4 回	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	6	演習第 5 回	Writing the First Draft
第 7 回	7	演習第 6 回	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	8	演習第 7 回	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	9	演習第 8 回	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	10	演習第 9 回	Evaluating and Rewriting
第 11 回	11	演習第 10 回	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	12	演習第 11 回	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	13	演習第 12 回	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	14	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとめておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次の授業に向けて書き直しを行うこと。

【テキスト（教科書）】

David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers - Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

教員が配布するプリント。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のため、データなし。

【その他の重要事項】

初回は受講にあたり知っておくべきことが詳細に説明される大事な回なので、必ず出席すること。オフィスアワーは木曜日の昼休みの時間帯とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。

英語表現演習 (Writing)(2)B

安藤 和弘

授業コード：A2829

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ入門講座。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとすると、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの講座では段階的に学び、学期末までに各自のモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くための、知識と技術を習得すること。

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレベルで学習をする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講座の説明
第 2 回	演習第 1 回	Topics; Research
第 3 回	演習第 2 回	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	演習第 3 回	The Working Outline
第 5 回	演習第 4 回	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	演習第 5 回	Writing the First Draft
第 7 回	演習第 6 回	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	演習第 7 回	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	演習第 8 回	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	演習第 9 回	Evaluating and Rewriting
第 11 回	演習第 10 回	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	演習第 11 回	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	演習第 12 回	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとっておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。

【テキスト（教科書）】

David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers - Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

教員が配布するプリント。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のため、データなし。

【その他の重要事項】

初回は受講にあたり知っておくべきことが詳細に説明される大事な回なので、必ず出席すること。オフィスアワーは木曜日の昼休みの時間帯とするが、事前にアポイントメントを取っておく必要がある。

英語表現演習 (Writing)(3) A

ティモシー・ライト

授業コード：A2830

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intensive English Writing

【到達目標】

The target of this course will be to greatly improve students writing ability in L2 English. It will be very important in the coming years for Japanese students to have a strong command of the four major skills of the English language. In order to survive the world of business and society, young people will need more and more to express themselves in the L2 of English. We will work hard to reaching this goal.

【授業の進め方と方法】

This will be an intensive L2 English writing class open to all students hoping to improve their overall level and ability in written English. The course will cover two-15 week sessions work on all skill levels in EFL writing. During the course, students will work on a variety of skill improvement exercises and have weekly writing homework and essays. In addition, students will work on many different exercises to reach this overall goal.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening class with a detailed introduction and explanation of the overall course syllabus.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Penmanship: Learning How Well You Write.	Explanation on penmanship and how to develop your writing skills better. Drills included in second half of class.
第 3 回	Script Drills. Writing exercises I. Development of logical writing.	Penmanship and writing exercises. Chapter 1 of textbook.
第 4 回	Script Drills. Writing exercises I. Logical writing exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 2 of textbook. Logical writing exercises.
第 5 回	Script Drills. Writing exercises I. Communicative writing material will be added.	Penmanship and writing exercises. Chapter 3 of textbook. Logical writing exercises.
第 6 回	Test #1.	Test of material covered in the first five weeks. This test will take the entire class.
第 7 回	Script Drills. Writing exercises II. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 4 of textbook.
第 8 回	Script Drills. Writing exercises II. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 5 of textbook.
第 9 回	Test #2. Writing exercises III. Logical writing exercises. Communicative writing material.	Second test of material covered in classes 7, 8 & 9. *Review of past two months.
第 10 回	Script Drills. Writing exercises III. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 6 of textbook.
第 11 回	Script Drills. Writing exercises III. Logical writing exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 7 of textbook.
第 12 回	Script Drills. Writing exercises IV. Logical writing exercises. Communicative writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 8 of textbook.
第 13 回	Test #3. Overview of past twelve weeks.	Third and final test of first semester. Review of material covered up to this point.
第 14 回	Final Examination.	Examination of all material covered during semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be give weekly writing homework as well as essay writing. In addition, students will be encouraged to challenge creative writing and essay contests.

【テキスト（教科書）】

NEW EASY WRITING by Paul McLean
Publisher: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN: 978-4-7773-6251-6

【参考書】

Kunihiro Masao Methodology.
Georgetown University School of Languages & Linguistics.
University of Michigan ESL Program.
The late Professor Matsumoto Toru.
Meiji Gakuin University and NHK English lecturer

【成績評価の方法と基準】

All students will be evaluated on classroom effort, weekly homework assignments, tests, attitude and the final examination.

*Perfect attendance is necessary to receive a high grade. Chronic absences or lates will not be tolerated.

【学生の意見等からの気づき】

I revised some of my syllabus from student feedback. * If a student tries his or her best in the class and has perfect attendance, I will take this into strong consideration during final grading. Please be careful on your attendance.

【その他の重要事項】

Please have a good attitude and try your best to become good English writers!

英語表現演習 (Writing)(3)B

ティモシー・ライト

授業コード：A2831

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intensive English Writing

【到達目標】

The target of the second semester is to retain and improve upon what you learned from the first semester in English writing.

【授業の進め方と方法】

This will be the next semester of 15 intensive weeks of training in L2 English writing. We will continue with the textbook and other exercises hoping to improve skill levels for all of the students enrolled. Students should be a stronger effort to reach even higher levels than the first semester.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and introduction/explanation of the upcoming second semester.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during first semester.	Review of all material covered during the first semester. Tips on how to train in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. Creative essay drills.	Chapter review of all material covered. Chapter 9 and 10 of textbook. Chapter 11 of textbook.
第 4 回	Writing exercises I. Creative essay drills.	
第 5 回	Writing exercises I. Creative essay drills.	Chapter 12 of textbook.
第 6 回	Test #1 of material covered up to week 5.	First test of material covered during the first 5 weeks of class.
第 7 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development.	Chapter 13 of textbook.
第 8 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development.	Chapter 14 of textbook.
第 9 回	Writing exercises II. Creative essay drills. Logical writing skill development.	Chapter 15 of textbook.
第 10 回	Test #2 of material covered up to week 9.	Second test of material covered up through week 9.
第 11 回	Writing exercises III. Overview and review of selected material covered in the past 27 weeks.	Chapter 16 of textbook.
第 12 回	Writing exercises III. Overview of material covered in the past 28 weeks.	Chapter 17 of textbook.
第 13 回	Writing exercises III. Prep for the upcoming final exam.	Chapter 18 of textbook.
第 14 回	Final Examination.	Examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly writing assignments that will be due the following Monday. In addition, students will be encouraged to write some creative essays on a variety of subjects throughout the second semester. Extra work and individual classroom guidance will be offered to any student wishing.

【テキスト（教科書）】

NEW ENGLISH WRITING by Paul McLean
Publisher: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN: 978-4-7773-6351-6

【参考書】

Kunihiro Masao Methodology.
Georgetown University School of Languages and Linguistics.
University of Michigan ESL Program.
Former Professor John Staczek, Georgetown University School of Language and Linguistics.

【成績評価の方法と基準】

All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, weekly assignments/homework, tests and the final examination. 50% Classwork, and Participation, 30% Homework, 20% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】

I will take into strong consideration student comments on the semester surveys. As a result of last year's surveys, I have made a number of changes in my course. If a student tries his or her best despite limitations in ability, I will take this into strong consideration during final grading. However, perfect or near-perfect attendance is necessary. Chronic absences will hurt your overall grade.

【その他の重要事項】

Try your best to improve yourselves to be good writers and "internationally minded" young people. Work hard and become international!

英語表現演習 (Writing)(4)A

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2832

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語コミュニケーションを行うための英語運用能力を身に付けることに焦点を当てる。学生は、様々なトピックを英語で聞いたり、読んだり、話し合ったり、書いたりすることを通して、高度な英語ライティングができるようになることを目指す。

【到達目標】

この授業での到達目標は次の 3 点である。

1. 主題文、段落、またはエッセーの特徴を英語で説明できる。
2. トピックのアイデアを英語で箇条書きにする。
3. 主題文、パラグラフ、エッセーを英語で書く。

【授業の進め方と方法】

授業は英語による演習形式で行う。毎回配布される新聞記事やワークシート課題に取り組み、様々な話題についての記事を読み、ディスカッションとライティングを行う。ペアまたはグループで、インタラクションを行いながら、自分の意見をペーパーにまとめる。また、あるトピックについて情報を収集し、まとめた内容のライティングを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	英語能力を伸ばすには？
第 2 回	ライティングの基本（1）	説得力のあるライティングとは？
第 3 回	ライティングの基本（2）	データの説明の方法
第 4 回	教育とテクノロジー	教育とテクノロジーに関する記事を読み、ライティング
第 5 回	教育のデジタル化	配布記事を読み、各自の意見をまとめる
第 6 回	テレビと教育	テレビの影響について読み、意見をペーパーにまとめる
第 7 回	健康的な生活（1）	健康に関する記事を読み、要点をまとめる
第 8 回	健康的な生活（2）	各自の健康方法についてまとめてライティング
第 9 回	睡眠と教育	睡眠と教育の関係について読み、概要のライティング
第 10 回	手書きとタイピング	手書きとタイピングの違いについて読み、概要のライティング
第 11 回	読書について（1）	お薦めの本について紹介する
第 12 回	読書について（2）	ペーパーとデジタル化についての意見を書く
第 13 回	文化の多様性	テーマについての情報を収集し、ライティングの準備
第 14 回	文化の多様性についての発表及びテスト	収集した情報・データを発表及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で配布された資料を読み、自分の意見をまとめて発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%、テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉 亜希子

授業コード：A2834

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English paragraph and essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフとエッセイ構成を学ぶ。

注）英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model paragraph and essay, you will

- be able to recognize and identify key structures
- learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- get used to editing and improving your writing
- apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph と Short Essay の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【授業の進め方と方法】

Acquiring the idea of what an English paragraph and them essay should be like, you will improve their skills to write your own work. In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise and edit and submit the final draft.

- Preparation for each class will be a must
- Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected
- Late submission of the assessed work will NOT be accepted

予習していることを前提に、英語で書かれている教科書を使い基本的に英語で授業をすすめる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing ＊必要に応じて選抜
第 2 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Understanding process writing; understanding paragraphs (topics and topic sentences)
第 3 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Reviewing topics and topic sentences; Understanding paragraphs (the topic sentence)
第 4 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Understanding paragraphs (supporting sentences, unity and coherence)
第 5 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Choosing a topic and outlining
第 6 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Writing a paragraph; Learning paragraph format
第 7 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Editing
第 8 回	Paragraph to Short Essay (Unit 1)	Understanding Short Essays
第 9 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Understanding descriptive writings
第 10 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Brainstorming and outlining
第 11 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Developing your ideas by adding specific details
第 12 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Drafting
第 13 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Editing
第 14 回	Descriptive Essays (Unit 2)	Peer editing; submitting your essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模範となるパラグラフやエッセイを授業中に全て訳していく時間はないため、授業外での予習を必ずしておく。その際、内容理解だけにとどまらず、その構成スタイルを把握し、自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Alice Savage and Patricia Mayer, "Effective Academic Writing 2 - The Short Essay" (Oxford UP, 2nd Edition, 2012), ¥3,360+税

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

ユニットごとに提出するレポート (Assessed Paragraph/Essay) と授業中に書く作文による評価 (70%) と授業中の参加意欲と努力による評価 (30%)。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各パラグラフの構成が logic に沿ったものかで評価する。授業中に行うグループ作業での姿勢・学びなども総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

Assessed work は全て添削します。受講生からは「提出物が添削されるののために」とのコメントがあります。特に、今後学術世界や社会に出て必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感できるようです。Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことを持てるかどうか、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

基本的に書く作業は一人でするものですが、構成理解の段階や、書いたものを仲間と読みあい評価するペアまたはグループ・ワークで、活発に意見を出し合うことでお互いを高めて行けるグループもあります。刺激が多くレベルの高いクラスになると、静かに自分の作業の身に徹するクラスと、学年によって違いが出ています。つまり、授業の雰囲気は皆さん次第で決まります！

【学生が準備すべき機器他】

授業内でパソコンは使用しませんが、提出物はワードで指示されたフォーマットに沿って作成し、添付の形で授業支援システムを通してしてもらいます。

英語表現演習 (Writing)(5)B

杉 亜希子

授業コード：A2835

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

春学期に学んだエッセイの構成を再確認し、他のテーマでエッセイを書く。

注）英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model essay, you will

- ・ be able to recognize and identify key structures
- ・ learn how to gather ideas and organize them into groups (=outlining)
- ・ get used to editing and improving your writing
- ・ apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出る時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容の不足箇所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【授業の進め方と方法】

In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise and edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

This semester, you will be writing three essays which will be assessed.

予習していることを前提に英語で書かれている教科書を使い基本的に英語で授業をすすめる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Review	General briefing; reviewing essay structures
第 2 回	Comparison-Contrast Essays (Unit 4)	Understanding comparison-contrast essay; identifying the structure of an essay
第 3 回	Comparison-Contrast Essays (Unit 4)	Understanding a model essay and its structure; choosing a topic
第 4 回	Comparison-Contrast Essays (Unit 4)	Outlining
第 5 回	Comparison-Contrast Essays (Unit 4)	Drafting
第 6 回	Comparison-Contrast Essays (Unit 4)	Unit review and editing; submitting your essay
第 7 回	Opinion Essays (Unit 5)	Understanding opinion essay; identifying the structure of an essay
第 8 回	Opinion Essays (Unit 5)	Understanding a model essay; choosing a topic
第 9 回	Opinion Essays (Unit 5)	Outlining; drafting
第 10 回	Opinion Essays (Unit 5)	unit review and editing; submitting your essay
第 11 回	Cause and Effect Essays (Unit 6)	Understanding cause and effect essay; identifying the structure of an essay
第 12 回	Cause and Effect Essays (Unit 6)	Understanding a model essay; choosing a topic
第 13 回	Cause and Effect Essays (Unit 6)	Outlining; drafting
第 14 回	Cause and Effect Essays (Unit 6)	Editing; submitting your essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模範となるエッセイを授業中に全て訳していく時間はないため、授業外での予習を必ずしておく。その際、内容理解だけにとどまらず、その構成スタイルを把握し、自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Alice Savage and Patricia Mayer, "Effective Academic Writing 2 - The Short Essay" (Oxford UP, 2nd Edition, 2012), ¥3,360+税

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を強く勧める。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

ユニットごとに提出する Assessed Essay と授業中に書く作文による評価 (70%) と授業中の参加意欲と努力による評価 (30%)。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、内容的に説得力があるか、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして Essay として適切な構成ができているかを評価する。授業中に行うペアやグループワークでの姿勢・学びなども総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、Assessed work は全て添削します。受講生は、今後学術世界や社会で必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感しています。その構成の仕方は英語だけでなく、日本語で物事を考えまとめる時にも参考になります。自分の主張したいことをしっかり見極め、表現し、言いたいことを如何に読者に伝えるか、ここが評価の軸となります。書いたものを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業で、活発に意見を出し指摘しあえるグループはお互いを高めていくことが出来ています。積極的に授業やグループ作業に参加することで、人に刺激を与え、人から学べる受講生が最終的にかなり伸びているのが実態です。是非そうした学びの姿勢を身につけていってください。

【学生が準備すべき機器他】

前期同様、授業内でのパソコンの使用はありません。提出物はワードで作成、授業支援システムを通して、添付の形で提出してもらいます。

英語表現演習 (Writing)(6)A

吉川 純子

授業コード：A2836

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、英文パラグラフの構成や種類を学び、パラグラフが書けるようにした上で、それをもとに英文エッセイを書いてみます。論理的な文章の書き方、読み方がわかるようになり、論理的思考力を向上させることを目指します。

【到達目標】

アカデミックな英文エッセイの基本単位であるパラグラフの構造がわかる。論理的な英文パラグラフが書ける。短い英文エッセイが書ける。

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って演習を行います。英文パラグラフやエッセイを課題として提出し、添削指導を受けます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフとは何か？
第 2 回	英文パラグラフの構造	3つの構成要素
第 3 回	統一性とは何か？	脱線のないパラグラフ
第 4 回	首尾一貫性とは何か？	論理的なパラグラフ
第 5 回	語りのパラグラフ	物語のパラグラフ
第 6 回	定義のパラグラフ	XXとは何か？
第 7 回	プロセスのパラグラフ	マニュアル、レシピなど
第 8 回	原因のパラグラフ	何かが起こった原因を分析する
第 9 回	結果のパラグラフ	何かの影響を分析する
第 10 回	比較のパラグラフ	2つのものの類似点を述べる
第 11 回	対照のパラグラフ	2つのものの相違点を述べる
第 12 回	パラグラフからエッセイへ	パラグラフをつなげてエッセイに
第 13 回	意見のエッセイ	何かを主張する
第 14 回	まとめ	今期学んだことを生かして英文パラグラフを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習、課題の提出。

【テキスト（教科書）】

津田塾大学英文科編『パラグラフから始める英文ライティング入門』改訂版 研究社、2001。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。
英和・和英大辞典および勝俣銓吉郎編『新編英和活用大辞典』（研究社）の利用を勧める。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（出席、予習など）30%、提出課題 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

英語表現演習 (Writing)(6)B

吉川 純子

授業コード：A2837

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文エッセイのプランニング、構成などを学び、問題演習を重ねることで、論理的でわかりやすい英文エッセイを書く力をつけます。

【到達目標】

アカデミックな英文エッセイの種類と構成がわかる。自分の考えを英文でわかりやすく表現できる。

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、問題演習を行い、課題の提出をし、添削を受けてさらに良いエッセイにする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アカデミック・エッセイとは何か？
第 2 回	よいトピックとは何か？	トピックの選び方
第 3 回	アイデアの作り方	クラスター法を学ぶ
第 4 回	Thesis Statement とは何か？	論文の核となる主張
第 5 回	アカデミック・エッセイの構成	パラグラフとエッセイは相似形の構成
第 6 回	アウトラインとは何か？	アカデミック・エッセイの設計図
第 7 回	リサーチのしかた	データベースの使い方など
第 8 回	文献の明示のしかた	剽窃をしないために
第 9 回	アカデミック・エッセイの 3 要素（1） Introduction	単なる前置きではない
第 10 回	アカデミック・エッセイの 3 要素（2） Body	論証のしかた
第 11 回	アカデミック・エッセイの 3 要素（3） Conclusion	答を出す
第 12 回	見直し、書き直しのポイント	内容面と形式面
第 13 回	形式を整える	フォーマットのことなど
第 14 回	まとめ	短い英文エッセイを書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題の提出

【テキスト（教科書）】

Kate Elwood & Leonid Yoffe. *From Paragraph to Essay* 南雲堂 (2012)

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』 桐原書店 1,500 円（税別）を薦める。
英和・和英大辞典および勝俣銓吉郎編『新編英和活用大辞典』（研究社）の利用を勧める。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（出席、予習など） 30%、提出課題 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を勧めます。

英語表現演習 (Writing)(7) A

ティモシー・ライト

授業コード：A2838

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intensive English Writing

【到達目標】

The target of this course will be to greatly improve students writing ability in L2 English. It is going to be vitally important for Hosei students to strongly improve their English writing skills in order to successfully function in the future as business persons and members of society. I hope that this course will help guide you to a better and brighter tomorrow.

【授業の進め方と方法】

This will be an intensive L2 English writing class open to all students hoping to improve their overall level and ability in written English. The course will cover two-15 week sessions work on all skill levels in EFL writing. During the course, students will work on a variety of skill improvement exercises and have weekly writing homework and essays.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening class with introduction and a detailed explanation of the course syllabus.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Penmanship; Learning How Well You Write.	Explanation on penmanship and how to develop your writing skills better. Drills included in second half of class.
第 3 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I.	Penmanship and writing exercises. Chapter 1 of textbook.
第 4 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I.	Penmanship and writing exercises. Chapter 2 of textbook.
第 5 回	Script Drills. Logical writing exercises. Everyday writing material. Writing exercises I.	Penmanship and writing exercises. Chapter 3 of textbook.
第 6 回	Test #1. Writing exercises II. Logical writing exercises. Everyday writing material.	First test of material covered up to this point. Writing exercises if time permits.
第 7 回	Script Drills. Writing exercises II. Logical writing exercises. Everyday writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 4 of textbook.
第 8 回	Script Drills. Writing exercises II. Logical writing exercises. Everyday writing material.	Penmanship and writing exercises. Chapter 5 of textbook.
第 9 回	Script Drills. Writing exercises II. Logical writing exercises. Introduction to Strunk & White.	Penmanship and writing exercises. Chapter 6 of textbook.
第 10 回	Test #2. Review of past 9 weeks of material.	Second test of all material covered up to this point. Review of past 9 weeks.
第 11 回	Script Drills. Writing exercises III. Strunk & White exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 7 of textbook.
第 12 回	Script Drills. Writing exercises III.	Penmanship and writing exercises. Chapter 8 of textbook.
第 13 回	Script Drills. Writing exercises III. Strunk & White exercises.	Penmanship and writing exercises. Chapter 9 of textbook.
第 14 回	Final Examination.	Examination of all the material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to have an open mind and plan on working hard to improve their overall skill level.

There will be weekly writing homework that needs to be submitted at the start of the next class.

【テキスト（教科書）】

NEW ENGLISH WRITING by Paul McLean

Publisher: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

ISBN: 978-4-7773-6251-6

【参考書】

Kunihiro Masao Methodology.

Georgetown University School of Languages & Linguistics.

University of Michigan ESL Program

The late Professor Matsumoto Michihiro Method,

Meiji Gakuin University

【成績評価の方法と基準】

All students will be graded on attendance, class attitude, work in and outside of class, homework, tests and final examination. Please be serious and aware of the criteria regulations.

【学生の意見等からの気づき】

I have made a number of changes based on student surveys from last year. If a student tries his or her best despite limitations in the language and also has perfect or near-perfect attendance, this will have a positive influence on your final grade. However, chronic absences will only hurt you in the long run, so make sure that you come to class.

【その他の重要事項】

Try your best and have a good attitude. Don't be afraid to challenge yourself to become better! Remember, you need to be a better writer of English for your future success!

英語表現演習 (Writing)(7)B

ティモシー・ライト

授業コード：A2839

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intensive English Writing

【到達目標】

The target of the second semester is to retain as much as possible of the material which we covered during the first semester to help become better writers of L2 English. All students enrolled in this class should work as hard as possible to achieve these goals.

【授業の進め方と方法】

This will be the next semester of 15 intensive weeks of training in L2 English writing. We will continue with the textbook and a variety of exercises hoping to improve skill levels to a high degree.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and explanation of second semester.	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during the first semester.	Complete review of all material covered during the first semester. Tips on how to train in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. In-class essay on the past summer vacation.	Chapter review of all material covered in textbook during the first semester.
第 4 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises.	Chapter 11 of textbook. Chapter 12 of textbook.
第 5 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises.	Chapter 13 of textbook.
第 6 回	Test #1 of all material covered up through week 5.	First test of material covered up through week 5 of classes.
第 7 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises.	Chapter 14 of textbook.
第 8 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills.	Chapter 15 of textbook.
第 9 回	Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills.	Chapter 16 of textbook.
第 10 回	Test #2 of all material covered up through week 9.	Second test of material covered up through week 9.
第 11 回	Writing exercises III. Overview of material covered during the past term.	Chapter 17 & 18 of textbook.
第 12 回	Writing exercises III. Final Strunk & White exercises and review.	Chapter 19 of textbook.
第 13 回	Writing exercises III. Final creative writing drills.	Chapter 20 of textbook.
第 14 回	Final Examination.	Examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All students will be obligated to complete weekly writing homework and turn it in each Monday. Students will be encouraged to do a number of creative writing "free" essays as well. Please read as much English as possible in your free time and be focused during this class as well as serious!

【テキスト（教科書）】

NEW ENGLISH WRITING by Paul McLean

Publisher: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

ISBN: 978-4-7773-6251-6

【参考書】

Kunihiro Masao Methodology.

Georgetown University School of Languages & Linguistics.

University of Michigan ESL Program.

Former Professor John J. Staczek, School of Languages & Linguistics,

Georgetown University.

The Late Matsumoto Toru, Meiji gakuin University.

【成績評価の方法と基準】

All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, homework, tests and the final examination.

Remember, perfect attendance is vital if you hope to get a good grade.

Also, be serious about your life, future and upcoming career! Work hard and master English!

50% Classwork and Participation, 30% Homework, 20% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】

I have made a number of changes in my course based on last year's student surveys. If a student tries his or her best despite limitations in the language and has perfect or near-perfect attendance, this will have a positive influence on your final grade. However, chronic absences will only hurt you in the end, so make sure that you come to class.

【その他の重要事項】

Try your absolute best to become good English writers and "internationally-minded young people! Good luck!

英語表現演習 (Writing)(8) A

安部 義治

授業コード：A2840

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではパラグラフの書き方や論理展開の仕方、更にはトピックに関連した文法・語彙・言い回しを学びます。明瞭で客観的、そして論理的な英語の文章が書けるようになることを目標とします。

【到達目標】

英語圏の大学で必要とされるレベルの英語でエッセイや論文が書けるようになることを目標とします。具体的には TOEFLiBT の Writing で 14～17 点、IELTS で Band5 程度の英語力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

前半の 60 分は指定テキストで演習を行い、後半 40 分は小テスト（指定されたトピックについての英作文）を行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	What Are the CUBING and POWER Systems?	指定テキスト Unit1 の演習及び解説、小テスト
第 2 回	What Is Writing?	指定テキスト Unit2 の演習及び解説、小テスト
第 3 回	About the Paragraph	指定テキスト Unit3 の演習及び解説、小テスト
第 4 回	Descriptive Paragraph	指定テキスト Unit4 の演習及び解説、小テスト
第 5 回	Comparison and Contrast Paragraph	指定テキスト Unit5 の演習及び解説、小テスト
第 6 回	Process Paragraph	指定テキスト Unit6 の演習及び解説、小テスト
第 7 回	Narrative Paragraph	指定テキスト Unit7 の演習及び解説、小テスト
第 8 回	Summary Paragraph	指定テキスト Unit8 の演習及び解説、小テスト
第 9 回	Analysis Paragraph	指定テキスト Unit9 の演習及び解説、小テスト
第 10 回	Cause and Effect Paragraph	指定テキスト Unit10 の演習及び解説、小テスト
第 11 回	Persuasive Paragraph	指定テキスト Unit11 の演習及び解説、小テスト
第 12 回	Problem-Solution Paragraph	指定テキスト Unit12 の演習及び解説、小テスト
第 13 回	About the Essay	指定テキスト Unit13 の演習及び解説、小テスト
第 14 回	Changing a Paragraph into an Essay	指定テキスト Unit14 の演習及び解説、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として指定テキストを授業の前に下読みしておいてください。

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Taylor and David E. Kluge. (2011). *Basic Steps to Academic Writing*. Cengage Learning

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100%

【学生の意見等からの気づき】

TOEFL や IELTS の受験に役立つ内容にしてほしいという要望が強いので、小テストではこれらの試験に準拠した問題を用意します。

英語表現演習 (Writing)(8)B

安部 義治

授業コード：A2841

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではパラグラフの書き方や論理展開の仕方、更にはトピックに関連した文法・語彙・言い回しを学びます。明瞭で客観的、そして論理的な英語の文章が書けるようになることを目標とします。

【到達目標】

英語圏の大学で必要とされるレベルの英語でエッセイや論文が書けるようになることを目標とします。具体的には TOEFLiBT の Writing で 14～17 点、IELTS で Band5 程度の英語力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

前半の 60 分は指定テキストで演習を行い、後半 40 分は小テスト（指定されたトピックについての英作文）を行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	What is a Research Paper?	指定テキスト Unit1 の演習及び解説、小テスト
第 2 回	Topics	指定テキスト Unit2 の演習及び解説、小テスト
第 3 回	Sources	指定テキスト Unit3 の演習及び解説、小テスト
第 4 回	Taking Notes	指定テキスト Unit4 の演習及び解説、小テスト
第 5 回	The Beginning Thesis Statement	指定テキスト Unit5 の演習及び解説、小テスト
第 6 回	The Working Outline	指定テキスト Unit6 の演習及び解説、小テスト
第 7 回	Revising the Thesis Statement and Working Outline	指定テキスト Unit7 の演習及び解説、小テスト
第 8 回	Spelling, Typing, and Word Processing	指定テキスト Unit8 の演習及び解説、小テスト
第 9 回	Writing the First Draft	指定テキスト Unit9 の演習及び解説、小テスト
第 10 回	Writing the Title	指定テキスト Unit10 の演習及び解説、小テスト
第 11 回	Style	指定テキスト Unit11 の演習及び解説、小テスト
第 12 回	Writing the Introduction	指定テキスト Unit12 の演習及び解説、小テスト
第 13 回	Support, Accuracy, and Logic	指定テキスト Unit13 の演習及び解説、小テスト
第 14 回	Writing the Body	指定テキスト Unit14 の演習及び解説、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として指定テキストを授業の前に下読みしておいてください。

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Taylor and David E. Kluge. (2011). *Basic Steps to Writing Research Papers*. Cengage Learning

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100%

【学生の意見等からの気づき】

TOEFL や IELTS の受験に役立つ内容にしてほしいという要望が強いので、小テストではこれらの試験に準拠した問題を用意します。

英語表現演習 (Writing)(9) A

韓 沛君

授業コード：A2842

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英文を書く際に必要となるパラグラフやショートエッセイの書き方などの基礎能力の向上を目的としている。

【到達目標】

学期末には、学生は様々なアイデアを生み出し、論理的に組み立て、筋の通ったパラグラフとエッセイを書けるようになる。特に、thesis statement や topic sentence、supporting details、文献引用などの構造に焦点を当てる。

【授業の進め方と方法】

教員からの指導に加え、ピアレビューを活用し、学生同士で互いの課題の評価もしてもらう。そのため、各授業とも必ず宿題を完成することが求められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ブレインストーミング: 「優れたエッセイの書き方とは？」	春学期の授業説明
第 2 回	意見の作り方とまとめ方	Unit 1: The Researched Essay (1)
第 3 回	学術的なレポートの構造	Unit 1: The Researched Essay (2)
第 4 回	トピックの選び方と絞り方	Unit 1: The Researched Essay (3)
第 5 回	アウトラインと論理的な文章の作り方	Unit 1: The Researched Essay (4)
第 6 回	Review Unit 1	課題の提出とピアレビュー (1)
第 7 回	比較と対照のキーワード	Unit 2: Comparison-Contrast Essays (1)
第 8 回	パラグラフの作り方	Unit 2: Comparison-Contrast Essays (2)
第 9 回	文章の編集について	Unit 2: Comparison-Contrast Essays (3)
第 10 回	Review Unit 2	課題の提出とピアレビュー (2)
第 11 回	因果関係のキーワードの並べ方	Unit 3: Cause and Effect Essays (1)
第 12 回	因果関係の活用方法	Unit 3: Cause and Effect Essays (2)
第 13 回	引用における 2 つの方法	Unit 3: Cause and Effect Essays (3)
第 14 回	Review Unit 3	課題の提出とピアレビュー (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Effective Academic Writing: Level 3: the Researched Essay, Rhonda Liss, 2012 Oxford University Press 978-0194323482.

【参考書】

関連する資料は講義中や授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

積極的な出席、貢献度: 25%

宿題と授業内課題: 25%

各学期 3 回のエッセイの提出とピアレビュー: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

英語表現演習 (Writing)(9) B

韓 沛君

授業コード：A2843

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英文を書く際に必要となるパラグラフやショートエッセイの書き方などの基礎能力の向上を目的としている。

【到達目標】

学期末には、学生は様々なアイデアを生み出し、論理的に組み立て、筋の通ったパラグラフとエッセイを書けるようになる。特に、thesis statement や topic sentence、supporting details、文献引用などの構造に焦点を当てる。

【授業の進め方と方法】

教員からの指導に加え、ピアレビューを活用し、学生同士で互いの課題の評価もしてもらう。そのため、各授業とも必ず宿題を完成することが求められる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ブレインストーミング: 「優れた主張の作り方」	秋学期の授業説明
第 2 回	論証の構造	Unit 4: Argumentative Essays (1)
第 3 回	Supporting details と反論	Unit 4: Argumentative Essays (2)
第 4 回	譲歩と反駁	Unit 4: Argumentative Essays (3)
第 5 回	情報源のまとめと引用	Unit 4: Argumentative Essays (4)
第 6 回	Review Unit 4	課題の提出とピアレビュー (1)
第 7 回	棒グラフを読む	Unit 5: Classification Essays (1)
第 8 回	棒グラフの分析と文字による書き換え	Unit 5: Classification Essays (2)
第 9 回	分類の構造	Unit 5: Classification Essays (3)
第 10 回	Review Unit 5	課題の提出とピアレビュー (2)
第 11 回	短文からテーマを見つける	Unit 6: Reaction Essays (1)
第 12 回	短文の要約とディスカッション	Unit 6: Reaction Essays (2)
第 13 回	単語の選び方と文法の確認	Unit 6: Reaction Essays (3)
第 14 回	Review Unit 6	課題の提出とピアレビュー (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Effective Academic Writing: Level 3: the Researched Essay, Rhonda Liss, 2012 Oxford University Press 978-0194323482.

【参考書】

関連する資料は講義中や授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

積極的な出席、貢献度: 25%

宿題と授業内課題: 25%

各学期 3 回のエッセイの提出とピアレビュー: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

英語表現演習 (Speaking)(1)A

杉 亜希子

授業コード：A2846

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める

【到達目標】

Through pre-activity and Input, you will be able to

・ improve and expand your vocabulary and useful expressions

Through output activities (writing a draft and giving a mini-speech), you will be able to

・ activate and develop existing English language skills

・ acquire a habit of thinking logically

・ get used to speaking in front of others

・ develop communicative competence and fluency in English

【授業の進め方と方法】

・ Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations

・ Input: Listening to a model text; understanding the context

・ Output: Making your own short speech; editing your speech; practicing and memorizing; giving presentations

・ A purpose of delivering your speech must be to communicate with other people, ・ Active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected

模範テキストとオーディオ教材を使用した基本的には英語による講義。模範テキストの大筋とスピーチの構成を理解し、発音練習と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1:Self Introduction	Greetings and getting to know your partners
第 3 回	Unit 1:Self Introduction	Introducing your partners to the others
第 4 回	Unit 1:Self Introduction	Learning descriptive adjectives; outlining your speech
第 5 回	Unit 1:Self Introduction	Understanding and learning the model text
第 6 回	Unit 1:Self Introduction	Reviewing; choosing your own topic
第 7 回	Unit 1:Self Introduction	Reviewing your outline; drafting
第 8 回	Unit 1:Self Introduction	Draft editing; speech practice
第 9 回	Unit 1: Self Introduction	Presentation
第 10 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Understanding and learning the model text
第 11 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Reviewing your outline; drafting
第 12 回	Unit 2: How to Proceed with a Conversation	Drafting
第 13 回	How to Proceed with a Conversation	Draft editing; speech practice
第 14 回	How to Proceed with a Conversation	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Model texts や pre-activity の復習、必要に応じて各課題に沿った資料集め。スピーチのドラフトを書く作業は各自授業外で行っておくことで editing に時間をかけられるようにすること。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布

(Topics are subject to change)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を勧めます

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）

注意）このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。すぐには学んだ表現が使えないこともあります。Input でしっかり表現を身につけているか、そして自分のスピーチ作りでは一回ドラフトを作成したら終わりではなく、そこからどのように完成させていくのかを自分なりに工夫して行くことが「成長」につながる部分ですので、そうした各自の努力を考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ、発展させていく可能性があります。

受講生は「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じているように、英語を訳すことよりも、自分の考えを英語で披露することで、人を説得する方法も同時に身につける良い機会となっています。ドラフトはあくまでもスピーチの流れを忘れないための「助け」であって、自分の意志や意見を「如何に相手に伝えられるか」が重要です。学年によっては、お互いに刺激しあい高め合うことも出来たように授業中の積極的な協力は推奨しています。多くの受講生が年度の最後に感じてきたように、「人前で話す力がつく」や「スピーチのまとめ方がわかった」「聞く力もついた」など「英語力が上がった」と言えるようにこの時間を有効に活用していけるかどうかは皆さん次第です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（ただし、発表での自分のパソコン、またはタブレット使用を認めています）

【その他の重要事項】

クラスメートから学ぶことは多い。ただ、比較するのは自分自身の出来で、各発表で自分の弱点を見つけ、最終的にどう修正したのか、また得意とする点なども見だし、自分を高めながら成長していったほしい。

欠席した場合には、その週に行った内容をクラスメートに確認しておくこと。発表日に適切な理由で欠席した場合にのみ、次回授業内での発表を認めることもあるが、要相談。

英語表現演習 (Speaking)(1)B

杉 亜希子

授業コード：A2847

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める

注）英語表現演習 (Speaking)(1)A と併せて受講することが望ましい

【到達目標】

Though pre-activity and Input, you will be able to

・ improve and expand your vocabulary and useful expressions

Through output activities (writing a draft and giving a mini-speech), you will be able to

・ activate and develop existing English language skills

・ acquire a habit of thinking logically

・ get used to speaking in front of others

・ develop communicative competence and fluency in English

【授業の進め方と方法】

・ Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations

・ Input: Listening to a model text; understanding the context

・ Output: Making your own short speech; editing your speech; practicing and memorizing; giving presentations

・ A purpose of delivering your speech must be to "communicate" with other people

・ Active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected

模範テキストとオーディオ教材を使用した英語による講義を模範テキストとする。模範テキストの大筋とスピーチの構成を理解し、発音練習と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Talk about your summer holiday	Talking about your summer
第 3 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Understanding and learning the model text
第 4 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Reviewing (recognizing the structure in Pyramid Principle); choosing your own topic
第 5 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Planning the speech structure in pyramid principle
第 6 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Drafting
第 7 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Drafting 2; speech practice
第 8 回	Unit 2: Vacation in Tokyo?	Presentation
第 9 回	Unit 3: Smoking Issues	Understanding and learning the model text
第 10 回	Unit 3: Smoking Issues	Reviewing; choosing your own topic
第 11 回	Unit 3: Smoking Issues	Outlining; drafting
第 12 回	Unit 3: Smoking Issues	Draft editing; speech practice
第 13 回	Unit 3: Smoking Issues	Drafting 2; speech practice
第 14 回	Unit 3: Smoking Issues	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Model texts や pre-activity の復習、必要に応じて各課題に沿った資料集め。スピーチのドラフトを書く作業は各自授業外で行っていただくことで editing に時間をかけられるようにすること。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布
(Topics are subject to change)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を勧めます

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）

注意）このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。すぐには学んだ表現が使えないこともあります。Input でしっかり表現を身につけているか、そして自分のスピーチ作りでは一回ドラフトを作成したら終わりではなく、そこからどのように完成させていくのかを自分なりに工夫していくことが「成長」につながる部分ですので、そうした各自の努力を考慮して評価していきます。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ、発展させていく可能性があります。受講生は「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じているように、英語を訳すのではなく、自分の考えを英語で披露することで、人を説得する方法も同時に身につける良い機会となっています。ドラフトはあくまでもスピーチの流れを忘れないための「助け」であって、自分の意志や意見を「如何に相手に伝えられるか」が重要です。学年によっては、お互いに刺激しあい高め合うことも出来たように授業中の積極的な協力は推奨しています。多くの受講生が年度の最後に感じてきたように、「人前で話す力がつく」や「スピーチのまとめ方がわかった」「聞く力もついた」など「英語力が上がった」と言えるようにこの時間を有効に活用していけるかどうかは皆さん次第です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（ただし、発表で自分のパソコン、またはタブレット使用を認めています）

【その他の重要事項】

クラスメートから学ぶことは多い。ただ、比較するのは自分自身の出来で、各発表で自分の弱点を見つけ、最終的にどう修正したのか、また得意とする点なども見だし、自分をほめながら成長していったほしい。

欠席した場合には、

その週に行った内容をクラスメートに確認しておくこと。発表日に適切な理由で欠席した場合にのみ、次回授業内での発表を認めることもあるが、要相談。

英語表現演習 (Speaking)(2)A

韓 沛君

授業コード：A2848

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に学術的分野における英語のリスニング、スピーキング能力の向上を主旨とする。学生には多様なリスニングやスピーキングに関する授業内活動を通じ、“英語を話す環境”で活躍するため必要な技量を養う。

【到達目標】

1. To complete Chapter 1-3 of the textbook.
2. To listen to 1.5-2 hours of material and keep a journal as self-study weekly assignment.
3. To make role-play interviews to practice conversations.
4. To make a presentation in week 13 or 14

【授業の進め方と方法】

多くのスピーキング技術を授業と、それに関連した映像に触れながら学んでいく。また、映像等のマルチメディアの活用を通してプレゼンテーション、ディベート、ロールプレイによるスピーキング練習を通して学生同士での相互学習を行う。そのため、受講生には授業内活動での議題に取り組むだけでなく、質問やそれに対する受け答えを通じて他学生を評価する姿勢が求められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の授業説明	授業概要、授業計画、評価方式等
第 2 回	文化的情報の獲得、会話順番の交代	Chapter 1 (i)
第 3 回	理解の確認、会話内の確認	Chapter 1 (ii)
第 4 回	復習 (1)	チャプター 1 におけるロールプレイ
第 5 回	会話内の予測、妥協、アイ・コンタクト	Chapter 2 (i)
第 6 回	会話中における“許可”	Chapter 2 (ii)
第 7 回	復習 (2)	チャプター 2 におけるロールプレイ
第 8 回	芸術に関する説明と自身の感覚	Chapter 3 (i)
第 9 回	意見の形成、表現	Chapter 3 (ii)
第 10 回	明瞭な説明について	Chapter 3 (iii)
第 11 回	復習 (3)	チャプター 3 におけるロールプレイ
第 12 回	映像鑑賞	内容に関するディスカッション
第 13 回	期末プレゼンテーション (1)	プレゼンとフィードバック
第 14 回	期末プレゼンテーション (2)	プレゼンとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Quest 2 Listening and Speaking 2nd Edition, Laurie Blass, McGraw Hill, 2007, ISBN 978-007-126-1166.

【参考書】

授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

*積極的な出席、貢献度 30%

*ロールプレイ 35%

*期末プレゼンテーション 35%

1. 毎授業、準備をした上で活動的に参加すること
2. チャプターを基にした 3 回のロールプレイを行うこと
3. 学期の最後には 15 分間のプレゼンテーションを行うこと

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

英語表現演習 (Speaking)(2)B

韓 沛君

授業コード：A2849

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に学術的分野における英語のリスニング、スピーキング能力の向上を主旨とする。学生には多様なリスニングやスピーキングに関する授業内活動を通じ、“英語を話す環境”で活躍するため必要な技量を養う。

【到達目標】

1. To complete Chapter 4-6 of the textbook.
2. To listen to 1.5-2 hours of material and keep a journal as self-study weekly assignment.
3. To make role-play interviews to practice conversations.
4. To make a presentation in week 13 or 14

【授業の進め方と方法】

多くのスピーキング技術を授業と、それに関連した映像に触れながら学んでいく。また、映像等のマルチメディアの活用を通してプレゼンテーション、ディベート、ロールプレイによるスピーキング練習を通して学生同士での相互学習を行う。そのため、受講生には授業内活動での議題に取り組むだけでなく、質問やそれに対する受け答えを通じて他学生を評価する姿勢が求められる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の授業説明及び夏季休暇に関する個人スピーチ	授業の概要、授業計画、評価方式等
第 2 回	不作法な質問の回避、より良い発問	Chapter 4 (i)
第 3 回	聴衆を気に留める、質問への回答を避ける	Chapter 4 (ii)
第 4 回	復習 (1)	チャプター 4 におけるロールプレイ
第 5 回	プレゼンテーション後の質疑応答	Chapter 5 (i)
第 6 回	理由の列挙する	Chapter 5 (ii)
第 7 回	復習 (2)	チャプター 5 におけるロールプレイ
第 8 回	スピーチの始め方	Chapter 6 (i)
第 9 回	同意と反対、意見の述べ方	Chapter 6 (ii)
第 10 回	建設的な批判、アドバイスの与え方	Chapter 6 (iii)
第 11 回	復習 (3)	チャプター 6 におけるロールプレイ
第 12 回	映像鑑賞	内容に関するディスカッション
第 13 回	期末プレゼンテーション (1)	プレゼンとフィードバック
第 14 回	期末プレゼンテーション (2)	プレゼンとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Quest 2 Listening and Speaking 2nd Edition, Laurie Blass, McGraw Hill, 2007, ISBN 978-007-126-1166.

【参考書】

授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

*積極的な出席、貢献度 30%

*ロールプレイ 35%

*期末プレゼンテーション 35%

1. 毎授業、準備をした上で活動的に参加すること
2. チャプターを基にした 3 回のロールプレイを行うこと
3. 学期の最後には 15 分間のプレゼンテーションを行うこと

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

英語表現演習 (Speaking)(3)A

ニアル・マルチ

授業コード：A2850

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Speaking skills in English

【到達目標】

To enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第 3 回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第 4 回	Basic expressions	Application of strategies
第 5 回	Development	Conversational examples
第 6 回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第 7 回	Formal expressions	Detailed descriptions
第 8 回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第 9 回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第 10 回	Applications of topics	Expressing opinions
第 11 回	Usage of topics	Expressing regret
第 12 回	Further development	Expressing disagreement
第 13 回	Conclusions	Summary
第 14 回	Speeches	Various topics

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2018 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15624-8
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (50%), and presentations (50%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<http://learningenglish.voanews.com/>

This website has audio/text stories read out in special (slow and clear) English. Click whatever story looks interesting and listen.

英語表現演習 (Speaking)(3)B

ニアル・ムルター

授業コード：A2851

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Speaking skills in English

【到達目標】

To enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	General themes	Expressing general ideas
第 3 回	Theme development	Expressing details
第 4 回	Theme strategies	Expressing abstract concepts
第 5 回	Selection of themes	Expressing hypothetical concepts
第 6 回	Confidence Building	Word usage: nouns
第 7 回	Special topics	Word usage: verbs
第 8 回	Work situations	Word usage: adjectives
第 9 回	Academic situations	Word usage: adverbs
第 10 回	Applying ideas covered in first semester	Speech writing
第 11 回	Applying ideas covered in second semester	Editing issues
第 12 回	Other applications of ideas	Strategies for improving style
第 13 回	Evaluation	Selected topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short presentations and speeches for class.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2018 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15624-8
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (50%), and presentations (50%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<http://learningenglish.voanews.com/>

This website has audio/text stories read out in special (slow and clear) English. Click whatever story looks interesting and listen.

英語表現演習 (Speaking)(4)A

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2852

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語コミュニケーションを行うための英語運用能力を身に付けることに焦点を当てる。学生は、様々なトピックを英語で聞いたり、読んだり、話し合ったり、発表したりすることを通して、高度な英語コミュニケーションができるようになることを目指す。

【到達目標】

この授業での到達目標は次の 3 点である。

1. 英語でテキストの概要とその内容についての意見を説明する。
2. 英語で発表用の視覚資料を作成する。
3. 英語で視覚資料を使って発表する。

【授業の進め方と方法】

授業は英語による演習形式で行う。毎回配布される新聞記事やワークシート課題に取り組み、様々な話題についての記事を読み、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。ペアまたはグループで、インタラクションを行いながら、自分の意見を口頭で発表する。また、あるトピックについて情報を収集し、まとめた内容の発表を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	英語能力を伸ばすには？
第 2 回	発表の基本（1）	説得力のある発表とは？
第 3 回	発表の基本（2）	グラフの作成と説明の方法
第 4 回	日本文化の紹介（1）	日本文化についてのディスカッション、紹介する内容をまとめる
第 5 回	日本文化の紹介（2）	各自まとめた内容の発表
第 6 回	運動と健康	運動と健康にはどういう関係がある？
第 7 回	運動と学生生活	まとめた意見の発表
第 8 回	教育とテクノロジー	教育とテクノロジーに関する記事を読み、ディスカッション
第 9 回	教育のデジタル化	配布記事を読み、各自の意見をまとめる
第 10 回	手書きとタイピング	手書きとタイピングの違いについて読み、意見を発表する
第 11 回	テレビと教育	テレビの影響について読み、ディスカッションする
第 12 回	睡眠と教育	睡眠と教育の関係について読み、ディスカッションする
第 13 回	学生生活と睡眠	テーマについての情報を収集し、発表の準備
第 14 回	学生生活と睡眠についての発表及びテスト	収集した情報・データを発表及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で配布された資料を読み、自分の意見をまとめて発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

発表 50%、テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

英語表現演習 (Speaking)(4)B

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2853

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語コミュニケーションを行うための英語運用能力を身に付けることに焦点を当てる。学生は、様々なトピックを英語で聞いたり、読んだり、話し合ったり、発表したりすることを通して、より流暢で正確な英語コミュニケーションができるようになることを目指す。

【到達目標】

この授業での到達目標は次の 4 点である。

1. 英語でテキストの概要とその内容についての意見を説明する。
2. 英語で発表用の視覚資料を作成する。
3. 英語で視覚資料を使って発表する。
4. 説得力のあるスピーチを英語で行う。

【授業の進め方と方法】

授業は英語による演習形式で行う。毎回配布される新聞記事やワークシート課題に取り組み、様々な話題についての記事を読み、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。ペアまたはグループで、インタラクションを行いながら、自分の意見を口頭で発表する。また、あるトピックについて情報を収集し、まとめた内容の発表を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	英語能力を更に伸ばすには？
第 2 回	発表の基本（1）	どうやって自分の意見を説明するの か？
第 3 回	発表の基本（2）	高度で説得力のある発表の特徴
第 4 回	発表の基本（3）	データの整理及び発表の仕方
第 5 回	研究方法（1）	研究トピックの選び方及び論文の読み 方、アカデミック発表の特徴
第 6 回	研究方法（2）	データ分析方法及び結果の発表の仕方
第 7 回	政治	良いリーダーシップとは何かについて のディスカッション
第 8 回	政治と教育	自分の学校をより良くするには？ 話 し合った内容をまとめる
第 9 回	食生活	学生は健康的な食生活を送っている か？ ディスカッションと調査
第 10 回	食生活の調査	食生活調査の結果発表
第 11 回	環境	リサイクル率を高めるための方法 とは？ グループでのディスカッション
第 12 回	学校の環境	良い授業環境の作り方についてのディ スカッションと調査
第 13 回	研究発表（1）	テーマについての情報を収集し、発表 の準備
第 14 回	研究発表（2）及びテスト	収集した情報・データを発表及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で配布された資料を読み、自分の意見をまとめて発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

発表 50%、テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

英語表現演習 (Speaking)(5)A

ニアル・ムルター

授業コード：A2854

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Speaking in English

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to collect thoughts before expressing them orally. Students will obtain skills and knowledge for communication and expressing ideas.

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing, in order to systematize ideas and concepts. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第 3 回	Development of conversation strategies	Further ideas
第 4 回	General topics	Conversational styles
第 5 回	Academic topics	Application to literary themes
第 6 回	Academic topics	Application to lifestyle
第 7 回	Modern themes	Use of Internet search
第 8 回	News items	Japan-based issues
第 9 回	News items	International issues
第 10 回	News items	Controversial issues
第 11 回	Work-place scenarios (1)	Career-based themes (1)
第 12 回	Work-place scenarios (2)	Career-based themes (2)
第 13 回	Themes for evaluation	Various topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class.

【テキスト（教科書）】

Internet-based text and themes to be provided in class.

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (50%), and presentations (50%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<http://learningenglish.voanews.com/>

This website has audio/text stories read out in special (slow and clear) English. Click whatever story looks interesting and listen.

英語表現演習 (Speaking)(5)B

ニアル・ムルター

授業コード：A2855

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Speaking in English

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to collect thoughts before expressing them orally. Students will obtain skills and knowledge for communication and expressing ideas.

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing, in order to systematize ideas and concepts. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Current affairs	Reference to Internet news sites
第 3 回	Japan-oriented topics	Reference to Internet news sites
第 4 回	International topics	Reference to Internet news sites
第 5 回	Topics in literature	Reference to Internet news sites
第 6 回	Topics in sport	Reference to Internet news sites
第 7 回	Speech editing	Use of Internet for grammar issues
第 8 回	Speech motivational strategies	Examples from Internet
第 9 回	Questioning the speaker	Purposes and results
第 10 回	How to improve speeches	Reaction to comments and corrections
第 11 回	Selection of speech topics (1)	Writing of speeches
第 12 回	Selection of speech topics (2)	Purpose of speeches
第 13 回	Evaluation methods	Examples based on speeches
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class.

【テキスト（教科書）】

Internet-based text and themes to be provided in class.

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (50%), and presentations (50%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<http://learningenglish.voanews.com/>

This website has audio/text stories read out in special (slow and clear) English. Click whatever story looks interesting and listen.

英語表現演習 (Speaking)(6)A

ティモシー・ライト

授業コード：A2856

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive training in English speech and drama

【到達目標】

The purpose of this class is to help students become better speakers of English through intensive training in English speech communication and drama. Students will spend one semester working on speech theory and numerous dramatic methods such as "Method Acting" in order to help make them more rounded and internationally-minded people. In addition, we will also work on intensive communication drills based on the Oxford University Method as well as American Articulatory Phonetic training in order to improve overall skills in communicative English.

【授業の進め方と方法】

Students will train intensively in speech communication methods to become competent speech makers. In addition, we will also work on English dramatic methods and exercises as well as communicative competence training. Your goal should be to make an effort to become as communicative in the English language as all possible.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening Class and introduction.	Greetings and detailed explanation of class syllabus and student obligations.
第 2 回	Speech Communication history and introduction to training. Preparation for self-introduction speeches.	Lecture on history of speech in Europe and Asia. Contrasts & Comparisons. Introduction to speech communication training methods.
第 3 回	Speech Training I. Students will give self-introduction speeches	Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method I. One-on-one speeches.
第 4 回	Speech Training II. Hyde Yano Principle.	Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method II. One-on-one speeches.
第 5 回	Speech Training III. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	How to make a speech I. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method III. One-on-one speeches.
第 6 回	Speech Training IV. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam I. How to make a speech II. Speech critique exercises. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method IV.
第 7 回	Speech Training V. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	How to make a speech III. Group speech training with feedback and critiques. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method V.
第 8 回	Oral Examination I.	Prepared Speech Exam II. Introduction to English Drama. Articulatory phonetic exercises. Drills in accent reduction. 77 Principle Method VI.
第 9 回	Speech Training VI. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	77 Principle Method VII. Drama exercises. One-on-one speech exercises. Wright Method I.
第 10 回	Speech Training VII. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam III. 77 Principle Method VIII. Drama exercises. Wright Method II.
第 11 回	Speech Training VIII. Hyde Yano Principles, communicative Training.	77 Principle Method IX. Drama exercises. Wright Method III.
第 12 回	Speech Training IX. Hyde Yano Principles, Communicative Training.	Prepared Speech Exam IV. 77 Principle Method X. Drama exercises. Wright Method IV.

第 13 回	Review of all material covered during first term.	77 Principle Method XI. Drama exercises. Wright Method V.
第 14 回	Final Examination.	Final Examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please try to watch Kennedy, King and Obama speeches on You Tube. In addition, make it a point to watch some English movies over the vacation. It is a wise idea for all of you to read as much English as possible whenever you are outside of class.

【テキスト（教科書）】

Person to Person Book 1. (Blue Cover) Jack C. Richards, Oxford University Press

「ハイデイの魔法の英語（ハイデイ矢野著）」講談社

【参考書】

Various Kunihiro Masao books. Review of "method acting." Georgetown University School of Language and Linguistics outlines.

【成績評価の方法と基準】

70% - Active classroom training and participation.

20% - Speech exams.

10% - Final exam.

【学生の意見等からの気づき】

All students are welcome to give interaction and feedback. Remember, be serious and come to class ready to train intensively. Based on last year's student survey, I have made a number of changes in my course. Please keep in mind that chronic absences will only hurt you in the end, so make sure that you come to class.

【学生が準備すべき機器他】

To be announced during first class.

【その他の重要事項】

None.

英語表現演習 (Speaking)(6)B

ティモシー・ライト

授業コード：A2857

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intensive training in English speech and drama

【到達目標】

This course will be focused on working to improve students ability to become better English speakers through intensive English speech and drama training. We will focus on Hyde Yano and Kunihiro Masao Methodology to help achieve this goal.

【授業の進め方と方法】

We will work on improving speech training skills in English. In addition, we will be focusing more on numerous drama techniques, skits and short plays as well as intensive communicative training methodology.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening Class and introduction.	Greetings and detailed explanation of class syllabus and student obligations for the second semester.
第 2 回	Overview of numerous methodologies. Preparation for self-introduction speeches for new students and speeches on summer vacation.	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 3 回	Overview of numerous methodologies. Speeches by all students.	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 4 回	Overview of numerous methodologies.	Speech communication techniques and drama theory reviewed as well as articulatory phonetics/accent reduction methodology.
第 5 回	Speech & Drama Training I. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Historical speech training and dramatic skits.
第 6 回	Speech & Drama Training II. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam I. Dramatic exercises and team-skits.
第 7 回	Speech & Drama Training III. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Speech communication techniques and dramatic exercises with team-skits.
第 8 回	Speech & Drama Training IV. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam II. Dramatic exercises with dramatic readings.
第 9 回	Mid-term Examination.	Speech communication techniques and dramatic exercises with team-skits.
第 10 回	Speech & Drama Training V. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam III. Wright Method I. Dramatic exercises with team-skits.
第 11 回	Speech & Drama Training VI. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Wright Method II. Dramatic exercises with team-skits.
第 12 回	Speech & Drama Training VII. Communication exercises. Hyde Yano Principle Training.	Prepared Speech Exam IV. Wright Method III. Dramatic exercises with team-skits.
第 13 回	Speech & Drama Training VIII. Final Communication exercises and Hyde Yano Principle Training.	Final training before review and examination.

第 14 回 Final Examination. Examination of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please read English as much as possible and challenge the EIKEN, UNATE and TOEFL Examinations if at all possible! I would also strongly like to encourage all students to enter some All-Japan university speech contests.

【テキスト（教科書）】

TPerson to Person Book 1. (Blue Cover) Jack C. Richards, Oxford University Press

「ハイデイの魔法の英会話（ハイデイ矢野著）」 講談社

【参考書】

Same as the first term.

【成績評価の方法と基準】

Same as the first term.

【学生の意見等からの気づき】

I have made a number of changes in my new syllabus for this course based on student advice from last year's evaluations. Please keep in mind that chronic absences will hurt your final grade, so please make sure that you come to class and train.

【その他の重要事項】

Work hard, study intensively, enjoy your lives as students and make an all-out effort to improve yourselves as young people and future members of the Global Society. remember, you will need English in the future!

英語表現演習 (Speaking)(7)A

安部 義治

授業コード：A2858

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて書かれた読み物を読み、そのトピックに関する背景知識や問題意識を持ったうえで、自分なりの考えを文章にして、それを下地に簡単なプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

英米圏の大学で必要とされる英語レベルでプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

奇数回の授業ではテキスト中の英文を読み、問題演習を行う。宿題として、指定されたトピックについてのエッセーを書いてもらう。偶数回の授業では宿題で書いてきたエッセーをもとにプレゼンテーションを行う。授業は英語で行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネス (1)	問題演習
第 2 回	ビジネス (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 3 回	歴史 (1)	問題演習
第 4 回	歴史 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 5 回	科学 (1)	問題演習
第 6 回	科学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 7 回	行動科学 (1)	問題演習
第 8 回	行動科学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 9 回	コンピューター・サイエンス (1)	問題演習
第 10 回	コンピューター・サイエンス (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 11 回	医療 (1)	問題演習
第 12 回	医療 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 13 回	農業 (1)	問題演習
第 14 回	農業 (2)	エッセー、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あるトピックに関するエッセーを隔週毎に書いてきてもらう。

【テキスト（教科書）】

Mackey, Daphne, and Alice Savage. *Read This! Level 2*. CUP, 2010.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

偶数回の授業で行うプレゼンテーション (70%) と授業での貢献度 (30%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業の運営を全て英語でやって欲しいという意見を尊重し、英語で授業を行うことにする。

英語表現演習 (Speaking)(7)B

安部 義治

授業コード：A2859

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて書かれた読み物を読み、そのトピックに関する背景知識や問題意識を持ったうえで、自分なりの考えを文章にして、それを下地に簡単なプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

英米圏の大学で必要とされる英語レベルでプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

奇数回の授業ではテキスト中の英文を読み、問題演習を行う。宿題として、指定されたトピックについてのエッセーを書いてもらう。偶数回の授業では宿題で書いてきたエッセーをもとにプレゼンテーションを行う。授業は英語で行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	料理 (1)	問題演習
第 2 回	料理 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 3 回	生物学 (1)	問題演習
第 4 回	生物学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 5 回	銀行 (1)	問題演習
第 6 回	銀行 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 7 回	情報システム (1)	問題演習
第 8 回	情報システム (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 9 回	言語学 (1)	問題演習
第 10 回	言語学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 11 回	テクノロジー (1)	問題演習
第 12 回	テクノロジー (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 13 回	スポーツと健康 (1)	問題演習
第 14 回	スポーツと健康 (2)	エッセー、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あるトピックに関するエッセーを隔週毎に書いてきてもらう。

【テキスト（教科書）】

Mackey, Daphne, and Alice Savage. *Read This! Level 2*. CUP, 2010.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

偶数回の授業で行うプレゼンテーション (70%) と授業での貢献度 (30%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業の運営を全て英語でやって欲しいという意見を尊重し、英語で授業を行うことにする。

英語表現演習 (Speaking)(8)A

韓 沛君

授業コード：A2860

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に学術的分野における英語のリスニング、スピーキング能力の向上を主旨とする。学生は多様なリスニングやスピーキングに関する授業内活動を通じ、“英語を話す環境”で活躍するために、必要な技量を養う。

【到達目標】

1. To complete Chapter 1-3 of the textbook.
2. To listen to 1.5-2 hours of material and keep a journal as self-study weekly assignment.
3. To make role-play interviews to practice conversations.
4. To make a presentation in week 13 or 14

【授業の進め方と方法】

多くのスピーキング技術を授業と、それに関連した映像に触れながら学んでいく。また、映像等のマルチメディアの活用を通してプレゼンテーション、ディベート、ロールプレイによるスピーキング練習を通して学生同士での相互学習を行う。そのため、受講生には授業内活動での議題に取り組むだけでなく、質問やそれに対する受け答えを通じて他学生を評価する姿勢が求められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の授業説明	授業概要、授業計画、評価方式等
第 2 回	文化的情報の獲得、会話順番の交代	Chapter 1 (i)
第 3 回	理解の確認、会話内の確認	Chapter 1 (ii)
第 4 回	復習 (1)	チャプター 1 におけるロールプレイ
第 5 回	会話内の予測、妥協、アイ・コンタクト	Chapter 2 (i)
第 6 回	会話中における“許可”	Chapter 2 (ii)
第 7 回	復習 (2)	チャプター 2 におけるロールプレイ
第 8 回	芸術に関する説明と自身の感覚	Chapter 3 (i)
第 9 回	意見の形成、表現	Chapter 3 (ii)
第 10 回	明瞭な説明について	Chapter 3 (iii)
第 11 回	復習 (3)	チャプター 3 におけるロールプレイ
第 12 回	映像鑑賞	内容に関するディスカッション
第 13 回	期末プレゼンテーション (1)	プレゼンとフィードバック
第 14 回	期末プレゼンテーション (2)	プレゼンとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Quest 2 Listening and Speaking 2nd Edition, Laurie Blass, McGraw Hill, 2007, ISBN 978-007-126-1166.

【参考書】

授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

*積極的な貢献度 30%

*ロールプレイ 35%

*期末プレゼンテーション 35%

1. 毎授業、準備をした上で活動的に参加すること
2. チャプターを基にした 3 回のロールプレイを行うこと
3. 学期の最後には 15 分間のプレゼンテーションを行うこと

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

英語表現演習 (Speaking)(8)B

韓 沛君

授業コード：A2861

秋学期・2 単位

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に学術的分野における英語のリスニング、スピーキング能力の向上を主旨とする。学生は多様なリスニングやスピーキングに関する授業内活動を通じ、“英語を話す環境”で活躍するために、必要な技量を養う。

【到達目標】

1. To complete Chapter 4-6 of the textbook.
2. To listen to 1.5-2 hours of material and keep a journal as self-study weekly assignment.
3. To make role-play interviews to practice conversations.
4. To make a presentation in week 13 or 14

【授業の進め方と方法】

多くのスピーキング技術を授業と、それに関連した映像に触れながら学んでいく。また、映像等のマルチメディアの活用を通してプレゼンテーション、ディベート、ロールプレイによるスピーキング練習を通して学生同士での相互学習を行う。そのため、受講生には授業内活動での議題に取り組むだけでなく、質問やそれに対する受け答えを通じて他学生を評価する姿勢が求められる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の授業説明及び 夏季休暇に関する個人 スピーチ	授業の概要、授業計画、評価方式等
第 2 回	不作法な質問の回避、 より良い発問	Chapter 4 (i)
第 3 回	聴衆を気に留める、質 問への回答を避ける	Chapter 4 (ii)
第 4 回	復習 (1)	チャプター 4 におけるロールプレイ
第 5 回	プレゼンテーション後 の質疑応答	Chapter 5 (i)
第 6 回	理由の列挙する	Chapter 5 (ii)
第 7 回	復習 (2)	チャプター 5 におけるロールプレイ
第 8 回	スピーチの始め方	Chapter 6 (i)
第 9 回	同意と反対、意見の述 べ方	Chapter 6 (ii)
第 10 回	建設的な批判、アドバ イスの与え方	Chapter 6 (iii)
第 11 回	復習 (3)	チャプター 6 におけるロールプレイ
第 12 回	映像鑑賞	内容に関するディスカッション
第 13 回	期末プレゼンテーショ ン (1)	プレゼンとフィードバック
第 14 回	期末プレゼンテーショ ン (2)	プレゼンとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Quest 2 Listening and Speaking 2nd Edition, Laurie Blass, McGraw Hill, 2007, ISBN 978-007-126-1166.

【参考書】

授業支援システムにて定期的に配信

【成績評価の方法と基準】

*積極的な貢献度 30%

*ロールプレイ 35%

*期末プレゼンテーション 35%

1. 毎授業、準備をした上で活動的に参加すること
2. チャプターを基にした3回のロールプレイを行うこと
3. 学期の最後には15分間のプレゼンテーションを行うこと

英語表現演習 (Speaking)(9)A

安部 義治

授業コード：A2862

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて書かれた読み物を読み、そのトピックに関する背景知識や問題意識を持ったうえで、自分なりの考えを文章にして、それを下地に簡単なプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

英米圏の大学で必要とされる英語レベルでプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

奇数回の授業ではテキスト中の英文を読み、問題演習を行う。宿題として、指定されたトピックについてのエッセーを書いてもらう。偶数回の授業では宿題で書いてきたエッセーをもとにプレゼンテーションを行う。授業は英語で行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネス (1)	問題演習
第 2 回	ビジネス (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 3 回	歴史 (1)	問題演習
第 4 回	歴史 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 5 回	科学 (1)	問題演習
第 6 回	科学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 7 回	行動科学 (1)	問題演習
第 8 回	行動科学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 9 回	コンピューター・サイエンス (1)	問題演習
第 10 回	コンピューター・サイエンス (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 11 回	医療 (1)	問題演習
第 12 回	医療 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 13 回	農業 (1)	問題演習
第 14 回	農業 (2)	エッセー、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あるトピックに関するエッセーを隔週毎に書いてきてもらう。

【テキスト（教科書）】

Mackey, Daphne, and Alice Savage. *Read This! Level 2*. CUP, 2010.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

偶数回の授業で行うプレゼンテーション (70%) と授業での貢献度 (30%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業の運営を全て英語でやって欲しいという意見を尊重し、英語で授業を行うことにする。

英語表現演習 (Speaking)(9)B

安部 義治

授業コード：A2863

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて書かれた読み物を読み、そのトピックに関する背景知識や問題意識を持ったうえで、自分なりの考えを文章にして、それを下地に簡単なプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

英米圏の大学で必要とされる英語レベルでプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

奇数回の授業ではテキスト中の英文を読み、問題演習を行う。宿題として、指定されたトピックについてのエッセーを書いてもらう。偶数回の授業では宿題で書いてきたエッセーをもとにプレゼンテーションを行う。授業は英語で行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	料理 (1)	問題演習
第 2 回	料理 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 3 回	生物学 (1)	問題演習
第 4 回	生物学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 5 回	銀行 (1)	問題演習
第 6 回	銀行 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 7 回	情報システム (1)	問題演習
第 8 回	情報システム (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 9 回	言語学 (1)	問題演習
第 10 回	言語学 (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 11 回	テクノロジー (1)	問題演習
第 12 回	テクノロジー (2)	エッセー、プレゼンテーション
第 13 回	スポーツと健康 (1)	問題演習
第 14 回	スポーツと健康 (2)	エッセー、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あるトピックに関するエッセーを隔週毎に書いてきてもらう。

【テキスト（教科書）】

Mackey, Daphne, and Alice Savage. *Read This! Level 2*. CUP, 2010.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

偶数回の授業で行うプレゼンテーション (70%) と授業での貢献度 (30%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業の運営を全て英語でやって欲しいという意見を尊重し、英語で授業を行うことにする。

英語表現演習 (翻訳) (1)A

吉川 純子

授業コード：A2844

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語小説の翻訳を通じて、英語の読解力と日本語の表現力を養う。

【到達目標】

・原文の英文を正確に読解し、説明することが出来る。
・教科書に記された「英文翻訳上達の秘訣」を理解し、自分の翻訳に応用することが出来る。原文と複数の翻訳を比較対照し、自分の翻訳に応用することが出来る。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、教科書の問題を解きながら講師が適宜解説する。後半は J.D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』の原文と野崎孝訳と村上春樹訳を比較する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業説明等 Lesson 1 おためし翻訳テスト 辞書の引き方
第 2 回	Lesson 2 Salinger 1	
第 3 回	Lesson 3 Salinger 2	代名詞の訳し方
第 4 回	Lesson 4 Salinger 3	形容詞について
第 5 回	Lesson 5 Salinger 4	補充訳について
第 6 回	Lesson 6 Salinger 5	訳す順番について
第 7 回	Lesson 7 Salinger 6	国語力について
第 8 回	Lesson 8 Salinger 7	動詞について
第 9 回	Lesson 9 Salinger 8	名詞について
第 10 回	Lesson 10 Salinger 9	助動詞について
第 11 回	Lesson 11 Salinger 10	英語力について
第 12 回	Lesson 12 Salinger 11	態について
第 13 回	Lesson 13 Salinger 12	品詞転換について
第 14 回	Lesson 14 Salinger 13	訳語がない場合について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の問題を解いてくること。サリンジャーの原文および訳文をあらかじめ読んでくること。疑問点や気づいたことを整理してくること。

【テキスト（教科書）】

Mitsushige Kaneko & Richard Simpson, *The Art of Translation* (南雲堂)
J.D. Salinger, *Catcher in the Rye* (プリント)
『ライ麦畑でつかまえて』野崎孝訳 (白水社 U ブックス、1984)
『キャッチャー・イン・ザ・ライ』村上春樹訳 (白水社、2003)

【参考書】

文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店 1,500 円 (税別) を薦める。
英和辞典は
・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
のどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。

成績評価

・期末試験の結果 (60%) に平常点（出席、学習態度、発表）40%を加味して行う。

遅刻の扱い

・やむを得ない理由がある場合を除き、30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を適宜設けたい。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

英語表現演習 (翻訳) (1)B

吉川 純子

授業コード：A2845

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語小説の翻訳を通じて、英語の読解力と日本語の表現力を養う。

【到達目標】

- ・原文の英文を正確に読解し、説明することが出来る。
- ・翻訳をめぐる様々な論点 (時制、視点など) について、実際の訳文を例にあげて論じることが出来る。原文と複数の翻訳を比較対照し、自分の翻訳に応用することが出来る。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は『英和翻訳入門』で問題を通して翻訳のポイントを学び、後半は前期に続いて J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye* をテキストとし、原文と野崎孝訳、村上春樹訳を比較検討する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業説明 Unit 1,2
第 2 回	Salinger #1	Unit 3,4 主語について
第 3 回	Salinger #2	視点の切り替え
第 4 回	Salinger #3	語尾の処理
第 5 回	Salinger #4	地の文とセリフ
第 6 回	Salinger #5	慣用句をどう訳すか
第 7 回	Salinger #6	会話をどう訳すか
第 8 回	Salinger #7	能動と受動
第 9 回	Salinger #8	文化背景
第 10 回	Salinger #9	主語の処理
第 11 回	Salinger #10	助動詞について
第 12 回	Salinger #11	冠詞について
第 13 回	Salinger #12	前から訳すか後ろから訳すか
第 14 回	まとめ	今学期学んだ内容の理解を確認する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の問題を解いてくこと。J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye* の原文と訳文をあらかじめ読んでくこと。疑問点や気づいたことを整理してくこと。

【テキスト (教科書)】

Teruhiro Ishiguro・Yasuto Hatanaka, *An Introduction to Effective Translation*(南雲堂)

J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye* (プリント)

『ライ麦畑でつかまえて』野崎孝訳 (白水社 U ブックス、1984)

『キャッチャー・イン・ザ・ライ』村上春樹訳 (白水社、2003)

【参考書】

文法の参考書は

・『FOREST』桐原書店 1,500 円 (税別) を薦める。

英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社

・『研究社英和大辞典』研究社

・『ランダムハウス英和大辞典』小学館

のどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

・受講態度が良好であること (無予習、私語、居眠りは厳禁)

・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。

成績評価

・期末試験の結果 (60%) に平常点 (出席、学習態度、発表) 40% を加味して行う。

遅刻の扱い

・やむを得ない理由がある場合を除き、30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を適宜設けたい。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

英語表現演習 (翻訳) (2)A

安藤 和弘

授業コード：A2866

春学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学作品に材をとる翻訳演習。英文を正確に読みこなしただで、自然で分かりやすい日本語にそれを変換するトレーニングを行う。まずは英文を正確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、それを前提として、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む講座である。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり正確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、特に、ただ単に英文の意味を正確に伝える日本語に変換するのではなく、英文の細かなニュアンスまでもを反映する生きた訳文を作る基本技術を実地で身につけ、文学作品の翻訳力の基礎を習得する。翻訳のしかたを学ぶことで、同時に、英文をより立体的に読む力を養成することも目的とする。

【授業の進め方と方法】

現代イギリス文壇を代表する作家の一人、Jonathan Coe の長編小説最新作 *Expo 58* (2013) を教材に取り上げる。毎週、一定量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。(訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。) 授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、数名の学生が日本語訳をメールで事前に提出する。教員はそれを事前にとりまとめ、授業時に紙面で配布する。それを学生全員が検討した上で、最後に教員が講評をする。メールで提出を求められない学生は、同じ箇所の英文の日本語訳を作成し、授業時にレポートとしてそれを提出する。次に、受講に際して知っておくべき重要事項を箇条書きで記しておく。①正当な理由のない欠席は、原則、認めない。②上記の課題 (訳文の事前あるいは教室での提出) は、毎週、全員がこなさなければならない。③初回のガイダンスに出席しない学生には、原則、単位は付与しない。④履修希望者数次第では、講座の趣旨に鑑みて、受講学生数に制限を設ける。その場合には、ガイダンス時にスクリーニング・テストを行う。(ゆえ、履修希望者は、初回、授業開始定刻までに教室で待機していること。)

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座についての説明
第 2 回	演習第 1 回	We're all excited about Brussels
第 3 回	演習第 2 回	What's gone is gone
第 4 回	演習第 3 回	These are modern times
第 5 回	演習第 4 回	Trying to build up a picture
第 6 回	演習第 5 回	Welkom terug
第 7 回	演習第 6 回	Rum sort of cove
第 8 回	演習第 7 回	Calloway's Corn Cushions
第 9 回	演習第 8 回	Motel Expo
第 10 回	演習第 9 回	The British are part of Europe
第 11 回	演習第 10 回	We deal in information
第 12 回	演習第 11 回	I can love whoever I want
第 13 回	演習第 12 回	The girl from Wisconsin, Artificial stimulants
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業参加に当たり、指定範囲の英文に目を通しておよその物語展開を把握する。指定された箇所の日本語訳を、これも毎週だが、必ず、十分な時間を割いて丁寧に作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。

【テキスト (教科書)】

Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241968864

生協に入荷する指定の版を購入すること。それ以外の版の使用は認めない。(Kindle 版の併用は自由だが、上記紙媒体の書籍をまず購入すること。)

【参考書】

作家についての情報は、これを参照のこと。https://literature.britishcouncil.org/writer/jonathan-coe

【成績評価の方法と基準】

提出物 (授業の前に提出するものと授業時に提出するもの両方) 80 %、授業時の発言 20 % を目安に総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

このシラバスをしっかりと読んだ上で受講すること。実質的な英文読解力の向上と翻訳の技術の習得を志す諸君のための講座である。学習のために労をいとわず、毎回しっかりと勉強をする意志がある諸君の受講を歓迎する。初回のガイダンスには必ず出席すること。そのときに、この講座を受講する上で知っておくべき事柄について詳細にわたり話を。オフィス・アワーについてもそのときに話をする。なお、上記の「授業計画」はあくまでも目安であり、ある程度の変更が生じる可能性はありえる。最後に、作家と作品について簡単に紹介をして。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる作品は 2013 年刊行の最近作。時代は 1958 年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれたスパイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることもできる。

英語表現演習 (翻訳) (2)B

安藤 和弘

授業コード：A2867

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学作品に材をとる翻訳演習。英文を精確に読みこなしの上で、自然で分かりやすい日本語にそれを変換するトレーニングを行う。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、それを前提として、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む講座である。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、特に、ただ単に英文の意味を精確に伝える日本語に変換するのではなく、英文の細かなニュアンスまでもも反映する生きた訳文を作る基本技術を実地で身につけ、文学作品の翻訳力の基礎を習得する。翻訳のしかたを学ぶことで、同時に、英文をより立体的に読む力を養成することも目的とする。

【授業の進め方と方法】

現代イギリス文壇を代表する作家の一人、Jonathan Coe の長編小説最新作 *Expo 58* (2013) を教材に取り上げる。毎週、一定量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。(訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。) 授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、数名の学生が日本語訳をメールで事前に提出する。教員はそれを事前にとりまとめ、授業時に紙面で配布する。それを学生全員が検討した上で、最後に教員が講評をする。メールで提出を求められない学生は、同じ箇所の英文の日本語訳を作成し、授業時にレポートとしてそれを提出する。次に、受講に際して知っておくべき重要事項を箇条書きで記しておく。①正当な理由のない欠席は、原則、認めない。②上記の課題 (訳文の事前あるいは教室での提出) は、毎週、全員がこなさなければならない。③初回のガイダンスに出席しない学生には、原則、単位は付与しない。④履修希望者数次第では、講座の趣旨に鑑みて、受講学生数に制限を設ける。その場合には、ガイダンス時にスクリーニング・テストを行う。(ゆえ、履修希望者は、初回、授業開始定刻までに教室で待機していること。)

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講座についての説明と、春学期に読んだ範囲の物語展開の概要
第 2 回	演習第 1 回	Wilkins
第 3 回	演習第 2 回	A nice old pickle
第 4 回	演習第 3 回	A private room
第 5 回	演習第 4 回	The trouble with happiness
第 6 回	演習第 5 回	Tooting Common
第 7 回	演習第 6 回	Too many statistics!
第 8 回	演習第 7 回	Pastorale d'Été
第 9 回	演習第 8 回	Excellent work, Foley
第 10 回	演習第 9 回	Like a Princess
第 11 回	演習第 10 回	The easiest thing
第 12 回	演習第 11 回	Well and truly over
第 13 回	演習第 12 回	Unrest, <i>Hollahi hollaho</i>
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業参加に当たり、指定範囲の英文に目を通しておよその物語展開を把握する。指定された箇所の日本語訳を、これも毎週だが、必ず、十分な時間を割いて丁寧に作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。

【テキスト (教科書)】

Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241968864

生協に入荷する指定の版を購入すること。それ以外の版の使用は認めない。(Kindle 版の併用は自由だが、上記紙媒体の書籍をまず購入すること。)

【参考書】

作家についての情報は、これを参照のこと。https://literature.britishcouncil.org/writer/jonathan-coe

【成績評価の方法と基準】

提出物 (授業の前に提出するものと授業時に提出するもの両方) 80 %、授業時の発言 20 % を目安に総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

このシラバスをしっかりと読んだ上で受講すること。実質的な英文読解力の向上と翻訳の技術の習得を志す諸君のための講座である。学習のために労をいとわず、毎回しっかりと勉強をする意志がある諸君の受講を歓迎する。初回のガイダンスには必ず出席すること。そのときに、この講座を受講する上で知っておくべき事柄について詳細にわたり話をする。オフィス・アワーについてもそのときに話をする。なお、上記の「授業計画」はあくまでも目安であり、ある程度の変更が生じる可能性はありえる。最後に、作家と作品について簡単に紹介をしておく。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる作品は 2013 年刊行の最近作。時代は 1958 年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれたスパイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることもできる。秋学期のみの履修も可能だが、春学期と併せて受講することが望ましい。

Academic Writing A

韓 沛君

授業コード：A2984

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content- or theme-based course in advanced university-level English writing. Intellectually-stimulating material is provided along with grammar, vocabulary, and rhetorical styles that are presented in relation to the themes explored, providing a path from reading to critical thinking to writing. Students will work individually, with partners, and in small groups to achieve meaningful writing. Meanwhile, this course is to improve English abilities comprehensively through the use of issues in the news and current affairs. Therefore, this course will also focus on polishing students' English reading and writing skills based on the current affairs and issues.

【到達目標】

To incorporate news and editorial articles with text learning, students need to submit a total of 3 graded assignments in this spring semester. Regular class and home-type exercises include :

I) Free-writing, II) Reading for Writing (summary), III) Pre-writing Activities, and IV) Structure Writing Focus.

And the specific writing organizational forms will include

- 1) Writing a Summary and Response,
- 2) Writing a Descriptive Essay, and
- 3) Writing a Classification Essay.

【授業の進め方と方法】

In addition to the scheduled lectures by the instructor, students will share their work with classmates for peer-learning. Therefore, it is essential that homework be completed in time for each session.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Freewriting, Reading & Exercise
第 2 回	Reading and identifying arguments	Unit 1: Pandora's Box
第 3 回	Summarizing & forming and expressing a point of view	Unit 1: Pandora's Box
第 4 回	Paraphrasing and subject-verb agreement	Unit 1: Pandora's Box & News/editorial articles (I)
第 5 回	Reading and analyzing essay organization	Unit 2: Cherries for My Grandma
第 6 回	Writing detailed examples as support & using a summary as an introduction	Unit 2: Cherries for My Grandma
第 7 回	Adjective clauses & habitual past	Unit 2: Cherries for My Grandma & News/editorial articles (II)
第 8 回	Reading & determining and organizing principle for categorization	Unit 3: Three Worlds in One
第 9 回	Categorizing and avoiding overlapping & developing conclusions for classification essays	Unit 3: Three Worlds in One
第 10 回	Pronoun referents	Unit 3: Three Worlds in One & News/editorial articles (III)

第 11 回	Reading & summarizing and incorporating academic research as support	Unit 4: Who's Spring on You?
第 12 回	Responding to a quote & using the conclusion to unify an essay	Unit 4: Who's Spring on You?
第 13 回	Citation skills	Unit 4: Who's Spring on You? & News/editorial articles (IV)
第 14 回	Presentation and Peer-review	Students' performances and evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Reason to Write: Strategies for Success in Academic Writing (Advanced), by Mary R. Colonna and Judith E. Gilbert, Oxford University Press, ISBN # 978-0-19-436583-3.

【参考書】

Related readings and resources of news/editorial articles will be distributed online and in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Participation: 30%

Writing Assignments: 40%

Presentation and Peer Review: 30%

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

Academic Writing B

韓 沛君

授業コード：A2985

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content- or theme-based course in advanced university-level English writing. Intellectually-stimulating material is provided along with grammar, vocabulary, and rhetorical styles that are presented in relation to the themes explored, providing a path from reading to critical thinking to writing. Students will work individually, with partners, and in small groups to achieve meaningful writing. Meanwhile, this course is to improve English abilities comprehensively through the use of issues in the news and current affairs. Therefore, this course will also focus on polishing students' English reading and writing skills based on the current affairs and issues.

【到達目標】

To incorporate news and editorial articles with text learning, students need to submit a total of four graded assignments in this fall semester. Regular class and home-type exercises include :

I) Free-writing, II) Reading for Writing (summary), III) Pre-writing Activities, and IV) Structure Writing Focus.

And the specific writing organizational forms will include

- 1) Writing a Summary and Response,
- 2) Writing a Descriptive Essay, and
- 3) Writing a Classification Essay.

【授業の進め方と方法】

In addition to the scheduled lectures by the instructor, students will share their work with classmates for peer-learning. Therefore, it is essential that homework to be completed in time for each session.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Summer assignment
第 2 回	Reading & developing different types of support	Unit 5: Mirror, Mirror on the Wall
第 3 回	Writing up research studies, showing cause and effect & outlining an essay	Unit 5: Mirror, Mirror on the Wall
第 4 回	Adverbial clauses and causal connectors	Unit 5: Mirror, Mirror on the Wall & News/editorial articles (I)
第 5 回	Reading & developing introductions	Unit 6: Two Theories of Personality Types
第 6 回	Asserting the value of a theory	Unit 6: Two Theories of Personality Types
第 7 回	Clauses for comparison, contrast and concession	Unit 6: Two Theories of Personality Types & News/editorial articles (II)
第 8 回	Reading and Summarizing a story	Unit 7: The Kite Runner
第 9 回	Organizing an introduction for a literary analysis essay	Unit 7: The Kite Runner
第 10 回	Integrating quotes with text & interpreting moods metaphor and personification	Unit 7: The Kite Runner News/editorial articles (III)
第 11 回	Reading & Identifying arguments and counterarguments	Unit 8: Ethics in the Digital Age
第 12 回	Refuting an argument and organizing an argumentative essay	Unit 8: Ethics in the Digital Age

第 13 回	Synthesizing information to form arguments	Unit 8: Ethics in the Digital Age & News/editorial articles (IV)
第 14 回	Presentation and Peer-review	Students' performances and evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is essential that students make preparations before class as well as review the text materials. Please complete weekly assignments in order to pace yourselves and not to fall behind in this class. Also, please make sure to confirm updated materials and important announcements via e-learning system on a regular basis after attending class.

【テキスト（教科書）】

Reason to Write: Strategies for Success in Academic Writing (Advanced), by Mary R. Colonna and Judith E. Gilbert, Oxford University Press, ISBN # 978-0-19-436583-3.

【参考書】

Related readings and resources of news/editorial articles will be distributed online and in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Participation: 30%

Writing Assignments: 40%

Presentation and Peer Review: 30%

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

海外英語演習

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2889

夏期集中・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏期 SA プログラム～ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン。

【到達目標】

アイルランドのユニバーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）で夏期休暇中の3週間を過ごす「夏期 SA プログラム（UCD）」では、英語圏で生活することにより実践的な英語力を集中的に習得し、アイルランドを含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことを目的とする。

【授業の進め方と方法】

出発前には主に安全面の確認のための事前指導を行い、帰国後には SA 報告会と英語による面接諮問を通じて事後指導を行う。留学先では、UCD の語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が、英語を母語としない学生を対象とした EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当する。クラスは習熟度別に4段階（Advanced, Upper Intermediate, Intermediate, Lower Intermediate）に分かれ、指導が行き届くよう、1 クラスの人数を最大 14 名に抑える少人数教育をおこなう。

通常、授業は月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 1 時まで行われ、2 つのセッションから構成される。前半セッションは教科書を使用した総合的な英語学習にあてられ、週ごとに設定されたトピックをめぐって展開する。後半セッションは英語の各技能強化にあてられ、具体的には月・水・金はリスニングとスピーキング、火・木はリーディングとライティングを中心に学習する。午後にはダブリンの名所めぐりやアイリッシュ・ダンスの練習など文化プログラムも行われる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1~14	初回到クラス分け試験が実施され、その結果により、学生は各自、適切なクラスに振り分けられる。そのクラスの担当教員により、毎回の授業の目標が示される。	配属されたクラスごとに、学生のレベルにあわせた目標にそった内容を学習する。Reading, Speaking, Writing, Listening の4技能をバランスよく身につけられる内容の授業が行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地で指示される。

【テキスト（教科書）】

現地で提供される。

【参考書】

現地で指示される。

【成績評価の方法と基準】

留学先から送付された成績証明書および出席証明書、留学期間中に現地から SA 委員会に提出する英語レポート、帰国報告会時のプレゼンテーション、口頭試問についての SA 委員会の評価を参考にして総合的に合否を判断する。評価は合格を「S」、不合格を「D」または「E」とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【その他の重要事項】

詳細は、「夏期 SA プログラム（UCD）」パンフレット参照。

2 年次演習（1）

宮川 雅

授業コード：A2971

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次の基礎ゼミは専門性をなるとして落とす主旨ですが、その——すなわちノートと読解や文献の扱いやリサーチやプレゼンテーションやレポート執筆やの——延長・周縁的な話題、など、を、専門性を含めつつ、第一に「論理的な思考と表現の力を意識的に身につける」、第二に「テキストをくわしく解読する習慣を身につけるとともに、精読によって（文学）テキストのよこぎを知る」というテーマとともに示して、どの道に進むにしてもそれなりに役に立つことを伝えたいと思います。

教員の専門はアメリカ文学なので、文学のおもしろさを伝えたいという気持ちがありますけれども、いっぽう、文学的感動からとりあえず醒めた眼差しで、上の第一のテーマを重視しつつ、文学というより文学研究の意味を考えてみたい（みてもらいたい）。

【到達目標】

- (1) リサーチの技と知識を身につける。
 - (2) 考えを論理的に言葉で表現できる。
 - (3) 他者の考えに耳を傾け、建設的な応答ができる。
 - (4) テキストを注意深く丁寧に読める。
- さらに、細かい内容として、
- (5) 専門科目へ導入されたとそれなりに認識し、専門科目への関心が高まる。
 - (6) 英語の文体について理解が得られ、興味がわく。
 - (7) さまざまな批評アプローチに知識と関心をもてる。
 - (8) テキストを読むときに役に立つ辞書・事典類の知識をもつ。
 - (9) 論文の書き方（形式）について理解している。とりわけ「引用」「引証」のルールを理解している。

【授業の進め方と方法】

今年度は、いっぽうで Edgar Allan Poe (1809-49) の短篇小説を読んだりポーを原作とした映画を鑑賞しつつ、テキスト読解にかかわる技や知識を理解すべく解説・講義・議論する。たほう、批評については現代思想に重なる本（小説）を一冊読み、レポートにまとめる作業をする（5 月までの課題とする）。原作短篇を 4 つ演習形式で読みながら講義する。6 月からは、グループに分かれて小説あるいは映画についてプレゼンテーションをおこない議論する。授業はテーマと内容によって比重が変化するが、なるべく学生からの意見や質問や議論がおこるようところがける。リアクション・ペーパーをほぼ毎回書く。期末レポートは基礎ゼミにならって、プレゼンから発展させたペーパーとしたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プリントの配布、授業の進め方の説明など。課題図書への提示。映画『アッシャー家の崩壊』を観る。
第 2 回	Close Reading（作家 Francine Prose の本から考える）／ "Metzengerstein" を読む	作品をハンドアウトによるレポーター発表という装いで読みだす（以降毎回講義を続ける）。
第 3 回	映画『世にも怪奇な物語』①「黒馬の哭く館」	英語の辞書のはなし／文体の話（1）／背景の知識の話
第 4 回	映画『世にも怪奇な物語』②「影を殺した男」／ "William Wilson"	テキストの（異同の）問題。本文校訂と textual criticism。
第 5 回	映画『世にも怪奇な物語』③「悪魔に首を賭けるな」／ "Never Bet the Devil Your Head"	文体の話（2）。subordination と coordination、effective writing と文学的文章の問題など。
第 6 回	筒井康隆『文学部唯野教授』	批評理論について
第 7 回	Narration	語り／パラグラフ感覚について
第 8 回	Character (People) ／	登場人物
第 9 回	Dialogue	会話
第 10 回	Details	ディテールの描写
第 11 回	Style	プレゼンテーション①
第 12 回	Point of View	プレゼンテーション②
第 13 回	Quotations, Allusions	プレゼンテーション③
第 14 回	論文の作成について	プレゼンテーション④／まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引くこと。クロス・レファレンスを意識しながら、なるだけ早めに作品を通読することを心がけること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

課題図書は貸し出す——・筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、1990）

【参考書】

折にふれて提示する。参考書などのリストやプリントを適宜配布するなどして紹介する。

課題図書で批評理論に関心をもった人のために——

- ・テリー・イーグルトン、大橋洋一訳『文学とは何か——現代批評理論への招待』（岩波書店、1985）
- ・フレドリック・ジェイムソン、大橋洋一ほか訳『政治的無意識——社会的象徴行為としての物語』（平凡社、1989）
- ・ラマール・セルデン、鈴木良平訳『現代の文学批評——理論と実践』（彩流社、1994）
- ・大橋洋一『新文学入門』（岩波書店、1995）
- ・丹治愛ほか『知の教科書 批評理論』（講談社選書メチエ、2003）

【成績評価の方法と基準】

これは曲がりなりにも「演習」の授業です。演習というのは単なる授業ではなく、学生の自主的な学習・発表・議論こそが中核となるべき楽しくやりがいある勉強形態です。よって出席しているだけではあんまり意味がなく、積極的に発言すること、発言しなくても調べてくること、が大事です。そういう意味での授業への参加度が第一。第二にペーパー（レポート）。第三に筆記試験（予定）。以上を等分％にして総合的に評価させていただきます。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすくむづかしいことを話すようところがける。

【その他の重要事項】

翻訳を教室に持ち込んでけっこう。

2 年次演習（2）

丹治 愛

授業コード：A2972
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次に履修した基礎ゼミと 2 年次以降に履修する英米文学演習との中間に位置するものとして、本授業は、文学・文化研究の基礎的な方法論を学習するものである。特定の主題を選択して、クリティカル・リーディング、サマライジング、クリティカル・ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションを実践的に学習する。

【到達目標】

- ・テキストを批判的に読む（開く）ことができるようになる
- ・テキストを適切に理解し、その内容を要約することができるようになる
- ・自分の考えを批判的に、わかりやすく文章にすることができるようになる
- ・パワーポイントを用いて、自分の考えをわかりやすくまとめ、それを伝えることができるようになる
- ・ディスカッションをとおして、相手の考えを批判的に理解するとともに、自分の考えを相対化できるようになる

【授業の進め方と方法】

文学作品（小説・映画）を選び、作品とそれについて資料を批判的に読み（見て）、その批判的理解を踏まえて自分の解釈をまとめ、プレゼンテーションとディスカッションをつうじてそれを他人に伝える具体的な訓練をする。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミのまとめをとおして理解度を確認し、本授業の予定を説明する。授業でとりあげる作品を解説する。
第 2 回	文学研究・映画研究とは何をするものか	プレゼンテーションをとおして何をすることを求められているかを説明する。授業でとりあげる作品を決定する。
第 3 回	アダプテーション研究の例	スウィフト『ガリバー旅行記』第 4 部（馬の国）をいかに論じるか。
第 4 回	4 分間プレゼンテーション——自分の好きな作品	ビブリオバトルの形式で自分の好きな作品（どのようなジャンルのものでも）についてプレゼンする。
第 5 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見る	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、その主題を文章にする。
第 6 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> に関する議論	映画 <i>The Remains of the Day</i> の主題について議論する。
第 7 回	<i>The Remains of the Day</i> を読む——ストーリーとプロット	<i>The Remains of the Day</i> を、ストーリーとプロットに注目して解釈する。
第 8 回	<i>The Remains of the Day</i> を読む——キャラクター	<i>The Remains of the Day</i> を、キャラクターに注目して解釈する。
第 9 回	<i>The Remains of the Day</i> を読む——ナレーター	<i>The Remains of the Day</i> を、ジャンルに注目して解釈する。
第 10 回	<i>The Remains of the Day</i> を読む——ジャンル	<i>The Remains of the Day</i> の原作と映画を比較する。
第 11 回	アダプテーション研究	<i>The Remains of the Day</i> の原作について、学生がプレゼンする。
第 12 回	<i>The Remains of the Day</i> の映画についての 8 分間プレゼンテーション	<i>The Remains of the Day</i> の映画について、学生がプレゼンする。
第 13 回	<i>The Remains of the Day</i> の映画についての 8 分間プレゼンテーション	<i>The Remains of the Day</i> の原作と映画について議論する。
第 14 回	<i>The Remains of the Day</i> の原作と映画についてのディスカッション	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションを課すので、パワポ資料を作成するなどの授業準備は絶対に必要。

【テキスト（教科書）】

Kazuo Ishiguro, *The Remains of the Day*, Faber & Faber
カズオ・イシグロ『日の名残り』（ハヤカワ epi 文庫）

【参考書】

ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（プレゼンテーションとディスカッション）50 %
期末レポート（アカデミック・ライティングの作法にしたがい、4000 字程度）50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業参加をうながすための機会をできるだけ多く作る。

2 年次演習（3）

小島 尚人

授業コード：A2973
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち 2013 年に公開された最新のものをみて、映画の分析の仕方学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解説しようとする習慣をつける。
- ・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感を味わうことで、さらなる読書への意欲を持つことができる。
- ・小説、映画の分析方法について、その基礎を学ぶことができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持てるようになる。
- ・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
- ・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法を習得する。

【授業の進め方と方法】

小説 *The Great Gatsby* を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／映画版を観る（1）	授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を見始める。
第 2 回	映画版を観る／導入	映画『華麗なるギャツビー』を見終える。フィッツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する
第 3 回	小説の読解、映画との比較（1）	<i>The Great Gatsby</i> の第一章を精読する。発表（初回は教員が担当）と質疑応答、ディスカッション
第 4 回	小説の読解、映画との比較（2）	<i>The Great Gatsby</i> の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 5 回	小説の読解、映画との比較（3）	<i>The Great Gatsby</i> の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 6 回	小説の読解、映画との比較（4）	<i>The Great Gatsby</i> の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 7 回	小説の読解、映画との比較（5）	<i>The Great Gatsby</i> の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 8 回	小説の読解、映画との比較（6）	<i>The Great Gatsby</i> の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 9 回	小説の読解、映画との比較（7）	<i>The Great Gatsby</i> の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 10 回	小説の読解、映画との比較（8）	<i>The Great Gatsby</i> の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 11 回	小説の読解、映画との比較（9）	<i>The Great Gatsby</i> の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 12 回	批評論文の読解（1）	<i>The Great Gatsby</i> について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ
第 13 回	批評論文の読解（2）	<i>The Great Gatsby</i> について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ
第 14 回	まとめ	受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときも、そうでないときも、事前にテキストをよく読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。

【テキスト（教科書）】

F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

【参考書】

アンドルー・ターンブル『完訳 フィッツジェラルド伝』（こびあん書房、1988 年）
野崎孝（編）『フィッツジェラルド』（研究社、1966 年）
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』（中央公論新社、2007 年）
リチャード・リーハン『「偉大なギャツビー」を読む——夢の限界』（旺史社、1995 年）
他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表・議論への参加度：40 %
期末レポート（3000 字以上）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言機会を多くとれるように工夫したい。

2 年次演習（4）

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2974

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class or online through H'etudes.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

2 年次演習（5）

川崎 貴子

授業コード：A2975

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の言語コミュニケーションの中でも、特に音声に関することについて学びます。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	プレゼンテーション実践 1	自己紹介プレゼンテーション・相互フィードバック
第 3 回	プレゼンテーション実践 2	自己紹介プレゼンテーション・相互フィードバック
第 4 回	音声学基礎	音声学の基礎を復習
第 5 回	音象徴 1	音とイメージとのつながり
第 6 回	音象徴 2	学生による発表（第 1 章）
第 7 回	音声と文字 1	学生による発表（第 2 章）
第 8 回	音声と文字 2	学生による発表（第 3 章）
第 9 回	調音音声学	調音音声学（第 4・5 章）の導入講義
第 10 回	音声イリュージョン 1	学生による発表（第 6 章）
第 11 回	音声イリュージョン 2	学生による発表（第 6 章）
第 12 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 13 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2
第 14 回	社会に見られる音声学	音声学や言語学が社会でどのように役立つのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。（自己紹介除く。）

一毎回、授業で指示される文献を読んでおく必要があります。

一毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんた問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（abstract）を 50%、授業内参加を 25%、授業内発表を 25% といたします。

【学生の意見等からの気づき】

学生による発表を中心にした授業形態が好評でしたので、引き続き発表機会をできるだけ多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

2 年次演習（6）【大沢ふよう先生】

大沢 ふよう

授業コード：A2976

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、これから自分の選択した専門的な分野に進むその前の準備段階をすることです。「言葉」とは何か、「英語」とは何かをいろいろな角度から考えていきます。高校までの英語の勉強とは違う視点で「言葉」の問題を考え、「言葉を研究する」とはどういうことか、ということを学びます。1 年生の時に履修した「基礎ゼミ」は、高校生を大学生にするためのものでした。従って、特に英文学科の専門の内容を反映したものではありませんでしたが、この 2 年次演習は、これから英文学科の専門科目を履修し、自分の speciality を決めていくための専門への導入と捉えられます。

【到達目標】

この授業を受講した結果、学生は英和辞典だけではなく、英英辞典も日常の学習で使いこなせるようになります。英語を英語で理解することができるようになります。「英語」についての、やや専門的な知識が増えます。日常に使う何気ない言葉に隠れている興味ふかい問題に気が付き、探求心を養えるようになります。必要な専門的文献の検索ができるようになります。将来の所属する演習を決め、卒論のテーマを考えるための準備となります。

【授業の進め方と方法】

毎回様々なトピックに沿って授業を行います。講義形式で教員が専門的な知識を説明する部分、学生が中心となって行う部分、一緒に考え討論する部分と多様な方法で行います。学生が中心となる活動の部分では、積極的に自分で考え、発言することが求められます。全員に **presentation** を行ってもらい、**peer review** により学んでもらいます。発表に関しては詳しく指導します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や進め方について詳しく説明する
第 2 回	英語について	「中学生英語」あなどるべからず。現在の英語力を理解しよう
第 3 回	英語学の分野について：伝統的英文法	中学・高校で学んできた英語とは。規範文法あるいは学校文法についてその利点と限界を知ろう
第 4 回	図書館ガイダンス（図書館の受け入れにより、予定変更の可能性がある）	英文学科での勉強に必要な文献や資料、また例文の集め方などを学ぶ
第 5 回	英英辞典について	英英辞典と英和辞典の違いを知り、実際に英英辞典を使ってみよう。英英辞典だけ使って、英語の文章が理解できるか、チャレンジしてみよう
第 6 回	英語学とはそもそもどのような学問か	言語は「構造が命！」ということの意味
第 7 回	英語と日本語ーその 1	英語と日本語はどう違うのか。比較するための方法についても紹介します
第 8 回	英語と日本語ーその 2	英語と日本語には共通点もある
第 9 回	プレゼンテーション (1)	マイクロ・プレゼンテーションで、表現力を磨こう。効果的なプレゼンする方法について
第 10 回	プレゼンテーション (2)	マイクロ・プレゼンテーションで、表現力を磨こう
第 11 回	プレゼンテーション (3)	第 1 組 マイクロ・プレゼンテーションで、表現力を磨こう
第 12 回	ペーパー・ライティング	第 2 組 「作文」からの脱却。評価される essay writing とは？ term paper の書き方も合わせて指導します
第 13 回	英語学の研究とは	「英語学」とは、どんなことを研究しているのか、少し紹介します。英語あるいは言語が変化すること
第 14 回	まとめ	学んだことのまとめと最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

presentation は、各自が興味のある問題について調べて、ハンドアウトを用意し口頭発表を行うものなので、授業でもやり方などを教授します。授業外に事前に準備をする必要があります。授業で習ったこと、技術は授業外で必ず活用することが必要で、たとえば、図書館ガイダンスで教わった海外の英語で出版されている学術雑誌を活用してみたかどうかなどは、授業時間内に聞かれることがあります。

【テキスト（教科書）】

1 冊で、この授業の内容を網羅しているテキストはありません。必要な教材はプリントして、配布する予定です。

【参考書】

初回の授業で活用すべき参考文献のリストを配布します。

辞書類：

1. *Collins COBUILD Advanced Dictionary*
2. *Oxford Dictionary of English*
3. *Longman Dictionary of Contemporary English*

『研究社大英和辞典』

『ジーニアス大英和辞典』

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価が 25%。積極的に授業に参加しているか評価します。

授業の中で行う小テストなどの評価が 25%

課題・プレゼンテーションの成績が 50%

課題の中には、学期中に提出してもらう短い **term paper** を含みます。評価の基準としては、問題設定がしっかりできているか、先行研究をある程度踏まえているか、自分独自の考え方を提案しているか、あるいは提案しようと努力したか、などです。書き方の指導もするので、形式を踏まえているかどうかとも評価の対象とします。プレゼンテーションに関しても事前に指導を行うので、それを踏まえているかどうかで評価します。

出席は毎回とります。

【学生の意見等からの気づき】

学生は教員から学ぶことも多いが、同僚の学生から学ぶことも多いと思われるので、学生どうして学べるように工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度に応じて、また設備を使う図書館ガイダンスは図書館の受け入れ態勢により変更される可能性があります。

2 年次演習（6）【石川潔先生】

石川 潔

授業コード：A2992

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの設定の仕方や研究法の初歩を、文処理や音声知覚の実例も使いつつ、学びます。

【到達目標】

科学的な言語研究の方法の初歩を身に着けること。

【授業の進め方と方法】

学生による発表および実習が中心となります。

授業計画は、学生の理解度などにより柔軟に変更します。下記の通りに行く保証はありません。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	他己紹介	他己紹介
第 3 回	研究テーマの決め方：予備編	研究テーマの見つけ方・表現法
第 4 回	因果関係の主張の仕方 1	要因と水準、反応
第 5 回	因果関係の主張の仕方 2	刺激、疑似相関、不純な要因
第 6 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性あり）	文献の調べ方などを学ぶ。
第 7 回	研究テーマの絞り方	現実に研究可能なテーマと不可能なテーマの違いを考える。
第 8 回	仮説の優劣を主張する方法	予測の概念
第 9 回	研究テーマの決め方 1	抽象的な問い（例：日本語の基本語順とは？）を、研究可能な具体的な問いに「翻訳」する。
第 10 回	研究テーマの決め方 2	複数の仮説による予測が一致する場合
第 11 回	議論の流れの作り方 1	先行研究にはない知見を主張する方法。
第 12 回	議論の流れの作り方 2：音声知覚での実例	複数の先行研究が矛盾する場合
第 13 回	学生による研究テーマ発表	例としての研究テーマ発表。発表者以外はコメント。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ、今後の学習への指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表のために文献や論文にあたること、handout やスライドなどの作成。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 60 %

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

Seminar in Cross-cultural Studies A

韓 沛君

授業コード：A2986

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

With an interest in exploring the very nature of culture – What exists? Who makes it? And why? – this course introduces a number of theoretical frameworks to help us analyze a variety of literature, films, fashion, music, commercials, social media, video games, food, and other cultural phenomena and practices. Turning to the interdisciplinary field of cultural studies, we will think through works associated with the Birmingham School, Frankfurt School, feminism, postmodernism, and others in order to address questions widely ranging from how cultural production and consumption affect identity and power politics, to how we coexist within a multicultural society of globalization. By the end of the course, students will have a comprehensive understanding of the key concepts of cultural studies, and be able to employ them into everyone's daily life and academic studies and, hopefully, even beyond.

【到達目標】

Students who complete this seminar will be able to:

- Understand the nature of cultural studies as a non-traditional discipline;
- Analyze a wide range of cultural texts from many different critical perspectives;
- Apply a variety of key concepts of cultural studies to everyday life adaptably;
- Employ critical thinking within an interdisciplinary framework into academic studies independently;
- Navigate and interpret the often contradictory meanings of cultural texts through a number of strategies and practices;
- Engage in an expansive critical discourse and mode of thinking and be informed of how to take related questions of aesthetics, ethics, politics and identity into consideration while launching specifically logical arguments with supporting evidence.

【授業の進め方と方法】

This course is mainly conducted in the ways of student-led presentations and interactive discussions. Following each theme of students' presentations, the related film-screening, project-based learning, off-campus field trip and critical essay (reaction paper) will be facilitating students' in depth understanding toward the theories and applications.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction	An introductory lecture by the instructor
第 2 回	What is "culture"?	Culture, cross-cultural, and cultural studies
第 3 回	How does cultural studies interpret what things mean?	Interpersonal Communication, Language, and Culture.
第 4 回	How does culture shape who we are?	Family Life: Romantic Relationships and Child-rearing
第 5 回	Culture and social structure	Diversity of Cultural Patterns in Different Societies
第 6 回	Comparative Case Study	The United States and Japan
第 7 回	Education and Diversity	Academic Training, Group Identity, and Citizenship Education in a Global Age
第 8 回	Film screening (I)	Lost in Translation (2003)
第 9 回	Gender and Culture (1)	Gender Hierarchy in Pop-culture
第 10 回	Gender and Culture (2)	Good Girls, Beautiful Brides, Wise Housewives and Versatile Mothers?

第 11 回	Class and Culture	Popular Culture and High Culture: Evaluation of Taste
第 12 回	Media and Recreation (1)	Cultural Differences in Tourist Motivation Between Anglo-American and Japanese Tourists
第 13 回	Media and Recreation (2)	Cross-Cultural in Materialism and Capitalism
第 14 回	Conclusion	Review, Discussion and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please make pre-class preparation in the following three ways.

1. Individual study for reading comprehension: Individual students are encouraged to go through assigned reading and notes to generate questions regarding the key concepts in the course materials.
2. Peer-learning for group discussion: To take part actively in the class discussion, please make study groups within 5 members to exchange ideas/comments regarding the reading texts for the coming class meeting.
3. E-learning system: To confirm updated materials and important announcements, please proactively utilize online system for E-learning materials and discussions on a regular basis before attending a class.

【テキスト（教科書）】

Readings will be distributed online and in class.

【参考書】

- * Literary Theory: A Very Short Introduction, 2nd Edition, Jonathan Culler, 2011 Oxford, ISBN 0199691347.
- * Introducing Cultural Studies: A Graphic Guide, Ziauddin Sardar & Borin Van Loon. 2010 Icon Books, ISBN: 1848311818.
- * Related readings and resources will be distributed online and in class.

【成績評価の方法と基準】

- Attendance & Participation 25%
 - Presentation on the Weekly Reading 25%
 - Theme Paper 30%
 - Critical Essay 20%
1. Please attend and prepare for every class meeting, as well as actively participate in our class discussions and share your comments/questions.
 2. Students will be divided into small groups (2-3 members for each group), taking turns to lead weekly reading and discussions over one of the themes in this semester. Every group needs to prepare for a 30-45 minute oral presentation to introduce not only the key concepts along with brief outlines but also the associated contents in the reading to our class. Additionally, you are in charge of a 5-10 minute Q/A session following the presentation.
 3. Based on your group presentations, students need to write a theme paper individually. This paper should be written in a form of double-spaced APA or MLA style, in-between 8-10 pages including bibliography and figures. It should critically engage arguments and analyses with the associated reading assigned for the theme. It will be evaluated on a basis of demonstrated mastery of the associated readings and applied theories; cogency and clarity of structure, as well as precision and relevance of evidence to prove your arguments of the theme.
 4. Furthermore, please write another critical essay according to another theme without presentation. Please exercise critical skills elaborately in a way of reflection, contradiction or reaffirmation on another group's presentation. This paper should be in a form of double-spaced APA or MLA style, in-between 5-6 pages including bibliography.
- * Please note that late submissions without reasonable excuse will NOT be accepted.

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

Seminar in Cross-cultural Studies B

韓 沛君

授業コード：A2987

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

With an interest in exploring the very nature of culture – What exists? Who makes it? And why? – this course introduces a number of theoretical frameworks to help us analyze a variety of literature, films, fashion, music, commercials, social media, video games, food, and other cultural phenomena and practices. Turning to the interdisciplinary field of cultural studies, we will think through works associated with the Birmingham School, Frankfurt School, feminism, postmodernism, and others in order to address questions widely ranging from how cultural production and consumption affect identity and power politics, to how we coexist within a multicultural society of globalization. By the end of the course, students will have a comprehensive understanding of the key concepts of cultural studies, and be able to employ them into everyone's daily life and academic studies and, hopefully, even beyond.

【到達目標】

Students who complete this seminar will be able to:

- Understand the nature of cultural studies as a non-traditional discipline;
- Analyze a wide range of cultural texts from many different critical perspectives;
- Apply a variety of key concepts of cultural studies to everyday life adaptably;
- Employ critical thinking within an interdisciplinary framework into academic studies independently;
- Navigate and interpret the often contradictory meanings of cultural texts through a number of strategies and practices;
- Engage in an expansive critical discourse and mode of thinking and be informed of how to take related questions of aesthetics, ethics, politics and identity into consideration while launching specifically logical arguments with supporting evidence.

【授業の進め方と方法】

This course is mainly conducted in the ways of student-led presentations and interactive discussions. Following each theme of students' presentations, the related film-screening, project-based learning, off-campus field trip and critical essay (reaction paper) will be facilitating students' in depth understanding toward the theories and applications.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Fieldwork Report
第 2 回	Religion, Morals, Customs, Values	Shaping Interpretations of Reality: Cultural Values
第 3 回	Social Capital and Connections (1)	Personal Networking in Russia and China: Blat and Guanxi
第 4 回	Social Capital and Connections (2)	Differences in Social Capital Between Western European Regions
第 5 回	Economic Life: Workplaces and Businesses (1)	Japanese Etiquette and Ethics in Business
第 6 回	Economic Life: Workplaces and Businesses (2)	Comparison of Ethical Attitudes of Business Managers: India, China, and the United States,
第 7 回	Comparative Case Study	China and Japan
第 8 回	Political Life: Government and Organizations	Beyond 'The State' and Failed Schemes.
第 9 回	The City, country and national identity	Topographies of Culture: geography, power and representation

第 10 回	Globalization-Hybridity	An Era of Transnational Migration
第 11 回	Guest Speaker/ Field trip	A talk by an invited guest speaker in the class or a field trip outside of the classroom
第 12 回	Modernity	Culture, time and history
第 13 回	Colonialism, Post-colonialism and Orientalism	"Who's power?" and "Who's civilization?" in "What Context?"
第 14 回	Conclusion	Review, Discussion and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please make pre-class preparation in the following three ways.

1. Individual study for reading comprehension: Students are encouraged to go through assigned reading and notes to generate questions regarding the key concepts in the course materials.
2. Peer-learning for group discussion: To take part actively in the class discussion, please make study groups within 5 members to exchange ideas/comments regarding the reading texts for the coming class meeting.
3. E-learning system: To confirm updated materials and important announcements, please proactively utilize online system for E-learning materials and discussions on a regular basis before attending a class.

【テキスト（教科書）】

Readings will be distributed online and in class.

【参考書】

- * Literary Theory: A Very Short Introduction, 2nd Edition, Jonathan Culler, 2011 Oxford, ISBN 0199691347.
- * Introducing Cultural Studies: A Graphic Guide, Ziauddin Sardar & Borin Van Loon. 2010 Icon Books, ISBN : 1848311818.

【成績評価の方法と基準】

- Attendance & Participation 25%
 - Group Presentation on the Weekly Reading 25%
 - Theme Paper 30%
 - Critical Essay 20%
1. Please attend and prepare for every class meeting, as well as actively participate in our class discussions and share your comments/questions.
 2. Students will be divided into small groups (2-3 members for each group), taking turns to lead weekly reading and discussions over one of the themes in this semester. Every group needs to prepare for a 30-45 minute oral presentation to introduce not only the key concepts along with brief outlines but also the associated contents in the reading to our class. Additionally, you are in charge of a 5-10 minute Q/A session following the presentation.
 3. Based on your group presentations, students need to write a theme paper individually. This paper should be written in a form of double-spaced APA or MLA style, in-between 8-10 pages including bibliography and figures. It should critically engage arguments and analyses with the associated reading assigned for the theme. It will be evaluated on a basis of demonstrated mastery of the associated readings and applied theories; cogency and clarity of structure, as well as precision and relevance of evidence to prove your arguments of the theme.
 4. Furthermore, please write another critical essay according to another theme without presentation. Please exercise critical skills elaborately in a way of reflection, contradiction or reaffirmation on another group's presentation. This paper should be in a form of double-spaced APA or MLA style, in-between 5-6 pages including bibliography.
- * Please note that late submissions without reasonable excuse will NOT be accepted.

【学生の意見等からの気づき】

Please do not hesitate to contact the instructor for any inquiry, question or concern. We can make an appointment for individual consultation or discussion during the instructor's office hour.

Second Language Learning and Teaching

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2990

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

Patsy M. Lightbown, and Nina Spada. (2013). *How languages are learned*. Oxford University Press. Approximately 4,200 yen.

【参考書】

- Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
- Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
- Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
- H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
- H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that some of the topics were interesting and helpful.

英語教育学演習 A

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2961

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class or online through H'etudes.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
 Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
 Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
 H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
 H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%
 Written report: 25%
 Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

英語教育学演習 B

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2962

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Examine the connection between second language research and second language pedagogy
2. Conduct research on instructed second language learning

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第 3 回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第 4 回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第 5 回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第 6 回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第 7 回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第 8 回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第 9 回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第 10 回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第 11 回	Developing fluency	Approaches to and research of fluency development
第 12 回	Designing language tests	Types and purposes of language tests; validity
第 13 回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第 14 回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class or online through H'etudes.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
 Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
 Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
 H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
 H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

英語学演習 (1) A

大沢 ふよう

授業コード：A2935

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていく手法を学びます。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになる能力を養成することを目指します

【到達目標】

この授業を受講することで、学生はある言語現象についての基礎知識を学び、既存の学説を理解し、受け入れるだけでなく、理論的な根拠をもとに批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【授業の進め方と方法】

現段階で次のように予定しています。学期中に、取り上げるテーマを幾つか決めます。テーマの中のトピックに関して書かれた論文や参考文献の抜粋を学生が順番にレポーターとなって内容について解説したり、教員や学生からの疑問点に中心になって答えます。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。こうすると、勉強できる分野が広がり、また内容がよく理解できます。取り上げるテーマは、「英語の統語論」「言語習得」「日本語と英語の比較」などを予定しています。これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。構成や順序は、受講生の理解度などに応じて、柔軟に対応させていく予定です。

また、3、4年生が混じったグループで、それぞれトピックを決め **Linguist List** を使って **posting** を行うグループ・プロジェクトを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。取り上げるテーマのための論文・研究書などの紹介
第 2 回	専門的研究への準備 プレゼンテーション	英語学・言語学の基礎知識の復習 4 年生の卒論テーマの発表 - (1)
第 3 回	統語論 プレゼンテーション	基本的事項の確認 4 年生の卒論テーマの発表 - (2)
第 4 回	統語論 (英語) プレゼンテーション	分析の基礎となる理論 (1) 専門概念の幾つか 4 年生の卒論テーマの発表 - (3)
第 5 回	統語論 (英語) プレゼンテーション	分析の基礎となる理論 (2) 基礎的操作 4 年生の卒論テーマの発表 - (4)
第 6 回	統語論 (英語) プレゼンテーション	論文精読 (1) ~レポーターによる報告 プレゼンテーションの技法の指導
第 7 回	統語論 (英語) グループ・プロジェクト	論文精読 (2) ~レポーターによる議論 グループ分けの発表
第 8 回	統語論 (現代英語)	論文精読 (3) ~クラス全員での議論
第 9 回	グループ・プロジェクト	各グループのトピックについてのプレゼンテーション
第 10 回	統語論 (現代英語) プレゼンテーション	現代英語についての理論的分析のまとめ 3 年生の研究テーマ発表 (1)
第 11 回	統語論 (日英比較) プレゼンテーション	日本語の構造 3 年生の研究テーマ発表 (2)
第 12 回	統語論 (日英比較) プレゼンテーション ターム・ペーパー	日本語と英語の共通点 3 年生の研究テーマ発表 (3) ターム・ペーパーの書き方についての指導
第 13 回	教育実習	教育実習の体験発表 質疑応答など
第 14 回	春学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポーターを割り当てられた論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむこと。ほとんどが英文で書かれてものなので、単なる表面的な翻訳だけではなく、内容について理解し説明ができるようにしておくことが必要です。例えば「binding」という用語が統語論の文献に出てきた場合、「縛る事、束縛」です、というだけではだめで、統語論での内容について解説できるように予習する必要がある。専門が初めての場合、初めから完璧は求めないが、調べてみようとするのが大事です。また、担当者でない場合も必ず予習をしてくること。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように務める。辞書を常に手元に置いて活用すること。

【テキスト（教科書）】

それぞれのテーマの中のトピックについての論文類をプリントして配布します。

【参考書】

初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。

辞書は、英和辞典だけではなく、英英辞典も活用するように心がけることが必要です。どの辞書でも結構ですが、特に以下のものは使いやすいです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

テーマについての学習活動、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパー、試験などで、総合的に判断します。

配分：タームペーパー 40%：評価基準としては、書き方についての詳しいマニュアルを配布して指導するので、まず形式をきちんと守っているか、問題の設定がきちんとできているか、先行研究を踏まえているか、自分独自の仮説が提示されているか、あるいは提示しようと努力したかどうか、などです。

クラスでの活動、プレゼンテーション 30%、試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

3年生と4年生の交流により、3年生の勉学へのモチベーションが高まるようにしたいと思います。グループ・プロジェクトは、良い機会です。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をもととわかにように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

英語学演習 (1) B

大沢 ふよう

授業コード：A2936

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、分野に関しての基礎的知識が身につくだけでなく、学生は既存の学説を批判的に継承し、独自の分析を加えて発展させていくことができるようになります。また、国際的言語学のネットワークを活用した調査・研究ができるようになります。

【授業の進め方と方法】

現段階では次のように予定しています。学期で、取り上げるテーマを幾つか決めます。テーマの中のトピックに関して書かれた論文に関して、順番に内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。取り上げるテーマは、「統語論」「日本語と英語の比較」などを予定しています。

これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

春学期に着手したグループ・プロジェクトの結果をグループごとにハンドアウトも用意してその結果を発表してもらいます。

構成や順序は、学生の理解度などに応じて柔軟に対応させていく予定です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	統語論	春学期に学んだ内容の確認
第3回	統語論（日英比較）	異なる言語を比較する際の問題点
第4回	統語論（日英比較）	日本語の構造
第5回	統語論（日英比較）	日本語の構造と英語の構造の比較
第6回	統語論（日英比較）	日本語と英語はどの点が共通で、どの点が違うのか
第7回	興味深い言語現象－言語習得	言語習得に関しての、様々な現象をいくつか紹介する
第8回	グループ・プロジェクト	調査結果とその分析について－ (1)
第9回	グループ・プロジェクト	調査結果とその分析について－ (2)
第10回	言語習得	習得理論についての批判的検証
第11回	言語習得	まとめとディスカッション
第12回	プレゼンテーション	3年生の研究発表－ (1) ゼミの成果の紹介
第13回	プレゼンテーション	3年生の研究発表－ (2) 卒論について説明
第14回	まとめ	内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者になった場合、割り当てられた論文は精密に読んで、授業に臨むこと。他のゼミ生からの質問に答えられるように準備しておくこと。

担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

それぞれのテーマの中のトピックについての論文類をプリントして配布します。

【参考書】

初回の授業で、詳しい文献リストを配布します。

辞書は、英和辞典だけではなく、英英辞典も活用するように心がけることが必要です。どの辞書でも結構ですが、特に以下のものは使いやすいです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

テーマについての学習活動、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパー、試験などで、総合的に判断します。

配分：タームペーパー 40%、クラスでの活動、プレゼンテーション、平常点 30%、試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

4年生からの有益な情報が3年生に届くように、工夫したい。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をもととわかにように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

授業を通しての卒業論文に関しての連絡事項も増えていくので、4年生は留意すること。

英語学演習 (2) A

畑 和樹

授業コード：A2937

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「語用論（主に会話分析）」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習 (2)B を引き続き履修しなければなりません。

【到達目標】

この演習の目標は、まず会話分析や関連する語用論の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【授業の進め方と方法】

基本的には学生による解説と質疑応答で進めます。毎時間、テキストの担当者を決め、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使い解説を行います。担当者は「例（教科書からの引用可）」を使って説明することが求められます。引き続き質疑応答とディスカッションをし、その後教員が補足説明を与えます。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず出席してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第 2 回	Chapter 1: Introducing the CA Paradigm	会話分析理論の概説（学生解説なし）
第 3 回	Chapter 2: Three Exemplary Studies (1)	Sacks' first lecture
第 4 回	Chapter 2: Three Exemplary Studies (2)	Schegloff's 'sequencing in conversational openings'
第 5 回	Chapter 2: Three Exemplary Studies (3)	Schegloff and Sacks on 'opening up closings'
第 6 回	Chapter 3: Ideas and Evidence in CA Research (1)	会話分析における「論拠」
第 7 回	Chapter 3: Ideas and Evidence in CA Research (2)	emic な視点とは
第 8 回	Chapter 4: CA and Different Disciplinary Agendas (1)	エスノメソドロジーと CA
第 9 回	Chapter 4: CA and Different Disciplinary Agendas (2)	言語学と CA
第 10 回	Chapter 4: CA and Different Disciplinary Agendas (3)	批判的分析と CA
第 11 回	Chapter 5: Collecting/Producing Recordings (1)	Naturalism の重要性
第 12 回	Chapter 5: Collecting/Producing Recordings (2)	データの種類と利（欠）点
第 13 回	Chapter 6: Transcribing Talk-in-Interaction	CA における転写について
第 14 回	復習	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う予定の箇所を必ず読み、説明ができるよう予習をしてください。

【テキスト（教科書）】

ten Have, Paul (2007). *Doing Conversation Analysis*.
出版社: SAGE Publications Ltd; Second 版 (2007/10/15)
ISBN-10: 1412921759
ISBN-13: 978-1412921756
各自、アマゾン等で入手してください。

【参考書】

語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート: 50%
担当箇所の解説: 30%
平常点: 20%
3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

言語学演習 (1) A

石川 潔

授業コード：A2939

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの設定の仕方および論文の書き方を、文処理や音声知覚の実例も使いつつ、学びます。

【到達目標】

- ・卒業論文として実現可能な研究テーマが設定できるようになること。
- ・科学的な研究法の基礎を身に着けること。
- ・論文としてのまとめ方の基礎を身に着けること。

【授業の進め方と方法】

学生による発表および実習が中心となります。
授業計画は、学生の理解度などにより柔軟に変更します。下記の通りに行う保証はありません。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	研究テーマの決め方：予備編	研究テーマの見つけ方・表現法
第 3 回	因果関係の主張の仕方 1	要因と水準、反応
第 4 回	因果関係の主張の仕方 2	刺激、疑似相関、不純な要因
第 5 回	4 年生による研究テーマ発表	予定している卒論テーマの発表。発表者以外はコメント。
第 6 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性あり）	文献の調べ方などを学ぶ。
第 7 回	研究テーマの絞り方	現実に研究可能なテーマと不可能なテーマの違いを考える。
第 8 回	仮説の優劣を主張する方法	予測の概念
第 9 回	研究テーマの決め方 1	抽象的な問い（例：日本語の基本語順とは？）を、研究可能な具体的な問いに「翻訳」する。
第 10 回	簡単な実験作成の実習	LinguaTools を用いた文処理の実験の作成
第 11 回	統計学の基礎 1	記述統計とその報告の仕方（代表値、分散など）
第 12 回	統計学の基礎 2	推測統計とその報告の仕方（検定、平均値比較、相関など）
第 13 回	統計学の実習	Excel および無料のツールを用いた実習
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ、秋学期に向けた課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表のために文献や論文にあたること、**handout** やスライドなどの作成および授業支援システムの掲示板へのアップ。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 60 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当の山口氏との相談のもと、学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則として「言語学演習 (1) B」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡をするようにしてください。また、教員が実施する実験に参加した場合には加点が行われる可能性があります。

英語学演習 (2) B

畑 和樹

授業コード：A2938

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「語用論（主に会話分析）」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習 (2)A を前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独履修はできません。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際コミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。基本的には学生による解説と質疑応答で進めます。毎時間、テキストの担当者を決め、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使い解説を行います。担当者は「例（っ教科書からの引用可）」を使って説明することが求められます。その後、質疑応答とディスカッションをし、教員が補足説明を与えます。初回には必ず出席してください。
秋学期からは、より「実際の分析・応用」に即した内容へと移行します。春学期内容からの知識を応用できるよう、各自における主体的な復習が必要です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	Chapter 7: Analytic Strategies (1)	どのように分析を行うか
第 3 回	Chapter 7: Analytic Strategies (2)	4 つの基本的 interactional organisation
第 4 回	Chapter 8: Elaborating the Analysis (1)	Generalisation
第 5 回	Chapter 8: Elaborating the Analysis (2)	Demonstration
第 6 回	Chapter 8: Elaborating the Analysis (3)	Countability
第 7 回	Chapter 9: Applied CA (1)	CA の応用（概要）
第 8 回	Chapter 9: Applied CA (2)	CA の応用（institutional talk）
第 9 回	学生によるプロジェクト (1)	学生による自主的プロジェクトの発表
第 10 回	学生によるプロジェクト (2)	学生による自主的プロジェクトの発表
第 11 回	学生によるプロジェクト (3)	学生による自主的プロジェクトの発表
第 12 回	復習	プロジェクトの総括と復習
第 13 回	卒論発表会（1）	4 年生による卒論発表とフィードバック
第 14 回	卒論発表会（2）	4 年生による卒論発表とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う予定の箇所に目を通してきてください。

【テキスト（教科書）】

ten Have, Paul (2007). *Doing Conversation Analysis*.

出版社: SAGE Publications Ltd; Second 版 (2007/10/15)

ISBN-10: 1412921759

ISBN-13: 978-1412921756

【参考書】

関連する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート: 30%

発表: 20%

担当箇所の解説： 30%

平常点： 20%

3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

最終の二回の授業は 4 年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。

言語学演習 (1) B

石川 潔

授業コード：A2940

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの設定の仕方および論文の書き方を、文処理や音声知覚の実例も使いつつ、学びます。

【到達目標】

- ・卒業論文として実現可能な研究テーマが設定できるようになること。
- ・科学的な研究法の基礎を身に着けること。
- ・論文としてのまとめ方の基礎を身に着けること。

【授業の進め方と方法】

学生による発表および実習が中心となります。

授業計画は、学生の理解度などにより柔軟に変更します。下記の通りに行く保証はありません。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業進行の確認
第 2 回	研究テーマの決め方 2	複数の仮説による予測が一致する場合
第 3 回	4 年生の改訂テーマ発表	改訂した卒論テーマの発表。発表者以外はコメント。
第 4 回	3 年生のテーマ発表	予定している卒論テーマの発表。発表者以外はコメント。
第 5 回	議論の流れの作り方 1	先行研究にはない知見を主張する方法。
第 6 回	議論の流れの作り方 2 ：音声知覚での実例	複数の先行研究が矛盾する場合： データ収集および背景説明
第 7 回	議論の流れの作り方 3	実験結果で効果が有意でない場合について
第 8 回	卒論のための実験 1	実験実施
第 9 回	卒論のための実験 2	実験実施
第 10 回	論文の作成法	全体の構成の仕方
第 11 回	先行研究の「中立的」「引用」、研究倫理	「参考文献」というものをなぜ述べるか。 先行研究の成果をどう解釈すべきか。 実験参加者の権利。
第 12 回	3 年生による卒論計画の発表	翌年度の卒論の計画の発表。発表者以外はコメント。
第 13 回	卒論相互コメント	卒業論文の記述の相互確認とコメント。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表のために文献や論文にあたること、**handout** やスライドなどの作成および授業支援システムの掲示板へのアップ。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 60 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当の山口氏との相談のもと、学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則として「言語学演習 (1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡をするようにしてください。また、教員が実施する実験に参加した場合には加点が行われる可能性があります。

言語学演習 (2) A

川崎 貴子

授業コード：A2941

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が知らず知らずのうちにやっている言語処理について、身近な事例を通して学びます。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	テーマ紹介	自己紹介プレゼン・テーマ紹介
第 3 回	言語と注意 1	言語処理について
第 4 回	言語と注意 2	言語処理と注意について
第 5 回	異なる処理モード	学生による発表（情報処理モードについて）
第 6 回	注意と言語知覚	学生による発表（注意と言語処理モードについて）
第 7 回	第二言語習得と注意	学生による発表（第二言語習得と注意について）
第 8 回	学習ストラテジー	学生による発表（第二言語習得と学習ストラテジーについて）
第 9 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 10 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2
第 11 回	音声の第二言語習得	第二言語習得音韻論に関する論文発表
第 12 回	母語と L 2 の関係	第二言語習得での母語の影響について
第 13 回	卒論テーマ発表 1	4 年生による卒論テーマ発表
第 14 回	卒論テーマ発表 2	4 年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。（自己紹介除く。）

－毎回、授業で指示される文献を読んでおく必要があります。

－毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんできた問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

授業内テスト・・・20%

レポート（アブストラクト）・・・20%

といたします。

●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。

●事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

ビブリオバトルを通して、言語学的な学びが深まったという声がありました。一見、無関係に思われる分野にも言語的な発見があることに気づく良い機会ですので、今年度も継続したいと思います。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生（演習受講生）は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

・原則として、言語学演習 (2) B と連続して履修して下さい。

言語学演習 (2)B

川崎 貴子

授業コード：A2942

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語音韻習得・言語心理学についてを学びます。また、日常の言語言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

【到達目標】

- 日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。
- 目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成が身につけられることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、日常の言語現象を分析しすることを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただこうと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	L 2 音韻習得 (1)	L 2 音韻習得についての導入
第 2 回	L 2 音韻習得 (2)	L 2 音韻習得についての文献調査
第 3 回	語彙記憶の調査 (1)	語彙知識の測定方法の先行研究 1
第 4 回	語彙記憶の調査 (2)	語彙知識の測定方法の先行研究 2
第 5 回	身の回りの音声イメージ	音象徴ー音とイメージ
第 6 回	聴覚・視覚・記憶 (1)	3 年生による発表 1
第 7 回	聴覚・視覚・記憶 (2)	3 年生による発表 2
第 8 回	聴覚・視覚・記憶 (3)	3 年生による発表 3
第 9 回	卒論発表 1	4 年生による研究発表ー 1 週目
第 10 回	卒論発表 2	4 年生による研究発表ー 2 週目
第 11 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表
第 12 回	論文の構成	論文の構造ー IMRaD
第 13 回	3 年生による卒論テーマの発表	卒論テーマの発表・4 年生による講評
第 14 回	研究法の紹介	音声研究・第二言語習得研究の手法紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。毎週、授業で指示される文献を読んでおく必要があります。毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんできた問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する予定です。プリントは、授業支援システムにアップロード致します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・40%

授業内発表・・・30%

授業内テスト・・・30%

といたします。

遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。

事前に連絡無く 4 回以上の欠席があった場合には D 評価といたします。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

原則として、春学期の言語学演習 (2) A と継続して履修して下さい。

英米文学演習 (1) A

宮川 雅

授業コード：A2943

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀アメリカ短篇小説研究

アーヴィング、ホーソーン、ポー、メルヴィルといった作家の代表的な短篇小説を読む。ポーとマーク・トウェインの短篇小説論も検討する。

(1) レポーター制による発表・質疑応答により、

①英文テキストを分析・解釈する営みを身につけるとともに、

②読んだ内容・情報を自らのことばでまとめる能力を養い、

③論理的思考力を養う。

(2) レポーター以外も積極的に予習をして、

④辞書を丁寧に引く習慣を身につけるとともに、

⑤議論に参加する積極性を養う。

(3) アメリカ作家とその作品について知識を得る。

【到達目標】

抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・

地域の歴史と文化について理解している。

(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。

(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。

具体的には、①アメリカ短篇小説の歴史と特徴についてある程度の知識を得る ② 19 世紀の代表的なアメリカ短篇作家の作品について、アメリカ文学・文化における位置づけとともに理解している ③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ④読むため・理解するために調べる、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【授業の進め方と方法】

前もって配布されたプリントの作品を 1 回 1 短篇小説を原則に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開する。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。担当作品の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカの短篇小説について／背景事情の説明／参考文献紹介／レポータ割り振り
第 2 回	Washington Irving (1783-1859) (1)	19 世紀のスタイル／レポーターによる発表および意見交換①。
第 3 回	Washington Irving (2)	枠構造と小説の時間／レポータによる発表および意見交換②
第 4 回	Nathaniel Hawthorne (1804-64) (1)	ビュリタニズムの文学／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	Poe, "Nathaniel Hawthorne"	短篇小説論の検討 (その 1)／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	Edgar Allan Poe (1809-49) (1)	マガジニズムと作家／レポータによる発表および意見交換⑤
第 7 回	Edgar Allan Poe (2)	テキストの重層性／レポータによる発表および意見交換⑥
第 8 回	Herman Melville (1819-91) (1)	読者の期待の地平／レポータによる発表および意見交換⑦
第 9 回	Herman Melville (2)	思想と文学／レポータによる発表および意見交換⑧
第 10 回	Louisa May Alcott (1832-88)	女性作家と読者／レポータによる発表および意見交換⑨
第 11 回	Samuel Clemens [Mark Twain] (1835-1910)	語りのスタイル／レポータによる発表および意見交換⑩
第 12 回	Mark Twain, "How to Tell a Story" (1894)	短篇小説論の検討 (その 2)／レポータによる発表および意見交換⑪
第 13 回	19 世紀末のゴシック小説	レポータによる発表および意見交換⑫
第 14 回	まとめとミニテスト	まとめとミニテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。

翻訳を参考にしてもらってかまわないが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。

【テキスト（教科書）】

配布プリントを使用。

【参考書】

元田脩一『アメリカ短篇小説の研究——ニュー・ゴシックの系譜』（1972）

橋本賢二『アメリカ短篇小説の構造』（2009）

八木敏雄訳『ボオ評論集』（2009）

その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価） 40 パーセント

授業への積極的参加度（予習と参加の度合い） 20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある） 40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさばらぬようにきちんと指導する。

英米文学演習 (1) B

宮川 雅

授業コード：A2944

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ小説研究

半期で読める中篇小説を精読する。今回は、作家自身が "novel" と呼んだことと、春学期の短篇小説講読からのつながりを考え、ゆるやかにつながった短篇小説集とも言える、Sherwood Anderson の *Winesburg, Ohio* (1919) を読む。中篇小説を丁寧に精読しながら、分析・解釈の具体的な方法を学ぶことを目的とする。英語の読解・注釈作業をとおして論理的思考やリサーチ能力を高め、説得力のあるプレゼンテーションと質疑応答の能力を身につける。

【到達目標】

抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。

(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。

(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。

具体的には、① 19 世紀の農本主義から産業主義への変化におけるアメリカ人の姿を眺める ②アメリカ的な短篇小説の特徴について、アンダーソンの作品を通して理解する ③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【授業の進め方と方法】

Norton Critical Edition を使用して過去の研究や批評にも目を向けながら読む。授業はレポーター制の演習形式で展開するが、いっぽうで分析や解釈のポイントないし主題について考えながら読み進める（各回のテーマを参照）。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。レポーター担当の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	注釈から批評行為へ	歴史的な概説と文学史の評価など／参考文献紹介／レポーター割り振り／"The Book of the Grotesque"を読む
第 2 回	論証と精読とリサーチ	"Hands," "Paper Pills"／レポーターによる発表および意見交換①。
第 3 回	作品分析——テキスト	"Mother"／レポーターによる発表および意見交換②
第 4 回	作品分析——ストーリーとプロット	"The Philosopher"／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	作品分析——登場人物（キャラクター、ピープル）	"Nobody Knows"; "Godliness: A Tale in Four Parts," Part I／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	作品分析——比喩、イメージ、象徴	"Godliness: A Tale in Four Parts," Part II; "Surrender" (Part III)／レポーターによる発表および意見交換⑤
第 7 回	作品分析——視点と語り	"Terror" (Part IV)／レポーターによる発表および意見交換⑥
第 8 回	作品分析——ストーリーとフレーム	"A Man of Ideas"; "Adventure"／レポーターによる発表および意見交換⑦
第 9 回	作品解釈——歴史的コンテキスト	"Respectability"; "The Thinker"／レポーターによる発表および意見交換⑧
第 10 回	作品解釈——キャラクター	"Tandy"; "The Strength of God"／レポーターによる発表および意見交換⑨
第 11 回	作品解釈——語り	"The Teacher"; "Loneliness"／レポーターによる発表および意見交換⑩
第 12 回	作品解釈——視点	"An Awakening"; "Queer"／レポーターによる発表および意見交換⑪
第 13 回	作品解釈——象徴主義	"The Untold Lie"; "Drink"／レポーターによる発表および意見交換⑫
第 14 回	まとめ	"Death"; "Sophistication"; "Departure"／レポーターによる発表および意見交換⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。

翻訳を参考にしてもらってかまわないが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。

【テキスト（教科書）】

Sherwood Anderson, *Winesburg, Ohio*. Ed. Charles E. Modlin and Ray Lewis White. New York: Norton, 1995. 256pp. ISBN: 978-0-393-97614-4

【参考書】

平石貴樹『アメリカ文学史』（2010）

Norton Critical Edition 所収の一次資料・二次資料、また、Bibliography 参照。
その他、折にふれて教室で提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価） 40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い） 20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある） 40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさぼらぬようにきちんと指導する。学生の積極的参加と議論を促す工夫をする。

英米文学演習 (3) A

結城 英雄

授業コード：A2947

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はモダニズム文学の革新的な作家、ジェイムズ・ジョイス (1882-1941) の作品を読みながら、創作の背景を学ぶことを目的とする。モダニズム文学を広い視野で学び、その誕生の意義や国際性について理解し、現代文学との関わりを検討できるようになる。

【到達目標】

- (1) ジョイスの文学が都市ダブリンと不可分であることの意味を考察し、ひいては作品と都市との密接な関わりを理解できるようになる。
- (2) ローカルでありながらグローバルであることの意味についても、モダニズムという観点から読めるようになる。

【授業の進め方と方法】

文学は普遍と個別の側面からのアプローチが可能であるし、個々の作品もまたその両面から楽しめるが、ジョイスの作品は都市の地誌や歴史を知らなければ、その意味を把握することはできない。そのためジョイスの作品を取り巻く時代状況をめぐり、学生一人一人が私見を構築できるよう、問いを立てながら進行する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ジェイムズ・ジョイスの生涯 (1)	アイルランドの歴史
第 2 回	ジェイムズ・ジョイスの生涯 (2)	ダブリンの地誌
第 3 回	<i>Dubliners</i> (1)	教育
第 4 回	<i>Dubliners</i> (2)	経済
第 5 回	<i>Dubliners</i> (3)	宗教
第 6 回	<i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> (1)	家庭生活
第 7 回	<i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> (2)	文学
第 8 回	<i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> (3)	女性
第 9 回	<i>Ulysses</i> (1)	政治
第 10 回	<i>Ulysses</i> (2)	文学
第 11 回	<i>Ulysses</i> (3)	風俗
第 12 回	<i>Finnegans Wake</i> (1)	娯楽
第 13 回	<i>Finnegans Wake</i> (2)	思想
第 14 回	まとめ	レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献は事前に読んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

結城英雄『ジェイムズ・ジョイスを読む』（集英社、2004）

【成績評価の方法と基準】

レポート (70 %) の他、授業での貢献度 (30 %) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が発表する機会を多く持つようにする。

英米文学演習 (3) B

結城 英雄

授業コード：A2948

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アイルランドでは、1890 年代から 1920 年にかけて、アイルランド文学ルネサンスという豊饒な文学運動がおこった。この授業ではその実情を知り、ルネサンスと呼ばれるゆえんについて学ぶことを目的とする。さらにこの運動が、今日のアイルランド国民のアイデンティティの形成に寄与した歴史についても、考えられるようになる。

【到達目標】

- (1) アイルランド文学ルネサンスの主要な作家を取りあげ、その目的や活動について理解できるようになる。
- (2) そしてこの前提によって立ち、一人一人の学生が文化の力や国家の形成について理解を深められるようになる。
- (3) また今日のアイルランドのジョイス受容を考察できるようになる。

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生の意見を聞き、双方向的に進行する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	アイルランド文学ルネサンスとは何か？ (1)	時代背景
第 2 回	アイルランド文学ルネサンスとは何か？ (2)	作家紹介
第 3 回	W. B. イェイツ (1)	詩
第 4 回	W. B. イェイツ (2)	アビー劇場
第 5 回	J. M. シング	劇
第 6 回	レイディ・グレゴリー	劇
第 7 回	ジョージ・ムア	小説
第 8 回	ジェイムズ・ジョイス (1)	対立
第 9 回	ジェイムズ・ジョイス (2)	離脱
第 10 回	ジェイムズ・ジョイスの受容 (1)	潜伏期
第 11 回	ジェイムズ・ジョイスの受容 (2)	変遷期
第 12 回	ジェイムズ・ジョイスの受容 (3)	開花期
第 13 回	ジェイムズ・ジョイスの受容 (4)	変遷期
第 14 回	まとめ	レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

Brown, Terence. *Ireland: Social and Cultural History 1922-2002* (London: Fontana, 2004).

【成績評価の方法と基準】

レポート (70 %) の他、授業での貢献度 (30 %) を含め、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が発表する機会を多くする。

英米文学演習 (5) A

小島 尚人

授業コード：A2951

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は 20 世紀半ばの南部作家 Carson McCullers の代表作 *The Member of the Wedding* (1950) を一学期かけて読破する。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・文学作品に関する発表、ディスカッション、レポートの技法を習得する。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
- ・『結婚式のメンバー』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・カーソン・マッカーラーズの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化についての知識を深める。

【授業の進め方と方法】

毎週原文で 15 頁程度のペースで読み進める。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に原書を用いる。授業は基本的に演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせのあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表分担者を決定する。カーソン・マッカーラーズとその作品について紹介したのち、映画『愛すれど心さびしく』を見はじめる
第 2 回	映画を通じて作者の世界を知る	映画『愛すれど心さびしく』を見終えたのち、映画について補足解説とディスカッション
第 3 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解①——書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、教員による補足説明、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 4 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解②——アメリカ南部という舞台設定の効果	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解③——語り手と視点	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解④——共同体と個人	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解⑤——物語とジェンダー	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 8 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解⑥——時間経過と主人公の変化	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解⑦——イメージ、シンボル、アレゴリー	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解⑧——南部と北部	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	<i>The Member of the Wedding</i> 読解⑨——結末の解釈について	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	日本語論文の読解	<i>The Member of the Wedding</i> について書かれた日本語論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 13 回	英語論文の読解	<i>The Member of the Wedding</i> について書かれた英語論文を読み、小説を論じる方法についてさらに考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう。

英米文学演習 (5) B

小島 尚人

授業コード：A2952

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は 20 世紀前半のユダヤ系作家 Nathanael West のハリウッドを舞台にした作品 *The Day of the Locust*（1939）を一学期かけて読破する。

【到達目標】

・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
・文学作品に関する発表、ディスカッション、レポートの技法を習得する。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
・『いなごの日』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・ナサニエル・ウェストの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化についての知識を深める。

【授業の進め方と方法】

毎週原文で 15 頁程度のペースで読み進める。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に原書を用いる。授業は基本的に演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	期末レポートの総評と、レポートの書き方の解説。発表分担者を決定する。ナサニエル・ウェストとその作品、1930 年代という時代背景についての講義
第 2 回	卒業論文中間発表会	四年生による卒論テーマ、章立て、概要についてのプレゼンテーション。授業後半は、映画『イナゴの日』を見はじめる
第 3 回	映画を通じて物語を知る	映画『イナゴの日』を見終えたのち、映画について補足解説とディスカッション
第 4 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解①——書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解②——西海岸とハリウッドという舞台設定の効果	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解③——主人公とサブキャラクター	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解④——アメリカン・ドリームとその陰面	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 8 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解⑤——女性キャラクターの表象	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解⑥——ブラック・ユーモアとは何か	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解⑦——モダニズム作品としての『いなごの日』	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	<i>The Day of the Locust</i> 読解⑧——結末の解釈について	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	日本語論文の読解	<i>The Day of the Locust</i> について書かれた日本語論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 13 回	英語論文の読解	<i>The Day of the Locust</i> について書かれた英語論文を読み、小説を論じる方法についてさらに考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておくとよい。

授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】

Carson McCullers, *The Member of the Wedding*. Mariner Book, 2004. ISBN: 9780618492398

【参考書】

ヴァージニア・スペンサー・カー『孤独な狩人——カーソン・マッカーラーズ伝』（国書刊行会、1998 年）
吉岡葉子『南部女性作家論—ウエルティとマッカーラーズ』（旺史社、1999 年）
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）： 30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）： 30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】

秋学期に英米文学演習 (5) B を履修することが望ましい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておくとよい。

授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】

Nathanael West, *Miss Lonelyhearts & The Day of the Locust*. New Directions Book, 2009.
ISBN: 9780811218221

【参考書】

今井夏彦『アメリカ 1930 年代の光と影——ナサニエル・ウェスト論』（荒地出版社、2008 年）

渡辺利雄『講義アメリカ文学史【補遺版】』（研究社、2010 年）

諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）

杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）

ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）：30 %

・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %

・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】

春学期に英米文学演習 (5) A を履修することが望ましい。

英米文学演習 (6) A

丹治 愛

授業コード：A2953

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テキスト）を解釈する行為である。解釈とはテキストを読むための特定のコンテキストを定めて、テキストの意味を確定していく行為である。それは感想文とどういう点で異なるのかといった問いをとおして、文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテキスト（イギリス小説）を、文化的社会的コンテキストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、小説を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群を学習する——物語（ストーリー／プロット／ディスコース）、キャラクター、語り手（ナレーター）と視点人物、イメージとシンボルとアレゴリーなど。最終的に、教材となった文学作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】

この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかをはじめに学習したうえで、ひとつの作品（イギリス小説）を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解力、批判的読解をとおして論理的にもの考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【授業の進め方と方法】

演習であるので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。

【授業計画】

春学期			
回	テーマ		内容
第 1 回	文学批評とは何か——テキストの多義性と解釈		文学批評とはなにかを議論する。
第 2 回	論証と精読（批判的読解）とリサーチ		論証と精読（批判的読解）とリサーチの方法について議論する。
第 3 回	作品の分析——物語（ストーリーとプロットとディスコース）		物語（ストーリーとプロットとディスコース）に注目して、作品を分析する。
第 4 回	作品の分析——キャラクター（中心人物と周辺的人物）		キャラクターに注目して、作品を分析する。
第 5 回	作品の分析——ナレーターと視点人物（誰が見ているか、誰が語っているか）		ナレーターと視点人物に注目して作品を分析する。
第 6 回	作品の分析——イメージ、シンボル、アレゴリー		イメージ、シンボル、アレゴリーに注目して、作品を分析する。
第 7 回	これまでのまとめ——質問とディスカッション		これまでのまとめ。教員への質問と学生どうしの議論を行う。
第 8 回	批評作品の読解——物語とキャラクター		物語とキャラクターを論じている具体的な作品論を読む。
第 9 回	批評作品の読解——ナラトロジー（語り手と視点）		語り手と視点を論じている具体的な作品論を読む。
第 10 回	批評作品の読解——イメージ、シンボル、アレゴリー		イメージ、シンボル、アレゴリーを論じている具体的な作品論を読む。
第 11 回	批評作品の読解——文学史的背景		文学史的背景を論じている具体的な作品論を読む。
第 12 回	批評作品の読解——文化社会的背景		文化社会的背景を論じている具体的な作品論を読む。
第 13 回	作品解釈口頭発表（1）——プレゼンテーション		授業であつかつてきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 14 回	作品解釈口頭発表（2）——プレゼンテーション		授業であつかつてきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、自分の意見をまとめる。

【テキスト（教科書）】

Evelyn Waugh, *Brideshead Revisited* (Penguin Classics)

イヴリン・ウォー『回想のブライズヘッド』（岩波文庫）

【参考書】

丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技法』（白水社）

Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】

1. 文学批評のプロセスを理解している。
2. 文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
3. 授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。

授業への貢献度 50 %

期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。

英米文学演習 (6) B

丹治 愛

授業コード：A2954

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テキスト）を解釈する行為である。解釈とはテキストを読むための特定のコンテキストを定めて、テキストの意味を確定していく行為である。文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテキスト（イギリス小説を原作とした映画）を、文化的社会的コンテキストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、映画を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群のうち、映像分析に関わるものを学習する。そして原作との比較をとおして映画を解釈するアダプテーション研究の方法を実践的に学習する。最終的に、教材となった映画作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】

この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかを学習したうえで、ひとつの映画作品を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解・聴解力、批判的読解をとおして論理的にものを考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【授業の進め方と方法】

演習であるので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	映画批評とは何か——映画の要素	映画批評とは何かを議論する。
第 2 回	映像分析（1）——構図	構図に注目して映像分析を学習する。
第 3 回	映像分析（2）——カメラワーク	カメラワークに注目して映像分析を学習する。
第 4 回	映像分析（3）——編集	編集に注目して映像分析を学習する。
第 5 回	映像分析（4）——アートディレクション	アートディレクションに注目して映像分析を学習する。
第 6 回	アダプテーション研究（1）——理論	アダプテーション研究の理論について学習する。
第 7 回	アダプテーション研究（2）——ストーリー・プロット・ディスコース	ストーリー・プロット・ディスコースに注目して、映画とその原作を比較する。
第 8 回	アダプテーション研究（3）——キャラクター	キャラクターに注目して、映画とその原作を比較する。
第 9 回	アダプテーション研究（4）——語り	語りに注目して、映画とその原作を比較する。
第 10 回	作品批評（英語）講読——原作について	原作についての作品批評（英語で書かれたもの）を講読する。
第 11 回	作品批評（英語）講読——映画について	映画についての作品批評（英語で書かれたもの）を講読する。
第 12 回	作品解釈口頭発表（1）——プレゼンテーション	授業であつてきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 13 回	作品解釈口頭発表（2）——プレゼンテーション	授業であつてきた作品について学生が自分の解釈を口頭発表しあう。
第 14 回	まとめ	授業全体について、相互に質問し、議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、自分の意見をまとめる。

【テキスト（教科書）】

Evelyn Waugh, *Brideshead Revisited* (Penguin Classics)
Brideshead Revisited (1981 film)
Brideshead Revisited (2008 film)

【参考書】

丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
 マイケル・ライアン、メリッサ・レノス『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社）

Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】

1. 文学批評のプロセスを理解している。
 2. 文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
 3. 授業であつてきた作品について自分なりの解釈を提示できる。
- 授業への貢献度 50 %
 期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。

英米文学演習 (8) A

山崎 暁子

授業コード：A2957

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることで、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【授業の進め方と方法】

“happiness” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Oscar Wilde, L. M. Montgomery, P. L. Travers, A. A. Milne の作品を扱う。授業では 1～2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋）を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進め、ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第 2 回	ブレインストーミング	キーワード “happiness” についてディスカッション
第 3 回	イングランドの昔話——昔話の英語と物語の特徴	発表とディスカッション
第 4 回	“The Happy Prince”（1）——19 世紀後半のイギリス	発表とディスカッション
第 5 回	“The Happy Prince”（2）——寓話の特徴	発表とディスカッション
第 6 回	“The End of a Quarrel”（1）——20 世紀初頭のカナダ	発表とディスカッション
第 7 回	“The End of a Quarrel”（2）——キリスト教的価値観	発表とディスカッション
第 8 回	翻訳（1）——第 4 回～7 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 9 回	“Every Goose a Swan”（1）——20 世紀初頭のイギリス	発表とディスカッション
第 10 回	“Every Goose a Swan”（2）——枠物語	発表とディスカッション
第 11 回	<i>The House at Pooh Corner</i> 抜粋（1）——散文と韻文	発表とディスカッション
第 12 回	<i>The House at Pooh Corner</i> 抜粋（2）——20 世紀初頭の子供像	発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2）——第 9 回～12 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで授業に出席する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。
 石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年
 諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年
 コーラル・アン・ハウエルズ他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016 年
 Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
 桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

英米文学演習 (8) B

山崎 暁子

授業コード：A2958

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることににより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【授業の進め方と方法】

“happiness” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Eleanor Farjeon, Margaret Mahy, Agatha Christie, Ursula K. le Guin, Philippa Pearce, Joan Aiken, Janet Frame, Katherine Mansfield の作品を扱う。

授業では 1～2 回にわたって 1 つの短編を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進め、ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期のレポート返却、作品の紹介、受講希望者の興味・知識の確認
第 2 回	“The Veil of Irazade” — ストーリーテリング	講読、講義、ディスカッション
第 3 回	“Two Sisters” — ファンタジー	発表とディスカッション
第 4 回	“The Call of Wings” (1) — 20 世紀前半のイギリス	発表とディスカッション
第 5 回	“The Call of Wings” (2) — 伏線的作用	発表とディスカッション
第 6 回	“The Ones Who Walk Away from Omelas” — SF	発表とディスカッション
第 7 回	翻訳 (1) — 第 2 回～6 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 8 回	“The Tree in the Meadow” (1) — 20 世紀後半のイギリス	発表とディスカッション
第 9 回	“The Tree in the Meadow” (2) — リアリズム	発表とディスカッション
第 10 回	“Four Angels to My Bed” — メタフィクション	発表とディスカッション
第 11 回	“Child” — 意識の流れ	発表とディスカッション
第 12 回	“A Dill Pickle” — 20 世紀前半のニュージーランド	発表とディスカッション
第 13 回	翻訳 (2) — 第 8 回～12 回の短編の一部を翻訳・検討	発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	秋学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで授業に出席する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年
コーラル・アン・ハウエルズ他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

【その他の重要事項】

内容的には春学期と連続しているが、秋学期からの履修も可能。

英米文学演習 (9) A

利根川 真紀

授業コード：A2959

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深める演習です。今年度のテーマは、「アメリカ文学と幽霊」です。19 世紀中頃から 20 世紀末にかけて出版された小説の中から、幽霊が姿を見せるものをいくつか選んで読み、それらの小説に幽霊が登場するのはなぜか、幽霊を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

- 扱う作家・作品について理解を深める
- 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【授業の進め方と方法】

カポーティ、スペンサー、ギルマン、フォークナーの作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家で、幽霊が出てくる作品も出てこない作品も書いている作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論という形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が選んで紹介する、各 10 分程度のプレゼンテーションも予定しています。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、次回までの宿題の説明
第 2 回	幽霊と文学	幽霊物語に関する背景知識
第 3 回	トルーマン・カポーティと "Miriam" (前半)	雪のニューヨークで老婆が出会う少女
第 4 回	"Miriam" (後半)	カメオのプローチの行方
第 5 回	エリザベス・スペンサーと "First Dark" (前半)	道の曲がり角に現れる黒人
第 6 回	"First Dark" (後半)	母の死後、屋敷が娘に告げるのは
第 7 回	シャーロット・パーキンズ・ギルマンと "The Yellow Wall-Paper" (前半)	壁紙のこちら側と向こう側
第 8 回	"The Yellow Wall-Paper" (後半)	最上階のドアを開ける夫が見つけたものは
第 9 回	ウィリアム・フォークナーと "That Evening Sun" (前半)	南部の白人屋敷に住む 3 人兄弟
第 10 回	"That Evening Sun" (後半)	黒人女性ナンシーの目に見えるもの
第 11 回	ブックトーク① (カポーティ、スペンサー、ギルマン他)	各自、春・秋学期に扱う各作家の他作品を紹介する
第 12 回	ブックトーク② (フォークナー、ポー、オーツ他)	各自、春・秋学期に扱う各作家の他作品を紹介する
第 13 回	ブックトーク③ (ウォートン、スタインベック、ジェイムズ、キャザー他)	各自、春・秋学期に扱う各作家の他作品を紹介する
第 14 回	資料持ち込みのテスト	春学期のまとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。ハンドアウトの作成の仕方は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、討論で発言できるよう、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備しよう。また、授業時間内でのグループワークの結果を授業後にメールで送信する場合もあります。全グループの報告結果をまとめたものを、次週の授業時に配布しますので、締め切りを厳守してください。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (35 %)、資料持ち込みのテスト (35 %) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないよう心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった学生でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

英米文学演習 (9) B

利根川 真紀

授業コード：A2960

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深める演習です。今年度のテーマは、「アメリカ文学と幽霊」です。19 世紀中頃から 20 世紀末にかけて出版された小説の中から、幽霊が姿を見せるものをいくつか選んで読み、それらの小説に幽霊が登場するのはなぜか、幽霊を通してしか表現できないものとは何か、それを執筆した作家たちが生きた時代背景や作家の個人的事情とは何だったのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

1. 扱う作家・作品について理解を深める
2. 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
3. ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
4. 文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【授業の進め方と方法】

ポー、オーツ、ウォートン、スタインベックの作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家で、幽霊が出てくる作品も出てこない作品も書いている作家たちです。また、夏休みに複数の課題の中から長編小説を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋がります。ゼミ仲間や教員からのレスポンスを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論という形で進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
第 2 回	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
第 3 回	エドガー・アラン・ポーと"The Black Cat" (前半)	恐怖小説と語り手
第 4 回	"The Black Cat" (後半)	復習と幽霊
第 5 回	ジョイス・キャロル・オーツと"Secret Observations on the Goat-Girl"	トウモロコシ小屋に住むヤギ少女
第 6 回	イーデリス・ウォートンと"Pomegranate Seed" (3 分の 1)	ハネムーンからの帰館
第 7 回	"Pomegranate Seed" (3 分の 2)	謎の手紙が届くと夫に変化が
第 8 回	"Pomegranate Seed" (3 分の 3)	義母と力を合わせて
第 9 回	ジョン・スタインベックと"The Snake"	ジェンダーと幽霊
第 10 回	ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』(1898)	グループ発表 (夏休みのペーパーごとにテーマ設定)
第 11 回	ウィラ・キャザー『マイ・アントニア』(1918)	グループ発表 (夏休みのペーパーごとにテーマ設定)
第 12 回	ハーバー・リー『アラバマ物語』(1960)	グループ発表 (夏休みのペーパーごとにテーマ設定)
第 13 回	春学期・秋学期のまとめ	幽霊が彷徨う理由
第 14 回	書き直した長めのペーパーの提出と自己評価	ペーパーから卒論準備へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、討論で発言できるよう、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備します。また、図書館データベースを利用した文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのレスポンスペーパーの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備を進めていきます。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (35 %)、ペーパー関連 (35 %) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないよう心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった学生でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

英語の文法力 I

畑 和樹

授業コード：A2977

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の日本ではグローバル化が叫ばれ、今の学生に求められているのは学問・教科としての英語から脱却し実用可能な英語力を開拓することです。その基盤となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。

本科目は、高校までに既習した英文法の知識を復習しつつ、授業内外の活動を通じて、これまで学習した英語の知識を運用力に変える支援を目的としています。授業活動としては、各種言語学アプローチ（コーパス言語学、談話・会話分析等）を用いて、社会における英語使用の実例を分析します。また、対話形式の演習を通じて、主体的な思考力、応用力を養います。

春学期では基本的な項目（**intermediate**）を扱います。秋学期には応用的な内容を扱うので、連続して履修することをお勧めします。

【到達目標】

本科目における最終目標は、各自が英語に対する苦手意識を克服し、社会における英語の実用に対応できる基盤を作ることです。文法力を駆使し、英語におけるコミュニケーション力向上を第一目標とします。授業内外の学習活動を通じて、役に立つ英語構文や表現を理解、応用することによって「日本語を介さない英語の発話・記述」の実現を目指します。**PowerPoint** 等を使ったプレゼンテーションや小論文（どちらも英語による）等、実際の言語使用を通じて実用力向上を図ります。

まとめ：

- ①英語文法における、基本的な知識を習得する
- ②「対話の道具」としての英語に注目し、実用力を養う
- ③日々の学習を基底とした、英語運用の実践を行う

【授業の進め方と方法】

授業は英語で行い、教科書（下記参照）を中心に演習形式の授業を展開します。一方的な講義形式の授業ではなく、主体的な学習を支援すべく、課題中心の質疑応答やグループディスカッションを多く取り入れた対話型授業となります。また、学生によるプレゼンテーションや小論文執筆も行います。

各単元の初めに、「当日内容」出題の小テストを行います。必ず予習をしてから出席してください。

※少人数での演習形式の授業を行うため、履修希望者過多の場合は小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	科目領域の概説、授業の進め方や履修条件の説明
第 2 回	Tense (Unit 1-25)	時制（現在形・完了形・過去形・未来形）の復習・総括
第 3 回	Modals (Unit 26-41)	助動詞の演習
第 4 回	Voices and reported speech (Unit 42-48)	受動態の演習、学術的表現法（ e.g. it is argued that... ）、間接話法の演習
第 5 回	Interrogatives and response types (Unit 49-52)	疑問形構文・応答表現の演習
第 6 回	Gerund and to-infinitives (Unit 53-68)	動名詞・不定詞の演習
第 7 回	Articles and nouns (Unit 69-81)	各種名詞（可算、不可算、固有）の復習、冠詞の演習
第 8 回	Pronoun and determiners (Unit 82-91)	代名詞・定冠詞の演習
第 9 回	Workshop	日本人英語学習者の英語表現に対するエラー分析（実践）、既習項目の復習 ※後日、エッセイ提出要
第 10 回	Relative clause	各種関係詞節の演習
第 11 回	Adjectives and adverbs (Unit 98-112)	形容詞・副詞の演習
第 12 回	Conjunctions and prepositions (1) (Unit 113-120), Additional: Discourse markers	接続詞・前置詞 (1) の演習、談話標識の実用
第 13 回	Prepositions (2) (Unit 121-136)	前置詞 (2) の演習・動詞とのコロケーション
第 14 回	Final exam	学期末試験の実施、エッセイについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は「必ず」授業前に行ってから出席してください。それを前提として授業や演習内容は組み立てられます。当日内容は小テストに出題されますので、予習が必要です。また、授業後の復習や自主的な練習も重要です。

【テキスト（教科書）】

Murphy, R. (2015). *English grammar in use* (4th ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., Finegan, E., & Quirk, R. (1999). *Longman grammar of spoken and written English. England: Pearson Education.* (授業内配布教材、主に演習時使用)
その他、項目・内容ごとに参考文献や資料や課題などを適時配布します。

【成績評価の方法と基準】

試験：
学期末試験 50%
課題：
エッセイ 25%
小テスト合計 25%
注記：

無断欠席が三回を超えた者は、E 評定となります。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間をより多く確保し、履修者の発話を促します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、e-mail での課題送付が求められる場合があります。

【Prerequisite】

現時点での前提履修科目はありません。これまで英語を苦手としてきたが、英語の実用力向上に「主体的に」取り組みたい学生を強く歓迎します。

英語の文法力Ⅱ

畑 和樹

授業コード：A2978

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、高校までに既習した英文法の知識を復習しつつ、授業内外の活動を通じて、これまで学習した英語の知識を運用力に変える支援を目的としています。

前期で扱った文法知識を基に、本科目においては「誤用しやすい文法」に焦点を当てます。また当後期科目においても、対話形式の演習を通じて主体的な思考力、応用力を養います。

【到達目標】

本科目における最終目標は、各自が英語に対する苦手意識を克服し、社会における英語の実用に対応できる基盤を作ることです。文法力を駆使し、英語におけるコミュニケーション力向上を第一目標とします。授業内外の学習活動を通じて、役に立つ英語構文や表現を理解、応用することによって「日本語を介さない英語の発話・記述力」を養うことができます。**PowerPoint** 等を使ったプレゼンテーションや小論文（どちらも英語による）等、実際の言語使用を通じて実用力向上を図ります。

まとめ（前期と同様）：

- ①英語文法における、基本的な知識を習得する
- ②「対話の道具」としての英語に注目し、実用力を養う
- ③日々の学習を基底とした、英語運用の実践を行う

【授業の進め方と方法】

教科書（下記参照）を中心に演習形式の授業を展開します。一方的な講義形式の授業ではなく、主体的な学習を支援すべく、課題中心の質疑応答やグループディスカッションを多く取り入れた対話型授業となります。また、学生によるプレゼンテーションや小論文執筆も行います。

各単元の初めに、「当日内容」出題の小テストを行います。必ず予習をしてから出席してください。また、プレゼンテーションにおいては、英語文法をテーマとして各自がトピックを選択し準備します。

※少人数での演習形式の授業を行うため、履修希望者過多の場合は作文による選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・前期内容統括	後期科目の導入
第 2 回	Article	冠詞・定冠詞の誤用
第 3 回	Conditional expressions	when/if/whether 節の違い、誤用
第 4 回	Discourse makers	談話標識の使用と誤用
第 5 回	Using prepositions	前置詞句における誤用
第 6 回	Describing statistics	統計の示し方・関連する動詞の誤用
第 7 回	中期試験	これまでの内容確認
第 8 回	Workshop A	コーパス (BNC と COCA) を用いた言語研究
第 9 回	Comparison and contrast	対比と対照における誤用表現
第 10 回	Countable and uncountable	可算・不可算名詞、三人称における誤用
第 11 回	Confusing verbs	頻繁に誤用される動詞とコロケーション
第 12 回	Backshift cases	時制（一致）における誤用
第 13 回	Workshop B	誤用の発見と修正
第 14 回	期末試験	これまでの内容総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は「必ず」授業前に行ってから出席してください。それを前提として授業や演習内容は組み立てられます。当日内容は小テストに出題されますので、予習が必要です。また、授業後の復習や自主的な練習も重要です。

【テキスト（教科書）】

J. Moore (2007). *Common mistakes at IELTS advanced*. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

Murphy, R. (2015). *English grammar in use* (4th ed.). Cambridge: Cambridge University Press. (前期教科書)

【成績評価の方法と基準】

試験：
中期試験 30%
学期末試験 50%
課題：
小テスト合計 20%
注記：

無断欠席が三回を超えた者は、E 評定となります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の理解に合わせて、講義の進度を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、e-mail での課題送付が求められる場合があります（応

相談)。

【Prerequisite】

前期科目『英語の文法力Ⅰ』の履修が望ましい。

メディア・リテラシーⅠ

田中 邦佳

授業コード：A2979

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されている。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとめ方に何らかの意図が込められている場合もある。

本授業では、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にする。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点について学ぶ。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成させることを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるようにレポートにしてまとめる。

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介する。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行う。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともある。授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法についてコメントを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明
第2回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第3回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第4回	ヒストグラム	ヒストグラムについて学ぶ
第5回	折れ線グラフ	折れ線グラフについて学ぶ
第6回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフについて学ぶ
第7回	散布図	散布図について学ぶ
第8回	円グラフ	円グラフについて学ぶ
第9回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方について学ぶ
第10回	データを表にする	データを表にする場合について学ぶ
第11回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点について学ぶ
第12回	平均値と中央値	平均値と中央値について学ぶ
第13回	標準偏差	標準偏差について学ぶ
第14回	文で報告する	データを文で説明する場合の注意点について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

特になし。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末レポート

30%: 期末テスト

30%: 平常点および授業内外の課題

欠席回数が通算4回に達した者は単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。なお、遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。また授業に積極的に参加する姿勢が見られない場合、欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたらと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために授業支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

情報実習室を使用する予定です。履修希望者が教室の定員を上回った場合、選抜を行いますので初回の授業には必ず出席してください。

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点について紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法について学びたい、今後のためにデータの可視化の手法について学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法について扱いますが、推測統計については扱わないことに留意してください。

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までの教育では、与えられた知識を鵜呑みにすることが「勉強」だとされていますが、それは学習者が自分では何が正しいのか判断できない「子ども」だからという前提があるからです。大学では、「大人」として主体的に情報の取捨選択ができるようにならなければなりません。この授業では、今日のさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか考えて選択をする訓練をします。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。「情弱」のまま社会に出ると、だまされて操られる「カモ」にされかねません。高度に情報化された現代社会において、「情弱」であることは危険です。この授業では、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて学び、考えて議論することによって、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることを目指します。

【授業の進め方と方法】

各回の前週に、一つのトピックについて資料（プリント）を受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ダクショ		
ン		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起ころのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	子宮頸がんワクチン	子宮頸がんワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	TPP、遺伝子組み換え食品など
第十回	グローバル化とグローバルズム	何が違うのか？
第十一回	ショック・ドクトリン	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことについてレポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理してくる。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えてくる。

【テキスト（教科書）】

プリント（本の抜粋や新聞記事など）を配布します。

【参考書】

各回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、授業内レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更につき、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

取り上げるトピックは知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なもののばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

史学科

史
学
科

史学科の卒業論文について

「卒業論文」授業コード：A2000 8単位

【卒業論文の目標・目的】

文学部史学科では卒業論文を必修としています。卒業論文は、これまでに培った専門知識・調査力・批判力・思考力などすべてを傾注して作成すべき、4年間の学業の集大成です。学科の教育目標および学位授与方針にのっとり、以下の能力の涵養を目標とします。

- ①研究史を批判的に踏まえて自ら問題（論題）を発見する能力。
- ②必要な史資料を博搜しその価値を判断する能力。
- ③自らの考えを論理化・体系化して文章で他者に伝える能力。

【卒業論文の概要と方法】

卒業論文ガイダンスは4年次の年度初めに行われ、履修登録も4年次に行う科目ですが、卒業論文は1年間で完成できるものではありません。史学科では2年次以降に所属する演習の担当教員が卒業論文の指導教員となり、卒業論文作成に必要な知識・技術等の習得に向けた訓練は2年次から始まります。指導をきちんと受けることが大切ですが、それ以上に重要なのは主体性です。2～3年次のうちに演習や他の授業に参加しながら、各自が卒業論文について意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分の研究テーマ（卒業論文の論題）を探すようにしてください。個別の論題に即した指導は主として、演習の授業時あるいは授業時間外や合宿等での口頭報告と質疑応答、および研究室における個人指導という方法で行われます。1月上旬の卒業論文提出後、1月末頃に面接審査を行います。これは一般の授業でいえば定期試験に相当するもので、この面接審査までが「卒業論文」という科目の内容です。

【卒業論文の評価基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、卒論指導教員がA⁺・A・B・C・D・Eの判定を行います。

- ①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章〔節・項〕立て、註、参考文献一覧など）。
- ②論題に関わる先行研究について十分に収集し、批判的に読み込んでいるか。
- ③先行研究を参照した部分について、その典拠を詳細に明示しているか。
- ④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。
- ⑤自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。
- ⑥史資料を適切に取り扱い、出典を明記しているか。
- ⑦論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。
- ⑧日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。

【その他】

- ・卒業論文については『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記載をよく読むとともに、掲示に常に注意すること。
- ・4年次4月の卒業論文ガイダンスで配布される卒論指導用紙を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので、注意すること。
- ・卒業論文ガイダンスで配布される「卒業論文の提出と評価について」をよく読み、提出期限の厳守と剽窃については特に留意すること。

日本史概説Ⅰ

小倉 淳一

授業コード：A3101

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。

日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。

歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。

各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。

授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第 3 回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第 4 回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第 5 回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第 6 回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第 7 回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第 8 回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第 9 回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第 10 回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第 11 回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第 12 回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第 13 回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第 14 回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。

吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社

今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館

白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館

鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館

石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書

吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の 70 % とする。平常点は成績評価の 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。

高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

日本史概説Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3102

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から鎌倉時代における地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【授業の進め方と方法】

7 章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを用いて解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章毎に授業支援システムにアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジアの中の日本中世史（1）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第 2 回	東アジアの中の日本中世史（2）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第 3 回	中世の国土観と境界地域（1）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第 4 回	中世の国土観と境界地域（2）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第 5 回	唐船の往来と博多綱首（1）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第 6 回	唐船の往来と博多綱首（2）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第 7 回	唐船貿易の構造（1）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第 8 回	唐船貿易の構造（2）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第 9 回	平氏政権と唐船貿易（1）	平清盛の外交・貿易政策
第 10 回	平氏政権と唐船貿易（2）	平清盛の外交・貿易政策
第 11 回	銅銭の輸入と流通（1）	渡来銭の流通と社会の変化
第 12 回	銅銭の輸入と流通（2）	渡来銭の流通と社会の変化
第 13 回	鎌倉幕府と唐船貿易	モンゴル襲来以前の貿易形態
第 14 回	唐船が中世社会にもたらしたもの	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】

村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、2013 年、初版 1999 年）

榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、2010 年）

石井正敏『NHK さかのぼり日本史外交篇 8 鎌倉 「武家外交」の誕生』（NHK 出版、2013 年）

山内晋次『NHKさかのぼり日本史外交篇9 平安・奈良 外交から貿易への大転換』（NHK出版、2013年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
その他は、授業時に各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの点数28%、学期末試験の点数72%の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価は概して低かったが、記名・無記名のアンケートを合わせても、複数の学生に指摘された問題点はなかった。そこで、改善すべき点について、さらに学生に積極的に意見を出してもらう取り組みをしたい。

日本史概説Ⅲ

松本 剣志郎

授業コード：A3103

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ260年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

【到達目標】

- ①日本近世の特質を説明できる。
- ②われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
- ③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。授業時に図や表、活字史料のプリントを配布し、それをもとに講義を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容や進め方について
第2回	元和偃武	公儀国家の成立と身分制社会
第3回	百姓	村のくらし
第4回	文治政治	武士の変容
第5回	元禄時代	芭蕉と捨て子
第6回	都市	荻生徂徠と武陽隠士
第7回	享保改革	貨幣経済の進展
第8回	宝暦―天明期	絶対主義への傾斜
第9回	人物イメージ	二宮尊徳の場合
第10回	文人の時代	漢詩・誹諧・狂歌
第11回	天保改革	内憂外患、百姓一揆と異国船
第12回	志士の時代	尊王・攘夷、倒幕
第13回	王政復古	近代化とはなにか
第14回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むことが望ましい。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）
藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史』1～5（岩波新書）
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

声の大きさには気をつけますが、前の方に座ることを勧めます。

日本史概説Ⅳ

長井 純市

授業コード：A3104

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、日本近現代史を手がかりとする日本史及び日本史研究に関する概説である。毎回、日本近現代史における政治・経済・外交・軍事・文化・生活に関わるトピックを取り上げ、その概要を説明すると共に、その周辺事情についても日本史全体の流れをふまえた解説を行う。

【到達目標】

この授業の到達目標は、日本史を通観して概略的に説明することができるようになることである。その上で、人々が歴史を叙述したり、また歴史研究を行ってきたりしたことの意味について自分自身の考えを持ち、さらに過去・現在・未来と自分との関わりを考える手がかりを得ることである。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式である。受講生の能動的学習を促すために、受講生の授業コメント・シートにおける記述をふまえた質疑応答を採用し、双方向的な授業運営に努める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要説明と日本史研究に関するビデオの視聴及び解説
第2回	日本近現代史概観	国会の歴史に関わるビデオの視聴及び解説
第3回	ペリー来航とその残像	日本の近代化を前近代および現代日本と関わりから解説
第4回	明治六年政変	日本の近現代における国政指導解説
第5回	殖産興業	日本の近代産業成長過程解説
第6回	近代国家建設と人々	日本の近代化に貢献した地方有志者に関わるビデオの視聴及び解説
第7回	近代政治思想の発達	日本の近代化を進めた政治思想家に関わるビデオの視聴及び解説
第8回	日清戦争	日清戦争の種々相解説
第9回	日露戦争	日露戦争の種々相解説
第10回	大正政変	政党政治への過程解説
第11回	植民地	日本の植民地統治に関するビデオの視聴及び解説
第12回	女性運動	日本の近代化過程における女性の地位向上に関わるビデオの視聴及び解説
第13回	戦争被害	国民の立場で戦争被害を考えるビデオの視聴及び解説
第14回	まとめ	授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、受講前に授業テーマに関する参考文献を読んでおくこと。また、授業後には授業において配布された資料をもう一度読み直し、授業中に得た知識の定着を図ること、さらに授業中に示された参考文献や、その他の関連文献を読むこと。その上で、出席票に設けられているコメント・シートに疑問点や意見などを記すこと。授業内容については、主に復習用として、授業支援システムの掲示板に毎回要点やコメントなどを記すので、読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻、『現代日本政治史』（吉川弘文館）全5巻

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、受講生の授業テーマに関する基礎的な理解度を試す発問を効果的に利用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを参照するIT機器（PC、スマートフォン、タブレットなど）。

【その他の重要事項】

やむを得ない事情により、欠席する場合には、その事情を証明する文書を必ず提出すること。

東洋史概説Ⅰ

村松 弘一

授業コード：A3105

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸と“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～東洋史の意義	現在の東アジア状況
第 2 回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第 3 回	文明とは	一元論と多元論
第 4 回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第 5 回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第 6 回	邑制国家論	殷王朝の意義
第 7 回	封建国家とは	周と封建制度
第 8 回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第 9 回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第 10 回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第 11 回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第 12 回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第 13 回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第 14 回	まとめ	古代文明の発生から前漢時代までを概観する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

東洋史概説Ⅱ

村松 弘一

授業コード：A3106

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晋南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	豪族社会とは	後漢王朝の性格
第 2 回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第 3 回	新時代の支配層とは	貴族制の成立
第 4 回	魏晋の民族問題	三国の興亡と遊牧民族の登場
第 5 回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第 6 回	鮮卑勃興の要因とは	部族制の克服
第 7 回	千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第 8 回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第 9 回	北魏洛陽の興隆	遊牧都市洛陽の情景
第 10 回	隋唐時代への流れ	北魏の分裂と隋の成立
第 11 回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第 12 回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第 13 回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第 14 回	まとめ	後漢時代から南北朝時代までを概観する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

東洋史概説Ⅲ

宇都宮 美生

授業コード：A3107

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第 2 回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第 3 回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第 4 回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第 5 回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第 6 回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第 7 回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第 8 回	唐の衰亡	牛李党争から黄巢の乱へ
第 9 回	唐と周辺諸地域	遣唐使、罽廆支配、節度使
第 10 回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第 11 回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第 12 回	党派の争い	王安石と司馬光
第 13 回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第 14 回	遼・金の建国と華北支配	北宋との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016 年
 富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016 年
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
 『中国の歴史（全集叢書）』4～7 巻、講談社、2005 年
 その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

東洋史概説Ⅳ

宇都宮 美生

授業コード：A3108

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方 歴史と日常生活
第 2 回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第 3 回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第 4 回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第 5 回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第 6 回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第 7 回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第 8 回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第 9 回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第 10 回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第 11 回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第 12 回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第 13 回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第 14 回	清の衰退	西太后から宣統帝へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016 年
 富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016 年
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
 『中国の歴史（全集叢書）』7～10 巻、講談社、2005 年
 その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

西洋史概説Ⅰ

後藤 篤子

授業コード：A3109

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、鉄や文字を後世に遺した古代オリエント世界、「民主主義」の原型を生んだ古代ギリシア世界の歴史と文化、ローマによる古代地中海世界の統一過程について学びます。最後に、古代ローマ人による戦争正当化の論理を通して、現代世界の諸問題について考えます。

【到達目標】

古代メソポタミア文明・古代エジプト文明の誕生から、ローマ帝国による古代地中海世界の統一にいたるまでの歴史に関する基本的知識を習得する。古代アテナイの「民主政」と古代ローマの「共和政」、それぞれの特徴について学び、両者を比較してその異同について考察することができる。都市国家から出発したローマが古代地中海世界を統一し「帝国」となっていく過程を学び、ローマ拡大の要因について考察することができる。

【授業の進め方と方法】

主に1年生を対象に、前 3000 年紀から前2世紀半ばまでの西アジア・地中海世界の歴史を講述します。講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質疑応答の時間を設けます。また、現代世界の問題にも通じる古代ローマ人の戦争正当化の論理については、ディスカッションの時間を設ける予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ古代オリエント史は「西洋史」に区分されるのか
第 2 回	古代メソポタミア文明の成立と展開	西アジア諸国の興亡
第 3 回	古代エジプト文明の成立と展開	統一王国の形成から新王国時代まで
第 4 回	前2千年紀後半のオリエント世界	印欧語族の到来とオリエント世界の「国際化」
第 5 回	東地中海世界の変動	諸民族の活動—アラム人、フェニキア人、ヘブライ人
第 6 回	前1千年紀の西アジア世界	アッシリア帝国とアケメネス朝ペルシア
第 7 回	古代ギリシア世界 (1)	ミケーネ文明の崩壊とポリスの誕生
第 8 回	古代ギリシア世界 (2)	ポリス世界の展開—アテナイを中心に
第 9 回	ヘレニズム世界	アレクサンドロス大王の東征とヘレニズム諸王国の成立
第 10 回	ローマの建国	建国伝説と考古学
第 11 回	共和政期ローマの国制	ローマ「共和政」の特徴
第 12 回	都市国家から帝国へ (1)	イタリヤ制覇と「分割統治」
第 13 回	都市国家から帝国へ (2)	ポエニ戦争と東地中海世界への進出
第 14 回	現代世界が古代ローマから学ぶもの	ローマ人の戦争正当化の論理をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用するプリントは原則として1週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などで下調べをしておく。授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代]・中世』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、授業時の配布プリントで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 90 %、平常点（質問等、授業への積極的参加度）10 % で評価します。期末試験は、知識の習得度・講義内容の理解度を確認するための客観問題 50 点、事前に発表する論題について自らの考察を述べる論述問題 50 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度は授業準備に十分な時間を割けないほどの校務過多状態になってしまい、そのため講義内容の整理不足やシラバス通りに授業が進行しないという事態が生じて、受講生には申し訳なかったと思っています。2018 年度にはその校務過多状態は解消されますので、授業準備の時間を十分に取れるはずです。一方で、プリントを事前配布しているにもかかわらず、予習をほとんど、あるいは全くしないまま授業に臨んでいる人が多いようなのは、残念です。

西洋史概説Ⅱ

後藤 篤子

授業コード：A3110

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ローマ帝国の歴史と社会、ローマ帝国とキリスト教の関係、古代地中海世界が解体し中世西欧・東欧世界が成立する過程について学び、合わせて、「ローマの平和」の功罪、文明の「衰亡」をめぐる議論、「帝国」理念など、現代世界に通じる問題についても考えます。

【到達目標】

ローマ共和政末期からローマ帝国の解体を経て、中世ヨーロッパ世界が成立するにいたるまでの歴史に関する基本的知識を習得する。
ローマ皇帝権力の基盤について考察することができる。
「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題を批判的に考察することができる。
ヨーロッパ史上におけるコンスタンティヌス帝の「改宗」の意義について考察することができる。
古代ローマの「衰亡」をめぐる多様な考え方を知り、それらを批判的に検討することができる。

【授業の進め方と方法】

主に1年生を対象に、前2世紀後半からおよそ後8世紀までの地中海世界の歴史と社会について講述します。講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質疑応答の時間を設けます。また、「ローマの平和」が提起する諸問題や多様な「衰亡」論についてはディスカッションの時間を設ける予定です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ローマ共和政の動揺	支配拡大による社会の変質とグラックス兄弟の改革
第 2 回	共和政から帝政へ	「内乱の百年」とユリウス・カエサル
第 3 回	皇帝位なき「帝政」の成立	アウグストゥスによる「帝政」樹立と「パンとサーカス」
第 4 回	ローマ帝政前期の属州統治	「小さな政府」による帝国統治
第 5 回	「ローマの平和（パクス・ローマナ）」をめぐって	「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題
第 6 回	紀元3世紀のローマ帝国	対外的危機・政治的危機・経済的危機の連関
第 7 回	「大きな政府」の出現	危機の克服とローマ帝国の再編成
第 8 回	ローマ帝国とキリスト教	キリスト教の成立と「迫害」の実相
第 9 回	ローマ帝国の「キリスト教化」	コンスタンティヌス帝の「改宗」とその影響
第 10 回	「ローマ」と「ゲルマン」	ローマ社会へのゲルマン人の進出と「民族大移動」
第 11 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	5世紀のローマ帝国と「衰亡論」の陥穽
第 12 回	中世西欧世界の成立	フランク王国の発展とカール戴冠の意義
第 13 回	中世東欧世界の成立	東ローマ帝国の存続と変容
第 14 回	ローマ帝国の「遺産」	「ローマ理念」の系譜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用するプリントは原則として1週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などで下調べをしておく。授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代]・中世』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、授業時の配布プリントで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 90 %、平常点（質問等、授業への積極的参加度）10 % で評価します。期末試験は、知識の習得度・講義内容の理解度を確認するための客観問題 50 点、事前に発表する論題について自らの考察を述べる論述問題 50 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度は「西洋史概説Ⅰ」がシラバス通りに進まなかったため「西洋史概説Ⅱ」も同様で、最後の数回は大急ぎになってしまったことが反省点です。2018 年度はシラバス通りに進行するよう努めます。また、一方的講義にならないよう、ディスカッションの時間を導入することも考えています。

西洋史概説Ⅲ

加納 格

授業コード：A3111

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界を形成した西洋近現代について巨視的に概念的理解を深め、「近代」、「近代化」をどう認識するかを考える機会とする。

【到達目標】

1 年次、2 年次を主とする受講者であるので、西洋史、東洋史、日本史の専攻を問わず、受講者は歴史を巨視的に理解する基本概念を習得できる。毎回提出してもらう質問・感想についての質疑応答で受講者それぞれの問題意識、専門を授業と結び付けることができる。また質問内容から受講者それぞれの理解度も測ることができる

【授業の進め方と方法】

現代社会の経済構造である資本主義の形成、確立、変容を考察する。ともすれば自明とされる資本主義体制もやはり人間の活動により歴史的に形成されたものである。故にそれは様々の矛盾を含んでいたものであり、代替として社会主義体制が人間活動のあり方から考案された。しかし、この「社会工学」的変革プランも現実体制となると矛盾を含まざるを得なかった。そうした結果として資本主義、社会主義とも 20 世紀が進むにつれて大きな変容を遂げた。こうした歴史的考察により 20 世紀 80 年代から喧伝された「市場原理主義」、「新自由主義」も人類の歩みの中で相対化されることを認識していきたい。授業は講義形式で進めるが、受講者との質疑応答を重視する。また適宜、基本的な重要歴史文献を配布し、それを全体で読み進めつつ問題、論点を共有していく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	歴史学の現代的課題
第 2 回	基礎概念の理解（1）	経済史の基礎（1）
第 3 回	基礎概念の理解（2）	経済史の基礎（2）
第 4 回	資本主義の概念（1）	資本主義の起こり（1）
第 5 回	資本主義の概念（2）	資本主義の起こり（2）
第 6 回	イギリス資本主義の発達（1）	具体的に資本主義の起こりと発達を見る
第 7 回	イギリス資本主義の発達（2）	具体的に資本主義の起こりと発達を見る。三角貿易。世界資本主義。
第 8 回	資本主義の広がり	他国の資本主義発達
第 9 回	帝国主義	植民地再分割
第 10 回	資本主義批判（1）	マルクスらの資本主義分析と批判（1）
第 11 回	資本主義批判（2）	マルクスらの資本主義分析と批判（2）
第 12 回	社会主義体制成立と資本主義の変化（1）	ソ連社会主義。大恐慌とケインズ主義（1）
第 13 回	社会主義体制成立と資本主義の変化（2）	ソ連社会主義。大恐慌とケインズ主義（2）
第 14 回	まとめ- 資本主義を考える	資本主義はどんな意味を持ったか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にあげる概説書やそのほかの概説書を 1 冊は読みとおすこと。また配布する参考文献を自分で読んでみることに。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、1998 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点（質問、授業中の質疑応答による講義への積極的参加状況を重視する）。配分は、期末試験（90 %）、平常点（10 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

特にない。

西洋史概説Ⅳ

加納 格

授業コード：A3112

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の形成に大きく影響した西洋近現代について巨視的・概念的・理解を深め、「近代」、「近代化」をどう認識するかを考える機会とする。

【到達目標】

学生が専攻を問わず巨視的に近現代の歴史をそれぞれの問題関心をもって見られるような概念を獲得できる。市民革命への見方、帝国、国民国家といった国家のあり方とその変容を現代世界に関連付けて理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】

近代国民国家の諸問題を取り扱う。近代国家は、市民革命原理が示すように国家の権力に対して個人の諸権利を規定し、確立することを基礎としている。しかし、いわゆる「大塚史学」が前提としたこのシェーマは、成立と共に「ナショナリズム」の挑戦を受けることになった。現代でも個人、社会（共同体）、国家、超国家（国際組織）の間にどのような関係が構築されるかについて模索が続けられている。この意味で近代は相対化されているのである。講義では近代国家の成り立ちと共に人間社会との矛盾、矛盾の理解の仕方、個人、国家の関わりといった問題の認識に努めたい。

授業は、講義形式であるが、受講者との質疑応答を重視する。また適宜基本的な重要歴史文献を配布し、それを全体で読み進めつつ問題、論点を共有していく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	近代国民国家をめぐる議論
第 2 回	国家への見方、起こり（1）	国家形態の変化
第 3 回	国家への見方、起こり（2）	帝国、連邦制国家、単一国家。
第 4 回	国家への見方、起こり（3）	国民国家形成の議論。G. アーモンドの議論。
第 5 回	国家への見方、起こり（4）	階級国家論、契約国家論。ホブズ、ロック、ルソーらの国家論の理解。
第 6 回	市民革命と国民国家形成（1）	フランス革命と国民国家（1）
第 7 回	市民革命と国民国家形成（2）	フランス革命と国民国家（2）
第 8 回	国際関係	主権国家間関係の成立
第 9 回	帝国の解体（1）	オーストリア＝ハンガリー帝国解体（1）
第 10 回	帝国の解体（2）	オーストリア＝ハンガリー帝国解体（2）
第 11 回	国民国家の問題点（1）	国民国家・主権国家体系と難民問題（1）
第 12 回	国民国家の問題点（2）	国民国家・主権国家体系と難民問題（2）
第 13 回	近代国民国家の変化	大衆社会の成立とその問題点
第 14 回	まとめ- 20 世紀の諸国家	ファシズム、ナチズム、スターリニズムの形をとった国家のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書を通読すること。講義内容は現代世界に関わるので新聞を読むなどで現在の出来事に関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、1998 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点（質問、授業中の質疑応答による講義への積極的参加状況を重視する）。配分は、期末試験（90 %）、平常点（10 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

特にない

考古学概論

小倉 淳一

授業コード：A3152

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たちの認識
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、期末試験の成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

史学概論

秋山 千恵

授業コード：A3153

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後の日本および世界における歴史学の歴史をふり振り返りながら、近年の歴史研究の動向・世界史認識の問題点を整理し、現代における歴史学について考えます。

【到達目標】

歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、その歴史を検討しつつ、現代の歴史学が直面する諸問題についての理解を深めることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

テーマごとにプリントを配付し、講義形式で授業を進めていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後歴史学 1945 年から 1975 年 半まで	戦後歴史学の出発点について 「社会構成体史」
第 2 回	戦後歴史学 1945 年から 1975 年 半まで	「比較経済史」
第 3 回	戦後歴史学 1945 年から 1975 年 半まで	戦後歴史学への批判
第 4 回	現代歴史学へ 1970 年代後半から 1990 年代前半まで	アナール学派
第 5 回	現代歴史学へ 1970 年代後半から 1990 年代前半まで	日本の「社会史」
第 6 回	現代歴史学へ 1970 年代後半から 1990 年代前半まで	「世界システム論」
第 7 回	現代歴史学へ 1970 年代後半から 1990 年代前半まで	女性史
第 8 回	現代の歴史学 1990 年代以降	ジェンダーの歴史学
第 9 回	現代の歴史学 1990 年代以降	「国民の社会史」
第 10 回	現代の歴史学 1990 年代以降	カルチュラル・スタディーズ
第 11 回	現代の歴史学 1990 年代以降	ポストコロニアリズム
第 12 回	現代の歴史学 1990 年代以降	「記憶」と歴史学
第 13 回	現代の歴史学 1990 年代以降	現代歴史学の状況
第 14 回	講義内容全体についての 質疑応答	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にプリントをみながら復習して理解を深めていきます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各テーマについてプリントを配付します。

【参考書】

各テーマごとに参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

テーマに応じて内容の理解をみるために小テスト（40 %）を実施し、最終試験（60 %）とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

授業の進み具合によって、多少講義内容が前後するかもしれません。

日本考古資料学Ⅰ

阿部 朝衛

授業コード：A3119

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

【到達目標】

土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることとなります。

基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・土器研究方法・縄のより方
第 2 回	動作研究と縄づくり	縄のより方の修得と縄・動作の名称
第 3 回	縄文原体作成 1	1・2 段の縄
第 4 回	縄文原体作成 2	3 段の縄、捻り戻し
第 5 回	縄文原体作成 3	合わせ捻り
第 6 回	縄文原体作成 4	結束・結節の縄
第 7 回	縄文原体作成 5	捻り糸文、組紐
第 8 回	土器の文様復元	縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元
第 9 回	土器の理解と表現 1	土器の観察と実測
第 10 回	土器の理解と表現 2	土器の外形と実測
第 11 回	土器の理解と表現 3	土器の模様の実測
第 12 回	土器片の理解と表現 1	土器片の観察
第 13 回	土器片の理解と表現 2	土器片の拓本
第 14 回	総括	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介します。

【参考書】

参考文献などは随時、教室で紹介します。また参考とする資料はコピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果（縄文原体、実測図、拓本）およびレポートで評価し、平常点は 30 %、作業結果・レポートは 70 % とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

【その他の重要事項】

土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレス用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使っての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

日本考古資料学Ⅱ

阿部 朝衛

授業コード：A3120

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

【到達目標】

石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法（文章、図、写真）を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。

【授業の進め方と方法】

実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることとなります。

室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・石器研究方法
第 2 回	石器製作実験	原石の打ち割り
第 3 回	石器使用実験	剥片で切断作業
第 4 回	石核・剥片接合作業	原石（母岩）分類と石核・剥片の接合
第 5 回	剥片剥離の順番復元	接合剥片の打撃の順番の理解
第 6 回	剥離工程の理解	原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握
第 7 回	剥片石器の実測 1	測量方法の原理
第 8 回	剥片石器の実測 2	図の展開と輪郭線の描き方
第 9 回	剥片石器の実測 3	剥離面の境界線の理解
第 10 回	剥片石器の実測 4	リング、フィッシャーの意味と表現
第 11 回	磨製石器の実測 1	製作工程の理解
第 12 回	磨製石器の実測 2	研磨痕、使用痕の抽出と表現
第 13 回	遺物写真撮影	簡易写場での具体的資料の撮影
第 14 回	総括	作業結果の点検と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等を見て、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

【参考書】

適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点 30 %、作業結果・レポート 70 % です。作業結果は、実測図・トレス・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は多めに取ります。

【その他の重要事項】

遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剥刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレス用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使っての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

日本古代史科学Ⅰ

春名 宏昭

授業コード：A3121

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「続日本紀の史科学」と題して講義を行います。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができる。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明
第2回	天平二年の太政官奏（1）	続日本紀の3つのテキスト
第3回	天平二年の太政官奏（2）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第4回	天平二年の太政官奏（3）	関連史料の検討
第5回	税司主鑑（1）	大宝令施行直後の地方政治
第6回	税司主鑑（2）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第7回	税司主鑑（3）	関連史料の検討
第8回	皇太妃と中宮職（1）	大宝元年七月壬辰条の紹介
第9回	皇太妃と中宮職（2）	天皇のキサキ〈妃と夫人・嬪〉
第10回	慶雲元年の公廩銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第11回	慶雲元年の公廩銀（2）	関連史料の検討
第12回	衛士の代易（1）	和銅四年九月甲戌条の紹介
第13回	衛士の代易（2）	関連史料の検討
第14回	奈良時代史概観	これまでの授業内容をふまえて奈良時代の概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかにも不十分（言葉足らず）かということ述べていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

日本古代史科学Ⅱ b

新井 重行

授業コード：A3205

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本古代史の研究において使用される史料のうち、特に出土文字資料に焦点をあて、その特色や歴史研究に活用するうえでの扱い方を学びます。

【到達目標】

木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料は、古代社会の実像を生々しく伝えてくれるものですが、そこに記された文字を読むだけでなく、形状の観察や出土した遺跡の性格などを併せて検討することにより、古代社会の制度や地域的特色をより深く理解することができます。文書や典籍などとも比較をしながら、出土文字資料に基づいて正しく情報を引き出す考え方を習得することを目指します。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標と進め方
第2回	古代史の史料	古代史研究に使用する主要な史料の紹介と扱い方
第3回	木簡（1）	荷札・付札の特徴と使用方法
第4回	木簡（2）	帳簿木簡の特徴と使用方法
第5回	木簡（3）	文書木簡の特徴と使用方法
第6回	木簡（4）	削屑・習書木簡の特徴とその意義
第7回	木簡（5）	その他の使用法の木簡
第8回	漆紙文書（1）	漆紙文書の概要と特色
第9回	漆紙文書（2）	さまざまな漆紙文書を読む
第10回	漆紙文書（3）	漆紙文書からわかる地方行政
第11回	墨書土器	墨書土器の特色
第12回	金石文	石や金属に刻まれた文字資料
第13回	出土文字資料と古代史研究	正倉院文書と木簡
第14回	まとめ	講義内容のまとめと試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は、高校教科書程度の知識を前提としています。講義をよりよく理解するために、日本古代史に関する概説書などに目を通しておくことを望みます。

【テキスト（教科書）】

講義時に担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

木簡学会編『木簡から古代がみえる』（岩波書店、2010年）

渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』（講談社、2001年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への積極的な貢献度（40%）および期末に実施する試験（60%）によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

日本古文書学Ⅰ

大塚 紀弘

授業コード：A3206

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本古代（奈良時代から平安時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】

律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第3回	紛失状	古文書に親しむ
第4回	公式様文書 宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第5回	公式様文書 符（1）	様式・機能の解説と訓読
第6回	公式様文書 符（2）	様式・機能の解説と訓読
第7回	公式様文書 移	様式・機能の解説と訓読
第8回	公式様文書 牒	様式・機能の解説と訓読
第9回	公式様文書 解	様式・機能の解説と訓読
第10回	公式様文書 宣旨	様式・機能の解説と訓読
第11回	公家様文書 官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第12回	公家様文書 院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第13回	公家様文書 摂関家政所下文	様式・機能の解説と訓読
第14回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
荻米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

日本古文書学Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3207

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】

公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	公家様文書 国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第3回	公家様文書 綸旨	様式・機能の解説と訓読
第4回	公家様文書 院宣	様式・機能の解説と訓読
第5回	公家様文書 御教書	様式・機能の解説と訓読
第6回	武家様文書 下文（1）	様式・機能の解説と訓読
第7回	武家様文書 下文（2）	様式・機能の解説と訓読
第8回	武家様文書 下知状（1）	様式・機能の解説と訓読
第9回	武家様文書 下知状（2）	様式・機能の解説と訓読
第10回	武家様文書 鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第11回	武家様文書 室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第12回	武家様文書 室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第13回	起請文・売券・譲状	様式・機能の解説と訓読
第14回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
荻米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

日本近世史科学Ⅰ

松本 剣志郎

授業コード：A3124

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーを配布するので、まずは自力で解説に取り組む。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書読解入門	近世史科学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

『新編古文書読解字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。古文書読解の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ペリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

『新編古文書読解字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

日本近代史料学

長井 純市

授業コード：A3126

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、史料を通して日本近代史の諸相を学ぶことである。毎回、日本近代史研究上の史料に関するトピックを取り上げ解説する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、日本近代史研究に関わる史料について、史料所蔵機関及び古文書（複写物）を通して学び、史料の調査・収集及び読解の技法を習得することである。また、それを通して日本近代史における政治・経済・外交・軍事・社会についての理解を深め、さらに自ら史料所蔵機関を利用し、学習を深める姿勢を養うことである。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式である。受講生の能動的学習を促すために、質疑応答や作業学習、グループディスカッションを採り入れ、双方向的な授業運営に努める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要説明
第2回	独立行政法人国立公文書館（1）	機能と所蔵史料の解説
第3回	独立行政法人国立公文書館（2）	史料利用の実践トレーニング
第4回	外務省外交史料館（1）	機能と所蔵史料の解説
第5回	外務省外交史料館（2）	史料利用の実践トレーニング
第6回	防衛省防衛研究所戦史研究センター	機能と所蔵史料の解説
第7回	アジア歴史資料センター（1）	機能と所蔵史料の解説
第8回	アジア歴史資料センター（2）	史料利用の実践トレーニング
第9回	国立国会図書館憲政資料室	電子展示と所蔵史料の解説
第10回	古文書読解（1）	毛筆・草書体史料の読解トレーニング
第11回	古文書読解（2）	毛筆・草書体史料の読解トレーニング
第12回	古文書読解（3）	毛筆・草書体史料の読解トレーニング
第13回	英文史料読解	米国国立公文書館の機能とインターネット公開史料の利用解説
第14回	まとめ	授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、受講前に授業テーマに関するインターネット・サイトを見たり、配布資料を読んだりしておくこと。また、授業後には配布資料をもう一度読み直し、授業中に得た知識の定着を図ること、さらに授業中に示された参考文献や、その他の関連文献を読むこと。その上で、授業中の質疑応答の際の質問を考えておくこと。授業内容については、主に復習用として、授業支援システムの掲示板に毎回要点やコメントなどを記すので、読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻

各史料所蔵機関および日本アーカイブズ学会のインターネット・サイト

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な知識の不足や古文書読解スキルの不足を感じる受講生がいることから、受講生との質疑応答を活用し、受講生の基礎的な理解の度合いやスキルのレベルに合わせた授業の進行・運営を図るようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを参照するIT機器（PC、スマートフォン、タブレットなど）。

【その他の重要事項】

やむを得ない事情により欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の探し方、利用法などを習得する。

昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を基軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料の利用などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義を受けての討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (1)	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (2)	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくことと便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年））
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、普段の評価 3 割。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用など、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて利用する。

東洋史外書講読 I

津田 資久

授業コード：A3139

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、魏晉南北朝に関する中国史料（漢文史料）の講読を行い、漢文読解力の養成及びこの時代に関する専門知識を修得することを目的とします。

【到達目標】

1. 漢文訓読の文法に則って、訓点を打ち、書き下し文を作成できる。
2. 『大漢和辞典』を使いこなし、漢字の意味を調べ、適切な解釈を報告できる。
3. 指示された参考文献を活用して、自分で考えた現代日本語の口語訳を報告・説明できる。
4. 魏晉南北朝史に関する事象を説明できる。

【授業の進め方と方法】

史料講読なので、事前に配布した漢文史料のプリントについて事前に『大漢和辞典』などの辞書で単語の意味等を調べて来てもらい、ランダムに受講者にあてて報告してもらいます。その後、その解釈の当否を授業担当者が検討して、理解を深めてもらいます。そして一つの史料の講読が終わった段階で、小テストを実施します。理解度を高めることを目的としますので、必ずしも予定した進度での授業展開にはならないこともあらかじめ念頭に置いておいてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	魏晉南北朝時代の史料概論
第 2 回	『搜神記』とは何か？	『搜神記』の特徴
第 3 回	『搜神記』の訓読（書き下し）・口語訳の発表①・左慈	後漢末の術者・左慈を読む
第 4 回	『搜神記』の訓読（書き下し）・口語訳の発表②・干吉	後漢末の術者・干吉を読む
第 5 回	『搜神記』の訓読（書き下し）・口語訳の発表③・介琰	孫呉の術者・介琰を読む
第 6 回	『搜神記』の訓読（書き下し）・口語訳の発表④・張掖開石	符璽「張掖郡玄石図」を読む
第 7 回	『搜神記』の訓読（書き下し）・口語訳の発表⑤・馬後牛	符璽「張掖郡玄石図」から派生した予言を読む
第 8 回	『搜神記』の小テスト 『世説新語』とは何か？	『搜神記』に関する理解度を確かめる 小テストを実施 『世説新語』の特徴
第 9 回	『世説新語』の訓読（書き下し）・口語訳の発表①・西晋武帝と齊王攸	西晋武帝と齊王攸の兄弟関係に関する説話を読む
第 10 回	『世説新語』の訓読（書き下し）・口語訳の発表②・八王の乱	八王の乱に関する説話を読む
第 11 回	『世説新語』の訓読（書き下し）・口語訳の発表③・東晋の成立	東晋成立期に関する説話を読む
第 12 回	『世説新語』の訓読（書き下し）・口語訳の発表④・桓温	東晋の桓温に関する説話を読む
第 13 回	『世説新語』の訓読（書き下し）・口語訳の発表⑤・魏晋の女性	魏晋時代の女性に関する説話を読む
第 14 回	『世説新語』の小テスト まとめ	『世説新語』に関する理解度を確かめる 小テストを実施 全体を通じての授業内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にあらかじめ配布する漢文史料のプリントに関して、『大漢和辞典』などの『漢和辞典』を使って、単語の意味を調べて来て下さい。また、授業で明らかになったことや、自分の下調べで訂正が必要な箇所をしっかりと把握しておいてください。

【テキスト（教科書）】

・漢文史料に関するプリントを配布。
・携帯用の『漢和辞典』（『角川新字源』、角川書店が望ましい）を毎時間使います。

【参考書】

- ①漢文文法書：近藤春雄『漢文の読み方』（武蔵野書院）など。高等学校「漢文」の参考書でも良い。
 - ②中国史概説書：川勝義雄『魏晉南北朝』（1974 年初出。現在、講談社学術文庫、2003 年）、川本芳昭『中国の歴史 (05)・中華の崩壊と拡大』（講談社、2005 年）、津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018 年 3 月刊行予定）など。
- ※その他、必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

漢文読解の口頭報告：30%、小テスト：30%、定期試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美 久美子

授業コード：A3140

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。
さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身につける。
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【授業の進め方と方法】

インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を購読する。

毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。

英語文献の著者の論旨を正確に理解したうえで、必要に応じて論点の背景などを担当者が調べて後日発表し、それを全受講生が検討することによって理解を深める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	テキスト紹介	テキスト配布など
第2回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト購読
第3回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト購読
第4回	移民史研究の概略	テキスト購読
第5回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト購読
第6回	14世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第7回	15～16世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第8回	17～18世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト購読
第9回	19世紀のインド洋西海域の移民史(1)	テキスト購読
第10回	19世紀のインド洋西海域の移民史(2)	テキスト購読
第11回	19世紀のインド洋西海域の移民史(3)	テキスト購読
第12回	20世紀のインド洋西海域の移民史(1)	テキスト購読
第13回	20世紀のインド洋西海域の移民史(2)	テキスト購読
第14回	20世紀のインド洋西海域の移民史(3)／小テスト	テキスト購読／小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。
復習時には類出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は第1回の授業で決定し配布する。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006年
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000年

【成績評価の方法と基準】

平常点(80%)と最終講義における小テスト(20%)を総合して成績を決定する。

平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。
小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。
単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】

「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

第1回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。

難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。

西洋史外書講読 I

後藤 篤子

授業コード：A3147

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書く際に必要となるだけでなく、グローバル化時代の社会人にも広く求められるものです。この授業では西洋前近代に関する学術論文を素材として、英語論説文の読解方法を学びます。

【到達目標】

- (1) 英文の構造を正確に把握できるようになる（これは、英文を速読できるようになるためにも、必須の能力です）。
- (2) 接続詞等に留意しつつ著者の立論をたどり、その主張を正確に理解できるようになる。
- (3) 英語学術文献の註内容を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

西洋古代研究と「現在」との関係を考える論文を精読します。最初の2回は、正確な英文読解の前提となる構文把握の訓練にあて、そのうえで著者の主張を、註に記されたことも合わせて、正確に読み解いていきます。あらかじめ邦訳担当者を決めることはせず、また、授業外で調べるべき人名や事項は前もって指示しますので、受講者は全員、毎回読む範囲について十分に予習してくることが必要です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のイントロダクション	英文の構造把握の仕方と予習方法の説明
第 2 回	英文の構造把握の訓練 (1)	英文テキスト第 1～3 段落の構文把握
第 3 回	英文の構造把握の訓練 (2)	英文テキスト第 4～6 段落の構文把握
第 4 回	著者の主張を正確に読み取る (1)	欧米における西洋古典・古代史研究の位置
第 5 回	著者の主張を正確に読み取る (2)	presentism という用語と著者の問題提起
第 6 回	著者の主張を正確に読み取る (3)	ロナルド・サイム『ローマ革命』を事例とした検証 (1)
第 7 回	著者の主張を正確に読み取る (4)	ロナルド・サイム『ローマ革命』を事例とした検証 (2)
第 8 回	著者の主張を正確に読み取る (5)	性とジェンダーに関する研究を事例とした検証 (1)
第 9 回	著者の主張を正確に読み取る (6)	性とジェンダーに関する研究を事例とした検証 (2)
第 10 回	著者の主張を正確に読み取る (7)	presentism のマイナス面－サイムの場合
第 11 回	著者の主張を正確に読み取る (8)	presentism のマイナス面－性とジェンダーに関する研究の場合
第 12 回	著者の主張を正確に読み取る (9)	著者の結論
第 13 回	「精読」と「速読」	正確な構文把握に基づく速読法
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予告された範囲の英文の構造把握と和訳について、各自が十分に予習したうえで授業に臨むこと。合わせて、論文中に出てくる固有名詞等、指示された事項について調べてくること。授業後には、予習時の不明箇所や自分が誤読した箇所を中心に、授業での解説を踏まえて復習し、疑問点が残れば必ず次回授業時に質問して解決すること。

【テキスト（教科書）】

Robin Osborne, "Classical Presentism," *Past and Present*, no. 234 (Feb. 2017).

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（英文読解の予習度・精度、出席状況）30 %、期末試験 70 % で評価します。期末試験は、授業で精読・解説した内容から 4 題、初めて読む内容の英文 1 題を出し、和訳してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

現時点でのアンケート回答率は 5 割に達していないのですが、授業外学習の時間と理解度が比例しているかと推測され、予習・復習が授業の効果を高めることを示していると思います。また、実際の授業経験から、近年は正確な英語構文把握に基づくのではなく「感覚的」に訳し、結果として誤読になってしまうケースが増えていると感じています。そこで 2018 年度は、英文精読に入る前に、英語の構文把握の仕方を練習したいと考えています。

西洋史外書講読Ⅱ

古川 高子

授業コード：A3148

春学期・2 単位

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての講義も行う。

【到達目標】

基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【授業の進め方と方法】

1. Tara Zahra, *The Lost Children. Reconstructing Europe's Families after World War II* (Cambridge, MA/London, 2011) (タラ・ザーラ『迷子になった子供たち 第2次世界大戦後のヨーロッパにおける家族の再建』) 第2章「子供たちを救う Saving the Children」を精読する。本著は第2次世界大戦後の混乱したヨーロッパにおける国民国家建設を家族再建という観点から描いたものであり、今年度扱う第2章は主としてドイツ語圏におけるユダヤ教徒の子供たちが戦争でどのような目にあい、また救援機関によりどのように扱われたのかを叙述する部分である。近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。

2. 予習を全員が行うことを前提に、前半5回程度は授業で各人にあてて訳してもらい、適宜修正するが、毎回、前回に読んだ部分に関する小テスト（訳）を行う。後半は、適当な範囲を各人に指定し、全訳文、註、事象や概念の精査・説明を含めてレジュメとして提出し、授業で報告する。授業の最後に、担当範囲講読分全体のテストを行い、前半の小テストと併せて理解の定着をはかる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介、分担範囲決定、報告の仕方等の説明
第2回	講読（1）	第2章 Saving the Children 約2頁分の精読
第3回	講読（2）	前回講読部分の小テスト・第2章 Saving the Children 約1.5頁分の精読
第4回	講読（3）	前回講読部分の小テスト・第2章 Saving the Children 約1.5頁分の精読
第5回	講読（4）	前回講読部分の小テスト・第2章 Saving the Children 約1.5頁分の精読
第6回	担当範囲講読（1）	前回講読部分の小テスト・第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁分）
第7回	担当範囲講読（2）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第8回	担当範囲講読（3）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第9回	担当範囲講読（4）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第10回	担当範囲講読（5）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第11回	担当範囲講読（6）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第12回	担当範囲講読（7）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第13回	担当範囲講読（8）	第2章 Saving the Children 担当部分の精読、調べた内容の報告（2頁）
第14回	まとめとテスト	担当範囲講読分の試験（授業内試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習を必ず行うこと。前半は、前週に行った講読部分の小テスト（訳、熟語等）を行うので、復習して、小テストに備えること。後半は、英文を註も含めて日本語に訳し、さらに担当範囲内の事象、概念等で不明な事項を調べ、レジュメにして提出し、それをもとに授業内で報告を行う。最後に理解度を高めるために、担当範囲講読分のテストを行う。そのため、予習復習にかかる授業外の学習時間は長くなることを了承しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Tara Zahra, *The Lost Children. Reconstructing Europe's Families after World War II* (Cambridge, MA/London, 2011)

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30％）、授業への積極的な貢献度（出席）・範囲内の訳文完成度・事象や概念の調査・レジュメの作り方・報告態度・報告時の創意工夫・議論への参加程度を平常点（40％）、最後の担当講読範囲分のテスト（30％）として総合評価する。

日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】

2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表 (1)	文献解題と討論 (1)
第 3 回	論文講読発表 (2)	文献解題と討論 (2)
第 4 回	論文講読発表 (3)	文献解題と討論 (3)
第 5 回	論文講読発表 (4)	文献解題と討論 (4)
第 6 回	論文講読発表 (5)	文献解題と討論 (5)
第 7 回	研究発表 (1)	卒業論文に関連する研究発表 (1)
第 8 回	研究発表 (2)	卒業論文に関連する研究発表 (2)
第 9 回	研究発表 (3)	卒業論文に関連する研究発表 (3)
第 10 回	論文講読発表 (6)	文献解題と討論 (6)
第 11 回	論文講読発表 (7)	文献解題と討論 (7)
第 12 回	論文講読発表 (8)	文献解題と討論 (8)
第 13 回	論文講読発表 (9)	文献解題と討論 (9)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表 (10)	文献解題と討論 (10)
第 17 回	論文講読発表 (11)	文献解題と討論 (11)
第 18 回	論文講読発表 (12)	文献解題と討論 (12)
第 19 回	論文講読発表 (13)	文献解題と討論 (13)
第 20 回	論文講読発表 (14)	文献解題と討論 (14)
第 21 回	研究発表 (4)	卒業論文に関連する研究発表 (4)
第 22 回	研究発表 (5)	卒業論文に関連する研究発表 (5)
第 23 回	研究発表 (6)	卒業論文に関連する研究発表 (6)
第 24 回	論文講読発表 (15)	文献解題と討論 (15)
第 25 回	論文講読発表 (16)	文献解題と討論 (16)
第 26 回	論文講読発表 (17)	文献解題と討論 (17)
第 27 回	論文講読発表 (18)	文献解題と討論 (18)
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。

【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー、ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学 理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2 年生から 4 年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

日本古代史演習

小口 雅史

授業コード：A3129

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代国家の骨格が形成された 8 世紀の律令時代について、国家によって編纂された正史である『続日本紀』と、世界史の奇跡といわれる「正倉院文書」という二大史料群をもとに、それら文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。『続日本紀』については北方史関係史料を、「正倉院文書」については土地経営関係史料を主たるテーマにして実施します。

【到達目標】

二つの史料群を素材に、文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていますから、それをいかに取り除いて実態に迫れるかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは史料上に書かないという特徴があります。その時代の人間になりきって、いかにその古文書を読み解いて、当時の社会を再構成できるかが勝負です。

【授業の進め方と方法】

基本的に 1 回ごとに参加者 1 人が報告し、それをもとに参加者全員で議論を行います。個別の担当史料を律令法典や同時代の文学作品をも参考にしながら、その正確な読みから日本古代社会の実態を復原する方法を取得できるよう工夫してもらいます。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていることもありえるのでそれをいかに取り除くかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは書かないという特徴がありますから、いかにその時代の人間になりきって古文書を読めるようになるかが重要な論点となるはずです。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの運営方針、担当配分など
第 2 回	史料 284 を読解する	蝦夷の朝貢とは何か
第 3 回	史料 285 を読解する	蝦夷の衣服
第 4 回	史料 286 を読解する	蝦夷の饗応
第 5 回	史料 287・289・292 を読解する	鎮兵と移民
第 6 回	史料 288・290 を読解する	道嶋臣について
第 7 回	史料 291・293・294・295 を読解する	賜姓と公民化
第 8 回	史料 296・297 を読解する	自然災害
第 9 回	史料 298 を読解する	坂上荊田麻呂
第 10 回	史料 299 を読解する	蝦夷の造仏
第 11 回	史料 300・301・307 を読解する	佐伯美濃と雑徭免除
第 12 回	史料 302 を読解する	渤海使漂着
第 13 回	史料 303～305 を読解する	蝦夷朝賀参列
第 14 回	まとめ	古代北方史の特質について

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	演習内容を理解する	正倉院文書の性格、担当割当確認
第 16 回	史料集成 1 4 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳
第 17 回	史料集成 1 4 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。秦広人を中心に
第 18 回	史料集成 1 8 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳
第 19 回	史料集成 1 8 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。生江息嶋を中心に
第 20 回	史料集成 2 0 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳

第 21 回	史料集成 2 0 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。道守徳太理を中心に
第 22 回	史料集成 2 1 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳
第 23 回	史料集成 2 1 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。生江国立を中心に
第 24 回	史料集成 2 2 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳
第 25 回	史料集成 2 2 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。鳥部豊名を中心に
第 26 回	史料集成 2 5 を読む (1)	写真による釈読と訓読・翻訳
第 27 回	史料集成 2 5 を読む (2)	内容解釈と経営方法の具体像の解明。丸部足人を中心に
第 28 回	天平の社会改革の総括	古文書を通じてわかったこと、すなわち天平時代とはどのような時代であったのか、その特徴をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはかなり難解なので、発表者は言うまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。司会担当者、コメンテーターは、進行の仕方を事前に検討し、また発表内容についての疑問点をあらかじめリストアップしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『青森県史』資料編古代 I・『青森県史資料編古代 I 補遺』（いずれもコピーで可）

『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）

【参考書】

『続日本紀（前篇）』新訂増補国史大系（吉川弘文館）・新日本古典文学大系『続日本紀』（岩波書店）／『令義解』新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『律令』日本思想大系・新装版（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常のゼミ内での活動から判断する。発表内容では古典籍・古文書写真からの文字の解説・判定についての、パソコンを用いての正確な翻刻実習の成果も判定の対象とする。担当の史料を正確に読めるかどうかをもっとも重要なポイントとなる。それに加えて夏休みにはプレ卒論として、レポート作成に取り組んでもらう。

【学生の意見等からの気づき】

少人数のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムにアップされたレジュメを画面に投影しながらゼミをすすめます。

【その他の重要事項】

このゼミは卒論を執筆するための準備の場です。全ての作業が卒論に直結しています。夏休みにはミニ卒論も書いてもらいます。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

日本中世史演習

大塚 紀弘

授業コード：A3130

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世の漢文史料を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

中世の漢文史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解・整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史跡や博物館を見学する機会を設ける。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第 2 回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第 3 回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第 4 回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第 5 回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第 6 回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第 7 回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第 8 回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第 9 回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第 10 回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第 11 回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第 12 回	『吾妻鏡』講読（10）	読解・考察の報告と議論
第 13 回	『吾妻鏡』講読（11）	読解・考察の報告と議論
第 14 回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第 16 回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第 17 回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第 18 回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第 19 回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第 20 回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論
第 21 回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第 22 回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第 23 回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第 24 回	自由発表（10）	研究または論文批評の報告と議論
第 25 回	自由発表（11）	研究または論文批評の報告と議論
第 26 回	自由発表（12）	研究または論文批評の報告と議論
第 27 回	自由発表（13）	研究または論文批評の報告と議論
第 28 回	日本中世史研究の課題	報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。発表後、レジュメを修正して全員に配布する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表1週間前までに論文をコピーおよびスキャンし、全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。春学期末、秋学期末の2度、所定の課題についてのレポートを執筆する。

【テキスト（教科書）】

『吾妻鏡』講読では、講読する部分のコピーを配布する。自由発表では、担当者が論文のコピーを配布する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%（宿題提出30%、発言30%）、発表点20%（春学期10%、秋学期10%）、学期末レポート点20%（春学期10%、秋学期10%）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ5回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく1度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

日本近世史演習

松本 剣志郎

授業コード：A3131
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることをまずは目的とする。ついで先行する研究論文の批判的な読解力を身につけることを目指す。そのうえで、学生がそれぞれに深めていく研究テーマを、論理的かつ適切な表現を用いて発表する能力を獲得することを最終的な到達目標とする。歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。そのみならず歴史学は積み重ねの学問であるから、先行研究の正確な理解のうえで、これに対する自らの立場を明らかにすることが必要である。こうして本授業は、適切に課題を把握し、これを実証的に解決していく能力の養成を図っていくものとなる。なお、夏休みには地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を予定している。

【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。
- ⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
- ⑥研究論文を批判的に読むことができる。
- ⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。春学期は、まず『江戸町触集成』の史料についてグループ毎に発表する。つぎに概ね 2000 年以降の学術雑誌掲載の近世史の論文をグループ毎に講読する。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの説明
第 2 回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方
第 3 回	図書館の使い方	図書館ガイダンス
第 4 回	史料講読（1）	江戸町触集成 1 号
第 5 回	史料講読（2）	江戸町触集成 2 号
第 6 回	史料講読（3）	江戸町触集成 3 号
第 7 回	史料講読（4）	江戸町触集成 4 号、ほか
第 8 回	論文講読（1）	政治史研究
第 9 回	論文講読（2）	社会史研究
第 10 回	論文講読（3）	文化史研究
第 11 回	論文講読（4）	村落史研究、ほか
第 12 回	個人発表（1）	4 年生の卒論発表
第 13 回	個人発表（2）	3 年生の卒論構想発表
第 14 回	個人発表（3）	2 年生の夏休みレポートテーマ発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	3 年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第 16 回	3 年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第 17 回	3 年生研究発表（3）	史料批判の方法
第 18 回	3 年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第 19 回	3 年生研究発表（5）	論理展開の方法
第 20 回	3 年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第 21 回	3 年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり
第 22 回	2 年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第 23 回	2 年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第 24 回	2 年生研究発表（3）	史料批判の方法
第 25 回	2 年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第 26 回	2 年生研究発表（5）	論理展開の方法
第 27 回	2 年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第 28 回	2 年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること（授業時に提出）。授業後には、授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

『江戸町触集成』（塙書房）。ただし、該当部分をコピーして配布する。

【参考書】

『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】

1 報告（40％）。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。2 レポート（40％）。3 質疑応答（20％）。グループ割りをするので、第 1 回および第 2 回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

日本近代史演習

長井 純市

授業コード：A3203
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、史料に基づく日本近代史像の再構成である。日本近代史に関する知識を増やしたり、理解を深めたりする論文を読むと共に、一次史料（プライマリー・ソース）を正確に理解するトレーニングを行い、卒業論文作成のスキルを学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は、日本近代史に関わる史料の読解能力を養成すること、史料に基づいて関連文献を調査し、得られた情報を取捨選択した上で配布資料を作成し、プレゼンテーション（発表）を行うスキルを身につけること、また日本近代史研究に関わる文献を論評する作法および自ら論文を作成するスキルを身につけること、さらにプレゼンテーションをふまえての質疑応答やディスカッションの作法を身につけることである。

【授業の進め方と方法】

授業は、発表形式で行われる。あらかじめ担当教員が受講生全員に配布あるいは提示する史料コピーあるいは文献目録に基づいて、授業前半において担当グループが発表を行い、後半には担当教員および受講生全員による講評と質疑応答を行う。発表グループには、発表に対する振り返りと授業後の発展学習を促すリポート課題が課される。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明
第 2 回	ガイダンス（1）	発表の作法と配布資料（レジュメ）作成のルール
第 3 回	ガイダンス（2）	古文書読解の作法
第 4 回	発表（1）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（1）
第 5 回	発表（2）	「棚橋小虎日記」解説（1）
第 6 回	発表（3）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（2）
第 7 回	発表（4）	「棚橋小虎日記」解説（2）
第 8 回	発表（5）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（3）
第 9 回	発表（6）	「棚橋小虎日記」解説（3）
第 10 回	発表（7）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（4）
第 11 回	発表（8）	「棚橋小虎日記」解説（4）
第 12 回	発表（9）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（5）
第 13 回	発表（10）	「棚橋小虎日記」解説（5）
第 14 回	発表（11）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（6）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	発表（12）	「棚橋小虎日記」解説（6）
第 16 回	発表（13）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（7）
第 17 回	発表（14）	「棚橋小虎日記」解説（7）
第 18 回	発表（15）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（8）
第 19 回	発表（16）	「棚橋小虎日記」解説（8）
第 20 回	発表（17）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（9）
第 21 回	発表（18）	「棚橋小虎日記」解説（9）
第 22 回	発表（19）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（10）
第 23 回	発表（20）	「棚橋小虎日記」解説（10）
第 24 回	発表（21）	『日本歴史』2017 年度掲載論文の論評（11）
第 25 回	発表（22）	「棚橋小虎日記」解説（11）

第26回 発表 (23)	『日本歴史』2017 年度掲載論文の 論評 (12)
第27回 発表 (24)	「棚橋小虎日記」解説 (12)
第28回 まとめ	授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表班は、発表前にメンバーの役割分担や配布資料のとりまとめなどについて協議し、効率的な作業を行うこと。また、授業後は発表に対する質疑応答の中で提示された問題点を解消する作業を復習を兼ねて行うこと。さらに、発表後のレポートを作成し、指定期日までに提出すること。発表班以外の受講生は、授業前に課題史料や課題論文を読んでおき質問事項を考えておくこと。また、授業後は発表内容に関する参考文献を読むように努めること。主に復習用として、授業支援システムの掲示板に毎回要点やコメントなどを記すので、読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が印刷物を配布する。テキストとなる「棚橋小虎日記」については、担当教員が印刷物と資料入力済みのCDを配布する。同日記は、法政大学大原社会問題研究所が所蔵する、戦前・戦後の労働運動家のものであり、その中の大正時代の部分をテキストとして使用する。もう一つのテキストとなる月刊『日本歴史』掲載論文については、テキストとして使用する 2017 年度分の日本近代史関係全論文の目次コピーを配布するので、論文そのものは受講生が各自コピーすること。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻。アジア歴史資料センターのサイト。その他、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 % として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

発表前、草書体の史料の読解に困難を感じたり、発表項目の選定に迷う受講生がいることから、事前相談を行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板上に、毎回授業の要点を記すので、それを参照する IT 機器（PC、スマートフォン、タブレットなど）。

【その他の重要事項】

欠席回数が目立つ場合には、欠席事情の報告を求めると共に、学習不足を補うレポートを課す。やむを得ない事情により、欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。

日本現代史演習

差波 亜紀子

授業コード：A3134

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近現代の日本に関する出来事を、行政文書や個人の日記、新聞・雑誌などの刊行物、統計といった諸資料に基づき、実証的に検討する方法を学ぶ。授業を通じて、学生は、具体的な歴史事象を自分で検討できる方法を身につけることを目指す。歴史研究の方法を学ぶにあっても、先学のすぐれた研究を読むことが欠かせない。論文を読み込むことを通じて、学生には、実証的な方法論とともに、ある出来事を同時代の国際環境や地理的条件などと関連づけ多面的に理解する姿勢も身につけて欲しい。このような方法、態度を身につけることを通じて、他人の主張を鵜呑みにせず、自分で考えて判断できるようになること、それがこの授業の最終的な目的である。

【到達目標】

- ①指定された論文を正確に理解し、自分の言葉で説明できる力を養う。
- ②自分で設定した課題を理解するために必要な諸研究を、自ら探し、正確に理解する力を養う。
- ③先行研究の立論の根拠となっている諸資料を探し、正確に読解する力を養う。
- ④歴史事象について、根拠を示しつつ、自分なりの解釈を示す力を養う。
- ⑤自分の作業の経緯とそこから得た解釈を、口頭で発表し、質問にも応じられる力を養う。
- ⑥自分の作業の経緯とそこから得た解釈を、一定の書式に基づきまとめる力を養う。

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では、特定の都市に関する論文集を輪読し、身近な地域の歴史を多面的に研究する方法を学ぶ。秋学期は、学生が各自の興味に基づいてとりあげた歴史事象について諸資料を活用して検討した結果を報告し、教員と学生全員でその内容に関する討議を行う。いずれの授業でも、あらかじめ決められた担当者が事前に準備してきた内容を報告し、それに対する質疑を行う。報告者は、報告内容に関する資料を事前に参加者に提示しておく。その他の学生は、配付資料をもとに各自予習のうえ参加し、義務として発言とリアクションペーパー提出を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	参考文献の紹介、各回報告担当者の決定、レジュメ・レポートの説明
第2回	予備報告	先行研究について
第3回	予備報告	地方史関係資料について
第4回	予備報告	博物館等所蔵資料について
第5回	横須賀について①	明治大正期の市財政
第6回	横須賀について②	市報告と質疑 政治構造
第7回	横須賀について③	市報告と質疑 財政から見た海軍の位置づけ
第8回	横須賀について④	居報告と質疑 住者としての海軍関係者
第9回	横須賀について⑤	海報告と質疑 軍にとっての横須賀の位置づけ
第10回	横須賀について⑥	戦報告と質疑 時の市財政
第11回	横須賀について⑦	海報告と質疑 軍工廠の戦後
第12回	横須賀について⑧	戦報告と質疑 後の地域経済

東洋史物質資料演習

宇都宮 美生

授業コード：A3210

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、中国考古・美術・建築に関する文献の講読を通じて、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。

【到達目標】

中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得する。

【授業の進め方と方法】

物質資料の性格を理解する手掛かりを見出し、資料整理の方法を習得するために、資料の講読と内容発表を行う。具体的には、各自が興味をもつテーマを選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成して発表する。前半では、まず関連する文献を読み解き、特別な用語に慣れる。読解に慣れた上級生と不慣れな下級生との組み合わせで、担当するテーマについて内容の要約と説明を行ってもらう。後半では、各自の研究計画テーマに沿って発表してもらいが、互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していく。授業を通して、物を見る力を養い、関連する資料を見出し、資料の性格を論理的に組み立てていくようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 1	年間計画・テキストの説明と配布
第 2 回	導入 2	基本書籍・工具書の紹介
第 3 回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第 4 回	テキストの講読 1	『漢代物質文化資料図説』講読第 1 回
第 5 回	テキストの講読 2	『漢代物質文化資料図説』講読第 2 回
第 6 回	テキストの講読 3	『漢代物質文化資料図説』講読第 3 回
第 7 回	テキストの講読 4	『漢代物質文化資料図説』講読第 4 回
第 8 回	テキストの講読 5	『漢代物質文化資料図説』講読第 5 回
第 9 回	テキストの講読 6	『漢代物質文化資料図説』講読第 6 回
第 10 回	テキストの講読と発表 1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 1 回
第 11 回	テキストの講読と発表 2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 2 回
第 12 回	テキストの講読と発表 3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 3 回
第 13 回	博物館見学	東京国立博物館見学
第 14 回	研究発表 1	4 年生対象 1

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	研究発表 2	4 年生対象 2
第 16 回	テキストの講読と発表 4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 1 回
第 17 回	テキストの講読と発表 5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 2 回
第 18 回	専門図書館の見学	東洋文庫
第 19 回	テキストの講読と発表 6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 3 回
第 20 回	テキストの講読と発表 7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 4 回

- 第 13 回 横須賀について⑨ 災 報告と質疑
害と海軍
- 第 14 回 横須賀について⑩ 地 報告と質疑
方行政制度と地域

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	個別報告：昭和戦前期の都市行政について	報告と質疑
第 16 回	個別報告：戦時期の都市行政について	報告と質疑
第 17 回	個別報告：復興期の都市行政について	報告と質疑
第 18 回	個別報告：戦後の都市行政について	報告と質疑
第 19 回	個別報告：昭和戦前期の地域経済について①	報告と質疑
第 20 回	個別報告：昭和戦前期の地域経済について②	報告と質疑
第 21 回	個別報告：戦時期の地域経済について	報告と質疑
第 22 回	個別報告：復興期の地域経済について	報告と質疑
第 23 回	個別報告：戦後の地域経済について	報告と質疑
第 24 回	個別報告：昭和戦前期の地域文化について	報告と質疑
第 25 回	個別報告：戦時期の地域文化について	報告と質疑
第 26 回	個別報告：復興期の地域文化について	報告と質疑
第 27 回	個別報告：戦後の地域文化について	報告と質疑
第 28 回	個別報告：都市と災害について	報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は事前配布資料、報告レジメの配布を必須として報告準備を行う。報告後は質疑やリアクションペーパーの内容を参考に事後レポートを作成する。

報告担当以外の参加者は、事前配布資料に基づき予習して授業に参加する。授業で得た知見、質問等を授業時間内にリアクションペーパーにまとめる。

出席者は全員、夏季休業中にレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

上山和雄編『横須賀編』〈軍港都市史研究 4〉清文堂出版、2017 年。
大豆生田穰編『国内・海外軍港編』〈軍港都市史研究 7〉清文堂出版、2017 年。その他は授業中に指示する。

【参考書】

横須賀市編刊『新横須賀市史』資料編近現代 1～3、別編軍事、通史編近現代の各巻、2004～2015 年。鳥海靖・松尾正人・小風秀雅編『日本近現代史研究事典』（東京堂出版、1999 年） その他は授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

口頭報告（到達目標①②③④⑤の達成）30 %

レポート（春学期・秋学期の報告後レポート、夏季休業中で計 3 本）（到達目標①②③④⑤⑥の達成）30 % ただし提出がなければ評価の対象外とする。

平常点 40 % 欠席および遅刻が多い場合は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

報告担当でない出席者からも、どんどん意見を募り、全員参加となる授業にしていきたいと考える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出等のために授業支援システム、法政大学 Gmail を利用する。利用に支障がないよう情報機器等の準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

授業の前後や、e-mail で質問を受け付ける。

第 21 回	テキストの講読と発表 8	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 5 回
第 22 回	テキストの講読と発表 9	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 6 回
第 23 回	テキストの講読と発表 10	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 7 回
第 24 回	テキストの講読と発表 11	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 8 回
第 25 回	テキストの講読と発表 12	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 9 回
第 26 回	テキストの講読と発表 13	『漢代物質文化資料図説』研究 テーマ別、第 10 回
第 27 回	研究計画発表 1	3 年生対象 1
第 28 回	研究計画発表 2	3 年生対象 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってもらいたい。研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにする。

【テキスト（教科書）】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いるが、プリントして授業にて配布する。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介していくが、研究室所蔵の資料、図書館の雑誌（考古関連の報告書等）を積極的に活用する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

興味の対象は多岐にわたると思うが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくると思う。

東洋史文献史料演習

齋藤 勝

授業コード：A3211

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史研究のための基礎の習得と実践
自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】

東洋史の研究に必要となる文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【授業の進め方と方法】

「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていききたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていきたい。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	演習の概要	進め方、テキストについて
第 2 回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第 3 回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第 4 回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第 5 回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第 6 回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第 7 回	史料講読	正史（1）『史記』
第 8 回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第 9 回	史料講読	正史（3）『漢書』
第 10 回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第 11 回	史料講読	正史（5）『三国志』
第 12 回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第 13 回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第 14 回	先行研究の整理	中国史
秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	先行研究の整理	中国史以外
第 16 回	文献学の基礎	書誌学について
第 17 回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第 18 回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第 19 回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第 20 回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第 21 回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第 22 回	史料講読と考証	『白居易集』について
第 23 回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第 24 回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第 25 回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第 26 回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第 27 回	卒論準備	卒論の書き方について
第 28 回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。

【テキスト（教科書）】

上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

【参考書】

授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート類 50 %
講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

西洋前近代史演習

後藤 篤子

授業コード：A3150

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて、西洋前近代史に関する研究を自立的に進めるためのさまざまな基礎力を習得します。

【到達目標】

英語・日本語の学術文献の読解能力を身につける。
各自の関心に沿った文献収集・調査能力を身につける。
レジュメ作成能力と口頭発表能力を身につける。
他者の報告を聞いて疑問点や問題点を発見する能力を身につける。
討議に積極的に参加する態度を身につける。
以上を到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

春学期は帝政期ローマに関する英語論文の精読を通じて、英語学術文献の読解力を向上させると共に、未知の事項の調べ方や学術論文の技術的側面を学びます。予め邦訳担当者を決めることはせず、できるだけ受講生全員に何らかの形で発言を求めますので、受講生全員が十分な予習を毎回してくることが必要です。

秋学期は受講生による研究発表と質疑応答・討論の形で授業を進めます。2年生は自分が選んだ西洋前近代史に関わる学術論文に基づき、レジュメを用意した上で自由研究発表を行います。3年生は2年生の発表の司会とコメントーターを担当するほか、ゼミ合宿時の卒論中間発表に対する指導を踏まえて2度目の中間発表を行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキスト配布と予習方法の説明。研究発表に向けた準備の説明
第 2 回	英文講読 (1)	ローマ皇帝のイメージとイデオロギー
第 3 回	英文講読 (2)	3 世紀における変化と神龍帝理念
第 4 回	英文講読 (3)	皇帝権の演出装置
第 5 回	英文講読 (4)	皇帝と法との関係
第 6 回	英文講読 (5)	皇帝の権力とその限界
第 7 回	英文講読 (6)	官僚制の規模
第 8 回	英文講読 (7)	帝政後期における官僚制急拡大の理由 (1)
第 9 回	英文講読 (8)	官僚制急拡大の理由 (2)
第 10 回	英文講読 (9)	帝政前期の官僚制
第 11 回	英文講読 (10)	帝政後期の官吏たち
第 12 回	英文講読 (11)	家産的官僚制か合理的官僚制か
第 13 回	英文講読 (12)	効率よい統治であったのか
第 14 回	春学期のまとめ	質疑応答とゼミ合宿に向けた準備の説明

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期の概要説明	自由研究発表予定および司会・コメントーターの確認
第 16 回	自由研究発表 (1)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (1)
第 17 回	自由研究発表 (2)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (2)
第 18 回	自由研究発表 (3)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (3)
第 19 回	自由研究を深化させる (1)	2 年生の「宿題」報告をめぐる討議 (1)
第 20 回	自由研究発表 (4)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (4)
第 21 回	自由研究発表 (5)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (5)
第 22 回	自由研究発表 (6)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (6)
第 23 回	自由研究を深化させる (2)	2 年生の「宿題」報告をめぐる討議 (2)
第 24 回	卒論作成に向けて (1)	ゼミ合宿時の指導を踏まえた 3 年生の卒論中間発表と質疑応答 (1)
第 25 回	卒論作成に向けて (2)	ゼミ合宿時の指導を踏まえた 3 年生の卒論中間発表と質疑応答 (2)
第 26 回	自由研究をさらに深化させる (1)	2 年生の「再宿題」報告をめぐる討議 (1)
第 27 回	自由研究をさらに深化させる (2)	2 年生の「再宿題」報告をめぐる討議 (2)
第 28 回	秋学期のまとめ	自由研究発表・卒論中間報告に対する全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文講読については、単なる逐語訳にとどまらぬ十分な英文読解の予習、および予習時の不明箇所や自分が誤読した箇所を中心に、授業時の解説を踏まえた復習が、毎回必要。自由研究発表については、2 年生は春学期のうちから秋学期の発表に向けた文献収集・読解を進め、レジュメを発表日の 1 週間前までに作成・提出する。他の受講生は各自、事前に授業支援システムから発表ジュメをダウンロードし、事前配布の参考論文と合わせて予習したうえで、質疑応答や討議に臨むことが必要。報告者は発表後、質疑応答で十分に答えられなかった問題についてさらに調査し、「宿題」報告レジュメを指定された期日までに作成・提出する。3 年生は加えて春学期・夏期休暇中に、ゼミ合宿での卒論中間発表に向けた準備を進める。さらに、合宿で指摘されたことを踏まえて自主的に勉強を進め、2 度目の卒論中間発表に備える。

【テキスト（教科書）】

Peter Garnsey and Caroline Humfress, *The Evolution of the Late Antique World* (Cambridge, 2001) の Ch.3: Emperors and bureaucrats.

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（英文読解の予習度・精度および発表の準備度・内容 70 %、質疑応答・討議への貢献や出席状況から判断する授業への積極的参加度 30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は授業を担当せず、2017 年度は 2018 年度シラバス提出後のアンケート実施となるため、該当なし。

西洋近現代史演習

加納 格

授業コード：A3151

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代史に関わる基本文献の読破とそれぞれの研究の深化

【到達目標】

自立して研究活動を進められるようにする。歴史研究の必須要件である外国語の読解能力を高め、学術論文を自力で読めるようにする。関連文献の検索能力を形成する。

【授業の進め方と方法】

演習形式で進め、英語文献、もしくは人によってはそれぞれの外国語文献の内容報告と討議、またそれぞれの関心による自主研究を発表し、討論する。研究成果は冊子にして刊行を予定する。
共通するような内容の文献は合宿で集中的に読んで議論する。また研究発表も合宿で行う。基本的には全員が合宿に参加するようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	すすめ方の説明
第 2 回	テキスト内容の報告と討論（1）	各自分担の報告（1）
第 3 回	テキスト内容の報告と討論（2）	各自分担の報告（2）
第 4 回	テキスト内容の報告と討論（3）	各自分担の報告（3）
第 5 回	テキスト内容の報告と討論（4）	各自分担の報告（4）
第 6 回	小括討論	まとめをする
第 7 回	テキスト内容の報告と討論（5）	各自分担の報告（5）
第 8 回	テキスト内容の報告と討論（6）	各自分担の報告（6）
第 9 回	テキスト内容の報告と討論（7）	各自分担の報告（7）
第 10 回	テキスト内容の報告と討論（8）	各自分担の報告（8）
第 11 回	テキスト内容の報告と討論（9）	各自分担の報告（9）
第 12 回	テキスト内容の報告と討論（10）	各自分担の報告（10）
第 13 回	テキスト内容の報告と討論（11）	各自分担の報告（11）
第 14 回	前期のまとめ、総括討論	文献内容を振り返り、それぞれの意見を述べる

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	総括討論	読んだ内容と現代の関わりを考える
第 16 回	秋学期方針の確認	春学期のテーマとの関係を確認する
第 17 回	テキスト内容の報告と討論（13）	各自分担の報告（13）
第 18 回	テキスト内容の報告と討論（14）	各自分担の報告（14）
第 19 回	テキスト内容の報告と討論（15）	各自分担の報告（15）
第 20 回	テキスト内容の報告と討論（16）	各自分担の報告（16）
第 21 回	テキスト内容の報告と討論（17）	各自分担の報告（17）
第 22 回	小括討論	秋学期前半の内容を確認する
第 23 回	テキスト内容の報告と討論（18）	各自分担の報告（18）
第 24 回	テキスト内容の報告と討論（19）	各自分担の報告（19）
第 25 回	テキスト内容の報告と討論（20）	各自分担の報告（20）
第 26 回	テキスト内容の報告と討論（21）	各自分担の報告（21）
第 27 回	テキスト内容の報告と討論（22）	各自分担の報告（22）
第 28 回	後期のまとめ、総括討論	文献内容を振り返り、それぞれの意見を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

歴史的事象と現代社会との関わりに関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

演習中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

研究報告内容と演習への積極的参加などの平常点による。

【学生の意見等からの気づき】

特にない。

日本考古学

小倉 淳一

授業コード：A3113

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進화가列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う予定。プリント等の資料も利用する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生産技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。レポートを課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第1巻 原始・古代1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、提出されたレポートの成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館で考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。板書はあまり行わないので、画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成する必要があることを念頭に置いてほしい。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけることができます。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革の時代から平安中期の王朝貴族の時代への移行期間に関しては、嵯峨天皇・藤原良房・藤原基経・宇多天皇に注目して国家・政治のあり方の変化を見ていきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概容の説明
第 2 回	平安前期の改革	光仁朝～嵯峨朝
第 3 回	もうワンランク上の国家	新しい国家の目指すもの
第 4 回	官人の性格変化	摂関政治への序奏
第 5 回	嵯峨天皇（1）	良吏政治
第 6 回	嵯峨天皇（2）	太上天皇制の改変
第 7 回	藤原良房（1）	摂関政治
第 8 回	藤原良房（2）	安定の時代へ
第 9 回	藤原基経（1）	陽成天皇の廃位
第 10 回	藤原基経（2）	光孝天皇の擁立
第 11 回	藤原基経（3）	阿衡の紛議
第 12 回	摂関時代（1）	貴族の時代
第 13 回	摂関時代（2）	推移と展開
第 14 回	平安時代概観	これまでの授業をふまえて平安時代を概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るためには、どれでもいいですから参考書（該当巻）を読んでみましょう。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということ述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、講義の対象とする嵯峨朝の前の時代を知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。

基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本中世の京都を中心に、都市のかたち（都市空間・都市景観）や、都市固有の諸問題、それに対応するために構成された社会集団について、文書・記録などの文献史料、絵図・絵画などの画像史料を用いて考察する。

【到達目標】

現代人の生活はしばしば「都市的」と形容される。生活の都市化によって、われわれは都市を基軸とする社会的分業がもたらす様々な日常の便利さや快適さを楽しむとともに、都市ならではの問題にも直面する。日本列島で初めてそれらを民衆レベルまで含めて体験することになったのは、中世の人々であるといっていよう。われわれの先人が発展させた都市社会の構造・かたちとはどのようなものであったのか、近世への展望を含めて考えたい。この授業では、日本中世の都市に関する史料を実際に読み解くことを通じて、史料を自分で読むための基礎的な技能を身につけ、日本中世史に関する基礎的な知識や概念を理解し、説明することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

第2回以降、あらかじめ利用する史料のプリントを配布し、それを読解することによって授業を進めるので、受講者は予習が必要である。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、高校地歴の教育との関連などについて説明する。
第 2 回	中世都市の類型学	中世都市の諸カテゴリーについて解説する。
第 3 回	平安京から中世京都へ	中世都市京都の成立について解説する。
第 4 回	中世京都の都市のかたち①	中世都市の構成要素のひとつである「巷所」について解説する。
第 5 回	中世京都の都市のかたち②	中世都市の構成要素のひとつである「辻子」について解説する。
第 6 回	中世京都の都市のかたち③	中世都市を理解するための「境内と町」の概念について解説する。
第 7 回	戦国期京都の都市のかたち	戦国期の京都に特有の「木戸・釘貫・構」について解説する。
第 8 回	「洛中洛外図」をよむ①	「洛中洛外図」から戦国期の京都の都市景観を読解する。
第 9 回	「洛中洛外図」をよむ②	「洛中洛外図」から江戸初期の京都の都市景観を読解する。
第 10 回	都市的課題と都市共同体の成立	都市的課題とそれに対応して都市民が構成した様々な社会集団について解説する。
第 11 回	都市共同体の運営	主に都市共同体の最小ユニットである「町（チョウ）」の運営について解説する。
第 12 回	中世の市場・宿町・港町など	京都以外の主だった中世都市のあり方について解説する。
第 13 回	城下町の成立	戦国期の城下町の成立と京都をはじめとする中世都市への影響を解説する。
第 14 回	エピソード—中世から近世へ—	中世都市から近世都市への展望について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に史料を配布し、それに基づいて授業を進めるので、史料読解の予習が必須である。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は定めず、レジュメと史料プリントを利用する。

【参考書】

笠松宏至・佐藤進一・百瀬今朝雄編『日本思想体系 22 中世政治社会思想下』岩波書店、1981 年
高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集日本都市史』東京大学出版会、1993 年
京都国立博物館編『洛中洛外図 都の形象』淡交社、1997 年
高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市 史料の魅力、日本とヨーロッパ』東京大学出版会、2009 年
『日本都市史・建築史事典』丸善出版、2018 年 3 月刊行予定

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 50 %、試験 50 % で評価する。授業への参加度は出席回数だけでなく、史料読解の予習や授業中の発言なども評価する。史料読解の予習では、自分なりの解釈で構わないので史料にまじめに向き合う態度はプラスに評価する。試験では講義の中で開設した概念や用語に関する理解度と史料読解（単なる解釈ではなくそこから何が分かるか）について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【その他の重要事項】

定期試験：別途定期試験を行う

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、画像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③画像史料を読み解くことができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。図や表、活字史料のプリントを配布して授業を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市を考えること
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の支配	道奉行
第 13 回	公共負担の行方	道造組合と上水組合
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むことが望ましい。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

日本近代史

長井 純市

授業コード：A3117

春学期・2単位

【その他の重要事項】

やむを得ない事情により欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、19世紀後半から20世紀初頭までの日本の諸相を学ぶことである。毎回、時代を下りながら政治・経済・外交・軍事・社会に関わるトピックを取り上げ解説する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、幕藩体制下の開国から明治末までの政治・経済・外交・軍事・社会に関する知識を、当該期に特有の用語を通して、習得し、現代日本の成り立ちについて、自分のことばで説明することができるようになることである。また、授業内容をふまえ、自ら進んで当該分野の研究成果にアクセスし、学習を深める姿勢を養成することである。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式である。受講生の能動的学習を促すために、質疑応答やグループディスカッションを採り入れ、双方向的な授業運営に努める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要説明
第2回	帝国議会と国会	国会の歴史に関わるビデオの視聴及び解説
第3回	帝国議会（1）	構想解説
第4回	帝国議会（2）	制度解説
第5回	初期議会	藩閥と民党の攻防
第6回	日清戦争	開戦・戦況・講和
第7回	戦後経営（1）	藩閥・政党提携路線
第8回	戦後経営（2）	政権政党の成立
第9回	日露戦争（1）	開戦と世論
第10回	日露戦争（2）	講和と世論
第11回	桂園政治（1）	政権授受
第12回	桂園政治（2）	桂太郎と原敬の攻防
第13回	大正政変	二大政党制の萌芽
第14回	まとめ	授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、受講前に授業テーマに関する参考文献を読んでおくこと。また、授業後には授業において配布された資料をもう一度読み直し、授業中に得た知識の定着を図ること、さらに授業中に示された参考文献や、その他の関連文献を読むこと。その上で、授業中の質疑応答の際の質問を考えておくこと。授業内容については、主に復習用として、授業支援システムの掲示板に毎回要点やコメントなどを記すので、読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻、佐々木隆『藩閥政府と立憲政治』講談社学術文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、毎回、授業内容に関する基礎的理解度を試す発問を効果的に利用することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを参照するIT機器（PC、スマートフォン、タブレットなど）。

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118

春学期・2単位

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義を受けての討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第5回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策を討論する。
第10回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満州はなんだったのかを理解する。
第11回	満州事変と日本外交（2）	満州事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満州事変と日本外交（3）	満州国の成立、満州国が目指したもの、満州国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整（1）	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業終了後に熟読すること。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7割、平常点 3割。

日本史特講Ⅰ

中山 学

授業コード：A3154

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では徳川吉宗の主導で実施された医薬政策について学ぶ。薬物に通じた専門スタッフによる国内出産薬物（和薬）の調査や薬草の真偽鑑定等を軸とした薬種の流通政策と、効果的な薬法・治療法の普及を目指した政策、貧民のための病院の設立等がどのような事情の中でいかに実施されたのかについて理解を深め、いわゆる享保改革の特質を論説するための力を養う。

【到達目標】

享保改革期に実施された医薬政策の内容とその特質を論じることができる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず徳川吉宗という人物について知るところからはじめ、次に、この人物による將軍親政を支えた幕府の組織について概観する。そして幕府の行財政改革を主目的とした享保改革の内容を瞥見し、幕政改革の社会的影響について考える。こうして得た知識を基盤とし、以下、当時の関係文書を読みながら医薬政策の展開過程を追跡する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の目的
第 2 回	徳川吉宗（1）	出自、紀伊藩主時代の実績、將軍職への就任
第 3 回	徳川吉宗（2）	將軍親政を支えた組織
第 4 回	徳川吉宗（3）	有能人材の採用
第 5 回	享保改革（1）	経済政策の内容と効果
第 6 回	享保改革（2）	改革政治の社会的影響、反発
第 7 回	医薬政策（1）	薬草調査の目的と方法
第 8 回	医薬政策（2）	薬草調査の成果
第 9 回	医薬政策（3）	和薬改会所の設立
第 10 回	医薬政策（4）	薬法書の編纂
第 11 回	医薬政策（5）	疫病対策
第 12 回	医薬政策（6）	効果的薬法の集積
第 13 回	医薬政策（7）	薬園と養生所
第 14 回	医薬政策（8）	薬園と養生所（2）
	おわりに	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・下記参考書の一読
・配布する史料（近世文書）の予習読解及び復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

『徳川吉宗公伝』（東照宮・1962 年）
辻達也『徳川吉宗』（吉川弘文館・1985 年）
安田健『江戸諸国産物帳―丹羽正伯の人と仕事』（晶文社・1987 年）
大石学編『享保改革と社会変容』（吉川弘文館・2003 年）
深井雅海『綱吉と吉宗』（吉川弘文館・2012 年）
藤本清二郎『紀州藩主 徳川吉宗』（吉川弘文館・2016 年）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50 %）
期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（鎌倉時代から南北朝時代）の武士を始めとする人々に対する理解を深めるため、人物史の視点から学ぶ。武家などの政治権力との関わりをふまえつつ、特に仏教信仰に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追及し、歴史像を描くという、歴史学の方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から南北朝時代にかけての地方武士（御家人）について、在地領主としての活動のみならず、仏教信仰や文化活動からうかがえる心性を含めて、人物像を明確に描くことができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【授業の進め方と方法】

6 章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを用いて解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに授業支援システムにアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世武士論の現在（1）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 2 回	中世武士論の現在（2）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 3 回	中世武士論の現在（3）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 4 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（1）	熊谷直実の活動と武家政権
第 5 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（2）	熊谷直実の活動と武家政権
第 6 回	熊谷直実の出家と浄土宗（1）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 7 回	熊谷直実の出家と浄土宗（2）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 8 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（1）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 9 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（2）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 10 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（1）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 11 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（2）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 12 回	文字を拝む中世人（1）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 13 回	文字を拝む中世人（2）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 14 回	中世前期の武士と仏教文化	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史 21 鎌倉時代 4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013 年）
その他は、授業時に各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの点数 28%、学期末試験の点数 72% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

日本史特講Ⅲ

永田 一

授業コード：A3156

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の東北地方は、律令国家の支配が浸透していた南部、城柵を拠点とした支配が行われていた中部、その北にある境界世界に分かれる。この中部に形成された奥六郡と出羽山北三郡から安倍氏と清原氏が台頭し、やがて平泉を拠点とした奥州藤原氏が東北地方の覇者として君臨した。本授業では摂関期・院政期にあたる 10～12 世紀の東北地方の歴史をとりあげ、その歴史的動向が古代から中世の転換にどのように関わっているのかについて学んでいく。摂関期・院政期の政治と地方支配に関する基本的な理解を確認する機会を設けながら、特徴的な東北地方の歴史的動向を学ぶことで、古代の日本列島の歴史的な歩みが決して画一的なものではなかったことを深く考えていくようにする。

【到達目標】

まず、歴史学の基礎となる史料を正確に読み解く読解力を養う。10～12 世紀の東北地方の歴史的動向は、中央政府との政治的関係はもちろんのこと、北の境界世界との交易・交流とも深く関わりながら展開していった。こうした東北地方の歴史を学ぶことで、日本列島の文化的多様性を理解し、広い視野で日本の歴史を見る態度を身につけることを目指す。また、現代社会について主体的に考えていくうえでも必要な、歴史や文化を相対的に見る姿勢を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で進め、質問は授業中及び提出カードでも受け付ける。また、学生を指名して史料を音読してもらうことや、解釈を述べてもらう機会も設けたいと考えている。これは学生に古代の史料を読解する力を身につけてもらうことが目的であり、積極的に取り組んでいるかどうかを重視する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方／古代東北の歴史を学ぶとは—高校公民の授業にむけて本授業の持つ意味—
第 2 回	摂関期の政治と地方支配の変化	摂関政治／受領と荘園の発展／武士の成長
第 3 回	10・11 世紀の東北史	城柵による支配の終焉／鎮守府・秋田城と新たな支配体制／北方世界における交易と交流／10 世紀東北の情勢／古代東北の防御性集落
第 4 回	安倍氏と奥六郡	安倍氏について／奥六郡とは／安倍氏が築いた柵
第 5 回	清原氏と出羽山北三郡	清原氏について／出羽山北三郡とは／清原氏と出羽国の柵
第 6 回	前九年合戦	『陸奥話記』について／前九年合戦の経緯／前九年合戦の終結と安倍氏の末路
第 7 回	延久二年合戦と後三年合戦	延久二年合戦／『奥州後三年記』について／後三年合戦の経緯とその終結
第 8 回	院政期の政治と社会	荘園公領制／院政／保元・平治の乱
第 9 回	奥州藤原氏初代清衡	清衡とは／清衡と摂関家／平泉の開府／中尊寺の建立
第 10 回	二代基衡の時代	一族の内戦／基衡と摂関家／毛越寺の建立
第 11 回	三代秀衡の時代	奥州藤原氏の最盛期／秀衡と源氏／無量光院の建立
第 12 回	都市平泉	仏教都市平泉／平泉の政治の中核／北の境界世界と平泉／都市平泉の歴史的 position とは
第 13 回	奥州藤原氏の滅亡	秀衡の死去／源義経の最期／鎌倉軍の発向／平泉の陥落とその後
第 14 回	まとめ	授業内容の総括／古代東北史を通じて見えるもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布したプリントに目を通して復習すること。特に引用史料は音読し、史料を読むことに慣れて欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎授業、教員が作成したプリントを配布する。

【参考書】

高橋崇『蝦夷の末裔』（中公新書、1991 年）
高橋崇『奥州藤原氏』（中公新書、2002 年）
樋口知志編『東北の古代史 5 前九年・後三年合戦と兵の時代』（吉川弘文館、2016 年）
柳原敏昭編『東北の中世史 1 平泉の光芒』（吉川弘文館、2015 年）
青森県史編さん古代部会編『青森県史 資料編 古代 1 文献史料』（青森県、2001 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（史料読解等の取り組みの姿勢、出席等）30% と試験の成績 70% によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における「地域社会」の形成をテーマに、主にその本格的形成期に入ると目される中世後期から近世前期にかかる時期の歴史像を通観する。そしてこの作業を通じて、日本史研究において近世という段階への到達過程がどのように把握されているのかについて理解を深める。この授業ではこうした方法を取り、日本において「地域社会」の形成がいつ頃どのように生じ、いかに展開したのかを論説できるようにするとともに、そうした歴史像を捉えることが日本歴史の全体像把握においていかなる意味をもつのか論理的に説明できるようにしたい。

【到達目標】

・日本史研究において「地域社会」形成の動向が凡そいつ頃、どのように生じてきたと考えられているのか説明することができる。
・歴史学の立場から、「地域社会」形成の歴史的意義を説明することができる（「地域社会」がどのような存在として概念化可能か説明することができる）。

【授業の進め方と方法】

歴史研究において地域とは単に地理的範囲をいう言葉ではない。何らかの社会的結合の可視化範囲を特に地域として抽出するのであり、その社会的結合が何らかの秩序を有する場合、そこにはじめて「地域社会」の存在を確認するのである。この授業では、歴史研究における地域ないし地域社会にかんするこのような共通理解を前提に、特に中世後期から近世前期にかかる時期の村社会の形成、そして近世前期以降の展開を取り扱った近年の論文を講読する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	日本歴史を通時的に捉えることの意義
第2回	前史1	古代国家の成立
第3回	前史2	私的土地所有の拡大と地方支配の変容
第4回	前史3	支配集団の分立と多重支配の形成
第5回	前史4	武士団と中世村落／中世社会の変質
第6回	中世後期の地域社会1	「惣」の出現－人々の救済観念と「公」の形成－（1）
第7回	中世後期の地域社会2	「惣」の出現－人々の救済観念と「公」の形成－（2）
第8回	中世後期の地域社会3	「公儀」権力の成立と展開
第9回	近世前期の地域社会1	「太閤検地」の歴史的意義
第10回	近世前期の地域社会2	「兵農分離」と近世の村の形成（1）
第11回	近世前期の地域社会3	「兵農分離」と近世の村の形成（2）
第12回	近世前期の地域社会4	小百姓の成長と村運営の変質（1）
第13回	近世前期の地域社会5	小百姓の成長と村運営の変質（2）
第14回	まとめと展望	村連合と「公共圏」の形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献の通読

【テキスト（教科書）】

授業中に講読論文を指定する。

【参考書】

①授業第1回～第5回
義江彰夫 (1986)『歴史の曙から伝統社会の成熟へ-原始古代・中世-』山川出版
水林 彪 (1987)『封建制の再編と日本の社会の確立-近世-』山川出版
稲垣泰彦編 (1973)『(UP 選書 114) 荘園の世界』東京大学出版会
②授業第6回～
歴史学研究会・日本史研究会共編 (2004)『日本史講座』5「近世の形成」東京大学出版会
仁木 宏 (2004)『(日本史リブレット) 戦国時代、村と町のかたち』山川出版
吉田ゆり子 (2008)『(日本史リブレット) 兵と農の分離』山川出版
久留島典子 (2011)『(日本史リブレット) 一揆の世界と法』山川出版
川端泰幸 (2007)『日本中世の地域社会と一揆-公と宗教の中世共同体』法蔵館
水本邦彦 (2015)『(シリーズ日本近世史2) 村-百姓たちの近世』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (50 %)

期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

・高校教科書レベルの知識水準を前提とする。
・日本史特講Ⅰ～Ⅹのうち、特に中世を専門とする授業を積極的に並行履修するとよい。

日本史特講Ⅴ

小泉 吉永

授業コード：A3158

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近世女性の学びと暮らし」

・近世女性の学び・子育て・生活等の諸相を、往来物（読み書きの初歩教科書）等の古典籍や古文書から探っていく。
・高校日本史でほとんど扱われない近世の女子教育や女性文化に関する諸問題を扱い、現代社会におけるジェンダー周辺の諸問題を考える視点を学ぶ。

【到達目標】

・授業で扱った近世女性の教育・生活・文化的テーマについて説明できる。
・歴史的事象を性差など色々な立場から多面的に把握する姿勢を養う。
・現代のジェンダーの諸課題を歴史的に把握し、適切に扱う能力を養う。
・現代人の視点だけではなく、近世に生きた人々の立場から史料を読み解く態度を身につける。
・史料を読み説く視点や能力を養い、くずし字解読の基礎知識を習得する。
・実物の史料に触れ、近世史料への関心や問題意識、また、主体的・発展的な学習意欲を高める。
・グループワーク（GW）等を通じて、実りある討論の方法を学び、表現力やプレゼン能力を高める。

【授業の進め方と方法】

・概要：江戸期女性は「三従」「七去」に象徴される女性差別や封建道徳だけで語れるものではない。約1世紀にわたって女性が自己表現を試みた「女筆手本」の時代と女性書札（手紙の作法）の変遷、「女大学」の成立とその影響、女性の読み・書き・算盤の普及、さらに、女性の結婚・婚嫁など、当時の女性をめぐる生活や文化の諸相を紹介する。
・方法：VTR、古典籍・古文書の実物を使いながら、江戸時代を具体的に体感できる授業を目指す。授業中は頻繁に発問を行って、問題意識とともに理解が深まるように努める。講義形式が中心だが、適宜、グループワーク（グループ討議等）など受講生相互の研鑽の機会も設ける。
*講義の予習や復習の一助となるよう、往来物倶楽部 (http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/indexOurai.htm) の「法政大学学生用」に講義資料の全てを、また、「講演・講義資料等」に参考資料を掲載する。
*受講生からの質問や意見は大歓迎。講義中、講義後、メール等で随時受け付ける。出席調査票の質問やコメントは必要に応じてフィードバックし、その後の講義に活用するように努める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	良妻賢母（江戸期の2つの女学校構想）	* VTR「良妻賢母の光と影」
第2回	子育ての闇（子殺し習俗と対策）	* 町年寄助右衛門『日記控』を読む
第3回	子育ての光（近世育児書における父母の役割）	* VTR「大江戸子育て事情」
第4回	寺子屋教育（寺子屋と近代小学校の相違）	* VTR「子どもはご近所の宝物」
第5回	読み書き学習の諸相（手習本と読み書き）	* 手習本の実物を用いてグループワーク
第6回	和算と女性（女子の算数教育）	* VTR「本当は面白い数学の話」
第7回	女子用往来（往来物における性差）	* VTR「往来物という教科書」
第8回	女大学の概要（「女大学」の概要とその影響）	* 女大学の内容についてグループワーク
第9回	女大学の評価（「女大学」の評価）	* 「女大学」の評価するための視点を各種史料を通じて考える
第10回	女筆手本（女筆ブームの意義）	* VTR「女のたしなみ教えます」
第11回	女性書札（女性書札の成立と展開）	* 庶民女性の手紙についてグループワーク
第12回	歴史に根ざす女性差別（レポート発表）1	* 提出レポートのテーマにより2回に分ける
第13回	歴史に根ざす女性差別（レポート発表）2	* 提出レポートのテーマにより2回に分ける
第14回	授業内試験・まとめ	* 本講義のまとめとして試験を行うとともに、今後の授業改善の一助とする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義資料については予めWEBで公開するため、事前に目を通し、関連情報を把握することが望ましい。
・グループワークの場合、グループ討議の活性化や学習効果向上のためにも、シラバス等に明記したテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくことが望ましい。
・レポートおよび試験では、参考文献を明記したり、自身の調査・考察など、主体的・発展的な学習成果を具体的に示すように努めること。

【テキスト（教科書）】

・テキストなし（講義資料（プリント）を毎回配布。講義資料は往来物倶楽部 (http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/indexOurai.htm) の「法政大学学生用」に全て掲載するため、講義前後の学習に活用されたい）

【参考書】

・参考書は講義資料で随時紹介。なお、レポート作成や発展的な学習の際の情報ツールとして、『往来物解題辞典』（2001、大空社）や、『日本女性史大辞典』（2008、吉川弘文館）を始めとする女性史関連辞典がある。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（1回）と授業内試験（持ち込み可、記述式）を実施し、成績は、平常点10%、レポート提出10%、授業内試験80%を目安に評価。個別知識よりも講義内容を通じて得られた歴史的知見や問題意識、主体的な学習状況を重視する。具体的には、講義をきっかけにどんな気づきや発見があり、それがどのような学習の取り組みに発展したのか（例えば、自ら文献で調べた、研究課題が見つかった、レポートをきっかけに現地に調べに行ったなど）をレポートや試験でアピールされたい。
・レポートは提出点（10%）のほか、内容面を「授業内試験」で評価。授業内試験は80点満点で、①各講義の研究テーマから3題を出題、うち1題を選択して論述（30点）、②レポートの要点を記述（40点）、③授業で学んだこと（10点）の目安で評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートや出席カードの感想などに基づく最近の改善点は次の通り。
○主体的な学習の重視（レポート・発表・試験・評価）
○出席カードの質問・感想のフィードバック
○講義内容の厳選
○グループワークの重視
○レポート発表の実施（前年度は2回に分け十分に時間をかけて行った）

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世地域社会の成立と展開

【到達目標】

日本各地には膨大な近世の地方文書が伝来しています。地方文書は地域の文化遺産であると同時に、それらを通じた近世の地域社会の考察は、今日の地域社会のあり方を考えるうえで重要です。授業では、近世の地域社会がいかに形成、展開し、どのように維持運営されていたのかを中心に理解を深めるとともに、今日の地域社会について考える視野を培うことを目標とします。

【授業の進め方と方法】

日本近世史の地域史研究を紹介しつつ、主に江戸周辺地域の地方文書を取り上げて、近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解説し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、近世の地方文書
第2回	近世地方文書の成立の背景	江戸幕府の成立と支配体制
第3回	近世村落の成立①	検地と百姓
第4回	近世村落の成立②	郷から村へ
第5回	近世村落の成立③	新田開発と村落
第6回	近世村落の構造と運営①	村人と諸身分集団
第7回	近世村落の構造と運営②	村請制と村役人
第8回	近世村落の構造と運営③	村落と村組
第9回	近世の村社会と農民生活①	村の掟
第10回	近世の村社会と農民生活②	祭礼と若者仲間
第11回	近世の村社会と農民生活③	通俗道徳と家族
第12回	近世地域社会の変容①	商品生産と流通
第13回	近世地域社会の変容②	民衆運動と組合村議定
第14回	まとめ	近世の地域社会と現代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。東京近郊の博物館や資料館などの見学は、授業の準備学習や復習になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業に取り組む姿勢）50％ 試験50％
2／3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

親しみやすい素材を用いて近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

日本史特講Ⅶ

近藤 祐介

授業コード：A3160
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦国時代を代表する権力である戦国大名の特質を考えるとともに、近年研究の深化している村論などを踏まえ戦国時代の村の問題や一向一揆などの宗教の問題、地域史の問題などを取り上げて、戦国時代を総合的に考える。

【到達目標】

戦国時代の政治情勢や社会・文化の変化などについて知識を深めるとともに、日本史の史料や図表などを読解し、論理的に歴史像を構築する力を養う。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。毎回授業内容についてのプリントと関連する史料や図表を配布し、それに基づいて進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	戦国時代とは何か	戦国時代の特質、戦国という時代が日本史上どのような意義を持ったのかなどを概説
第2回	戦国時代を見る視角	いくつかの先行研究を取り上げ、戦国時代を分析するための視覚や研究史上の概念について述べる
第3回	東国における戦国時代の幕開け	鎌倉府の崩壊以後の関東における争乱の展開について述べる
第4回	後北条氏と東国の争乱	後北条氏の登場から戦国大名として成長遂げるまでを述べる
第5回	戦国大名の登場	戦国大名と呼ばれる権力の特質を室町時代と比較する形で述べる
第6回	書状から読み解く戦国大名間交渉	書状を手掛かりに戦国大名間の交渉や同盟締結について述べる
第7回	戦乱から天下統一へ	戦国時代の終焉から統一政権の誕生までを述べる
第8回	戦国時代の村	村論などを取り上げながら戦国時代の村の実態について述べる
第9回	戦国時代の村に生きる人びと	『政本公旅引付』などを手掛かりに戦国時代の村とそこに生きる人びとの生活を述べる
第10回	村から見た戦国時代	村落の側に視点を置き、戦国時代の特徴や社会の変化などについて述べる
第11回	戦国時代の宗教勢力	戦国時代の宗教者たちの活動などについて仏教（僧侶）を中心に述べる
第12回	キリスト教と仏教	戦国時代に伝来したキリスト教がいかに布教されたのかを、仏教との関係から述べる
第13回	一向一揆と織田信長	石山戦争を題材に、信長と仏教の問題について述べる
第14回	戦国時代の終焉	これまでの講義の総括し述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の参考文献などを提示することがあるので、事前に目を通しておくこと。
また配布プリントで復習などをすること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎授業レジュメプリントを配布する。

【参考書】

池享『戦国大名と一揆』（吉川弘文館、2009年）
黒田基樹『戦国大名』（平凡社新書、2010年）
藤木久志『新版雑兵たちの戦場』（朝日選書、2005年）
その外の本については適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

日本史特講区

長井 純市

授業コード：A3201

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、欧米人の見た 20 世紀初頭の日本および日本人である。日本滞在経験を有する欧米人が残した英文の著述・公文書などの一節を読むことにより、日本近代史における政治・経済・外交・軍事・文化・生活などを学ぶ。また、日本の近代化に対する欧米の評価や異文化との衝突・交流について学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は、日本滞在経験を有する欧米人が残した英文の著述・公文書などの一節を読むことにより、日本近代史における政治・経済・外交・軍事・文化・生活などに関する基礎的な知識を得ることである。また、そうした記録を通して欧米人が日本の近代化をどのように見ていたかを学ぶと共に、異文化の交流・共生について考え、さらにグローバリゼーションの中の日本のあり方を考える手がかりを得ることである。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式である。受講生の能動的学習を促すために、予習奨励、受講生による英文資料の和訳、質疑応答やグループディスカッションを採り入れると共に、授業後の発展学習を促し、授業の活性化と双方向的な運営に努める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明
第 2 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（1）	政治（1）
第 3 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（2）	政治（2）
第 4 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（3）	経済（1）
第 5 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（4）	経済（2）
第 6 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（5）	外交（1）
第 7 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（6）	外交（2）
第 8 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（7）	戦争（1）
第 9 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（8）	戦争（2）
第 10 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（9）	文化（1）
第 11 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（10）	文化（2）
第 12 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（11）	生活（1）
第 13 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（12）	生活（2）
第 14 回	まとめ	授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、受講前に授業テーマに関するインターネット・サイトを見たり、配布資料を英和辞典などを使って読んだりしておくこと。また、授業後には配布資料をもう一度読み直し、授業中に得た知識の定着を図ること、さらに授業中に示された参考文献や、その他の関連文献を読むこと。その上で、授業中の質疑応答の際の質問を考えておくこと。授業内容については、主に復習用として、授業支援システムの掲示板に毎回要点やコメントなどを記すので、読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻、オリーヴ・チェックランド『明治日本とイギリス』法政大学出版局、ジョセフ・ヘニング『アメリカ文化の日本体験』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

日本近代史に関する基礎的な知識の不足を感じる受講生がいることから、受講生の基礎的な理解の度合いをはかる発問を効果的に利用する。また、英文解釈に手間取る受講生もいることから受講生の授業中における理解の度合いをはかる発問も多用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを参照する I T 機器（P C、スマートフォン、タブレットなど）。

【その他の重要事項】

やむを得ない事情により欠席する場合には、その事情を証明する文書を提出すること。

日本史特講Ⅹ

森田 貴子

授業コード：A3202

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、制度変革の観点から、多角的に近代日本の社会を歴史的事実に基づき理解する。

【到達目標】

本講義は、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

各回テーマごとに、講義を進めながら、近代日本の諸制度について、考えていく。毎回、リアクションペーパーを提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の受け方。歴史学の方法。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	土地制度（1）	近世期の土地制度
第 3 回	土地制度（2）	地租改正の実施
第 4 回	土地制度（3）	地租改正の意義
第 5 回	司法制度（1）	近世期の裁判制度
第 6 回	司法制度（2）	近代的司法制度の確立
第 7 回	土地制度と司法制度（1）	近代的司法制度と裁判の実態
第 8 回	土地制度と司法制度（2）	地主制
第 9 回	教育制度（1）	小学校の成立
第 10 回	教育制度（2）	小学校の確立
第 11 回	金融制度（1）	明治初期の貨幣制度
第 12 回	金融制度（2）	国立銀行の設立
第 13 回	金融制度（3）	日本銀行の創設
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

教場で、資料レジュメを配布する。

【参考書】

教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と、試験 1 回（60 %、持ち込み不可）による。

【学生の意見等からの気づき】

1 時限から 4 時限へ移動しました。

【その他の重要事項】

3 分の 2 以上の出席は必須です。

日本史特講Ⅱ

石田 実洋

授業コード：A3216

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究の根幹ともいえるのが史料批判であり、それは大きくは、史料に記述された内容を正しく理解すること、それに、その史料がどのような立場から作成されたものであるのかを把握することにあるといえる。前者では、まず正しい本文を復原する、という作業が含まれ、また後者には、その史料がどのように扱われて現在まで伝来してきたか、という伝来論も含まれる。以上のような史料批判の方法を習得することを目的として、具体的には日本史、特に古代史の研究対象となる典籍について学んでいく。

【到達目標】

日本史（特に古代史）の研究対象となる史料の概要を把握し、個別事例に基づき、史料批判の具体的な方法を理解する。

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず史料批判の方法についての概論を学ぶ。その後、日本史、特に古代史の研究対象となる典籍について、史書、法制史料、儀式書などといったまとまり毎に、個々の史料について学んでいく。第 3 回以降で採り上げる書目は、強い要望が多ければ、変更を検討する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	史料批判の方法（1）	本講義の目的、古代史料研究の現状
第 2 回	史料批判の方法（2）	テキスト再建、テキスト批判などの方法
第 3 回	史書 六国史（1）	六国史総論、日本書紀
第 4 回	史書 六国史（2）	続日本紀、日本後紀
第 5 回	史書 六国史（3）	続日本後紀、日本文徳天皇実録、日本三代実録
第 6 回	史書 六国史以後（1）	類聚国史、日本紀略など
第 7 回	史書 六国史以後（2）	本朝世紀、その他（古代の年代記）
第 8 回	法制史料（1）	律令（律・令義解・令集解ほか）
第 9 回	法制史料（2）	格式（三代の格・式について、類聚三代格、延喜式）
第 10 回	儀式書（1）	古代前期の儀式書（内裏式、内裏儀式、儀式など）
第 11 回	儀式書（2）	三大儀式書（西宮記、北山抄、江家次第）
第 12 回	古記録（1）	撰関期までの日記
第 13 回	古記録（2）	院政期の日記
第 14 回	おわりに	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最後回にレポートを提出する（採り上げられなかった典籍の史料批判、あるいは同じ典籍に対し、講師とは異なった視点から史料批判を行ったもの）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、および期末のレポート（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初回であり、特にない。

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代、および殷代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	身近な存在である家族を、歴史学としてどう定義するか。
第 2 回	文化人類学と歴史学	文化人類学によるいくつかの調査、および家族の取り上げ方を紹介する。
第 3 回	居住単位・婚姻単位・経済単位	歴史学、文化人類学における家族史の方法論をまとめる。
第 4 回	新石器時代の「家族」－集落－	発掘された前 4500 年ごろの集落遺跡を紹介する。
第 5 回	新石器時代の「家族」－婚姻－	集落内の婚姻形態を、文化人類学の成果に基づいて考察する。
第 6 回	新石器時代の「家族」－構造論－	婚姻制度と関連して作られた集落の構造を理解する。
第 7 回	殷代史とその方法	殷代史の史料と研究方法を紹介する。
第 8 回	殷代の「家族」－王家は存在するか－	殷代の王の権力構造を、当時認識していた神の世界の構造との関係で説明する。
第 9 回	殷代の「家族」－王位継承問題－	王位の継承と家族の関係を考察する。
第 10 回	殷代の「家族」－王族－	王位継承における世襲説と非世襲説を紹介する。
第 11 回	殷代の「家族」－親族称－	殷代青銅器銘文にみえる親族称の意味
第 12 回	殷代の「家族」－婚姻－	青銅器鑄造方法の紹介と王と同盟部族長との同盟関係を考察する。
第 13 回	殷代の「家族」－まとめ－	殷代の婚姻単位としての家族の歴史的位置づけを考える。
第 14 回	授業内試験とその解説、および「家族」成立前史	試験とその解説、さらに「家族」成立前史の状況を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布する資料に対する復習。
各授業において紹介する参考文献の参照。
学習時には絶えず、現在の家族について考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することと、板書を丁寧に書くなどの学生からの要望について、これにでき得るがぎり応えたい。

【その他の重要事項】

授業開始時に、E メールアドレスを提示するので、質問などは、そのメールで受け付けることとしたい。

東洋中世史

北川 香子

授業コード：A3136
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アンコールやボロブドゥールなど、東南アジアの古い時代にさかのぼる多数の遺跡が世界遺産に登録され、観光地となっています。またシュリーヴィジャヤなど、世界遺産ではありませんが、世界史で学ぶ重要な国々があります。一般には、それらは「〇〇国の遺跡」、「〇〇国の歴史」と、現在の東南アジア諸国の枠組みにしたがって説明されますが、そうすると、いくつもの重要なことがらを失ってしまうことになります。またこれら「歴史用語」を個別に覚えようとしても、なかなか記憶しづらいものです。この授業では、より広く東南アジア地域という枠組みのなかで、個別の「用語」の背後にある歴史の流れを把握し、体系的に関連づけて理解できるようにしていきます。

【到達目標】

この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア中世史（～14 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とします。歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようになります。欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにします。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東南アジア地域の地理的概観	自己紹介、授業の進め方を説明する。東南アジア地域の地理的概観を概説する。
第 2 回	東南アジアの先史時代	考古学の成果から、東南アジアの先史時代に関する知見を取り上げる。
第 3 回	初期国家の誕生：林邑と扶南	林邑と扶南 現在のベトナム中部に誕生した林邑、ベトナム南部からカンボジア南部にかけて存在した扶南について扱う。
第 4 回	東南アジアの「インド化」	東南アジアのほぼ全域において見られた「インド化」という現象について考察する。
第 5 回	マラッカ海峡ルートの発展：シュリーヴィジャヤ、シャイレンドラ	マラッカ海峡地域を支配したシュリーヴィジャヤの展開を見る。
第 6 回	プレ・アンコールのカンボジア	アンコール以前のカンボジア平原の状況を扱う。
第 7 回	ドゥヴァーラヴァティー、ピュー	現在のタイ中部・東北およびミャンマーの平原地域の状況を扱う。
第 8 回	三仏斉（マラッカ海峡）	宋代以降のマラッカ海峡地域の状況を見る。
第 9 回	ジャワ	ジャワ島の古代史を概観する。
第 10 回	大越とチャンパー	自立後の红河デルタ地域および現在のベトナム中部地域に存在したチャンパー史の展開を追う。
第 11 回	アンコール（カンボジア）	大陸部東南アジアの大きな領域を支配したアンコールの統治構造を考察する。
第 12 回	パガン（ミャンマー）	現在のミャンマーの平原地域の状況を見る。
第 13 回	アンコールの支配圏の解体と地域の再編	大陸部東南アジアにおいてアンコールの支配圏が解体し、現在の国々の萌芽が現れてくる経緯を概観する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にプリントやノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次の授業で質問できるようにまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 1 原史東南アジア世界』2001 年、岩波書店
石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史 2 東南アジア古代国家の成立と展開』2001 年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「農村からみる中国近現代史」をテーマとする。
中国の総面積の 9 割以上は農村が占める。現在の共産党政権は農村を拠点に成立し、昨今の経済発展も農村をめぐる諸問題と切り離して考えることはできない。まさに、近現代の中国において農村は重要な社会基盤であり続けてきた。では、中国が新しい時代に移り行くなか、農村にはどのような変化がもたらされたのか。
本授業では、農村社会の変化から中国近現代史の全体像を俯瞰する。その上で、現在の中華人民共和国に至る中国という国家の成り立ちとその特徴について、共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国の農村社会の変遷をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国の成り立ちとその特徴について、主体的に考察する。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式を取り、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	中国農村をめぐる視点	中国農村研究の動向・議論
第 3 回	清末の中国農村	アヘン戦争～太平天国
第 4 回	郷紳と救国運動	洋務運動～戊戌変法
第 5 回	近代化する農村	辛亥革命～軍閥割拠
第 6 回	国民党の農村統治	北伐～南京国民政府の成立
第 7 回	共産党の革命根拠地	中国共産党の結成～長征
第 8 回	満洲・華北農村と日本	満洲事変～華北分離工作
第 9 回	戦時下の農村・農民	日中戦争の勃発～終戦
第 10 回	土地革命と社会主義化	国共内戦～中華人民共和国の成立
第 11 回	人民公社と「下放」	大躍進～文化大革命
第 12 回	流動化する農村	改革開放～高度経済成長
第 13 回	現在の農村社会	中国農村の現状と課題
第 14 回	中国農村の諸問題	農村問題にみる中国の今とこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国農村に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑤』岩波書店（岩波新書）、2010～14 年。
田原史紀『二〇世紀中国の革命と農村』（世界史リブレット 124）山川出版社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点 30 %
毎回授業後のリアクションペーパーの提出を評価する。
- ② 期末試験 70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

東洋考古・美術史

角道 亮介

授業コード：A3209

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に関する研究の現状と課題の理解を目指す。

近年増大する考古学の成果を用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に東アジアの地域文化をとらえることで、当地の考古・美術・建築に関する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

東アジアに特徴的な物質文化を正確に理解し、考古学や美術史学の面からそれぞれの資料の成立の経緯と意義をとらえることができます。また、それぞれの資料の背後に潜む人々の意識の変化を読み解くことで人類史への新たな認識を持つことができます。

【授業の進め方と方法】

出土資料の理解と文化財の保護を主題とし、発掘された都市遺跡を軸に講じていきます。

新石器時代から秦代にいたるまでの中国史を考える際の一つの指針として中国の都市をとりあげ、それがいかに発展・変化してきたのかをスライドを中心としながら紹介します。毎回の講義では時代ごとに代表的な遺跡を例示し、出土した資料を確認しながら、その時代の社会がどのような特徴を持っていたのかについて学習してゆきます。遺跡や遺物への丹念な検討から、王朝と呼ばれるような社会が成立した要因が明らかになることでしょう。

土器・骨角器・青銅器といった工芸資料を中心に、宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても扱ってまいります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	農耕のはじまり ―新石器時代の集落遺跡1―	北と南の農耕文化、稲作の起源地をめぐる問題
第3回	階層化の進行 ―新石器時代の集落遺跡2―	仰韶文化と彩陶、大汶口文化の埋葬習俗
第4回	城壁の出現 ―新石器時代の集落遺跡3―	石家河文化と良渚文化、陶寺遺跡の出現
第5回	二里头文化と“夏”王朝 ―王朝の出現をめぐる問題―	二里头遺跡の都市構造
第6回	殷王朝の地方支配 ―殷王朝の文化1―	偃师商城・鄭州商城と盤龍城
第7回	殷の青銅器文化 ―殷王朝の文化2―	殷墟遺跡の青銅器文化
第8回	殷周革命と周の故地 ―周王朝の文化1―	周原遺跡・豊鎬遺跡の出土遺物
第9回	周の“封建”の実態 ―周王朝の文化2―	天馬・曲村遺跡の出土遺物と西周青銅器
第10回	龍の起源 ―考古資料からみる龍図像の変遷―	馬王堆漢墓の帛書、二里头遺跡の龍形器、新石器時代の龍図像
第11回	青銅器祭祀の変容 ―春秋戦国時代の文化1―	臨淄齊国故城・燕下都遺跡の出土遺物
第12回	楚文化の形成 ―春秋戦国時代の文化2―	曾公乙墓・紀南城の出土遺構と出土遺物
第13回	秦文化の形成 ―春秋戦国時代の文化3―	大堡子山遺跡・雍城遺跡の出土遺物
第14回	始皇帝の思想とその文化 ―統一秦の文化―	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に関しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

東洋史特講Ⅰ

飯尾 秀幸

授業コード：A3162

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とは居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】

青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文献史料を読み込む力をつける。
出土資料（竹簡・木簡）を活用することができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式
西周時代・春秋戦国時代・秦漢時代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、周代青銅器銘文・出土竹簡資料などを概観しつつ、前漢時代後半期から後漢時代にかけて、この三者が合一することを考える。
現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	西周史とその方法	周代青銅器銘文の扱い方を紹介し、研究史を整理する。
第 2 回	西周時代の「家族」－封建制度－	周代封建制度を説明する。
第 3 回	西周時代の「家族」－昭穆制度－	宗廟制度である昭穆制度を婚姻制度として読み替える視点を紹介する。
第 4 回	孔子の「孝」と政治単位	居住単位を政治単位とする孔子の理論の先見性を考察する。
第 5 回	商鞅の変法	居住単位を現実に政治単位にした商鞅の変法を説明する。
第 6 回	秦・前漢史研究と出土簡牘	秦・前漢史研究の現状と、出土資料である竹簡を紹介する。
第 7 回	秦律にみえる「家族」－集落・家屋－	出土資料である秦の法律文書から在地社会を解説する。
第 8 回	秦律にみえる「家族」－経済単位－	秦の法律から鉄製農具と牛耕の問題を再検討する。
第 9 回	漢律にみえる「家族」－戸－	出土資料である漢の法律文書から戸籍問題を考察する。
第 10 回	漢律にみえる「家族」－後継－	漢の法律から家族の後継者規定を検討する。
第 11 回	簡牘にみえる家族のまとめ	経済単位としての家族がいまだ居住単位としての家族と合一していないという観点を提起する。
第 12 回	後漢時代の豪族と家族	豪族の出現と集落内の変化を考察する。
第 13 回	戦国・秦漢時代の鉄器と牛耕	考古学の成果からみた鉄器と牛耕の普及状態を検証する
第 14 回	授業内試験とその解説、および家族の成立	試験とその解説、並びに中国における家族の成立を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布する資料に対する復習。
各授業において紹介する参考文献の参照。
また絶えず、現在の家族について考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することと、板書を丁寧に書くなどの学生からの要望について、これにでき得るがぎり応えたい。
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

授業開始時にEメールアドレスを提示するので、質問などはメールにて受け付けることとしたい。

東洋史特講Ⅱ

北川 香子

授業コード：A3163

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東南アジア近世史（14 世紀～19 世紀）を概説します。いわゆる東南アジア諸国とは、ASEAN+1 の 11 か国をいいます。現在、東南アジアは 1 つの地域として存在感を持っていますが、11 か国の言語や宗教がそれぞれ異なっており、政治史を軸とした 1 本の歴史として「東南アジア史」を叙述することは難しいため、覚えづらいと感じられるようです。じつはこのことこそが、歴史的に形成されてきた、東南アジア地域の特徴なのです。この授業では、東南アジアの域内・域外のさまざまな勢力との関わりあいのなかで、現在の東南アジア諸国の領土的枠組みが形成されていく過程を学び、それぞれの地域的特性を理解できるようにしていきます。

【到達目標】

この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア近世史（14 世紀～19 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とします。
歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようになります。
欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにします。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」地域とは	自己紹介、授業の進め方を説明する。「東南アジア」という地域概念が形成されてきた過程を概説する。
第 2 回	マラッカ王国	港市国家マラッカの形成過程と構造を概説する。
第 3 回	アユタヤ（タイ）	アユタヤ史の展開を追う。
第 4 回	北方「タイ人」諸王国	現在の東南アジアと中国、インドのあいだに広がる山間盆地の状況を見る。
第 5 回	タウングー朝ビルマと周辺地域	現在のミャンマー地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 6 回	ベトナム	現在のベトナム地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 7 回	島嶼部の港市国家群	東南アジア島嶼部の 16～17 世紀の状況を見る。
第 8 回	大陸部における「大国」の形成	18 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 9 回	ポスト・アンコールのカンボジア	アンコール王都放棄後のカンボジア史の展開を追う。
第 10 回	オランダ東インド会社のジャワ島支配	18 世紀のジャワ島の状況を見る。
第 11 回	海域の分割	19 世紀の島嶼部東南アジアを概観する。
第 12 回	陸域の分割	19 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 13 回	植民地支配下の東南アジア	植民地支配下での東南アジア社会の変容を概観する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にプリントやノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次の授業で質問できるようにまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史 3 東南アジア近世の成立』2001 年、岩波書店
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 4 東南アジア近世国家群の展開』2001 年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史 5 東南アジア世界の再編』2001 年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展の側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013 年。（第 4・5 章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016 年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

毎回授業後のリアクションペーパーの提出を評価する。

② 期末レポート 70 %

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

東洋史特講Ⅳ

角道 亮介

授業コード：A3165

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に関する研究の現状と課題の理解を目指します。

近年増大する考古学の成果を用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に東アジアの地域文化をとらえることで、当地の考古・美術・建築に関する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

東アジアに特徴的な物質文化を正確に理解し、考古学や美術史学の面からそれぞれの資料の成立の経緯と意義をとらえることができます。また、それぞれの資料の背後に潜む人々の意識の変化を読み解くことで人類史への新たな認識を持つことができます。

【授業の進め方と方法】

出土資料の理解と文化財の保護を主題とし、発掘された都市遺跡を軸に講じていきます。

前漢から清代にいたるまでの中国史を考える際の一つの指針として中国の都市をとりあげ、それがいかに発展・変化してきたのかをスライドを中心としながら紹介します。毎回の講義では時代ごとに代表的な遺跡を例示し、出土した資料を確認しながら、その時代の社会がどのような特徴を持っていたのかについて学習してゆきます。遺跡や遺物への丹念な検討から、中国王朝の変化過程が明らかになることでしょう。

土器・骨角器・青銅器といった工芸資料を中心に、石窟芸術・宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても扱っていくと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	漢長安城と皇帝陵
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	漢洛陽城と出土遺物
第 3 回	漢代の地方文化	馬王堆漢墓・南越王墓の出土遺物、山東・河南・四川の画像石
第 4 回	北魏の都城と陵墓	北魏洛陽城と永固陵
第 5 回	北朝の文化一	陶磁器の発展
第 6 回	青磁の発展と越州窯	期文化 1 一
第 7 回	書画の展開	一六朝期の 王羲之と書の発展
第 8 回	文化 2 一	仏教の伝来と受容
第 9 回	一 インドの仏教遺跡と西域・敦煌・	唐長安城の遺構と出土遺物
第 10 回	隋唐の都市文化	一隋 唐長安城の遺構と出土遺物
第 11 回	唐時代の文化 1 一	壁面墓と唐三彩
第 12 回	一隋 乾陵と章懷太子墓・懿德太子墓	唐時代の文化 2 一
第 13 回	「清明上河図」と宮廷	開封の都市構造
第 14 回	文化 一宋の文化一	白磁と青磁
第 15 回	一宋元の 龍泉窯と景德鎮	磁器生産一
第 16 回	北京の成立	一明清の 故宮の建築美術
第 17 回	文化 1 一	明清の陵墓建築
第 18 回	一明 明の十三陵と清の東陵・西陵	清の文化 2 一

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に関しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

東洋史特講Ⅴ

宇佐美 久美子

授業コード：A3166

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。

ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。

さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。

学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】

海洋史研究の方法論を習得する。

遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。

環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【授業の進め方と方法】

教材プリントを使う講義形式をとる。受講生からの積極的な質問を歓迎する。DVDやVHSなどの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	インド洋交流史の枠組（その1）	海上交流の捉え方など
第2回	インド洋交流史の枠組（その2）	自然条件など
第3回	インド洋交流史の枠組（その3）	ダウ船について
第4回	インド洋交流史の枠組（その4）	時代区分・特産品など
第5回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第6回	スワヒリ地域とインド洋（その1）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシャ湾岸地域との交流
第7回	スワヒリ地域とインド洋（その2）	『キルワ年代記』
第8回	ポルトガルの進出（その1）	スワヒリ地域の事例
第9回	ポルトガルの進出（その2）	インド洋西海域の事例
第10回	スワヒリ地域とオマーン（その1）	オマーンについて
第11回	スワヒリ地域とオマーン（その2）	ザンジバルへの進出
第12回	スワヒリ地域とオマーン（その3）	インド洋奴隷貿易
第13回	インド人移民（その1）	19世紀まで
第14回	インド人移民（その2）	20世紀

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図や年表を活用して、事前に対象地域の概略を押さえておく。

毎回、講義の復習を行い、必修項目を確認し身に付ける。

重要事項に関する予習・復習課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006年

富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』（世界史リブレット）山川出版社 2008年

この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

不定期に実施する小テストなどの平常点（50％）と期末レポート（50％）の評価を総合して成績を決定する。

小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。

期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱ききっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。

また、「東洋とは?」「東洋史とは?」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室において質問を受け付ける。

東洋史特講Ⅶ

久野 美樹

授業コード：A3217

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア美術史。インド、中央アジア、中国の文化を絵画を中心とした造形から読み解きます。

【到達目標】

アジアの物質文化を視覚的、思想史的に学ぶことで、現在の各国の人々の考え方の理解につなげることができます。また日本文化がアジアからいかに影響を受けているかを学ぶことができます。

【授業の進め方と方法】

授業の前半にプリントを使用しその日のテーマについて話し、後半になるべく良好なスライドを使用し学んだ内容を復習するように講じていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	上座部仏教と大乘仏教、その美術	仏教というアジアの精神世界の根幹を学びます
第 2 回	古代インド絵画史	アジャンタ石窟壁画
第 3 回	中央アジア絵画史	キジル、ホータンの壁画
第 4 回	古代中国の写実	秦の兵馬俑
第 5 回	古代中国の死生観	漢・三国出土物と壁画
第 6 回	魏晉の絵画と理論	魏晉の絵画と絵画理論
第 7 回	南北朝期の墓葬美術	南北朝期の出土物と壁画
第 8 回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第 9 回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第 285 窟の造形に中国人の精神世界をみます
第 10 回	敦煌の美術：大乘仏教の世界へ	画卷形式から大画面形式へ
第 11 回	敦煌の美術：極楽浄土の世界	日本の精神文化にも大きな影響を与えた阿弥陀信仰の美術
第 12 回	密教美術	曼荼羅の世界
第 13 回	大唐長安の栄華	唐の墓室からの出土物、壁画、日本の正倉院御物から唐の文化を学びます
第 14 回	五代・北宋時代の絵画	山水画と水墨画の成立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

物質文化の学習は本物を観ることが第一の作業として挙げられます。東京国立博物館東洋館などを見学するようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全 18 巻各国・時代別有 小学館 1997
～2001、『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社
2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全 3 巻 平凡社 1983 - 1985、『中国石窟 敦煌莫高窟』1 巻 - 3 巻 1980 - 1981、高田修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、『日本美術全集 3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末に提出するレポート 100 %。評価の内訳は、造形の観察ができているか 50 %、学習した内容に基づき論理の構築をして造形についての理解を示しているか 50 %

【学生の意見等からの気づき】

今期からの授業なので対象外です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

東洋史特講Ⅶ

北川 香子

授業コード：A3218

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、カンボジア史を取り上げます。カンボジアの歴史では、1992 年に世界遺産に認定されたアンコール遺跡群が有名です。現在の国旗にアンコール・ワットがデザインされていることが象徴的なのですが、カンボジアのナショナリズムの軸は歴史です。またカンボジアの領土はタイとベトナムのあいだに位置し、南北にメコン河が貫流しています。そのためカンボジア史を抜きにして、大陸部東南アジア史を有機的に関連づけることができません。この授業では、カンボジア史の様々なテーマを取り上げ、大陸部東南アジアの地域間関係が歴史的に形成されてきた過程を理解していきます。

【到達目標】

この授業では、高校の世界史・地理では得られなかった新たな知識として、カンボジアの歴史・地理を中心に、大陸部東南アジア地域に関する知識を身につけることを目的とします。

歴史的な知識を基盤として、ナショナリズムに関する問題を相対化して理解することができるようになります。

欧米を介した認識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにします。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	カンボジアの地理	自己紹介、授業の進め方を説明する。カンボジアの地理を概説する。
第 2 回	カンボジアの宗教	カンボジアの宗教について概説する。
第 3 回	「カンボジア史」の時代区分	「カンボジア史」の時代区分と、それぞれの時代の位置づけ、その問題点を概説する。
第 4 回	ブレ・アンコール①	「カンボジア史」の起点として、初期国家「扶南」を取り上げる。
第 5 回	ブレ・アンコール②	「真臘」を取り上げる。
第 6 回	アンコール①	映像資料を用い、アンコール遺跡群の概要を見る。
第 7 回	アンコール②	アンコールの王権支配構造に関する議論を概説する。
第 8 回	アンコール③	アンコールの「王道」やバライ（巨大貯水池）の問題を取り上げる。
第 9 回	ポスト・アンコール①	「王朝年代記」の「伝説部分」から、アンコールとポスト・アンコールの断絶の問題を議論する。
第 10 回	ポスト・アンコール②	「王朝年代記」の「歴史部分」と口承伝承の関係を検討する。
第 11 回	ポスト・アンコール③	「大航海時代」のカンボジアを取り上げる。
第 12 回	ポスト・アンコール④	ポスト・アンコールの「王道」建設と、カンボジアの領域形成の問題を議論する。
第 13 回	植民地支配下のカンボジア	「衝突なき植民地化」という従来の植民地期カンボジア史観を再検討する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にプリントやノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次の授業で質問できるようにまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
石澤良昭編『アンコール・ワットを読む』2005 年、連合出版
石澤良昭『〈新〉古代カンボジア史研究』2013 年、風響社
石澤良昭・三輪悟『カンボジア 密林の五大遺跡』2014 年、連合出版
北川香子『カンボジア史再考』2006 年、連合出版
ジャン・デルヴェール『カンボジア』1996 年、白水社
ジャン・デルヴェール『カンボジアの農民－自然・社会・文化』2003 年、風響社
Chandler, David. A History of Cambodia. 4th ed. 2008. Boulder. Westview Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

西洋古代史

後藤 篤子

授業コード：A3143
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、3～5 世紀のローマ帝国の詳しい政治史を学び、帝政後期のローマ社会を概観することで、ローマ帝国の東西「分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について考えます。最後に、種々の「ローマ帝国衰亡原因論」の比較検討を通じて、現在も繰り返される文明「興亡論」が孕みがちな危険性について考えます。

【到達目標】

3～5 世紀のローマ帝国の政治と社会についての基本的知識を習得する。帝政前期からの変化をもたらした諸要因について、自分で考えることができる。ローマ帝国の東西「分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について、自分で考えることができる。多様なローマ帝国「衰亡論」の内容を知り、現代の文明「興亡論」を批判的に読み解く力を身につける。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進めますが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質疑応答の時間を設けます。また、講義内容が一区切りつく回には、ディスカッションの時間を取る予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝政前期ローマ社会の概要
第 2 回	「ローマの平和」の終焉	「五賢帝」時代末期からセウエルス朝期の政治史
第 3 回	「アフリカ人皇帝」の復讐？	セプティミウス・セウエルス帝の評価をめぐって
第 4 回	3 世紀のローマ帝国	「軍人皇帝時代」の政治史
第 5 回	「3 世紀の危機」？	軍人皇帝たちの再評価
第 6 回	「危機」の克服	ディオクレティアヌス登位からコンスタンティヌス帝死去までの政治史
第 7 回	「大きな政府」の出現	ディオクレティアヌス・コンスタンティヌス両帝の諸改革
第 8 回	4 世紀のローマ帝国	4 世紀の政治史
第 9 回	帝政後期の社会	「官僚制」の実態
第 10 回	「ローマ」と「ゲルマン」	ローマ・ゲルマン関係史と「ゲルマン民族大移動」の開始
第 11 回	ローマ帝国の「東西分裂」？	4 世紀末～5 世紀初頭の政治史
第 12 回	5 世紀前半のローマ帝国	皇女ガラツェラキディアを中心に
第 13 回	5 世紀後半のローマ帝国	テオドシウス朝断絶後の状況
第 14 回	まとめ	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用するプリントは原則として 1 週間前に配布するので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などで下調べをしておく。授業後は講義内容を復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】

井上文則『軍人皇帝のローマ変貌する元老院と帝国の衰亡』講談社選書メチエ、2015 年。ベルナル・レミイ『ディオクレティアヌスと四分統治』、清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2010 年。ベルトラン・ランソン『コンスタンティヌスとその生涯と治世』、清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2012 年。南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』、岩波新書、2013 年。その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 90 %、平常点（質問等、授業への積極的参加度）10 % で評価します。期末試験は、知識の習得度・講義内容の理解度を確認するための客観問題 50 点、事前に発表する論題について自らの考察を述べる論述問題 50 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度の本授業のアンケート回答率は 3 分の 1 と低かったのですが、好意的評価が多かったのは嬉しかったです。ただ、「話が飛んで、プリントのどこをやっているのか分からなくなることがあった」という指摘がありましたので、気を付けます。

西洋中世史

小沼 明生

授業コード：A3144
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際社会を理解するために不可欠な知識を中心に、古代ローマ世界の終わりから 15 世紀までを扱います。巨大な文明の崩壊後、新しい世界の萌芽となる古代末から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生み出した中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。

【到達目標】

この授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導き出し、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。

【授業の進め方と方法】

授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。現代を生きる上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	西洋前近代の歴史を学ぶこと
第 2 回	ローマ世界の終焉	民族大移動と古代の終わり
第 3 回	フランク王国の成立と発展	カールの戴冠と西ヨーロッパ世界
第 4 回	ローマカトリックの伝播	聖歌の成り立ちから見る典礼の成立
第 5 回	聖職叙任権闘争	カノッサの屈辱から見えること
第 6 回	十字軍	西ヨーロッパの拡大とその目的
第 7 回	中世の世界観	地図から見る世界観の変遷
第 8 回	サンチャゴ巡礼とレコンキスタ	巡礼の書と巡礼地の発展
第 9 回	教会建築の変化	ゴシック建築の誕生
第 10 回	黒死病と死の舞踏	パンデミックとその原因・結果
第 11 回	百年戦争	中世的国家の変質
第 12 回	中世の終焉とルネサンス	ルネサンスの源流を探る
第 13 回	宗教改革	ウィクリフから、フス、ルターまで
第 14 回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週 1～2 時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】

木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：出席と授業参加：30
レポート A：10
レポート B：20
レポート C：40

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとういでしょう。

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、特に多言語地域における国民国家の形成や地球全体にまたがる人の移動とそれらの歴史的変容過程を学ぶことで、現在の諸問題の端緒を把握する。

【授業の進め方と方法】

国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、多言語地域における国民形成に関する事例研究や政治文化等を交えて、西洋現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 2 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとつてのフランス革命
第 3 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 4 回	自由主義と国民主義- 事例研究 (1) ハプスブルク帝国	19 世紀後半における国民形成運動、多言語使用地域、「民族」対立
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	戦間期から第二次世界大戦直後までの国民形成- 事例研究 (2) 子供をいかにして国民とするか	多言語地域、国民的帰属への無関心、ユダヤ教徒の子供、連合国による国民化政策
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、筆記試験（80 %）による総合評価を行う。筆記試験は、ノート・レジュメのみ持ち込み可の論述試験とする。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記試験に臨むこと。試験は思考力と論理力を求めるものとなるため、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

西洋史演習

中村 純

授業コード：A3149

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文、レポートの書き方、発表の仕方、外国語文献の読み方、史料の扱い方など、論文作成に必要な技法を各自が実際にやってみることによって身につける演習形式の授業です。

【到達目標】

受講生各自が自分自身の研究テーマを見つけ、それをどのように研究し、どのような形で論文として仕上げるかを具体的に学ぶことです。

【授業の進め方と方法】

演習形式です。

受講生に毎回の課題について発表なり訳読なりをしてもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間スケジュール、ゼミ合宿の計画などを話し合う。
第 2 回	論文ってどんなもの？	『論文の教室』（参考文献参照）を素材として論文の書き方を学ぶ
第 3 回	英語論文を読む；（1）	本年度のテキストを実際に読んで英語はじめに論文の構造に触れる。
第 4 回	英語論文を読む（2）問題の設定	テキスト序論部分でどのように問題設定がなされているか確認する。
第 5 回	英語論文を読む（3）序論要約	テキスト序論部分の要約を作成しその内容について議論する。
第 6 回	テキストの背景	集合知とは何か。
第 7 回	日本語文献を読む。	集合知に関する理論の検討。
第 8 回	図書館ガイダンス	テキストに関する日本語文献を探して読む。
第 9 回	研究発表の技法	図書館ガイダンスを受け、各自の研究テーマの文献リストを作成する。
第 10 回	卒論発表（1）	研究発表の仕方、聞き方、司会の仕方などを学んだあと、各自のテーマを簡単に紹介する。
第 11 回	卒論発表（2）	古代をテーマとする 4 年生の発表
第 12 回	卒論発表（3）	中世をテーマとする 4 年生の発表
第 13 回	卒論発表（4）	近代をテーマとする 4 年生の発表
第 14 回	小括	芸術・文化をテーマとする 4 年生の発表
		ゼミ性が互いの研究テーマを把握し、互いに協力しながら研究を進める土台を作る

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	歴史学って何？	『歴史学ってなんだ』（参考文献参照）を素材に歴史学の方法の特徴などを学ぶ
第 16 回	英語文献を読む。 Athenian Democracy(1)	アテネ民主政の特徴
第 17 回	英語文献を読む。 Athenian Democracy(2)	ポリスのあり方
第 18 回	英語文献を読む。 Athenian Democracy(3)	ポリス運営のあり方
第 19 回	英語文献を読む。 Athenian Democracy(4)	その他の特徴
第 20 回	就職ガイダンス	キャリアセンターの話を聞く
第 21 回	英語文献を読む The Democratic Revolution in Modern Organization(1)	20 世紀から 21 世紀にかけての社会変動
第 22 回	英語文献を読む The Democratic Revolution in Modern Organization(2)	知識基盤社会
第 23 回	英語文献を読む The Democratic Revolution in Modern Organization(3)	フラット化する社会
第 24 回	英語文献を読む The Democratic Revolution in Modern Organization(4)	近代の企業とアテネというポリスとの共通性
第 25 回	英語文献を読む Limits of the Ancient and Modern Comparison（1）	古代ギリシアのポリスと近代の企業を比較することの問題点

第 26 回	英語文献を読む Limits of the Ancient and Modern Comparison（2）	政治。社会的組織と営利企業を比較できるか
第 27 回	英語文献を読む Limits of the Ancient and Modern Comparison（3）	具体的な事例の検討とポジティブな教訓
第 28 回	総括	テキストの論点を確認して、その研究史上の意義を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題となっている史料の訳読の準備。

あるいは課題となっているテーマについてのリサーチ。

【テキスト（教科書）】

“Ancient Greek Democracy and the Modern Knowledge-Based Organization: Reflection on the Ideology of Two Revolutions”, P.B.Manville, in DEMOKRATIA, J.Ober & C.Hedrick, ed. Princeton U.P. 1996.

【参考書】

『新版 論文の教室』、戸田山和久著、NHK ブックス 2012.

『歴史学ってなんだ』、小田中直樹著、PHP 新書 2004.

『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016.

『「みんなの意見」は案外正しい』、J. スロウィツキー著、尾高直子訳、角川書店 2006.

【成績評価の方法と基準】

演習なので、平常点評価になります。課題発表、課題提出など、授業参加の積極性を総合的に評価します。出席は当然ですので、出席が足りなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ありません。

西洋史特講Ⅰ

後藤 篤子

授業コード：A3168

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在でもカトリック聖職者の「独身制」が種々の問題を引き起こしていますが、本授業では「性的禁欲の観点から見た初期キリスト教の多様性」について、諸史料を通じて学びます。そして、その多様性を孕んでいた古代キリスト教世界が中世のローマ・カトリックとギリシア正教に収斂していく過程で、性的禁欲の問題にどのような変化が起きたかを考えます。

【到達目標】

古代ローマ・ユダヤ社会における女性観・結婚観に関する基本的知識を習得する。

新約聖書、使徒教授文書、新約外典文書、ナグ・ハマディ文書等、種々の邦訳史料から、それぞれの結婚観や性的禁欲に関する考え方を読み取る力を身につける。

3世紀の宗教世界に起きた変化や禁欲修道士の出現に関する基本的知識を習得する。

4世紀のキリスト教世界で性的禁欲の問題にどのような変化が生じたかを、史料（邦訳）に基づいて考える力を身につける。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式の授業ですが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、前回の授業内容に関する質疑応答の時間を設けます。また、種々の邦訳史料読解については、受講生に発問します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ「性的禁欲」の問題を取り上げるのか
第2回	古代ローマ社会における女性・結婚・性道德	女性の地位とエリート男性の言説
第3回	古代ユダヤ社会における女性・結婚・性道德	ユダヤ社会における婚姻の意味と禁欲主義的傾向
第4回	イエス運動と女性	福音書に見る女性・結婚・性道德
第5回	真正パウロ書簡の読解	パウロの女性観・身体観・セクシュアリティ観
第6回	初期キリスト教世界の多様性(1)	第二パウロ書簡・牧会書簡・使徒教父文書に見る女性・結婚・セクシュアリティ
第7回	初期キリスト教世界の多様性(2)	新約聖書外典に見る女性・結婚・セクシュアリティ
第8回	初期キリスト教世界の多様性(3)	グノーシス派キリスト教における女性・結婚・セクシュアリティ
第9回	「正統」と「異端」	初期カトリシズムの対応
第10回	3世紀における変化(1)	新たな禁欲主義への志向ーオリゲネス、マニ教
第11回	3世紀における変化(2)	新プラトン主義とその影響
第12回	禁欲修道士の出現	アントニオス、パコミオス、砂漠の師父たち
第13回	4世紀における性的禁欲をめぐる言説	アンブロシウス、ヒエロニムス、アウグスティヌス
第14回	まとめ	古代キリスト教から中世キリスト教へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用するプリントは原則として1週間前に配布するので、必ず事前に目を通して予習しておくこと。特に邦訳史料については、必ず読んでおくこと。

授業後は講義内容を復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して調べてみる。それでも解決しない場合は、次回授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決するようにする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを毎回配布します。

【参考書】

大貫隆「古代キリスト教における禁欲主義の系譜ーグノーシス主義、外典使徒行伝、初期修道制」、同『グノーシス考』（岩波書店、2000年）の第Ⅰ部。その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末のレポート試験 90%、平常点（質問や発言等、授業への積極的参加度）10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度は授業を担当せず、2017年度については現時点でのアンケート回答率がまだ1割足らずなので、記せることは特にありません。

西洋史特講Ⅱ

小沼 明生

授業コード：A3169

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の西洋中世史では有名な事件やトピックを中心に紹介しましたが、後期のこの講義では西洋中世の社会構造や思考・行動の在り方を中心に見ていきます。時系列ではなく、社会を構成していた要素、つまり皇帝、国王、貴族、聖職者、都市、農民などに注目していきます。授業ごとに紹介する史料から、過去の社会を想像することを通じて理解を深めていきます。

【到達目標】

この授業には二つの目的を設定します。一つ目は西洋文化の基礎を作った時代である中世の歴史的知識を、またそれを通じて歴史的な見方・考え方を身につけます。二つ目は文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。

【授業の進め方と方法】

授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。現代を生きる上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史画像が作られてきたかを学びます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	異世界としての中世・ルーツとしての中世
第2回	国王と皇帝と教皇	中世的世界の成立とその本質
第3回	ヴァイキングの侵入	ヴァイキングとは誰か、その目的と影響
第4回	農業革命と神の平和	生産力の発達とそのきっかけ
第5回	騎士と貴族の世界	貴族的社会と文化の成立と発達
第6回	修道院と修道士	修道院の始まりとその発展
第7回	都市と修道士	托鉢修道会の成立と発展
第8回	ローマカトリック教会と聖職者	教会の構造とその発達
第9回	教会の変質	教会分裂と公会議
第10回	都市の成立と発展	西洋における都市とは何か
第11回	都市と手工業	手工業と手工業者の発展
第12回	農村の世界	農村と農民、そして領主
第13回	大量貧困と救済	近代社会の萌芽
第14回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習しておくことを勧めます。また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週1〜2時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】

木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、2008年
甚野尚志『中世の異端者たち』世界史リブレット20、山川出版社、1996年
朝倉文市『修道院にみるヨーロッパの心』世界史リブレット21、山川出版社、1996年
河原温『中世ヨーロッパの都市世界』世界史リブレット23、山川出版社、1996年
堀越宏一『中世ヨーロッパの農村世界』世界史リブレット24、山川出版社、1997年など

【成績評価の方法と基準】

学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加：30
レポートA：10
レポートB：20
レポートC：40

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとういでしょう。

西洋史特講Ⅳ

加納 格

授業コード：A3171

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の特講Ⅴと併せてロシア帝国、ソ連、ロシア連邦（CIS）と変化を遂げた隣国の歴史と現在を理解する。春学期は、ロシア帝政期を対象とする。主に関心を向けるのは、ロシアの多民族国家としての国家体制（帝国）と専制統治体制がいかに改革され得たのか、または改革し得なかったのかという問題である。時代としては特に最後の皇帝となったニコライ 2 世の時期に焦点を当てる。この時代に日露戦争と 1905 年革命、第 1 次世界大戦と 1917 年革命、ロマノフ朝崩壊と大きな変化が起こったが、その過程からロシアという国家のあり方を考える。

【到達目標】

ロシア近現代の歴史的個性を理解できることを目標とする。隣国であるロシアの歴史の歩みと、それを生み出した環境を理解できるようにする。近代化を規定した条件、ロシアの近代化の個性、それが日本の歴史と交わり、相互に影響を与えたことを理解できるとを目的とする。

【授業の進め方と方法】

講義だが、質問を歓迎する。毎回出席カードに疑問点などを記入してもらい、次回講義時に答える形をとる。可能であれば、ビデオ、写真資料などを利用する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ロシア史の面白さと重要性
第 2 回	ロシアの基礎知識	起こりと特質- 多民族帝国国家
第 3 回	ロシア近世（1）	ピョートル 1 世の時代
第 4 回	ロシアの近世（2）	エカチェリーナ 2 世の時代
第 5 回	ロシア帝国統治体制	国家体制、西欧との違い
第 6 回	ロシアの近代（1）	アレクサンドル 2 世の大改革
第 7 回	ロシアの近代（2）	社会思想
第 8 回	ニコライ 2 世の時代（1）	国際環境と統治体制（1）
第 9 回	ニコライ 2 世の時代（2）	国際環境と統治体制（2）
第 10 回	日露戦争と 1905 年革命（1）	戦争と改革（1）
第 11 回	日露戦争と 1905 年革命（2）	戦争と改革（2）
第 12 回	第一次大戦と 1917 年革命（1）	戦争と体制の行き詰まり（1）
第 13 回	第一次大戦と 1917 年革命（2）	戦争と体制の行き詰まり（2）二月革命とロマノフ朝崩壊
第 14 回	第一次大戦と 1917 年革命（3）	ロシア体制の連続と断絶問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシアについての基礎知識を得るために参考書を通読すること。

【テキスト（教科書）】

レジュメと参考資料を合本したものを購入してもらう（実費）

【参考書】

通史として：和田春樹『＜地域からの世界史＞ソ連』朝日新聞社、1993 年。ロシア帝国期：加納格『ロシア帝国の民主化と国家統合』御茶の水書房、2000 年。加納格『ニコライ二世とその治世：戦争、革命、破局』東洋書店ブックレット、2009 年。また加納格「ロシア帝国論- 『陸の帝国』の成立』『帝国と帝国主義』有志舎、2012 年所収。

【成績評価の方法と基準】

レポートもしくは試験と平常点（質問、質疑応答）による。レポートまたは試験（90 %）、平常点（10 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特にない。

西洋史特講Ⅴ

加納 格

授業コード：A3172

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア帝国、ソ連、ロシア連邦（CIS）と変化を遂げた隣国の歴史と現在を理解する。ロシア帝政史の知識を踏まえた上で、ソ連社会主義とその変化、終焉を考察する。歴史上初めての社会主義体制を名のりながら、それはロシア帝政期からの連続性を強く持っていた。また二月革命を直接生み出した原因は食糧不足だったが、その後の革命と国内戦で生じた「飢餓」がソ連体制の特徴を作り上げた。ソ連体制の特徴を理解した上でそれから脱するための模索＝ゴルバチョフの「ペレストロイカ」を考察し、ソ連社会主義とは何だったのか、またロシア帝国、ソ連とつながる体制とは何であるのかを考える。

【到達目標】

ロシア帝国、ソ連、ポストソ連と大きく体制を変化させてきたロシアであるが、そこにある連続と断絶を理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】

講義形式だが、質問を歓迎する。毎回出席カードに疑問点などを記入してもらい、次回講義時に答える形をとる。可能であれば、ビデオ、写真資料などを利用する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ロシアとソ連社会主義の意味
第 2 回	1917 年革命	ロシア帝政の崩壊と社会主義政権
第 3 回	内戦とソ連の成立（1）	内戦と戦時共産主義（1）
第 4 回	内戦とソ連の成立（2）	内戦と戦時共産主義（2）
第 5 回	ソ連社会主義の特徴（1）	ネップと計画経済化（1）
第 6 回	ソ連社会主義の特徴（2）	ネップと計画経済化（2）
第 7 回	ソ連体制	スターリン体制の考察
第 8 回	ソ連の変化（1）	戦後ソ連とフルシチョフ
第 9 回	ソ連の変化（2）	戦後ソ連とフルシチョフ、東欧の改革 特に「ブラハの春」をめぐる
第 10 回	ゴルバチョフ改革（1）	起こり
第 11 回	ゴルバチョフ改革（2）	自由化、情報公開
第 12 回	ゴルバチョフ改革（3）	経済、政治改革
第 13 回	ゴルバチョフ改革（4）	転換
第 14 回	ゴルバチョフ改革とソ連崩壊	新連邦条約とクーデター未遂、ソ連解体。歴史の連続性と断絶性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書を通読すること。現代世界に関わるので新聞などを読んで関心を高めること。

【テキスト（教科書）】

レジュメと資料を冊子にしたものを購入してもらう（実費）。

【参考書】

通史として：和田春樹『＜地域からの世界史＞ソ連』朝日新聞社、1993 年。ソ連：ボッフア『ソ連邦史（1～4）』大月書店、1981 年。加納 格「ロシアの社会主義」「人びとの社会主義」有志舎、2013 年所収

【成績評価の方法と基準】

レポートもしくは試験と平常点（質問、授業中の質疑応答）による。レポートまたは試験（90 %）、平常点（10 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特にない

西洋史特講Ⅵ

佐藤 円

授業コード：A3173

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、アジアやラテンアメリカからの移民の流入によって、アメリカ社会の人種・民族構成は急速に多様化してきている。この人口動態上の変化が現状のまま推移すれば、現在総人口の約 60 % を占めている非ヒスパニック系白人は、2040 年代にはその構成率を 50 % 以下にまで減らすとの予測も出ている。つまり、これまで長らくアメリカ社会の主流を構成してきた非ヒスパニック系白人が、近い将来マイノリティーに転落する可能性があるということである。

このような社会の大きな転換点を迎えたアメリカでは、それに呼応して、歴史研究及び歴史教育の見直しが盛んに行われている。特に批判が集中している部分は、これまで語られてきたアメリカ史が、いかに WASP（イギリス系アメリカ人）の男性を中心とした偏った歴史観に基づくものであったかという点である。これを是正するために、女性を含む多様なマイノリティー集団が、歴史的にアメリカ社会の中でどのような役割を演じてきたのかを明らかにし、それを積極的にアメリカ史の本流に組み込む努力が続けられている。

そこでこの講義では、このような歴史の見直し作業の実例として、特にアメリカ先住民に注目し、彼らの視点からアメリカの歴史を再検討していく。またその作業が、新しいアメリカ史の描き方の可能性をどのように提示するのかについても併せて論じていく。

【到達目標】

マイノリティの視点からアメリカの歴史を見直すことにより、一元的な「正史」を相対化し、多元的な歴史認識についての理解を深める。またそれを通して、学生それぞれが専門とする地域の歴史を再検討する上で参考となる視点を獲得することが目標である。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	歴史を相対化することの重要性
第 2 回	アメリカ先住民の現状 (1)	アメリカ先住民とは誰のことか？
第 3 回	アメリカ先住民の現状 (2)	先住民人口と先住民「部族」
第 4 回	アメリカ先住民の現状 (3)	現代のアメリカ先住民が抱える諸問題
第 5 回	アメリカ史の相対化 (1)	人口動態の変化と多文化主義
第 6 回	アメリカ史の相対化 (2)	アメリカにおけるマイノリティー史研究の現状
第 7 回	アメリカ先住民史研究 (1)	その誕生と発展
第 8 回	アメリカ先住民史研究 (2)	その課題と日本への波及
第 9 回	アメリカ先住民史概説 (1)	「最初のアメリカ人」をめぐる論争
第 10 回	アメリカ先住民史概説 (2)	狩猟と農耕に対する歴史解釈
第 11 回	アメリカ先住民史概説 (3)	北アメリカの知られざる「先住民文明」
第 12 回	アメリカ先住民史概説 (4)	先住民文化の多様性と歴史的ステレオタイプ
第 13 回	アメリカ先住民史概説 (5)	先住民文化とジェンダー
第 14 回	総括	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、講義のなかで紹介する参考書や映像資料を利用して、可能な限り予備知識を養うこと。また復習として、講義中にとったノートを試験に備えてまとめ直しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年

富田虎男『アメリカ先住民の歴史』（第 3 版）雄山閣、1997 年

その他必要に応じて講義のなかで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に論述形式の試験を行ない、その結果によって 100 % 評価する。試験問題は講義の内容に即したものであるため、受講者はきちんと出席し、ノートをとる必要がある。採点に際し、特に 4 年生や体育会所属の学生に配慮はしないので、この講義の単位が卒業要件に関わる者の受講は勧めない。

【学生の意見等からの気づき】

板書を増やしてほしいとの要望が一部にあるが、キーワード以外は板書しないので、自ら積極的にノートをとってほしい。また、聞き漏らしたことやよく分らなかったことがあった場合には、必ず講義後に質問をしてほしい。

【その他の重要事項】

この講義は、講義内容が前期・後期を通して完結するようになっているため、半期科目として受講する場合には、前期のみ受講することを勧める。

西洋史特講Ⅶ

佐藤 円

授業コード：A3174

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、アジアやラテンアメリカからの移民の流入によって、アメリカ社会の人種・民族構成は急速に多様化してきている。この人口動態上の変化が現状のまま推移すれば、現在総人口の約 60 % を占めている非ヒスパニック系白人は、2040 年代にはその構成率を 50 % 以下にまで減らすとの予測も出ている。つまり、これまで長らくアメリカ社会の主流を構成してきた非ヒスパニック系白人が、近い将来マイノリティーに転落する可能性があるということである。

このような社会の大きな転換点を迎えたアメリカでは、それに呼応して、歴史研究及び歴史教育の見直しが盛んに行われている。特に批判が集中している部分は、これまで語られてきたアメリカ史が、いかに WASP（イギリス系アメリカ人）の男性を中心とした偏った歴史観に基づくものであったかという点である。これを是正するために、女性を含む多様なマイノリティー集団が、歴史的にアメリカ社会の中でどのような役割を演じてきたのかを明らかにし、それを積極的にアメリカ史の本流に組み込む努力が続けられている。

そこでこの講義では、このような歴史の見直し作業の実例として、特にアメリカ先住民に注目し、彼らの視点からアメリカの歴史を再検討していく。またその作業が、新しいアメリカ史の描き方の可能性をどのように提示するのかについても併せて論じていく。

【到達目標】

マイノリティの視点からアメリカの歴史を見直すことにより、一元的な「正史」を相対化し、多元的な歴史認識についての理解を深める。またそれを通して、学生それぞれが専門とする地域の歴史を再検討する上で参考となる視点を獲得することが目標である。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	歴史を相対化することの重要性
第 2 回	アメリカ先住民史概説 (1)	ヨーロッパ人の到来の影響
第 3 回	アメリカ先住民史概説 (2)	各国の植民政策と先住民政策
第 4 回	アメリカ先住民史概説 (3)	アメリカの建国神話と先住民
第 5 回	アメリカ先住民史概説 (4)	黒人奴隷制と先住民奴隷制
第 6 回	アメリカ先住民史概説 (5)	アメリカ独立革命と先住民
第 7 回	アメリカ先住民史概説 (6)	「文明化」政策と先住民
第 8 回	アメリカ先住民史概説 (7)	強制移住政策と先住民
第 9 回	アメリカ先住民史概説 (8)	西部開拓と先住民
第 10 回	アメリカ先住民史概説 (9)	保留地政策と先住民
第 11 回	アメリカ先住民史概説 (10)	先住民再組織法
第 12 回	アメリカ先住民史概説 (11)	連邦管理終結政策
第 13 回	アメリカ先住民史概説 (12)	先住民の復権運動と先住民政策の転換
第 14 回	総括	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、講義のなかで紹介する参考書や映像資料を利用して、可能な限り予備知識を養うこと。また復習として、講義中にとったノートを試験に備えてまとめ直しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年

富田虎男『アメリカ先住民の歴史』（第 3 版）雄山閣、1997 年

その他必要に応じて講義のなかで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に論述形式の試験を行ない、その結果によって 100 % 評価する。試験問題は講義の内容に即したものであるため、受講者はきちんと出席し、ノートをとる必要がある。採点に際し、特に 4 年生や体育会所属の学生に配慮はしないので、この講義の単位が卒業要件に関わる者の受講は勧めない。

【学生の意見等からの気づき】

板書を増やしてほしいとの要望が一部にあるが、キーワード以外は板書しないので、自ら積極的にノートをとってほしい。また、聞き漏らしたことやよく分らなかったことがあった場合には、必ず講義後に質問をしてほしい。

【その他の重要事項】

この講義は、講義内容が前期・後期を通して完結するようになっているため、半期科目として受講する場合には、後期のみ受講することを勧める。

西洋史特講Ⅹ

大和久 悌一郎

授業コード：A3219

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の西洋史において重要な論点の一つは、福祉や慈善、あるいは社会政策である。そこでは、国家による政策のみでなく、社会状況や市民による自主的な活動など、多様な角度から貧困や失業に取り組もうとする人々の姿が取りあげられてきている。本講義では、特に20世紀半ばにいわゆる「福祉国家」を提唱して実現し、そののちサッチャー主義を始めとする改革を受けて現在に至るイギリスの事例から、福祉国家を軸に、人々の生活や国家のあり方を含めて、近現代における市民社会の性格に迫っていきたい。

【到達目標】

講義をつうじて、イギリス史を中心に、西洋近現代の状況についての知見を得ることができます。また、近現代イギリスについては、政治・経済・社会についての歴史的経緯をふまえた説明や、国際比較における議論をすることができます。とくに、社会政策などについての基本的な知見を得、福祉政策や財源などについての一般的な考え方を踏まえた議論ができます。

【授業の進め方と方法】

基本的に、各回ごとにプリントを配布し、その内容に沿った講義を行います。またスライドやパワーポイントで映像資料によるイギリスの紹介なども随時おこないます。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布し、質問などをいただきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリスの現在の地理について
第2回	イギリスの歴史と地理1 近世	宗教改革から名誉革命まで
第3回	イギリスの歴史と地理2 近代	産業革命と大英帝国、EUまで
第4回	イギリスにおける福祉国家の起源1 近世	救貧法から18世紀における慈善まで
第5回	イギリスにおける福祉国家の起源2 産業革命以後	19世紀における慈善活動と、貧困とのたたかい
第6回	イギリスにおける福祉国家の起源3 20世紀初頭	チャーチルとロイド＝ジョージを中心に
第7回	イギリスにおける福祉国家の起源4 20世紀中葉	二度の世界大戦と社会変容
第8回	イギリスにおける福祉国家1 構想	ベバレッジ報告を中心に
第9回	イギリスにおける福祉国家2 政策と実現	ケインズ主義と福祉国家について
第10回	イギリスにおける福祉国家3 停滞	イギリス病と福祉国家について
第11回	イギリスにおける福祉国家4 破綻から改良へ	サッチャー主義の挑戦
第12回	イギリスにおける福祉国家5 見直し	ブレア政権の改革と現在
第13回	現代イギリスの社会と福祉	イギリスの現在の経済・社会と福祉政策について
第14回	福祉国家論の現状と課題	これまでのまとめと今後の課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必須ではありませんが、事前に世界史、とくに西洋近現代史についての予習をしておくことを推奨します。授業後は、プリントに掲載した参考文献を図書館などで読むことを推奨します。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、期末試験 40%（平常点は授業内で配布するコメントシートの内容を含む）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

日本史序説Ⅰ

川上 真理

授業コード：A3212

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書が伝える以外の歴史を知っていますか。「歴史」として何が書かれ、何が書かれなかったのでしょうか。授業では、関東地方に視点を置いて日本の歴史を把握し、それを通して歴史を考察する方法を理解します。その際、文芸・絵画・文書などの歴史史料を用いて記録された内容を把握する作業を行います。

【到達目標】

日本史の流れを把握し、何がどのような方法で歴史的事実として記述されてきたかを理解します。

地域の側から国家の歴史を相対的に捉える視点を持ち、歴史的事象を複眼的に考察し表現する態度を養います。

【授業の進め方と方法】

授業計画に基づいてプリントを配布して、その内容を説明しながら授業を行います。第2回～第13回は、授業の感想・意見・質問等を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容を次の授業で紹介し、課題や関心を受講生の間で共有して進めていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス
第2回	先史時代の日本列島	集団の形成/共同体とまつり
第3回	古代東国の地域文化圏	東国の古墳とヤマト王権
第4回	東国武士の誕生（前半）	律令制国家の成立と東国社会
第5回	東国武士の誕生（後半）	平将門の乱と東国社会
第6回	武家政権の誕生	鎌倉と京都
第7回	内乱期の東国	観応の擾乱/守護領国制
第8回	戦乱期の東国（前半）	一揆/惣村/大名権力
第9回	戦乱期の東国（後半）	地域権力の編成
第10回	「徳川の平和」と人々の暮らし（前半）	兵農分離/身分
第11回	「徳川の平和」と人々の暮らし（後半）	教育と娯楽
第12回	近代国家の形成（前半）	明治維新/帝国憲法
第13回	近代国家の形成（後半）	デモクラシー/大衆文化
第14回	まとめ（試験）	授業のまとめ/授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習する。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館 見学等）によって得られた知見を補足する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布します。

【参考書】

○『岩波ジュニア新書 日本の歴史』全9巻、岩波書店、1999～2000年、¥780＋税。
○朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000年、¥2,800＋税
○佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概説日本歴史』吉川弘文館、2000年、¥1,900＋税
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000年、¥700＋税
○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史00）講談社、2000年、¥2,200＋税
○五味文彦・高埜利彦・島海靖編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2008年、¥2,381＋税
○大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座 日本歴史』全22巻、岩波書店、2013年～2016年、¥3,200＋税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017年。
その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と試験（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の目的を明瞭に示します。

【その他の重要事項】

著しい遅刻は欠席とみなします。
質問は授業の前後に教室で受け付けます。

日本史序説Ⅱ

柏木 一郎

授業コード：A3213

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原始古代から現代に至る日本の歴史の流れを把握することを目的とする。
日本史の全体像を把握し、歴史を考察する基本的な方法を理解する。

【到達目標】

日本の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷にかかわる総合的な考察や、それに基づく歴史的思考力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない前半と後半で異なったテーマで授業をおこなう。
「中学校学習指導要領解説 社会編 歴史的分野」「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 日本史 B」の内容を解説しながら講義を行う。テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに ①中学校・高等学校日本史 性格と目標について ②歴史と資料について	歴史学とは何か、歴史のとらえ方について考える。
第2回	①古代国家の成立 ②古代の日本と東アジア	日本文化の黎明と古代国家の形成 古代の日本と東アジア諸国との交流
第3回	①中世国家の形成 ②中世の社会と文化	武家政権の成立と展開 中世の政治と社会、文化の展開
第4回	①近世国家の形成 ②幕藩体制の確立	織豊時代と江戸幕府の成立 江戸時代の政治と文化
第5回	①幕藩体制の動揺 ②幕藩体制の解体	産業経済の発展と国際環境の変化 開国から明治維新へ
第6回	①近世日本の社会と文化 ②明治維新	近世の社会と文化の特色 明治維新と明治政府の成立
第7回	①近代国家の成立 ②近代国家の展開	明治政府の内政と外交
第8回	①国際関係の推移 ②政党政治の発展	条約改正と日清・日露戦争 自由民権運動と初期議会
第9回	①日露戦後経営と大正デモクラシー ②日本の植民地支配	政党政治の発展と大衆社会 日本の植民地統治
第10回	①近代産業の発展 ②近代の文化と社会	富国強兵、殖産興業 文明開化と近代文化の形成
第11回	①第一次世界大戦と日本 ②両世界大戦期の日本の経済と社会	第一次世界大戦を巡る国際関係と戦後の協調体制 第一次世界大戦前後における日本の経済・社会
第12回	①軍部の台頭 ②第二次世界大戦と日本	軍部の台頭と総力戦 昭和初期から第二次世界大戦の終結に至る国際環境
第13回	①戦後改革 ②高度経済成長	戦後日本の政治と国際社会
第14回	授業内試験	参照不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文部科学省「高等学校学習指導要領解説—地理歴史編—」
「中学校学習指導要領解説—社会編—」
「小学校学習指導要領解説—社会編—」を入手し熟読すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『シリーズ日本の歴史』（岩波ジュニア新書、岩波書店）、『日本の歴史』（ミネルヴァ書房）、『概論日本歴史』（吉川弘文館）、『大学の日本史』全4巻（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

授業内試験

【学生の意見等からの気づき】

日本史の大きな流れを把握し理解できるよう板書や配布するプリントの内容を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

東洋史序説

津田 資久

授業コード：A3214

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年3月刊行予定）を読み解くことを通じて、世界史的な視点から東洋の独自性と人類社会の普遍的な営みを概観・考察し、中国古代～近現代の諸問題を広く理解させることを目的とします。

【到達目標】

1. 中国史の時代的特徴を説明できる。
2. 世界史の中の中国を中心とした東アジア史の特色を説明できる。
3. 教科書に書いてある内容を理解し、説明できる。
4. 教科書の内容をふまえて、自分なりの中国史像を提示できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めます。必要に応じて、小テストも実施します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「東洋」の歴史を学ぶことの意義
第2回	中華意識の形成	先秦時代
第3回	統一帝国の誕生と「天下」の拡大	秦・前漢前半期
第4回	儒家思想の浸透と豪族社会	前漢後半期・秦・後漢時代
第5回	〈貴族〉の盛衰と「天下」観の変容	三国・両晋・南朝時代
第6回	草原から中華への軌跡	匈奴・五胡十六国・北朝時代
第7回	中国的「美」の営み	仏教美術を中心に
第8回	〈礼教国家〉の完成と東アジア秩序	隋・唐前半期
第9回	〈財政国家〉と科挙官僚制	唐宋五代・北宋・南宋時代
第10回	ユーラシア世界の中の「首都」北京	遼・金・元時代
第11回	海禁政策と伝統社会	明・清時代
第12回	「富強」をめざして	清末・中華民国・中華人民共和国
第13回	多様化する文学、漂泊する作家たち	中国と台湾をめぐる現代文学の歩み
第14回	現代中国案内	変貌する家族・生活・メディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、あらかじめ教科書を一通り読んでおいて下さい。その上で、自分がよく分からなかった記述をピックアップしておいて下さい。次の時間に扱うテーマの分からなかった箇所をその前の時間にアンケートに書いてもらい、その説明を盛り込んで次の時間に授業を展開します。

【テキスト（教科書）】

津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年3月刊行予定）

【参考書】

必要に応じて随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験：70％、授業への積極的な貢献度（平常点）：30％を考慮して、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215

春学期・2 単位

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、地中海・ヨーロッパ世界の歴史が体系的に理解できるような、俯瞰的な視野からの説明を加えていくつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。

各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、これまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。毎回リアクションペーパーを配布しますので、質問やみずからの考えを記してください。その内容に応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第 2 回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の原点を見る
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」と、キリスト教の誕生
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	もう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突と、中世シチリア王国	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える
第 13 回	16 世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第 14 回	授業の総括	授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業への参加度（20 %）、および学期末の筆記試験（80 %）によって総合的に評価します。

美術史（日本）A

稲本 万里子

授業コード：A3176

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ

日本彫刻史概説

授業概要

飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。

授業の目的・意義

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	仏教彫刻の見方	尊像名と図像
第 4 回	飛鳥時代の仏教彫刻Ⅰ	法隆寺金堂釈迦三尊
第 5 回	飛鳥時代の仏教彫刻Ⅱ	法隆寺救世観音像と百済観音像
第 6 回	白鳳時代の仏教彫刻	薬師寺薬師三尊像の制作期
第 7 回	天平時代の仏教彫刻	塑像と脱活乾漆造
第 8 回	天平時代の工芸	正倉院宝物
第 9 回	天平・平安時代の仏教彫刻	木彫の成立
第 10 回	平安時代の仏教彫刻Ⅰ	東寺講堂諸尊と両界曼荼羅
第 11 回	平安時代の仏教彫刻Ⅱ	平等院鳳凰堂の世界
第 12 回	鎌倉時代の仏教彫刻	運慶と快慶
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『奈良六大寺大観』全 14 巻（岩波書店、1968～1973）、『大和古寺大観』全 7 巻（岩波書店、1976～1978）、『平等院大観』全 3 巻（岩波書店、1987～1992）。

入門書として、水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教授室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

美術史（日本）B

稲本 万里子

授業コード：A3177

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ

日本絵画史概説

授業概要

平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。

授業の目的・意義

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造を理解することも目標にする。

【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
- ・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなったうえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立したあとも、和と漢の二種類の作品を併存させていたこの意味を考える。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	平安時代の絵画Ⅰ	やまと絵と唐絵
第 4 回	平安時代の絵画Ⅱ	女絵と男絵
第 5 回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅰ	来迎図
第 6 回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅱ	六道絵
第 7 回	鎌倉・南北朝時代の絵画	肖像画
第 8 回	室町時代の絵画Ⅰ	水墨画
第 9 回	室町時代の絵画Ⅱ	やまと絵屏風
第 10 回	室町・桃山時代の絵画Ⅰ	狩野派
第 11 回	室町・桃山時代の絵画Ⅱ	土佐派
第 12 回	桃山・江戸時代の絵画	琳派
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	平安時代～江戸時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『原色日本の美術』全 32 巻（小学館、1966～1972）、『日本美術全集』全 25 巻（学習研究社、1977～1980）、『日本美術全集』全 25 巻（講談社、1990～1994）、『日本美術全集』全 20 巻（小学館、2012～2016）。

入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社、1991）、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』（美術出版社、2002）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の冷暖房についての苦情は教授室へ。講義用のスライドの映写は黙認されているが、所蔵者の許可がなければ学生に配布することはできないので、試験対策には参考図版を見てもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はなし。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

地理学科

地理学科の卒業論文について

「卒業論文」授業コード：A2000 8単位

【卒業論文の目標・目的】

文学部地理学科では卒業論文を必修としています。卒業論文はこれまで学んできた専門知識に加え、思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成されるべき4年間の学業の集大成です。地理学科では、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認めています。

(1)人間の生活の舞台である地球表層の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身に付けている。(2)地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。(3)地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

【卒業論文の概要と方法】

卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行なわれ、履修登録は4年次に行なわれますが、卒業論文は1年間で作成できるものではありません。3年次から履修可能な「演習（いわゆるゼミ）」等に参加し、担当教員の指導を受けながら、主体的に卒業論文についての意識を高め、自分の研究テーマ（卒業論文の論題に直結します）を探していってください。ここで重要なのは「主体的」ということです。各自で研究テーマを見いだしていくには、「主体的」に学ぶことが必要になってきます。基本的には、3年次秋に提出してもらう「卒業論文申請書」に記載されている研究予定テーマ、さらに履修している演習等によって、卒業論文の指導教員は決定されます。しかし教員側が「研究テーマ」を一方向的に与えるということとは無く、あくまでも「主体的」にテーマを選定し、そのテーマを研究成果として結実させるための指導を各指導教員が担当するのです。個別の論題（テーマ）に即した指導は、基本的には演習の授業時での口頭発表、それに対する質疑応答を通して行なわれます。

1月上旬の卒業論文提出後は、1月末頃に卒業論文面接審査が実施されます。この面接審査は一般の授業の「定期試験」に該当します。卒業論文は「主体的」に取り組むことが要求され、したがってレポートとは異なり、方法論も含めて学び、執筆・作成することが求められる科目であることを再確認してください。

【卒業論文の評価基準】

地理学科では、卒業論文の評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められます。

①研究課題設定の妥当性、②研究対象地域選定の妥当性、③既往研究上での位置づけ、④調査方法や分析・解析手順の妥当性、⑤適切な分量、⑥論文構成の妥当性、⑦論旨の展開、⑧適切な文章表現、⑨文献等の適切な引用、⑩図表の体裁と正確さ、⑪分析・解析や考察と結果導出の妥当性、⑫論文全体の独創性（オリジナリティ）等。

卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案して以下の基準でA⁺・A・B・C・D・Eの判定を行ないます。

- ・ A⁺：評価項目の要件を十分に満たし、特に優れた論文と認められる場合
- ・ A：評価項目の要件を満たし、優れた論文と認められる場合
- ・ B：評価項目のほとんどの要件を満たしていると認められる場合
- ・ C：評価項目の要件をある程度満たし、論文作成の努力が認められる場合
- ・ D：多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に適わないと評価される場合
- ・ E：未提出

【その他】

- (1) 卒業論文については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記載をよく読み、掲示に常に注意してください。
- (2) 3年次の秋に開催される卒業論文ガイダンスで配布される卒業論文申請書を、所定の期日までに提出しなければなりません。
- (3) 地理学科HPに掲載されている「卒業論文について」をよく読んでください。そこには執筆要領（まとめ方やワープロ使用の際の形式等）や現地調査の際の「協力依頼状例」が掲載されています。
- (4) 卒業論文作成上のルールについても、地理学科HP「卒業論文について」に記されています。特に剽窃には留意してください。
- (5) 作成した卒業論文は、毎年2月下旬頃開催される「法政大学地理学術大会」において全員発表することになっています。

地理学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3401

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎を確認する点にある。この講義の目標は、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認すること、あるいは復習すること、2. 高校の地理と大学の地理学との違いを意識しつつ理解に努めること、3. 自然地理学を中心とする導入部分を学ぶこと、の3点にある。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の地理と大学の地理学の違いを意識して理解に努めること。自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識の習得を図り、今後の学年進行に伴う学習の土台に寄与することに目標がある。

【授業の進め方と方法】

半期科目であるこの地理学概論（1）は春学期に開講し、1名の教員が半年間講義を担当する。基本的には、本科目の趣旨から高校地理（B）のテキストを参考に、次のような点について講義する。
・太陽系惑星の一つであるこの地球の誕生過程について考える。
・地球の内部の構造と、地表面の形態である地形の成り立ちについて説明する。
・気候・気象現象の生ずる根本的な背景について考究する。
・地球上に生起する各気候帯の違いによって、植生や土壌の多様性が現れることを知る。
・地球上に認められる気候の地域区分と気候の分類の思潮の変遷を知る。
・海洋・陸水の観点から、地球上の水循環・水収支をまず理解し、水資源や洪水などを巡る様々な問題について解説する。
・人間の生活の場として自然環境を捉え、自然史、生物多様性、生態系などについて解説し、地球温暖化や越境汚染など、様々な環境問題や自然環境の変化についても講義する。

なお、本講義の性格上、講義が中心となるが、受講生の理解度をはかるために適宜、自宅学習の課題、講義内小テスト、講義の要点と質問記述のリアクションペーパー配布などを実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	系統地理学と地誌学、自然地理学分野について説明する。
第2回	地球惑星科学と（自然）地理学	地球惑星科学の一分野としての（自然）地理学について、最新の研究成果を踏まえて説明する。
第3回	気候①＜大気大循環と気候要素・因子＞	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第4回	気候②＜世界の気候区分と気候変動＞	ケッペンをはじめとした様々な気候区分について説明し、最新の観測結果を踏まえた気候変動や気候の変化について説明する。
第5回	気候③＜日本の気候と局地気候＞	日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第6回	地形①＜世界と日本の地質・大地形＞	地質年代、世界の地質、プレートテクトニクス、日本の地質構造と造山運動、火山の分布について講義する。
第7回	地形②＜第四紀と山地の地形＞	第四紀、氷河・周氷河地形、山地と丘陵地、変動地形、河谷と水系、地形の「営力論」からの考え方について講義する。
第8回	地形③＜平野と海岸の地形＞	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形、平野の開発と改変、「地形発達史」の概念について講義する。

第9回	水文①＜水循環と流域＞	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、河川学の基礎について講義する。
第10回	水文②＜地下水と湖沼＞	水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第11回	水文③＜雪水と海洋＞	陸水の中で最も多い雪水と地球上の水のほとんどを占める海洋について講義する。
第12回	植生①＜植生分布＞	世界の植生分布、日本の植生分布、原植生の衰退について講義する。
第13回	植生②＜植生景観と文化＞	日本の植生景観、アジア・日本の森林と文化について講義する。
第14回	その他＜自然災害・環境問題・応用自然地理＞	地震・気象・土砂・洪水などの自然災害と様々な環境問題、それらに対する自然地理学の応用的な側面について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で扱う内容に関するテキスト（高等学校で使用した「地理」の教科書と地図帳。もし高等学校で使用した地理の教科書が手元にない場合には、別途に入手することが望ましい）の該当箇所を予め読んだ上で受講すること。

【テキスト（教科書）】

本講義の参考テキストとして帝国書院『新詳地理 B 初訂版』（地 B - 007）を使うが、各自、高等学校で使用した「地理」の教科書があればそれを持参することで構わない。ただし、高等学校の教科書が手元にない場合には、購入することが望ましい。また、帝国書院『新詳高等地図』や『新詳地理資料』なども、この機会に購入することがベターである。

【参考書】

教員が必要に応じてその都度講義内で紹介する予定である。しかし、各自、適宜、図書館や地理学科事務室の図書を開覧して読むことが肝要であることは言うまでもない。とくに高等学校で地歴科「地理」を履修していない場合には、この点に努めて欲しい。

【成績評価の方法と基準】

原則的に学期最後に筆記試験（参照不可であることは当然である）を実施し、その採点結果を基礎とし、講義への出席、小テスト、課題なども加味して最終評価とする。筆記試験 60%、平常点 20%、課題 20%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義に出席して要点を理解することが肝要となる。初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料などは、原則として、授業支援システムのアップするので、それをダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

1年生から履修可能にしている数少ない基礎的必修科目であるゆえ、毎回の講義をきちんと受講し、できれば1年時に単位を修得して欲しい科目である。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

地理学概論（２）

中俣 均

授業コード：A3402

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学、とくに人文地理学と称される問題群＝学問分野の全体像を把握すること。－というのはあくまでカリキュラム上の本科目の建て前趣旨である。さしあたっては、受講者が今後学んでゆくことになる地理学の、こういった方面にとくに興味や関心を抱くかを自覚した際に、そのことがこの学問全体の中でどう位置づけられるのかを認識する、そのための参照系（の一例）を提示することが目的である。

【到達目標】

上記の目的のような意味で、この授業は「概論」というよりはむしろ、地理学「原論」に近い性格を帯びることになる。だとすると、到達目標は容易に列挙できるような類いのものにはならない。これもさしあたりだが、例えば４年間の学生生活の総体としての卒業論文制作にあたって、適切なテーマを設定しそれに真摯に取り組んで成果をあげる（つまり合格すること）。あるいは、自分が学んだ地理学というものを、他者に簡潔かつ要領を得たことばで説明できるようにすること。それが到達目標の一つの表現のしかたということであろう。

【授業の進め方と方法】

講義を主とする。時に応じてミニ・レポートを提出してもらうことがある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学的発想	・生活の身近にみられる地理学的発想について
第 2 回	地域差の存在と認識	・世界の多様さ ・他者認識から自己相対化へ
第 3 回	地域差の表現法としての主題図	・地理学的「言語」といわれる地図表現について
第 4 回	地域差存在の理由の説明と解釈 その 1	・主題図の作成法とその読み方
第 5 回	地域差存在の理由の説明と解釈 その 2	・主題図読解の具体的事例
第 6 回	地域概念と地域区分 その 1	・地域概念の操作性 ・地域区分と地域分類という思想
第 7 回	地域概念と地域区分 その 2	・地域区分の実例とそれらの意味
第 8 回	地域と空間	・人文地理学の対象としての地域 ・地域（空間）とそのスケールについて
第 9 回	現代の地理空間	・都市地域と村落地域 ・社会地域と産業地域（農業地域・鉱工業地域・商業地域） ・空間的分業
第 10 回	地理学の二源性	・系統地理と地誌（地域地理） ・自然地理学と人文地理学
第 11 回	人文地理学の構成	・具体的な人文地理学的事例
第 12 回	地域研究と地域地理学	・地誌（地域地理学）の有用性について
第 13 回	地理学の応用	・国民国家と人文地理学 ・国土空間と地域開発 ・政策科学としての人文地理学
第 14 回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに紹介する文献を読んで、講義内容をより深く正確に身につけること。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回、教材プリントを配布する。

【参考書】

毎回の授業時に必要なものを指示する。それをよく読んで、次の授業に備えること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（70％）と平常点（30％）を成績判定の材料とする

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

地理実習（１）

小原 文明

授業コード：A3403

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を４年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	主題図の作成：定量図
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成：定性図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第 10 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第 11 回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第 12 回	フィールドワークの手法③	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法④	ヒアリング調査
第 14 回	総括	人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも日にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第２版）』海青社、2,500円（税抜）。
●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30％、各種課題：70％で評価します。平常点については積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

地理実習（１）

小原 文明

授業コード：A3404

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようにすることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	主題図の作成：定量図
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成：定性図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第 10 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第 11 回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第 12 回	フィールドワークの手法③	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法④	ヒアリング調査
第 14 回	総括	人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）『『ジオ・パル NEO —地理学・地域調査便利帖—（第 2 版）』海青社、2,500 円（税抜）。

●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30％、各種課題：70％で評価します。平常点については積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

地理実習（２）

羽佐田 紘大

授業コード：A3405

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図と自然地理学な主題図の作成・利用方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解し、活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地形図の基本	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 2 回	地形図の利用（１）	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 3 回	地形図の利用（２）	等高線を読みとり、地形断面図を作成する。
第 4 回	地形図の利用（３）	新旧地形図の地形断面図を作成して比較する。
第 5 回	主題図の作成（１）	段彩図を作成する。
第 6 回	主題図の作成（２）	地性線図を作成する。
第 7 回	主題図の作成（３）	等値線図を作成する。
第 8 回	主題図の作成（４）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 9 回	主題図の作成（５）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 10 回	主題図の作成（６）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 11 回	地表を簡易計測する（１）	ハンドレベルを使った高さの測定（前視と後視）を学ぶ。
第 12 回	地表を簡易計測する（２）	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学び、地形断面計測の技術を習得する。
第 13 回	地形図の活用	土地利用図を作成する。
第 14 回	空中写真の利用	空中写真の活用方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90％）、平常点（10％）にもとづいて評価する。1／3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規

地理実習（2）

羽佐田 紘大

授業コード：A3406

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図と自然地理学な主題図の作成・利用方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解し、活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地形図の基本	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 2 回	地形図の利用（1）	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 3 回	地形図の利用（2）	等高線を読みとり、地形断面図を作成する。
第 4 回	地形図の利用（3）	新旧地形図の地形断面図を作成して比較する。
第 5 回	主題図の作成（1）	段彩図を作成する。
第 6 回	主題図の作成（2）	地性線図を作成する。
第 7 回	主題図の作成（3）	等値線図を作成する。
第 8 回	主題図の作成（4）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 9 回	主題図の作成（5）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 10 回	主題図の作成（6）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回のつづき）。
第 11 回	地表を簡易計測する（1）	ハンドレベルを使った高さの測定（前視と後視）を学ぶ。
第 12 回	地表を簡易計測する（2）	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学び、地形断面計測の技術を習得する。
第 13 回	地形図の活用	土地利用図を作成する。
第 14 回	空中写真の利用	空中写真の活用方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）にもとづいて評価する。1 / 3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規

現地研究

地理学科専任教員

授業コード：A3407

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査（フィールドワーク）実習」を、法政大学の地理学科ではこのように呼んでいます。

地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地＝現場におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切ですし、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることになります。さらに、4 年生になると、必修科目としての卒業論文の制作が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

【到達目標】

教室で学んだことがらを「地域」の現地＝現場で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を理解できるようにし、卒業論文の作成につながる調査方法等を修得できるようにすることが目標となります。

【授業の進め方と方法】

各専任教員が、それぞれ年 1～2 回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壌調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いはいずれ各担当教員に任されています）。

各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文制作に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。したがって単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。

各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献、地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料をあらかじめ図表化や地図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合がありますが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくことになります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」や「事前学習会」も複数回実施される場合が出てきます。それら説明会や事前学習会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むことになります。具体的には、それぞれの企画にしたがって観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかなければならないこともあります。

「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示にしたがってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・地図化・分析、仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることになります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者の募集	募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。
第 2 回	事前説明会・学習会	各「現地研究」のおおまかな内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。
第 3 回	現地研究本番	集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。

第 4 回	レポート作成・報告会	帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。 以上のような過程をすべて経たうえで、単位認定がなされることになる。
秋学期 回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業の概要と方法を参照のこと。

【テキスト（教科書）】

各「現地研究」ごとに指示します。

【参考書】

各「現地研究」ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

参加申し込み、説明会・事前学習会への参加 (10%)、「現地研究」本番への参加 (40%)

、事後のレポート提出および報告会等への参加 (50%) が、概ねそれぞれの現地研究の単位認定の必須条件です（実施教員によって若干の変動有り）。また、「現地研究」の単位は、4 年次にまとめて認定されます。履修登録は 4 年次に必ず行って下さい。2～4 年次の間に合計 6 日間以上（つまり 2 回以上）履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修 2 単位が認定されます。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

現地研究は 2012 年度から、2 年生以上が参加可能となりました（したがって「1 年生は参加できない」ということになります）。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12 階の地理学科事務室で受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行い、申込時に「参加予約金」を徴収します。申し込み後、本人の都合で参加をキャンセルしても、この予約金は返却されません。なお、参加費用は全て自己負担です。

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される 2 つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第 2 回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第 3 回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第 4 回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第 5 回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第 6 回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第 7 回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第 8 回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第 9 回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第 10 回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第 11 回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第 12 回	自分誌	自分誌の定義と事例
第 13 回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第 14 回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』，古今書院
・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』，大明堂
・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』，大明堂
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-，大明堂
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。

平常点 3 割、課題 3 割、試験 4 割とする。

【学生の意見等からの気づき】

地誌学作成のスキルや実習よりも、知識重視の要望が多いため、今年度は、地誌全般の知識についてのウエートを増やす。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

地誌学概論（2）

小原 文明

授業コード：A3409

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。今年度はさまざまな観点から地誌学を捉える授業を行います。つまり、さまざまな地誌学の観点に立脚し、その上で地域がどのように捉えられるのか考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて、地域に関する知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。特に、さまざまな地域の見方・地誌学の観点を修得することを目指します。

【授業の進め方と方法】

まず、地誌学とはどのような学問であるかについて理解します。その上で、具体的な事例を題材として、さまざまな観点から地域について考えていきます。また、授業内外で課す課題に取り組んでもらいます。それらの作業を通じて、多様な地誌学的なモノの見方について考えていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地誌学とは？	講義の進め方／さまざまな地誌学
第2回	地誌学のさまざまな視点	地誌学の考え方・見方・方法
第3回	地域構造①	地域構造から地誌を考える：自然・文化・生活
第4回	地域構造②	地域構造から地誌を考える：人口・経済活動
第5回	地域形成と変化①	時間軸からのアプローチ：地域の形成過程
第6回	地域形成と変化②	時間軸からのアプローチ：地域の歴史性
第7回	多様性と普遍性①	地域の記述と一般化：多様性と統一性の関係性
第8回	多様性と普遍性②	地域の記述と一般化：部分と全体
第9回	空間スケール①	多様な空間スケールと地誌的事象：マルチな空間スケール
第10回	空間スケール②	多様な空間スケールと地誌的事象：空間スケールの不一致
第11回	身近な地域の地誌①	東京の地誌
第12回	身近な地域の地誌②	千代田の地誌
第13回	地誌的記述①	作品にみる地誌的記述：地理書
第14回	地誌的記述②	作品にみる地誌的記述：旅行記

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外で課すレポート等に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題については、テーマに基づいて受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。また、講義中に紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業レジュメや資料は担当教員で作成・準備し、配布します。

【参考書】

- ・伊藤喜栄ほか監修、帝国書院編集部編（2009）：『Discovering Japan: a new regional geography』帝国書院。
- ・矢ヶ崎典隆ほか編著（2007）：『地誌学概論 地理学基礎シリーズ 3』朝倉書店。
- ・『都市の景観地理』古今書院 のシリーズ。
- ・『日本の地誌』朝倉書店 のシリーズ。
- ・その他は、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％で評価します。

それぞれの事象の関係を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

日本地誌（1）

中俣 均

授業コード：A3410
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の中の「異文化」地域である「沖縄」について考えることを通じて、日本の実態＝実体を相対化する視点を養うことが目標である。スケールこそ違え、日本が大小さまざまな島嶼からなる一つの地域的まとまり（システム）であるように、沖縄もいわゆる沖縄本島を中心にした大小の離島の集合体である。したがって、それら日本の島嶼群が構成する地域システムの在り方を考えるためには、沖縄の島々が形作る地域システムは、格好の比較対照軸を提供してくれるはずである。

【到達目標】

世界を構成するある地域について語る（「説明する」）こと、そうしたある地域を認識することとはどのようなことかを知ること。また、具体的には現在の沖縄という地域に関する知識・認識を深めること。

【授業の進め方と方法】

講義が主であるが、できるだけ視覚に訴える材料を提示しながら授業を進めたい。またほとんど毎回、教材プリントを数枚ずつ配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：「沖縄」について考えることの意味	地誌を考えるスケール、地域システムとしての島嶼群、異文化認識と理解、講義内容の説明、参考文献の指示「沖縄」と「琉球」、島々の実像と呼称
第 2 回	外から見る「沖縄」・内から見る「沖縄」	
第 3 回	高い島・低い島－島嶼群の自然的基盤	高島と低島、サンゴ礁とその性質、サンゴ礁の環境と人々の生活
第 4 回	「亜熱帯」？の自然と景観	台風銀座、多雨地域の旱魃、特異な生物相
第 5 回	琉球王国以前：歴史論①	群雄割拠、グスク時代、古琉球
第 6 回	琉球王国の成立：歴史論②	三山統一、交易国家、島津の琉球入り
第 7 回	「世」替わりの中で：歴史論③	琉球処分、ヤマト世・アメリカ世・ウチナー世
第 8 回	沖縄の人口変動と都市・村落	海外移民、人口の偏在、高失業率と相互扶助
第 9 回	基地依存経済と観光振興：第 3 次産業論	基地依存経済、財政依存経済、観光化
第 10 回	沖縄の生業と産業：第 1 次産業論	農業の特色、サトウキビ・モノカルチュア、イモ・キビ・マメ・ブタ体系、電照菊
第 11 回	ふるわないモノ造り：第 2 次産業論	地場産業、伝統工芸、インフラ（交通網）、県土（国土）開発の矛盾
第 12 回	カミ観念と祭祀世界	ノロ（神女）、御嶽、ニライカナイ
第 13 回	風水思想と二元論的生活空間	風水思想、地割制集落、集落移動、二棟造り、方位観
第 14 回	せめぎ合う文化層	琉球方言の実相と方言論争、同化と異化、伝統の創造：太平洋の要石、NYMBY としての米軍基地、島嶼群としての沖縄と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時課題を指示する小レポートの作成。また、新聞などのメディアで取り上げられる「沖縄」関連の出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、参照すべき文献については講義の中で随時指示する。またほとんど毎回、教材プリントを数枚ずつ配布する。

【参考書】

参照すべき文献については講義の中で随時指示する。それ以外に、下記の概説書をぜひ通読しておいてほしい。

- ・比嘉春潮・霜多正次・新里恵二 (1963)『沖縄』（岩波新書）
- ・外間守善 (1986)『沖縄の歴史と文化』（中公新書）
- ・櫻澤誠 (2015)『沖縄現代史』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

学期末に課す試験の内容による (90%) が、授業への出席状況などを含めた平常の授業態度を加味 (10%) する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関係する事項の、主体的な情報収集（既存メディアなどからの）を促すようつとめる。

日本地誌（2）

中山 大地

授業コード：A3411
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする。主に地形・水文・気候といった自然分野について幅広く講義するが、人間と環境との相互作用といった内容も含んでいる。このため、人文地理学に興味がある学生の皆さんにもぜひ出席してもらいたい。

【到達目標】

日本列島を構成する自然環境について、基本的な知識を習得する。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自然環境と人びとの暮らし (1)	地形図を用いた相模原の土地利用分類
第 2 回	自然環境と人びとの暮らし (2)	相模原の土地利用と地下水
第 3 回	自然環境と人びとの暮らし (3)	相模原の地形・水文環境と人々の生活
第 4 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (1)	海水準変動と日本の平野地形
第 5 回	火山国・日本 (1)	日本人にとって火山とは何か
第 6 回	火山国・日本 (2)	九州の巨大カルデラ
第 7 回	火山国・日本 (3)	カルデラ噴火と九州の縄文文化
第 8 回	火山国・日本 (4)	雲仙の火山災害
第 9 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (2)	日本周辺の火山と地震
第 10 回	日本列島の生い立ちと自然環境 (3)	プレートテクトニクスと島弧―海溝系
第 11 回	大気の循環と日本の気候 (1)	北西モンスーンと日本の冬の気候・局地風と人々の暮らし
第 12 回	大気の循環と日本の気候 (2)	日本の豪雪災害
第 13 回	大気の循環と日本の気候 (3)	北東ユーラシアの気候と偏西風
第 14 回	大気の循環と日本の気候 (4)	大気大循環と世界の気候帯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5 月か 6 月の日曜日（目安として第 3 回授業の終了後）に日帰りの巡検（相模原近辺）を行う。参加は自由であり、出欠は成績に一切影響しない。授業時に提示するキーワードについて調べてくる。授業の内容に関するクイズを考える。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書を一読しておくことを勧める。

【参考書】

米倉ほか（2001）「日本の地形Ⅰ総覧」東京大学出版会
中村ほか（1996）「日本の気候」岩波書店
町田・小島（1986）「自然の猛威」岩波書店
杉谷ほか（2005）「風景のなかの自然地理 改訂版」古今書院

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、小テスト（40%）、平常点（10%）を 100%まで加算して成績を決める。小テストは授業支援システムを用いて行う。講義は出席するが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

地球科学概論 I

宍倉 正展

授業コード：A3412

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が普段目にする山や海岸の景色が、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解する。地球のシステムを知り、日本列島の成り立ちを知り、自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解する。また普段から地球科学に関するニュースに接してもらい、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業の感想・質問やグループワークから、学生の理解度、論理的な思考能力と表現能力を見る。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、適宜グループワークを行う。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業において出席の確認も兼ねて講義やグループワークの感想を書ってもらい、授業終了時に提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のテーマの説明と評価法などについて述べる。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球の成り方について述べる。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3 およびグループワーク	地震予知情報に関する説明をし、それをテーマにしたグループワークを行う。
第 11 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2 およびグループワーク	火山災害について説明し、それをテーマにしたグループワークを行う。
第 14 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用したスライドは本講義の web にアップするので授業でよく理解できなかった点などを復習をする。宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめ、グループワーク等で役立てる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは講義中に紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版

http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487

泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>

宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版

<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

- 1・期末にレポートの提出を求める（40 %）。
- 2・毎回提出してもらう授業の感想の内容（50%）。
- 3・グループワークを取り組む姿勢（10 %）。

なお、講義回数の 3 分の 2 以上の出席者のみ評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

地球科学概論Ⅱ

宋倉 正展

授業コード：A3413

秋学期・2 単位

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題についてグループワークを通して議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解する。地球のシステムを知り、日本列島の成り立ちを知り、自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解する。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業の感想・質問やグループワークから、学生の理解度、論理的な思考能力と表現能力を見る。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、適宜グループワークを行う。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業において出席の確認も兼ねて講義やグループワークの感想を書ってもらい、授業終了時に提出してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	津波発生のしくみ、過去の巨大津波の事例などについて説明。
第 2 回	津波 2	津波の高さの定義の説明、津波堆積物の研究例を紹介する。
第 3 回	津波 3 およびグループワーク	津波災害に関する課題について説明し、グループワークを行う。
第 4 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 5 回	活断層 1	活断層の種類や分布、検出方法などについて説明する。
第 6 回	活断層 2 およびグループワーク	活断層と防災について説明し、それをテーマにしたグループワークを行う。
第 7 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 8 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法について説明する。
第 9 回	地殻変動 2	地震に伴う急激な地殻変動やスロースリップ、余効変動などゆっくり進行する地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 10 回	気候変動	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 11 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山や河川の侵食について説明。
第 12 回	侵食と堆積 2 およびグループワーク	土砂災害をテーマにしたディスカッションを行う。
第 13 回	グループワーク発表会	グループごとに議論した内容を発表する。
第 14 回	防災教育と地球科学	地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使用したスライドは本講義の web にアップするので授業でよく理解できなかった点などを復習をする。
津波、地殻変動、気候変動、土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめ、グループワーク等で役立てる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

宋倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

- 1・期末にレポートの提出を求める（40 %）。
 - 2・毎回提出してもらう授業の感想の内容（50 %）。
 - 3・グループワークを取り組む姿勢（10 %）。
- なお、講義回数の 3 分の 2 以上の出席者のみ評価の対象とする。

地学実験（１）（コンピュータ活用含む）

小寺 浩二

授業コード：A3509

春学期・１単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の量と質に関する特徴およびその変化について、水収支・水循環の視点から、水の性質が、その場所の環境とどのように反応し、その場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】

水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に、基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業する能力が身に着けられていることを目標としている。

【授業の進め方と方法】

自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い、実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境上を収集する方法、利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第 2 回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第 3 回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第 4 回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第 5 回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	EC の性質・測器の特性
第 6 回	pH 実験に関する基礎地誌式と実験	pH の性質・測器の特性
第 7 回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第 8 回	様々な水質表現法	ヘキサダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 9 回	地域特性	対象地域地域特性解析
第 10 回	調査・分析・解析①	調査計画・調査機材準備
第 11 回	調査・分析・解析②	記録簿の整理・簡易濾過
第 12 回	調査・分析・解析③	分析・解析
第 13 回	調査・分析・解析④	コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	まとめ	考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。

【テキスト（教科書）】

「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994 年）

【参考書】

適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

実験科目なので出席を重視し、レポートにより成績評価を行う。平常点 50%、課題 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう、実験・実習の説明を工夫する必要があると感じた。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】

実験では、コンピュータを活用するので、基礎的な知識・能力を身に付けておくこと。自信のないものは、電算実習科目を履修すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

地学実験（1）（コンピュータ活用含む）

小寺 浩二

授業コード：A3510

秋学期・1単位

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の量と質に関する特徴およびその変化について、水収支・水循環の視点から、水の性質が、その場所の環境とどのように反応し、その場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】

水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に、基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業する能力が身に着けられていることを目標としている。

【授業の進め方と方法】

自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い、実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境上を収集する方法、利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第2回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第3回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第4回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第5回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	ECの性質・測器の特性
第6回	電気伝導度実験に関する応用と実験	pHの性質・測器の特性
第7回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第8回	様々な水質表現法	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第9回	地域特性	対象地域地域特性解析
第10回	調査結果整理・解析①	測器・観測簿準備について
第11回	調査結果整理・解析②	作図について
第12回	調査結果整理・解析③	面積の計測
第13回	調査結果整理・解析④	水系図・断面図の計測
第14回	分析結果整理・解析	コンピュータを用いた解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。

【テキスト（教科書）】

「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994年）

【参考書】

適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

実験科目なので出席を重視し、レポートにより成績評価を行う。平常点 50%、課題 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう、実験・実習の説明を工夫する必要があると感じた。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】

実験では、コンピュータを活用するので、基礎的な知識・能力を身につけておくこと。自信のないものは、電算実習科目を履修すること。

地学実験（2）（コンピュータ活用含む）

加藤 美雄

授業コード：A3511

春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【授業の進め方と方法】

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を十分に理解することが求められるので、出席を確認する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容についての解説。また、授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第12回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。
第13回	アメダスと高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	アメダスと高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第14回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限内までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）、東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行
新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

地学実験（2）（コンピュータ活用含む）

加藤 美雄

授業コード：A3512

秋学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用手法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【授業の進め方と方法】

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を十分に理解することが求められるので、出席を確認する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容についての解説。また、授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第12回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。
第13回	アメダスと高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	アメダスと高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第14回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限内までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）、東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行
 新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

地質・岩石学及び実験

外田 智千

授業コード：A3416

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学及び岩石学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

地球の最外殻の地殻を構成している地質と岩石について理解を深める。また、実習等によって、岩石標本に直に触れたり、岩石に現れている組織や現象について考え、地球の成り立ちや歴史への認識を深める。

【授業の進め方と方法】

地質学と岩石学の基本概念と基礎知識を最初に概説し、さらに個々の実例を紹介する。また、実習等によって岩石や鉱物の標本を観察し、その組織などからでき方を講義内容と比較して理解し、識別をしてもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の目的、授業計画の説明、地球の全体像の概説
第 2 回	地殻の構成物質	地殻の化学組成についての推定法と見積もり、造岩鉱物
第 3 回	岩石の成因と区分	火成岩・堆積岩・変成岩の区分と特徴
第 4 回	火成岩（1）	火成岩の成因、マグマと結晶作用
第 5 回	火成岩（2）	火成岩の種類、標本観察、特徴
第 6 回	堆積岩（1）	堆積岩の成因、侵食・運搬・堆積作用
第 7 回	堆積岩（2）	堆積岩の種類、標本観察、特徴
第 8 回	変成岩（1）	変成岩の成因、プレートテクトニクスと変成作用
第 9 回	変成岩（2）	変成岩の種類、標本観察、特徴
第 10 回	岩石の年代	地質年代測定法の種類と特徴
第 11 回	海洋地殻	海洋底拡大と海洋地殻の生成、プレートテクトニクス、大陸移動
第 12 回	大陸地殻	大陸地殻の形成と進化、超大陸の形成
第 13 回	地球史	地球の歴史と地殻の進化
第 14 回	まとめ	全体のまとめ、評価のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地球の成り立ちに興味を持ち、地球の進化や岩石・鉱物に関する参考書、写真集、DVD 等を見ることで、自ら授業への動機付けをおこなう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを利用する

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、試験（40%）、小課題等（10 %）で評価を行う。小課題の回数等により、評価割合の若干の変更はありうる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

自然環境論

羽佐田 紘大

授業コード：A3417

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本の流域・沿岸域（一部に海外の例を含む）に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業（授業時間内に実施）を行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、要望、質問など）を提出してもらう。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（地形や気候など）を概説する。
第 3 回	身近な地域の調べ方	身近な地域の調べ方を紹介し、地域の変化を読み取る。
第 4 回	気候変動と地形の成り立ち	流域・沿岸域の自然環境のうち、地形に着目してその成り立ちを解説する。
第 5 回	沖積低地の地形と暮らし（1）	人々が多く暮らす沖積低地（沖積平野）を中心に、それを構成する地形と人々の暮らしについて説明する。
第 6 回	沖積低地の地形と暮らし（2）	人々が多く暮らす沖積低地（海岸平野）を中心に、それを構成する地形と人々の暮らしについて説明する。
第 7 回	地形図からみる自然環境の変化	新旧地形図を読み取り、さまざまな地域の自然環境の変遷を考える。
第 8 回	流域・沿岸域と水害・治水	濃尾平野や関東平野の水害・治水の歴史について述べる。
第 9 回	流域・沿岸域と台風	伊勢湾台風を例に流域・沿岸域での台風による被害について考える。
第 10 回	流域・沿岸域と地震	沖積低地を中心に地震の影響を説明する。
第 11 回	流域・沿岸域の地形改変・管理・保全	流域・沿岸域で行われてきた地形改変・管理・保全について説明する。
第 12 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：サンゴ礁	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてサンゴ礁を取り上げ、人々の暮らしとのかかわりについて述べる。
第 13 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：マングローブ（1）	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてマングローブを取り上げ、その特徴を説明する。
第 14 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：マングローブ（2）	さまざまなマングローブ研究を紹介しながら、将来の自然環境について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）および毎回のコメントシートの提出状況・内容（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートの質問について、スライドを用いて説明していきます。

地形学及び実験 I

小松原 琢

授業コード：A3418

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが暮らしている地球は、太古から同じ姿であったのではなく、長い歴史の中でさまざまな変化しながら今のような状態になったことを理解します。地形は、「地球内部の熱エネルギー」「太陽から降り注ぐ熱エネルギー」「人間を含む生物の活動」の 3 つの作用が働くことによって、常に変化してきました。それは、今後も続く地球の営みと言えます。私たちは、この授業を受けることによって、何気ない風景の中から、ダイナミックな地球の営みを読みとるための基礎的な考え方を身に付けたいと思います。この講義では特に太陽エネルギーと生物活動に伴う地形変化について学びます。

【到達目標】

自然地理学の諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識と考え方や研究成果について系統的に学習します。そのため、1) 地球とはどのような星なのか、2) 地球にはどのような作用が働いているのか、3) いろいろな作用の結果、どのような地形が作られるのか、4) 地形や地質といった固体地球の表面に刻印された現象から、どのようにして過去に働いた作用を読み取るのか、5) 個々の地形や地質から、そこがどのような過程を経て作られてきたのか、6) 個々の地点で現在何が行われつつあるのか、7) 個々の地点にはどのような自然の恵みがあり、どのような危険が潜むのか、について基本的な知識と考え方を身に付けられるようにします。また、それらの各事項について現在世界の最先端でどのような研究がなされているのかについて学びます。また、これから社会に出ていくうえで必要な知識や技能を習得できるよう、応用事例について学びます。学習の成果は期末の小論文に反映させられるようにしたいと思います。

【授業の進め方と方法】

授業の約 2/3 の時間を図や写真を多用した講義に使い後半 1/3 の時間は、キーワードについて、1) 質問を受け付け、2) 適宜受講生を指名して説明を求め、3) 可能ならばグループディスカッションを行います。また、期末近くには各人が気に入ったキーワードを選択し、それについて小論文を書いてもらいます。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	地球	宇宙の中の地球/大気と水の星としての地球/生命に満ち溢れた星としての地球/地球史概説/地球の内部構造
第 2 回	地形学への招待	地形とは/変化する地形/地形のスケール/地球規模で見た地形/地形変化に係る 3 作用 (外的作用・内的作用・生物的作用)/第四紀の環境変動/地形発達史/人間と地形
第 3 回	太陽エネルギーと地球 (その 1) 風化作用	地形変化の基本過程としての風化作用/風化作用の種類 (物理的・化学的・生物的)/風化作用の計測/現地球上における風化作用/カルスト地形
第 4 回	太陽エネルギーと地球 (その 2) マス・ムーブメント	マス・ムーブメントとは? /重力による地形変化/マス・ムーブメントの意味/マス・ムーブメントのメカニズム/マス・ムーブメントの種類/マス・ムーブメントによって作られる地形/マス・ムーブメントの発生場/地形や地質から過去のマス・ムーブメントを読み取る/マス・ムーブメントがもたらす豊饒/マス・ムーブメントの危険とそれを選けるには
第 5 回	太陽エネルギーと地球 (その 3) 河川による侵食	世界の河川 (湿潤地域/乾燥地域/大陸/島)/河川の働き/河川を作る地形概要 (侵食域・堆積域)/河川の形成 (水系の発達)/侵食の様式 (谷の形態と場)
第 6 回	太陽エネルギーと地球 (その 4) 河川による堆積作用	河川による堆積の場/堆積低地の形成/河川の環境と微地形・河道形態/河川と堆積環境 (扇状地・網状流/蛇行河川/アナストモーゼング河川)/堆積平野の微地形/河成段丘/河川災害/河川と暮らす
第 7 回	太陽エネルギーと地球 (その 5) 海岸における作用	波の物理的性質/波の作用/沿岸における波の種類/底質と波の作用 (砂浜海岸/岩石海岸)/砂浜海岸の微地形/岩石海岸の微地形/河川河口部の地形/海成段丘/生物にとつての海岸/人為による海岸変化/海岸保全と海岸管理
第 8 回	太陽エネルギーと地球 (その 6) 風が作る地形	世界の風/風成地形卓越地域概観/乾燥地帯と風成地形/海岸と風成地形/砂丘の諸形態/レス/日本のローム層/レス層序学/地形形成年代指標としての風成層
第 9 回	太陽エネルギーと地球 (その 7) 周水河地形	周水河作用・環境とは/現在の周水河地域/各種の周水河現象/化石周水河地形・現象/周水河作用と災害/地球環境変化の中の周水河作用

第 10 回	太陽エネルギーと地球 (その 8) 氷河地形	氷河とは/世界の氷河/大陸氷床と山岳氷河/氷河の流動/氷河地形/化石氷河地形/日本の氷河と氷河地形/氷河の動態を探る/氷河時代/氷河湖/地球環境変化の中での氷河
第 11 回	生物の働きと地球 (その 1) 生物による地形形成	生物の働き/サンゴとその生態/サンゴ礁/資源としての石灰岩/生物風化/日本のサンゴ礁/サンゴ礁が地球環境に果たす役割/地球環境変化の中でのサンゴ礁
第 12 回	生物の働きと地形 (その 2) 人工地形	地球史の中の人類/人類史概説/地球環境へのインパクト/人工地形の例/人工地形と災害/地球環境と折よく暮らすには
第 13 回	小論文出題/世界の絶景	小論文のキーワード/キーワードは受講生が各自選択/絶景写真のスライドショー/日本の地形と地質
第 14 回	応用地形学への招待	応用地形学とは/応用地形学の目的/応用地形学の成果/自然と人間のより良い関係のために応用地形学が目指すもの/応用地形学で働くには

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の基本文献はすべて講義の中で紹介され、必要なものから順次独学できるようにします。また、進学や実務家になることを希望する人は、講義の中で紹介される文献を全部読むよう心がけます。予習は必要ありませんが、復習やさらに深く学ぶために必要な文献は講義などで紹介されます。

特に小論文では高い論文作成能力が求められるので、執筆に必要な資料はすべて通読することが求められます。

第 1 回：高校地学とは異なる、現在の地球観について語られます。

第 2 回：地形学の基本を網羅した教科書をもとに復習します。

第 3 回：最近の成果をまとめた論文誌と、古典的な教科書をともに使って復習します。

第 4 回：最近の土砂災害の事例を対象として復習できるように資料を紹介しします。

第 5 回：主に最近の研究事例をもとに世界の河川の侵食作用や土砂運搬などについて復習します。

第 6 回：最近の洪水災害を事例として、平野の地形について復習します。

第 7 回：河川管理と砂浜海岸の侵食・堆積について日本の事例をもとに復習します。

第 8 回：砂丘を固定するために人間が行ってきたことについて歴史事例をもとに復習します。

第 9 回：地球温暖化などの気候変化に伴って周氷河環境がどのように変化するかをいろいろな資料を基に考察します。

第 10 回：氷河の減少に伴って生じうる災害について資料を基に考察します。

第 11 回：サンゴ礁が地球環境や沿岸海域の生態系にどのお湯に寄与してきたかを考えます。

第 12 回：もし自分が応用地学の専門家として働くことになったなら、どのような人工地形改変を推進・許容するか、何を止めるべきかについて考えます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を使って講義します。

教科書は指定しません。

【参考書】

「日本の地形・特質と由来-」貝塚爽平、岩波書店、1977 年、amazon で 130 円より (可能なら購読を勧めます)

「日本列島の地形学」太田陽子ほか、東京大学出版会、2010、4860 円 (購読をお勧めします)

「世界の地形」貝塚爽平、東京大学出版会、1997 年、amazon で 4977 円より (借りて読むことを勧めます)

「ダイナミックな地形」大森聡一・鳥海光弘、放送大学教材、2016、3780 円 (テキスト作成の参考資料として使います)

「『地形変化の科学-風化と侵食-」松倉公憲、朝倉書店、2008 年、6264 円、(借りて読むことをお勧めします)

「変化する日本の海岸-最終間氷期から現在まで-」小池一之・太田陽子、古今書院、amazon で 1368 円から、(借りて読むことをお勧めします)

「建設技術者のための地形図読解入門第 1 巻読図の基礎」鈴木隆介、古今書院、1997 年、4536 円 (応用地形学の技術者・研究者を目指す方にお勧めします)

「Fundamentals of Geomorphology fourthe edition」Huggett, R. J. Routledge,2017、9547 円、(研究者を目指す方にお勧めします)

【成績評価の方法と基準】

小論文 80 %、態度・意欲 20 %で評価します

【学生の意見等からの気づき】

適宜学生から授業に対するアンケートを提出してもらい、講義の難易度などの改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用させていただきます。そのほかは、特にありません。

【その他の重要事項】

専門課程として地形学を始めて学ぶ人を対象とする講義を行います。応用地形判読士などの資格試験にも有益な内容を盛り込むことによって、受講者の進路の幅を広げられるような内容としたいと思います。

地形学及び実験Ⅱ

小松原 琢

授業コード：A3419

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが暮らしている地球は、太古から同じ姿であったのではなく、長い歴史の中でさまざまに変化しながら今のような状態になったことを理解します。現在私たちが見ている地形は、長い地球の歴史の上に出来上がった最新の形であり、その古層には今と異なる気候と環境の下で行われてきた「地球の営み」が秘められています。この講義では、主として地球内部の熱エネルギー (内的作用) に起因する地震や火山、さらには大陸の移動といった現象に関する研究成果や、その背景にある基礎的な考え方を学ぶとともに、「荒ぶる地球」と折よく暮らしていくための実践力を習得していきます。

【到達目標】

自然地理学の諸分野のうち、地形学に関する基本的な考え方や研究成果について系統的に学習します。そのため、1) 地球内部はどのようになっているのか、2) 地球内部で何が生じているのか、3) 地球内部の熱によって、地球表面にどのような現象が生じているのか、4) 地震や火山活動に伴って、どこで・どのような現象が・いつあるいはどの程度の頻度で・どのように生じているのか、5) それらに伴ってもたらされる恩恵は何か、6) それらに伴ってもたらされる災害はどのようなものか、7) こうした災害と恵みを同時にもたらす地球の営みとどのように付き合っていけばよいのか、8) そのために地形学を学んだ私たちは、どのようなことをすべきか、といったことを教師と一緒に考えます。また、これから社会に出ていくうえで必要な知識や技能を習得できるよう、応用例について学びます。学習の成果は、期末の小論文に反映させられるようにしたいと思います。

【授業の進め方と方法】

授業の約 2/3 の時間を、図や写真を多用した講義に、後半 1/3 の時間は、キーワードについて、1) 質問を受け付け、2) 適宜受講者を指名して説明を求め、3) 可能ならばグループディスカッションを行います。また、期末近くには各人が気に入ったキーワードを選択し、それについて小論文を書いてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球内部の熱による作用 (その 1) 地球の内部構造	地球内部の構造区分/温度と熱の状態/地球内部の物質と熱の動き/ブルームテクトニクス/ホットスポット
第 2 回	地球内部の熱による作用 (その 2) プレートテクトニクスと大地形 1	移動する大陸/海洋底の古地磁気/極の移動/大陸移動説/プレートテクトニクス/地球上のプレート配置とその運動/プレートと大地形
第 3 回	地球内部の熱による作用 (その 3) プレートテクトニクスと大地形 2	プレート境界の形式/プレート境界の諸様式 (地震・火山・変成作用) /新时期変動帯と古期変動帯/島弧-海溝系/プレート運動と資源
第 4 回	地球内部の熱による作用 (その 4) 断層変位地形	断層とは/断層の種類/活断層とは/活断層と力 (応力)/断層変位地形とその例/活断層地形判読/日本の活断層
第 5 回	地球内部の熱による作用 (その 5) 活断層と地震	活断層と活動性/活断層の活動性と地震の間隔・規模/活断層の活動履歴調査/活断層による地震発生ポテンシャル評価/歴史地震と活断層/活断層と共存するには
第 6 回	地球内部の熱による作用 (その 6) 津波の原理と過去の津波	津波発生のメカニズム/津波の速度と水深/津波が陸地をさかのぼる理由/津波堆積物/古津波研究と海溝型地震の発生間隔/津波ハザードマップ/津波から身を守るには
第 7 回	地球内部の熱による作用 (その 7) 火山の原理と火山地形	火山とは/火山の種類/火山の形成過程と噴火様式/火山の噴火様式と火山地形/火山活動の実態/火山とテフラ/火山ハザードマップ/火山の恵みと脅威
第 8 回	地形発達史 (その 1) 気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動とは/ミランコヴィッチ・サイクル/第四紀の気候変動/気候変動と海水準変動//第四紀の環境変動/古環境の復元/地球環境変化とその将来予測
第 9 回	地形発達史 (その 2) 氷河性海水準変動と海成段丘	海成段丘の形成機構/氷河性海水準変動と沿岸の地形環境変化//現在の海岸地形と氷河性海水準変動/埋没谷と三角州/堆積システムの復元
第 10 回	地形発達史 (その 3) 地震性隆起/歴史時代/地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の形成機構 (復習)/地震性隆起/歴史時代の地震性隆起の事例/地質時代の地震性隆起の事例/旧汀線高度分布と地殻変動/巨大地震による地殻変動/地震前の変動-地震時の変動-余効変動/海溝型巨大地震/大地震と災害

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本を含むアジア、ヨーロッパ、オセアニアの植生分布を紹介し、その成因を気候や地質、地形などから解説する。植生分布は、その地域の気候や地形、地質、土壌などの影響を強く受けて成立したものであり、動物の分布や人間の生活文化なども左右する。そのため、植生のみの話題ではなく、その地域に見られる動物や人間の文化や習慣との関係についても解説する。植生地理学的な見方を養うことを目的とする。

【到達目標】

- （1）世界には様々な植生分布があることを理解すること。
- （2）その地域の気候、地質、地形などから植生分布を考えられるようになること、あるいは植生分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【授業の進め方と方法】

植生地理学を学ぶ上で重要な理論を解説したのち、日本を含む各地域の植生分布の事例、野稈の植物地理について解説する。授業は講義形式のみではなく、観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションを行う。毎回の授業の終わりに、内容に関連した課題の小レポートを作成してもらう。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地でのその成因についてディスカッションしてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか、気候、地質、地形が植生分布に及ぼす要因を解説する。
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道の植生分布の関係	本州にみられる冷温帯林の特徴、世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州の植生分布の関係	これまでの講義内容を野外で確認、東京近郊の植生分布を野外で観察する。
第 5 回	野外実習①	講義内容を野外で確認、基盤岩により規定される植生分布を観察する。
第 6 回	野外実習②	縄文杉の森林の成因を気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生③ 屋久島	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生④ 沖縄島	熱帯林の種類と特徴、フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	アジアの植生⑤ マレーシアとタイ	フィンランドとスコットランドの自然植生、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生① 北欧の植生	イングリッシュガーデンを事例にガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化の関係	南フランス地中海沿岸地域の植生分布と観光地
第 12 回	ヨーロッパの植生③ 南欧の植生	大西洋のガラパゴスといわれるスペイン領カナリア諸島の植生分布を解説する。
第 13 回	ヨーロッパの植生④ 海洋島の植生	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題、温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	オセアニアの植生	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず、毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（出席および小レポート、50 点満点）で評価する。出席および小レポートは、出席率や内容により採点する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

第 11 回	地形発達史 (その 4) 重力テクトニクスによる地殻変動	重力テクトニクスとは/氷河性アイソタシーによる海岸隆起/現在の海岸地形と氷河性海水準変動 (復習)/重力による堆積盆地の沈降/重力と内的作用の複合による山地地形形成
第 12 回	地形発達史 (その 5) 火山灰と地形研究	テフラとは/テフロクロノロジー/テフラによる地形地質編年/日本列島のテフラ/テフラによる火山形成史復元/テフラによる古災害復元
第 13 回	小論文出題/絶景が語る自然史	小論文のキーワード/キーワードは受講生が各自選択/絶景写真のフィルムショー/絶景から読み取る自然史/日本の地形と地質の特徴
第 14 回	地形発達史 (その 6) 年代測定と地形研究	地形発達史研究における年代測定の意義/主な年代測定法/その適用性/地形層序学・地質学と地形発達史/環境指標としての地形学/災害復元と地形学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の基本文献はすべて授業の中で紹介され、必要なものから順次独学できるようにします。また、進学や実務家になることを希望する人は、講義の中で紹介される文献をすべて読むように心がけます。予習は必要ありませんが、さらに深く学ぶために必要な文献は講義の中で紹介されます。特に小論文では高い論文作成能力が求められるので、その執筆に必要な資料はすべて通読する必要があります。第 1 回：地球内部の構造に関する最新の研究成果が紹介されます。第 2 回・第 3 回：地球表層の構造を体系的に明らかにしたプレートテクトニクスの概説書を読んで復習します。第 4 回・第 5 回：活断層と地震に関する概説書を読んで復習します。第 6 回：津波に関する概説書を読んで復習します。第 7 回：火山に関する概説書を読んで復習します。第 8 回・第 9 回：第四紀学に関する専門書を読んで復習します。第 10 回：東日本大震災 (東北地方太平洋沖地震) に関する専門書を読みます。第 11 回：主に海外における最近の研究成果について講義を聞きます。第 12 回：テフロクロノロジーに関する古典的教科書を読んで復習します。第 14 回：第四紀学に関する専門書を読んで復習します。そのほか、地震・火山防災に内て書かれた一般向けの本を読んで学習を深めます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を使って講義します。教科書は指定しません。

【参考書】

「図解プレートテクトニクス入門」木村学・大木勇人、ブルーバックス、2013 年、929 円 (購読をお勧めします)
「活断層」松田時彦、岩波書店、1995 年、amazon で 1 円より (購読をお勧めします)
「巨大地震・巨大津波-東日本大震災の検証-」平田直ほか、朝倉書店、2011 年、2808 円 (借りて読むことをお勧めします)
「火山全景-写真でめぐる世界の火山地形と噴出物-」白尾元理・下司信夫、誠文堂新光社、2017 年、4104 円 (借りて読むことをお勧めします)
「火山灰は語る-火山と平野の自然史-」町田洋、蒼樹書房、1977 年、amazon で 1242 円より (借りて読むことをお勧めします)
「第四紀学」町田洋ほか、朝倉書店、2003 年、7500 円、(専門的に学習したい人に購読をお勧めします)
「Tectonic Geomorphology Second Edition」Burbank and Anderson, Wiley-Blackwell, 2012 年、7329 円 (専門的に深く学びたい人にお勧めします)

【成績評価の方法と基準】

小論文 80 %、態度・意欲 20 %

【学生の意見等からの気づき】

適宜学生から授業に関するアンケートを提出してもらい、講義の難易度などの改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用させていただきます。そのほかは、特にありません。

【その他の重要事項】

専門課程として地形学を始めて学ぶ人を対象とする講義を行います。応用地形判読士などの資格試験にも有益な内容を盛り込むことによって、受講者の進路の幅を広げられるような内容としたいと思います。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。
野外実習①と②は、5 月中旬に 2 回連続で行う。

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では様々な土壌分布を紹介し、その成因を気候や地質、地形、植生などから解説する。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも関係するといえる。そのため、生物・土壌地理学及び実験Ⅰ（植生地理学）と同様に土壌だけではなく、それに関わる様々な事柄についても併せて解説していく。土壌地理学的な見方を養うことを目的にする。

【到達目標】

- ①土壌地理学についての基礎知識を身に着ける
- ②土壌の必要性について考えられるようになる
- ③土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- ④土壌に関する環境問題を理解して解決策を考えられるようになる

【授業の進め方と方法】

前半は土壌地理学の基礎を解説し、実際に土壌の必要性について考えてもらう。後半は、世界の土壌分布や日本の土壌分布を解説するほか、植物との関係などについて取り扱う。授業は講義形式のみではなく、実際に観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションをしてもらう。野外実習は、授業で紹介した事柄を実際に野外で観察し、現地でその成因について考えてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成、異なる生成段階の土壌を室内で観察する。
第 4 回	土壌とは何か③	土壌の機能。
第 5 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法を解説する。
第 6 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯、亜高山帯地域にみられる土壌分布を解説する。
第 7 回	土壌の分布③	日本列島の冷温帯、暖温帯地域にみられる土壌分布を解説する。
第 8 回	日本の土壌④	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布を解説する。
第 9 回	野外実習	講義内容を野外で確認、東京近郊の土壌分布を観察する。
第 10 回	土壌と植物	土壌と植生分布との関係、特殊な土壌地域にみられる植生分布を解説する。
第 11 回	土壌と農業①	畑地、水田、果樹園、施設など耕作地にみられる土壌の特徴を解説する。
第 12 回	土壌と農業②	土壌の診断実験、室内で簡単にできる土壌状態を知るための方法を解説する。
第 13 回	土壌と農業③	土壌と有機農業との関係。
第 14 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業と土壌の関係。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと、必要に応じて予習復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a （出席および小レポート等、50 点満点）で評価する。出席および小レポート等は、出席率や内容により採点する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に出題して終了までに提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。
野外実習：11 月中旬に東京近郊で予定する。

気候・気象学及び実験Ⅰ

山口 隆子

授業コード：A3422

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の主要な専門科目の一つである気候学・気象学について、気候学・気象学の基礎知識、日本の気候、身近な気候を対象に体系的に学ぶ。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。出席者にはその都度プリントを配布する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを利用する。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版, pp1 - 261.
仁科淳司（2014）：『やさしい気候学 第3版』。古今書院, pp1 - 141.
小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会, pp1 - 320.

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（Ⅰ）」を受講する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め1年生に開講されている「地学実験」（気候・気象）を履修していることが望ましい。

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の主要な専門科目の一つである気候学・気象学について、世界の気候を対象に体系的に学ぶ。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになる。

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。出席者にはその都度プリントを配布する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 2 回	世界の気圧分布と地上風系	大気大循環、偏西風
第 3 回	モンスーン	季節風
第 4 回	世界の海流	風成循環と熱塩循環
第 5 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 6 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 7 回	世界の気候区分	ケッペンの気候区分
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	酸性雨	大気汚染
第 11 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 12 回	気候変動	第四紀の気候変化
第 13 回	古気候	歴史時代以降の気候変化
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを利用する。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版, pp1 - 261.
仁科淳司（2014）：『やさしい気候学 第3版』。古今書院, pp1 - 141.
小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会, pp1 - 320.

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70 % 課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（Ⅰ）」を受講する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺 浩二

授業コード：A3424

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第2回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第3回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第4回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第5回	雪水の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第6回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第7回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第8回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第9回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第10回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第11回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第12回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第13回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第14回	調査結果の考察	GISを用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。

【参考書】

授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席3割・課題4割・試験3割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1）水循環に伴う物質循環
- 2）人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3）GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第2回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第3回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第6回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第7回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第8回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第9回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第10回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第11回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第12回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全磷
第13回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第14回	総合的な解析・考察	GISによる分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，¥2,625
・新井 正（1994）：『水環境調査の基辞』，古今書院，168p，¥2,625。

【参考書】

授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験3割、課題4割、試験3割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が強かったため、今年度は、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして、どのようなモノが資源として利活用されているのか、そしてその利活用にどのような問題があるのかを考えます。

【到達目標】

本授業を通じて、地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また、それらの様々な資源が社会経済的にどのように利活用されているのかを把握し、その有効性や問題点を考察することで、地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で、自然環境や文化、歴史、景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして、それらの事象の有効性や問題点を考察し、地域の今後の動向について考えます。

講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業内ならびに授業外で課題を課します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地域の資源とは？	講義の方針・進め方について／自然環境・文化・歴史・景観など
第 2 回	地域の現状①	自然環境の変化
第 3 回	地域の現状②	農村地域における問題点
第 4 回	地域の現状③	地方都市における問題点
第 5 回	地域と産業①	「衣」に関する地場産業
第 6 回	地域と産業②	「食」に関する地場産業
第 7 回	地域と産業③	「住」に関する地場産業
第 8 回	地域の活性化①	「景観」を活かしたまちおこし
第 9 回	地域の活性化②	「文化」「歴史」を活かしたまちおこし
第 10 回	地域の活性化③	「食」を活かしたまちおこし
第 11 回	地域と観光①	自然環境・風土の観光利用（グリーン・ツーリズム）
第 12 回	地域と観光②	自然環境・風土の観光利用（エコ・ツーリズム、ジオパーク）
第 13 回	地域と観光③	施設・作品の観光利用
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示する課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外の課題では、簡単な調査を行ってもらいます。

また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・石川義孝・井上 孝・田原裕子編（2011）：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。
- ・伊藤喜栄・藤塚吉浩編（2008）：『図説 21 世紀日本の地域問題』古今書院。
- ・伊藤 実（2011）：『成功する地域資源活用ビジネス―農山漁村の仕事おこし―』学芸出版社。
- ・大野 晃（2008）：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター。
- ・片柳 勉・小松陽介編著（2013）：『地域資源とまちづくり―地理学の視点から―』古今書院。
- ・加藤正明（2010）：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP 研究所。
- ・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編（2011）：『都市と農村―交流から協働へ―』日本経済評論社。
- ・藤塚吉浩・高柳長直編（2016）：『図説 日本の都市問題』古今書院。
- ・矢作 弘・小泉秀樹編（2005）：『シリーズ都市再生 3 定住型都市への模索―地方都市の苦闘―』日本経済評論社。
- ・『日本の地誌 1～10』朝倉書店。 など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %、期末試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題にはローカルな問題、グローバルな問題が存在します。本講義ではローカルな環境問題（地域環境問題）、具体的にはダム・河口堰問題、水辺の環境問題、ゴミ問題等を取り上げます。その上で政治・行政に求められる役割、市民運動の活性化、企業の社会貢献について考え、最後に地域環境政策に求められる課題を考えます。

【到達目標】

環境問題に横たわる政治・経済・社会的要因の理解と、実際に活動する上でのリアリティの確保をめざし、実践的課題への取り組みの第一歩を踏み出すことを目標とします。テーマは「環境問題を考えることのできる市民意識の育成」です。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。テーマに関連したDVD等視聴覚教材を使用して問題に関する理解を深めます。授業内容の理解度を把握するために、毎回、授業の意見・感想用紙を提出してもらい、重要と思える意見・質問については次の講義で紹介し、説明を加えます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義内容の説明
第 2 回	ローカルな環境問題、グローバルな環境問題	環境問題の類型化を行う
第 3 回	地域環境問題とはなにか	地域レベルで発生する環境問題の内容について明らかにする
第 4 回	4 大公害と環境政策の形成	公害の歴史と環境政策の変遷を明らかにする
第 5 回	ダムと河口堰問題	長良川河口堰問題から現在にかけての水問題を解説する
第 6 回	水辺環境の保全 (1)	河童伝説を通じた水辺環境保全運動を紹介する
第 7 回	水辺環境の保全 (2)	鮭と地域経済について解説する
第 8 回	水辺環境の保全 (3)	カブトガニの保全を通じた環境保全の意義について考える
第 9 回	ゴミとは何か	ゴミの定義を行う
第 10 回	ゴミ問題とは何か	ゴミが問題とされる内容について考える
第 11 回	リサイクル活動の意義と限界	リサイクル活動の意義と限界について考える
第 12 回	政治・行政の役割	ゴミ問題に関わって設定された政策・法律について考える
第 13 回	市民運動の活性化	ゴミ問題の解決に向けての市民の役割について考える
第 14 回	企業の社会貢献活動	持続可能社会の構築に向けての企業の役割について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前の準備としては、より積極的に環境問題の文献を読み、授業内容に関する知識の深化に努める。授業後の行為としては、より実践的に現実問題に近づき、関わることによって、授業内容を机上の空論とせず、現実問題の中で考えることができるようにする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

- 鳥越皓之、帯谷博明編（2009）『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房
- 栗山浩一（2008）『最新環境経済学の基本と仕組みがよくわかる本』秀和システム
- 加藤尚武（2005）『新・環境倫理学のすすめ』丸善 等

【成績評価の方法と基準】

定期試験で 100 % 評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】

よりテンポよくわかりやすい授業を目指します。学生には積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

半期の講義の中で 1～2 度、DVD・ビデオ・パワーポイント等視聴覚教材を使用する予定です。

社会経済地理学（3）

片岡 義晴

授業コード：A3428

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「山村」を対象にして、その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】

山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくり、などに焦点を当て、現段階の「山村」が抱える問題点について多面的に学んでいきます。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。

【授業の方法】

講義形式で授業を進めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第 3 回	過疎化の進展と山村振興策 (1)	過疎化の進展過程
第 4 回	日本の山村の現局面 (3)	山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 5 回	過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 6 回	限界集落・消滅集落 (1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第 7 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 8 回	地方消滅論	地方消滅は本当か？
第 9 回	山村の産業 (1)	日本林業の動向
第 10 回	山村の産業 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 11 回	山村の産業 (3)	中山間地域農業の現状
第 12 回	山村の産業 (4)	中山間地域等直接支払制度
第 13 回	地域づくり (1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第 14 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を越えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述式試験）100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはずです。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずですよ。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽 正昭

授業コード：A3481

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目指とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得してもらうことを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光の要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望 —ヨーロッパアルプスのジオツーリズム	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、ヨーロッパアルプスの事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム (1) —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム (2) —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム (3) —リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第 14 回	日本のルール・ツーリズム —ルール・ツーリズムの地域的展開	ルール・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。

(財)日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ビアス、D. 著、内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また、毎時間提出してもらったアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするパークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。毎回、講義内容に関連する資料をプリント教材にして配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史 (1)	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史 (2)	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史 (3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史 (4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果 (100%) により成績を評価する。なお、ここ数年、出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 % (昨年までは 80 %と書いていたものだった！) にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の本流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の本流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる **Cultural Turn**(文化論的転回) を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relpf と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解説
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに **A-4** サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果（100%）により成績を評価する。なお、ここ数年、出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 %（昨年度までは 80 %と書いていたものだった！）にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

地理学史 (1)

中俣 均

授業コード：A3484

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、**A.Humboldt** 以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】

近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどこいったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいくつかの人物や業績について、適宜具体的に取り上げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになるう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントンの気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relpf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとするここと。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しない。

【参考書】

◎杉浦芳夫 (1999)：『地理学の歴史 歴史の地理学。』
『AERA MOOK 地理学がわかる』（朝日新聞社）
◎手塚章 (1988)：『地理学の伝統と革新。』
中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1 地理学への招待』（古今書院）
◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史 人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する（100%）。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心にできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

自然地理学演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3434
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3 年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4 年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにある。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標である。

【授業の進め方と方法】

3 年生を中心に運営していく予定である。4 年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3 年生にアドバイスをすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととする。具体的な運営方法は、第 1 回目のゼミで話し合う予定である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間のゼミ運営について説明・決定
第 2 回	卒論構想発表	4 年生の卒論構想発表
第 3 回	卒論構想発表	4 年生の卒論構想発表
第 4 回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第 5 回	学生論文紹介	3 年生 3 名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 6 回	学生論文紹介	3 年生 3 名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 7 回	学生論文紹介	3 年生 3 名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 8 回	学生論文紹介	3 年生 3 名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 9 回	学生論文紹介	3 年生 3 名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 10 回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第 11 回	卒論中間発表	4 年生の卒論中間発表
第 12 回	卒論中間発表	4 年生の卒論中間発表
第 13 回	卒論中間発表	4 年生の卒論中間発表
第 14 回	グループワーク	グループごとに観測準備

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	グループワーク	グループごとに観測データ整理
第 16 回	グループディスカッション	課題に対するディスカッションを行い、発表する。
第 17 回	卒論構想発表	3 年生の卒論構想発表
第 18 回	卒論構想発表	3 年生の卒論構想発表
第 19 回	卒論構想発表	3 年生の卒論構想発表
第 20 回	卒論構想発表	3 年生の卒論構想発表
第 21 回	卒論構想発表	3 年生の卒論構想発表
第 22 回	グループディスカッション	課題に対するディスカッションを行い、発表する。
第 23 回	グループワーク	グループごとに調査・検討
第 24 回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第 25 回	卒論最終発表	4 年生の卒論発表
第 26 回	卒論最終発表	4 年生の卒論発表
第 27 回	卒論最終発表	4 年生の卒論発表
第 28 回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2 週間前までに論文を決定・提出すること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』古今書院、120 p.

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30 %）、「討論への参加と応答」（30 %）、「発表内容」（40 %）などを重視する。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクター

自然地理学演習（2）

小寺 浩二

授業コード：A3435
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自然地理学」に関する調査・研究を行う基本的な能力を総合的に養う。特に、各地で顕在化している水環境にかかわる課題に取り組む上で必要な水環境データの考察手法について習熟し、その手法、解釈・考察に関しても学ぶ。

一方、地理空間情報解析を唯一重点的に扱うゼミとして、自然地理学・人文地理学の分野にかかわらず、GIS を用いた地理学諸分野の研究についての基礎と応用についても学ぶ。

【到達目標】

水環境を中心とした自然地理学の基礎知識と調査・研究の基礎能力を修得する。

地理空間情報解析についても、基礎的な知識を身につけ、GIS を自由に活用できる能力を育成する。

【授業の進め方と方法】

「海洋・陸水学及び実験Ⅰ、Ⅱ」の講義内容に沿った具体的な課題に対する演習を中心とするが、環境問題に関わる異分野の文献も取り上げる。また、研究テーマ選定から、現地調査により得られる観測データに基づき、解析と図化の方法などの課題を通じて、研究遂行上必要な基本的能力の修得を目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要と計画	ゼミの概要と年間計画
第 2 回	様々な水環境問題	3 分間スピーチ
第 3 回	研究・調査法	研究手法調査と方法論
第 4 回	先行研究と課題	該当課題の概略理解
第 5 回	現地調査法	機材の整備と準備
第 6 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 7 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 8 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 9 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 10 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 11 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 12 回	分析結果表現③	複合表現
第 13 回	水文誌	水環境情報の整理
第 14 回	地域特性解析	複合的な情報解析

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	まとめと課題	春学期の反省と秋学期計画
第 16 回	夏期休暇活動報告	休暇中の研究報告
第 17 回	秋学期の課題と展望	研究結果中間報告
第 18 回	研究・調査計画	研究・調査方法修正
第 19 回	先行研究と課題	該当課題理解を深める
第 20 回	現地調査法	新調査法開発
第 21 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 22 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 23 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 24 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 25 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 26 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 27 回	分析結果表現③	複合表現
第 28 回	水文誌	水環境情報整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然環境・水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】

課題・テーマに沿った発表を中心とするので、テキストは使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と最終的なゼミ論によって評価を実施する。調査地域の水環境を事前に文献で調査し、与えられた課題についての文献調査結果をとりまとめ発表し、討論に参加することを期待する。平常点 50%、ゼミ論 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

水環境分野に限らず、環境にかかわる幅広い分野に対応するように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いる。

【その他の重要事項】

受講に際しては、「地学実験」、「海洋・陸水学」及び「地理情報システム（GIS）」の履修を原則とするが、本分野で卒論を書かない学生（4年生含む）の履修も歓迎する。

様々な分野の研究事例を学ぶことで、調査・研究の遂行上必要な基礎知識・データ管理・処理方法などの修得が可能である。異分野専攻の学生にも実感してもらいたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1）水循環に伴う物質循環
- 2）人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

自然地理学演習（3）

宍倉 正展

授業コード：A3436

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【授業の進め方と方法】

ゼミは 3 年生を中心に運営して行く予定である。4 年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第 1 回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間のゼミ運営について議論・説明する
第 2 回	教員研究紹介	教員が行っている研究をダイジェストで紹介する
第 3 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 4 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 5 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 6 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 7 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 8 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 9 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 10 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 11 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 12 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第 13 回	卒論中間発表	4 年生の卒論中間発表（合宿形式にする可能性あり）
第 14 回	卒論中間発表	4 年生の卒論中間発表（合宿形式にする可能性あり）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する。
第 16 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 17 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 18 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 19 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 20 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 21 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 22 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 23 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 24 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 25 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 26 回	学生文献発表	2 名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に雑誌論文を読む。
第 27 回	3 年生卒論構想発表	卒論に向けたプレゼンテーション
第 28 回	3 年生卒論構想発表	卒論に向けたプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。

【テキスト（教科書）】
授業で指示する。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%
発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず 1/3 以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、プロジェクター

人文地理学演習（1）

片岡 義晴

授業コード：A3437
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「本を読みこなす」ことを目標にします。

【到達目標】
本に「読まれる」のではなく、「批判的」かつ「客観的」に本を読むことができるようにしていきます。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
「本を読みこなす」ことは難しいことです。私自身も自信がありません。しかし、皆さんと一緒に本を「読みこなせる」ように努力していきたいと思えます。参加者をいくつかの班に編制して、班内・班間で議論していくつもりです。地域問題、社会問題に関する本を読んでいます。

【授業の方法】
参加者を 4～5 名程度に班編制します。毎回順番にどこか 1 つの班が報告班となって、報告班は要約とキーワード、質問をプリントして全員に配布します。それ以外の班はキーワード、質問をプリントして、これも全員に配布します。それらを踏まえて議論していきます。
4 年生対象に 6 時限目のゼミを、2017 年度同様に設けます。

【授業計画】		
春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の説明、ゼミ参加の意思確認
第 2 回	班編制	ゼミ参加者の確定、班編制
第 3 回	第 1 回テキスト選定	テキスト選定
第 4 回	輪読と討論 (1)	ディスカッションの仕方の説明
第 5 回	輪読と討論 (2)	テキストの概要説明
第 6 回	輪読と討論 (3)	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論 (4)	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論 (5)	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論 (6)	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論 (7)	まとめ
第 11 回	4 年生、卒論構想発表 (1)	4 年生の卒論構想発表 (1)
第 12 回	4 年生、卒論構想発表 (2)	4 年生の卒論構想発表 (2)
第 13 回	第 2 回テキスト選定	テキスト選定
第 14 回	輪読と討論 (1)	テキストの概要説明
秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	輪読と討論 (2)	ディスカッション
第 16 回	輪読と討論 (3)	ディスカッション
第 17 回	輪読と討論 (4)	ディスカッション
第 18 回	輪読と討論 (5)	ディスカッション
第 19 回	輪読と討論 (6)	まとめ
第 20 回	第 3 回テキスト選定	テキスト選定
第 21 回	輪読と討論 (1)	テキストの概要説明
第 22 回	輪読と討論 (2)	ディスカッション
第 23 回	輪読と討論 (3)	ディスカッション
第 24 回	輪読と討論 (4)	ディスカッション
第 25 回	輪読と討論 (5)	ディスカッション
第 26 回	輪読と討論 (6)	まとめ
第 27 回	3 年生、卒論構想 (1)	3 年生の卒論構想発表 (1)
第 28 回	3 年生、卒論構想 (2)	3 年生の卒論構想発表 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本当に「理解」ということは、読むだけ、聞くだけでは達成できません。自らの意見を発表し、相手を説得する技術を身につけることも重要です。それは同時に、相手の意見を正確に理解することなくしては達成できません。テキストを正確に把握し、それへの賛同、批判を説得的に表明できるようにするためには幅広い知識が必要になります。一見、地理学的でない現象についての知識を、書籍からだけでなく報道等からも積極的に収集して下さい。さて今年度は、ゼミの進め方に変更を加えようと思っています。4 年生の卒論は、夏前にテーマの最終決定、10 月までの調査終了、11 月には下書き作成を求めようと思っております。3 年生にも卒論仮テーマの検討を求めるつもりです。そのつもりで受講して下さい。秋学期以降は 2017 年度同様に地理学の論文を読み、発表することを求めます。ただし 2 回転するはずですが。

【テキスト（教科書）】
1 年間（春学期と秋学期の前半）で本を 2 冊読む予定ですが、テーマ等についてはそれぞれ相談して決めます。

【参考書】
とりあえず大門正克（2017）『語る歴史、聞く歴史－オーラル・ヒストリー－の現場から』岩波新書を挙げておきます。その他、授業時に指示します。

人文地理学演習（2）

中俣 均

授業コード：A3438

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミで体得すべきことは、

- ① 書物や論文を「批判的に」読みこなす
- ② 発表の際のレジュメを「説得的に」書く
- ③ 特定のテーマを特定の場で発表（プレゼンテーション）しそれについて「生産的に」議論するの 3 点である。したがって、必然的に「出席なくして発言なし、発言なくして議論なし、議論なくして単位なし」ということになる。とくに肩肘はらずにフランクに、しかし節度を守って活発に議論するという習慣を身につけることを重視したい。議論に加わることは最初はなかなか勇気のいることかもしれないが、自分で自分の殻を破って活発に発言できるよう、ぜひとめてほしい、そうした過程を経てこそ、お互いに真の意味での学友となり得ると考えるからである。

【到達目標】

上記①～③に習熟すること。特に、①と③を具体的目標として強調しておく。また 4 年生にとってはきちんとした卒業論文を執筆するための準備をこの授業を通じて行なうことが大きな目標である。

【授業の進め方と方法】

授業担当者の専攻の関係から、主に文化地理学に属する領域への関心を中軸としたテーマを掲げて、書物や論文の「読み方」および読んだ内容の「発表のしかた」を学ぶ。2016 年度は、前年度に引き続いて、布野修司 (2015)『景観の作法』（京都大学出版会）を共通テキストとして使用した。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	参加者の確定など
第 2 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (1)	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (1)
第 3 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (2)	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (2)
第 4 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (3)	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (3)
第 5 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (4)	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (4)
第 6 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (5)	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (5)
第 7 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング (6)	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (6)
第 8 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (1)	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (1)
第 9 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (2)	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (2)
第 10 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (3)	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (3)
第 11 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (4)	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (4)
第 12 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (5)	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (5)
第 13 回	参加者全体での議論 (1)	共通テキスト読解と報告・議論 (1)
第 14 回	参加者全体での議論 (5)	共通テキスト読解と報告・議論 (2)
秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	参加者全体での議論 (3)	共通テキスト読解と報告・議論 (3)
第 16 回	参加者全体での議論 (4)	共通テキスト読解と報告・議論 (4)
第 17 回	参加者全体での議論 (5)	共通テキスト読解と報告・議論 (5)
第 18 回	参加者全体での議論 (6)	共通テキスト読解と報告・議論 (6)
第 19 回	参加者全体での議論 (7)	共通テキスト読解と報告・議論 (7)
第 20 回	参加者全体での議論 (8)	共通テキスト読解と報告・議論 (8)
第 21 回	卒業論文作成に向けた共同指導 II (1)	4 年生の卒論最終中間発表 (1)
第 22 回	卒業論文作成に向けた共同指導 II (2)	4 年生の卒論最終中間発表 (2)
第 23 回	卒業論文作成に向けた共同指導 II (3)	4 年生の卒論最終中間発表 (3)
第 24 回	卒業論文作成に向けた共同指導 II (4)	4 年生の卒論最終中間発表 (4)
第 25 回	卒業論文作成に向けた共同指導 (5)	4 年生の卒論最終中間発表 (5)
第 26 回	参加者全体での議論の総まとめ (1)	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (1)
第 27 回	参加者全体での議論の総まとめ (2)	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (2)
第 28 回	参加者全体での議論の総まとめ (3)	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (3)

【成績評価の方法と基準】

使用テキストの内容をつかむことはもちろんですが、ディスカッションの仕方を学ぶことも重要です。そのためにはコンスタントな出席が必要です。発表の仕方、その内容、ディスカッションへの参加の程度、出席状況、それらを総合的に判断して成績評価します。要するに平常点 100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者すべての関心を引くようなテーマの本を選択したいのですが、これは難しい問題です。受講生の皆さんすべての興味を充たすことは難しく、悩んでいます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

主として 4 年生を対象にした卒論だけに特化したゼミを別途、実施（秋学期）するつもりです（火曜日 6 時限目を予定）。4 年生の卒論予定の学生は出席が望まれます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

所定の時間内では議論が収束しないこともしばしばある。そうした場合にはサブゼミ的な時間（毎週の本ゼミ直後の時間帯）を設けるので、学生同士で主体的に議論を深化させてほしい。また、上記と同じ趣旨で、年に1回、ゼミ合宿を実施するので、費用の工面などあらかじめ準備をして、できるだけ参加してほしい。

【テキスト（教科書）】

第一四半期の論文読解トレーニングの材料は、自分で担当する文献のコピーをとってもらう（費用は不要）。第三四半期のテキストは、参加者と相談しながら決める。ただし年間数千円程度をテキスト購入等に充てる覚悟が必要である。月額にすれば、たいした数字ではあるまい。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

基本的には平常点（100％）で評価される。ただし、その「平常」には、上述のように、課せられた発表と議論とが含まれる。毎時間教室に顔を出していることは大前提だが、ただ教室にやってきて黙って座ってさえいれば、単位が得られるというものではない。まして、「アルバイト」などは無論のこと、就職活動云々を理由にしての、授業への欠席は基本的に認めない（これについては担当者に考えがある）ので、とくに4年生はそのことをよく理解したうえで、登録を考えてほしい。（年度末になって単位を、と泣きつかれても無駄である。）また、孤独を好み議論を嫌うものも（個人的にはその趣味を理解しないわけではないが）上記のような理由で、登録は遠慮されたい。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの学生に発表と議論の機会を保障するようこころがけたい。また参加者はそうした機会を利用しての主体的な学習を心がけてほしい。

人文地理学演習（3）

小原 文明

授業コード：A3439

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

上記のように、本授業を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4年生には適切な問題意識、課題設定、知識（地理学・関連学問）、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて、4年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【授業の進め方と方法】

●本授業はゼミ形式で行います。上記のように3年生と4年生とでは到達目標が異なることから、2つのゼミに分けて（木5：3年生用、木6：4年生用）演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日5時限目に受講登録をして下さい。

●3年生用ゼミでは、春学期には学術書の講読、各自が関心のある学術論文の紹介、研究における方法論についての概観、秋学期には調査方法や分析方法の検討、グループによる地域調査および現地案内、卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。

●4年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春秋学期ともに3回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。

●また、3・4年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。

●なお、4月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので、必ず出席するようにしてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	3年生：ガイダンス 4年生：ガイダンス	3年生：ゼミの進め方の説明 4年生：ゼミの進め方の説明
第2回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：グループワークのテーマ決定 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第3回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第4回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第5回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表1回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第6回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第7回	3年生：学術書の講読 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：講読・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第8回	3年生：グループワークの作業 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：調査の準備 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第9回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表2回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第10回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第11回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第12回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第13回	3年生：学術論文の紹介 4年生：卒論中間発表3回目	3年生：文献紹介のプレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表
第14回	3年生：グループワークの作業 4年生：総合討論	3年生：調査の準備 4年生：卒論研究に関する意見交換

秋学期 回	テーマ	内容
第 15 回	3 年生：グループワーク の作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 16 回	3 年生：グループワーク の作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 17 回	3 年生：人文地理学の調 査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 18 回	3 年生：人文地理学の調 査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 19 回	3 年生：人文地理学の調 査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 20 回	3 年生：人文地理学の調 査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 21 回	3 年生：グループワーク の作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 22 回	3 年生：グループワーク の作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 23 回	3 年生：卒論構想・テマ 発表 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 24 回	3 年生：卒論構想・テマ 発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 25 回	3 年生：卒論構想・テマ 発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 26 回	3 年生：卒論構想・テマ 発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 27 回	3 年生：グループワーク の作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 28 回	3 年生：グループワーク の作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社。

→ 本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。

●「卒業論文について」Ver. 3.7（法政大学文学部地理学科発行）

●学術書の講読（2・3 年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果：60 %、討論：40 %で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

人文地理学演習（4）

伊藤 達也

授業コード：A3440

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生は卒業論文を作成します。3 年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】

4 年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3 年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4 年生と 3 年生一緒にゼミ実施を前提とします。4 年生は前期 3 回、後期 2 回の発表を行い、卒論制作に備えます。2 月下旬には学科卒論発表会を行います。3 年生は本や論文の講読と地域調査を行います。

【授業計画】

春学期 回	テーマ	内容
第 1 回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます
第 2 回	文献検索法	文献の探し方を学びます
第 3 回	卒論発表 1 回目	4 年生全員がパワーポイントで発表します
第 4 回	卒論発表 2 回目 (1) - テーマの決め方 -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。卒論のテーマの決め方について学びます
第 5 回	卒論発表 2 回目 (2) - 客観性の確保① -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます
第 6 回	卒論発表 2 回目 (3) - 客観性の確保② -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます
第 7 回	卒論発表 2 回目 (4) - 引用の仕方 -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。引用の仕方について学びます
第 8 回	地域調査の準備 (1) - テーマ、フィールド、調査担当の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。テーマ、フィールド、調査担当を決定します
第 9 回	卒論発表 3 回目 (1) - 参考文献の提示 -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。参考文献の提示について学びます
第 10 回	卒論発表 3 回目 (2) - アンケート票の作成① -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます①
第 11 回	卒論発表 3 回目 (3) - アンケート票の作成② -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます②
第 12 回	卒論発表 3 回目 (4) - 統計データ収集 -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。統計データの収集について学びます
第 13 回	地域調査の準備 (2) - 調査内容の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査内容を決定します
第 14 回	地域調査の準備 (3) - 調査の具体的日程の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査の具体的日程を決定します

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後期のゼミガイダンス	4 年生は卒論制作の発表、3 年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします
第 16 回	卒論発表 4 回目 (1) - アンケート票の集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の集計について学びます
第 17 回	卒論発表 4 回目 (2) - 単純集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。単純集計について学びます
第 18 回	卒論発表 4 回目 (3) - クロス集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。クロス集計について学びます
第 19 回	卒論発表 4 回目 (4) - 検定 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。検定について学びます
第 20 回	卒論発表 4 回目 (5) - 報告書のまとめ方 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。報告書のまとめ方について学びます
第 21 回	卒論発表 5 回目 (1) - 漢字とひらがな -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます

第 22 回	卒論発表 5 回目 (2) - 読点 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。読点の使い方について学びます
第 23 回	卒論発表 5 回目 (3) - 段落 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。段落の作り方について学びます
第 24 回	卒論発表 5 回目 (4) - 細かな規則 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。西暦と元号、英数字の半角等について学びます
第 25 回	卒論発表 5 回目 (5) - 表表現 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。表の作成について学びます
第 26 回	卒論の構想発表 (1) - 図表現 -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。図の作成について学びます
第 27 回	卒論の構想発表 (2) - 理論とは① -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論について学びます①
第 28 回	卒論の構想発表 (3) - 理論とは② -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論について学びます②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定すること。4 年生は卒論制作に打ち込むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

山崎 朗ほか（2016）『地域政策』中央経済社
 竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
 藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 富田和暁（2006）『地域と産業（新版）－経済地理学の基礎』原書房
 山本健児（2005）『経済地理学入門新版－地域の経済発展』原書房

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容（50 %）と討論への参加程度（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

人文地理学演習（5）

米家 志乃布

授業コード：A3441

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4 年生は卒業論文作成を中心に行います。担当教員の専門の関係から、歴史地理・観光地理分野の卒業論文の作成ができるように、日本の歴史地理・観光地理の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

【到達目標】

- (1) 学術論文（卒業論文）のテーマを設定し、そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
- (2) グループワークを通して、フィールドワークや議論の方法を学ぶこと。

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループワークを通して、テーマの設定、データの収集、分析、まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメにまとめて発表して議論します。4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	グループの決定、発表順番の決定など
第 2 回	研究テーマの設定について①	人文地理学の学術論文を作成する方法を学ぶ～研究テーマの設定、文献収集の方法
第 3 回	研究テーマの設定について②	人文地理学の学術論文の作成する方法を学ぶ～調査の方法・データの分析
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 6 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 7 回	4 年生による卒業論文の進捗報告④	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 8 回	3 年生による文献購読①	『東京の歴史 第 1 巻』序章・第 1 章を読む
第 9 回	3 年生による文献購読②	『東京の歴史 第 1 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 10 回	3 年生による文献購読③	『東京の歴史 第 2 巻』序章・第 1 章を読む
第 11 回	3 年生による文献購読④	『東京の歴史 第 2 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 12 回	3 年生による文献購読⑤	『東京の歴史 第 3 巻』序章・第 1 章を読む
第 13 回	3 年生による文献購読⑥	『東京の歴史 第 3 巻』第 2 章・第 3 章を読む
第 14 回	夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について	4 年生および 3 年生の発表

回	テーマ	内容
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	夏期休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 19 回	3 年生によるグループワークの発表①	フィールドワークの結果報告
第 20 回	3 年生によるグループワークの発表②	フィールドワークの結果報告
第 21 回	3 年生によるグループワークの発表③	フィールドワークの結果報告
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告④	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告⑤	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークでは、授業時間外の作業が多くなります。図書館での文献調査やレジュメの作成などを授業外で行います。また特に、フィールドワークを必要とするテーマを選んだグループは、必ず、現地に赴き、資料を収集する必要があります。

【テキスト（教科書）】

3 年生のグループワークは「江戸・東京の歴史・観光地理」からテーマと対象地域を選んでもらいます。そのため『東京の歴史』第 1 巻～第 3 巻、吉川弘文館、2017 年をテキストとして読みます。3・4 年生に共通して、人文地理学関係の学術雑誌『人文地理』『歴史地理学』『地理学評論』から、自分の関心にもとづいて、歴史・観光地理関係の論文を選択して読み込む必要があります。各雑誌は、法政大学図書館および地理学事務室に備えてありますので、適宜、各自でコピーして利用してください。

【参考書】

適宜、各自の研究テーマに即して、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）特にグループワークでは、メンバーで協力して、発表をつくりあげるようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文の進捗状況の発表を、3 年生の秋学期から行うことにいたしました。それにより、調査の準備を早くはじめてもらうようにします。

【その他の重要事項】

3,4 年生の 2 学年が履修するゼミのため、正規の時間内では各自の成果発表のみで時間が一杯になります。学生主体のサブゼミを行いますので、そちらにも積極的に参加するようにしてください。

世界地誌（1）

狩野 真規

授業コード：A3443

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この地域の成り立ちや日本との関係性ならびに近年の状況を踏まえつつ、オセアニアの地域的特徴について注目していく。それらを通じて、オセアニア地域の概観や地域の特色について理解する内容とする。

【到達目標】

オセアニア地域における地理的特色を理解するとともに、分布図の見方やその説明のための表現方法などの獲得も目指す。具体的な到達目標としては、オセアニア地誌についてそれらを説明するのに必要なキーワードを交えた説明ができることや、対象地域に関する分布図やグラフから特徴を見出し、その説明ができることなどを目安とする。

【授業の進め方と方法】

基本的に図表などはプリントで配付し、それらをもとに PC を利用した講義とする。また、講義の最後に次回への課題を示し、その内容について次回講義の冒頭にて確認の小テストを実施する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オセアニアの概要	オセアニア地域の範囲を確認しつつ、その概要を紹介する。
第 2 回	オセアニアの歴史	人類の進出とその歴史からオセアニア地域の形成を考える。
第 3 回	オーストラリアの自然環境	オーストラリア大陸の自然環境とその成り立ちについて考える。
第 4 回	オーストラリアの農業	オーストラリアの農業について注目していく。
第 5 回	オーストラリアの鉱物資源	鉱物資源について、その品目などからオーストラリアを見つめる。
第 6 回	オーストラリアの貿易	日本などの他国との関わり方を貿易データなどから考える。
第 7 回	ニュージーランドの自然環境・その 1	ニュージーランドの自然とその成り立ちについて考える。
第 8 回	ニュージーランドの自然環境・その 2	日本と比較しながらその自然環境を考える。
第 9 回	ニュージーランドの農業	貿易などの統計値からその特徴を浮かび上がらせる。
第 10 回	ニュージーランドの産業	観光資源などからかかる国を見つめていく。
第 11 回	島嶼部の自然	洋上国家の自然環境を考える。
第 12 回	洋上国家の成り立ち・その 1	小さな島における歴史からその成り立ちについて考える。
第 13 回	洋上国家の成り立ち・その 2	小さな島における経済からその問題点を探る。
第 14 回	日本との関係性	わが国とかかる地域の関係性とその将来性をみつめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回冒頭にて小テストを実施するので、その準備をすることが予習となり必須となる。それから、オセアニア地域についてまとめられた文献などを日常的に手に取って読んでおくことが理想である。また、高校で地理を履修していなかった場合はできるだけ高等学校の地理 B の教科書を全体的に読んで、その内容を把握することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

現段階では特に指定はないが、適する文献が刊行された場合は講義にて指示することとする。

【参考書】

由井浜省吾編（1991）世界地誌ゼミナールⅧ 新訂 オセアニア 大明堂
菊地俊夫・小田宏信 編（2014）世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア 朝倉書店 などがあるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で実施する小テスト（40%）と定期試験（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回冒頭に実施する小テストについては、やや難しいとの意見があった。一方で、緊張感を保つことが出来たという意見もあった。講義以外の学習時間の確保の意味でもこのやり方を踏襲していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

講義内にて出た質問などについては授業支援システムにて回答する。従って、授業支援システムを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

巡検や介護実習などで欠席した際の届け出は速やかに提出すること。また、欠席した際には履修者同士のつながりを利用して小テストなどに備えるように。

世界地誌（2）

小原 文明

授業コード：A3444

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。本授業では北米各国・各地域の歴史・文化や産業、都市の発展に焦点を当てて授業を行っていきます。とりわけ、国境を越えて展開される産業（アグリビジネス、製造業など）について学びます。

【到達目標】

本授業を通じて、世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また、本授業では、北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

まず、北米地域全体の自然環境や人口分布、世界における位置づけ、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて、各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に、都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て、都市・都市圏構造や都市開発、エスニックビジネスなどについて考えていきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第 2 回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 3 回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第 6 回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第 7 回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第 8 回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第 9 回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第 10 回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第 11 回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第 12 回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第 13 回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語― 13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための 60 章』明石書店。
・坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座 14 ラテンアメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理 1・2 アメリカ合衆国 I・II』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理 4 中部アメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ バラン世界地理体系 17』朝倉書店。
・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ 4 アメリカ』朝倉書店。
・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原―食糧基地の形成と持続性―』古今書院。
・その他の参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %、期末試験（持ち込み不可）：70 %。それぞれの事象の背景や要因、結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第 12 回	中央アジア（1） 全域・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

【テキスト（教科書）】

多田文男（1972）：『世界地誌 I（アジア）』、法政大学通信教育部、291p。
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編 (1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』, 大明堂, 242p.
 岩田慶治編 (1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』, 大明堂, 212p.
 など。
 講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み3割、課題3割、試験4割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）
 ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

世界地誌（4）

伊藤 達也

授業コード：A3446

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を旨とします。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。また、テーマに関連したDVD等視聴覚教材を使用することにより、テーマの理解を深めます。

【到達目標】

韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国 (1)	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国 (2)	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係 (1)	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係 (2)	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義 (1)	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義 (2)	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥 (1)	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥 (2)	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱える環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

金岡基（1989）『物語韓国史』中公新書
 文京洙（2005）『韓国現代史』岩波新書
 木村 幹（2008）『韓国現代史―大統領たちの栄光と蹉跌』中公新書
 浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国―朴槿恵（パク・クネ）時代の戦略を探る』NHK 出版新書
 大西 裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
 浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社

【成績評価の方法と基準】

定期試験で 100 % 評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】

テンポの良い授業を目指します。

地理学読図演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3449
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図から、地形や土地利用を含めた環境に関する情報を読み取る技術を、地図作業を通じて習得する。

【到達目標】

地形図から地形や土地利用を含めた環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。その上で作業や作図結果から読み取れる内容に関する意見交換を通じて、受講生相互に理解を共有することに努める。11～14 回については、現地踏査を行い、読図結果の確認を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第 2 回	1:25,000 地形図の基本	地形図のあらましと地図記号・方位・縮尺など。
第 3 回	1:25,000 地形図における起伏の把握	等高線の読み取り、尾根と谷の把握、地形断面図の作成。
第 4 回	ハザードマップの作成	等高線の読み取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第 5 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握	水系図の作成。
第 6 回	ダム集水域の把握	水文環境の応用として、ダムの集水マップを作成。
第 7 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握	現在、そして過去の地形図から土地利用の変遷を把握する。
第 8 回	その他の自然環境マップの読図	植生図等、地形図以外の自然環境に関する読図。
第 9 回	読図総合	東京近郊を対象に、これまでの学習を振り返り、読図作業を行う。
第 10 回	読図総合	東京近郊を対象に、これまでの学習を振り返り、読図作業を行う。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習において、理解が不十分な内容や終えることができなかった作業などを、各自で最後まで行なうこと。

【テキスト（教科書）】

地形図などは必要に応じて毎回の講義内で配布する予定である。

【参考書】

東郷正美・佐藤典人・井上奉生（1983）：法政大学通教テキスト『地理調査法（自然編）』

【成績評価の方法と基準】

演習なので出席・作業への取組状況（50％）や課題の提出物（50％）を評価の基礎にする。現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象にしない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること。）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

硬質色鉛筆、30 cm 程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの、読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】

現地踏査については、第 1 回目に日程等を調整する。

地理学読図演習（2）

山口 隆子

授業コード：A3450
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図や雨温図・ハイサーグラフ・アイソプレス図などの気候図から、環境に関する情報を読み取る。

【到達目標】

地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。その上で作業や作図結果から読み取れる内容に関する意見交換を通じて、受講生相互に理解を共有することに努める。3～5 回はグループごとに読図を行い、その結果を、グループごとに 6、7 回で発表する。11～14 回については、現地踏査を行い、読図結果の確認を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第 2 回	地質図	東京（埼玉・千葉）の立体地質図の作成と考察。
第 3 回	読図総合	グループごとに読図を行う。（自然）
第 4 回	読図総合	グループごとに読図を行う。（人文）
第 5 回	読図総合	グループごとに読図結果をまとめる。
第 6 回	読図発表	グループごとに読図結果を発表する。
第 7 回	読図発表	グループごとに発表した読図結果に関する議論。
第 8 回	気候・気象データ	気候・気象データの統計解析。
第 9 回	アイソプレス	アイソプレス図の作成と考察。
第 10 回	器差補正	移動観測結果の作図と考察。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習において、理解が不十分な内容や終えることができなかった作業などを、各自で最後まで行なうこと。

【テキスト（教科書）】

地形図などは必要に応じて毎回の講義内で配布する予定である。

【参考書】

東郷正美・佐藤典人・井上奉生（1983）：法政大学通教テキスト『地理調査法（自然編）』

【成績評価の方法と基準】

演習なので出席・作業への取組状況（50％）や課題の提出物（50％）を評価の基礎にする。現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象にしない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること。）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

硬質色鉛筆、30 cm 程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの、読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】

現地踏査については、第 1 回目に日程等を調整する。

自然地理学特講（2）

町田 功

授業コード：A3452

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平成 26 年に「水循環基本法」が施行され、従来、私水として一般に認識されてきた地下水は国民共有の財産となった。本法律により将来的に地下水利用者がステークホルダーとして、地下水管理に参画する可能性がでてきた。このような時代に対応するためには地下水を文理両面の視点で理解することが必要である。本講義では水文地質学（Hydrogeology）の初歩を学ぶ。特に盆地や平野スケールを対象とした広域地下水流動の考え方をすることにより、資源としての地下水を知る。

【到達目標】

本講義では地下水をやや理系よりの視点から眺めていく。学生は他の水資源に対して地下水の有利な点と不利な点を知る。そして現在、地下水が汚染されつつある現状、有限で保全すべき対象であることを学ぶ。また、学生は抵抗 $\times$ 勾配 = 流れの式の代表としてダルシー則を理解し、タンクモデルや一次元有限差分法のエクセルマクロの作成ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

学生の大部分が文系出身者であることを考慮し、地下水の流れの基礎となるダルシー則、エクセルマクロを用いた計算はゆっくりと話を進める。前半は講義中心、後半はエクセルマクロを用いた実習を行う。ノートパソコンを準備されたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	生活の中の地下水	地下水と井戸 地下水の源と水循環 生活の中の地下水
第 2 回	地下水をとりまく環境	水文地質学の用語 緑のダムと水文調査
第 3 回	水収支	流域の水収支の考え方 地下水資源量とは何か
第 4 回	地下水と湧水 現地での測定	都心の湧水 水温、pH、電気伝導度、溶存酸素
第 5 回	地下水障害と地下水汚染	地盤沈下 地下水汚染
第 6 回	地下水汚染と将来の地下水利用	地下水汚染 水循環基本法
第 7 回	ダルシーの法則	フラックス 透水係数 水理水頭 1
第 8 回	ダルシーの法則	水理水頭 2 練習問題
第 9 回	エクセルマクロの練習 1	エクセルマクロの起動 簡単なコード タンクモデル（その 1）
第 10 回	エクセルマクロの練習 2	タンクモデル（その 2）
第 11 回	地下水の流れの計算 1	一次元有限差分法
第 12 回	地下水の流れの計算 2	一次元有限差分法
第 13 回	地下水の流れの計算 3	一次元有限差分法
第 14 回	試験 回答	試験 回答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は特に準備は必要としない

学生にレポートは出さない

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

Groundwater. A.Freeze and J.Cherry 著 Prentice Hall

水質調査法. 半谷高久・小倉紀雄著 丸善

Introduction to groundwater modeling. H.Wang and M.Anderson 著 Academic Press

地下水と水循環の科学. 高村弘毅編 古今書院

水文科学. 杉田倫明・田中正著 共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 点）

試験（60 点）

【学生の意見等からの気づき】

前回はエクセルマクロの取得が不十分だったため、やや多めに時間を割いた。

【学生が準備すべき機器他】

第 9 回（予定）よりノートパソコンを使用する。エクセルを用いる。

自然地理学特講（3）

狩野 真規

授業コード：A3453

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気で発生する諸現象に注目することで、その発生メカニズムや分布などについて理論的に理解することを最大の目標とする。また、気象学の教科書などで出てくる数式を使いこなせるようになることも目標としてあげておく。さらに、水資源や気候変動の話題についても触れていきたいと考えている。

【到達目標】

大気中の現象とそれに関連する様々な話題について、理論的に説明したり、考察をすることができる能力を獲得することを目標としたい。

【授業の進め方と方法】

基本的には PC のスライドを使った講義形式とする。内容に関連するプリントは毎回配布する。また、毎回課題を設定し、次回冒頭でその課題にまつわる小テストを実施する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地球の平均気温はどのようにして決まるのか？	地球表面の平均気温を決める放射のメカニズムを考える。
第 2 回	熱収支について	熱収支の基本的な視点を見ていく。
第 3 回	都市の気候 その 1	都市域で発生するヒートアイランド現象について考える。
第 4 回	都市の気候 その 2	ヒートアイランド現象の抑制について考える。
第 5 回	都市の気候 その 3	都市型集中豪雨について考える。
第 6 回	冷却にまつわる現象	放射冷却に起因する諸現象について、小気候スケールの話題をあげながら考える。
第 7 回	盆地の気候	盆地の気候が平野と異なる理由を探る。
第 8 回	山岳地域の気候	標高の高い地域における気候について探る。
第 9 回	蒸発について	蒸発を規定する要因から気候学への応用を探る。
第 10 回	水資源の利用	降水量の多い日本における水資源とその利用について考える。
第 11 回	気候変動 その 1	気候変動を捉える意味を考えつつ、地質時代に起きた変動を捉える。
第 12 回	気候変動 その 2	歴史時代に起きた変動を捉えつつ、これから起きると予想される変動を考える。
第 13 回	気候変動 その 3	我々の周辺で起きている変化から気候変動を考える。
第 14 回	気候景観	各地を巡る旅をするにあたり、地理を学ぶものとして持っておくと面白い視点を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気象学・気候学に関連する文献を手に取り、どんなことに注目が集まっているのかを把握しておくことと、教科書に出てくる数式等に慣れしておくことが望ましい。また、各回の最後に課題を提示し、それにまつわる小テストを次回講義の冒頭で行うので、必ず下調べを行った上での出席を求める。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。関連するものについては講義内にて適宜紹介していくつもりである。

【参考書】

近藤純正（1987）「身近な気象の科学 熱エネルギーの流れ」東京大学出版などがあげられるが、その他についても適宜講義内にて紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う小テストの結果（40%）と試験（60%）で成績評価を行う予定である。評価基準としては、重要なキーワードがあげられるか、それらの説明ができるか、加えてそれらを組み合わせて現象を簡潔かつ論理的に説明できるか、である。

【学生の意見等からの気づき】

かつて講義では出席を取らない形式を貫いてきたが、授業にまつわる学習時間が極端に少ない状況を改善するための対策として、出欠確認を兼ねた小テストを毎回実施することにした。当然、小テストの結果を出席点として評価の一部とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの利用ができるようにしておくこと。想定されるシステムの利用例として、出席カードで出た質問に対する回答をシステム上で閲覧できるようにするような形が考えられるので、それを確認できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

やむを得ず欠席した際には、課題等の確認を各自の責任で行うこと。特に最終学年の学生についてはよく考えて対応してもらうことを切に願う。

自然地理学特講（4）（生態学）

近藤 博史

授業コード：A3488

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上では未知な生物を含めて現在 870 万種もの生物が存在すると言われている。それら生物は様々なスケールで環境に影響を与え、また環境は生物に影響を与えている。生態学とは、生物と環境が関係する自然全体を理解する学問であり、基礎的なものから応用的なものまで様々な分野から構成されている。この授業では、生態学の基礎知識と概念を身につけ、実際に自然環境で起こっている現象の解明や諸問題を解決する知識や考える力を養う。

【到達目標】

生態学の基本的理論を理解することができる。
様々な地域やスケールにおける生態系の仕組みを理解することができる。
世界の様々な場所で起こっている諸問題の背景を理解することができる。

【授業の進め方と方法】

生態学を学ぶ上で重要な考え方を解説した上で、それに関連した様々な地域やスケールでの事例や研究をプリントやパワーポイントを用いて紹介していく。毎回の授業では必要に応じて意見を求め、随時ディスカッションも行う。また、授業の終わりに当日の授業に関連した課題の小レポートを作成し、提出してもらう。また、今まで生物に関する学問に触れてこなかった人や、数式や専門用語などが苦手な方でも理解し、興味を持ってもらえるように授業を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	生態学の分野について、生態系の概念、生物圏
第 2 回	生物多様性	種の分布、生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性、生物多様性の評価
第 3 回	進化生態学	突然変異と自然選択、性比の決定、個体群の遺伝的構成の維持と変化
第 4 回	個体群生態学	生物の生活史、繁殖戦略、 r-K 戦略、生存曲線、生物密度と分布、環境収容力
第 5 回	群集生態学	生物間の相互作用、エネルギーや栄養の循環、ニッチ、競争、共存、生態系機能
第 6 回	森林生態学	森林の遷移・更新および自然攪乱と人為攪乱、種子散布など
第 7 回	里山生態学	田んぼ、ため池、草原、雑木林の生態系について
第 8 回	都市生態学	都市の空間構成、都市化と環境負荷、環境との共生、生態系サービス、コケの生態
第 9 回	島嶼生態学	生物の種数平衡、移入、定着、絶滅、固有種、外来種
第 10 回	景観生態学	景観のモザイク構造、地域計画や土地利用、パッチ、エッジ、コリドー、マトリックス、パイオーム
第 11 回	海洋生態学	海洋の微生物・プランクトン・海藻・魚類・海洋哺乳類などの分布・行動・進化、有機物生産、物質循環
第 12 回	保全生態学	生態系サービスの保全、持続的利用、レジリエンス、環境問題
第 13 回	復元生態学	森林再生、移入種駆除、生態系の復元、生態系管理と生態系サービス
第 14 回	まとめ	総括、重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、授業のテーマに関する内容について簡単に調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。ただし、毎回の授業で必要な資料を配布。

【参考書】

授業中に参考文献や資料を紹介。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小レポート課題（50 %）に平常点（+ α）を加算し、成績評価を行う。小レポート：授業中にその回の内容に関わるテーマを出題、授業終了時に提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。また、授業に関する質問や要望のある学生は、毎回の小レポートに記入するか、授業終了後およびメールで受け付ける。

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル化と産業集積」をテーマに講述します。

このテーマに沿って学習することで、経済地理学の基本的理論を修得し、地理的見方・考え方を養うとともに、これらの視点からグローバル化社会において日本や近隣諸国の経済社会の置かれた状況を理解し、持続可能な社会を築くためにはどのような方策があり得るのか考える力を身につけることを目標とします。

【到達目標】

次の諸点を理解できたかを到達目標にします。

果たしてグローバル化は「フラット化」と同義なのかという問題を提起した上で、次のような柱で授業を進めます。

- (1) この四半世紀の経済のグローバル化とローカリゼーションのプロセス
 - (2) 産業集積論・分散論のフレームワーク
 - (3) 日本の産業発展と産業地域発展の歴史と現在
 - (4) 東アジアの諸地域の産業発展と産業地域発展の歴史と現在
- これらを通じて、グローバル化社会における産業集積の意義と諸問題について考えます。

【授業の進め方と方法】

Keynote プレゼンテーションを軸に授業を進めます。コンテンツはプリントで配布します。小課題を設ける場合があります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	世界はフラットなのか、スパイキーなのか？	左記の命題を提示し、本講義の問題意識と課題、授業計画について説明します。
第 2 回	グローバル化のプロセスと「新しい国際分業」	多国籍企業の立地展開に関わる枠組みを学ぶとともに、1990 年代以降のグローバル化がどのようなプロセスで生じたのかを考えてみます。
第 3 回	グローバル化のなかでローカリゼーション	グローバル化は世界経済をフラットにしたわけではなく、新たな多様性をもたらしました。欧米における産業集積の諸相について考えます。
第 4 回	マーシャルのみた世界、フォードの描いた世界	イギリスと合衆国を中心に 19 世紀から 20 世紀にかけての産業化のプロセスを考えてみます。
第 5 回	産業集積論の基本的考え方	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。
第 6 回	20 世紀日本の産業空間 (1)：戦前期まで	19 世紀末期の近代経済成長の始動以降、1930 年代における量産工業の確立期までの日本の産業配置を考えます。
第 7 回	20 世紀日本の産業空間 (2)：1950 年代～ 80 年代	高度経済成長期以降 1980 年代までの日本の産業配置を考えます。
第 8 回	大都市の産業集積 (1)：東京城南地域の事例	大田区を中心とする東京城南地域の産業集積の発展と特性について概説します。
第 9 回	大都市の産業集積 (2)：東京城東地域の事例	台東区・墨田区を中心とする東京城東地域の産業集積の発展と特性について概説します。
第 10 回	日本経済のグローバル化と国内工業への影響	1990 年以降の日本の製造業の経済地理的变化を概観します。
第 11 回	地方圏の産業集積の現在	上記のなかで、地方の工業集積地域の現在を考えます。
第 12 回	アジアの産業集積 (1)：工業化のプロセス	韓国や ASEAN 諸国の産業化の道筋について考えます。
第 13 回	アジアの産業集積 (2)：1990 年代以降の地域経済開発と生産ネットワーク	90 年代以降の AFTA 体制の下での東南アジア工業の変動を考えます。
第 14 回	まとめ	全体を通じた振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。参考書にはなるべく目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。
 竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年。
 貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。
 杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。

青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。
渡辺幸男編『日本と東アジア産業集積研究』同友館、2007 年。
菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。
加賀美雅弘編『EU』朝倉書店、2011 年。
矢ヶ崎典隆ほか編『グローバルゼーション』朝倉書店、2018 年刊行予定。
サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。
サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。
フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題（3 割）と定期試験（7 割）より総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。60 ～ 72 ページ程度の小冊子になる仕様ですので、まずは整理を心がけて下さい。また、欠席の回のプリントの取り置きはいたしませんのであらかじめご了承ください。

人文地理学特講（2）

片岡 義晴

授業コード：A3456

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農業は土壌条件や気候条件に規定されているという、一見「地理学的」な説明を脱却して、世界の政治・経済の仕組み、それに規定された日本の農業政策、日本の経済界の動向を踏まえて、日本農業の実態に迫っていきます。例えば日頃飲む牛乳のパッケージに記載されている内容は日本の酪農の実態を反映した「具体的」なものであり、そうした身近な具体例を通して日本農業の実態に迫っていきます。

【到達目標】

現代日本の農業の実態を知ることをめざします。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

土壌条件や気候条件による農業の地域性とかいう、一見「地理学的」説明であるかのごとき、悪しき農業地理学を廃して、世界の政治経済の仕組み、そしてそれに従属、いや「ただ乗り」しようとする日本農政、経済界の思惑に翻弄され続けている日本農業を概観したいと思います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業と環境 (1)	日本の食料自給率
第 2 回	日本の農業と環境 (2)	フードマイレージ
第 3 回	日本の農業と環境 (3)	バーチャルウォーター
第 4 回	戦後日本の農業政策 (1)	第二次世界大戦前から戦後復興期、高度経済成長期
第 5 回	戦後日本の農業政策 (2)	農業基本法農政から総合農政
第 6 回	戦後日本の農業政策 (3)	GATT・WTO 体制下農政
第 7 回	北海道農業 (1)	北海道農業の地域性と加工原料農産物への特化
第 8 回	北海道農業 (2)	北海道畑作の展開
第 9 回	北海道農業 (3)	北海道酪農と日本の酪農政策
第 10 回	稲作の変容	減反政策の展開と廃止
第 11 回	畜産業の展開 (1)	輸入飼料と飼料コンビナート
第 12 回	畜産業の展開 (2)	畜産インテグレーション—ブローラー生産を事例に—
第 13 回	施設園芸の展開	花卉園芸の展開
第 14 回	卸売市場の展開と農産物流通	卸売市場法の変化と形骸化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞等の報道において、どれだけ食料・農業・農村に関する話題が示されているか、注意を向けて下さい。そしてそれらはいったい「誰」の立場に立脚しているものなのか、それを意識して報道に注意を向けるようにして下さい。「消費者の立場」という「立場」も、決して一様ではないのです。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

檜原・江尻（2006）『現代の食と農を結ぶ』大月書店を一応の参考文献としますが、その他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述式試験）によって成績評価します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料が多すぎるとの指摘がありますが、必要なものは提示せざるを得ません。資料の基となる一次資料の意義、限界についてもお話しできればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

人文地理学特講（3）

小原 文明

授業コード：A3457

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は地理学（主として都市地理学、経済地理学、社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ、都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか、都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど、都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて、都市開発に関わる諸事象を題材にして、地理学、とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また、都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから、隣接学問分野の見え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ、土地利用や土地所有、地価・地代、立地、デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び、その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本講義では、授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ、適宜、小レポートを課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第 2 回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第 3 回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第 4 回	土地所有①	土地所有の変遷
第 5 回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第 6 回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第 7 回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第 8 回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第 9 回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第 10 回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第 11 回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第 12 回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第 13 回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橋川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %、期末試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

人文地理学特講（4）（ECO-TOP マネジメント）

伊藤 達也

授業コード：A3489

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。東京都 ECO-TOP プログラムのプログラム受講生はまよめの授業になりますので、プログラムで得た知識、技術の確認をします。一般学生は ECO-TOP プログラムの内容の理解に努めながら、自ら「身近な環境問題」を事例に観察・発表をしてもらい、環境問題と向き合う市民の実践性の理解を目的とします。

授業前半は教員の講義、後半は ECO-TOP プログラム受講生のまよめの発表、一般学生の発表を中心に運営します。なお、積極的にフィールドワークを実施する予定です。

【到達目標】

ECO-TOP プログラムのプログラム受講生はプログラムを終了するにあたり、プログラムで得た知識、技術の確認をします。発表課題は「環境改善を目的とする具体的な取り組みの評価」とし、受講生各自が個別報告をします。それを下に全体での相互討論を実施することにより、問題理解における普遍性の確保と ECO-TOP プログラムのより深い理解が可能になります。一般学生は「身近な環境問題」を事例とした報告をしてもらうことにより、環境問題の実践的性格について学ぶことを目的とします。

【授業の進め方と方法】

前半は教員による講義形式で行い、後半は学生による発表を行います。なお、半期に 2 回ほど外へ出かける予定です。12 月前半にエコトップ関連で、12 月から 1 月の土日を使って一日エクスカッションを実施します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	ECO-TOP プログラムの目的の確認、学生の課題設定	ECO-TOP プログラムの目的を確認します
第 3 回	講義 (1)	我が国の水資源問題の歴史を概説します
第 4 回	講義 (2)	長良川河口堰問題における裁判活動の内容について解説します
第 5 回	講義 (3)	徳山ダム問題における市民運動の内容について解説します
第 6 回	講義 (4)	長良川河口堰開門調査検討委員会等の活動内容について解説します
第 7 回	講義 (5)	岐阜県史問題における県スタッフの動きについて解説します
第 8 回	発表と相互討論 (1)	ECO-TOP プログラム受講生による発表を行った上で、相互討論を行います
第 9 回	発表と相互討論 (2)	ECO-TOP プログラム受講生による発表を行った上で、相互討論を行います
第 10 回	発表と相互討論 (3)	一般受講生による発表を行った上で、相互討論を行います
第 11 回	発表と相互討論 (4)	一般受講生による発表を行った上で、相互討論を行います
第 12 回	エコプロダクツ展への参加	12 月上旬に開催されるエコプロダクツ展に参加します
第 13 回	一日エクスカッションの実施	一日、地域現場に出かけ、地域問題の確認をする
第 14 回	発表評価と問題点の指摘	発表と討論の取りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ECO-TOP プログラム受講生は発表のための準備を怠らないでください。他の受講生は自らのテーマに従って見学と調査を行い、発表準備を行うとともに、議論に積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ECO-TOP プログラム受講生は発表 50 % と授業参加（討論への参加等）50 % で評価、他の受講生は授業参加 50 %（討論への参加）とレポート提出 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内において異なるタイプ（ECO-TOP プログラム受講生と一般学生）の学生参加が予想されることから、その公平性に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用が頻繁です。学生の発表時にも使用予定です。

地図学 I

若林 芳樹

授業コード：A3459

春学期・2 単位

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト 10 %、レポート 30 %で総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するための GIS の基礎を理解する。

【授業の進め方と方法】

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第 2 回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第 3 回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第 4 回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第 5 回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第 6 回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第 7 回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第 8 回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第 9 回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第 10 回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第 11 回	地図の収集と評価	既存の地図を収集しグループで討論する
第 12 回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第 13 回	地図と GIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第 14 回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。

【テキスト（教科書）】

使用しない（プリントを配布）

【参考書】

『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983 年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984 年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999 年）、『地図を学ぶ』（菊地・岩田編、二宮書店、2005 年）、『オン・ザ・マップ』（ガーフィールド著、太田出版）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018 年）

地図学Ⅱ

鈴木 厚志

授業コード：A3460

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地図学や地理学との関わりの中で地理情報科学をめぐる基本的事項と適用事例を講義する。これにより、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、地理情報システム概念と構成要素、地理空間情報の構造とその操作、地理空間情報の視覚化、そして地図表現のもつ社会的意義と課題を学ぶ。

【到達目標】

- ①地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
- ②地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
- ③地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義形態と一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のスマートフォンやタブレット端末等を使用して WebGIS を活用する。また、リアクションペーパーの提出を複数回求める予定。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と注意事項、地理情報科学とは
第2回	地理情報科学と地理情報システム	地図学や地理学との関係、発達、構成要素を説明する
第3回	空間モデリングとデータ構造-1	空間モデリングの考え方を説明する
第4回	空間モデリングとデータ構造-2	空間データ構造を解説
第5回	空間モデリングとデータ構造-3	属性データ構造を解説
第6回	地理空間情報-1	「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」について解説
第7回	地理空間情報-2	「基盤地図情報」「電子国土基本図」等について解説
第8回	地理空間情報の作製-1	印刷地図・デジタル地形測量・GNSSからのデータ取得と作製を解説
第9回	地理空間情報の作製-2	リモートセンシング・レーザ計測等からのデータ取得と作製を解説
第10回	地理空間情報の視覚化	地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本を説明する
第11回	地理情報システムによる分析	空間検索、重ね合わせ、バッファリング空間分割等を解説
第12回	地図表現と社会-1	行政、防災を解説
第13回	地図表現と社会-2	ビジネス、教育等について解説
第14回	地理情報科学と未来社会	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図学と地理情報科学をめぐる記述動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講読の指示、そしてレポート等の作成を課す予定。

【テキスト（教科書）】

鈴木厚志編『地図表現と地理情報システム（2018年版）』→プリントとして配付予定

【参考書】

『地理情報科学 GIS スタンダード』（古今書院、2015）

『地理情報科学事典』（朝倉書店、2004）

『地図と測量のQ&A』（一財）日本地図センター、2013）

【成績評価の方法と基準】

・出席率が2/3に達しない者は評価の対象としない。

・授業中に行う小テスト（10点×3回）と学期末試験（70点）の合計得点により評価する。

・リアクションペーパーの提出を数回求める予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業用スライドの不明点を少なくするための改善に心掛け、テキスト内容の不明点の解説も授業中に行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

測量学及び測量実習Ⅰ

川本 利一

授業コード：A3461

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	測量とは	測量の概要と歴史について講義する
第2回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格について講義する
第3回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第4回	誤差論1	誤差の種類と対処方法について講義する
第5回	誤差論2	誤差に関わる計算方法と計算実習
第6回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第7回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第8回	水準測量実習1	レベルの使用法
第9回	水準測量実習2	観測方法の習得
第10回	水準測量実習3	水準測量の観測実習（往）
第11回	水準測量実習4	水準測量の観測実習（復）
第12回	水準測量のデータ処理1	観測データの整理方法について講義する
第13回	水準測量のデータ処理2	実習で行った観測データの整理
第14回	まとめ	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。
なお、測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。

【その他の重要事項】

関数電卓を必ず持参すること。

測量学及び測量実習Ⅱ

川本 利一

授業コード：A3462

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGPS測量を中心に講義・実習する。

【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GPS測量の原理、方法を理解できる。

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GPS測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。測量の方法について学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第3回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第4回	基準点測量の観測1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第5回	基準点測量の観測2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第6回	基準点測量の実習1	トータルステーションを用いた観測点1の観測を実習する
第7回	基準点測量の実習2	トータルステーションを用いた観測点2の観測を実習する
第8回	基準点測量の実習3	トータルステーションを用いた観測点3の観測を実習する
第9回	基準点測量データの処理1	観測データ整理を行う
第10回	基準点測量データの処理2	距離補正計算を行う
第11回	基準点測量データの処理3	標高計算を行う
第12回	基準点測量データの処理4	座標計算を行う
第13回	GPS測量1	GPS測量の原理及び測量について講義する
第14回	GPS測量2	ハンディーGPSを用いてGPS単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TS-GPSによる基準点測量 三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。
なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。

【その他の重要事項】

関数電卓および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

写真判読Ⅰ

宮内 崇裕

授業コード：A3463

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空中写真の実体視や 3D 画像による地形判読および図化作業を通じて、「地理学」で学習した地形単元の特徴を理解する技術を習得する。本講義ではとくに平野地形・火山地形・変動地形の判読を行う。

【到達目標】

地理学の幅広い修得には、人間活動の舞台である多種多様な地形単元の実例を数多く判読・観察・議論・図化する技術の修得が必要である。本講義では、空中写真実体視の光学的理論を理解し、代表的な地形要素を一人で判読・抽出・図示することができるまでのレベルを目標とする。

【授業の進め方と方法】

空中写真のレビューと実体視理論を解説した後で、個々の地形単元ごとに判読資料を配付し、実体視を行う。実体視を通じて得られた地形イメージを地形図等へ図化表現（移写）することにより、判読実体を明確に記録し、地形形成プロセス理解へのつながりとする。従って、各回の地形判読結果とその図示成果が習熟度の評価となるので、欠席せず毎回地形判読の作業を実施しレポートを提出することが必須である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地形判読とは	空中写真の歴史とそれを活用した地形判読を知る。
第 2 回	空中写真の実体視	空中写真の本質、歴史、種類、入手法、実体視について知る
第 3 回	実体視の原理とアナグリフの作成	光学的な視点から実体視の意味を理解し、アナグリフの作成法を学ぶ
第 4 回	平野地形 1	河成段丘の判読・図化
第 5 回	平野地形 2	沖積扇状地の判読・図化
第 6 回	平野地形 3	河成低地の微地形判読と図化
第 7 回	平野地形 4	海成段丘・離水海岸地形の判読と図化
第 8 回	東京（市ヶ谷キャンパス）の地形判読	多種多様な構成地形単元の同時判読
第 9 回	火山地形 1	単成火山の判読と図化
第 10 回	火山地形 2	複成火山（火砕流・溶岩・カルデラがつくる地形）の判読と図化
第 11 回	活断層地形 1	縦ずれ断層変位地形の判読と図化
第 12 回	活断層地形 2	横ずれ断層変位地形の判読と図化
第 13 回	活断層地形 3	活褶曲（断層関連褶曲）地形の判読と図化
第 14 回	隆起海岸地形	地震性隆起海岸の判読と図化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記参考書において、各回に該当する地形判読項目について読んでおく。また毎回の実習内容は宿題となるので、次週までに仕上げて提出すること。

【テキスト（教科書）】

その都度必要資料を配付する。

【参考書】

貝塚ほか編「写真と図で見る地理学」、東京大学出版会。
東京地図研究社「東京の凹凸地図」、技術評論社。
(財) 日本地図センター「空中写真の知識」、日本地図センター。

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される資料に、判読結果を図化し、地形学図を作成する。その提出と成果内容（100 %）によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

簡便な実体視技術を用いて、平易に図化できる教材とする。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリ（容量 1GB）、フリクションペン（0.5mm、赤青 1 本ずつ）、12 色色鉛筆セット

写真判読Ⅱ

郭 栄珠

授業コード：A3464

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空中写真及び人口衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視による判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地理学で重視する地域ごとに異なる空間的異質性・地域性・歴史性を結びつけることが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、地形変化、効率的な災害状況把握など衛星画像の応用例の可視化や実務スキルにも役に立つ画像判読などの手法を学ぶ。

【到達目標】

高分解能光学衛星画像は空中写真と同様に肉眼判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、空中写真から衛星画像に至るまでさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術を深く理解し、地理情報システム (GIS) 学を基により簡便に計算できる データ分析力、その応用スキルを身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、講義式で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと、講義の後半はフリーソフトウェア (QGIS) と商用ソフトウェア (ArcGIS) の使い方を比較しながらデジタル画像解析による地形判読のトレーニングを行う。実際に日本全国を対象域にして、各自で自分の興味ある地域を選定、衛星画像の実習データのダウンロードから判読まで企画・分析できる力を身につける手法を習得する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	衛星リモートセンシングとは？	空中写真と衛星画像との違いを理解する。
第 2 回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を把握する。
第 3 回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解する。
第 4 回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型 GIS 上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第 5 回	宇宙から撮った画像から地形判読（1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第 6 回	宇宙から撮った画像から地形判読（2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断層系の分布を判読する。
第 7 回	衛星データ準備（ダウンロード）	JAXA の ALOS 衛星画像と NASA の Landsat, MODIS 衛星画像の実習データをダウンロードする。
第 8 回	3 次元地形判読：数値標高モデル (DEM) データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデル (JAXA W3D, SRTM, ASTER) の理解およびその 3 次元分析でできる技術を習得する。
第 9 回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第 10 回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。

第 11 回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。
第 12 回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標 (NDVI) による植生分類図を試作する。
第 13 回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせるため GIS 標準フォーマットのデータ変換手法を習得する。
第 14 回	実習による各自の成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自 2 分スピーチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

QGIS, ArcGIS のような地理情報関連ソフトウェアの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院、JAXA, NASA などの最近動向に興味を持ちながら写真判読の関連情報を調べておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料は各講義・実習中に配布

【参考書】

- 1) JAXA と NASA のウェブサイト
- 2) 改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 (社) 日本測量協会
- 3) Multi-spec のマニュアル (英語版)

https://engineering.purdue.edu/~biehl/MultiSpec/download_win.html (日本語版)

http://itcweb.cc.affrc.go.jp/affrit/_media/sidab-info/satellite/all.pdf

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (10 %)、実習による成果のスピーチ (30 %)、期末試験 (40 %)、平常点 (20 %) などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の卒論テーマや興味ある分野に地理情報システム (GIS) とリモートセンシング技術が容易で応用できるように、簡単な操作かつ簡潔な説明による指導 (授業改善) を行い、各自でスキルを身につける時間と授業時間内の個人向けの対応の機会を増やす。

数理地理学 (2)

永保 敏伸

授業コード：A3466

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なデータの特徴を理解し、研究目的に応じた解析を行う。その際の、解析方法や視覚化方法などの基礎的な技術を習得する。

【到達目標】

地域的な分布や経年的傾向の特徴を見出すために、現地調査の結果や、既存の統計資料など、様々なデータから統計処理を行い、解析結果を求められるよう必要な手順を習得する。そして、多変量解析などより高度な解析を行う準備ができるようにする。

また、各自が地域特性分析の方針をたて、求める結果に到達できるようにする。

【授業の進め方と方法】

パソコンを用いた実習形式で講義を行う。その際、地理学に関わるデータを用いて基本的な統計解析を行う。

これらの実習は、主に表計算ソフト (Excel) を用いて作業・解析した結果を可視化 (図化) する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	統計と地域統計	「統計リテラシー」概要と、地理学で扱う各種統計の概要。
第 2 回	調査・観測方法	現地調査でのデータ収集に先立って、必要事項の整理。
第 3 回	データの種類と特徴	データの種類 (質的・量的) を知り、それぞれの特徴を理解する。
第 4 回	基礎統計量①	質的データの扱い方。 度数分布表。
第 5 回	基礎統計量②	バレート分析。 量的データの扱い方。 度数分布表。 ヒストグラム。
第 6 回	データの可視化	地理学に関するデータを用いた基礎統計量算出の実習。また、主題図としての統計地図を知る。
第 7 回	基礎統計量とグラフ表現	その特性に合わせたデータの可視化方法の検討。
第 8 回	サンプリングと調査法	適切なデータ収集のための質問票の作成と現地調査の概要。
第 9 回	データの要約	複数の変数を持つデータを用いて、クロス集計など、属性間の関係をみる。
第 10 回	時系列データ	時点変化の記述と時系列データの变动成分の分析方法を知る。
第 11 回	相関係数と散布図	2 つの変数の関係の強さをみる。
第 12 回	回帰分析	説明変数を用いて、目的変数を求める方法を知る。
第 13 回	地域の分類	統計量を用いた地域特性の解析。
第 14 回	地域変化と予測	ある時間を経た前後における同一地域の状況を比較し、今後の変化を予測する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確認するために、各回終了後に小課題を課す。内容は各回の到達状況によって変わるが、基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じて、適宜紹介する。

【参考書】

- 柏木吉基 2012. 『明日から使えるシンプル統計学』. 技術評論社, 175p.
高橋麻奈 2015. 『統計学』. 技術評論社, 220p.
村上和也 2014. 『ビジネスで本当に使える超統計学』. 秀和システム, 243p.
吉岡茂・千歳壽一 2006. 『地域分析調査の基礎』. 古今書院, 158p.

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題 (60 %)

実習を中心に講義を行う。その際、講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）も重要である。
また、テーマ毎にその講義終了後、講義内で扱った事項に関する小課題を課す。その課題を提出してもらい、講義の習熟度を確認する。

最終試験（演習）（40 %）
期末に、講義内で扱った内容の総合的な習熟度をみる。

【学生の意見等からの気づき】

講義と実習のバランス、進度や難易度、講義資料の提示方法、実習時間などは、出来る限り学生のレベルに応じて調整する。

【その他の重要事項】

情報科学実習等の科目で、既に Excel の扱いに慣れていることを求める。特にオートフィルタや並べ替え、基本的な関数が扱えること、またそれら関数をネストし、計算式を組み立てられること。

作図をする場合、GIS ソフトを用いるので、GIS に関わる電算科目は履修済みであること。本講義では、GIS の扱い方自体の紹介は行わない。

なお、初回講義時に、受講希望者の技術的な到達度確認試験を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

外書講読（1）

宮内 崇裕

授業コード：A3469

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧米圏の自然地理学英語教科書の講読・輪読を通じ、地形や地層形成に関連する風化、侵食、堆積や降雨、河川、地下水のプロセスを理解する力を養い、現代的地球規模の課題である気候変化と温暖化に関する将来予測について学習する。自然地理学で使用される専門用語の日本語－英語の対応や特有の表現に関する基礎学力を修得するとともに、地球表層部の動態を理解する。

【到達目標】

地表面部の圏構造（気圏・水圏・岩石圏・生物圏）で起こるさまざまな現象や地球の歴史についての基礎的知識を身につけるとともに、科学英語（自然地理英語）の読解力を養うことを目的とする。具体的には、(1) 地球表層部で起こるさまざまな自然地理的現象のメカニズム、特徴を説明できること、(2) 自然地理学に関する基礎的な英文を正確に理解できること、(3) 理解した内容を適切な日本語訳と解説でプレゼンできることの 3 点を目標とする。

【授業の進め方と方法】

目的に合致する章を選び、順番に内容理解上の要点に注意しながら、特定の教科書を読み進める。毎回担当者 3 名が、1 人あたり教科書 2～3 ページの日本語訳で発表するとともに、それと教科書内の図類を要約したパワーポイントで解説を行う。初回に担当箇所と発表予定を決めるので必ず出席すること。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	風化 1	風化のしくみ、種類、物理的支配力を理解する。
第 2 回	風化 2	機械的風化と化学的風化のプロセスを理解する。
第 3 回	風化 3	土壌のプロセスと分布を理解する。
第 4 回	堆積 1	堆積層（岩）の重要性、起源、プロセスを理解する。
第 5 回	堆積 2	成因別堆積層（岩）の種類を理解する。
第 6 回	堆積 3	堆積層（岩）の構造・環境・資源価値について理解する
第 7 回	マスウェイスティング 1	斜面物質の下方移動、重力の役目を理解する。
第 8 回	マスウェイスティング 2	水の役目を理解する。
第 9 回	マスウェイスティング 3	土砂災害との関係を理解する。
第 10 回	流水 1	水循環における流体としての役目を理解する。
第 11 回	流水 2	水系形成、河川としての仕事を理解する。
第 12 回	流水 3	洪水と災害について理解する。
第 13 回	気候変化 1	気候システムの要素、気候変化の観測、大気の基礎を学ぶ
第 14 回	気候変化 2	大気の加熱、気候変化の自然的要因と人為的インパクト、地球温暖化の成り行きを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当箇所の日本語訳と解説プレゼンファイル作成のために、十分な予習時間が必要である。担当／非担当にかかわらず、授業後教科書の章末にある課題に対してチャレンジすることは当該内容の理解を深めるために重要である。

【テキスト（教科書）】

授業は「Essentials of Geology, Lutgens et al.,(12th edition), Pearson,2015」に基づいて進める（教科書）。

【参考書】

参考資料は必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

出席および授業態度を平常点（10 %）、担当箇所の日本語訳の正確性（60 %）・要約発表の的確性（30 %）を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

発表用の USB メモリ等の記憶媒体を準備すること。発表用ノート PC は準備するが、持参してもかまわない。

【その他の重要事項】

自然地理学に関連する講義科目や実験を履修しておくことが望ましい。

外書講読（2）

中俣 均

授業コード：A3470

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部におけるこの授業の意義は、

- ① 外国語（もっぱら英語。以下も同じ）に少しでも慣れること
 - ② 「古典」との定評の確立した外国語の地理学文献に取り組む、あるいはそのための下準備をする
 - ③ 外国における最新の学界動向を垣間見ること
- などが考えられよう。しかし、半期という時間的制約があるため、これらをすべて満足させることは到底不可能である。本年は、上記②を重点的に意図し、地理学の「古典」といわれる著名な論文に取り組んでみたい。

【到達目標】

テキストとする英語論文の内容を正しく理解するとともに、自らの（卒業）論文執筆に資するよう取り組む地理学の幅を広げることが目標である。ありていに言うなら、入学時の英語の学力を取り戻すことを目指したい。

【授業の進め方と方法】

本年は、地理学を学ぶ学生に向けた入門書である下記の文献を取り上げる。

Alister Rogers, Heather Viles and Andrew Goudie (1992) "The Student's Companion to Geography." (Blackwell)

この中から Part I の Introductory Essays にある人文地理学に関わるいくつかのエッセイを選んで読み進める。初回時にテキストのコピーを渡し、担当を決めて次回から読み進めていく。なお受講希望者は初回の授業時に必ず出席すること。例外は認められない。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	英文文献読破のための基礎知識・方法について 輪読するテキストについての説明
第2回	テキストの読解と議論（1）	Apocalypse Soon, or, Why Human Geography is Worth Doing. ①
第3回	同上（2）	Apocalypse Soon, or, Why Human Geography is Worth Doing. ②
第4回	同上（3）	Apocalypse Soon, or, Why Human Geography is Worth Doing. ③
第5回	同上（4）	The Historical Geographical Perspective. ①
第6回	同上（5）	The Historical Geographical Perspective ②
第7回	同上（6）	The Historical Geographical Perspective ③
第8回	同上（7）	The Historical Geographical Perspective ④
第9回	同上（8）	A View of the World through the Essays of a Cultural Geographer ①
第10回	同上（9）	A View of the World through the Essays of a Cultural Geographer ②
第11回	同上（10）	A View of the World through the Essays of a Cultural Geographer ③
第12回	同上（11）	A View of the World through the Essays of a Cultural Geographer ④
第13回	同上（12）	A View of the World through the Essays of a Cultural Geographer ⑤
第14回	総まとめ	読み進んできたエッセイに関する総括と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の分担者は、各自の分担部分について、英和辞書などを用いた単語などの下調べはもちろんのこと、登場する術語や人物についてもしかるべき事典を用いて調べておくこと。またほかの受講者もテキストをざっと読んで、どのようなことが論じられているか、おおよその見通しをつけたうえで授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

初回時にテキストのコピーを配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

随時に課せられる和訳レポートの質（50%）、および毎回の議論の内容とによる平常点（50%）で評価する。自分の担当部分はもちろんのこと、自分以外の人担当部分についても毎回ちゃんと読んで（あるいは目を通して）授業に出席し、議論に加わるとともに、その内容の理解に努めることが大切である。であれば当然のこと、授業に出席することが成績評価に当たっては重要視される。

【学生の意見等からの気づき】

ただ単にテキストを読むだけでなく、その内容に関しての「議論」をできるだけ行ないたい。

【その他の重要事項】

地理学への入門の仕方は世界の各国ごとに違っている。本書は主にイギリスの大学での地理学入門書であるが、受講生が地理学に関心を持ち始めたころどのようなイントロダクションを受けてきたかを各自で振り返りながら、それと比較してほしい。

地理情報システム（G I S）Ⅰ

中山 大地

授業コード：A3471

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 70 分程度の実習を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ArcGIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	ArcGIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001)『地理情報学入門』, 古今書院.
佐土原ほか (2005)『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』, 古今書院.
高橋ほか (2005)『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』, 古今書院.
村井ほか (2005)『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』, 日本測量協会.

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。レポートは ArcGIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないように、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

地理情報システム（G I S）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

ArcGIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを集集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【授業の進め方と方法】

数名でグループを作り、PBL (Problem Based Learning) を行う。グループごとにある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時にグループごとの計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながらグループワークを行う。グループワーク時には毎回作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを持ちいた避難圏の人口推定
第 3 回	グループワーク計画書の作成	グループの作業方針を決定
第 4 回	グループワーク 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	グループワーク 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより、避難所データを手・作成する）
第 6 回	グループワーク 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	グループワーク 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスタデータへの変換、空間分割）
第 8 回	グループワーク 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	グループワーク 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	グループワーク 7	キャッチアップ
第 11 回	グループワーク 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	グループワーク 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	グループワーク 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	グループワーク 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

参考書については地理情報システム (GIS)Ⅰを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないように、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

安全管理・救急救命学

羽佐田 紘大

授業コード：A3581

春学期・1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ECO-TOP プログラムの一環として、野外活動における安全管理・救急救命の基本的な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

野外活動における安全管理・救急救命の知識と技術を修得する。基本的な応急処置が適切に行えるようになる。

【授業の進め方と方法】

野外活動（調査・観察名等）において想定される様々な危険やその対処法について、医師、救急救命士、動植物の専門家、野外活動の専門家などを毎回お迎えし、講義・実習を通して授業の到達目標を達成する。土曜日の午後に 2 時限連続で授業を行うので留意すること。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 4 月 7 日（土）3 限実施 ・ 本授業の受講方法、概要説明
第 2 回	野外フィールドワーク における危険と医学的 対処法	・ 4 月 14 日（土）3 限 中村謙介先生
第 3 回	医学的対処法	・ 4 月 14 日（土）4 限 中村謙介先生
第 4 回	消防署実習（1）	・ 4-5 回同日。4 月下旬～ 5 月 上旬 AED 使用法、心肺蘇生法、包帯 法、止血法などを近隣消防署で学 ぶ
第 5 回	消防署実習（2）	・ 4-5 回同日。4 月下旬～ 5 月 上旬 AED 使用法、心肺蘇生法、包帯 法、止血法などを近隣消防署で学 ぶ
第 6 回	毒ヘビの分類・形態・ 生態	・ 5 月 12 日（土）3 限 西村昌彦先生
第 7 回	ハブ等による被害と予 防・緊急対策	・ 5 月 12 日（土）4 限 西村昌彦先生
第 8 回	野外活動と危険回避 （1） 装備・行動の基本と危 険行動	・ 5 月 26 日（土）3 限 久保田正秀先生
第 9 回	野外活動と危険回避 （2） 人獣共通感染症	・ 5 月 26 日（土）4 限 久保田正秀先生
第 10 回	野外・日常生活での危 険な植物について（1）	・ 6 月 9 日（土）3 限 清水善和先生
第 11 回	野外・日常生活での危 険な植物について（2）	・ 6 月 9 日（土）4 限 清水善和先生
第 12 回	本講義のまとめと振り 返し（1）	集中的に行う。日程は未定。
第 13 回	本講義のまとめと振り 返し（2）	集中的に行う。日程は未定。
第 14 回	本講義のまとめと振り 返し（3）	集中的に行う。日程は未定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テーマに挙げられている事項について、事前に図書等で知識を得ておくこと。各講師ごとにレポートを課す。

【テキスト（教科書）】

なし。ノートをしっかりとること。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

各講師ごとのレポート（50%）及び平常点（50%）により評価する。実習的内容が含まれるため、出席を重視する（極力全時限の出席を望む）。どうしても欠席しなければならない場合は事前に申し出ること。レポートは、消防署実習を除き、出講していただく講師の先生に採点をしていただく。

【学生の意見等からの気づき】

適切な授業情報の提示に努めます。

【その他の重要事項】

基本的に、土曜日の 3・4 限に実施する。具体的な日程は、初回授業時に提示する。なお、6-7 回、8-9 回、10-11 回は同日とするが、お招きする講師の先生の都合によって、順番が入れ替わる可能性がある。消防署実習時は、動きやすい服装が求められるので留意のこと。

インターンシップⅠ

羽佐田 紘大

授業コード：A3582

年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ECO-TOP プログラムでは、行政・NPO・企業の 3 機関でのインターンシップが求められています。このうち、インターンシップⅠでは、行政および NPO におけるインターンシップを実施します。

【到達目標】

機関・部門ごとの環境保全活動や啓蒙活動の特性を理解します。その上で現場感覚を磨き、地に足付いた環境保全活動の実践能力（部門間の調整能力を含む）を身につけることを目的とします。

【授業の進め方と方法】

原則として、行政で 5 日間、NPO で 5 日間のインターンシップを行い、自然環境保全の現場で起きている諸現象を深く理解します。実施に当たっては、事前学習と事前訪問、また実施後の事後報告を行います。このほか、ECO-TOP 認定大学が合同で開催する報告会での発表や学内での発表会等も行います。

○行政（自治体）での実習（自然公園・都市公園管理や廃棄物行政部門など）

○NPO での実習（環境保全活動や、関連する啓蒙活動・広報活動など）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	担当教員による事前指導を受けたのち、受け入れ機関を決定する。その後、受け入れ機関に関する事前レポートと、実施計画書を提出する。
第 2 回	受け入れ先事前訪問	インターン実施前に受け入れ先（各 1 か所）を事前訪問し、受け入れ先担当者との顔合わせと実習内容・日程に関する打ち合わせを行う。
第 3 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 4 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 5 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 6 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 7 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 8 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 9 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 10 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 11 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 12 回	インターンシップの実施	行政（自治体）および NPO での実習
第 13 回	実施報告の提出	すべての実習日程が完了後、実習日誌及び実習報告書を提出する。
第 14 回	報告会等での発表	合同報告会や学内報告会で、実習の内容や成果を報告する。

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターンシップ実施前に、インターンシップ受け入れ先の研究を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。関連資料は事前学習の際に配布します。

【参考書】

関連資料は事前学習の際に配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、報告会での発表および内容（30 %）、報告書の提出および内容（20 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受け入れ先へ提出するものも含め、実習前後にさまざまな提出物があるため、適切な時期に締め切りや様式などについて、わかりやすく連絡するようにします。

インターンシップⅡ

羽佐田 紘大

授業コード：A3583

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ECO-TOP プログラムでは、行政・NPO・企業の3機関でのインターンシップが求められています。このうち、インターンシップⅡでは、企業においてインターンシップを実施します。

【到達目標】

機関・部門ごとの環境保全活動や啓蒙活動の特性を理解します。その上で現場感覚を磨き、地に足付いた環境保全活動の実践能力（部門間の調整能力を含む）を身につけることを目的とします。

【授業の進め方と方法】

原則として、企業で10日間のインターンシップを行い、企業が関係する自然環境保全の現場状況とその業務を深く理解します。実施に当たっては、事前学習と事前訪問、また実施後の事後報告を行います。このほか、ECO-TOP認定大学が合同で開催する報告会での発表や学内での発表会等も行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	事前学習	担当教員による事前指導を受けたのち、受け入れ機関を決定する。その後、受け入れ機関に関する事前レポートと、実施計画書を提出する。
第2回	受け入れ先事前訪問	インターン実施前に受け入れ先（原則1か所）を事前訪問し、受け入れ先担当者との顔合わせと実習内容・日程に関する打ち合わせを行う。
第3回	インターンシップの実施	企業での実習
第4回	インターンシップの実施	企業での実習
第5回	インターンシップの実施	企業での実習
第6回	インターンシップの実施	企業での実習
第7回	インターンシップの実施	企業での実習
第8回	インターンシップの実施	企業での実習
第9回	インターンシップの実施	企業での実習
第10回	インターンシップの実施	企業での実習
第11回	インターンシップの実施	企業での実習
第12回	インターンシップの実施	企業での実習
第13回	実施報告書の提出	すべての実習日程が完了後、実習日誌及び実習報告書を提出する。
第14回	報告会等での発表	合同報告会や学内報告会で、実習の内容や成果を報告する。

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターンシップ実施前に、インターンシップ受け入れ先の研究を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。関連資料は事前学習の際に配布します。

【参考書】

関連資料は事前学習の際に配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、報告会での発表および内容（30％）、報告書の提出および内容（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受け入れ先へ提出するものも含め、実習前後にさまざまな提出物があるため、適切な時期に締め切りや様式などについて、わかりやすく連絡するようにします。

物理学概論

石川 壮一

授業コード：A3501

年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野である、力学、熱力学、電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけでなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

運動、熱、電磁気等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第2回	力学（1）	力のつり合い
第3回	力学（2）	速度、加速度
第4回	力学（3）	ニュートンの運動法則
第5回	力学（4）	万有引力の法則
第6回	力学（5）	仕事とエネルギー
第7回	力学（6）	運動量
第8回	力学（7）	円運動
第9回	力学（8）	その他の運動
第10回	熱学（1）	熱に関する現象
第11回	熱学（2）	熱と仕事
第12回	熱学（3）	理想気体
第13回	熱学（4）	分子運動
第14回	まとめ	力学と熱学のまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	電磁気学（1）	電荷と電流
第16回	電磁気学（2）	回路
第17回	電磁気学（3）	電場と磁場
第18回	電磁気学（4）	発電機とモータ
第19回	電磁気学（5）	電磁波
第20回	波動（音、光）（1）	波動の基本
第21回	波動（音、光）（2）	屈折、分散、全反射
第22回	波動（音、光）（3）	偏光、回折、干渉
第23回	現代物理学（1）	光の粒子性
第24回	現代物理学（2）	熱放射と原子スペクトル
第25回	現代物理学（3）	原子モデル
第26回	現代物理学（4）	ミクロ世界の法則
第27回	現代物理学（5）	光の不思議な性質（相対性理論）
第28回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習問題を解く。
- ・授業内容と関連する現象について調べる。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

【参考書】

- ・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（80%）、演習・出席等の授業への貢献度（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

化学概論

中島 弘一

授業コード：A3502

年間・4 単位

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート未実施

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマ

高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】

化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

この授業は、理科の教職資格取得のために設定された科目であるので、内容的には、高校の教科書で扱う無機化学、物理化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を十分に理解するために、高校教育で教える範囲を大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の歴史	元素とは何か？ 発見に至る過程から学ぶ
第 2 回	原子の構造（1）	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第 3 回	原子の構造（2）	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道が解明される過程から電子配置の考え方を学ぶ
第 5 回	電子配置と化学的性質	電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第 6 回	物質の構成と結合	化学結合の種類と反応性について学ぶ
第 7 回	物質の三態（1）	単位、並びに温度と圧力の考え方を学ぶ
第 8 回	物質の三態（2）	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第 9 回	気体の性質（1）	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第 10 回	気体の性質（2）	理想気体と実在気体の違いは何か
第 11 回	濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第 12 回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第 13 回	熱力学と反応	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第 14 回	反応速度と平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	酸と塩基（1）	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第 16 回	酸と塩基（2）	水素イオン濃度指数の概念を学ぶ
第 17 回	酸化還元（1）	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第 18 回	酸化還元（2）	電池と電気分解を学ぶ
第 19 回	無機化学（1）	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 20 回	無機化学（2）	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 21 回	有機化合物（1）	有機化合物の構造と特徴を学ぶ
第 22 回	有機化合物（2）	有機化合物官能基による化合物の分類について学ぶ
第 23 回	有機化合物（3）	異性体の考え方と特徴を学ぶ
第 24 回	有機化合物（4）	脂肪族化合物と芳香族化合物の反応性の違いを学ぶ
第 25 回	有機化合物（5）	合成高分子化合物の種類と特徴を学ぶ
第 26 回	生化学（1）	糖質の構造と種類、生体内での働き
第 27 回	生化学（2）	アミノ酸とタンパク質、生体内での働きを学ぶ
第 28 回	生化学（3）	遺伝子の構造と生体内での働きを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書の章末問題を事前に解いたうえで、授業に臨む。
近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】

「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】

「検定外 高校の化学」坪村 宏ほか著（化学同人）

「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとに行う練習問題の正答率（20 %）と期末試験の結果（80 %）をもとに評価する。

生物学概論

島野 智之

授業コード：A3503
年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学各分野（細胞学、遺伝学、発生学、生理学、生態学、分類学、進化学）を順に紹介していきます。ただし、網羅的にならないよう相互の関連性を重視しつつ講義を進めます。近年、理科離れ対策として、子供の自然にたいする素朴な興味を育てる自然史教育が重視されています。この流れで、生物学ではこれまで軽視されてきた生物多様性に関する分野（分類、生態、進化）が見直されつつあります。また、環境教育が重視されるようになり、その観点からもこれらの分野への関心が高まっています。本講義では、これらの三分野についても詳しく紹介します。

【到達目標】

教職科目なので、高校で学ぶ生物学の各分野をできるかぎり幅広く学んでもらいます。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。生物学は画像から得られる情報が多いので、静止画や動画を使って解説します。毎回ではありませんが、理解度を確認するための小テストも行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	1 年間に学ぶ講義の主な内容を紹介します。
第 2 回	生物界の概要：無脊椎動物の進化	生物進化を扱ったビデオを見て、生物界のおよその全体像を把握する。
第 3 回	生物界の概要：脊椎動物の進化	生物進化を扱ったビデオを見て、生物界のおよその全体像を把握する。
第 4 回	生物界の概要：生命の起源～単細胞生物	前回までのビデオでは扱っていない部分をスライドと教科書を使って紹介する。ここでは進化の初期段階を取り上げる。
第 5 回	生物界の概要：多細胞生物の進化	ここでは多細胞生物（動物や植物）が出現した後の進化を紹介する。
第 6 回	生物界の概要：生物界の多様性	これまでに紹介した内容をもとに、生物界を構成する主な生物群について紹介する。
第 7 回	細胞学：細胞の構造と機能 1	細胞の基本的な構造と機能について、教科書とスライドを用いて解説する。
第 8 回	細胞学：細胞の構造と機能 2	同上。
第 9 回	細胞学：原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違いについて教科書とスライドを用いて説明する
第 10 回	細胞学：単細胞生物の多様性	微生物の多くは単細胞生物だが、どのような生物がいるかをスライド、動画などを用いて紹介する。
第 11 回	遺伝学：遺伝子の発見	メンデルがどうやって遺伝子を発見したか、遺伝子とは何かをスライドと教科書を使って解説する。
第 12 回	遺伝学：古典遺伝学の特徴と限界	生きた生物を扱うメンデル式の遺伝学から、分子レベルで遺伝子を扱うようになるまでを解説する。
第 13 回	遺伝学：古典遺伝学から分子遺伝学へ	生きた生物を扱うメンデル式の遺伝学から、分子レベルで遺伝子を扱うようになるまでを解説する。
第 14 回	遺伝学：DNA = 遺伝子の証明とその後	分子遺伝学が発展することで生物学の他の分野と融合し、分子生物学が誕生した。その応用としての生物工学（バイオテクノロジー）についても紹介する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発生学：減数分裂と受精	多細胞生物（動物&植物）の発生の基礎となる減数分裂と受精について紹介する。
第 2 回	発生学：動物の発生／胚発生の過程	動物における受精、胚発生の過程についてスライドやビデオを使って紹介する。
第 3 回	発生学：植物の発生／生活史の比較	植物の多様な生活史を模式図を使って比較する。
第 4 回	発生学：発生遺伝学&発生工学	発生のしくみを遺伝子レベルで解き明かそうというのが発生遺伝学、その応用が発生工学。これらについて紹介する。
第 5 回	生理学：身体構造と機能	人間の身体の仕組みを細胞、組織、器官の各レベルごとに理解する。
第 6 回	生理学：恒常性の維持、免疫など	体温や血糖値などが一定に維持されるしくみや、各種ホルモンの作用。さらに、免疫のしくみについても紹介する

第 7 回	生理学：植物の生長生理（発芽など）	植物の生長のしくみをビデオ等で紹介する。
第 8 回	行動学：動物行動学の基礎	動物の様々な行動のしくみについてビデオと資料を使って紹介する。
第 9 回	行動学：比較行動学の紹介	比較行動学の祖と云われるフリッシュ、ティンバーゲン、ローレンツの研究について紹介する。
第 10 回	生態学：生活形、群集・群系、個体群	生態学の基礎知識について解説する。生態系、ニッチ、遷移など。
第 11 回	生態学：生態系、地球環境問題など	生態学が直面する今日の課題について紹介する。生物多様性など。
第 12 回	分類&進化：種とは何か	生物学の基礎である種について考える。種とは何か？ 種の定義は？ 種は実在するのか？ など。
第 13 回	分類&進化：進化のしくみと系統進化	従来の進化学とともに、分子レベルの研究に基づく最新の進化学についても紹介する。
第 14 回	生物進化の過去・現在・未来	進化学の視点に立って人類の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビやインターネットでは生物学関連の話題が取り上げられることが多いので、これらと授業で学んだこととの関連性を理解するように努力してほしい。不明な場合は、授業の際に質問してください。

【テキスト（教科書）】

ガイダンスの際に指示します。

【参考書】

関連資料を必要に応じて配布します。入手可能であれば、中学・高校の生物教科書、または、生物資料集なども参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

各学期の最後にレポートを提出してもらいます（70 %）。これが基本ですが、講義時に提出された文書（ビデオの感想、小テストなど）や質問など授業への積極的な態度も評価の対象（30 %）に加えます。

【学生の意見等からの気づき】

各人の理解の進み具合を確認するために、可能な限り、同じ内容の復習テストを何度も繰り返して行います。これにより、受講生全員が基礎的な知識を確実に身につけることを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教職科目である以上、幅広い知識を得ることが大切です。その意味で、レポートのテーマは極力各自の苦手な分野から選び、自分に不足している知識を補うのに役立ててください。

物理学実験 (コンピュータ活用含)

井坂 政裕

授業コード：A3504

年間・2 単位

【学生の意見等からの気づき】

履修者が少ないためアンケートは実施していない。学生から要望があれば対応したい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、重力、波動、電気、熱、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行う。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用いる予定である。実験にはテキストの他に、ノート、定規と電卓が必要である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることで、器具の使用方法を学ぶ。
第 2 回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第 3 回	重力について	第 4 回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第 4 回	落体実験	落体実験を行う。
第 5 回	波動について	第 6、7 回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第 6 回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第 7 回	音さの振動数の測定	音さの振動数の測定実験を行う。
第 8 回	光の波動性について	第 9 回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第 9 回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第 10 回	光の粒子性について（エネルギー量子）	第 12、13 回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第 11 回	光の粒子性について（光子量子仮説）	第 10 回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第 12 回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第 13 回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	第 1 回から第 13 回までに実施した実験について、まとめを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	熱・エネルギーについて	第 16、17 回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第 16 回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第 17 回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第 18 回	分子運動について	第 19 回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第 19 回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第 20 回	電気について	第 21 回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第 21 回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行板コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第 22 回	原子・原子核について	第 23 回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第 23 回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第 24 回	レーザーについて	第 25 回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。
第 25 回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第 26 回	剛体について	第 27 回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。
第 27 回	振り子による重力加速度の測定	ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。
第 28 回	まとめ	第 15 回から第 27 回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストもしくは事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要である。また、実験後はデータ整理とレポート作成が必要である。

【テキスト（教科書）】

法政大学自然科学センター物理学研究室『物理学実験』

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

各実験のレポート (90%) と平常点 (10%) で評価する。

化学実験 (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3505

年間・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【授業の進め方と方法】

実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピュータを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第 3 回	秤量と測容	質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。
第 4 回	測容器の精度	いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。
第 5 回	溶液の濃度	各種濃度の計算方法と、その換算方法について。
第 6 回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第 7 回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pH についての講義。
第 8 回	中和滴定実験 1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第 9 回	pH 変化のシミュレーション	中和滴定における pH 変化を Excel で計算する。
第 10 回	中和滴定実験 2	pH メーターを用いた、滴下量と pH 変化の関係。
第 11 回	実験レポートの点検	これまでの実験レポートの見直し。
第 12 回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第 13 回	金属イオンの系統分析 1	金属イオンの分属と分離について。
第 14 回	金属イオンの系統分析 2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 16 回	ファラデーの法則	電気量と物質量について
第 17 回	無電解めっき	銀鏡反応と自己触媒無電解めっきの実験
第 18 回	分子模型 1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第 19 回	分子模型 2	共役二重結合を持つ分子の立体構造について。
第 20 回	分子模型 3	立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用について。
第 21 回	アルコールの性質	アルコールの特徴とその反応について。
第 22 回	アルコール発酵	酵母を用いた糖の分解実験。
第 23 回	エステル合成	脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第 24 回	アミンの性質	アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。
第 25 回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応と、反応生成物の精製。
第 26 回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第 27 回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第 28 回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に係る項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。

【テキスト（教科書）】

実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認（質問）しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

pH 変化のシミュレーションを行うときに PC を使います。

生物学実験 (コンピュータ活用含)

島野 智之

授業コード：A3506

年間・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものが多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	顕微鏡の使用法 (含マイクログロメーターの使用法)	顕微鏡の使用法の説明、顕微鏡の手入れと道具の作成
第 2 回	細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測	植物細胞の観察、顕微鏡での計測方法、観察
第 3 回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察、顕微鏡での生細胞の観察
第 4 回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察、染色体の観察
第 5 回	昆虫の採集及び観察	野外にて節足動物を調査する。レポートの作成
第 6 回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物 (大型節足動物) の生理を学び、体の仕組みを理解する。
第 7 回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し、顕微鏡観察するテクニックを学び、同定する方法を理解する。レポートの作成
第 8 回	土壤動物の抽出法	野外での土壤の観察と土壤動物の採集方法を学ぶ。
第 9 回	土壤動物の採集・分類と観察 (コンピュータを使用した統計処理)	土壤動物とはなにか、図鑑の使い方、調査方法概説
第 10 回	群集生態学的解析 (コンピュータを使用した統計処理)	コンピュータの統計解析ソフトを使って、土壤動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ。
第 11 回	細菌の観察 (コンピュータを使用した統計処理)	細菌数を計測し、成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く
第 12 回	真菌 (不完全菌、接合菌、子のう菌、担子菌) の観察	真菌を採集し同定する。レポートの作成
第 13 回	植物の葉の内部構造の観察	単子葉、双子葉の茎頂などを観察し、植物の生長点について学ぶ。
第 14 回	試験、まとめ (レポートの書き方)	試験、まとめ (レポートの書き方)

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較	光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する。
第 16 回	植物組織と動物組織の観察	動物細胞 (頬の粘膜細胞、その他、動物細胞) と、植物細胞の違いを学ぶ。
第 17 回	呼吸 [酵母の無気呼吸 (発酵) による二酸化炭素の測定]	呼吸 [酵母の無気呼吸 (発酵) による二酸化炭素の測定]
第 18 回	細胞運動 [魚鱗色素胞の観察]	魚鱗色素胞の観察
第 19 回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や、クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する。
第 20 回	カタラーゼとアミラーゼ (酵素活性測定実験)	酵素活性の測定
第 21 回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい、学名の構造について理解し、図鑑の使い方を学ぶ。
第 22 回	図鑑を作る：大学周辺の動物 (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後、データベースを作成する。
第 23 回	図鑑を作る：大学周辺のコケ (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後、データベースを作成する。

第 24 回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物 (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後、データベースを作成する。
第 25 回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得。
第 26 回	プラスミド DNA の調製	プラスミド DNA と遺伝子組換えについて学ぶ。
第 27 回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミド DNA とゲノム DNA について、アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ。
第 28 回	試験、まとめ (レポートの書き方)	試験、まとめ (レポートの書き方)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。次回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと (その方法なども伝えます)。また、実験の後には、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の 4 点について、これをまとめて提出すること。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典・株式会社東京化学同人 (2010 年)

【成績評価の方法と基準】

レポートと試験に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

心理学科

心理学科の卒業論文について

「卒業論文」授業コード A2000 8 単位

【卒業論文の目標・目的】

文学部心理学科では、卒業論文を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・実証力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成する、4 年間の学業の集大成です。学科の教育目標にのっとり、①実証的論理構成能力の養成、②批判的思考力の涵養を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章やデータで他者に伝える作業に徹底的に携わることを目的とします。

【卒業論文の概要と方法】

3 年次に提出する卒業論文指導希望調査票によって学科で決定した教員の指導のもとで論文を完成させます。卒業論文指導願の提出は 4 年生になってから行ないますが、2 年次からの演習などの授業に参加しながら卒業論文に対する意識を高め、自主的に専門書や論文を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です（卒業論文の登録は 4 年次に行いますが、1 年間でできるものではありません）。1 月の卒業論文提出後に、面接審査に代わる研究発表会を行ないます。一般の授業で言えば定期試験に相当するその発表会での質疑応答までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【卒業論文の評価基準】

心理学科では、提出された論文について、以下の 10 項目について評価し、面接審査（発表会）での質疑に対する応答を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、E の判定を行ないます。①タイトルの適切さ、②問題の適切さ、③研究方法の適切さ、④データ分析法の適切さ、⑤図表表現の完成度、⑥考察における文献の検討と問題との対応、⑦論文の独創性、⑧全体構成の論理性・明快さ、⑨文章表現の明快さ・分かりやすさ、段落構成の適切さ、⑩誤字・脱字、表現の不統一のなさ。

【その他】

- ・実験・調査・検査などを行なうにあたっては、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会が作成する「人を対象とした研究倫理ガイドライン」を遵守し、実施に先立ち同委員会に「研究計画書」を提出し承認を得なければなりません。

- ・一連の卒業論文関係の説明会や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文」の当学科の記載をよく読むとともに、心理学実習室前の掲示や『法政心理ネット』の記載に注意してください。

- ・卒業論文の要旨は『法政心理学会年報』に掲載されます。

- ・研究のオリジナル性を満たすため、文献の引用は適切に行ない、剽窃の疑いが生じることのないよう注意してください。

- ・法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会への申請や卒業論文作成の詳細については、web ページ『法政心理ネット』の「卒論・修論・博論」のページに記載されているので、注意深く読んでおいてください。

- ・卒業論文の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。1 ページあたりの字詰めは 40 字×30 行＝1,200 字、文字サイズは 11 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。表紙、目次、資料は除いた本文（ただし図表は含む）と引用文献一覧がこの書式で 17 ページめの最終行まで埋めるか超えることが必要条件です。表紙は各自で心理学科用のものを生協で購入して使用してください。

- ・「卒業論文要旨」の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。レイアウトは二段組み、文字サイズは 9 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。氏名、クラス、学生証番号、指導教員名、キーワードを明記してください。この書式で図表や引用文献一覧などを含めて 1 ページに収めることが必要条件です。

心理学概論

福田 由紀

授業コード：A3601

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらノートを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながら整理されたノートを作ることができる。

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、授業用の資料は、階層構造を意識したノート作りに役に立ちます。さらに授業内で簡単な質問への答えや、作業の結果に対する意見をチャトルシートに記述し、提出してもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	小テスト1の実施と解説、記憶	小テスト1とその解説、ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第9回	小テスト2の実施と解説、動機づけ	小テスト2とその解説、動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストの実施とその解説	期末テストの実施とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

*次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的に行っている日々の自分の行動を省察する。
- 第4回 小テスト1の準備に関する自己評価を行う。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 他人への配慮の難しさを省察する。
- 第8回 小テスト2の準備を行い、自己評価する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編 培風館 2010年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点10%と小テスト2回分の結果を20%、期末テストの結果を70%として、総合点により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらうチャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。小テストには追試はありません。一方、期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式で行われます。階層構造を意識したノートを取ることで、自分の知識が明確化され、小テストと期末テストで高い評価が得られると思います。なお、原則として、欠席が5回以上の場合には、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

ここ何年間か、「メモを取るスキル」を習得・向上を授業目標に挙げています。そのために、使用したスライドを授業後に授業支援システムにアップしました。そうしたら、「どうせ、アップされるのだから、メモ取る気がない」という回答がありました。あちゃー。ということで、授業後のアップをやめました。そうしたら、「全然、メモ取れないので、内容がわからない」という回答がありました。これはダメ・・・。ということで、2017年度では、授業前に何をするかのスライドのみを授業支援システムにアップしました。その結果、①スライドを移動が速すぎてメモ取れない ← ゆっくりやります。②全部移したいから、写メ取りたい ← メモを取るスキルを身につけようという意義が伝わっていない！ 初回の授業で話したけど休みだったのかな？ 一方、③もっとテンポ良くてもよかった ← 速すぎるという意見と逆！ という具合でした。心理学には適性処遇交互作用という現象が知られています。この場合に当てはめると、ある特性を持っている人に、その特性に応じた最適な教授法があり、その教授法は他の特性を持っている人には最適とは限らないということです。教授・学習過程の永遠のテーマです。そうは言っても、結局、大多数にあわせるしかありません。「スライド速すぎ」に関しては、複数の意見があったので、次回、改善したいと思います。ありがとうございました。

【その他の重要事項】

心理学概論では広い分野を扱います。そのため、1回目の授業から実質的な内容となります。初回から参加してください。また、毎回異なったテーマを扱いますので、各授業がそれぞれ重要となります。さらに、授業中作業をする機会がありますので、積極的に参加してください。そして、小テストによって自分の学習活動状況をその都度確認しましょう。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

心理学史

高砂 美樹

授業コード：A3602

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

高砂美樹 2011 心理学史ははじめの一步 アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子レベルの神経伝達物質から高次脳機能まで、脳科学の中でも心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するのかを概略し、説明できるようにします。

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	睡眠覚醒機構・生体リズム、性別の問題	睡眠と覚醒はどこで調整されるのか、男性と女性の脳の分化やその仕組みや機能
第 13 回	知識の復習	達成度テストの復習・まとめ
第 14 回	総合的な振り返り、脳の科学の今後の展望	うつ病は学生時代の不眠と関係する？うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割をする？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回レポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

新井康充（2000）脳とニューロンの科学 裳華房

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

前々年度・前年度は担当者が異なっていましたので気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。授業支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを授業支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

実施の順序については変更することがあるため、授業支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。

認知心理学

吉村 浩一

授業コード：A3620

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の知覚を中心とする認知研究が、心理学の中でどのように行われているかの全体的流れを解説します。特に、知覚の中心的研究対象である視覚だけでなく、視覚と他の感覚様相との関係に焦点を当てて講義します。

【到達目標】

「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることは確かかなことはないようにいわれがちです。しかし、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができるはずです。本授業では、知覚し認知するという心のはたらきを扱う認知心理学の概要を学ぶことにより、そのような能力の基礎を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業では、さまざまな画像の提示を必要とするためパワーポイントを使って行いますが、毎回の授業では、それに先立ち理解のアンカーポイントをあらかじめ示しておくため、板書による講義を先行させて進めます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	心理学の中で「認知」という考え方がどう位置づけられているかの概要説明
第 2 回	思考過程まで守備範囲とする認知心理学	素朴物理学やヒューリスティックなど人間特有の思考法の解説
第 3 回	情報論的アプローチ	認知心理学の重要な特徴であるコンピュータ・アナロジーの説明と人工知能研究との分かれ目の指摘
第 4 回	心のはたらきのモデル化	3 つのタイプのモデルの提示と構成概念との関係の解説
第 5 回	知覚とイメージ	イメージすることと知覚することの類同性を裏づける実験
第 6 回	知覚の病理	脳損傷による知覚機能の障害例を紹介し、脳機能が知覚することにいかに重要に関わっているかの理解を促す
第 7 回	目の構造	ヒトの目の構造の解説
第 8 回	眼球運動	視覚情報をキャッチするための目の動きの理解
第 9 回	逆さめがね実験（1）	目から入る映像情報が逆さになるめがねを着けたときどのようなことが起こるか、さらにはそれを長期間着け続けることによりどのような変化が生じるかの事実を解説する
第 10 回	逆さめがね実験（2）	上記の実験により生じる変化について、これまで心理学が行ってきた研究的解釈の紹介
第 11 回	視覚の優位	逆さめがね研究のように、視覚情報とそれ以外の感覚情報（触覚・聴覚・自己受容感覚など）が矛盾する情報を与えられたとき、原則的には視覚情報に沿う空間認知が章いることの解説
第 12 回	視覚の優位に反する知見	近年は、視覚の優位に反する事例が多く紹介されている。それらについての解説
第 13 回	資料に基づく議論の構築	心理学では実験を行うなど、取り組むテーマに関するデータを自ら生成し、それに基づいて議論を組み立て主張を行う。そのスタイルの意義についての解説
第 14 回	期末テストと全体の総括	期末テストを行った上で、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマや内容について、ほぼ毎回の授業から試験問題を提示する。受講者はそれぞれの課題について文献やインターネットで情報を収集し、そのテーマについて各自の考え方をまとめ評価する作業を授業時間外に行うとともに、学期末試験に備える。

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

三浦佳世（編著）『現代の認知心理学 1：知覚と感性』2010（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と期末テスト 50 % により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教材の配布が少ないとの指摘を受け、毎回の授業で使うパワポ資料をエチュードに教材としてアップして配布します。

発達心理学

堀口 康太

授業コード：A3622

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、受精から老年期に至る生涯発達の過程について、それぞれの発達段階で直面する発達課題を中心に、エピソードを交えたかたちで各段階の発達の特徴を理解する。発達心理学という学問を通して、子育て、教育、働くこと等、社会の中で生きることや、社会に還元するための知識の学習や探索の仕方を学ぶ。

【到達目標】

人間の生涯発達についておおまかに、各発達段階の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで議論したり、実際の生活に活かすことができるように理解を深めることを目標とする。

（1）人間の生涯発達に関する研究成果や理論についての学ぶ

（2）学んだ知識を実際の生活に活かすためにはどうすればいいか考えられる。

【授業の進め方と方法】

原則、講義形式で行い、適宜、DVD 等の視聴覚教材を用いる他、グループ討議等の学習形式も採用する。受講者には、積極的な発言、討議、質問による参加、テキストの事前予習、復習を期待する。授業の最後には、授業の感想を毎回求める。

☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは何か？	人が「発達していく」ということを自分の発達から考えると共に、発達課題の考え方を学ぶ。
第 2 回	胎児期・乳児期の発達	胎児が生まれてくるまでの過程や乳児の能力について認知能力や自己感という視点から学ぶ。
第 3 回	タドラ一期の発達	およそ 1 歳から 2 歳までの期間において、基本的生活習慣の獲得等の発達の特徴について学ぶ
第 4 回	幼児期の認知機能と母子関係	幼児期の身体的発達、認知機能、養育者との関係の発達について学ぶ。
第 5 回	幼児期の対人関係と社会性	幼児期の対人関係、社会性、幼児期で直面しやすい臨床的な問題について学ぶ。
第 6 回	児童期の認知機能と社会性	児童期の認知機能と社会性の発達について学ぶ。
第 7 回	児童期の学校適応と動機づけ	児童期における学校への適応の問題や学習意欲に関して学ぶ。
第 8 回	思春期の発達	思春期における親との関係対人関係や思春期特有の問題について学ぶ。
第 9 回	青年期の発達	アイデンティティ、時間的展望、キャリア発達など青年期特有の発達課題について学ぶ。
第 10 回	成人期のキャリア発達	仕事に就くこと、仕事上のストレス等、特にキャリア発達の側面から成人期を理解する。
第 11 回	成人期の家庭生活	親になること、子育て、児童虐待等、成人期にまつわる家庭生活上の発達課題について理解する。
第 12 回	中年期の危機	危機、アイデンティティという観点から中年期という発達段階を理解する。
第 13 回	中年期から老年期の発達	中年期の夫婦関係や老いることについて理解する。
第 14 回	老年期の発達	老年期の発達について、生きがいや認知症など含めて包括的に学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前の準備として、授業で取り上げる章を読み、大まかに各発達段階の特徴をつかんでおくことが望ましい。また、知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。事前に理解が難しかった部分については、授業で質問するようにし、授業後は復習することを勧める。各段階の発達を自分のこととして理解するための宿題を出す場合もある。

【テキスト（教科書）】

『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編著（ミネルヴァ書房）

【参考書】

『ヒューマン・ディベロップメント』青柳肇・野田満 編著（ナカニシヤ出版）

『図でわかる発達心理学』新井邦二郎 編著（福村出版）

【成績評価の方法と基準】

授業毎のリアクションペーパーの記述内容（50 %）

学期末の筆記試験（50 %）

※リアクションペーパーは出席の代わりでないので白紙や授業に関係のない記述は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。

【その他の重要事項】

授業支援システム等に入ること。

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらノートを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②①について他者に説明ができる。
- ③言葉の働きについて、心理学的な見方できる。
- ④聞きながら整理されたノートを作ることができる。

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。授業中、教科書を使いますので毎回持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。また、授業内で簡単な質問への答えや作業の結果に対する意見をシャトルシートに記述し、提出してもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因：既有知識 1	物語文法、物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因：既有知識 2	スクリプト、視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの応用：日常生活への応用	広告の作成方法
第 13 回	状況モデルの応用：言語の特性を考えた能力開発への応用	線条性やワーキングメモリからみた読み書き指導
第 14 回	期末テストとその解説	期末テストとその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。

- 第 1 回 各自に語彙数を推定する。
- 第 2 回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第 3 回 類似語を選定する。
- 第 4 回 規則語と例外語の例を書く。
- 第 5 回 ガーデンパス文を修正する。
- 第 6 回 Sacks の実験材料を読み、質問に答える。
- 第 7 回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第 8 回 行間を読むとは具体的にどのようなことを指すかを書く。
- 第 9 回 Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。
- 第 10 回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第 11 回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
- 第 12 回 読みにくい文章の例を書く。
- 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

【テキスト（教科書）】

言語心理学入門－言語力を育てる－福田由紀編 培風館（2012 年）

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 10%と期末テスト 90%により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末テストでは、選択問題を予定しています。選択式問題の内容は知識の確認と応用問題です。なお、原則として、欠席が 5 回以上の場合には、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

ここ何年間か、「メモを取るスキル」を習得・向上を授業目標に挙げています。そのために、使用したスライドを授業後に授業支援システムにアップしました。そうしたら、「どうせ、アップされるのだから、メモ取る気がない」という回答がありました。あちゃー。ということで、授業後のアップをやめました。そうしたら、「全然、メモ取れないので、内容がわからない」という回答がありました。これはダメ……。ということで、2017年度では、授業前に何をするかのスライドのみを授業支援システムにアップしました。その結果、①スライドを移動が速すぎてメモ取れない ← ゆっくりやります。②全部移したいから、写メ取りたい ← メモを取るスキルを身につけようという意義が伝わっていない！ 初回の授業で話したけど休みだったのかな？ 一方、③もっとテンポ良くてもよかった ← 速すぎるという意見と逆！ という具合でした。心理学には適性処遇交互作用という現象が知られています。この場合に当てはめると、ある特性を持っている人に、その特性に応じた最適な教授法があり、その教授法は他の特性を持っている人には最適とは限らないということです。教授・学習過程の永遠のテーマです。そうは言っても、結局、大多数にあわせるしかありません。「スライド速すぎ」に関しては、複数の意見があったので、次回、改善したいと思います。ありがとうございました。

【その他の重要事項】

授業の基本は講義形式ですが、授業中に作業等してもらいます。積極的な取り組みを期待します。また、質問やコメント大歓迎です。1回目の授業から実質的な内容となりますので、初回から参加してください。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるように理解することを到達目標とします。また、そうすることで自分の生活を有意義なものにしていくという考え方を身につけてもらいたいと思います

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第3回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第4回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第5回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第6回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第7回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第8回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第9回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第10回	学習方略	自律的な学習のために
第11回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第12回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第13回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第14回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識を持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させた上で授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論の実践」藤田哲也(編)(2007) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、予習シートを作成してくること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。

期末レポート(60%)…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。が、「履修してよかった」の評価は **4.59** と、及第点でした。「理解度」も **4.18** と低くはないのですが、「授業外学習時間」での最頻値が週 **30 分～1 時間未満 (59%)** でしたので、もう少し予習に力を入れてくれるよう、工夫の余地があると感じました。自由記述ではペアワークで友達同士で組まないように工夫した方がよい、と何人か書いてくれました。気づいていながらも効果的な介入ができなかった部分ですので、改善します。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をします。ので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

【到達目標】

- 基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
- 標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
- 日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。
第 2 回	「問題」とは？ 心と行動の区別	解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。個人攻撃の罠について学びます。
第 3 回	好子と嫌子	生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。
第 4 回	強化と弱化	基本的な行動随伴性について学びます。
第 5 回	課題分析	標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。
第 6 回	シェイピング	新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 9 回	AB 分析#1	オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第 10 回	AB 分析#2	情動の条件付けや知覚学習について学びます。
第 11 回	ABC 分析#3	ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
第 12 回	観察法	インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第 13 回	行動分析学の実験計画法	シングルケース研究法（反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法）について学びます。
第 14 回	まとめ	授業で学んだ行動分析学の考え方を、使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。レポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。

最終回までに、行動分析学を用いて、社会的な問題を解決する具体的な方法について考え、まとめるレポートを作成します。

【テキスト（教科書）】

- 『パフォーマンス・マネジメントー問題解決のための行動分析学』島宗 理（著）2000 年 米田出版

【参考書】

- 『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房
- 『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
- 『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
- 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】

クイズ 40%、授業内演習課題 30%、レポート 30%として成績を評価します。ただし、レポート提出は必須です。レポートを提出しないと成績は自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】

73 人中 56 人が回答してくれました（77%）。そのうち 52 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（93%）。

web クイズを高く評価してくれる声が多かったです。実は授業中のクイズの得点にも反映されていました。web クイズがなかった去年と今年を比べると、今年の方がクイズの獲得点が 2 割以上高かったです。教材と動機づけの仕組みさえあれば、みんなしっかり勉強するということが改めて確認できました。

早口になる（って聞き取りにくい）、スライドに手書きの字が重なる（読みにくい/読めない）などの意見は、毎年頂いていますが、中々改善できません。特に今年度は授業とは関係のない無駄話をして、かつ、授業の最後に質疑応答の時間をとることも目標にしていたましたが、達成できませんでした。来年度、授業時間が長くなるので次こそはと意気込みます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスやレポートの作成などに PC を多用します。

【その他の重要事項】

○オフィシアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

社会心理学

越智 啓太

授業コード：A3625

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などというと難しそうな感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」っていいのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋と CD ショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けられない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。

授業の目的・意義

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】

(1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。

(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】

授業内容：

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。

授業方法：

講義形式

記憶する必要がある用語のリストや基本的な授業のまとめノートは授業支援システムからダウンロードできる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究 方法
第 2 回	対人印象形成（1）	中心特性、初頭効果
第 3 回	対人印象形成（2）	ステレオタイプ、ステレオタイプの形成、ステレオタイプの維持
第 4 回	外見的魅力（1）	美人、ハンサム、外見的魅力を規定する平均顔仮説
第 5 回	外見的魅力（2）	外見的魅力を説明する進化心理学仮説、身体の魅力、魅力認知の性差
第 6 回	恋愛行動（1）	恋愛行動の形成、進展、SVR 理論、情動と恋愛、錯誤帰属、恋愛のスキル
第 7 回	恋愛行動（2）	恋愛の類型論、恋愛の崩壊
第 8 回	恋愛行動（3）	恋愛の個人差、愛の結晶化現象、愛の再確認傾向と恋愛
第 9 回	自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第 10 回	セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第 11 回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響
第 12 回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム
第 13 回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第 14 回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。授業資料には、各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）と設問が書かれているので、この用語を記憶し、使いこなせるようにするとともに、設問を解いておくこと。設問についてはレポートとして提出させる。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する場合がある。

【参考書】

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。

筆記試験（80%）+小レポート（20%）

授業後に提出するコメントで若干の加算を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】

- (1) 「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
- (2) 試験の記述問題については、専門用語を使用し、現象を実証的に説明していくことが必要。ただの具体例や感想だけではもちろん点数にならない。
- (3) **A+**も相当数つけるが、毎年、**D** 評価のものが10人～20人程度はでている。

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を話す、覚える、考える、他者とかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心を働かせる、学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業内にペアワークを行ったり、授業中にコメントシートを作成することで、授業への能動的な参加が期待されます。およそ3回に1回の頻度で授業時間の一部を使って小テストを行う予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明, 「認知科学」とはどんな学問か, 「知的活動」とは何か
第2回	認知科学の歴史	心理学の略歴, 認知科学の誕生, 認知科学の諸分野
第3回	知覚	心への入口としての感覚と知覚, 感覚の範囲, 物理量と心理量の関係, 感覚のしくみと種類
第4回	視知覚	感覚の一般的特性, 形の知覚と知覚的体制化
第5回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚, 高次知覚過程 (パターン認識, トップダウン処理とボトムアップ処理, 文脈効果), 顔の表情認知
第6回	聴知覚	音の正体, 音の大きさ・高さ・音色の知覚, 聴覚情景分析
第7回	視聴覚の統合	選択的注意, 音声の知覚, 視覚と聴覚の統合
第8回	言語	言語とはどんなものか, 言語知識, 言語獲得
第9回	記憶	記憶の流れと区分, 短期記憶と長期記憶, 日常生活と記憶, 記憶の変容
第10回	知識	概念やスキーマとしての知識, 心的表象, 命題や文の心的表象
第11回	思考	思考, 推論, 問題解決
第12回	情動	情動とは, 情動と脳, 情動を認知するためのメカニズム, 情動の変化を定量的に捉える
第13回	社会的認知	社会的認知とは何か, 社会的条件の影響, 対人認知
第14回	試験	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

エチュードに事前にアップされた資料を読んだり、授業後に内容を振り返ることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。およそ3回に1回の頻度で行われる小テストに備えることで、内容の理解度を段階的に確かめましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。授業時に資料を配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）. 新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版.

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 小テスト 30%, 期末試験 50%の割合で評価する予定です。原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合、期末試験が未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度は、受講生 75 名中 63 名がアンケートに回答してくれました。回答者 63 名のうち、「履修してよかったか」という問に「4」か「5」で回答してくれた人が 45 名（71%）。「理解できたか」という問では 39 名（61%）。「工夫されていたか」という問では 47 名（75%）でした。おおむね履修してよかったけど所々難しかったようですね。授業外学習時間については約半分の人が 30 分～1 時間と回答していました。自由記述欄のコメントをたくさんいただきましたが、まとめると、よかった点として、「レジュメが穴埋め形式でよかった」「資料がエチュードに載っていて復習しやすかった」「ペアワークでやったことは記憶に残るのでごくよかった」「小テストのおかげで知識が定着しやすかった」といったコメントをいただきました。改善すべき点としては、「小テストが難しく授業が嫌いになりました」「レジュメの行間が狭く、用語説明が長く、たまに読みにくい箇所があったのもう少し見やすくしてほしい」「レジュメの穴埋め・記入欄を増やしてほしい」「ペアワークを増やしてほしい」「毎回のプリント印刷が大変だった」「プリントを読む講義形式を減らして体験型の要素を増やしてほしい」といったコメントをいただきました。小テストの難易度、ペアワークの頻度、レジュメの内容については来年度に向けて検討させていただきたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

心理統計法 I

三浦 大志

授業コード：A3701

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】

この授業の目標は
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
・これらの値を算出できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・心理統計とは	授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について
第 2 回	記述統計とは	記述統計
第 3 回	尺度水準	尺度水準
第 4 回	分布と代表値	度数分布、代表値
第 5 回	分布と散布度	分散、標準偏差
第 6 回	標準化	標準得点
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	2 つの変数の関係 1	相関の図と共分散
第 9 回	2 つの変数の関係 2	相関係数
第 10 回	2 つの変数の関係 3	連関
第 11 回	推測統計とは	母集団と標本
第 12 回	標本から母集団を推測する 1	正規分布
第 13 回	標本から母集団を推測する 2	点推定と区間推定
第 14 回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートの回答から、高校の授業で統計に触れたことがある人と、統計がほぼ初めての人の両方が履修していることが分かりました。統計を既習の人で、油断をしてテストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

心理統計法Ⅱ

三浦 大志

授業コード：A3702

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】

この授業の目標は
・t 検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
・これらの検定を実行できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法Ⅰを受講したことを想定して授業を進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第2回	統計的仮説検定 1	検定とは・二項検定
第3回	統計的仮説検定 2	仮説、有意水準、2 種類の誤り
第4回	統計的仮説検定 3	適切な検定の選択
第5回	t 検定 1	独立した標本の検定
第6回	t 検定 2	対応のある標本の検定
第7回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第8回	分散分析 1	対応のない 1 要因
第9回	分散分析 2	対応のある 1 要因
第10回	分散分析 3	交互作用
第11回	分散分析 4	2 要因
第12回	その他の検定 1	相関係数の検定・回帰分析
第13回	その他の検定 2	カイ二乗検定
第14回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第3版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績(70%)と平常点(30%)を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

前期の心理統計法Ⅰに比べて、後期は難しいというコメントを多くいただきました。後期の推測統計は非常に利用頻度も高い重要なものなので、難しいながらも知的好奇心がかき立てられ、最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

心理統計法実習Ⅰ

山際 勇一郎

授業コード：A3703

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に不可欠な統計的解析法の習得。具体的な研究データを使用し、統計解析ソフトを用いて実習を行う。

【到達目標】

心理学研究において不可欠である心理統計を実際に使うことができるようになることが目標です。使うことができるとは、実際にデータを処理できることが第一の目標になりますが、それだけではなく、文献に記載されている分析結果を解釈できること、研究を計画するときに分析方法を思い浮かべながら計画できることも重要なことです。また、分析結果の論文などへの記載法についても学習します。

【授業の進め方と方法】

主な内容は量的データの処理です。具体的には平均や標準偏差などを用いたデータの記述、およびt検定と2要因までの分散分析による差の検定について実習します。

心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましく、また、パソコンの基本操作や Word や Excel などのアプリケーションソフトについての基礎知識が必要です。(特に高度な使い方はしません)

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	統計的知識の確認	統計的知識の確認
第2回	SPSS の使用	基本的操作の実習
第3回	記述統計	平均値などの計算実習
第4回	t 検定①	t 検定の計算実習
第5回	t 検定②	論文の書き方と演習
第6回	1 要因分散分析①	AS, SA の計算実習
第7回	1 要因分散分析②	多重比較の計算実習
第8回	1 要因分散分析③	論文の書き方と演習
第9回	2 要因分散分析①	ABS タイプの計算実習
第10回	2 要因分散分析②	単純主効果検定の計算
第11回	2 要因分散分析③	SAB タイプの計算実習
第12回	2 要因分散分析④	単純主効果検定の計算
第13回	2 要因分散分析⑤	ASB タイプの計算実習
第14回	2 要因分散分析⑥	論文の書き方と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに指示する文献・書籍を必ず読んでから次の授業に出席してください

【テキスト（教科書）】

山際・服部著「文系のための SPSS データ解析」ナカニシヤ出版

【参考書】

テキスト以外の参考図書については随時案内します。

【成績評価の方法と基準】

各解析方法の学習終了後に課題を出します(数回程度)。成績は課題によって評価します。実習授業なので出席して実習を行うことが重要であり、欠席があった場合は成績評価を行わないことがあります。課題(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートから参考になる情報は特に該当なし
自主的な学習を期待できないので、課題等をこまめに課すことにします。

【その他の重要事項】

心理統計法実習Ⅱ(秋学期授業)は心理統計法実習Ⅰを履修していないと学習が困難なので注意して下さい。

心理統計法実習Ⅰ

山際 勇一郎

授業コード：A3704

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に不可欠な統計的解析法の習得。具体的な研究データを使用し、統計解析ソフトを用いて実習を行う。

【到達目標】

心理学研究において不可欠である心理統計を実際に使うことができるようになることが目標です。使うことができるとは、実際にデータを処理できることが第一の目標になりますが、それだけではなく、文献に記載されている分析結果を解釈できること、研究を計画するときに分析方法を思い浮かべながら計画できることも重要なことです。また、分析結果の論文などへの記載法についても学習します。

【授業の進め方と方法】

主な内容は量的データの処理です。具体的には平均や標準偏差などを用いたデータの記述、および t 検定と 2 要因までの分散分析による差の検定について実習します。

心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましく、また、パソコンの基本操作や Word や Excel などのアプリケーションソフトについての基礎知識が必要です。（特に高度な使い方はしません）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	統計的知識の確認	統計的知識の確認
第 2 回	SPSS の使用	基本的操作の実習
第 3 回	記述統計	平均値などの計算実習
第 4 回	t 検定①	t 検定の計算実習
第 5 回	t 検定②	論文の書き方と演習
第 6 回	1 要因分散分析①	AS, SA の計算実習
第 7 回	1 要因分散分析②	多重比較の計算実習
第 8 回	1 要因分散分析③	論文の書き方と演習
第 9 回	2 要因分散分析①	ABS タイプの計算実習
第 10 回	2 要因分散分析②	単純主効果検定の計算
第 11 回	2 要因分散分析③	SAB タイプの計算実習
第 12 回	2 要因分散分析④	単純主効果検定の計算
第 13 回	2 要因分散分析⑤	ASB タイプの計算実習
第 14 回	2 要因分散分析⑥	論文の書き方と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに指示する文献・書籍を必ず読んでから次の授業に出席してください

【テキスト（教科書）】

山際・服部著「文系のための SPSS データ解析」ナカニシヤ出版

【参考書】

テキスト以外の参考図書については随時案内します。

【成績評価の方法と基準】

各解析方法の学習終了後に課題を出します（数回程度）。成績は課題によって評価します。実習授業なので出席して実習を行うことが重要であり、欠席があった場合は成績評価を行わないことがあります。課題（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートから参考になる情報は特に該当なし
自主的な学習を期待できないので、課題等をこまめに課すことにします。

【その他の重要事項】

心理統計法実習Ⅱ（秋学期授業）は心理統計法実習Ⅰを履修していないと学習が困難なので注意して下さい。

心理統計法実習Ⅱ

山際 勇一郎

授業コード：A3705

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に不可欠な統計的解析法の習得

【到達目標】

心理学研究において不可欠である心理統計を実際に使うことができるようになることが目標です。使うことができるとは、実際にデータを処理できることが第一の目標になりますが、それだけではなく、文献に記載されている分析結果を解釈できること、研究を計画するときに分析方法を思い浮かべながら計画できることも重要なことです。また、分析結果の論文などへの記載法についても学習します。

【授業の進め方と方法】

主な内容はおよそ 2 つに分かれます。第一はクロス表の検定などの質的データの処理について実習します。第二は多変量解析法です。種々の多変量解析法から、多変数の構造分析の代表的手法の因子分析と予測と影響の代表的分析手法の回帰分析（重回帰分析を含む）を実習する予定です。

心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましく、また、パソコンの基本操作や Word や Excel などのアプリケーションソフトについての基礎知識が必要です。（特に高度な使い方はしません）

また、実習Ⅱ（秋学期授業）は実習Ⅰを履修していないと学習が困難なので注意して下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	名義尺度データ解析①	ノンパラメトリック検定計算
第 2 回	名義尺度データ解析②	クロス表検定実習
第 3 回	名義尺度データ解析③	論文の書き方と演習
第 4 回	関連の分析①	相関係数の計算実習
第 5 回	関連の分析②	連関係数の計算実習
第 6 回	関連の分析③	論文の書き方と演習
第 7 回	多変量解析の概観	事例の紹介
第 8 回	因子分析①	直交回転の計算実習
第 9 回	因子分析②	斜交回転の計算実習
第 10 回	因子分析③	因子得点の利用
第 11 回	因子分析④	論文の書き方と演習
第 12 回	重回帰分析①	回帰分析の計算実習
第 13 回	重回帰分析②	変数選択法などの実習
第 14 回	重回帰分析③	論文の書き方と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに指示する文献・書籍を必ず読んでから次の授業に出席してください。授業中に終了しなかった課題は、翌週までに仕上げて提出するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

山際・服部著「文系のための SPSS データ解析」ナカニシヤ出版

【参考書】

テキスト以外の参考図書については随時案内します。

【成績評価の方法と基準】

各解析方法の学習終了後に課題を出します（7 回程度）。成績は課題（70%）と授業への取り組み（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なしする特記事項はなし。
学習効果を得るために、課題を多く出します。

心理統計法実習Ⅱ

山際 勇一郎

授業コード：A3706

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に不可欠な統計的解析法の習得

【到達目標】

心理学研究において不可欠である心理統計を実際に使うことができるようになることが目標です。使うことができるとは、実際にデータを処理できることが第一の目標になりますが、それだけではなく、文献に記載されている分析結果を解釈できること、研究を計画するときに分析方法を思い浮かべながら計画できることも重要なことです。また、分析結果の論文などへの記載法についても学習します。

【授業の進め方と方法】

主な内容はおよそ 2 つに分かれます。第一はクロス表の検定などの質的データの処理について実習します。第二は多変量解析法です。種々の多変量解析法から、多変数の構造分析の代表的手法の因子分析と予測と影響の代表的分析手法の回帰分析（重回帰分析を含む）を実習する予定です。

心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましく、また、パソコンの基本操作や Word や Excel などのアプリケーションソフトについての基礎知識が必要です。（特に高度な使い方はしません）

また、実習Ⅱ（秋学期授業）は実習Ⅰを履修していないと学習が困難なので注意して下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	名義尺度データ解析①	ノンパラメトリック検定計算
第 2 回	名義尺度データ解析②	クロス表検定実習
第 3 回	名義尺度データ解析③	論文の書き方と演習
第 4 回	関連の分析①	相関係数の計算実習
第 5 回	関連の分析②	連関係数の計算実習
第 6 回	関連の分析③	論文の書き方と演習
第 7 回	多変量解析の概観	事例の紹介
第 8 回	因子分析①	直交回転の計算実習
第 9 回	因子分析②	斜交回転の計算実習
第 10 回	因子分析③	因子得点の利用
第 11 回	因子分析④	論文の書き方と演習
第 12 回	重回帰分析①	回帰分析の計算実習
第 13 回	重回帰分析②	変数選択法などの実習
第 14 回	重回帰分析③	論文の書き方と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに指示する文献・書籍を必ず読んでから次の授業に出席してください。授業中に終了しなかった課題は、翌週までに仕上げて提出するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

山際・服部著「文系のための SPSS データ解析」ナカニシヤ出版

【参考書】

テキスト以外の参考図書については随時案内します。

【成績評価の方法と基準】

各解析方法の学習終了後に課題を出します（7 回程度）。成績は課題（70%）と授業への取り組み（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なしする特記事項はなし。

学習効果を得るために、課題を多く出します。

心理学基礎実験Ⅰ

島宗 理

授業コード：A3707

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習（その 1）：対人関係における初頭効果 あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろうか？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語る場所を視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。
第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。
第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアを見つけることが目標です。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 13 回	研究発表（本番）	同上 チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会（2001）二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐのできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004）
- 実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社
- この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- ・実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50% で成績をつけます。
- ・欠席が 4 回以上になると自動的に E 評価になります。
- ・実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

66 人中 61 人が回答してくれました（92%）。そのうち 40 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（66%）。

レポートの作成に負担を感じながらも勉強になったという感想が多く書かれていました。実験が楽しかったという声も多かったです。

授業支援システムでのレポート提出の仕方（期限の設定や提出先）が不明確だったり、途中で変更されたりしたことで混乱したという意見もありました。これは言い訳なのですが、現在の授業支援システムはとても使いづらく、毎年設定を変えるときに間違いが生じやすいのです。私の方でも最大限注意しますが、数年後にはシステムがリニューアルされるそうなので、個人的には学生さんたちのためにも、私のためにも使いやすくなることを今から待ち望んでいます。

レポートの採点については、来年度からレポートの良い例と悪い例をもっと数多く示そうと思っています。ただ、増やしすぎると、あまり自分で考えず、コピペ的にレポートを書いてしまうことを促しかねないので、案配が肝心だと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- ・ W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 3 限、X の人は月曜 4 限を履修して下さい。
- ・ オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

心理学基礎実験 I

島宗 理

授業コード：A3708

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習（その 1）：対人関係における初頭効果 あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろうか？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語る場所を視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。
第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。
第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアを見つけることが目標です。 各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	同上
第 13 回	研究発表（本番）	チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会（2001）二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐのできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004）
- 実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社
- この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- ・実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50% で成績をつけます。
- ・欠席が 4 回以上になると自動的に E 評価になります。
- ・実験実習という授業の特性のため、怪我や病氣、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

66 人中 61 人が回答してくれました（92%）。そのうち 40 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（66%）。

レポートの作成に負担を感じながらも勉強になったという感想が多く書かれていました。実験が楽しかったという声も多かったです。

授業支援システムでのレポート提出の仕方（期限の設定や提出先）が不明確だったり、途中で変更されたりしたことで混乱したという意見もありました。これは言い訳なのですが、現在の授業支援システムはとても使いづらく、毎年設定を変えるときに間違いが生じやすいのです。私の方でも最大限注意しますが、数年後にはシステムがリニューアルされるそうなので、個人的には学生さんたちのためにも、私のためにも使いやすくなることを今から待ち望んでいます。

レポートの採点については、来年度からレポートの良い例と悪い例をもっと数多く示そうと思っています。ただ、増やしすぎると、あまり自分で考えず、コピペ的にレポートを書いてしまうことを促しかねないので、案配が肝心だと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- ・W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 3 限、X の人は月曜 4 限を履修して下さい。
- ・オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

心理学基礎実験Ⅱ

吉村 浩一

授業コード：A3709

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の重要な研究方法として実験法があります。この授業では、春学期の「心理学基礎実験Ⅰ」で学んだ知識と技術を生かし、心理学実験プログラム SuperLab4.5 の使い方を習得し、2 年次以降、特に卒業研究で実験を行う際に独力でプログラム作りができる能力を身につけます。

【到達目標】

心理学実験プログラム SuperLab4.5 は、心理学実験の中でも特に反応時間まで測定することができます。反応時間に関わる 4 つの基本的テーマの実験を自分たち自身でプログラムし、データ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

8 つの班に分かれ、班員が協力して実験計画を細部まで詰めて実験プログラムを完成させ、実験を実施し、データ整理を行います。その作業を通して、4 つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。4 つの実験は以下の通りです。

- 1 単純反応時間の測定：視覚刺激と聴覚刺激の比較
- 2 選択反応時間：単純反応時間と選択反応時間の比較
- 3 注意の効果：ボズナーの Cost-Benefit 法
- 4 心的回転：R とその裏文字の同定作業

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	4 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習 (1)	SuperLab4.5 の使い方の学習 (1)
第 3 回	実験プログラムの学習 (2)	SuperLab4.5 の使い方の学習 (2)
第 4 回	選択反応時間の実験 (1)	選択反応時間の実験プログラムの作成
第 5 回	選択反応時間の実験 (2)	選択反応時間実験の実施とデータ整理
第 6 回	選択反応時間の実験 (3)	選択反応時間実験の提出されたレポートの相互検討
第 7 回	単純反応時間の実験 (1)	単純反応時間の実験プログラムの作成
第 8 回	単純反応時間の実験 (2)	単純反応時間実験の実施とデータ整理
第 9 回	単純反応時間の実験 (3)	単純反応時間実験の提出されたレポートの総評
第 10 回	注意の効果の実験 (1)	注意の効果の実験プログラムの作成
第 11 回	注意の効果の実験 (2)	注意の効果実験の実施とデータ整理
第 12 回	注意の効果の実験 (3)	注意の効果実験の提出されたレポートの総評
第 13 回	心的回転の実験 (1)	心的回転の実験プログラムの作成
第 14 回	心的回転の実験 (2)	心的回転実験の実施とデータ整理、及びレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の進捗状況に合わせて、遅れている作業のカバーと次回に必要な作業をグループで協力または分担して授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】

用いません

【参考書】

統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % とレポート 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクセルでのデータ処理に戸惑う学生もいることから、そのプロセスについても授業内で丁寧に解説し、落ちこぼれることを防ぎます。

【その他の重要事項】

クラス授業で、W クラスが受講対象です。

心理学基礎実験Ⅱ

吉村 浩一

授業コード：A3710

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の重要な研究方法として実験法があります。この授業では、春学期の「心理学基礎実験Ⅰ」で学んだ知識と技術を生かし、心理学実験プログラム SuperLab4.5 の使い方を習得し、2 年次以降、特に卒業研究で実験を行う際に独力でプログラム作りができる能力を身につけます。

【到達目標】

心理学実験プログラム SuperLab4.5 は、心理学実験の中でも特に反応時間まで測定することができます。反応時間に関わる 4 つの基本的テーマの実験を自分たち自身でプログラムし、データ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

8 つの班に分かれ、班員が協力して実験計画を細部まで詰めて実験プログラムを完成させ、実験を実施し、データ整理を行います。その作業を通して、4 つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。4 つの実験は以下の通りです。

- 1 単純反応時間の測定：視覚刺激と聴覚刺激の比較
- 2 選択反応時間：単純反応時間と選択反応時間の比較
- 3 注意の効果：ボズナーの Cost-Benefit 法
- 4 心的回転：R とその裏文字の同定作業

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	4 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習 (1)	SuperLab4.5 の使い方の学習 (1)
第 3 回	実験プログラムの学習 (2)	SuperLab4.5 の使い方の学習 (2)
第 4 回	選択反応時間の実験 (1)	選択反応時間の実験プログラムの作成
第 5 回	選択反応時間の実験 (2)	選択反応時間実験の実施とデータ整理
第 6 回	選択反応時間の実験 (3)	選択反応時間実験の提出されたレポートの相互検討
第 7 回	単純反応時間の実験 (1)	単純反応時間の実験プログラムの作成
第 8 回	単純反応時間の実験 (2)	単純反応時間実験の実施とデータ整理
第 9 回	単純反応時間の実験 (3)	単純反応時間実験の提出されたレポートの総評
第 10 回	注意の効果の実験 (1)	注意の効果の実験プログラムの作成
第 11 回	注意の効果の実験 (2)	注意の効果実験の実施とデータ整理
第 12 回	注意の効果の実験 (3)	注意の効果実験の提出されたレポートの総評
第 13 回	心的回転の実験 (1)	心的回転の実験プログラムの作成
第 14 回	心的回転の実験 (2)	心的回転実験の実施とデータ整理、及びレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の進捗状況に合わせて、遅れている作業のカバーと次回に必要な作業をグループで協力または分担して授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】

使いません

【参考書】

統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % とレポート 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクセルでのデータ処理に戸惑う学生もいることから、そのプロセスについても授業内で丁寧に解説し、落ちこぼれることを防ぎます。

【その他の重要事項】

クラス授業で、X クラスが受講対象です。

心理学測定法Ⅰ

藤田 哲也

授業コード：A3611

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを採り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著), 北大路書房, 1998 年)
他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40 %) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20 %) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業を履修してよかったか」の評価は $W=4.53$, $X=4.29$ と及第点だと思いますが、「理解したか」が $W=3.80$, $X=4.03$ と少し低めに留まりました。授業時間だけですべての内容を修得することは難しいことかもしれませんが、卒論までにときどくは復習して理解度を高めてくれればと思います。今年度は予習課題の提出を成績評価と関連づけなかったため、取り組み方が二極化してしまったのが反省点です。そのせいもあって、本来は意味のある予習課題のはずが、うまく班活動で機能しなかった側面もあったようです。来年度と言わず、秋学期の演習 II から改善し、班活動をより有意義に進められる基盤を確保しようと思います。

【その他の重要事項】

詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

心理学測定法 I

藤田 哲也

授業コード：A3612

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを採り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著), 北大路書房, 1998 年)
他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40 %) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料 (レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20 %) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業を履修してよかったか」の評価は $W=4.53$, $X=4.29$ と及第点だと思えますが、「理解したか」が $W=3.80$, $X=4.03$ と少し低めに留まりました。授業時間だけですべての内容を修得することは難しいこともあるでしょうが、卒論までにときどくは復習して理解度を高めてくれればと願います。今年度は予習課題の提出を成績評価と関連づけなかったため、取り組み方が二極化してしまったのが反省点です。そのせいもあって、本来は意味のある予習課題のはずが、うまく班活動で機能しなかった側面もあったようです。来年度と言わず、秋学期の演習 II から改善し、班活動をより有意義に進められる基盤を確保しようと思います。

【その他の重要事項】

詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

心理学測定法 II

越智 啓太

授業コード：A3613

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の目的:

心理学を学ぶにあたり、必要な測定法の理論と具体的な技法を学ぶ。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得する。

授業の概要:

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業である。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学ぶ。作業は、4-5 人のグループ単位で行う。また展開によって生じた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけること。

- (1) 心理尺度の構成ができるようになる。
- (2) 因子分析の基本を習得する。
- (3) 相関分析の基本を習得する。
- (4) 重回帰分析、クラスター分析についての基本を習得する。
- (5) 研究結果について効果的にプレゼンテーションできるようにする。
- (6) 質問紙調査実験について、文献収集から実験実施、分析までの流れを理解する。
- (7) 質問紙調査の結果をレポート (小論文) としてまとめられるようにする。

【授業の進め方と方法】

授業の前半 40 分に集中して講義を行い、後半は班ごとに作業を行う。作業は、授業時間外にも行う必要がある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れを確認する。予備調査の検討をする。
第 2 回	研究計画 1	先行研究を検討し、作成する質問紙の構想を明らかにする。
第 3 回	研究計画 2	仮説の設定、既成尺度との関連の検討をする。
第 4 回	質問紙作成 1	質問項目の検討、概念的な検討をする。
第 5 回	質問紙作成 2	仮説の検討、質問紙の作成、フェイスシートの作成、倫理審査申請書の作成をする。
第 6 回	質問紙調査の実施	質問紙調査を実施する。
第 7 回	結果の入力と基本的な分析	結果の入力と散布図、度数分布表の作成をする。
第 8 回	データ分析 1	因子分析 (斜交回転) の説明と実施をする。
第 9 回	データ分析 2	分散の等質性の検定、t 検定、既成尺度との相関分析をする。
第 10 回	データ分析 3	分散分析、多重比較をする。
第 11 回	データ分析 4	回帰分析、重回帰分析とクラスター分析をする。
第 12 回	データ分析 5	クロス表の作成、その他の高度な分析をする。
第 13 回	研究のまとめ方 1	プレゼンテーションの方法を学ぶ。
第 14 回	研究のまとめ方 2	レポート・論文作成の方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 自分の班の研究テーマ選定のための案を作成する。1 年生の時の統計のノートなどを見直しておく。
- 第 2 回 自分の班の研究テーマを選定する。授業外で各班で話し合いを行い、テーマを選定すること。
- 第 3 回 自分の班のリサーチエスチョンを明確化し、先行研究をリサーチする。授業外に班で話し合いを持って議論を進めておくこと。
- 第 4 回 作成した質問紙の項目の吟味とレイアウトの作成、リサーチエスチョンについてのさらに進んだ議論を授業外で各班行っておくこと。
- 第 5 回 倫理審査申請書を作成する。質問紙の印刷、配布準備をする。
- 第 6 回 質問紙の結果を班のメンバーで分担して、エクセルに入力する。
- 第 7 回 質問紙の基本的な統計データを集計し、まとめ、図表化する。
- 第 8 回 因子分析の結果を整理し、集計表の作成をする。エクセルデータの整理をする。
- 第 9 回 t 検定、F 検定の結果の整理と分析結果のレポートの作成をする。分散分析、多重比較の予習をする。
- 第 10 回 分散分析と多重比較を復習し、結果のレポート作成をする。回帰分析の予習をする。
- 第 11 回 回帰分析の結果の整理をし、結果のレポート作成をする。ノンパラメトリック統計の予習をする。
- 第 12 回 プレゼンテーションのプランについて各班で授業外に話し合い、担当者を決める。レジュメを作成する。
- 第 13 回 パワーポイントを作成し、プレゼンテーションの練習を行う (時間も計測すること)。
- 第 14 回 以下の事項についてまとめ、レポートを作成する

- 1) 質問紙の作成方法
- 2) 実施方法とデータ集計方法
- 3) 因子分析 (とくにプロマックス回転)
- 4) t 検定と分散分析、多重比較
- 5) 回帰分析と重回帰分析
- 6) クロス集計とノンパラメトリック検定
- 7) プレゼンの方法
- 8) 論文作成の基本的な作成方法

【テキスト (教科書)】

80 ページ以上の資料を授業支援システムにアップするので、各自、ダウンロードして使用すること。

【参考書】

松尾・中村「誰も教えてくれなかった因子分析」北大路書房
浦上・脇田「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」東京図書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、班ごとの成績+個人ごとの成績

班ごとの評価 (50%)

1) 研究内容 (分析や計画がしっかりできているか、結果が良好か)(20%)

2) プレゼンテーション (20%)

3) 班活動 (10%)

個人ごとの評価 (50%)

1) 平常点 (基準に達しない場合単位を与えない)

2) 個別レポート (25%)

3) 期末試験 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を促進し、各人が等質なスキルを身につけることを心がけて授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (SPSS、エクセル) を使用する。機器は大学備え付けのものを用いることができるが、自らのパソコンを使用しても良い。

【その他の重要事項】

12 月の最終週土曜にプレゼンテーションを行う予定なので、その日のスケジュールは空けておくようにする。

心理学測定法Ⅱ

越智 啓太

授業コード：A3614

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の目的:

心理学を学ぶにあたり、必要な測定法の理論と具体的な技法を学ぶ。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得する。

授業の概要:

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業である。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学ぶ。作業は、4-5 人のグループ単位で行う。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。また展開によって生きた流れを優先するため、予告した内容を変更することもある。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけること。

(1) 心理尺度の構成ができるようになる。

(2) 因子分析の基本を習得する。

(3) 相関分析の基本を習得する。

(4) 重回帰分析、クラスター分析についての基本を習得する。

(5) 研究結果について効果的にプレゼンテーションできるようにする。

(6) 質問紙調査実験について、文献収集から実験実施、分析までの流れを理解する。

(7) 質問紙調査の結果をレポート (小論文) としてまとめられるようにする。

【授業の進め方と方法】

授業の前半 40 分に集中して講義を行い、後半は班ごとに作業を行う。作業は、授業時間外にも行う必要がある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認をする。予備調査の検討をする。
第 2 回	研究計画 1	先行研究を検討し、作成する質問紙の構想を明らかにする。
第 3 回	研究計画 2	仮説の設定、既成尺度との関連の検討をする。
第 4 回	質問紙作成 1	質問項目の検討、概念的な検討をする。
第 5 回	質問紙作成 2	仮説の検討、質問紙の作成、フェイスシートの作成、倫理審査申請書の作成をする。
第 6 回	質問紙調査の実施	質問紙調査の実施をする。
第 7 回	結果の入力と基本的な分析	結果の入力と散布図、度数分布表の作成をする。
第 8 回	データ分析 1	因子分析 (斜交回転) の説明と実施をする。
第 9 回	データ分析 2	分散の等質性の検定、t 検定、既成尺度との相関分析をする。
第 10 回	データ分析 3	分散分析、多重比較をする。
第 11 回	データ分析 4	回帰分析、重回帰分析とクラスター分析をする。
第 12 回	データ分析 5	クロス表の作成、その他の高度な分析をする。
第 13 回	研究のまとめ方 1	プレゼンテーションの方法を学ぶ。
第 14 回	研究のまとめ方 2	レポート・論文作成の方法を学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第 1 回 自分の班の研究テーマ選定のための案を作成する。1 年生の時の統計のノートなどを見直しておく。

第 2 回 自分の班の研究テーマを選定する。授業外で各班で話し合いを行い、テーマを選定する。

第 3 回 自分の班のリサーチクエスションを明確化し、先行研究をリサーチする。授業外に班で話し合いを持って議論を進めておく。

第 4 回 作成した質問紙の項目を吟味し、レイアウトを作成する。リサーチクエスションについてのさらに進んだ議論を授業外で各班行っておく。

第 5 回 倫理審査申請書を作成し、質問紙の印刷、配布準備を行う。

第 6 回 質問紙の結果を班のメンバーで分担して、エクセルに入力する。

第 7 回 質問紙の基本的な統計データを集計し、まとめ、図表化する。

第 8 回 因子分析の結果を整理する。集計表を作成し、エクセルデータの整理をする。

第 9 回 t 検定、F 検定の結果の整理と分析結果のレポートを作成する。分散分析、多重比較の予習をする。

第 10 回 分散分析と多重比較を復習し、結果のレポートを作成する。回帰分析の予習をする。

第 11 回 回帰分析の結果を整理し、結果のレポート作成をする。ノンパラメトリック統計の予習をする。

第 12 回 プレゼンテーションのプランについて各班で授業外に話し合い、担当者を決める。レジュメを作成する。

第 13 回 パワーポイントを作成し、プレゼンテーションの練習を行う (時間も計測すること)

第 14 回 以下の項目についてまとめレポートの作成作業を行う。

- 1) 質問紙の作成方法
- 2) 実施方法とデータ集計方法
- 3) 因子分析 (とくにプロマックス回転)
- 4) t 検定と分散分析、多重比較
- 5) 回帰分析と重回帰分析
- 6) クロス集計とノンパラメトリック検定
- 7) プレゼンの方法
- 8) 論文作成の基本的な作成法

【テキスト (教科書)】

80 ページ以上の資料を授業支援システムにアップするので、各自、ダウンロードして使用すること。

【参考書】

松尾・中村「誰も教えてくれなかった因子分析」北大路書房
浦上・脇田「心理学・社会科学の調査系論文の読み方」東京図書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、班ごとの成績+個人ごとの成績

班ごとの評価 (50%)

- 1) 研究内容 (分析や計画がしっかりできているか、結果が良好か)(20%)
- 2) プレゼンテーション (20%)
- 3) 班活動 (10%)

個人ごとの評価 (50%)

- 1) 平常点 (基準に達しない場合単位を与えない)
- 2) 個別レポート (25%)
- 3) 期末試験 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を促進し、各人が等質なスキルを身につけることを心がけて授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (SPSS, エクセル) を使用する。機器は大学備え付けのものを用いることができるが、自らのパソコンを使用しても良い。

【その他の重要事項】

12 月の最終週土曜にプレゼンテーションを行うので、その日のスケジュールは空けておくようにする。

心理検査法 I

石川 菜津美

授業コード：A3615

春学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。心理検査を行うことで、短時間に多面的な情報を得ることができるため、支援方略を立てる際に有効です。本授業では、日本で使用されている代表的な心理検査の理論を学ぶとともに、正しい実施方法や結果の分析方法を身につけ、理解を深めることを目指します。

【到達目標】

- ①心理検査とはどのようなものか、その基本的な知識を身につける。
- ②代表的な発達検査と知能検査の実施法と結果の解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上での正しい実施の仕方を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

心理検査に携わる者は、各検査そのものについてはもちろんのこと、検査の理論的側面に関する知識や、検査に対する基本姿勢を十分に身につけておく必要があります。そのため、授業の前半は、心理検査の理論的側面を理解することと、心理検査を行う際のテストの心構え、倫理的問題への配慮、検査が成立した歴史的背景、実施時における注意点、報告書の書き方について学びます。前半の授業は講義が中心になりますが、心理検査の効用と限界について受講者各々が能動的に考える機会をもちたいと思います。後半は、代表的な発達検査と知能検査を実施します。授業は実習形式で進め、グループ内で相互に検査者、被検査者の役割をとり、検査用具を実際に用いて検査の実施方法を体験学習します。これらの内容を通して、検査の実施法、採点法、結果の考察の仕方や、報告書の作成の仕方を学び、テストとしての基本的な力を養います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価基準の説明
第 2 回	心理検査とは	心理検査に共通するテスト理論と検査の種類、各検査の歴史的背景、テストバッテリーについて学ぶ
第 3 回	臨床における心理検査の役割	心理検査を臨床で使用する上での倫理的配慮や、テストとしての基本姿勢を学ぶ
第 4 回	検査実施上の留意点と報告書の作成	検査実施と採点の際の留意点、および検査報告書の書き方を学ぶ
第 5 回	発達検査について	日本で使用されている代表的な発達検査の概要を学ぶ
第 6 回	新版 K 式発達検査①	新版 K 式発達検査の解説と実習
第 7 回	新版 K 式発達検査②	新版 K 式発達検査の結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 8 回	神経心理学的検査について	日本で使用されている代表的な神経心理学的検査の概要を学ぶ
第 9 回	WISC-IV①	WISC-IV の解説と実習
第 10 回	WISC-IV②	WISC-IV の結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 11 回	WAIS-III	WAIS-III の解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 12 回	K-ABC II	K-ABC II の解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 13 回	テストバッテリーの組み方	複数の心理検査を組み合わせる使用上の臨床的意義と注意点
第 14 回	心理検査を支援に活かす	実習を踏まえた心理検査の支援への展開について学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前までに各回で取り上げる心理検査について、参考書『心理検査の実施の初歩』の該当ページを確認しておいてください。また授業後には、学習した内容を、指定されたテキストや手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書 (レポート) 作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは、4 課題を出します。

【テキスト (教科書)】

テキストは授業内でその都度指示します。

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版 2011
村上宣寛・村上千恵子著『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房 2008
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店 2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版 2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「目的、方法、結果、考察、引用文献」の形式（標準的レポートの形式）で作成し、提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。必要な場合は、各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画についての詳しい説明を行いますので、受講希望者は初回授業に必ず出席してください。

心理検査法 I

石川 菜津美

授業コード：A3616

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。心理検査を行うことで、短時間に多面的な情報を得ることができるため、支援方略を立てる際に役立ちます。本授業では、日本で使用されている代表的な心理検査の理論を学ぶとともに、正しい実施方法や結果の分析方法を身につけ、理解を深めることを目指します。

【到達目標】

- ①心理検査とはどのようなものか、その基本的な知識を身につける。
- ②代表的な発達検査と知能検査の実施法と結果の解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上での正しい実施の仕方を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

心理検査に携わる者は、各検査そのものについてはもちろんのこと、検査の理論的側面に関する知識や、検査に対する基本姿勢を十分に身につけておく必要があります。そのため、授業の前半は、心理検査の理論的側面を理解することと、心理検査を行う際のテストの心構え、倫理的問題への配慮、検査が成立した歴史的背景、実施時における注意点、報告書の書き方について学びます。前半の授業は講義が中心になりますが、心理検査の効用と限界について受講者各々が能動的に考える機会をもちたいと思います。後半は、代表的な発達検査と知能検査を実施します。授業は実習形式で進め、グループ内で相互に検査者、被検査者の役割をとり、検査用具を実際に用いて検査の実施方法を体験学習します。これらの内容を通して、検査の実施法、採点法、結果の考察の仕方や、報告書の作成の仕方を学び、テストとしての基本的な力を養います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価基準の説明
第 2 回	心理検査とは	心理検査に共通するテスト理論と検査の種類、各検査の歴史的背景、テストバッテリーについて学ぶ
第 3 回	臨床における心理検査の役割	心理検査を臨床で使用する上での倫理的配慮や、テストとしての基本姿勢を学ぶ
第 4 回	検査実施上の留意点と報告書の作成	検査実施と採点の際の留意点、および検査報告書の書き方を学ぶ
第 5 回	発達検査について	日本で使用されている代表的な発達検査の概要を学ぶ
第 6 回	新版 K 式発達検査①	新版 K 式発達検査の解説と実習
第 7 回	新版 K 式発達検査②	新版 K 式発達検査の結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 8 回	神経心理学的検査について	日本で使用されている代表的な神経心理学的検査の概要を学ぶ
第 9 回	WISC-IV①	WISC-IVの解説と実習
第 10 回	WISC-IV②	WISC-IVの結果の分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 11 回	WAIS-III	WAIS-IIIの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 12 回	K-ABC II	K-ABC IIの解説と実習、分析方法と報告書の作成方法を学ぶ
第 13 回	テストバッテリーの組み方	複数の心理検査を組み合わせる使用上の臨床的意義と注意点
第 14 回	心理検査を支援に活かす	実習を踏まえた心理検査の支援への展開について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前までに各回で取り上げる心理検査について、参考書『心理検査の実施の初歩』の該当ページを確認しておいてください。また授業後には、学習した内容を、指定されたテキストや手引書を利用して復習し、知識の定着をはかってください。さらに、実習した検査結果を分析し、検査報告書（レポート）作成に取り組み、期日までに提出してください。レポートは、4 課題を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業内でその都度指示します。

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版 2011
村上宣寛・村上千恵子著『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房 2008
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店 2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版 2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①授業参加態度 (20%)、②実習への関与度 (20%)、③レポート成績 (60%) の総合点から評価します。各回の体験の積み重ねが重要となる授業のため、出席はもちろんのこと、実習に積極的に取り組む姿勢、態度などを重視します。また、実習した各検査について、その結果を整理、考察し、検査報告書としてレポートを提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を理解しているか、②その検査を適切に使用することができるか、③検査の結果を解釈し適切に伝えることができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「目的、方法、結果、考察、引用文献」の形式（標準的レポートの形式）で作成し、提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートで指摘された点を授業に反映し、よりわかりやすい授業になるよう改善します。課題（レポート）は多いですが、受講生の力が確実についていくことが実感できるので、今後も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業資料は、授業支援システムを利用し配布します。必要な場合は、各自授業前にダウンロードして持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画についての詳しい説明を行いますので、受講希望者は初回授業に必ず出席してください。

心理検査法Ⅱ**石川 菜津美**

授業コード：A3617

秋学期・2 単位**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。特に人格検査は、他者のこころの状態を多面的に理解することに役立ちます。本授業では、日本で使用されている代表的な人格検査を中心に引き上げ、実習を通してその概要を学びます。また、検査結果の自己分析を通して、自己理解を深め、今後の自己成長への方向性を探る機会とします。

【到達目標】

- ①代表的な人格検査の特徴や実施法と解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上で、正しい利用方法を身につける。
- ②臨床心理アセスメントの方法論を、心理検査を用いて実践的、体験的に習得する。
- ③検査結果を自己理解を深める形で考察することができる。

【授業の進め方と方法】

パーソナリティ（人格）を客観的に測定する方法として、人格検査が数多く開発されています。この授業では、いくつかの代表的な人格検査について学びます。授業は、体験的な学びの機会となるよう、講義・グループ発表・実習形式を適宜組み合わせ進めます。

グループ発表では、事前に各グループが担当することになった心理検査について、その特徴（何を測定する検査か、歴史的・理論的背景、検査の信頼性と妥当性、効用と限界など）及び実施法、整理法、解釈法について調べ、それを授業で順次発表してもらいます。その後クラス全体で質疑応答し、プレゼンテーションの方法やディスカッションの仕方を身につける機会とします。

実習では、グループ発表の説明に基づいて、検査の詳細を実践的に吟味するとともに、各自が実際に検査を体験し、その自己結果を分析します。さらに、授業後に検査の特徴と、自己結果の分析、解釈をまとめ、レポートとして提出してもらいます。これらの実習を通して、心理アセスメントに必要な実践的な力を身につけ、心理検査を適切に利用できる力を養います。また、パーソナリティの自己分析に取り組むことで、自己理解を深め、今後の自己成長に向けた方向性のヒントを得てもらえればと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要・授業計画及び発表方法の説明とグループ分け
第 2 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 3 回	質問紙法について	質問紙法の解説、STAI、BDI-R の実習
第 4 回	YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）	YG 性格検査の解説と実習
第 5 回	TEG（東大式エゴグラム）	TEG の解説と実習
第 6 回	5 因子モデルに基づく検査	NEO-PI-R の解説と実習
第 7 回	投影法について①	投影法の解説、バウムテストの実習
第 8 回	投影法について②	バウムテスト、その他描画法の解釈方法について
第 9 回	PF スタディ①	PF スタディの解説と実習 (1)
第 10 回	PF スタディ②	PF スタディの解説と実習 (2)
第 11 回	SCT（文章完成法テスト）	SCT の解説と実習
第 12 回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの解説と実習
第 13 回	臨床現場におけるパーソナリティ検査	臨床現場でパーソナリティ検査がどのように実施されているのか、事例を通して学びます。
第 14 回	パーソナリティ検査の支援への展開	心理検査で得られた知見を支援にどう活かすのかを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当検査の発表日前までに、その検査について、各グループで話し合い、役割分担し、発表の計画と作業（検査について関連文献や資料から調べ、レジュメを作成する等）を進め、準備をしてください。グループ活動は必ず各自が責任を持って取り組むようにしてください。また授業終了後、実施した検査について、その効用と限界を十分に検討するとともに、各自で自己結果を分析、解釈し、期日までにレポートとして提出してください。レポートは YG 性格検査、TEG、NEI-PI-R、PF スタディ、SCT、パーソナリティの自己分析の 6 課題を出します。

【テキスト（教科書）】

各心理検査の解説書・マニュアルを使用します（学科に準備されているので、購入の必要はありません）。その他は適宜授業時に紹介します。

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版 2011
村上宣寛・村上千恵子著『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房 2008
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店 2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版 2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、①実習への参加度 (20%)、②グループ発表 (30%)、③レポートの成績 (50%) の総合点より評価します。グループ活動や実習が中心となる授業のため、授業態度はもちろんのこと、検査の体験や、グループディスカッションに積極的に参加し、議論を深める努力を重視します。従って、他班の発表に対するコメントや討論の内容についても評価の対象とします。また実習した検査は、結果を自己分析し、レポートとして提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を、利点と限界を含め、十分に理解しているか、②その検査を正しく使用することができるか、③検査の結果を分析し、解釈することができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「目的・方法・結果・考察・引用文献」の形式（標準的レポートの形式）で作成し、提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートで指摘された点について検討し、よりよい授業づくりに努めます。いろいろな検査を知ることができた、自己分析ができてよかったという回答が得られたため、今後も多くの検査を体験することを重視した授業づくりを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は、授業支援システムを利用して配布します。

【その他の重要事項】

心理検査の体系的な理解のために、受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。また、授業計画についての詳しい説明及びグループ分け、発表日程の決定を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。体験学習への積極的な取り組みを望みます。

心理検査法Ⅱ

石川 菜津美

授業コード：A3618

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の心の状態を客観的に理解しようとする方法の一つに、心理検査があります。特に人格検査は、他者のこころの状態を多面的に理解することに役立ちます。本授業では、日本で使用されている代表的な人格検査を中心に引き上げ、実習を通してその概要を学びます。また、検査結果の自己分析を通して、自己理解を深め、今後の自己成長への方向性を探る機会とします。

【到達目標】

- ①代表的な人格検査の特徴や実施法と解釈法を習得し、検査の効用と限界を踏まえた上で、正しい利用方法を身につける。
- ②臨床心理アセスメントの方法論を、心理検査を用いて実践的、体験的に習得する。
- ③検査結果を自己理解を深める形で考察することができる。

【授業の進め方と方法】

パーソナリティ（人格）を客観的に測定する方法として、人格検査が数多く開発されています。この授業では、いくつかの代表的な人格検査について学びます。授業は、体験的な学びの機会となるよう、講義・グループ発表・実習形式を適宜組み合わせを進めます。

グループ発表では、事前に各グループが担当することになった心理検査について、その特徴（何を測定する検査か、歴史的・理論的背景、検査の信頼性と妥当性、効用と限界など）及び実施法、整理法、解釈法について調べ、それを授業で順次発表してもらいます。その後クラス全体で質疑応答し、プレゼンテーションの方法やディスカッションの仕方を身につける機会とします。実習では、グループ発表の説明に基づいて、検査の詳細を実践的に吟味するとともに、各自が実際に検査を体験し、その自己結果を分析します。さらに、授業後に検査の特徴と、自己結果の分析、解釈をまとめ、レポートとして提出してもらいます。これらの実習を通して、心理アセスメントに必要なとされる実践的な力を身につけ、心理検査を適切に利用できる力を養います。また、パーソナリティの自己分析に取り組むことで、自己理解を深め、今後の自己成長に向けた方向性のヒントを得てもらえればと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要・授業計画及び発表方法の説明とグループ分け
第 2 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 3 回	質問紙法について	質問紙法の解説、STAI、BDI-R の実習
第 4 回	YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）	YG 性格検査の解説と実習
第 5 回	TEG（東大式エゴグラム）	TEG の解説と実習
第 6 回	5 因子モデルに基づく検査	NEO-PI-R の解説と実習
第 7 回	投影法について①	投影法の解説、バウムテストの実習
第 8 回	投影法について②	バウムテスト、その他描画法の解釈方法について
第 9 回	PF スタディ①	PF スタディの解説と実習 (1)
第 10 回	PF スタディ②	PF スタディの解説と実習 (2)
第 11 回	SCT（文章完成法テスト）	SCT の解説と実習
第 12 回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの解説と実習
第 13 回	臨床現場におけるパーソナリティ検査	臨床現場でパーソナリティ検査がどのように実施されているのか、事例を通して学びます。
第 14 回	パーソナリティ検査の支援への展開	心理検査で得られた知見を支援にどう活かすのかを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当検査の発表日前までに、その検査について、各グループで話し合い、役割分担し、発表の計画と作業（検査について関連文献や資料から調べ、レジュメを作成する等）を進め、準備をしてください。グループ活動は必ず各自が責任を持って取り組むようにしてください。また授業終了後、実施した検査について、その効用と限界を十分に検討するとともに、各自で自己結果を分析、解釈し、期日までにレポートとして提出してください。レポートは YG 性格検査、TEG、NEI-PI-R、PF スタディ、SCT、パーソナリティの自己分析の 6 課題を出します。

【テキスト（教科書）】

各心理検査の解説書・マニュアルを使用します（学科に準備されているので、購入の必要はありません）。その他は適宜授業時に紹介します。

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編著『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版 2011
村上宣寛・村上千恵子著『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房 2008
上里一郎監修『心理アセスメントハンドブック』西村書店 2001
竹内健児編『事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方』金剛出版 2009
その他は、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、①実習への参加度 (20%)、②グループ発表 (30%)、③レポートの成績 (50%) の総合点より評価します。グループ活動や実習が中心となる授業のため、授業態度はもちろんのこと、検査の体験や、グループディスカッションに積極的に参加し、議論を深める努力を重視します。従って、他班の発表に対するコメントや討論の内容についても評価の対象とします。また実習した検査は、結果を自己分析し、レポートとして提出してもらいます。レポートは、①各検査の特徴を、利点と限界を含め、十分に理解しているか、②その検査を正しく使用することができるか、③検査の結果を分析し、解釈することができるかについて、その到達度を評価します。レポートは、「目的・方法・結果・考察・引用文献」の形式（標準的レポートの形式）で作成し、提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートで指摘された点について検討し、よりよい授業づくりに努めます。いろいろな検査を知ることができた、自己分析ができてよかったという回答が得られたため、今後も多くの検査を体験することを重視した授業づくりを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は、授業支援システムを利用して配布します。

【その他の重要事項】

心理検査の体系的な理解のために、受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。また、授業計画についての詳しい説明及びグループ分け、発表日程の決定を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。体験学習への積極的な取り組みを望みます。

演習Ⅰ（Ⅰ）

高橋 敏治

授業コード：A3627

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- （１）研究に必要な論文を検索する力の獲得
- （２）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- （３）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身に付ける。
- （４）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- （５）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけでなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
- 第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

13 人の受講者のうち 12 名から回答者を頂きました。4 - 5 の段階が、授業の工夫では 54 %、理解できたかで 92 %、履修してよかったかは 75 %と高い評価をしてくれていました。週 1 時間以上の授業学習が 83 %とやはり課題が多くて大変だったようです。自由記述では、論文を読解する力、発表の準備などこの授業でのスキルアップを身につけてくれたコメントが多くありました。中でも 1 年生の時に失いかけていた心理学へのモチベーションが取り戻せたというコメントは、半年間でしたが課題やコメントの準備をしたりする苦勞が報われました。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

演習 I（2）

成澤 元

授業コード：A3628

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得。
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得。
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。

【授業計画】

春学期			
回	テーマ	内容	
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。	
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）	
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索 （ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）	
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。	
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。	
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。	
第 7 回	和文論文の個人発表 2	（和文においてはレジュメのみとする。） 発表の仕方や質問の仕方を学ぶ （レジュメのみ）	
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）	
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） *英文論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。	
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。	
第 11 回	欧英文論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出	
第 12 回	欧英文論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出	
第 13 回	欧英文論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出	
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備

第 2 回 論文の手引きによる復習と次の検索のためのキーワードの用意

- PsycINFO ID の獲得
 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
 第 4 回 PsycINFO による検索
 第 5 回 レジューメの作り方をマスターし、発表に備える
 第 6-9 回 発表準備 英文選択を同時並行して行っておく。
 第 10-13 回 欧英文論文レジューメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジューメ提出。
 第 14 回 講義を通してのまとめと改善点のアンケート実施。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 4 0 %、日本語論文の総合評価（レジューメによる発表・討論参加など）3 0 %、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジューメ・討論参加など）3 0 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各教員の授業改善アンケートからの気づき（心理学実験準備室横に掲示）を参照してください。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

演習 I（3）

三浦 大志

授業コード：A3629

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジューメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- （1）研究に必要な論文を検索する力の獲得。
- （2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- （3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- （4）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- （5）レジューメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジューメを用いて発表し、英論文については、レジューメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジューメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取り入れます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明
		教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジューメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジューメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジューメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジューメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジューメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジューメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	欧英文論文 1	発表（パワポによる発表）
第 12 回	欧英文論文 2	発表（パワポによる発表）
第 13 回	欧英文論文 3	発表（パワポによる発表）
第 14 回	欧英文論文 4	発表（パワポによる発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
 PsycINFO ID の獲得
 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
 第 4 回 PsycINFO による検索
 第 5 回 レジューメの作り方をマスターし、発表に備える
 第 6-9 回 発表準備 英文選択を同時並行して行っておく。
 第 10-14 回 欧英文論文レジューメとパワーポイントの原稿作成、レジューメ提出。
 （講義を通してのまとめと改善点のアンケート）

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40%、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、欧英文論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各教員の授業改善アンケートからの気づき（心理学実験準備室横に掲示）を参照してください。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

演習Ⅰ（4）

下山 晃司

授業コード：A3630

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得

（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。

（4）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。

（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第2回	論文の種類の説明、論文の構成1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第3回	文献検索1	図書館を利用しての検索 （ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第4回	文献検索2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第5回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第6回	日本語論文の個人発表1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第7回	日本語論文の個人発表2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第8回	日本語論文の個人発表3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第9回	日本語論文の個人発表4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第10回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第11回	英語論文1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第12回	英語論文2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第13回	英語論文3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第14回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけでなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
 PsycINFO ID の獲得
 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
 第 4 回 PsycINFO による検索
 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
 第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 4 0 %、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）3 0 %、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）3 0 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

13 名の受講生中、12 名から回答を得ました。授業外学習時間を尋ねる「設問 2」の平均値は 3.33 で、最頻値は「回答 3」の「週 1 時間以上 2 時間未満」でした。担当教員の授業準備時間に比べれば、まだまだ少ないと思います。その他の質問項目の平均値は、4.08（設問 1：授業工夫）、4.25（設問 3：授業理解）、4.50（設問 4：履修してよかった）でした。概ね満足した結果と考えられるため、基本的に前年度を踏襲します。「設問 5（自由記述）」のよかった点としては、「発表のやり方を学べて良かった」、「一人ずつ、発表・司会の機会が与えられていたのが良かった」、「論文の解説をしてくれるので、より理解が深まった」等がありました。改善点では、「メールの返事がもっと早いと助かった」との指摘があったので、善処します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

演習 I（5）

矢口 幸康

授業コード：A3631

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- （1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
- （2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- （3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- （4）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- （5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れま。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） *英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通して、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回 PsycINFO による検索
第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の3分の2以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この演習授業は、発表などを繰り返し行ったため、授業の履修の内容では、知識だけでなく、スキルの習得、基礎力、応用力がついた、思考力の増強、知的意欲の刺激など、演習の特徴として高い得点をいただきました。授業外の学習時間がやや多く（1時間以上の授業外学習は、70%以上）大変でしたが、よく頑張りました。「実際の論文読めてとても勉強になった」「大変だったけれど自分のためになった」「発表の仕方が学べた」などのコメントを頂きました。授業目標については、もう少し具体的に最初から明確にしておきます。この授業は、教員同士の反省会を持ちながら、次年度はさらにスキルアップしたものにしたいと思っています（2016年度は国内研究で開講しませんでしたので2015年度分を掲載）。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

演習Ⅱ（1）

島宗理

授業コード：A3711

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるのに必要となる、要因計画の基礎知識を理解し説明できるようにすること。
2. 任意の問題意識に基づいて、2要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2回目から5回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第2回	要因計画の基礎1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作の定義
第3回	要因計画の基礎2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第4回	要因計画の基礎3	統計的検定の意味、2要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第5回	計画発表準備1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第6回	計画発表	実験計画の発表
第7回	本発表準備1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第8回	本発表準備2	実験の実施
第9回	本発表準備3	データ分析
第10回	本発表準備4	考察
第11回	本発表準備5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第12回	本発表	実験の発表
第13回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第14回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に2回目から5回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるとともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

(2016 年度のアナケートから)

15 年度：回答率 8% (1/13 人) → 16 年度：回答率 0% (0/12 人) 満足度 測定不可能

こも誤差の範囲で変わりなしです。演習 II は現在の授業形式になってから回答率が落ちました。私に改善要求しても仕方がないというあきらめ感さえ感じます。なお、回答率 0%というのは 20 年以上の教員歴でおそらく初めてのことです。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

演習 II（2）

三浦 大志

授業コード：A3712

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるのに必要となる、要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作の定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 2	実験の実施
第 9 回	本発表準備 3	データ分析
第 10 回	本発表準備 4	考察
第 11 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるとともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

(2016 年度のアンケートから) 9 割の受講生が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました。授業外の学習時間は 3 割が週に 2 時間以上、4 割が 1-2 時間、1 割が 30 分から 1 時間という回答でした。これは昨年とほぼ同じ分布でした。授業内での課題遂行状況を見ても、班内での個人差を感じることがありました。予習課題をやってくることにもっと意義を感じてもらえるよう、工夫します。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

演習Ⅱ（3）

吉村 浩一

授業コード：A3713

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるのに必要となる、要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察までを含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作の定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 2	実験の実施
第 9 回	本発表準備 3	データ分析
第 10 回	本発表準備 4	考察
第 11 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表	実験の発表
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるとともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

予習課題に対し積極的に取り組むよう、授業内でくり返しアナウンスし、予習課題の遂行率を上げるよう努めます。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

演習Ⅱ（４）

藤田 哲也

授業コード：A3714

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるのに必要となる、要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組めます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組みだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組み必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるとともに、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）, 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%, 計画発表 15%, 本発表 25 %, ミニ論文 20% の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

（2016 年度のアンケートから）9 割の受講生が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました。授業外の学習時間は 3 割が週に 2 時間以上、4 割が 1-2 時間、1 割が 30 分から 1 時間という回答でした。これは昨年とほぼ同じ分布でした。授業内での課題遂行状況を見ても、班内での個人差を感じることがありました。予習課題をやってくることにもっと意義を感じてもらえるよう、工夫します。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

演習Ⅱ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3715

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるのに必要となる、要因計画の基礎知識を理解し説明できるようにすること。
2. 任意の問題意識に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作の定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	計画発表	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 1	実験の実施
第 9 回	本発表準備 2	データ分析
第 10 回	本発表準備 3	考察
第 11 回	本発表準備 4	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表準備 5	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、H'etudes（授業支援システム）を通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるとともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）, 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は授業者 12 名のうち 7 名が回答してくれました。回答してくれた全員が「履修してよかった」と解答してくれました。解答しなかった 5 名がどう考えていたのか気になりますが…。また、全員が「知識が身についた」「基礎力がついた」「思考力がついた」と答えてくれました。「とても大変だし難しいし苦労したけど、心理学科として 1 番重要なステップとしての授業だったかなと思う」といった自由記述もあり、心理学科のカリキュラムの中でのこの授業の位置付けを理解してもらえたのではないかと感じました。授業外学習時間は、約半分の人が 1～2 時間、残りの半分の人が 2～3 時間と解答していました。半期という短い期間でチームごとに実験をデザインして、遂行・データ分析・成果発表までするので大変な授業だとは思いますが、皆さんよく頑張りました！

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

研究法 I（1）

高橋 敏治

授業コード：A3643

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起、目的・仮説設定、方法、統計分析、結果の表示、考察の仕方など）について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

【到達目標】

教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し、できるだけ早い時期に研究テーマを設定し、実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けられるようにします。

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するということを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、研究質問紙や実験方法の完成版の作成、実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア
	総括・まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 1
 - 第 2 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 3 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 4 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 5 回 予備研究の実施要領作成
 - 第 6 回 予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
 - 第 7 回 予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
 - 第 8 回 予備研究実施による問題点のレポート作成
 - 第 9 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 10 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 11 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 12 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 13 回 研究計画の手順や方法のレポート作成
 - 第 14 回 研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
- 卒論問題提起を夏休みに前に完成し提出

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %)、発表 (30 %)、レポート課題 (30%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、発表後にレポートとして提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

16 名の受講者中 10 名から回答を頂きました。4 - 5 の段階が、授業の工夫では 60 %、理解できたかで 70 %、履修してよかったかは 70 %と評価をしてきていました。週 1 時間以上の授業学習が 80 %とやはり課題が多くて大変だったようです。ゼミの議論は、3 年生と 4 年生の参加を考えながら、自主的な学習態度を高めて、秋学期の卒論作成にプラスに役立ててもらうように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。

研究法Ⅰ（２）

吉村 浩一

授業コード：A3644
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の興味関心に基づいて研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

３年次生は、関心ある研究テーマに対し文献的知識の蓄積を中心に学び、実践的研究の計画を作り上げる準備をします。４年次生は、自分自身で研究を実践・考察する能力を身につけることを目標にします。

【授業の進め方と方法】

３年次と４年次の合同授業ですが、単なる合同ではなく、協同となる授業を目指します。そのために、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢が重要です。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかとか探る態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する作業なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。それらに加え、必要に応じて **SuperLab** を使った実験法、**SPSS** を使ったデータ処理法などのスキルも協力し合って身につけていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方の説明と質疑応答
第 2 回	研究テーマについて	３年次生は関心のあるテーマの提示、 ４年次生はテーマ確定。 データベースを利用して関連論文を検索する。
第 3 回	文献の検索	４年次生の文献発表と ３年次生を中心とする質疑応答
第 4 回	文献の講読・発表（１）	４年次生の文献発表と ３年次生を中心とする質疑応答
第 5 回	文献の講読・発表（２）	４年次生の文献発表と ３年次生を中心とする質疑応答
第 6 回	テーマ構築（１）	３年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 7 回	テーマ構築（２）	３年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 8 回	実験・調査の立案（１）	４年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 9 回	実験・調査の立案（２）	４年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 10 回	調査研究の分析法	分析法まで見通した調査研究立案の解説
第 11 回	実験研究の分析法	分析法まで見通した実験研究立案の解説
第 12 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得、プレゼン／配布用資料の作り方
第 13 回	成果発表（１）	成果発表、質疑応答
第 14 回	成果発表（２）	成果発表、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。具体的には、授業の進捗に合わせ、自分が関心を持つテーマに関する文献をはじめさまざまな情報収集、手に入れた文献の読み込みと質問事項の整理、研究法の立案などの下準備を、授業外に行います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて適宜、各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、他者の発表へのコミットメント 10 %、成果発表 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

全員に関わる問題は、全員に問いを投げかけ、全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていまずので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

研究法Ⅰ（４）

福田 由紀

授業コード：A3646
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て、実施し、分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】

＊３年生：

実際に実験を行い、分析し考察し、発表を行う。この一連の過程により、研究における注意事項を確認できるようになる。また、様々な装置を用いてその使い方を知る。そして、４年生の発表に対して積極的に聴くことにより、自分の研究テーマを絞り込んでいく。

＊４年生：

３年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして、目的にあった研究を自分自身で計画し、実施し発表する。その結果、一人で問題を発見し、それを解決できるようになる。また、自分の研究を発表することにより、よりよいプレゼンテーションができ、わかりやすい文章を書くことができるようになる。

＊共通の目標：

授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【授業の進め方と方法】

３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。３年生はグループで行った研究について、４年生は個人の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかとかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。自己紹介。卒論の概要説明。
第 2 回	思考のコツ	批判的思考とは何か。メールというコミュニケーションツールの注意点。
第 3 回	研究実施前の準備	参加者募集のちらしと同意書、チェックシート、デブリーフィング用紙、研究計画申請書の確認。 ３年生：SL 実験リハーサル。
第 4 回	調査研究のコツ・文章力アップ	調査研究の注意（データセット、因子分析の方法）。文章力アップ 1 の確認。
第 5 回	実験研究のコツ・文章力アップ	実験計画の立て方（統制の取り方）。「卒論への道筋」の説明。文章力アップ 2 の確認
第 6 回	分析力アップ・文章力アップ	ANOVA4 の講習。文章力アップ 3 の確認
第 7 回	発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス、 Touch&Go! ３年生： SuperLab 実験の発表
第 8 回	文章力アップ・実験装置操作力アップ	文章力アップ 4 の確認。 ３年生：眼球運動測定装置の講習
第 9 回	発表スキルアップ	４年生：目的・方法の発表 1。 ３年生：４年生へのアドバイス。良い発表の確認。
第 10 回	発表スキルアップ	４年生：目的・方法の発表 2。 ３年生：４年生へのアドバイス。発表の仕方のみまとめ。
第 11 回	文章力アップ	パラグラフ・ライティングとは。文章力アップ 5 の確認。
第 12 回	研究力・文章力アップ	４年生：序論（含む引用文献）のピアレビュー。 ３年生：４年生へのアドバイス。序論構成のみまとめ。
第 13 回	研究力・文章力アップ	４年生：方法のピアレビュー。 ３年生：４年生へのアドバイス。方法のみまとめ。
第 14 回	発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス、 Touch&Go! ３年生：眼球運動測定実験の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 30 %、事前の課題提出 10%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べるのが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え、工夫して発表する形式の授業はどれも好評です。その中で、「自分はこの授業で考えことや発言すること、プレゼンすることが磨かれたが、それができない人を見ると、何か例があった方がいいと思いました」というコメントがありました。例を出すと、みんなそれに倣ってしまうので難しい所です。発表等の機会は複数回あるので学友の素晴らしい発言や発表を目の当たりし、その裏にある思考を想像する、それにより、自らの能力やスキルを高める事の意味をもっと明示します。ありがとうございます。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

研究法Ⅰ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3647

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめていくことがテーマです。

【到達目標】

1. 論文検索を適切に行うことができ、論文の内容を正確に読解し、批判的に読めるようになること。2. 1 の活動を踏まえて先行研究のレビューができ、心理学の研究に値する独自の問題点が提示できること。3. (3 年生) 種論を基本とした「追試 + a」の研究計画を立案できるようになること。(4 年生) 複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【授業の進め方と方法】

毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッションを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなく掲示板を利用したピアレビュー活動など取り入れながら授業を進める予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、達成目標の設定
第 2 回	文献レビュー（1）	【4 年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読 1・発表。【3 年生】関心のあるテーマの選定と文献講読 1、4 年生へのコメント。
第 3 回	文献レビュー（2）	【4 年生】文献講読 2、3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 2・発表。
第 4 回	文献レビューと研究計画の立案（1）	【4 年生】文献講読 3、問題点の精査、発表。【3 年生】文献講読 3、問題点の精査、4 年生へのコメント。
第 5 回	文献レビューと研究計画の立案（2）	【4 年生】文献講読 4、問題点の精査、3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 4、問題点の精査、発表。
第 6 回	研究計画発表（1）	【全員】研究計画書の作成。【4 年生】発表。
第 7 回	研究計画発表（2）	【全員】研究計画書の作成。【3 年生】発表。
第 8 回	研究計画の具体化	変数の整理、刺激・材料等の準備
第 9 回	問題の設定、研究倫理	問題意識と研究目的の設定、研究倫理について
第 10 回	4 年次春成果発表（1）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備、4 年生へのコメント。
第 11 回	4 年次春成果発表（2）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備、4 年生へのコメント。
第 12 回	3 年次春成果発表（1）	【4 年生】倫理審査書類提出、3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 13 回	3 年次春成果発表（2）	【4 年生】倫理審査書類提出、3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 14 回	まとめと展望	春学期の総括、秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画など）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワー（火曜 4 限）を活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）. 心理学研究法入門 ―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会。
高野陽太郎・岡 隆（編）（2004）. 心理学研究法 ―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ。
松井豊（2006）. 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%，発表 50%，コメント 30%の割合で評価する予定。
原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合は正当な理由なしに発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は、授業中にアンケートが実施できなかったので回答率が低くなってしまいました。回答者 3 名全員が、「履修してよかったか」「理解できたか」「工夫されていたか」という間に「4」か「5」で回答してくれました。授業外学習時間については 1 名が 1～2 時間、2 名が 2～3 時間と回答していました。具体的なコメントとして、「授業支援システムの掲示板で発表へのコメントを受けましたが、どれも参考にしたいものばかりで、とても役に立ちました。コメントを行う側としては、疑問点をまとめるために、他者のプレゼンを注意深く聴くようになることができたと思います。」といった感想をいただきました。コメントするのは面倒ですが、する側・される側の双方にメリットがあることを（少なくとも一部の人には）理解してもらえたようです。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

研究法Ⅰ（6）

藤田 哲也

授業コード：A3648

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて、心理学の研究計画の立て方から論文の書き方まで、実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

< 4 年生 >

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 1、2 をふまえて、独自性のある研究計画を立てること。
4. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

< 3 年生 >

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 1 をふまえて、先行研究の追試を基本とした研究計画を立て、実施し、適切な方法で分析できること。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 研究成果を論文形式でまとめること。

【授業の進め方と方法】

3 年生と 4 年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野（記憶、認知、動機づけ、自己など）に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう（必ず見つかるはずです）。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。4 年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と、そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の 2 回の発表機会があります。3 年生は一つの先行研究を熟読し、改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え、実際に研究を行った成果発表を行った上で、発表によって明らかになった改善点を踏まえ、ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講上の注意、発表順の決定
第 2 回	それぞれの研究課題	4 年：レビューの仕方、3 年：研究テーマの決定と先行研究の選定
第 3 回	レビュー発表 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験材料・調査用紙の作成
第 4 回	レビュー発表 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験・調査の準備および実施開始
第 5 回	レビュー発表 3	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析
第 6 回	研究実施	4 年と 3 年：3 年生の調査実施
第 7 回	中間まとめ	4 年：これまでのレビュー発表総括、3 年：研究中間報告
第 8 回	卒論中間報告 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の構成
第 9 回	卒論中間報告 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の作成

第10回	卒論中間報告3	4年：発表，3年：発表へのコメント，自分の発表練習
第11回	3年生研究発表1	4年：発表へのコメント，3年：発表
第12回	3年生研究発表2	4年：発表へのコメント，3年：発表，論文の構成について
第13回	ミニ論文仮提出	4年と3年：受講生同士によるミニ論文の相互評価
第14回	総括とミニ論文本提出	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが，他の受講生の発表に対して，H'etudesの掲示板上で積極的に質疑応答をしてください。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

テキストはありませんが，レジюмеおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編），北大路書房，2006年）。

【成績評価の方法と基準】

4年生：
平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内およびH'etudes上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（60％）…自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と，自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において，発表の内容と発表のしかた，発表資料（レジюме）の正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。

3年生：
平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと，授業内およびH'etudes上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（30％）…研究内容に加え，レジюмеの体裁，プレゼンの仕方，質疑応答がそれぞれ評価対象となります。

ミニ論文（30％）…研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

「履修してよかった」の評価は4.87で，「理解度」も4.27でまずまずでしたが，授業外学習時間の個人差が大きいようです。3時間以上が5人いるのに対して，1時間未満も4人います（学年による差ではないような…）。この授業では，院生を含め全受講生相互の積極的な参加を促すしかけを多く用意していますので，自主的に取り組もうと思えば，それだけ学べることも増えると思います。与えられた課題だけでなく，貪欲に知識やスキルを修得していただきたいね。

【その他の重要事項】

研究法I・IIは，通年で同じ教員の授業を履修してください。その際，どの教員の研究法を履修するのかは，原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」，3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また，授業の運営方針や授業計画の説明，発表順の決定などをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

研究法 I（7）

島宗 理

授業コード：A3649

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

【到達目標】

研究法Iで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で、課題の発表と討論を中心に進めます。3年次には卒論の準備として小実験に取組みます。4年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理（倫理委員会に提出する書類など）について解説します。
第2回	実験計画の発表 (1)	3年次生： 小実験の候補を紹介します。 全員： 独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。
第3回	実験計画の発表 (2)	3年次生： 小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。
第4回	実験計画の発表 (3)	4年次生： 各自、実験計画を発表し、討論します。GOサインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。
第5回	予備実験の報告 (1)	同上 全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（本実験の計画）などを学びます。
第6回	予備実験の報告 (2)	3年次生も4年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第7回	予備実験の報告 (3)	同上
第8回	先行研究をまとめる (1)	同上 全員： 先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめあげ方法について解説します。
第9回	先行研究をまとめる (2)	同上
第10回	先行研究をまとめる (3)	同上
第11回	本実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（継続実験の計画）などをさらに学びます。

3年次生も4年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。

第 12 回	本実験の報告 (2)	同上
第 13 回	本実験の報告 (3)	同上
第 14 回	まとめ (1)	全員： 各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。 3 年次生は小実験、4 年次生は本実験のレポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。
○興味がある実験について標的行動（従属変数）、介入方法（独立変数）、実験計画法の 3 つを考え、提案するための資料を作成する。
○実験計画について予測する結果を作図する。
○5 つ以上の先行研究を表にまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介しまず（以下はシングルケースデザイン法に関する参考書の例）。

Alberto, P., & Troutman, A. C. (1999). Applied behavior analysis for teachers. Prentice Hall. (アルバート, P. A.・トルートマン, A. C. 佐久間 徹・谷 晋二・大野裕史 (監訳) はじめての応用行動分析 日本語版 第 2 版 (2004 二版社)

Barlow, D. H., & Hersen, M. (1984). Single case experimental designs: Strategies for studying behavior change. Pergamon. (バーロー, D. H.・ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間 徹 (監訳) 一事例の実験デザイン ―ケーススタディの基本と応用― 二版社)

Cooper, J. C., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). Applied Behavior Analysis. Pearson Education. (クーバー, J. C., ヘロン, T. E., & ヒューワード, W. L. 中野良顯 (訳) (2013) 応用行動分析学 明石書店)

岩本隆茂・川俣甲子夫 (1990). シングル・ケース研究法―新しい実験計画法とその応用― 勁草書房.

【成績評価の方法と基準】

・授業への参加（課題の発表や討論）（40 %）、課題遂行（40 %）、レポート提出（20 %）から成績を評価します。
・欠席が 4 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】

(2017 年度春学期から)

16 人中 12 人が回答してくれました（75%）。そのうち 6 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（50%）。

今年度から 3 年生はチームで実験せず、さっそく個人で卒論にむけて実験を始めるようにしました。心理学基礎実験Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅱと、すでにチームで実験をする練習は十分に積んできているはずだからです。それにも関わらず、苦勞した 3 年生が続出しました。これが何に起因するかよく考えないとならないと思っています。

4 年生にとって課題の量は去年までと同じで、むしろ学期中にいつ何を発表するかを自由にしたぶん、個々のペースで進められるようになったはずですが、逆に課題遂行が進まない人がたくさんでてきました。これも何が要因なのかよく考えないとならないと思っています。が、とりあえず、「もう少し単位を取りやすくして欲しいです。お願いします」という要望には応えません。あしからず（笑）。

【その他の重要事項】

この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか？ と思うとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。

オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

研究法Ⅰ（8）

越智 啓太

授業コード：A3650

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

いままで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろくて構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

＜学習目標＞

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【到達目標】

自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。

研究のテーマ選択

先行文献の検索と整理

実験計画の作成

実験結果の分析

レポート・論文の作成

オーラルでの発表

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究報告とディスカッションを行う。

1～2 回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。

【授業計画】

春学期 回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、文献収集指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 3 回	研究発表 2、文献収集指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 4 回	研究発表 3、文献収集指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 5 回	研究発表 4、実験調査指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 6 回	研究発表 5、実験調査指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 7 回	研究発表 6、実験調査指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 8 回	研究中間発表会	自分の研究の現状について 15 分でプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

第 10 回	研究発表 8、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 11 回	研究発表 9、実験調査指導 5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 12 回	研究発表 10、実験調査指導 6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 13 回	研究発表 11、実験調査指導 7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 14 回	研究発表 12、実験調査指導 8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してくること。

その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法と基準>

この授業は出席点をもっとも重視する。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【学生の意見等からの気づき】

例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。

研究法 I（9）

荒井 弘和

授業コード：A3716

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究計画を立てること。

【到達目標】

(1) 心理学の問いを設定できるようになる (3 年生はこれが重点目標)、(2) 心理学の研究計画 (4 年生は卒業論文の研究計画) を立てられるようになる (4 年生はこれが重点目標)。

【授業の進め方と方法】

(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いくつかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自分の関心を洗い出す (1)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	自分の関心を洗い出す (2)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	自分の関心を洗い出す (3)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	先行研究を読み、内容をまとめる (1)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	先行研究を読み、内容をまとめる (2)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	先行研究を読み、内容をまとめる (3)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	先行研究を読み、内容をまとめる (4)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	先行研究を読み、内容をまとめる (5)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究計画を立てる (1)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究計画を立てる (2)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究計画を立てる (3)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究計画を立てる (4)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究計画を立てる (5)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究計画を完成させる	研究計画申請書を完成させ、倫理委員会に提出する。 (提出後、研究を実施する)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。

【テキスト（教科書）】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2017 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「卒論のテーマをじっくり話し合って熟考しながら考えられたから、とても良かった」などのコメントをもらいました。意見交換・議論を中心に授業を展開し、関心のある研究テーマの発掘に時間をかけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

研究法 I (10)

林 容市

授業コード：A3717

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し、情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て、研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【授業の進め方と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
- 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
- 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
- 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して議論する。
第 5 回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して議論する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成、発表準備をしてきてください。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

浦上昌則、脇田貴文、心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方、東京図書。

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：50%、2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容：20%、3) 授業への参画状況（出席・発言など）：30%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度よりも文章作成能力の習得に向けた時間・作業を増大させたが、課題が適切ではなかったのか、あまり改善されなかったように感じている。

データの分析から文章としてアウトプットするまでの作業を再検討し、授業内容を改善する予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPA および「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

研究法Ⅱ（１）

高橋 敏治

授業コード：A3651

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに、卒業研究を実施する上で必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を、ゼミ形式で検討します。

【到達目標】

実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か、議論し、修正し、卒論を準備します。

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、研究質問紙の完成版の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理、統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2、卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 3 回目研究発表の原稿作成 1
- 第 2 回 3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
- 第 3 回 3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 4 回 3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
- 第 5 回 卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
- 第 6 回 卒論データの統計上の問題点レポート作成
- 第 7 回 卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
- 第 8 回 卒論図表作成上の問題点レポート作成
- 第 9 回 卒論作成上の問題点レポート作成 1
- 第 10 回 4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 11 回 4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 12 回 4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 13 回 4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 14 回 卒論仮提出用原稿修正版の作成
要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、発表（30 %）、参加態度（20%）によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、それを再提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生 14 名中 2 名のアンケート回答がありました。回答してくれた全員が「履修してよかった」と答えてくれました。この部分のコメントには、卒論前に知識をつけることができた、先輩の発表などを通して自分の卒論作成へのステップになった、論文の書き方や研究の進め方を丁寧に指導してもらったので、実際の卒論作成が円滑に行えた、などがありました。授業外学習時間を見ると、週 1 時間~2 時間が多く、ゼミと卒論の進行状況をときどきの進行に合わせて発表するため、大変とは思いますが、よく課題をこなして発表してくれました。履修上ではスキルや思考力の習得を回答してくれており、授業の進め方では学生間の交流、動機づけの工夫などをきちんと評価してもらいました。昨年に比べ、授業外時間の低下がやや気になります（前年度分を掲載）。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。

研究法Ⅱ（２）

吉村 浩一

授業コード：A3652

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の力で実践的研究を設計・実施し、考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3 年次生は、関心ある研究テーマに対し、実践的研究の計画を作り上げる準備をすることを目標とします。4 年次生は、3 年次に獲得した知識・能力に基づいて、自分自身の研究を実施し、それにより生み出したデータを整理する技能と考察する能力を身につけることを目標にします。

【授業の進め方と方法】

3 年次と 4 年次の合同授業ですが、単なる合同に終わらず、協同作業となる授業を目指します。3 年次と 4 年次とのあいだで共通するテーマや研究法があれば、3 年次生は 4 年次生の知識や技能を踏まえて発展させる努力を行ってください。逆に 4 年次生は、3 年次生に対して積極的にアドバイスすることを通して、自分の研究の進め方を客観的に捉え・評価する姿勢で臨んでください。特に、研究計画書の書き方や発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現在位置の確認	3・4 年次生とも、現時点での到達点の自己評価
第 2 回	仮説の提示と検討	4 年次生は計画している研究での仮説を明確化し、3 年次生とともに検討
第 3 回	心理学的研究の土俵に載せる	3 年次生は関心あるテーマを心理学的に検討できる様式として提案し、全員で評価検討
第 4 回	研究倫理の確保	4 年次生の実施計画を研究倫理の観点から全員で検討
第 5 回	研究テーマの確立（1）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 6 回	研究テーマの確立（2）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 7 回	データの整理（1）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 8 回	データの整理（2）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 9 回	実験計画の立案（1）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 10 回	実験計画の立案（2）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 11 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得、プレゼン／配布用資料の作り方
第 12 回	論文の書き方	学術論文と同様の内容・形式のミニ論文の書き方の実現
第 13 回	成果発表（1）	成果発表、質疑応答
第 14 回	成果発表（2）	成果発表、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画と遂行、データの分析、成果発表）に沿って、ほぼ毎回、各人ごとの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させ発表する準備を授業時間外に行います。具体的には、関心を持っているテーマに関する情報収集、文献の読み込み、研究法の立案などの下準備を行います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて適宜、各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と、他者の発表へのコミットメント 10 %、成果発表 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

全員に関わる問題は全員に対して問いを投げかけ、全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていないので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

研究法Ⅱ（４）

福田 由紀

授業コード：A3654

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰ、演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめていくことが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公開できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】

＊３年生:

自分の関心ある研究テーマに対し、心理学研究の計画を作り上げる。これにより、自分自身で問題を発見し、それを解決できるようになる。そして、４年生の発表に対して積極的に聴くことにより、分析技能や考察する力が身につく。

＊４年生:

春学期で蓄えた知見や技能を用いて、適切な分析や考察を行い、発表する。これにより、高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また、ピアに発表することにより、自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。

＊共通の目標:

授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【授業の進め方と方法】

３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。３年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。４年生は個人の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまるかもしれないだろうかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。
第２回	文章力アップ	文章力アップ７の確認
第３回	研究力・発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス ３年生：種論文の発表１
第４回	研究力・発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス ３年生：種論文の発表２
第５回	発表スキルアップ	４年生：分析結果・考察の発表１ ３年生：４年生へのアドバイス
第６回	発表スキルアップ	４年生：分析結果・考察の発表２ ３年生：４年生へのアドバイス
第７回	研究力・発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス ３年生：関連論文の発表１
第８回	研究力・発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス ３年生：関連論文の発表２
第９回	研究力・文章力アップ	４年生：結果・考察のピアレビュー ３年生：４年生へのアドバイス
第１０回	研究力・文章力アップ	文章力アップ９の確認。 ４年生：引用文献・図表・要旨のピアレビュー ３年生：４年生へのアドバイス
第１１回	発表スキルアップ	４年生：論文の仮提出、３年生へのアドバイス ３年生：研究構想発表１
第１２回	発表スキルアップ	４年生：３年生へのアドバイス。 Touch&Go! ３年生：研究構想発表２
第１３回	発表スキルアップ	４年生：発表予行練習 ３年生：４年生へのアドバイス、卒論への道筋の提出、 Touch&Go!
第１４回	発表スキルアップ	４年生：発表予行練習 ３年生：４年生へのアドバイス、 Touch&Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 30 %、事前の課題提出 10%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べるのが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス入稿時に、2017 年度の学生による授業改善アンケートの結果がまだあがってきていません。そのため、2016 年度の授業評価からアンケート結果を踏まえた改善点を記します。

100 %の人この授業をとってよかったと回答してくれました。ありがとうございます。良かった点をみなさんたくさん挙げてくれました。まとめると、①論文作成、発表やパワポについての適切な指摘 ← 教員だけではなく、学生さん全員が「建設的なコメント」していたね。そこが素晴らしい！②３年生のコメントから、実験課題を異なったチームで３回行うことにより、力がついた ← 今度も継続を検討します。③多くのワークにより、人間関係が成立し、堅すぎ、柔らかすぎずといったゼミの雰囲気良さ ← 人間関係はそれを作り上げようとするメンバーの努力の結果です。みんなの努力のおかげです。よかったですね！④文章力アップ講座がためになった ← 継続します。一方、改善点としては、①質疑応答の時間を長くして欲しい ← 良いところの①に関わりますね。改善します。②春学期から卒論テーマを検討するようにするというのは？ ← はい、改善します。ということで、４年生の方は素敵な社会人生活を、３年生の方は面白い卒論制作をしてください。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は本年度より３年次生と４年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、３年次と４年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

研究法Ⅱ（５）

田嶋 圭一

授業コード：A3655

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめていくことがテーマです。

【到達目標】

1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。3. 収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4年生は卒業論文を、3年生はミニ卒論を完成させることを最終的な到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッションを行います。毎回休まずに出席する心積もりでください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなく掲示板を利用したピアレビュー活動などを取り入れながら授業を進める予定です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、研究計画の確認、発表順の決定
第2回	研究の準備	実験・調査の準備、倫理審査
第3回	研究の実施	研究の実施、進捗状況報告
第4回	研究の実施、論文執筆：目的、方法	研究の実施、研究目的から方法までの書き方
第5回	研究中間発表（１）、研究の実施	【3年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第6回	研究中間発表（２）、データの整理・加工	【3年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第7回	研究中間発表（３）、記述統計量の計算	【4年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第8回	研究中間発表（４）、推測統計の実施	【4年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第9回	結果の解釈、論文執筆：結果、考察	効果的な図表の作成、結果（事実）と考察（解釈）の書き方
第10回	論文執筆：導入から引用文献まで	問題と目的、引用文献などの書き方、論文全体の執筆・推敲
第11回	研究最終発表（１）	【3年生】成果発表。【4年生】論文仮提出。【全員】ピアレビュー。
第12回	研究最終発表（２）	【3年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。
第13回	研究最終発表（３）	【4年生】成果発表。【3年生】ミニ論文提出。【全員】ピアレビュー。
第14回	研究最終発表（４）、総括	【4年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。関心を持っているテーマに関する情報収集、文献の読み込み、研究法の立案などの下準備は、授業外に行ってください。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布・説明してください。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）．心理学研究法入門 ―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会．

高野陽太郎・岡 隆（編）（2004）．心理学研究法 ―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ．

松井豊（2006）．心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社．

【成績評価の方法と基準】

平常点 20％、発表 50％、コメント 30％の割合で評価する予定。

原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合または正当な理由なしに発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は、回答者 13 名のうち 11 名が「履修してよかった」、2 名が「どちらともいえない」という回答でした。「卒論研究を行うためのノウハウが身についた」「エチュードでのコメントは役に立った」「3 年生のうちにミニ卒論という目標を掲げて研究プロセスを一通り経験できてよかった」といった肯定的なコメントもありましたが、「忙しすぎた」「課題が多すぎた」といった悲鳴も聞こえてきました。改善点として、「最終発表が中間発表の流用になっている人が多かったので発表は 1 回でよい」「時間が足りなくてせっかくもらったコメントが活かせなかった」「授業時間内のレビューがもっとあるとよい」「各自から進捗状況を順に聞く授業形態だと自分の番以外は何をしていたらよいのか分からない」といったコメントをいただきました。自分の研究だけで手一杯で他の人の研究にまで頭が回らないと感じてしまうかもしれませんが、ゼミは共同学習の場なので、ぜひ他の人の問題も自分の問題として捉えて（類似の問題を抱えていることも多いので）建設的な議論が相互にできるようにしてもらいたいです。エチュードにコメントを書く作業もこの共同学習の一環だと考えてもらいたいです。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

研究法Ⅱ（6）

藤田 哲也

授業コード：A3656

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を視野に入れ、心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

<4年生>

1. 先行研究を踏まえ、妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
2. 得たデータに適した正しい分析を行えること。
3. 客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
4. 研究成果について、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。

<3年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 他者の発表に対して的確なコメントを行い、他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをすること。

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。4年生は、実際に研究を行うことでデータを収集し、分析をしながら、適切な解釈ができるように発表および討論を2回行います。研究法の時間は、実験や調査、分析を行うための時間ではなく、それらについての議論を行う時間だと理解してください。3年生は、次年度に行う研究に向けて、a. 論文紹介+批判的コメントの発表、b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介+自分の問題意識の発表を行います。全員、ほかの受講生の発表内容に対して、適切にコメントをしてください。また、首尾一貫した論文を書くためのポイントについてアドバイスします。研究論文は、作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために、十分に推敲するためのポイントを把握してください。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のスケジュール	全員：シラバス記載事項の確認と補足説明、授業内容と目標の明確化
第2回	卒論中間発表1	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと先行研究の選定
第3回	卒論中間発表2	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと選定した論文の読解
第4回	3年生論文発表1	4年：発表へのコメントと研究実施、3年：発表と発表へのコメント
第5回	3年生論文発表2	4年：発表へのコメントと結果分析、3年：発表と発表へのコメント
第6回	卒論最終発表1	4年：発表と結果の分析、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第7回	卒論最終発表2	4年：発表と結果の考察、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第8回	卒論最終発表3	4年：発表と卒論の執筆、3年：発表へのコメントと自分の発表準備

第9回	3年生レビュー論文発表1	4年：発表へのコメントと卒論執筆、3年：発表と発表へのコメント
第10回	3年生レビュー論文発表2	4年：発表へのコメントと卒論推敲、3年：発表と発表へのコメント
第11回	卒論学生相互コメント	4年：卒論の推敲、3年：卒論に対するコメント
第12回	卒論仮提出	4年：卒論の改稿、3年：卒論に対するコメント
第13回	卒論要旨集原稿確認	4年：要旨集原稿の修正、3年：要旨集原稿へのコメント
第14回	総括と卒論発表会準備	全員：授業の振り返り、到達状況の確認、4年：プレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、H'etudesの掲示板で積極的に質疑応答をしてください。

【テキスト（教科書）】

指定しません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006年）。

【成績評価の方法と基準】

4年生：

平常点（40％；授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内およびH'etudes上での他の受講生に対するコメントが評価対象）

卒論計画発表（20％；発表内容10％、レジュメ5％、発表の仕方・質疑応答5％）

卒論最終発表（40％；発表内容20％、レジュメ15％、発表の仕方・質疑応答5％）

各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

3年生：

平常点（40％；授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内およびH'etudes上での他の受講生に対するコメントが評価対象）

論文発表（20％；発表内容10％、レジュメ5％、発表の仕方・質疑応答5％）

レビュー論文発表（40％；発表内容20％、レジュメ15％、発表の仕方・質疑応答5％）

各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

【学生の意見等からの気づき】

（2016年度のアンケートから）例年通り全員から「この授業を履修してよかった」と回答してもらえました。12名中7名が皆勤、残り5名も8割以上の出席ということからも、みんなの積極的な授業参加があつてこそ、高い満足度が得られていることがうかがえますね。授業外学習時間は昨年より増えていました。4時間超の人が7名もいて、3年生でも授業外に掲示板コメントにしっかり取り組んでいる様子が伝わりました。「授業はこのままでよい」という意見のみいただきましたので、このままでいきます。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

研究法Ⅱ（7）

島 宗 理

授業コード：A3657
 秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法Ⅱでは、3 年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4 年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

【到達目標】

研究法Ⅱで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で、課題の発表と討論を中心に進めます。3 年次には研究法Ⅰで行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。 3 年次生は小実験、4 年次生は卒論実験の内容を 1 分間でプレゼンする練習をします。
第 2 回	論文を書く： アウトラインを書く	全員： アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。 3 年次生は小実験のレポートを執筆します。4 年次生は卒論実験を論文にしていきます。
第 3 回	論文を書く： データの視覚的な提示	全員： 実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそっているかどうかを確認します。
第 4 回	論文を書く： 推敲する (1)	全員： 方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。
第 5 回	論文を書く： 事実を書く	全員： アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。
第 6 回	論文を書く： 先行研究をまとめる	全員： 春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します
第 7 回	論文を書く： 研究を位置づけるアウトラインを書く	全員： 第 6 回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法（段落をトピック文とサポート文で構成する手法）を解説し、練習します。

第 8 回
 論文を書く：
推敲する (2)

第 9 回
 論文を書く：
推敲する (3)

第 10 回
 論文を書く：
執筆ルールに基づいて校正する

第 11 回
 論文を書く：
推敲する (4)

第 12 回
 研究計画 (1)

第 13 回
 研究計画 (2)

第 14 回
 研究計画 (3)

全員：
 第 5 回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。

全員：
 パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。

全員：
 引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。

全員：
 小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。

3 年次生：
 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。

4 年次生：
 卒論を推敲し、提出します。

3 年次生：
 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。

4 年次生：
 卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。

3 年次生：
 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。

4 年次生：
 卒論発表会に備え、卒論研究の発表練習をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。

○春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。
 ○自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。
 ○日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。

【テキスト（教科書）】

テキストはありませんが、研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します。

【参考書】

○論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美（2012）講談社
 ○2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）

【成績評価の方法と基準】

・授業への参加（課題の発表や討論）（40％）、課題遂行（40％）、レポート提出（20％）から成績を評価します。
 ・欠席が 4 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】

（2017 年度後期はまだアンケートを実施していないため、下記は 2016 年度の「気づき」となります）

15 年度：回答率 86%（12/14 人）→ 16 年度：回答率 13%（2/16 人）満足度 100%

なるほど、ここに大きな影響ができましたか。でも、はたして条件の差なのか、ゼミ生の個人差なのか、これだけで判断は難しいです。研究法の授業改善アンケートでは、何か特定のことにについて意見を求めることが多く、それが今回はなかったせいかもしれません。来学期に何か試してみることになります。

【その他の重要事項】

この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。本年度は旧カリの 4 年次生と新カリの新 3 年次生の合同授業となります。

オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

研究法Ⅱ（8）

越智 啓太

授業コード：A3658

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜テーマ＞

心理学研究を形にしていく！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画を立て、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【授業の進め方と方法】

毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、2～3回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、分析方法指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 3 回	研究発表 2、分析方法指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 4 回	研究発表 3、図表レイアウト指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 5 回	研究発表 4、図表レイアウト指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 6 回	研究発表 5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。参考文献リストの作成についての指導
第 7 回	研究発表 6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第 8 回	研究中間発表	各自の研究を 15 分間で効果的にプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、論文指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 10 回	研究発表 8、論文指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。

第 11 回	研究発表 9、論文指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 12 回	研究発表 10、論文指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 13 回	プレゼンテーション演習 1	各自の研究発表について個別に指導する
第 14 回	プレゼンテーション演習 2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。

その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習して行くこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】

使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業は出席点をもっとも重視する。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【学生の意見等からの気づき】

例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

各自、パワーポイントのスキルをあらかじめ、つけておくこと。

【その他の重要事項】

大学 4 年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！

正規の授業時間以外に 1～2 回、土曜 1～5 限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1 月には、同様に 1 日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

研究法Ⅱ（９）

荒井 弘和

授業コード：A3718

秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の論文を執筆すること。

【到達目標】

研究法Ⅰで立案した研究計画に基づき、(1) その研究計画を実施する。そして、(2) 実施した結果を論文化する (3 年生は研究レポート、4 年生は卒業論文)。

【授業の進め方と方法】

(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の実施経過を報告する	実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	データを分析する (1)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	データを分析する (2)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	データを分析する (3)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	データを分析する (4)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	データを分析する (5)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	研究論文を完成させる (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	研究論文を完成させる (2)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究論文を完成させる (3)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究論文を完成させる (4)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究論文を完成させる (5)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究論文を完成させる (6)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究論文を完成させる (7)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究内容を口頭発表する	研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。その後、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究の実施（データ収集やデータの分析も含む）、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。

【テキスト（教科書）】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2017 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「指導が大変丁寧でした」などのコメントをもらいました。意見交換・議論を中心に授業を展開し、研究の実施においては、個別のコミュニケーションも重視したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

研究法Ⅱ（10）

林 容市

授業コード：A3719

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を行い、卒業論文を作成すること。

【到達目標】

- ・研究テーマ・課題を設定し、適切な研究計画を立案できる。
- ・妥当な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
- ・得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
- ・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
- ・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、研究計画について発表し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表を行い、履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第2回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第3回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し、全体で論議・推敲する。
第4回	収集データ・分析結果の発表1	収集データを分析して発表し、全体で論議する。
第5回	収集データ・分析結果の発表2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し、発表する。
第6回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第7回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第8回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し、意見交換を行う。
第9回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し、全体で推敲・意見交換を行う。
第10回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ、発表する。
第11回	プレゼンテーション（1）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（1）。
第12回	プレゼンテーション（2）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（2）。
第13回	口頭発表練習（1）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い、内容などについて討議する（1）。
第14回	口頭発表練習（2）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い、発表内容の改善に向けて意見交換する（2）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、各回のテーマ・内容に沿って、授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

- ・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版 心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために、河出書房新社
- ・酒井聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために、共立出版

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容 20%、3) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度よりも文章作成能力の習得に向けた時間・作業を増大させたが、課題が適切ではなかったのか、あまり改善されなかったように感じている。データの分析から文章としてアウトプットするまでの作業を再検討し、授業内容を改善する予定である。受講生からも、作業についての改善意見が出されており、それを反映させた形での授業運営を予定している。

【その他の重要事項】

- ・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
- ・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

生理心理学

成澤 元

授業コード：A3665

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理心理学の基本的なアプローチである、電気生理機器の構造や方法を学ぶ。生理指標は心理学研究の中で重要な客観的指標としての役割があり、講義を通じて種々の生理指標の実験の研究での用いられ方や、その発生機序についても学ぶ。実際に機器を使用し、心理状態による各生理指標の変化を体験・確認していく。

【到達目標】

各生理指標が反映する心理状態と、生理指標を心理学で用いることのメリットについての知識を身につける。また生理指標の測定方法を習得することにより、広い視野を獲得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

基本事項を講義で確認し実習で各種機器の使用方法を学ぶ。毎回出席確認を兼ねたりアクションペーパーへのコメント記入を求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	生理心理学の基礎と高校公民の教育における本授業の意味
第2回	機器説明	多用途脳波計（ポリソムノグラフィ）の説明
第3回	自律神経活動の指標	心理学における心電図と呼吸の位置づけと測定法
第4回	自律神経活動の指標	心電図と呼吸の測定実習
第5回	自律神経活動の指標	心電図と呼吸の解析法とその解釈
第6回	視覚運動系の指標	心理学における眼球運動の位置づけと測定法
第7回	視覚運動系の指標	眼球運動の測定実習
第8回	視覚運動系の指標	眼球運動の解析法とその解釈
第9回	中枢神経系の指標	心理学における脳波の位置づけと測定法
第10回	中枢神経系の指標	脳波の測定実習
第11回	中枢神経系の指標	脳波の解析法とその解釈
第12回	体温と表面皮膚温	心理学における体温と表面皮膚温の位置づけと測定法
第13回	生体リズム	心理学における生体リズムの位置づけと測定法
第14回	総括	課題へのフィードバックと授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習予定の生理指標の予習をし、不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実習のあとにはレポートが課される。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する

【参考書】

堀忠雄著 「心理学の世界 基礎編 12 生理心理学」培風館、2008

【成績評価の方法と基準】

出席を含めた授業への積極的な貢献度（60%）とレポート課題（40%）から評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

生理心理学実習

成澤 元

授業コード：A3666

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理心理学の基本的な手法や測定データの解析方法、その結果提示の方法を学ぶ。

【到達目標】

脳波、眼球運動、心拍等の測定と解析手法を学びながら、各指標を心理学の研究の中でどのように用いていくかを、実際に実験で得られたデータを使用して学習する。実生活で活かせる知識の獲得により、現代の 24 時間社会について主体的に考え問題解決する能力を身につける。さらに種々の生理指標を、心理学の諸領域でどう活かせるかについての応用的な視点を獲得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

本授業は実習形式で行うため、春学期の生理心理学を受講し基礎的な知識をすでに学んでいる者を対象とする。また測定機器の關係上、グループによる実習を予定している。その割り振りを初回授業で行うため、受講希望者は最初の授業には必ず参加すること。受講希望者が許容範囲を超える場合、制限を行うことがある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習グループ分けと高校公民の教育における本授業の意味
第 2 回	生体リズム	生体リズムの説明と測定
第 3 回	睡眠覚醒リズム	睡眠覚醒リズムの主観的・客観的測定法とその評価
第 4 回	睡眠測定法	睡眠脳波の測定方法
第 5 回	睡眠測定法	睡眠脳波の実測
第 6 回	睡眠測定法	睡眠脳波の判読
第 7 回	自律神経系活動	自律神経系活動の測定方法
第 8 回	自律神経系活動	自律神経系活動の実測
第 9 回	自律神経系活動	自律神経系活動の解析
第 10 回	眼球運動と皮膚電気活動	眼球運動と皮膚電気活動の測定方法
第 11 回	眼球運動と皮膚電気活動	眼球運動と皮膚電気活動の実測
第 12 回	眼球運動と皮膚電気活動	眼球運動と皮膚電気活動の解析
第 13 回	グループ発表	生理心理学的指標を用いた研究計画案
第 14 回	総括	課題へのフィードバックと授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習予定の生理指標の予習をし、不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実習のあとにはレポートが課される。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する

【参考書】

堀忠雄著 「心理学の世界 基礎編 12 生理心理学」培風館、2008

【成績評価の方法と基準】

出席を含めた授業への積極的な貢献度（60 %）とレポート・発表課題（40 %）から評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

感情心理学

足立 にわか

授業コード：A3668

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において感情は人の理性や思考・認知プロセスにおいて邪魔な存在とされ、またそれゆえ、心理学研究の対象から除外されてきた。近年、感情についてのそうした見方が変わり、人の様々な発達の側面で重要な基盤であり機能を果たしていることが確認されている。本授業では、主要な感情研究と理論を踏まえながら、感情と心理的諸側面との関連性について学んでいく。具体的には、発達、認知、社会、臨床の各心理学領域における感情研究の基本理論や知見を概観しながら、心理学的観点から見た感情の役割や機能について理解を深める機会を提供する。

【到達目標】

人間の「感情」がどのように発達し、機能しているのか、また「感情」が心理的・行動的側面にどのような影響を与えるか等、心理学における感情の捉え方を、時代、思想的背景も含めながら理解すること。併せて、感情を扱う心理学的な実験手続き等の基礎的な知識を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式とし、適宜、必要に応じてディスカッション等のやりとりを含めながら進めたい。感情および心理学領域での感情研究について具体的にイメージしやすくなるよう、単元によってはビデオ鑑賞や簡単な実験、心理尺度の実施を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	感情の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	感情研究の理論と研究 (1)	感情研究の生理的・認知的理論と研究について
第 3 回	感情研究の理論と研究 (2)	感情研究の進化適応的理論と研究について
第 4 回	感情の発達	感情のめばえと感情発達について
第 5 回	感情と非言語的行動	表情、音声、動作などの非言語的行動と感情認知の関連について
第 6 回	感情の操作と測定	感情の操作方法、および、測定方法の説明
第 7 回	対人魅力と恋愛	対人魅力の理論、および、アタッチメントと対人関係について
第 8 回	感情と社会的判断	感情と社会的判断の関連について学ぶ
第 9 回	感情と自己	感情と自己認知の関連について学ぶ
第 10 回	感情のコントロール	ストレス・コーピング、感情制御について学ぶ
第 11 回	うつ病の病理と治療	うつ状態とその治療方法について
第 12 回	不安の病理と治療	不安障害とその治療方法について
第 13 回	幸福論	幸福感を心理学的観点から考える
第 14 回	まとめと試験	感情心理学について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに配布する文献・資料を熟読した上での授業参加を前提とする。その他、興味を持ったトピックについては、授業内で紹介する文献を含む関連図書・文献を読み、積極的に知識を深めていくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、毎回プリントおよび資料を配布する

【参考書】

授業で配布するプリントを参照すること

【成績評価の方法と基準】

試験（100 %）。試験は、授業内で取り上げた理論や研究例を理解し、基本的な知識を踏まえて説明できるかどうかを基準として評価する（資料持ち込み不可）。

【学生の意見等からの気づき】

Power Point を使用した講義の希望者が多いので、配布資料について、特に重要ポイントを示すなどスライドで提示する。講義を聞くだけでなく、履修者が理解を深められるよう、ビデオ教材や簡単な質問紙、ワークシートを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

随時、授業資料等を授業支援システムにアップするので、必要に応じて利用すること。

対人認知論

足立 にれか

授業コード：A3671
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは日常生活の様々な局面で他者や事象について、判断したり推論したりする。この講義では、主にそうした判断や推論を導く心理特性や心理的プロセス、それらに影響を与える内的・外的諸要因について学ぶことを目的としている。

【到達目標】

私たちが物事や人をとらえる際に影響する様々な心理特性や心理的プロセスについて学ぶことはもちろん、教科書的な理解にとどまらず、それらがどのように自分たちの日常生活や社会問題に密接に関わっているか理解できるようにすることが本講義の目標である。

【授業の進め方と方法】

前半では、印象形成やステレオタイプ研究など他者に関する判断や推論に関わる対人認知について学び、さらに併せて「他者」認知と密接に関わる「自己」認知プロセスについて学ぶ。後半では、人から事象へと対象を広げ、社会的事象に関する態度、推論や意思決定等についての認知プロセスを取り上げる。授業は講義形式で進める。回によって簡単な実験などを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	対人認知の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	古典的な対人認知研究の理論と研究	認知革命以前の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 3 回	近年の対人認知研究の理論と研究	認知革命以後の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 4 回	ステレオタイプに関する基礎知識	ステレオタイプについての基礎的知識を学ぶ
第 5 回	ステレオタイプの維持	ステレオタイプがどのように維持されるかを学ぶ
第 6 回	ステレオタイプの変容	ステレオタイプがどのように変容するかを学ぶ
第 7 回	メディアと対人認知	対人認知に関わるメディア研究について学ぶ
第 8 回	対人認知と対人関係の発達	対人認知と対人関係の発達の側面について学ぶ
第 9 回	自己認知と他者	他者が自己認知に及ぼす影響について学ぶ
第 10 回	社会的推論と原因帰属	人や社会的事象を判断する際の、原因推論に関わるエラーとバイアスについて学ぶ
第 11 回	メディアと社会的認知	メディアと、人や社会事象に対する認知との関係性について学ぶ
第 12 回	ヒューリスティック	社会的推論をする際に使用されやすい直観的な判断方略について学ぶ
第 13 回	態度と説得	社会的態度および経済・消費行動にはたらく心理メカニズムについて学ぶ
第 14 回	試験	対人認知について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んで授業に臨むこと。課題は提出日が示されない限り、翌週の授業時に提出することを原則とする。興味を持ったトピックやテーマについては、授業で紹介する関連図書や、文献に当たるなどして積極的に知識を深めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（100％）。試験は、授業内で取り上げた理論や研究例を理解し、基本的な知識を踏まえて説明できるかどうかを基準として評価する（資料持ち込み不可）。

【学生の意見等からの気づき】

Power Point を使用した講義を希望する者が多いので、配布資料について、特に重要ポイントを示すなドスライドで提示するようにしている。講義を聞くだけでなく、履修者が理解を深められるよう、ビデオ教材や簡単な質問紙、ワークシートを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

随時、授業資料等を授業支援システムにアップするので、必要に応じて利用すること。

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、その授業で学んだことを授業の最後にクイズで確認します。また、3-4 回ごとに小テストを行い、その間の学習について復習し、まとめます。講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャндаイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	小テスト（1）	第 1 回-3 回の内容について小テストを行い、解説し、復習します。
第 5 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スIPPINGコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析
第 6 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。産業界と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ
第 7 回	小テスト（2）	第 4 回-7 回の内容について小テストを行い、解説し、復習します。

心理学科

— 421 —

第 8 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5 大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力—報酬不均衡モデル、日本の雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進	○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社 ○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫 ○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社
第 9 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進	【成績評価の方法と基準】 ・授業内クイズ 60%、小テスト 40%で成績を評価します。
第 10 回	小テスト (3)	第 7 回-9 回の内容について小テストを行い、解説し、復習します。	【学生の意見等からの気づき】 60 人中 51 人が回答してくれました（85%）。そのうち 44 人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（86%）。 この授業ではできるだけ動画教材を使っていますが、ビデオがあるのでわかりやすいという声が多かったです。 特別講義に要望する内容からは皆さんの興味が垣間見えて面白く、かつ、授業改善に役立ちそうな情報が得られました。あまりに多様ですべてはかなえられません。こんな要望がありました ⇒ コンサルタント、製菓業、芸人、出版、IT、遊楽製菓（多数）、YouTuber、広告関係、地方のベンチャー企業。
第 11 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール	【その他の重要事項】 オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。
第 12 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、バブプロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンド条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（/質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略	
第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR	
第 14 回	小テスト (4)	第 10 回-13 回の内容について小テストを行い、解説し、復習します。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業終了時に行われるクイズを持ち帰り、復習します。クイズには小テストで出題されることになる問題も含めますので、それまでに自習して、各回の学習目標となっているキーワードを覚え、新聞や雑誌の記事を読んだときに理解できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト

人工知能

市瀬 龍太郎

授業コード：A3674
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です。この授業では、人間の知能を機械で実現する方法を通して、人間の知能を考えていきます。

【到達目標】

人工知能を通して、人間や機械の知能の仕組み、考え方についての説明ができるようになること、および、人間の知的活動を機械的な視点から調べることができるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

人工知能の仕組みを紹介することによって、人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点、相違点についての理解を深め、知能について考えていきます。授業は、主に講義形式で行いますが、内容に応じて、グループディスカッションなども行います。また、適宜、ビデオなどの視聴覚教材を使用します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは？	人工知能の概要
第 2 回	人工知能の歴史	過去の人工知能研究の概観
第 3 回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第 4 回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第 5 回	問題解決と探索	問題解決を行う方法を解説
第 6 回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ、機械の知能の実現方法を解説
第 7 回	知識表現	知識を表現する方法について解説
第 8 回	論理による推論	論理を使った思考方法について解説
第 9 回	様々な推論手法	不確実な事象についての思考方法など様々な推論方法について解説
第 10 回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第 11 回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第 12 回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第 13 回	人工知能と社会	人工知能技術の社会的影響について解説
第 14 回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に応じて、予習のための文献調査、復習のためのレポート作成などの課題を行う。

【テキスト（教科書）】

人工知能 改訂 2 版、本位田監修、松本、宮原、永井、市瀬著、オーム社、2016
その他、授業の内容に則して、適宜、参考文献を紹介します。

【参考書】

エージェントアプローチ人工知能、第 2 版、Russell ら著、古川監訳、共立出版、(2008)

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト (30 %)、レポート課題 (30 %)、期末試験 (40 %) の合計により評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容・配布資料の改善、および、授業における予習・復習の強化。

精神生理学特講

高橋 敏治

授業コード：A3659
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学的領域の研究を再現し、論文作成に活用できるようにすること。

【授業の進め方と方法】

睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら、精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら、睡眠の基礎から、睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠、過眠、リズム障害をキーワードにして、24 時間社会の問題点を最新の論文、トピックスなどから取り上げます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実例
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所に子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群、REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス 総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？ うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 睡眠に関する精神生理学的基礎知識確認レポート作成
第 2 回～第 10 回 授業内容で扱う睡眠全般に関連したレポート作成
第 11-13 回 期末レポートに関する質問や参考事項
第 14 回 期末のレポート提出（課題は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いませんが、事前に文献・プリントを配布します。

【参考書】

堀忠雄（2008）睡眠心理学 北大路書房
堀忠雄（2008）生理心理学 培風館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %)、授業内の課題提出 (30 %)、期末レポート (30 %) 評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

高い評価をありがとうございます。知識習得だけでなく、判断力・知的興味・意欲・新しい発見などを評価してもらいましたが、スキルの点で評価が低く、睡眠困難の克服をもう少し多くして授業を行いたいと思います。睡眠という日常生活関連で身近に感じてもらった感想が多く寄せられました。「もっと早い学年で履修すればよかった」という感想もうれしい限りです。課題を多く出しましたが、昨年度に比べて難易度を低くし、1 時間程度の課外学習時間に収まった点は、昨年度と大きく異なる点でした。課外学習課題については、授業内でのさらなる活用を考えます（前年度分を掲載）。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや授業支援システム（資料配布、課題提出、お知らせのため）を使用します。授業支援システムには、必ず普段よく使用するメールを登録してください。

【その他の重要事項】

実施の順序については変更することがあり、授業の中や授業支援を用いて案内しますので、注意してください。オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。

言語学特講Ⅰ

田嶋 圭一

授業コード：A3660
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日々使っている「言語」について、その背後にある規則や原理に迫る「言語学」について概観します。春学期は、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造や仕組みを扱う形態論・統語論を中心に学びます。

【到達目標】

言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【授業の進め方と方法】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論）、単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはペア・グループになって問題を解いたり話し合ったりする作業なども交えて授業を進めていく予定です。また、エチュードで提出してもらう課題をほぼ毎回出題します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入、言語と言語学	シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴
第2回	言語知識	2種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野
第3回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類
第4回	語の特徴	音声の特徴、名付け機能、統語の特徴
第5回	語形成過程（1）：様々な語形成過程	語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成：複合
第6回	語形成過程（2）：複合、派生	複合語の意味、主要部の考え方、派生語
第7回	語形成過程（3）：派生、屈折、転換	複雑な派生語の構造、語の樹形図、屈折・活用、転換
第8回	形態素解析（1）、異形態	形態素解析の方法と練習問題、異形態とは
第9回	形態素解析（2）、語彙範疇、格	形態素解析の練習問題つづき、日英語の語彙範疇格とその種類
第10回	統語論（1）：導入	構成素、句構造、句の主要部
第11回	統語論（2）：カテゴリー、意味役割、マージ	言語の階層構造、文を作り上げるための材料：カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み：マージ、様々な種類の句
第12回	統語論（3）：文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て、動詞句の組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造
第13回	統語論（4）：補文	動詞句の拡張、補部と指定部、文の中の文＝補文
第14回	試験	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組みエチュードで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。さらに、学期中に数回小テストを実施するので、これらに備えることで、内容の理解度をこまめにチェックすること。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業で配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光義弘（編集）（1999）. 日英語対照による英語学概論：増補版　くろしお出版.
星浩司（2006）. 言語学への扉　慶應義塾大学出版会.
大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）. 言語研究入門―生成文法を学ぶ人のために―　研究社.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、小テスト 25%、期末試験 50%の割合で評価する予定。言語学は知識の詰め込みだけでは不十分で、問題を解く能力が要求されるので、独学は困難です。その上、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に出席し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業にそれなりの時間を投資する心づもりでいてください。原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度春学期は、回答者 26 名のうち、「履修してよかったか」という問に「4」か「5」で回答してくれた人が 20 名（77%）、「理解できたか」という問では 20 名（77%）、「工夫されていたか」という問では 24 名（93%）でした。特に授業の工夫についてほとんどの人が好意的に評価してくださったことはとても嬉しく思います。授業外学習時間についてはおよそ 7 割の人が 30 分～1 時間と回答していました。自由記述では、よかった点として、「学生のことを考えた分かりやすい授業だった」「宿題のフィードバックがすぐに来るので復習しやすかった」「ペアワークと宿題があることで授業内、授業外どちらもだれることなく勉強できた」「宿題を授業で解説してくれるのがとてもよかった」といったコメントをいただきました。改善すべき点として、「ペアワークで毎週違う人と組むのが大変だった」「宿題や小テストの回答のみのプリントを Web に上げてほしい」「期末試験の配分が重すぎる。小テストで範囲を小分けにした意味を潰していると思う」といったコメントをいただきました。期末試験の配分についてですが、期末試験以外（平常点・課題・小テスト）で全体の 50%を占めるのでこれらの要素は十分な重みがあると思います。逆に期末試験は授業全体の理解度を確かめるためにあるので 50%くらいの重要度は必要だと感じます。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

言語学特講Ⅱ

田嶋 圭一

授業コード：A3661

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日々使っている「言語」について、その背後にある規則や原理に迫る「言語学」について概観します。春学期は、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に学びます。

【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【授業の進め方と方法】

様々な言語音の発音方法や表記方法（音声学）、日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり（音韻論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはペアになって問題を解いたり話し合ったりする作業なども交えて授業を進めていく予定です。また、エチュードで提出してもらう課題をほぼ毎回出題します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入、音声学と音韻論	シラバスの説明、音声学と音韻論の違い
第2回	音声学への導入、発話のメカニズム	音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学的直観を磨く：母音
第3回	母音	母音の調音的記述・有標性、音声学的直感を磨く：子音
第4回	子音	子音の調音的記述・有標性、自然音類
第5回	音声を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第6回	日本語の発音	長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など
第7回	英語の発音	英語の音素表記と音声表記
第8回	音韻論への導入、音素	音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析
第9回	日本語の音韻変化	撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題
第10回	音象徴	音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき
第11回	リズム	日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節
第12回	アクセント	アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法
第13回	アクセントと方言、複合語のアクセント、イントネーション	アクセントの方言差、複合語のアクセント変化、イントネーション
第14回	試験	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組みエチュードで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。さらに、学期中に数回小テストを実施するので、これらに備えることで、内容の理解度をこまめにチェックすること。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業で配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光義弘（編集）（1999）. 日英語対照による英語学概論：増補版 くろしお出版.

星浩司（2006）. 言語学への扉 慶應義塾大学出版会.

大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）. 言語研究入門 ―生成文法を学ぶ人のために― 研究社.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、小テスト 25%、期末試験 50%の割合で評価する予定。言語学は知識の詰め込みだけでは不十分で、問題を解く能力が要求されるので、独学は困難です。その上、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に出席し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業にそれなりの時間を投資する心づもりでいてください。原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は、回答者 28 名のうち 25 名が「履修してよかった」と回答してくれました。「難しいが細かく丁寧に教わるのができた」「参加型の授業で楽しみながら授業に集中できた」「ゲストスピーカーが来たのがよかった」といったポジティブなコメントもいただきました。授業外学習については約半分の人が 30 分～1 時間と解答していました。本当はもう少し復習・予習に充ててほしいところですがこのくらいが現実的なのかも知れません（笑）。改善点として、「もっと色々な人とペアワークを組むように促すとよい」「エチュードの課題は役に立つが忘れてしまう」「課題の解答が間違っていることがあったので気を付けてほしい」「課題で模範解答と全く同じ回答をしても間違ったことになっていることがあったのでそこを改善してほしい」「レジュメ印刷代が本当に辛かった」といったたくさんの方のリアルな感想をいただきました。今後可能な範囲で改善を試みたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

認知科学特講

田嶋 圭一

授業コード：A3662

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は言語を「話す」または「聞く」能力を 3-4 歳までにある程度習得しますが、「読む」または「書く」能力はより時間と労力を要します。また、人間同様に流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？ 本授業ではこのような疑問を出発点に、話し言葉の認知処理過程について学びます。具体的には、音声言語の発話と知覚の仕組み、音声の物理的な特徴、乳幼児による母国語の知覚能力の発達、成人による外国語音声の学習などについて、言語心理学や音声科学の知見を学びます。

【到達目標】

話し言葉が話し手にどのように産出され、音としてどのような特徴を持ち、聞き手にどのように知覚されるのかについて、説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようになることも目標です。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、視聴覚教材を使ったデモや、課題に取り組む時間などを取り入れます。また、音声分析ソフト **Praat** を使った演習も実施する予定です。授業中にペアワークを行ったり、コメントシートを作成したり、授業への能動的な参加が期待されます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、音声言語と文字言語、「言葉の鎖」
第 2 回	音声とは	音声の確実性と速さ、音声産出のメカニズム、母音と子音
第 3 回	音響音声学の基礎（1）	音の正体、音の種類、音を可視化する方法、音声のデジタル化
第 4 回	音声の音響分析	Praat を使った音声の録音・可視化・編集・分析
第 5 回	音響音声学の基礎（2）	フィルタ、音声産出の音源フィルタ理論、基本周波数、フォルマント周波数
第 6 回	母音の知覚	聴覚器官、母音の特徴と知覚、母音の正規化、分節音と韻律
第 7 回	子音の知覚（1）	音響的不変性の欠如、ローカス理論、音声の符号化
第 8 回	音声の再合成	Praat を使った音声の録音・分析・再合成
第 9 回	子音の知覚（2）、カテゴリー知覚	調音点の知覚、声の有無の知覚、カテゴリー知覚とは、同定と弁別
第 10 回	音声知覚の実験	同定課題と弁別課題の演習
第 11 回	音声知覚の発達	生得と学習、乳児の音声知覚、満 1 歳までに起こる変化
第 12 回	外国語の音声知覚	成人による外国語音の学習、知覚と産出の関係、外国語音の知覚的同化
第 13 回	文脈の影響	トップダウン処理とボトムアップ処理、音声知覚と単語認知のモデル
第 14 回	音声知覚言語と社会的認知、総括	話し方と対人認知の関係、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業にて指示されたテキストの範囲を読み、復習問題に回答し、次の授業にて提出すること。また、音声分析用フリーソフト **Praat** を使った課題を学期中に数回課するので、課題を行い成果を提出すること。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストの一部を使用する予定ですが、購入するかしないかは自由とします。

ジャック・ライアルズ（著）、今富摂子他（訳）（2003）. 音声知覚の基礎 海文堂.

【参考書】

石川圭一（2005）. ことばと心理 くろしお出版.
川崎恵里子（編著）（2005）. ことばの実験室 プレーン出版.
重野 純（2003）「音の世界の心理学」ナカニシヤ出版.

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、課題 40%、期末レポート 40%の割合で評価する予定。原則として、出席が授業の 2/3 に満たない場合、期末レポートの提出がなかった場合、あるいは **Praat** を使った課題の提出がなかった場合は、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度は、回答者 13 名のうち 12 名が「履修してよかった」と回答してくれました。多くの学生が授業外学習を週に 1~2 時間程度行っていたようです。課題が多い授業でしたが、皆さんよく頑張りました！ 回答者の 6 割以上が「知識が身についた」「スキルが身についた」「新しい発見があった」「知的興味が満たされた」「楽しく受講できた」と解答してくれました。自由記述欄にもたくさんコメントをいただきました。「**Praat** の実習も多く、またペアワークや課題によって自分の意見を述べる機会が豊富だったため、自然と授業に積極的に参加できた」といった嬉しいコメントもいただきました。改善点としては、「テキストが読みづらい」「**Praat** の実習がもっと多いほうがよかった」「**Praat** やテキストの課題をもっと早くアップしてほしい」「テキストの復習問題に字数の目安を書いてほしい」「課題のフィードバックを共有する時間があってもよい」「用語の定義をよりはっきり明示してほしい」といった意見をいただきました。ぜひ参考にしながら授業の改善方法を考えたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

認知心理学特講

吉村 浩一

授業コード：A3663

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知覚心理学が扱っているいくつかのテーマを取り上げ、知覚という機能が決して機械的・神経生理学的に進行するのではなく、状況認知や感性などの心理学的要素を強く帯びた心のはたらきであることを解説し、そうした観点からの理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることは正確なことはないようにいわれがちですが、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができます。本授業では、認知心理学の中でも知覚機能に焦点を当て、大学生のみならず中学生にとっても興味関心の高いアニメーションの動き・色彩やアート、食べ物の食感などの知覚のありようを捉え、個々人の知覚を絶対視せず、公正に評価できる能力を育てる一助となることを目指します。

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業ですが、知覚心理学における画像や運動現象を中心に扱うので、パワーポイントや動画ソフトを活用し、授業で取り上げるさまざまな知覚現象をデモンストレーションしつつ進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の概要説明
第 2 回	視覚の神経メカニズム	講義全体を理解する基礎的知識としての知覚神経生理の解説
第 3 回	知覚の諸理論	知覚に関わる諸現象を理解する枠組みとして必要な主要な知覚理論の解説
第 4 回	左右の混同と鏡像反転問題	空間の左右性をめぐる諸問題の解説
第 5 回	運動知覚の不思議	動き始めるとそれまでとはまったく違って見える諸現象の紹介
第 6 回	アニメーションと運動知覚 (1)	仮現運動とアニメーションの動きについて解説
第 7 回	アニメーションと運動知覚 (2)	実写映画とアニメーションの動きの違い
第 8 回	アニメーションと運動知覚 (3)	アニメーションの技法としての「オバケ」の解説
第 9 回	不可能図形への心理学からの取り組み	平面図形のもつ不思議さの解説
第 10 回	アート鑑賞	絵画の展示解説文から知覚と鑑賞との関係を探る
第 11 回	色彩の心理学	色彩は知覚対象であるだけでなく、イメージなど印象形成にも大きく貢献する。色彩についての知覚的アプローチとイメージ研究とを比較しながら解説
第 12 回	食感の感性	「味覚」と考えられているもののかなりの部分は「食感」が担っている。食感についての心理学的研究を解説
第 13 回	言葉のもつ多感覚性	多感覚的情報をもつ語彙群というべき「オノマトペ」を認知心理学的に利用する研究の可能性を紹介
第 14 回	期末テストと全体の総括	期末テストを行った上で、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、2 回ごとに、1 問、授業についての問いを掲げそれを学期末テストの問題としますので、各回の授業終了後、記憶が鮮明な打ちに復習し、授業内容を補足する情報を収集し、自分の考えとしてまとめる作業を授業時間外に行ってください。

【テキスト（教科書）】

使いません

【参考書】

吉村浩一『運動現象のタキシノミー：心理学は“動き”をどのように捉えてきたか』2016 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と期末テスト 50 % により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

解説内容が抽象的にならないよう、授業者自身が実際に行ってきた研究を使って解説を組み立てます。

言語心理学特講

福田 由紀

授業コード：A3723

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの学習の多くは、言語を介して行われています。つまり、言語力を育てることにより、生涯を通じた学習活動が担保されます。言語力にまつわるトピックスに関して、今年度は教育の場を見据えて考えていきます。言語力とは、1 つの能力だけでなく、話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②知識を基礎にして、教育現場への応用への提言ができる。
- ③能力開発や学習支援への具体的な方法が身につく。

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。授業中、教科書を使いますので毎回持参してください。様々な問題について 10 回の実習を行います。そこでは、グループで討論をし、発表します。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語力とは	授業の進め方の確認、言語力とは？
第 2 回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第 3 回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第 4 回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し、より良い合意形成を目指す
第 5 回	言葉の特性：わかりやすい文章、実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第 6 回	わかりやすい文章：実習④悪文から学ぶ	校正を通して、分かりやすい文章を作成する
第 7 回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して、わかりやすく説明をする
第 8 回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解、イメージ能力、心情理解、感情推論
第 9 回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	P I S A の読解力、米国の実践例、眼球運動の実験
第 10 回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語の RST	第二言語の難しさ
第 11 回	発達性読み書き障がいとは 1	ビデオの視聴
第 12 回	発達性読み書き障がいとは 2：実習⑨先行研究を発展させる	原因の究明の実験を発展させる
第 13 回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方、支援の考え方
第 14 回	期末テストとその解説	期末テストとその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。

- 第 1 回 言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り、書いてください。
- 第 2 回 集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がよいと思いますか？
- 第 3 回 合意形成の極意は何だと思いますか？ 1 番重要だと思う事から順に 3 つ挙げてください。
- 第 4 回 言葉にまつわることで、何か誤解したことや、笑い話はありませんか？
- 第 5 回 『彼女（あなたの友人）は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
- 第 6 回 スキーマの定義を書いてください
- 第 7 回 次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？
- 第 8 回 文章の挿絵は理解を促進しますか？
- 第 9 回 あなたはどのくらい英語が得意ですか？
- 第 10 回 発達性読み書き障がい者・者の日常生活上の困難を予想する。
- 第 11 回 WAIS-R の数唱は何を調べているか？
- 第 12 回 模擬期末テストを作成する。
- 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

【テキスト（教科書）】

言語心理学入門－言語力を育てる－福田由紀編 培風館（2012 年）

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 10%と実習 10%、期末試験 80%により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。実習は 10 回の予定です。日程は最初の授業で提示されるアジェンダを参照してください。期末試験では、選択問題（含む応用問題）を予定しています。なお、原則として、欠席が 5 回以上の場合には、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス入稿時に、2017 年度の学生による授業改善アンケートの結果がまだあがってきていません。そのために、2016 年度の授業改善アンケート結果を踏まえた改善点を記します。

73%の人がこの授業をとってよかったと回答してくれました。特に実習の楽しさや有用性を感じてくれたようです。また、内容として発達性読み書き障がいを取り上げたことも、高評価の一つのようです。案外、身近な障がいですものね。一方、改善点として、「時間が余っていてもったいない」「もっと、興味を引く資料や P P T があるとよかったかも」→ 全く、その通り改善します！「実習と講義のかみ合いが悪いと感じた。教材が多く、あっち見て、こっち見て先生の話聞いてとやることが多くであまり頭に入らなかった」→ ああ、実習の位置づけをもっと明確にするように改善します。ありがとうございました。

【その他の重要事項】

1 回目の授業から実質的な内容となりますので、初回から参加してください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード **A3670**）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】

以下の2つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

毎回、「じぶん実験」に関する演習を行います。そして学期末には「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第 3 回	発達臨床 II	・じぶん実験の標的行動を決定します。 ・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。
第 4 回	“理解”の行動分析学	・じぶん実験の記録方法を決めます。 ・以下の内容について学びます：刺激一般化、刺激等価性、関係フレーム理論。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・じぶん実験でベースラインを測定します。 ・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。 ・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。 ・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。 ・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・じぶん実験で介入計画を立てます。 ・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。
第 10 回	“記憶”の行動分析学	・じぶん実験で介入計画を実施します。 ・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。 ・じぶん実験で介入の効果を視覚化し、検証します。

第 11 回	行動的コーチングⅠ	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 12 回	行動的コーチングⅡ	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 13 回	“動機づけ”の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。
第 14 回	プレゼンテーションとまとめ	・じぶん実験の結果を発表します。 ・じぶん実験のレポートを作成し、提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、「じぶん実験」に関する課題を出します。教科書を読みながら課題に取り組んで下さい。最終的に「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出して下さい。

【テキスト（教科書）】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房

【参考書】

○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】

毎回授業内で提出してもらう演習のワークシートもしくはクイズを採点し得点化します。配分はクイズや課題が 60%、最終レポートが 40%です。但し、最終レポートを提出しないと成績はつきませんので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

(2017 年度の授業改善アンケートはまだ実施していないので、以下は 2016 年度の評価です)

15 年度：回答率 43% (3/7 人) → 16 年度：回答率 58% (7/12 人) 満足度 86%

回答率が上がりました。というか誤差の範囲で変わりなしと判断すべきでしょうね。

「じぶん実験」を行動分析学と行動分析学特講のどちらかですべきか、発達臨床関係の内容を増やすべきかどうかについては意見が分かれていました。どちらもそれぞれ納得できる理由が書かれていたので迷いますが、来年度は、概念的理解を行動分析学でおさえ、「じぶん実験」も含めて応用、臨床、実践に関することを行動分析学特講に持って行こうと思います。

【その他の重要事項】

○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
○オフィスアワーは、春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

学習心理学特講

藤田 哲也

授業コード：A3682

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

【到達目標】

授業を通じて、以下の要素について理解を深め、自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。

1. 人間の記憶は、その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2. それぞれの記憶が、自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3. そのような記憶を研究するためには、適切な実験法を用いることが有効であること。

【授業の進め方と方法】

「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら、記憶の多様性について、具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり、果たしている機能の違いによって分類され、研究されているということを理解します。そのために、ほぼ毎回の授業で、簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで、それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが、基本的には講義形式の授業です。

授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し、提出してもらいます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	短期記憶と作動記憶	両者の重要な違い
第 3 回	意味記憶	意味記憶ネットワーク
第 4 回	エピソード記憶	最も一般的な実験とは
第 5 回	目撃証言	記憶の歪み
第 6 回	偽りの記憶	記憶は簡単に作れる
第 7 回	展望的記憶	未来の行為も記憶
第 8 回	潜在記憶	無意識的な記憶
第 9 回	自動的 vs. 意図的記憶	潜在記憶の応用
第 10 回	メタ記憶	自分の記憶を把握する
第 11 回	自伝的記憶	記憶こそが人生の要
第 12 回	レポート回収と解説	レポート自己評価
第 13 回	脳と記憶	実際の事例による理解
第 14 回	レポート返却と総括	到達度の自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付される授業通信に基づき、前の週の授業内容を復習することが求められます。また、レポートに備えて、各回の授業内容を自分自身の認知活動と関連づけてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也（編）(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…授業に出席し、実験に参加するだけでなく、「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を、毎回の授業終了時に感想用紙に記入して提出してください。

期末レポート（60%）…授業内容について基本事項を理解しているかどうか、その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか、そして適切な先行研究を参照することで、授業で学んだ内容を、自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

(2016 年度のアンケートから) 今年は全員に「履修してよかった」と回答してもらえましたし、その他の質問項目でも例年通り高い評価をいただきました。ただ、授業外学習時間については 1 人が 1 時間未満でしたが残り全員が「ほとんど行っていない」状態でした。この授業では特に予習などの課題を課していないのですが、自主的な学習のみに任せては限界がありそうです。有意義な授業時間外の学習方法について工夫します。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の冒頭に行う実験自体が教材となっていますので、毎回、遅刻せず、積極的に授業に参加することを求めます。

情報処理技法 I

山口 剛

授業コード：A3675

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は **Microsoft Office Word, Excel, Power Point** の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。（なお、上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的な **Microsoft Office** の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、**Microsoft Office** の各アプリケーションを組み合わせで適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、**Excel** や **PowerPoint** で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身に付け、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【授業の進め方と方法】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお、受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合があります。その場合は、事前にお知らせするようにします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、タッチタイピングについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (30%)：授業に参加したことによる点数です。これは、出席と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題 (30%)：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題 (40%)：一度だけ出題されます。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の二ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

注) 4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当なので、授業を通して学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家 (医者など) の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

情報処理技法 I

山口 剛

授業コード：A3676

春学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目 (情報処理技法 I, II) は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期 (情報処理技法 I) は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。

(なお、上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。)

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせることで適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身に付け、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【授業の進め方と方法】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお、受業生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合があります。その場合は、事前にお知らせするようにします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、タッチタイピングについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「最終課題」もあるため (下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと)、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (30%)：授業に参加したことによる点数です。これは、出席と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題 (30%)：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題 (40%)：一度だけ出題されます。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の二ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

注) 4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当なので、授業を通して学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

情報処理技法 II

山口 剛

授業コード：A3677

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（PsychoPy）、および無料の統計解析ソフトウェア（R, JASP）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。（なお、扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜ PsychoPy ＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

＜ R, JASP ＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

（R はプログラミングに近い操作方法ですが、必要なコードなどは事前に配布する予定です。使用上 R が中心となりますが、操作が簡易な JASP についても紹介して、同じように使用できるよう、技術の習得を目指します。）

【授業の進め方と方法】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお、受業生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合があります。その場合は、事前にお知らせするようにします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認
第 2 回	PsychoPy 1: 実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	PsychoPy 2: 刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	PsychoPy 3: 実験に必要な操作	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	PsychoPy 4: 実施とデータ集計	作成したファイルの実行、得られたデータの整理
第 6 回	PsychoPy 5: データの処理	得られたデータの処理や問題の対処法について
第 7 回	ソフトウェアの導入	ソフトウェアの導入と基本操作、データセットの読み込み
第 8 回	平均値の比較	どのようなときに平均値を比較するのか、その背景の確認
第 9 回	分散分析の実施	データセットの形成と実際の分析、結果の参照とまとめ
第 10 回	相関関係の検討	相関関係とは何か、どのような場合があるのか
第 11 回	重回帰分析とその応用	重回帰分析と重回帰分析の実施、結果の参照とまとめ
第 12 回	因子分析 1: 測定方程式	潜在変数とその分析、古典的テスト理論、分析と結果参照
第 13 回	因子分析 2: 構造方程式	モデルとは何か、分析の実施と結果のまとめ
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（30%）：授業に参加したことによる点数です。これは、出席と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（30%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（40%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の二ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当なので、授業を通して学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。また、春学期（情報処理技法 I）の意見も反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくことと便利かもしれません。また、扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので、自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】

最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので、本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

情報処理技法 II

山口 剛

授業コード：A3678

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（PsychoPy）、および無料の統計解析ソフトウェア（R, JASP）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。（なお、扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜ PsychoPy ＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

＜ R, JASP ＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

（R はプログラミングに近い操作方法ですが、必要なコードなどは事前に配布する予定です。使用上 R が中心となりますが、操作が簡易な JASP についても紹介して、同じように使用できるよう、技術の習得を目指します。）

【授業の進め方と方法】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお、受業生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合があります。その場合は、事前にお知らせするようにします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認
第 2 回	PsychoPy 1: 実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	PsychoPy 2: 刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	PsychoPy 3: 実験に必要な操作	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	PsychoPy 4: 実施とデータ集計	作成したファイルの実行、得られたデータの整理
第 6 回	PsychoPy 5: データの処理	得られたデータの処理や問題の対処法について
第 7 回	ソフトウェアの導入	ソフトウェアの導入と基本操作、データセットの読み込み
第 8 回	平均値の比較	どのようなときに平均値を比較するのか、その背景の確認
第 9 回	分散分析の実施	データセットの形成と実際の分析、結果の参照とまとめ
第 10 回	相関関係の検討	相関関係とは何か、どのような場合があるのか
第 11 回	重回帰分析とその応用	重回帰分析と重回帰分析の実施、結果の参照とまとめ
第 12 回	因子分析 1: 測定方程式	潜在変数とその分析、古典的テスト理論、分析と結果参照
第 13 回	因子分析 2: 構造方程式	モデルとは何か、分析の実施と結果のまとめ
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（30%）：授業に参加したことによる点数です。これは、出席と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（30%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（40%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当なので、授業を通して学生の皆さんの意見を反映できるように努めます。また、春学期（情報処理技法 I）の意見も反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。また、扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので、自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】

最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので、本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

心理学英語 I

森島 泰則

授業コード：A3720

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、小グループになって話し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第 2 回	聞くように読む（1）	英語による心理学の講義を聴いて、理解する練習（Floating Lecture の前半を学ぶ）
第 3 回	聞くように読む（2）	英語による心理学の講義を聴いて、理解する練習（Floating Lecture の後半を学ぶ）
第 4 回	Discovering Love (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 5 回	Discovering Love (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 6 回	Watch Out for the Visual Cliff (1)	視覚的断崖実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 7 回	Watch Out for the Visual Cliff (2)	視覚的断崖実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 8 回	ObeY At Any Cost (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったのかを理解する） 実験のビデオを見る
第 9 回	ObeY At Any Cost (2)	ルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第 10 回	Abducted (1)	第 1 章を読む。どうしてエイリアンに誘拐された「記憶」を持つ人々の研究を始めたのかを理解する
第 11 回	Abducted (2)	記憶錯誤とエイリアン「記憶」との関連は何かを理解する
第 12 回	Thoughts Out Of Tune (1)	フェスティンガーの認知的不協和に関する読解（全体像をつかみ、要約する）
第 13 回	Thoughts Out Of Tune (2)	フェスティンガーの認知的不協和に関する読解（実験の内容を理解する。自分たちの経験から認知的不協和を考える）
第 14 回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英語辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題も含む）40%

中間テスト（またはレポート）30%

期末テスト（またはレポート）30%

【学生の意見等からの気づき】

各学生の英語理解度が違うので、できるだけ個別指導ができるように配慮する。

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらノートを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②教育という営みを心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながら整理されたノートを作ることができる。

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書を中心に進めていきます。ですから、講義中教科書を必ず持参してください。適宜、作業もしてもらいます。授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んできてください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明、教育心理学の目標・対象・研究法、教育心理学への3つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達、道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達、他者理解の発達、円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者、知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習、読解力、書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム、いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程、伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法、素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知、学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい、ADHD など
第 14 回	期末テストとその解説	期末テストとその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業支援システムから授業前に提出して下さい。

- 第 1 回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第 2 回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第 3 回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム 3！
- 第 4 回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第 5 回 読書の効用を3つ挙げてください。
- 第 6 回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたいと思いますか？ 自分の意見を書いてください。
- 第 7 回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？
- 第 8 回 小集団に分かれての授業形式の良い点を2つと悪い点を2つ挙げてください。
- 第 9 回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が2カ所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？
- 第 10 回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形 A から F の中から1つ選んでください。
- 第 11 回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたいかと思いませんか？
- 第 12 回 模擬期末試験問題を2つ作成して下さい。一つは基礎問題、もう一つは応用問題を用意して下さい。また、授業支援システムで提出するだけでなく、授業時に印刷して持参して下さい。
- 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学 -言語力からみた学び-」(福田由紀他 培風館 2015 年)

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 10%と期末試験 90%により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらうシャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末試験では、選択問題を予定しています。選択式問題の内容は知識の確認と応用問題です。なお、原則として、欠席が5回以上の場合には、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス入稿時に、2017 年度の学生による授業改善アンケートの結果がまだあがっていません。そのため、2016 年度の授業改善アンケート結果を踏まえた改善点を記します。

59%の人がこの授業をとってよかったと回答してくれました。「ためになる話」「わかりやすい」「新たな知識が身についた」と思ってくれたようで、うれしいです。特に「教師側の目線と学習者側の目線の比較ができて面白かったです」というコメントは、この授業の特色を言い得た内容でとてもよかったです。一方、改善点としては「スライドの移行が速い」→ 改善します、「グループワークさせたら」→ 考えてみます、「成績に出席を加味したら」→ 出席するだけでは加味できません（笑）が、ちょっとした工夫を 2017 年度にしたいと思います。

【その他の重要事項】

教育心理学では、皆さん自身が今いる世界、大学、つまり教育現場を扱います。そのため、毎日の生活を振り返りながら授業に参加することによって、より深い理解が得られると思います。積極的な授業への参加を期待します。また、1 回目の授業から実質的な内容となりますので、初回から参加してください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

学校心理学

原田 恵理子

授業コード：A3626

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校における全ての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず、学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められている。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、情報化社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

「3つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになる。また、発達障がいなどのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について、具体的な支援策や指導計画について考え、提案することができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

レジュメ・配布資料と場所を用いた講義形式を基本としながら、視聴覚教材を適宜用います。また、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を実習し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学ぶことを通して、学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。ロールプレイや事例検討、話し合い等の活動を行うため、受講者には授業への積極的な参画を期待します。リアクションペーパーは毎回提出とし、理解度や疑問点の把握をします。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	授業内容や評価方法など/学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史を説明する
第 2 回	3段階の心理的援助サービス	援助する対象と 4 つの援助/3 段階の心理的援助サービスについて説明する
第 3 回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて説明する
第 4 回	学校心理学に基づく実践（1）カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 5 回	学校心理学に基づく実践（2）コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 6 回	学校心理学に基づく実践（3）チーム学校	チーム援助の在り方、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活動の実際について説明する
第 7 回	心理教育的援助の実践（1）不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例から支援の在り方の工夫について話し合う
第 8 回	心理教育的援助の実践（2）いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方の工夫について話し合う
第 9 回	心理教育的援助の実践（3）発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第 10 回	心理教育的援助の実践（4）家庭・地域社会	家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を検討する
第 11 回	心理教育的援助の実践（5）学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める
第 12 回	心理教育的援助の実践（6）キャリア発達	学校・学級をめぐる課題について説明し、受講生自身の経験をふまえて話し合いをして理解を深める
第 13 回	学校危機予防（1）予防的・開発的教育（社会性・道徳性・情報モラル）	予防的・開発的教育について説明し、実際に体験をしてみる
第 14 回	学校危機予防（2）危機介入	危機介入について事例をもとに説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に指定された資料等を見てテーマについて理解しておいてください。授業後は授業の復習をして知識の定着をはかってください。わからないことは授業後に質問するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

石隈利紀「学校心理学」 誠心書房。
福沢周亮・石隈利紀・小野瀬雅人「学校心理学ハンドブック」 教育出版。
水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子（編）「よくわかる学校心理学」 ミネルヴァ書房
これ以外にも、必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（30%）、ミニレポート及び授業内課題（20%）、期末の筆記試験（50 %）を総合的に評価します。なお、筆記試験は、全体の授業回数 10 回以上の出席をしているものを該当者とします。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例を取りあげつつ、ロールプレイや話し合い活動など体験活動を取り入れた授業を今年も積極的に行いたいと思います。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回時に必ず出席してください。

発達臨床心理学Ⅰ

桜井 美加

授業コード：A3683

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童期から思春期の発達に伴う臨床心理的諸問題を把握し、適切な配慮や判断を行う力を身に付けることができる。そのための知識、アセスメント、考えられる様々な対応について学ぶ。

【到達目標】

近年、虐待、不登校、いじめ、非行、自殺など、様々な問題が生じているが、それぞれの発達段階においてどのような臨床的関わりが望ましいか、理論と実践を理解できるようになる。

これらの得られた知識については、授業内における口頭発表やリアクションペーパーなどの記述による表現ができるようになることが求められる。

さらに、得られた知識を実践することに向けて、応用力を得られるようにする。

【授業の進め方と方法】

講義では履修者の知識習得および質疑応答を行う。ペアワーク、グループワークなどのアクティブラーニングでは、授業内の発表、課題解決型学習を進めることで、履修者の共同作業や双方向的コミュニケーションを高めることで、得られた知識の応用力や実践力を身に付けることができるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	適切に議論したりするなどの活動ができるようになるための、双方向的授業スタイルなどを示す。
第2回	ライフサイクルの理解	様々な生涯発達を説明する理論を紹介する。
第3回	幼児期の問題1	児童虐待の定義、予防および介入について学ぶ。
第4回	幼児期の問題2	愛着障害の定義および心理的アプローチについて学ぶ。
第5回	発達障害の理解と対応1	発達障害 (ADHD) についての教育現場での取り組みを学ぶ。
第6回	発達障害の理解と対応2	発達障害 (ADHD) について、事例を通してかかわり方を考える。
第7回	発達障害の理解と対応3	発達障害 (学習障害) の定義、対応について、事例を通して考える。
第8回	発達障害の理解と対応4	発達障害 (自閉症スペクトラム障害) の定義、対応について学ぶ。
第9回	発達障害の理解と対応5	発達障害 (自閉症スペクトラム障害) の事例を通して対応を学ぶ。
第10回	不登校の子どもの理解と対応1	不登校の子どもおよび家族への心理的援助を学ぶ。
第11回	不登校の子どもの理解と対応2	不登校の子どもたちへの問題解決について、事例を通して学ぶ。
第12回	非行少年の理解と対応	少年非行の定義、対応、面談について学ぶ。
第13回	スクールカウンセラーと教師や関係諸機関との連携	スクールカウンセラーは教育現場で教師たちとどのように協力するか学ぶ。
第14回	試験、まとめ	これまで履修した内容に関する総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に与えられた授業テーマに関する疑問点などをあらかじめ書いておき、それについて自力で調べておく。

復習については、履修した内容について、本もしくは学術論文を1本以上読んでおく。

【テキスト（教科書）】

桜井美加・齋藤ユリ・森平直子著 2016 教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー 北樹出版

【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点とリアクションペーパーが30%、期末試験70%で到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメや資料などわかりやすい教材の準備などを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

発達臨床心理学Ⅱ

桜井 美加

授業コード：A3684

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、いじめなどの対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。

【到達目標】

生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章や口頭で適切に表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義および双方向コミュニケーションを促すアクティブラーニングを実践するため、ペアワークおよびグループワークを行う。また授業内発表を通じて口頭による表現を、リアクションペーパー記入による文章による表現を磨く。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	適切に表現する能力や態度、論述・討論ができるための双方授業を説明する。
第2回	いじめ問題を考える	いじめの定義、分類、歴史的経緯、援助方法など基礎的知識を学ぶ。
第3回	いじめの事例検討	いじめの加害者、被害者への支援方法について、事例を通じて学ぶ。
第4回	危機介入への対応	学校における危機介入と心のケアトラウマと危機介入について学ぶ。
第5回	心理教育1	リフレーミングワークを学ぶ。
第6回	心理教育2	コンセンサスグループワークを学ぶ。
第7回	心理教育3	学校生活に見られる関係性攻撃への対応やアサーショントレーニングを学ぶ。
第8回	思春期の子どもが罹患する精神障害の理解と対応1	うつ病や摂食障害への心理臨床的アプローチを学ぶ。
第9回	思春期の子どもが罹患する精神障害の理解と対応2	自傷行為の事例を扱いつつ、子どもへの個人面接、保護者面接、教師との連携を学ぶ。
第10回	成人期に見られる精神障害の理解と対応1	不安障害や引きこもりの症状や対応について学ぶ。
第11回	成人期に見られる精神障害の理解と対応2	アルコール・ドラッグ・ギャンブル依存の特徴と対応を学ぶ。
第12回	中年期にみられる危機と対応	中年期における発達臨床的課題と心理臨床的アプローチについて学ぶ。
第13回	高齢期にみられる危機と対応	高齢期における発達臨床的課題と心理臨床的アプローチについて学ぶ。
第14回	試験とまとめ	思春期から高齢期まで発達段階でみられる諸問題について、振り返り総合的に論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を1本以上読み、得られた知識を深めておく。

【テキスト（教科書）】

桜井美加・齋藤ユリ・森平直子著 2016 教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー 北樹出版

【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

杉原一昭監修 2001 発達臨床心理学の最前線 教育出版

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーなど平常点が30%、定期テストが70%で到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなどの進め方について工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

精神保健学 I

高橋 敏治

授業コード：A3685

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎とその概論を幅広く学びます。

【到達目標】

メンタルヘルスの基礎、重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律、事例を説明できるようにすること。

【授業の進め方と方法】

人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また、どのような種類の異常な状態があるのかを、なるべく事例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材などを用います。できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準、心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児、青年期、成人、老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類、日本の現状や問題点、予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理、そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法、触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類、副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法、リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
- 第 2 回 ICD と DSM による診断課題
- 第 3 回 達成度の確認（診断基準）
- 第 4 回 達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
- 第 5 回 達成度の確認（幻覚妄想）
- 第 6 回 達成度の確認（気分）
- 第 7 回 達成度の確認（せん妄など）
- 第 8 回 達成度の確認（自殺）
- 第 9 回 達成度の確認（ターミナルケア）
- 第 10 回 達成度の確認（精神保健福祉法）
- 第 11 回 達成度の確認（薬物療法の種類、副作用）
- 第 12 回 達成度の確認（心理療法など）
- 第 13 回 達成度の確認（リハビリテーション技法）
- 第 14 回 達成度の確認（春学期全般）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

柄沢昭秀（2006）精神医学入門 中央法規

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点（30 %）、授業内で行う数回の簡単な知識達成度テストと課題レポート（20 %）、期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

55 名の受講者のうち 14 名から回答を頂きました。4 - 5 の段階が、授業の工夫では 71 %、理解できたかで 72 %、履修してよかったかは 100 %と比較的高い評価をしてくださいました。自由記述では、実体験の話や映画による例示を説明して取り上げた点が興味や関心を高めたことに役立ったようです。こちらのねらいもきちんと評価して頂きありがとうございます。ただし、授業外の学習時間は週 30 分以上～60 分が多く、この点はもう少し課題の設定などの工夫を考えて行きたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、授業支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを授業支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

授業計画の順序が入れ替わることがあります。適宜授業内で案内しますが、その点に注意して下さい。オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。

精神保健学Ⅱ

高橋 敏治

授業コード：A3686

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いろいろな種類の精神障害を、他の障害と見比べながら、症状の特徴、治療法を学びます。

【到達目標】

メンタルヘルスの各論を通して、人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が、どのような特徴を持ち、どのように診断を受けるのかを理解しながら、精神保健の実態を説明できること。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材を用い、最新の知見を紹介します。前期と同じく、できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害 (F0-1)	脳の感染症、外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害 (F0-2)	アルツハイマー型、脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害 (F1-1)	大麻、覚せい剤、麻薬、コーヒー、ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害 (F1-2)	アルコール依存やその周辺の障害、家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害 (F2-1)	統合失調症の歴史、原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害 (F2-2)	統合失調症の症状や主な病型、予後、問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害 ((F2-3)	統合失調症の治療法（薬物療法、リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害 (F3-1)	気分障害の症状（そうとうつ）、病型、原因
第 10 回	気分障害とその関連障害 (F3-2)	気分障害の治療（薬物療法、認知行動療法）
第 11 回	神経症障害、ストレス関連障害 (F4)	ストレスに関連した病態の種類、原因、治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害 (F5)	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類、原因
第 13 回	人格の障害 (F6)	人格障害の歴史、種類、問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 精神保健学に関する基礎知識レポート作成
- 第 2 回 達成度の確認（摂食障害）
- 第 3 回 達成度の確認（器質性精神障害）
- 第 4 回 達成度の確認（老人性痴呆）
- 第 5 回 達成度の確認（物質常用障害）
- 第 6 回 達成度の確認（アルコール精神障害）
- 第 7 回 達成度の確認（統合失調症 1）
- 第 8 回 達成度の確認（統合失調症 2）
- 第 9 回 達成度試験の勉強（統合失調症 3）
- 第 10 回 達成度の確認（気分障害 1）
- 第 11 回 達成度の確認（気分障害 2）
- 第 12 回 達成度の確認（ストレス関連障害）
- 第 13 回 達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
- 第 14 回 達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

柄沢昭秀（2006）精神医学入門 中央法規

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点（30 %）、授業内で行う数回の簡単な知識達成度テストと課題レポート（20 %）、期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生 54 名中 3 名のアンケート回答ありました。回答してくれた全員が「履修してよかった」と答えてくれました。授業外の学習時間の質問は 2 名が 100 %、1 名が 80 %でした。半数以上の回答で、知識、基礎力、判断力、新しい発見、知的興味、知的意欲で高い得点でした。授業目標の設定、授業構成、授業目標、評価基準の明示は、高い評価でしたが、学生間の討論などは今後の工夫を要する点です。授業の履修のコメントで「自分自身を考えるきっかけになった」は、この授業を継続していく励みになります（前年度分を掲載）。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、授業支援システムのお知らせもよく使用します。普段使用しているメールを授業支援システムに登録しておいて頂けると便利です。

【その他の重要事項】

授業計画の順序が入れ替わることがあります。適宜授業内で案内しますが、その点に注意して下さい。オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。

人格心理学

杉山 崇

授業コード：A3724

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。

【到達目標】

- 1) 「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける
- 2) 人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
- 3) 人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め、自分の言葉で語れるようになる。

【授業の進め方と方法】

人格には 1) 人間の心理的な個人差（特徴）、2) 個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3) 生得的な生理・反応・行動傾向、4) 後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について実例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第 2 回	人格の理論①	精神分析のアプローチ
第 3 回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第 4 回	人格の病理	パーソナリティ障害
第 5 回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第 6 回	類型論②	ミロンの類型論
第 7 回	特性論①	因子分析と特性 5 因子論
第 8 回	特性論②	生物学的特性論
第 9 回	パーソナリティと欲求、恋愛	パーソナリティの偏り
第 10 回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第 11 回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験、スキーマ療法と人格の最適化
第 12 回	人格の発達と統合③	心理－社会的要因による情動調整
第 13 回	人格と進化論①	扁桃体の 3F とその統制の進化論
第 14 回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業内に周囲の人と話しあっても構いません。人とのコミュニケーションおよび自己開示を積極的に行うことが必須です。
- 2) 講義形式ですが、リアクションペーパーを活用して双方型授業として行います。質問やコメントを記入の上、提出してください。
- 3) 【事前学習】次回授業のキーワードを調べ理解しておくこと。なお、キーワードを事前に知らせる。
- 4) 【事後学習】人格心理学を通じた自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。
なお、資料は web で配布するので授業支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】

『心理学要論』培風館
『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点（自己理解課題＋授業態度）× レポート（到達目標の達成度）

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。

【その他の重要事項】

この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。

人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経－生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。

担当教員 HP : sugys-lab.com

集団社会心理学

越智 啓太

授業コード：A3725

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング（キャラを作っていくこと）、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3 人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国とおしりが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。

＜学習目標＞

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

＜到達目標＞

- (1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようにになる。
- (2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようにになる。

【授業の進め方と方法】

＜授業内容＞

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなさんが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。講義形式、授業のまとめのノートはウェブ上で公開する（予定）
授業後には毎回リアクションペーパーを提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第 2 回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第 3 回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第 4 回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第 5 回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第 6 回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第 7 回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第 8 回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第 9 回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第 10 回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第 11 回	集団意思決定（1）	社会的手抜き現象
第 12 回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスクシフト
第 14 回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM 理論
第 14 回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス＝ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。授業資料には、各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）と設問が書かれているので、この用語を記憶し、使いこなせるようにするとともに、設問を解いておくこと。設問についてはレポートとして提出させる。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する。

【参考書】

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

出席は基準をみだしているかの評価に使用する。
筆記試験（80%）＋小レポート（20%）

授業後のコメントシートの内容で若干の得点を加算する場合がある（減点はしない）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

講義資料は各自、ネット（個人 HP、授業支援システム）からダウンロードする（予定）。

【その他の重要事項】

「社会心理学」（哲学科は心理学2社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。A+もつけるが、Dのものも毎年10人～20人程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。

臨床心理学

杉山 崇

授業コード：A3690

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理－社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経－生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この10数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第2回	臨床心理学総論②	目的と対象
第3回	力動的アプローチ	境界性パーソナリティ心性①－精神分析とユング心理学
第4回	認知行動的アプローチ－学習心理学と認知心理学	境界性パーソナリティ心性②
第5回	認知行動療法①	・ネガティブ思考の方程式 ・ストレスプロセス ・ネガティブ認知の正体
第6回	認知行動療法②	認知再構成①－コラム法
第7回	認知行動療法③	認知再構成②－損益比較法とのコラボレーション
第8回	行動療法	セリフモニタリングと活動記録
第9回	問題解決療法	問題解決の認知とスキル
第10回	臨床心理学と無意識	感情、ワーキングメモリ実行機能、無意識の種類
第11回	マインドフルネス心理療法	感情調整の技法
第12回	臨床心理学と人格心理学の接点	パーソナリティスタイルとパーソナリティ disorder
第13回	心理療法と治療関係	抑うつと自己共通要因アプローチ クライアント中心療法 治療関係の神経基盤
第14回	臨床心理学と社会心理学の接点	対人関係療法 被受容感 自尊心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：配布資料およびテキストの指定範囲を読み込み、専門用語について調べてくること。

復習：復習課題を毎回課し、復習のためのレポートを随時課す。

【テキスト（教科書）】

配布資料と以下の書籍をワークブックとして使う。

『どうせうまくいかないがなんだかうまくいきそうに変わる本』

・杉山崇・永岡書店・2016・¥1000

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点（復習課題＋授業態度）×レポート（到達目標の達成度）

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

web 上の授業支援システムを活用するため web にアクセスできる環境が必要である

犯罪心理学

越智 啓太

授業コード：A3691

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

犯罪者の行動を科学的に分析する

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBI の捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

＜授業目標＞

犯罪者行動に関する最先端の研究を理解する。

【到達目標】

(1) 犯罪についての科学研究のアプローチ方法について説明できるようになる。

(2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。

(3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【授業の進め方と方法】

＜授業方法＞

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回リアクションペーパーを提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第 2 回	連続殺人 (1)	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第 3 回	連続殺人 (2)	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第 4 回	連続殺人 (3)	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第 5 回	大量殺人 (1)	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第 6 回	大量殺人 (2)	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第 7 回	テロリズム (1)	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第 8 回	テロリズム (2)	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第 9 回	テロリズム (3)	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第 10 回	子どもに対する性犯罪 (1)	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第 11 回	子どもに対する性犯罪 (2)	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第 12 回	子どもに対する性犯罪 (3)	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	ストーキング (1)	ストーカー犯罪の現状と問題点、ストーカーのタイポロジーと行動パターン
第 14 回	ストーキング (2)	ストーカーのタイポロジーと行動パターン、危険性推定手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ配布する授業キーワード集をもとに毎回取り上げる、テーマのキーワードについて説明できるようにしておく。また、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておくこと。適宜そのまとめを小レポートとして提出させる。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房

【参考書】

越智啓太 犯罪心理学 朝倉書店

越智啓太 プログレス&アプリケーション 犯罪心理学 サイエンス社

越智啓太ほか（編著） 法と心理学の事典 朝倉書店

越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社

越智啓太 桐生正幸（編著） テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

出席点は、単位を取得する基本的な資格があるかを判断するためのみに使用する。
筆記試験（100%）が基本だが、毎回提出させるコメントシートの内容によって得点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、本年は新しい事例をくわえ、さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するかどうかを決定すること。

カウンセリング心理学

下山 晃司

授業コード：A3726

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようになることを目標とします。

授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけでなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】

各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。

ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【授業の進め方と方法】

力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って講義形式で解説していきます。ロールプレイングでは、小グループに分かれ、各自が Co（カウンセラー）、Cl（クライエント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。

授業毎にリアクションペーパーを回収し、授業で得た問題点に対し、教員が補足説明を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論の共通基盤	授業の進め方
第2回	精神分析1	理論と対象者
第3回	精神分析2	防衛機制・転移感情
第4回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第5回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第6回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第7回	認知行動療法	理論と対象者
第8回	中間試験	前半部分の理解度測定
第9回	ロールプレイング1	ロールプレイングに慣れる
第10回	ロールプレイング2	テーマが決められた面接1
第11回	ロールプレイング3	テーマが決められた面接2
第12回	ロールプレイング4	4種類のサポートとテーマが決められた面接3
第13回	ロールプレイング5	テーマが自由な面接1
第14回	ロールプレイング6	テーマが自由な面接2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習すること。
ロールプレイングで習得した内容を実践すること。

【テキスト（教科書）】

窪内節子・吉武光世 2003 やさしく学べる心理療法の基礎 培風館

【参考書】

W. ドライデン & J. ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング／心理療法の4つの源流と比較 北大路書房
ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神分析・行動療法・家族療法 金剛出版

【成績評価の方法と基準】

主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50%）。

反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50%）。レポートの評価の観点とは、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「受講してよかった」と回答した学生のコメントとして、「前半の講義ではカウンセリング・心理療法の歴史や技法の知識を得ることができ、後半のロールプレイングを通じて日常生活でも応用できる対話技法を学べた。」とありました。したがって今年度も、前半を講義形式で行い、後半にロールプレイングを継続的に行います。

設問6（履修して感じたこと）の回答が集中したものに、「知識が身についた」、「スキルが身についた」がありました。今年度もより一層、知識・スキルの習得を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

身体活動と健康

林 容市

授業コード：A3729

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「健康関連情報の取捨選択」、「身体活動に関する心理要因」、「様々な対象における健康の考え方」、「身体活動と心身の健康」の 4 つをテーマとします。

【到達目標】

- ・健康な生活習慣確立に繋がる心身の情報・知識を学習する。
- ・現在の自らの身体状態や生活習慣を適切に把握・評価する。
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、健康と身体運動に関連した知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中に測定する健康関連指標の結果や個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、健康な生活について
第 2 回	健康関連情報の取捨選択 1	情報選択の際の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンス
第 3 回	健康関連情報の取捨選択 2	日本人の健康状態と新たな健康づくり
第 4 回	健康関連情報の取捨選択 3	今日の健康における様々な社会問題の関与
第 5 回	身体活動に関する心理要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理要因 1
第 6 回	身体活動に関する心理要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理要因 2
第 7 回	様々な対象における健康の考え方 1	幼児期・児童期の健康と身体活動
第 8 回	様々な対象における健康の考え方 2	幼児期・児童期の身体活動と社会的要因
第 9 回	様々な対象における健康の考え方 3	青年期の健康と身体活動
第 10 回	様々な対象における健康の考え方 4	肥満や痩せに関連する心理要因
第 11 回	様々な対象における健康の考え方 5	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态
第 12 回	身体活動と心身の健康 1	生活習慣病の成因と身体活動との関係
第 13 回	身体活動と心身の健康 2	様々な減量方法に関する心理的・生理的要因
第 14 回	身体活動と心身の健康 3	肥満・減量に関連する国際的比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また、ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1）授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%、2）ミニレポート：30%、の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の 54 % からこの授業を履修して「大変よかった」という回答を得たが、昨年度の 77 % から評価が低下していた。この授業は市ヶ谷キャンパスにおける公開科目となっているため、市ヶ谷の他学部生、SSI 生の受講者も多く、今回の評価の解釈は難しい面もあるが、次年度の授業では内容の理解が促進されるよう改善して行く予定である。

また、自由記述では、「身体に関する身近な問題が取り上げられていたため、興味深かった」、「普段の生活の中で健康を意識するようになった」といった内容に関するもの、「図やグラフがわかり易かった」といった配布資料に関するもの、そして「毎回コメントにフィードバックをしてくれたので楽しかった」といったリアクションペーパーへの対応に関するものなど、いくつかの要因に対して肯定的なコメントを頂いた。他方、資料の配布方法（授業支援システムを利用）などについては変更の要望があったため、これらについては次年度の授業に向けて対応する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

発達心理学特講

堀口 康太

授業コード：A3680

秋学期・2 単位

期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当につき特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム等に入ること

【その他の重要事項】
各時間のテーマを変更する場合あり。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の生涯発達過程の中で、各発達段階において中心的なトピックに関する研究成果に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説するため、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】

発達心理学的な研究成果、研究方法に関する知識をを身につけ、学生が知りたいことを知るためにどのような方法があるか、どのように問題を立てればいいのかといったような、実践的な知識の獲得をめざす。

【授業の進め方と方法】

原則、講義形式とするが、DVD などの視聴覚教材を用いて人間の生涯発達に関する理解が促進されるようにする。ペアやグループによる話し合いも行い、論文等の研究成果に触れながら、人間の生涯発達をより理解できるようにする。なお、受講希望者は初回時には必ず出席する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人間の生涯発達の基礎	発達とは何か、何が発達するという事なのかを自身の経験に照らし合わせながら理解する。
第 2 回	人間の生涯発達の過程	人が発達していくこととはどういうことなのかを個人の生涯から考える。
第 3 回	発達を知るための研究方法：質問紙調査	実際の研究を題材に質問紙を利用した発達を知る方法を学び、自らも活用できるようにする。
第 4 回	発達を知るための研究方法：実験	実際の研究を題材に実験を利用した発達を知る方法を学び、結果について議論する。
第 5 回	発達を知るための研究方法：観察と面接	実際の研究を題材に観察や面接を利用した発達を知る方法を学ぶ。
第 6 回	幼児期のアタッチメント 1 愛着とは何か？	幼児期の発達のトピックとしてのアタッチメントの基礎について学ぶ。
第 7 回	幼児期のアタッチメント 2 関係性の深まりと可塑性	養育者以外への愛着や愛着の障害、可塑性について、児童虐待の事例等を通して学ぶ。
第 8 回	児童期の動機づけ 1 内発的動機づけと外発的動機づけ	児童期の発達のトピックとしての学習意欲について、内発-外発の視点から学ぶ。
第 9 回	児童期の動機づけ 2 適応的な動機づけとは何か？	学習における動機づけの質とそのデメリット、メリットを学ぶ。
第 10 回	アイデンティティの発達 1 自分とは誰か？	青年期以降のトピックとしてのアイデンティティや自己の発達について学ぶ。
第 11 回	アイデンティティの発達 2 生涯の中で再構成される自己	アイデンティティが生涯を通じて、発達していくことを実際の研究や事例から学ぶ。
第 12 回	生涯の中のキャリア発達 今のキャリアに影響する過去の経験	青年期以降の職業選択や中年期のキャリア発達に関する理論について学ぶ。
第 13 回	老年期の適応 1 活動理論と離脱理論と継続性理論	老年期の発達に関するトピックの 1 つとしての適応に関する理論や研究成果について学ぶ。
第 14 回	老年期の適応 2 よりよい老いとは何か？	実際の研究や事例からよりよい老いとは何か考え、生涯発達の過程を再度整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どのような研究者がどういった背景からどのような研究を行い理論を提唱してきたかという大枠をつかんでいく。適宜ミニテストを実施し、授業のポイントを押さえているかを確認する。

【テキスト（教科書）】

授業時に適宜伝える。

【参考書】

高野陽太郎・岡隆編著『心理学研究法』有斐閣アルマ
数井みゆき編著『アタッチメントの実践と応用：医療・福祉・教育・司法現場からの報告（誠信書房）』
岡本祐子編著『アイデンティティ生涯発達論の射程（ミネルヴァ書房）』
渡辺三枝子編著『キャリアの心理学：キャリア支援への発達のアプローチ（ナカニシヤ出版）』
大川一郎他編著『エピソードでつかむ老年心理学（ミネルヴァ書房）』

【成績評価の方法と基準】

出席は前提として考え、以下のようなポイントで評価する。
授業中の発言など積極的な姿勢で評価する（20%）。
毎回のテーマに関するミニレポートを評価する（30 %）

社会心理学特講

島宗 理、吉村 浩一、高橋 敏治、福田 由紀、田嶋 圭一

授業コード：A3687

夏期集中・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められる。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介する。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主体的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

本授業はサマーセッション中にオムニバス形式で行う。2 ～ 3 回の授業時間を 1 単元とし、単元ごとに 1 つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義する。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論する。自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出する。

【授業計画】

前期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第 2 回	持続可能な社会と心理学 (1)	資源や環境問題について、持続可能な社会を実現するための行動分析学からのアプローチについて解説する。
第 3 回	持続可能な社会と心理学 (2)	持続可能な社会を実現するための方法論についてチーム内で議論し、各自がレポートのアウトラインを作成する。
第 4 回	現代社会における家族と心理学 (1)	戦後の家族規範の変化、夫婦制家族・核家族化への変化、父系から母系家族への変化など、日本の家族の歴史的变化について考える。
第 5 回	現代社会における家族と心理学 (2)	家族の変化に伴い精神保健的な家族問題がいろいろと顕在化している。具体的には、アダルトチルドレンの問題、EE (Emotional Expression) 研究、家族学習会 (家族ネット)、痴呆ケアの家族の問題、虐待と家族など危機に瀕した家族の問題を取り上げ、チームで発表議論する。
第 6 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。
第 7 回	危機予防の心理学 (1)	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第 8 回	危機予防の心理学 (2)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。
第 9 回	共生社会における相互理解と心理学 (1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が必要なのかを考える。
第 10 回	共生社会における相互理解と心理学 (2)	共有された世界を構築するために、どのような活動が必要かを体験を通して考える。
第 11 回	異文化・言語と心理学 (1)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。
第 12 回	異文化・言語と心理学 (2)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第 13 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。
第 14 回	まとめ、質疑応答とレポート作成	授業全体を振り返り、チーム内でレポートの下書きを読み合い、意見交換する。 必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内に調べ学習やレポート作成のための時間はとってありますが、サマーセッションに利用した集中講義形式で行う授業ですので、それだけでは不足する可能性があります。3 日間にわたる授業期間中、講義終了後にはそれぞれ図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

○ Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197 - 206.

○ Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.

○ 山崎勝幸・戸田有一・渡辺弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房

○ Brock, S.E., & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.

○ 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会

○ 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第 1 巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全 5 題）をそれぞれ 20 点満点で採点し、合計得点が満点（100 点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度から新しく開講する授業なので、学生の意見や気づきはまだまだありません。

【その他の重要事項】

代表として島宗のオフィシアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィシアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。

島宗のオフィシアワー：春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

スポーツ心理学特講

荒井 弘和

授業コード：A3664

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することです。

【到達目標】

運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、環境変革力、共同行動力）」の育成に貢献することを目指します。

【授業の進め方と方法】

この授業では、運動学習や運動の習慣化に関連する理論モデルから、メンタルトレーニングやスポーツパーソンシップまで、幅広い内容を扱います。さらに、欧米で注目されている最新のトピックや、実際のスポーツ場面で生じた事例についても触れます。

以上のことによって、現代社会においてスポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え、心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。授業は、講義形式が中心となります。ただし、一方的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。

なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるからです。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ心理学とは何か？を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第2回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第3回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (1)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第4回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (2)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第5回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (3)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第6回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ (1)	チームビルディングの概要を理解する。
第7回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ (2)	ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第8回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ (3)	集団効力感の観点から、チームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第9回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (1)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第10回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (2)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第11回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 運動とメンタルヘルスとの関連を学ぶ	健康のために実施する運動の効果について説明できるようになる。
第12回	健康スポーツの心理学を学ぶ 2) 運動を促進させるための働きかけを学ぶ	行動科学の方法論やマーケティング手法を用いて、自分や周りの人に対して、運動を促進するための働きかけができるようになる。
第13回	スポーツの仕組みの心理学を学ぶ	スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。

第13回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アダプテッド・スポーツの心理学を学ぶ	障害のある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理学的な支援を実践できるようになる。
第14回	競技スポーツの心理学を学ぶ 5) スポーツパーソンシップを考える	スポーツパーソンシップについて学び、自分の考えとその根拠を明確にできるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

「スポーツだけでなく、様々な面で役に立った」という意見がありましたので、引き続き、スポーツ以外の場面でも適用できるように情報提供したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

グループワークを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加することを期待します。

心理学英語Ⅱ

森島 泰則

授業コード：A3730

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、小グループになって話し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第 2 回	長文読解になれる（1）	Abducted の第 3 章の読解（エイリアンに誘拐されたことがないのにその記憶はどのように形成されたのか）
第 3 回	長文読解になれる（2）	Abducted の第 4 章の読解（エイリアンに誘拐された記憶はなぜ共通点が多いのか）
第 4 回	読解内容を要約する	Abducted の第 6 章の内容をマッピングし、それをもとに要約を書く
第 5 回	The Automaticity Of Social Life (1)	社会的認知の自動的処理に関する文献の読解（前半部分の読解）
第 6 回	The Automaticity Of Social Life (2)	社会的認知の自動的処理に関する文献の読解（後半部分の読解）
第 7 回	ジャーナル論文を読む（1）	論文の構成をつかむタイトルとアブストラクトから何がわかるか
第 8 回	ジャーナル論文を読む（2）	リーディング課題 1 研究課題と結論は何かを理解し、概要を理解する
第 9 回	ジャーナル論文を読む（3）	リーディング課題 2 実験を分析する（データの読み取り方）
第 10 回	ジャーナル論文を読む（4）	リーディング課題 3 情報のつながりをつかむ練習（接続表現、論理構成）
第 11 回	英語レポートを書く（1）	リーディング課題 4 1 パラグラフのレポートを書く練習
第 12 回	英語レポートを書く（2）	ライティング課題 1 1 ページ（数百語）のレポートを書く練習
第 13 回	英語レポートを書く（3）	ライティング課題 2 数ページの実験レポートを書く練習
第 14 回	ジャーナル論文を読んで、それをレポートする	ライティング課題 3 課題論文の読解と確認／論文の要約とプレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

Oxford Advanced Learners' Dictionary

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題も含む） 40%

課題 30%

期末試験（またはレポート） 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語学習目的（英語論文が読めるようになりたい、など）に合う授業を心がける

心理学特殊講義Ⅱ

大月 友

授業コード：A3727

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知・行動療法の基礎と実践を学び、基礎心理学と応用心理学のつながりを理解する。

【到達目標】

行動心理学（学習心理学）の基礎理論、および、その臨床応用としての認知・行動療法について理解し、説明することができる。また、その実践に関してもイメージが持てるようになる。

【授業の進め方と方法】

科学的な心理療法として展開される認知・行動療法に関して、その基礎理論と臨床実践に関して、具体例とともに解説をする。パワーポイントを用いた授業を基本として、一部、ビデオなども利用する。また、授業内で適宜小グループでのディスカッション時間を設け、心理療法の具体的なアイデアなどを発表してもらう。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の概要と狙いについて説明する。
第 2 回	臨床心理学と認知・行動療法	心理学の中での臨床心理学の位置づけ、さらに、その中の認知・行動療法の位置づけを説明する。
第 3 回	カウンセリングの対象	心理臨床で支援の対象となる問題や疾患について説明する。
第 4 回	認知・行動療法の全体像	認知・行動療法の歴史的変遷やその多様性を説明する。
第 5 回	レスポナント理論とその応用	レスポナント理論と行動療法への応用を説明する。
第 6 回	オペラント理論とその応用 1	オペラント理論（行動分析学）と行動療法への応用（応用行動分析を含む）を説明する。
第 7 回	オペラント理論とその応用 2	オペラント理論（行動分析学）と行動療法への応用（応用行動分析を含む）を説明する。
第 8 回	オペラント理論とその応用 3	オペラント理論（行動分析学）と行動療法への応用（応用行動分析を含む）を説明する。
第 9 回	認知理論と認知変容	認知療法の基礎となる考え方とその実践に関して説明する。
第 10 回	認知療法の実践	心理療法として実践される認知療法の実践について説明する。
第 11 回	認知・行動療法のまとめ	行動療法と認知療法が統合された認知・行動療法に関して、代表的な疾患モデルとともに説明する。
第 12 回	認知・行動療法の進化	基礎理論の発展とともに進化する認知・行動療法の諸技法やセラピーモデルについて説明する。
第 13 回	アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT)	新しい認知・行動療法のセラピーモデルの一つとして、アクセプタンス&コミットメント・セラピーの考え方について説明する。
第 14 回	まとめ	これまでの授業のまとめと到達度の確認を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：各回で取り上げられる代表的な行動心理学・学習心理学の基礎理論に関して、事前に予習をしてくる。

復習：各回で取り上げた基礎理論の臨床応用に関して、授業内容を中心として復習を行う。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

臨床行動分析の ABC（日本評論社）、実践家のための認知行動療法テクニックガイド（北大路書房）、アクセプタンス&コミットメント・セラピー第 2 版（星和書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と試験（50 %）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

心理療法の実際がイメージしやすいよう、視覚教材（セッション映像）等を利用して授業を行う。

文学部専任教員紹介

凡例

氏 名
学 位

① 主な科目

② 現在の専門分野

③ 所属学会・団体

④ 略歴（学歴を含む）

⑤ 業績（著書・論文等）

⑥ 学外での活動

⑦ 趣味

⑧ 学生へのメッセージ

⑨ オフィス・アワー（特別場所の指定がなければ研究室で行う）

※研究室の場所については事務に確認すること。

※兼任講師が担当する授業については授業の前後で質問すること。

哲 学 科



まきの えいじ 教授
牧 野 英 二 教授

文学博士

① 哲学概論1・2、哲学演習(6) ②カント、ディルタイ、ハイデガーなどのドイツ哲学、現代哲学、倫理学、異文化間哲学等の研究。③日本哲学会、日本倫理学会、日本カント協会、実存思想協会、日本ディルタイ協会他。④1980年法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程修了、1983年法政大学文学部専任講師、1985年助教授、1989年教授 ⑤著作：1.『カント純粋理性批判の研究』(単著：法政大学出版局、1989) 2.『カント読本』(共著：法政大学出版局、1989) 3.『カント哲学の現代性』(共著：弘文堂、1990) 4.『批判的形而上学とは何か』(編著：理想社、1990) 5.『社会思想史』(共著：法政大学通信教育部、1991) 6.『近世ドイツ哲学論考』(編著：法政大学出版局、1993) 7.『カントー現代思想としての批判哲学』(編著：情況出版、1994) 8.『社会哲学の領野』(共著：晃洋書房、1994) 9.『遠近法主義の哲学』(単著：弘文堂、1996) 10.『カントと現代』(共著：晃洋書房、1996) 11.『カント事典』(編集：弘文堂、1997、ハングル訳2009) 12.『哲学・思想事典』(編集協力：岩波書店、1998) 13.『ディルタイと現代』(編著：法政大学出版局、2001) 14.『カントを読むーポストモダニズム以降の批判哲学ー』(単著：岩波書店：2003、ハングル訳2009) 15.『カント没後200年特集』(編著：情況出版、2004) 16.『カント全集別巻』(編著：岩波書店、2006) 17.『廣松渉・カントの先験的演繹論』(共著：世界書院、2007) 18.『崇高の哲学ー情感豊かな理性の構築に向けて』(単著：法政大学出版局、2007) 19.『グローバル・エシックスを考える』(共著：梓出版社、2008) 20.『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！和辻倫理学の今日的意義』(単著：法政大学出版局、2010) 21.『カントを学ぶ人のために』(編著：世界思想社、2012) 22.『持続可能性の危機』(共著：御茶の水書房、2012) 23.『持続可能性の哲学への道』(単著：法政大学出版局、2013) 24. Kant und die Philosophie in Weltbuergerlicher Absicht (共著：Bd. 1, De Gruyter, 2013) 25.『西洋政治思想資料集』(共著：法政大学出版局、2014) 26.『岩波人文書セレクション カントを読む』(単著：岩波書店、2014) 27.『東アジアのカント哲学』(編著：法政大学出版局、2015) 28.『現代日本の四つの危機』(共著：講談社、2015) 29. Peace in the East (共著：Lexington Books, 2017) 30.『新・カント読本』(編著：法政大学出版局、2018) 訳書：1. カッシーラー『カントの生涯と学説』(共訳：みすず書房、1986) 2. ベイナー『政治的判断力』(共訳：法政大学出版局、1988) 3. マウス『啓蒙の民主制理論』(監訳：法政大学出版局、1999) 4. カント『判断力批判』(上)(岩波書店、1999) 5. カント『判断力批判』(下)(岩波書店、2000) 6. ディルタイ『精神科学序説I』(編集校閲・訳・解説、法政大学出版局、2006) 7. ロックモア『カントの航跡のなかでー二十世紀の哲学』(監訳：法政大学出版局、2008) 8. ディルタイ『近代精神史研究』(共訳、法政大学出版局、2010)。論文：「カントと崇高の哲学」(『思想』2006年10月、岩波書店) Bericht ueber die japanische Edition von Kants Gesammelten Schriften, in: Kant-Studien 2013. Kant's Philosophy and the Pursuit of Peace. Journal of Sun Yat-sen University Social Science edition. Nov. 2016)。⑥日本カント協会会長、日本ディルタイ協会会長、韓国日本近代学会理事、日本哲学会理事、日本倫理学会評議員、実存思想協会理事。『ディルタイ全集』(法政大学出版局、全12巻)の編集・翻訳等に取り組んでいます ⑦バード・ウォッチング、演劇鑑賞など。環境問題・人権問題などに関心を持ち、東日本大震災の支援活動を行っています。また、地方自治体の審査会会長等を務め、生活者の立場から哲学の実践に努めています。因みに、自宅に太陽光発電機を設置して電力会社に売電しています(発電所名：ゆずの木灯台)。⑧目標をもって勉学やサークル活動などに積極的に取り組んで下さい。自分の頭で考え、批判精神を養い、自分の意見を積極的に表現できるようになってほしいと思います。⑨月曜日15時から16時(予約不要：80年館607研究室)。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



文学修士

①倫理学概論、哲学演習 (7) ②倫理学 ③日本倫理学会、日本イギリス哲学会、日本ヘーゲル学会 ④1977年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京大学助手、明治学院大学一般教育部助教授を経て、1989年本学着任。1996年～97年ロンドン大学 (University College London) 客員研究員。 ⑤「ヘーゲルと現代英語圏の哲学」(大橋良介編『ドイツ観念論を学ぶ人のために』世界思想社、2006)、『菊と刀』にみる〈日本文化〉(星野勉編『外から見た〈日本文化〉』法政大学出版局、2008)、『〈国際日本学〉とは何か―〈翻訳〉から見えてくるものを手がかりに―』(星野勉編『内と外からのまなざし―国際日本学とは何か?―』三和書籍、2008)、『規範理論としてのホブズ社会契約論』(『イギリス哲学研究』第33号、2010)、G. E. ムーア著『倫理学原理』(共訳、三和書籍、2010)、R. B. ピピン著『ヘーゲルの実践哲学』(監訳、法政大学出版局、2013)、『人間と自然の身体を介する関係態としての〈風土〉―和辻哲郎と〈風土〉』(『法政大学文学部紀要』第73号、2016) など。 ⑦音楽鑑賞、旅 ⑧「驚き」から発せられる「なぜ?」という問い、これが哲学の始まりです。「なぜ?」と問うことで、当たり前だったことが新しい発見に変わるのです。「哲学する」ことを通じて、新しい発見を体験しようではありませんか。⑨オフィス・アワー：水曜日 14：30～15：00 (80年館609号室)



文学修士 (哲学)

①基礎ゼミ、基礎演習、哲学演習 (1)、国際哲学特講 ②フランス哲学、フランス思想史 ③日本哲学会、日仏哲学会、日本科学哲学会、関西哲学会 ④1986年京都大学大学院博士後期課程学修退学、1989年より法政大学に勤務 ⑤『自然観の展開と形而上学』紀伊国屋書店1988年 (共著)、『社会思想史』法政大学通信教育部1991年 (共著)、ピエール・デュエム『物理理論の目的と構造』勁草書房1991年 (共訳)、『西洋哲学史 (近代篇)』ミネルヴァ書房1995年 (共著)、『デカルト読本』法政大学出版局1998年 (共著)、『ベルクソン読本』法政大学出版局2006年 (共編著)、『哲学の歴史8 - 社会の哲学』中央公論新社2007年 (共著)、『哲学の歴史5-デカルト革命』中央公論新社2007年 (共著)、『Disséminations de l'évolution créatrice de Bergson, Georg Olms Verlag 2012年 (共編著)、『デカルトをめぐる論戦』京都大学学術出版会2013年 (共編著)、『Annales bergsoniennes VI: Bergson, le Japon, la catastrophe, PUF 2013年 (共編著)、『Philosophie japonaise-le néant, le monde et le corps-, Vrin 2013年 (共著)、『La réception et la résistance-la vie selon les sciences occidentales et le Japon/ 受容と抵抗―西洋科学の生命観と日本』法政大学国際日本学研究所2015年 (責任編集)、『Transplanter:une approche transdisciplinaire:art, médecine, histoire, biologie, Hermann 2015年 (共著)、『Milieux modernes et reflets japonais―Chemins philosophiques, Hermann /Presse de l' Université Laval 2015年 (共著)、『Tout ouvert : l'évolution créatrice en tous sens, Georg Olms Verlag 2015年 (共編著)、『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する』書肆心水2016年 (共編著)、『Considérations inactuelles : Bergson et la philosophie française du XIXe siècle, Georg Olms Verlag2017年 (共編著)、『ベルクソン『物質と記憶』を診断する』書肆心水2017年 (共編著) ⑥日仏哲学会副会長 ⑦歩くこと、観ること (リュック・ボンディがナンテール・アマンディエ劇場で演出したマリヴォー“愛の第二の驚き”には感動しました)、聴くこと (キース・ジャレットとアンジェラ・ヒューイットが弾くバッハ“ゴールドベルク変奏曲”を代わる代わる聴いています) ⑧ベルクソンの言葉で言えば「意志の天才は予測なるものを眼中に置かない」といったことになりますが、このような天才ぶりの発揮を、皆さん一人一人に期待しています⑨火曜日5時限 (80年館608号)

すが さわ たつ ぶみ
菅 沢 龍 文 教授



文学修士

①基礎ゼミ、西洋哲学史Ⅱ、哲学特講、哲学演習、(リベラルアーツ科目「論理学」、大学院科目「近代倫理学史研究Ⅰ・Ⅱ」は哲学科生も受講可能)
②カントの道徳哲学を中心とした西洋近代思想 ③日本カント協会、日本倫理学会、日本哲学会、社会思想史学会、日本イギリス哲学会、日本ヘーゲル学会、日本ライプニッツ協会、法政哲学会、その他。④1982年早稲田大学文学部哲学科卒、1989年法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程修了、1990年～92年日本学術振興会特別研究員、1993年法政大学文学部専任講師、96年助教授、99～00年ドイツ・マールブルク大学客員研究員、2002年教授。⑤〔著書〕『論理学の初歩』(共著、梓出版社、2010年)、『自然と人間』(共編著：梓出版社、2006年)、『近代への問いかけ』(共編著：晃洋書房、2004年)、その他。〔論文〕(和文)「世界平和と基本的人権、その指標としての「訪問権」——カントによる世界市民権概念について——」(『法政大学文学部紀要』2018年)、「ヨブの幸福とカント——最高善概念を手がかりに——」(『法政大学文学部紀要』2015年)、「カントの共和制国家における法と倫理——義務論の観点から——」(『法政大学文学部紀要』2012年)、その他。(欧文) Kant und das Problem des Lügens. Über Nebeneinanderbestehen der moralischen Pflichten (カントと虚言の問題——道徳的義務の両立について), in: Kant und die Philosophie in weltbürgerlicher Absicht, Akten des XI. Internationalen Kant-Kongresses Bd. 3, Berlin, De Gruyter, 2013. その他。〔翻訳〕マンフレッド・キューン『カント伝』(共訳：春風社、2017年)、ヨハン・シュルツ『カント『純粹理性批判』を読むために』(共訳(代表)：梓出版社、2008年)、ラインハルト・ブランド『哲学 ひとつの入門』(共訳(代表)：理想社、2006年)、その他。⑦散歩、読書などです。⑧大学で勉強することの意味が問われる昨今ですが、忙しい世の中で哲学書を読んで広く深く考える機会というのはなかなか得難いものではないでしょうか。学生の皆さんが大学で充実した時間を送れるための一助になればいいと願っています。⑨金曜日16:00～18:00 研究室(80年館605)



なか がま こう いち
中 釜 浩 一 教授

文学修士

①基礎演習、哲学特講8、哲学演習9、科学哲学 ②科学哲学、言語哲学、イギリス経験論 ③日本哲学会、日本科学哲学会、日本イギリス哲学会等 ④昭和51年京都大学文学部入学、昭和56年京都大学大学院文学研究科入学、昭和62年博士後期課程学修退学、平成6年法政大学専任講師、平成9年助教授、平成15年教授 ⑤論文：「できごとと対象—ホワイトヘッド科学哲学の中心概念」(哲学論叢)、「時間空間論における規約主義」(哲学研究)、「説明と形而上学的コミットメント」(科学哲学)、「指標語を巡る哲学的諸問題Ⅰ」(法政大学文学部紀要)、「自然観の相克」(岩波新・哲学講座)「科学論の帰趨」(ミネルヴァ書房『科学技術のゆくえ』)、「哲学の歴史」8(中公新社)等、翻訳：ヘンリー・デアラック「ニュートンと分析的方法」(西洋思想大事典、平凡社)、ジョージ・レーゲン「エントロピー過程と経済法則」(共訳、みすず書房)、デイヴィッド・ヒューム「人間本性論」(共訳、法政大学出版局) ⑦電車の中で古い小説を読むこと。人のいない美術館や博物館でぼんやりすること。古楽器の演奏を聴くこと。⑧「難しいことをやさしく説明する」のではなく、「簡単そうに見えることがどうしてこんなに難しいのか、をわかりやすく説明する」ようにしたいと思っています。⑨火曜日16時～17時

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

おく だ かず お 教授
奥 田 和 夫



文学修士

①哲学演習(2)、西洋哲学史Ⅰ-1、西洋哲学史Ⅰ-2、哲学特講(1)-2です。(ただし、2018年度は国内研究員として文学部の授業は担当しません。) ②古代ギリシア哲学 ③日本西洋古典学会、日本哲学会、日本倫理学会、古代哲学会、西洋古典研究会、新プラトン主義協会、ギリシャ哲学セミナー、法政哲学会 ④1979年法政大学文学部哲学科卒業、1987年法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士後期課程単位取得満期退学、法政大学文学部兼任講師、1995年専任講師、1998年助教授、2003年教授 ⑤編著：『自然と人間』(梓出版社2006年) 論文：「プラトン『パイドン』におけるイデア原因論と魂不死論証(102A-105E)」(『西洋古典研究会論集』第1号、1990年)、「プラトン『テアイテトス』第一部における知識論―最後の反駁―におけるウッシアーの理解をめざして―」(『西洋古典学研究』第43号、岩波書店、1995年)、「強者の利益」プラトン『国家』第一巻におけるトラシュマコス説とその背後にある思潮」(『法政大学文学部紀要』第42号、1997年)、『カント事典』(古代哲学関連項目執筆、弘文堂、1997年)、「欲望の増大―プラトン『国家』第八巻第一章―第九巻第三章(543A-576B)に関する研究ノート(Ⅰ)・(Ⅱ)」(『法政大学文学部紀要』第45・47号、2000、2002年)「正しい人の快楽―プラトン『国家』第九巻における快楽論の意味―」(『法政大学文学部紀要』第48号、2003年)、「プラトン『国家』における「善のイデア」をめぐる一現代的解釈とプロティノスの解釈―」(『新プラトン主義研究』第2号、2003年)、「哲人王の行方」(『西洋古典学研究』第59号、岩波書店、2011年)、「哲人王の行方」補説」(『西洋古典研究会論集』第21号、2012年)等 翻訳：R.ベイナー『政治的判断力』(共訳、法政大学出版局、1988年) ⑥西洋古典研究会委員 ⑦音楽観賞(とくに凝っているわけではありませんが、中世・ルネサンス音楽、バッハ、モーツァルトが好きです)、散歩。しかし最近は音楽を聴く暇も散歩する余裕もありません。⑧授業や自主的な勉学をとおして何らかの収穫を得てほしいと思います。とくに、ゼミその他において、哲学書を読む困難さと楽しさを味わって下さい。また、幅広い関心と活動のなかで相互に信頼し合える人間関係(友情)をきずきあげ、悔いのない学生生活を送って下さい。 ⑨本年度は国内研究のため不在となります。



かさ はら けん すけ 教授
笠 原 賢 介

博士(学術)、東京都

①哲学演習(5)、現代思想Ⅰ・Ⅱ(ドイツの思想Ⅰ・Ⅱ) ②ドイツ近現代哲学・思想、比較文学比較文化 ③日本倫理学会、日本独文学会、社会思想史学会、日本シェリング協会、日本比較文学会、美学会 ④東京大学教養学部教養学科ドイツ分科卒業。同大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程修了、同大学院人文科学研究科比較文学比較文化専攻修士課程修了、1982年本学着任、1987年～88年チュービンゲン大学客員研究員、1996年～1997年ベルリン自由大学客員研究員 ⑤Th.W.アドルノ『本来性という隠語―ドイツ的なイデオロギーについて』、未来社(ポイエーシス叢書11) 1992年(訳書)、『倫理思想辞典』、山川出版社 1997年(共著)、『カント事典』、弘文堂 1997年(共著)、『多元的文化の論理―新たな文化学の創生へ向けて―』東北大学出版会、2005年(共著)、『社会思想史』(共著)法政大学通信教育部、2010年、E. カッシーラー『象徴形式の形而上学』(共訳)法政大学出版局、2010年、「和辻哲郎『風土』とヘルダー」(論文、『思想』2016年5月号)、「レッシングとフリードリヒ・シュレーゲル―オリエン特観をめぐる―」(論文、『シェリング年報』第25号、2017年)、『ドイツ啓蒙と非ヨーロッパ世界』(著書、未来社、2017年)など ⑦山歩き、音楽を聴くこと、リコーダー ⑧自分にあったテーマに時間をかけて取り組んでほしいと思います。⑨水曜日13時30分～14時00分。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



やま ぐち せい いち 教授
山 口 誠 一

文学修士

①哲学演習（10）、行為の理論（人間学2）、哲学Ⅰ・Ⅱ ②ヘーゲル全集翻訳総責任編集、ヘーゲルからニーチェに到る哲学の新しい理解、行為の理論、新プラトン主義の影響史、日本ヘーゲル研究史 ③国際ヘーゲル協会、国際ヘーゲル学会、国際ニーチェ学会、日本哲学会、日本倫理学会、新プラトン主義協会、日本ヘーゲル学会、日本カント協会、日本ショーペンハウアー協会など。④東京大学文学部哲学科卒業、東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学、法政大学専任講師、助教授、ミュンヘン大学、ヘーゲル・アルヒーフ客員研究員を経て、教授。慶応大学、東京都立大学大学院、金澤大学、放送大学学園、立正大学非常勤講師、朝日カルチャーセンター・ヘーゲル講座講師等を歴任 ⑤『ヘーゲル哲学の根源』（法政大学出版局、1989年）、『ヘーゲルのギリシア哲学論』（創文社、1998年）、『ヘーゲル事典』（弘文堂、1992年）、『クリエートする哲学』（弘文堂、2000年）、『ヘーゲル〈新プラトン主義哲学〉註解』（知泉書館、2005年）、『ニーチェとヘーゲルーディオニュソス哲学の地下通路』（法政大学出版局、2010年）、『ニーチェ〈古代レトリック講義〉訳解』（知泉書館、2011年）、『Die japanischsprachige Hegel-Rezeption von 1878 bis 2001. Eine Bibliographie. Peter Lang Edition, 2013（共編著）、Hegel in Japan. Studien zur Philosophie Hegels. Lit Verlag, 2015（共編著）、W. イェシユケ『ヘーゲル・ハンドブック』（知泉書館、2016年）共監訳など。⑥日本ヘーゲル学会代表理事、前新プラトン主義協会会長、Jahrbuch für Hegelforschung国際顧問、前日本哲学会編集委員 ⑦水泳、都心散策、旅行、料理 ⑧哲学を究めるには、つぎの3つのことにいつも心がけましょう。①心底から面白いと思うことのできるテーマを見つけること。②自分にフィットした本を見つけて精読すること。③本の内容に導かれながら自分の言葉で考えること。これらのことは、相互に矛盾しあうこともあるので、均衡をとるようにもすることが大切です。⑨木曜日 12:00～13:20（富士見坂校舎オフィスアワー室）

ディトマー ハイデンライヒ
Dietmar Heidenreich 教授



Dr. phil（ドイツTrier 大学）

① 比較文化Ⅰ／Ⅱ、文学Ⅰ／Ⅱ、ドイツ語の世界Ⅰ／Ⅱ、哲学特講、ドイツ語 ② 文学と哲学、文学的人類学、映画と文化についての比較研究 ③ Deutsche Gesellschaft für Ästhetik e.V. ④ 1996 年 Trier 大学（Dr. phil）取得、1997 年同志社大学客員研究員、1998 年法政大学第一教養部助教授、2003 年法政大学文学部哲学科へ移籍。⑤著書：Der Aphorismus als Epos bei Akutagawa Ryunosuke. Eine Gesamtdeutung aus der Perspektive der aphoristischen Tradition im deutschen Sprachraum.- Frankfurt& Bern 1997、その他。⑥兵役 ⑦家と庭デザイン、ワインと料理、バロック音楽鑑賞、その他。⑧既存の専門の枠を超え、世界を違う角度から見る。⑨ 火曜日 3 限（BT1514教室）、メール：dheidenr@hosei.ac.jp

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



パリ大学博士

① 哲学演習 (4)、哲学特講 (2) -1、宗教学2 (キリスト教思想史)、宗教論I・II、

②ジョルジュ・バタイユ研究、西洋芸術論、宗教論 ③美学会、表象文化論学会、西洋中世学会、日本フランス語フランス文学会、④1978年東京大学文学部

仏文科卒業後、同大学大学院へ進学、1983年仏政府給費生としてパリ大学留学 (3年半)、1986年パリ大学よりバタイユ論で博士号取得、1988年東大院博士課程単位取得退学、同年電気通信大学専任講師 (フランス語担当)、1989年文部省在外研究員としてパリ大学留学 (1年間)、1991年電気通信大学助教授、2000年法政大学第一教養部教授 (フランス語担当)、2003年法政大学文学部哲学科へ移籍。⑤著書：1)『バタイユ、そのパトスとタナトス』(1996年 現代思潮社)、2)『バタイユ入門』(1996年 ちくま新書)、3)『ゴシックとは何か—大聖堂の精神史』(2000年 講談社現代新書、2006年 ちくま学芸文庫より再刊)、4)『バタイユ、聖性の探究者』(2001年 人文書院)、5)『絵画と現代思想』(2003年 新書館)、6)『バタイユ、魅惑する思想』(2005年 白水社)、7)『死と生の遊び、縄文からクレールまで—美術の歴史を体感する』(2006年 魁星出版)、8)『バタイユ』(2009年 青土社)、9)『シュルレアリスム—終わりに革命』(2011年 中公新書)、10)『魂の思想史—近代の異端者とともに』(2013年、筑摩選書)、11)『夜の哲学 — バタイユから生の深淵へ』(2016年 青土社) 訳書：1)『至高性』(バタイユ著、1990年 人文書院、共訳)、2)『ニーチェについて』(バタイユ著、1992年 現代思潮社)、3)『純然たる幸福』(バタイユ著、1994年 人文書院、2009年 ちくま学芸文庫より再刊)、4)『ランスの大聖堂』(バタイユ著、1998年 みすず書房、2005年 ちくま学芸文庫より再刊)、5)『エロティシズム』(バタイユ著、2004年 ちくま学芸文庫)、6)『ニーチェ覚書』(バタイユ著、2012年 ちくま学芸文庫)、7)『ヒロシマの人々の物語』(バタイユ著、2015年、景文館書店)、8)『魔法使いの弟子』(バタイユ著、2015年、景文館書店)、9)『呪われた部分・全般経済学試論—蕩尽』(バタイユ著、2018年、ちくま学芸文庫) 雑誌掲載論文：1)「ロマネスク概念の誕生—ノルマンディー—好古家協会と好奇心の美学」『言語と文化』(2010年第7号)、2)「縄文のコスモロジー」『風の旅人』(2009年第38号と2010年第39号、なお第39号はフランス語でも出版された)、3)「サン・スヴェールの黙示録とジョルジュ・バタイユ」『言語と文化』(2011年第8号) 6)「雑誌『ドキュマン』とバタイユの野心—新たな様相の思想」『言語と文化』(2012年第9号)、4)「『ドキュマン』の魅力—バタイユ没後50年に向けて」『言語と文化』(2012年第9号別冊、2011年11月27日、12月4日、12月11日に本学で行われたシンポジウム発表原稿、翻訳、配布資料など)、5)〈De l'érotisme de Georges Bataille : changement qui va du dualisme du haut et du bas au dualisme de la transcendance et de l'immanence〉『法政大学文学部紀要』(第67号、2013年11月)、6)「存在と観照—バタイユの論考「80日間世界一周」をめぐって」『言語と文化』(第11号、2014年1月)、7)〈Georges Bataille et la pensée apocalyptique—à partir du *Beatus* de Saint-Sever〉『法政大学文学部紀要』(第68号、2014年3月)、8)〈«Rechercher la chance»—l'écriture fragmentaire de Georges Bataille〉『法政大学文学部紀要』(第69号、2014年10月)、9)「ジョルジュ・バタイユと哲学 — 『ドキュマン』の時代へ向けて」『言語と文化』(第12号、2015年1月)、10)〈La guerre et l'expérience intérieure — l'écriture fragmentaire de Georges Bataille (2)〉『法政大学文学部紀要』(第70号、2015年3月)、11)〈Georges Bataille : Le cheminement de l'érotisme〉*Alkemie*, Revue semestrielle de littérature et philosophie, Classiques Garnier, 2015年7月、12)「ゴシックとは何か—地方から都市へ、聖なるものの流入」『日本精神医学史研究』(2016年6月)、13)「神話表現論の系譜 — ニーチェ、バタイユ、ナンシー」『言語と文化』(第14号、2017年1月)、14)「バタイユと「見出された幼年」—インファンティア概念への一視角」『法政哲学』(第13号、2017年5月)、15)「若きバタイユとシュストフの教え—「星の友情」の軌跡」『言語と文化』(第15号、2018年1月) ⑥日本フランス語フランス文学会幹事 (1998年—2000年) ⑦旅行 ⑧自然と芸術は多くを教えてくれる最高の教師です。体験を大切に。⑨金曜日の午後2時から3時までB T 1306の研究室で。



あん どう ゆう き
安 東 祐 希 教授

博士（数学）

①論理学概論、哲学演習（8）、数学特講、集合論（言語と論理3）、論理学研究Ⅰ ②数理論理学、特に証明論 ③日本数学会、Association for Symbolic Logic ④東京工業大学理学部、筑波大学大学院数学研究科を終え、本学（第一教養部のち文学部）に勤務 ⑤ゲンツェンの論理学—基本定理と無矛盾性証明—『法政哲学』第6号（2010）i-xiv、Normal form theorem of natural deduction for modal logic S4『数理解析研究所講究録』1635（2009）13-15 ⑧書いて考えましょう。試行錯誤が大事です。⑨木曜12:40～13:20、木曜2限の授業と同じ教室（教室番号は年度初めに決定）

ない とう あつし
内 藤 淳 教授

博士（法学）

①法哲学、哲学演習（11）、法学Ⅰ・Ⅱ ②法哲学（人権や憲法の基礎についての研究、進化心理学に基づく人間本性の研究）③日本法哲学会、日本人間行動進化学会など ④大阪大学人間科学部・法学部卒業、国際交流基金勤務を経て一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了、2013年より法政大学勤務。⑤著書：『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）、『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）、『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（共著、竹下・角田・市原・桜井編、ミネルヴァ書房、2010年）、『人権論の再構築（講座 人権論の再定位5）』（共著、井上達夫編、法律文化社、2010年）、『夫婦（法文化叢書10）』（共著、屋敷二郎編、国際書院、2012年）、『法思想の水脈』（共著、森村進編、法律文化社、2016年）⑥特になし。⑦昭和プロレス観賞⑧人生はつらく、苦しいものですが、学問は楽しいです。⑨木曜5限（BT1317研究室）



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

日本文学科



さかもと まさる 坂本 勝 教授

文学修士、神奈川県鎌倉市、昭和29年4月24日

①上代文学 ②『古事記』『万葉集』 ③上代文学会、古事記学会など ④昭53年法政大学文学部卒業、昭62年専修大学大学院博士課程単位取得退学 ⑤著書:『古事記の読み方』(岩波新書)、『はじめての日本神話』(ちくまプリマー新書)
論文:「高市皇子挽歌と祭式」(『専修大学文研論集』第7号)、「人麻呂『吉野讃歌』の方法」(『上代文学』第55号)、「高木神論」(『古代文学』第25号)、「大国主神話」(『古代文学』第27号)、「応神記の構想」(『古事記研究大系』第三卷)「祭祀の文法」(『法政大学文学部紀要』1997年)、「近江荒都歌・近江歌」(『柿本人麻呂《全》』笠間書院)など ⑦特になし ⑧日文科の学生なのだから、まず作品を読もう。それも注釈書ベッタリではなく、自分の目で読み、考え、そして調べる。自分の頭から絞り出したものなら、どんな珍説奇説でも皆価値はある。そこからスタートだ。⑨月曜4限

まみや あつし 間宮 厚司 教授

博士(文学)

①ゼミ(昼&夜)・日本言語学概論・日本言語史・特講言語 ②日本古典語学 ③日本語学会・萬葉学会 ④1987年学習院大学大学院博士後期課程中退、鶴見大学文学部専任講師、1988~1994年法政大学文学部兼任講師、1995年法政大学文学部着任 ⑤単著:『万葉難訓歌の研究』(法政大学出版局)、『万葉集の歌を推理する』(文春新書)、『おもろさうしの言語』(笠間書院)、『沖縄古語の深層』(森話社)、『万葉異説』(森話社) ⑦将棋と散歩と落語 ⑧日文は謎解き学科です。研究における調査は根性、発表は勇気。目の前のことを落ち着いて一つずつ片づけければ、道は開けるでしょう。人は人、自分は自分です。人と比べて上か下かではなく、競争相手は過去の自分。⑨金曜日4限(80年館806研究室)



せんの あすか 千野 明日香 教授

文学修士

①中国語 ②昔話の日中比較 ③日本口承文芸学会 ④東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻後期博士課程修了 ⑤『中国のことわざ』大修館書店2010 ⑥近代短歌研究 ⑦陸上競技の試合を見るのが好きです。 ⑧人生は、長いようで短いものです。せいぜい充実して楽しくお過ごしください。 ⑨金曜昼休み・富士見坂1F教授室

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



スティーヴン ネルソン
Steven G. Nelson 教授

芸術学修士

①日本文芸研究ゼミナール7、日本文芸研究特講(11)音楽芸能史、日本文芸研究特講(15)国際日本学。②日本音楽史学 ③東洋音楽学会、仏教文学会、中世文学会、説話文学会、International Council for Traditional Music、Musicological Society of Australia、Society of Asian Music。④University of Sydney B.A. Hons.(音楽学)卒業、東京芸術大学音楽研究科修士課程(音楽学)修了、同大学音楽研究科博士課程(音楽学)単位取得満期退学。上野学園日本音楽資料室研究員、慶応義塾大学・明治学院大学・国際基督教大学などの非常勤講師を経て、2000年京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター助教授に就任。2004年より法政大学文学部日本文学科教授。⑤比較的入手しやすい和文のものに限ると次の通り。「五絃譜新考—主に五絃琵琶の柱制及び調絃について—」(『東洋音楽研究』50、1986年)、「雅楽古譜とその解読における諸問題—主として琵琶譜について—」(岩波講座『日本の音楽・アジアの音楽』第4巻『伝承と記録』、岩波書店、1988年)、「藤原孝道草『式法則用意条々』における講式の音楽構成法」(福島和夫編『中世音楽史論叢』、和泉書院、2001年)、「描かれた楽—日本伝統音楽の歴史的研究における音楽図像学の有用性をめぐって—」(『第25回文化財の保存および修復に関する国際研究集会—日本の楽器—新しい楽器学へむけて』、東京文化財研究所、2003年)、『日本三代実録音楽年表』(共著、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2004年)、「古典文学作品の翻訳—訳者は何を目指すべきか—」(法政大学国際日本学研究所編『国際日本学—ことばとことばを越えるもの—』、2007年)、「英文学になった『源氏物語』—3つの英訳をめぐって—」(『日本文学研究ジャーナル』2、2008年)、「文字譜の歴史—中国から日本へ—」(『仏教音楽に聞く漢字音—梵唄に古韻を探る—』、二松学舎大学21世紀COEプログラム事務局、2009年)、「蘇る平安の音」(神野藤昭夫・多忠輝監修『越境する雅楽文化』、書肆フローラ、2009年)、「工尺譜の起源をめぐって—唐代の文字譜との関係—」(磯水絵編『論集 文学と音楽史—詩歌管絃の世界—』、和泉書院、2013年)、「秘曲尽くし」再現—『文机談』に見える秘曲を聴く—(磯水絵編『今日は一日、方丈記』、新典社、2013年。付録「秘曲尽くし」再現演奏CD監修)、研究ノート『源氏物語』における絃楽器の曲種と調絃について—古楽譜研究者の立場から—(『日本文学誌要』92、2015年)。⑥上野学園大学日本音楽史研究所共同研究員、東京芸術大学非常勤講師。⑦日本古典音楽・芸能鑑賞および演奏(雅楽の楽器、生田流箏、地歌三味線)、料理、昼寝。⑧日本の古典音楽ほど面白い研究分野はないと、私は思っています。音楽史研究を目指したい学生は大歓迎。但し能楽に関しては学科に専門家の伊海先生がいますから、ぜひ伊海ゼミへ。⑨木曜日13:30~14:30・金曜日13:30~15:00、研究室にて。snelson@hosei.ac.jp

なか ざわ け い 教授

政治学士

①日本文章史、日本文芸研究ゼミナール13 ②文芸創作 ③日本文芸家協会会員 ④1983年明治大学政治経済学部卒業、1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第7回野間文芸新人賞受賞 ⑤著書:「海を感じる時」(講談社)、「女ともだち」(河出書房新社)、「楽隊のうさぎ」(新潮社) ⑥日本文芸家協会理事 ⑦演劇、映画、音楽などの鑑賞 ⑧積極的な授業参加をのぞみます。想像力を育てて、創造につなげましょう。⑨木曜日16時50分から18時20分(80年館815研究室)



凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



こあきもと
小秋元

だん
段 教授

博士（文学）

①大学での国語力、ゼミナール5、日本文芸史IBほか ②中世文学、書誌学 ③全国大学国語国文学会、中世文学会、説話文学会、軍記・語り物研究会 ④1990年3月慶應義塾大学文学部卒業、1995年3月慶應義塾大学大学院後期博士課程中退、1995年4月～1998年3月江戸川女子短期大学専任講師、1998年4月本学着任⑤単行書、『増補太平記と古活字版の時代』（新典社、2018年）、『嵯峨本方丈記』（共編、勉誠出版、2016年）、『『太平記』をとらえる』第1～3巻（共著、笠間書院、2014～16年）、『校訂 京大本 太平記』（共編、勉誠出版、2011年）、日本の古典を読む16『太平記』（共著、小学館、2008年）、『太平記・梅松論の研究』（汲古書院、2005年）、『中世聖徳太子伝集成 第五巻 宝物集・拾遺抄・万徳寺本』（共編、勉誠出版、2005年）、日本文学研究論文集成14『平家物語・太平記』（共編、若草書房、1999年）。主要論文、『徒然草寿命院抄』における草稿本と改稿本―鶴見大学図書館蔵本を手がかりに―（『文学・語学』第217号、2016年）、『吾妻鏡』刊本小考（『いくさと物語の中世』汲古書院、2015年）、『源平盛衰記』と『太平記』―説話引用のあり方をめぐって―（『文化現象としての源平盛衰記』笠間書院、2015年）、「古活字版の淵源をめぐる諸問題―所謂キリシタン版起源説を中心に―」（『国際日本学』第8号、2010年）、「要法寺版をめぐる覚書」（『芸文研究』第95号、2008年）、『太平記』巻四古態本文考（『国語と国文学』2008年11月号）、『太平記』の古態をめぐる一考察―巻三十八を中心に―（『中世文学』第53号、2008年）、「古活字版『史記』覚書―学習院大学図書館蔵本を中心に―」（『言語 文化 社会』第6号、2008年）ほか。講演録、『印刷博物館講演録 高野版とはなにか』（2013年）⑥印刷博物館印刷文化学検討委員会委員、中世文学会常任委員、全国大学国語国文学会委員、説話文学会委員 ⑦落語、鉄道 ⑧日文の学生は、在学中に十回は京都へ行きましょう。⑨火曜3限。80年館805号室。

あべ まゆみ
阿部 真弓 教授

博士（文学）

①基礎科目「文学」（リベラルアーツ科目「日本文学と文化L」）、総合科目「日本芸能論」、専門科目「日本文芸学概論」「大学での国語力」「日本文芸史IB」「ゼミナール4」 ②中世文学、日記文学 ③中世文学会、和歌文学会、EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）④1989年3月大阪大学文学部卒業、1998年3月大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、1998年4月～2001年3月大阪大学大学院文学研究科助手、2001年4月～2003年3月法政大学第一教養部専任講師、2003年4月法政大学文学部着任 ⑤『『とはずがたり』の恋―物語る二条―』（『文学』8-5、2007年9月）、『嵯峨のかよひぢ』考―藤原為家の涙―（『日本文学誌要』89、2014年3月）他 ⑦音楽鑑賞、演劇鑑賞 ⑧その道に入らんと思ふ心こそ我身ながらの師匠なりけれ（「利休百首」より） ⑨火曜5限をオフィスアワーとします（研究室：80年館8階804室、連絡先：maya@hosei.ac.jp）。



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



ふじむら こうじ 教授

文学修士

①文学（日本）、文章論、日本文芸史Ⅱ、ゼミナール ②日本の近現代文学、特に戦後の文学。③昭和文学会、近代文学会 ④1998 年法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻博士課程修了、2000 年法政大学第二教養部専任講師、2003 年法政大学文学部に移籍 ⑤近年の論文「＜共苦＞する思想 高橋和巳の宗教性」（国文学 解釈と鑑賞・2009 年 12 月）、「清岡卓行と大連」（『国際日本学研究叢書 14 多文化共生としての日本研究』勉誠出版、2012 年）、「高橋和巳の〈文学〉概念」（『日本文学誌要』2012 年 3 月）「国民文学論争と歴史社会学派」（近藤忠義 人と学問第二集第三集合併号、2012 年 12 月）他 ⑥怪異怪談研究会、現代文藝研究会に所属 ⑦CD（クラシックからポップスまで）、DVD（映画）鑑賞、旅行（沖縄・温泉・秘湯めぐり）、美味しいお酒を飲むこと。⑧大学は、求めようとしめない人には殆ど何も与えてくれませんが、自ら求める人には、実に沢山のことを与えてくれる所です。まず自分から動くこと。そして、友人や先生方との関わりを大切にすること。⑨毎週木曜日 13 時から 17 時。研究室は 80 年館 8 階の 810 号室です。fujimura@hosei.ac.jp

かとう まさよし 教授

博士（文学）

①ゼミナール 3、日本文芸研究特講(2) 中古、古文漢文の基礎、大学での国語力、ゼミナール入門 ②平安時代の物語・和歌 ③中古文学会 ④大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。国文学研究資料館准教授などを経て、2008 年法政大学文学部着任。 ⑤著書：『源氏物語』前後左右』（勉誠出版）、共編書：『紫上系と玉鬘系—成立論のゆくえ—』（勉誠出版）ほか ⑥いろいろな種類の芸術・文化に触れてみてください。⑨月曜 6 限、80 年館 8 階加藤研究室



なか まる のぶ あき 教授

文学修士

①学概論A・B、日本文芸研究ゼミナール 7、大学での国語力 ②近代文学（19 世紀・20 世紀前半）、近代演劇・芸能 ③日本近代文学会、昭和文学会、日本文学協会 ④1986 年 9 月東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程単位修得満期退学、1986 年 10 月～2012 年 3 月まで山梨大学に勤務、2012 年 4 月本学着任 ⑤「文学者の日記 1 池辺三山 1～3」（編集・解説、2001～2003 年 博文館新社）、「新古典文学大系明治編 17 佳人之奇遇」（注釈・共著、2006 年 岩波書店）、「コレクション・モダン都市文化〈第 67 巻〉漫才と落語」（編集・解説、2011 年 ゆまに書房）ほか ⑥日本近代文学会評議員、昭和文学会幹事 ⑦写真・釣り・映画演劇鑑賞などいろいろ ⑧「見る」「聞く」「読む」ことに食欲であって下さい。⑨木曜日 3 限 研究室

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



た な か か ず お
田 中 和 生 教授

経済学士、文学士、富山県、1974年8月4日

①大学での国語力、ゼミナール入門、文章表現論、ゼミナール ②文芸評論、日本近・現代文学 ③三田文学会、日本文芸家協会 ④1998年3月慶応義塾大学経済学部卒業、2000年「欠落を生きる一江藤淳論」で第7回三田文学新人賞受賞、2001年3月慶応義塾大学文学部卒業 ⑤『あの戦場を越えて 日本現代文学論』（講談社、2004年）、『新約太宰治』（講談社、2006年）、『吉本隆明』（アーツアンドクラフツ、2014年）他 ⑥毎日新聞「文芸時評」欄担当 ⑦観劇、寄席 ⑧大学でしか出来ない、人との出会いにどんどん驚きましよう。どんどん驚いているうちに、自分が驚かれるような人になっていきます ⑨月曜日の午後17～18時30分、火曜日の午後13時20分～14時50分

お だ に ま さ の り
尾 谷 昌 則 教授



人間・環境学博士

①日本言語学概論A・B、ゼミナールA・B、大学での国語力 ②日本語の文法論・意味論・語用論、認知言語学 ③日本言語学会、日本語文法学会、日本認知言語学会、日本語用論学会 ④2001年京都大学大学院人間・環境学研究科言語機能論専攻博士後期課程修了、2010年法政大学文学部准教授 ⑤著書：『構文ネットワークと文法 — 認知文法論のアプローチ』（共著：研究社、2011）、論文：1.「接続詞「なので」の出現について」（加藤重広編『日本語語用論フォーラム 1』pp.138-208、ひつじ書房、2015年）2.「装定用法における形容詞並置構文に関する一考察 — 総合的認知と離散的認知の観点から —」（『認知言語学論考』10、pp.105-141、ひつじ書房、2012年）3.「構文の確立と語用論的強化：「全然～ない」の例を中心に」（『日本語用論学会第9回大会発表論文集』pp.17-24、2007年）4.「構文文法の歴史的背景と今後の展望」（『人間情報学研究』11、pp.25-43、2006年）など。⑥特になし。⑦ギター、音楽鑑賞など。⑧大学生のうちに「これだけは誰にも負けない」と誇ることができるものを身につけてください。また、何を勉強するにしても、単なる暗記で満足するのではなく、「これを他者（＝素人）に分かりやすく、面白く、斬新かつ印象的に説明するにはどうすればよいか」を常に考えるようにしてください。⑨月曜日の5校時、80年館の808号室。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



こ ばやし ふみ子 教授

博士（文学）

①法政学への招待、日本文芸研究特講（4）近世B、日本文芸史IB、大学での国語力、ゼミナール入門ほか②日本近世文学・文化 ③日本近世文学会、国際浮世絵学会、日本文学協会ほか④1996年東京大学文学部卒業、2003年同大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退、04年博士（文学）。同年法政大学キャリアデザイン学部専任講師、2011年同文学部准教授、14年同教授。その間、02年

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）、16年ライデン大学地域研究所（LIAS）客員研究員など⑤近年の著書に『大田南畝 江戸に狂歌の花咲かす』（岩波書店、2014年）、共著に『別冊太陽 歌麿決定版』（浅野秀剛監修、平凡社、2016年）、『日本人は日本をどうみてきたか—江戸から見る自意識の変遷』（田中優子編、笠間書院、2015年）、『化物で楽しむ江戸狂歌』（江戸狂歌研究会編、笠間書院、2014年）など。⑥日本近世文学会常任委員・広報企画委員、国際浮世絵学会常任理事・国際委員⑦学生時代から旅行が好きで、インドや東南アジアに行っていましたが、最近の仕事でヨーロッパ・北米ばかりで少し残念。もちろん、親しみ深い中国も韓国、台湾も大好きですが、行動範囲を広げるチャンスを狙っています。⑧何事も鵜呑みにせず、疑ってみるのは大学生の基本的な思考です。日々更新していく世界のなかで自分の頭で考えるには広く社会を眺め、本を読み、大学を飛び出しているいろいろな経験をすること…私自身の自戒もあります。⑨原則として月曜4限をオフィス・アワーとしますが（研究室80年館6階614）、それ以外でもお気軽に fkoba@hosei.ac.jp にメールのうえご相談ください。

い かい たか みつ 伊 海 孝 充 教授

博士（文学）、神奈川県、1972年12月9日

①ゼミナール、日本文芸研究特講など ②能楽研究、日本中世文学研究 ③中世文学会、能楽学会、楽劇学会、芸能史研究会 ④1997年3月法政大学文学部日本文学科卒業、2004年3月法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程満期退学、2007年3月法政大学より博士学位（文学）を受ける、2007年4月～2009年3月法政大学能楽研究所特別研究員 ⑤『切合能の研究』（檜書店、2011年2月）、『玉屋謡本の研究（3）—新出古活字玉屋謡本伝本の紹介—』（『能楽研究』40号、2016年3月）⑥楽劇学会理事（例会）⑦舞台鑑賞 ⑧知識の詰めこみではなく、自分で調べ、考えることの面白さを実感して下さい。⑨火曜日3限



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



えん どう せい き
遠 藤 星 希 専任講師

博士（文学）

①ゼミナールA・B、日本文芸研究特講(4) 漢文A・B、中国文芸史A・Bなど
②中国古典文学・日本漢文学 ③日本中国学会、東方学会、中唐文学会、六朝学会
学会、全国漢文教育学会、法政大学国文学会 ④2001年法政大学文学部日本文学科
卒業、2010年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学、2013年
博士（文学）、2015年青山学院大学文学部助教、2017年法政大学文学部専任講師 ⑤
共著に『杜甫全詩訳注(一)』（下定雅弘、松原朗編、講談社、2016年）、『幕末漢詩人杉浦誠『梅潭詩鈔』の
研究』（市川桃子編著、汲古書院、2015年）、『柳宗元古文注釈一説・伝・騷・弔一』（竹田晃編、新典社、2014
年）、『新井白石『陶情詩集』の研究』（紫陽会編著、汲古書院、2012年）など。論文に「唐代伝奇「定婚店」
をめぐる一考察」（『青山語文』第46号、2016年）、「遺臣のゆれる心——杉浦梅潭における主君の交代」（『明
海大学教養論文集 自然と文化』25号、2014年）、「李賀の詩にみる循環する時間と神仙の死」（『日本中國學
會報』第65集、2013年）、「李賀の詩における時間認識についての一考察——太陽の停止から破壊へ」（『東
方學』第120輯、2010年）など ⑥特になし ⑦映画鑑賞、フットサル、キーボード、漢詩作りなど ⑧大学ほ
ど多種多様な「知」にアクセスできる場所は滅多にありません。入学したということは、そのアクセス権を手
にしたということです。在学中はその権利を思う存分行使し、色々な授業に出て、図書館の色々な本を読み、
教員や友人と積極的に対話をし、自分の可能性を広げて下さい。⑨木曜日2限（80年館809個人研究室）

むら やま りゅう
村 山 龍 助教



博士（文学）

①大学での国語力、日本文芸研究特講など ②日本近代文学（宮澤賢治、1930年
代の文学と思想の関係など） ③日本近代文学会・昭和文学会 ④2008年3月慶應
義塾大学文学部国文学専攻卒業、2016年3月慶應義塾大学大学院文学研究科国
文学専攻後期博士課程満期退学、2017年1月慶應義塾大学より博士学位（文学）を
受ける。 ⑤『千代田図書館蔵「内務省委託本」調査レポート総集編』（共著、千代田図書館、2017年3月）、
「〈詩的アナキズム〉との共鳴 —— 一九二六年前後の宮澤賢治への一考——」（『近代文学合同研究会論集』14
号、2017年12月） ⑥特になし ⑦クラシックギター ⑧テキストを読むという行為は、ただ書かれた文章を読
むだけではありません。様々な角度から読み考える楽しさを学んで下さい。⑨木曜3限

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

英文学科



ゆう き ひで お
結 城 英 雄 教授

文学修士

①シェイクスピア講読・英米文学演習 ②英文学 ③日本ジェイムズ・ジョイス協会
④東京大学大学院（英語・英文学科）修了、1994年4月1日より法政大学文学部教授
⑤論文「ジェイムズ・ジョイスとアイルランド」など ⑥*Dublin James Joyce Journal*,
advisory board ⑦? ⑧才能は努力かも ⑨水・木曜日9時～10時（研究室）。

みや かわ ただし
宮 川 雅 教授



文学修士

①「米文学史」「英米文学講義Ⅰ」「英米文学特殊講義Ⅰ」「英米文学演習
(1)」「2年次演習(1)」、「英米文学演習第二」「Fiction演習」②アメリカ
文学 ③日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本フォークナー協会、日
本ポー学会 ④佐渡生まれ、東京育ち、所沢在住。浦和高校卒業、東京外
国語大学卒業、東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専門課程修士課程修了。博士課程中退、1988年
4月法政大学文学部英文学科専任講師、1991年4月助教授、1997年4月教授 ⑤「生命の木の草の葉の 詩人
ウォルト・ホイットマン」（1985年7月、『ろん』）、「TEXTURE OF LETTERS—『アブサロム、アブサロム!』
の余白に—」（1985年7月、『ろん』）、「エマソンと三分説の伝統または宗教という名を使わない宗教」（1986
年3月、『ストラータ』）、「Poe's Hermetic Philosophy: An Interpretation of 'The Island of the Fay'」
(1987年2月、『ストラータ』）、「ウィリアム・ブレイカー『ベデカー・ランド——トマス・ピンチョンと旅』
(1987年9月、『ユリイカ』、翻訳)、「追憶の中の人々——『失われた時を求めて』のモデルたち」（1987年
12月、『ユリイカ』、共編）、「Poeのmaterialism について」（1988年9月、日本アメリカ文学会東京支部19
世紀散文分科会、口頭発表）、「スーザン・ソントグ『今の私たちの生き方』（1989年6月、『スイッチ』、翻
訳）、「ポーの宇宙論と錬金術（一）序章 展望 — 三分説の視点から—」（1990年3月、『法政大学文学部
紀要』）、「ゲイル・グリーン&コッペリア・カーン編『差異のつくり方——フェミニズム文学批評』（1990
年6月、勁草書房、共訳）、「チャールズ・ハワード・ヒントンの『科学的ロマンス集』（1990年12月、国書刊
行会、翻訳）、「ヒントンの——人と作品』（1990年12月、『パベルの図書館』月報）、「橋が好き?」（1991年2
月、『東京人』）、「ポーの奇行、奇言、奇癖」（1991年7月、『鳩よ!』）、「コリン・ウィルソン『ボルターガ
イスト』（1991年10月、青土社、翻訳）、「緋文字、植物、錬金術——*The Scarlet Letter* について」（1991
年10月、日本アメリカ文学会第30回全国大会、口頭発表）、「トリコトミー」（1991年11月、『ユリイカ』）、「
フレドリック・ジェイムソン他『Any ONE』（1992年5月、福武書店、共訳）、「パトリック・マグラア&ブラ
ッドフォード・モロー編『幻想展覧会Ⅱ——ニュー・ゴシック短篇集』（1992年8月、福武書店、共訳）、「ア
メリカン・ルネッサンスと植物—世界軸の表象を中心に、ホーソー、ホイットマン、ソロー、ポーたち
における根や葉をめぐる—」（1993年9月、日本アメリカ文学会東京支部全体会、口頭発表）、「ポーの宇
宙論と錬金術（二）第一章 宇宙論とアイデンティティーの問題」（1994年3月、『紀要』）、「リーダーズブ
ラス』（1994年6月、研究社、項目執筆）、「大衆文学・高級文学・オカルト文学——アメリカ文学とオカル
ト」（1995年11月、法政英文学会、在外研究帰国報告）、「ポーの宇宙論と錬金術（三）第二章 錬金術（そ
の一）」（1996年3月、『紀要』）、「高橋康也編『世界文学101物語』（1996年7月、新書館、項目執筆）、「ポー
の宇宙論と錬金術（四）第二章 錬金術（その二）」（1997年3月、『紀要』）、「『トマス・ド・クインシー著
作集2』（1998年2月、国書刊行会、共訳）、「ポーの宇宙論と錬金術（五）」（1998年3月、『紀要』）、「ポーの

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

宇宙論と錬金術（六）（七）」（1999年3月、『紀要』）、亀井俊介編『アメリカ文化事典』（1999年9月、研究社、項目執筆）、樺山紘一編『世界の旅行記101』（1999年10月、新書館、項目執筆）、「アメリカ文学と幽閉」（1999年10月、日本アメリカ文学学会全国大会、シンポジウム講師）、「ポーの宇宙論と錬金術（八）」（2000年3月、『紀要』）、「フォークナーとゴシック」（2000年10月、日本フォークナー協会、シンポジウム講師）、「アメリカ文学とオカルト—歴史的スケッチ（1920年代まで）—」（2001年3月、『紀要』）、「フォークナーとゴシック的空間（時間そして言語）意識について」（2001年4月、『フォークナー研究』）、「「ベレナイシイ」におけるポーの形而上的パロディー」（国重純二編『アメリカ文学ミレニアム』所収、2001年12月、南雲堂）、「辞書なんかのはなし（その1）」（2003年3月『スマイル』）、「ポーの宇宙論と錬金術（九）」（2004年3月『紀要』）、「辞書なんかのはなし（その2）」（2004年3月『スマイル』）、「Ormond におけるピクチャレスクな意匠をめぐる」（2005年3月『英文學誌』）、「ポーの宇宙論と錬金術（十）」（2005年3月『紀要』）、「Re：Ripの妻はいつ死んだのか？」（2005年9月『紀要』）、「上田和夫ほか編『20世紀英語文学辞典』（2005年11月、研究社、項目執筆）、「疑似科学と科学の境」（八木敏雄・巽孝之編『エドガー・アラン・ポーの世紀』所収、2009年6月）、「ポー作品のコンコードダンス」（2011年9月、ポー学会『Newsletter』、リチャード・コプリー「ポーとの冒険、ホーソーンの冒険」（『アメリカン・ルネサンス——批評の新生』所収、2013年10月、開文社、翻訳）、「Cacotype——言葉の影、または引用について—Charles Reade, “Peg Woffington” の余白に」（2016年3月『英文學誌』）、「Wot’s the hodds so long as you’re ‘appy——いいじゃないの幸せならば、または Web の効用について—Jean Webster, Daddy-Long-Legs の余白に」（2017年3月『英文學誌』）、「ポーと（疑似）科学」（2017年9月、日本ポー学会、シンポジウム講師）⑥日本ポー学会事務局長 ⑦酒、古本探し、隠密ブログ ⑧本を読んで友と語ろう ⑨E-mail：miyab@hosei.ac.jp. 月曜日12：40～13：40に80年館6階の601研究室



しい な み ち 教授
椎 名 美 智

Ph. D (Linguistics)

①英語学演習、英語学概論、社会言語学 ②文体論、社会言語学、語用論、コミュニケーション論、翻訳 ③日本英語学会、日本英語コーパス学会、日本語用論学会、国際文体論学会、国際語用論学会など ④お茶の水女子大学卒業、エジンバラ大学大学院修士課程修了、お茶の水女子大学大学院博士課程満期退学、ランカスター大学大学院博士課程修了。昭和女子大学専任講師、駿河台大学専任講師、1994年4月法政大学に。⑤論文では文体論、文学理論、社会言語学、歴史語用論などを扱っています。論文には、「Stylistics in Teaching Literature」, 「読者反応批評の可能性—W. イーザーを巡って」、 「社会分析の再構築とは何か」、 「カルチュラル・スタディーズと言語研究」、 「清潔というイデオロギー」、 「歴史語用論における文法化と語用化」、 「歴史語用論の新展開：方法と課題」などがあります。翻訳書には、D. C. ホイ編『フーコー、批判的読解』（国文社）、J. ギャロップ『ラカンを読む』（岩波書店）、E. エイベルソン『淑女が盗みにはしるとき』（国文社）、R. ロサルド『文化と真実—社会分析の再構築』（日本エディタースクール出版部）、S. ホイ『清潔文化の誕生』（紀伊國屋書店）、R. ウィリアムズ『キーワード辞典』（平凡社）、F. ジェイムソン『目に見えるものの署名』（法政大学出版局）などの理論書があります。最近の共編著には『歴史語用論入門』（大修館）、『歴史語用論の世界』（ひつじ書房）があります。新しい論文は、『語用論研究法ガイドブック』（2016年12月）『日本語語用論フォーラム2』（2017年12月）（ひつじ書房）に載っています。⑥リコーダー・バンド『スリー・グレイセス』での音楽活動 ⑦ピアノ、ヴァイオリン、ケーキ作り ⑧Gather roses while you may. ⑨今年度は国内研究のためO. H. はありません。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

とねがわ ま き 教授
利根川 真 紀



文学修士、MA

①English 1、English 3、英米文学演習 ②アメリカ文学 ③日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本フォークナー協会、MLA ④米国インディアナ大学大学院修士課程修了、学習院大学大学院博士課程単位取得満期退学、法政大学第一教養部助教授を経て、2003年より現職 ⑤論文：「白人娘たちの「物語記憶」——ミンロズ・グイン、キャスリン・ストケット、ハーバー・リーと公民権運動」『言語と文化』(2018年)、「オコナーの"The Geranium"モチーフへの取り組み——南部娘にとってのホームと黒人」『言語と文化』(2016年)、「「あたしはルシネル・クレイター、娘もルシネル・クレイター」——フラナリー・オコナーにおける娘として書く行為」『言語と文化』(2012年)、「言葉もなく進み出て、私は両腕を差し出した」——グラスゴウの黒人乳母への讃辞」『言語と文化』(2010年)、「トウの茂みのそば、水車場の近くに」——キャザー『サフィーラと奴隷娘』の子守唄」『言語と文化』(2009年)、「長い春と夏に犯した数々の罪が一つの罪悪感に溶け合って」——カースン・マッカラズと黒人の母たち」『言語と文化』(2008年)、「娘にとっての南部——エリザベス・スペンサーの「暮れがた」」『英語青年』(2004年) 他。編訳書：V.ウルフほか『女たちの時間——レズビアン短編小説集』(平凡社、1998年)。共訳書：ドイル、メルヴィルほか『クィア短編小説集』(平凡社、2016年)、レントリッキア編『続：現代批評理論』(平凡社、2001年) 他。 ⑦ガーデニング、クラシック音楽 ⑧卒業するまでにそれぞれ好きな作家や作品に出会えるといいと思います。⑨金曜 12:50-13:30 (BT 1404 研究室)



につ ちゅう しず お 教授
日 中 鎮 朗

文学修士

①ドイツ語、総合科目②ドイツ文学、比較文学・比較文化 ③日本独文学会、日本比較文学会、国際異文化学会、日本英語文化学会など ④東京大学大学院人文科学研究科独語独文学博士後期課程単位取得満期退学、立正大学助教授、1994年 法政大学第一教養部助教授、教授を経て、2003年4月より現職 ⑤著書：『英語文化研究』(2013年 成美堂、共著)、『英米文学の風景』(2012年 文化書房博文社、共著)、『英米文学への誘い』(2008年 文化書房博文社、共著)、『異文化のディスコース』(2002年 文化書房博文社、共著)、『異文化の諸相』(1999年 朝日出版社、共著) 論文：「歴史的、社会的、文学的ファム・ファタール像の変遷—読者志向性・作者・『マノン・レスコー』—」(2017年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第14号)、「テクノロジー・文学研究・Web社会(2)—新しい文学研究2.0を切り開く地平に向けて—」(2016年 法政大学英文学会編『英文学誌』第59号)、「近代精神におけるファム・ファタールの新しい形—ヴェーデキントの『ルル』と19世紀末—」(2016年 成城大学共通教育研究センター編「成城大学共通教育論集」第8号)、「19世紀ヨーロッパ社会における女性の性の排除構造—『カルメン』・Femme fatale・女性労働者階級」(2016年 法政大学文学部編「法政大学文学部紀要」第72号)、「テクノロジー・文学研究・Web社会(1)—新しい文学研究2.0を切り開く地平に向けて—」(2016年 法政大学英文学会編『英文学誌』第58号)、「噂の機能と内的ユートピア—『最後の物たちの国で』におけるディストピアと疑似ユートピア—」(2014年 国際異文化学会編『異文化研究10』)、「ポール・オースターとフランツ・カフカにおける〈落魄〉・〈偶然〉・〈侵入〉(2)」(2013年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第10号)、「ポール・オースターとフランツ・カフカにおける〈落魄〉・〈偶然〉・〈侵入〉(1)」(2012年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第9号)「カフカ 心理と身体との地平」(2004年 国際異文化学会編『異文化研究1』)、「ファム・ファタールの輪郭と隠された物語—キーツの *La Belle Dame sans Merci. A Ballad.* の肖像—」(2015年 法政大学英文学会編『英文学誌』第57号) 訳書：ヴォルフガング・イーザー『虚構と想像力』(2007年 法政大学出版局、共訳)、ボートー・シュトラウス『住む まどろむ 嘘をつく』(1998年 りぶらりあ選書、法政大学出版局) ⑥国際異文化学会理事、

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

日本英語文化学会理事⑧様々な国やジャンルの文学・芸術を知れば、きっと面白い発見があります。⑨本年度は国内研修のため不在となります。

いし かわ きよし
石 川 潔 教授



博士（文学）・PhD、東京都、1965年10月25日

①言語学演習 (1) A・B、言語学講義 IA・B、情報科学実習 I (fコース) など

②統語論、意味論、音声学、心理言語学 ③日本認知科学会、日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会、日本言語情報学会、日本音響学会、など

④早稲田大学（哲学、学士）、東京大学（英語英文学、修士・博士）、University

of California, Santa Cruz (Linguistics、フルブライト奨学生)、University of Edinburgh (Theoretical & Applied Linguistics, PhD) ; 1996年4月より法政大学専任講師、1999年4月より助教授、2004年4月より教授 ⑤著書 : *A Network Theory of Reference*. (Indiana University Linguistics Club Publications, 1998) ; 共編 : *Proceedings of The 18th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation*. (2004)、*Proceedings of The 24th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation*. (2010) ; 論文 : Agreement Target Situation. (*Language, Information and Computation: Proc. of the PACLIC 10*, City University of Hong Kong, 1995)、Individuation and Reasoning. (*Logic, Language and Computation, Vol. 1*, CSLI Publications/Cambridge University Press, 1996)、On Plural Anaphora. (*Language, Information and Computation: Proc. of PACLIC 12*, Chinese and Oriental Languages Information Processing Society, Singapore, 1998)、Empty Category and the Effect of Teaching in Sentence Processing. (*Language, Information and Computation: Proc. of PACLIC 17*, COLIPS Publications, Singapore, 2003 ; 共著)、An Adjacency Constraint on Argument Selection. (*Proc. of PACLIC 18*, 2004 ; 共著)、Temporal Cognition and Activities by Situated Agents. (*English Linguistics*, 22, 2005)、An Activation-based Sentence Processing Model of English. (*Proc. of PACLIC 20*, Huazhong Normal University, China, 2006 ; 共著)、「状態述語化と従属節時制の解釈」(『日本語文法』10, 2010 ; 共著)、The bi-directionality and the graded nature of aspectual coercion: An eye-tracking study. (IEICE-TL 2016-20、電子情報通信学会 ; 共著)、「並列処理の単位としての音素と音節」(『現代音韻論の動向』、開拓社、2016)、Mora-based control for the length effect: A self-paced reading study in Japanese. (IEICE-TL 2017-25、電子情報通信学会 ; 共著) など ; その他 : "A Memory-based Account of Some Linear Order Effects in English." (*The 5th International Forum on Language, Brain, and Cognition / Natural Language in Computer and Brain Sciences: Toward a Unified View*, 仙台、2005 ; 共著・共同発表) など⑥ (財) 新世代コンピュータ技術開発機構 PSG-WG (オブザーバ、1990-1992)、Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (Programme Committee 1996, 1997, 2001, 2002, 2003, 2005, 2007, 2008, 2009; Organizing Committee 2000; Organizing Co-Chair, 2004; a Program Chair 2010)、日本認知科学会 (大会論文査読 2002, 2003) ; *Journal of Linguistics* (論文査読、2016) ; 日本英語学会 (評議員、2007年4月～) など ⑦ 音楽、夜中の街歩き、ほか ⑧ 批判なくして進歩なし。URL は <http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/> ⑨月曜6限、80年館 901号室

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



おお さわ
大 沢 ふよう 教授

Ph.D (Linguistics) 、石川県

①担当科目：英語史、英語学演習、2年次演習、英語学概論B、英語学講義 ②現在の専門分野：理論言語学（歴史言語学）③所属学会・団体：日本英語学会、日本言語学会、日本英文学会、近代英語協会 ④略歴：東京外国語大学卒業、津田塾大学大学院修士課程修了、同博士課程単位取得満期退学、ロンドン大学（University College）大学院音声・言語学科修士課程・博士課程修了、東海大学教授を経て、法政大学に ⑤業績：著書：『歴史的にさぐる現代の英文法』（大修館、共著）『英語辞書の比較と分析第5集』（研究社、共著）『文法化—新たな展開—』（英潮社、共著）論文：“Syntactic Parallels between Ontogeny and Phylogeny” Lingua vol.113.1, 2003, “The Rise of IPs in the History of English” Historical Linguistics 2001, Amsterdam, John Benjamins社, 2003, “The Emergence of DP from a Perspective of Ontogeny and Phylogeny: Correlation between DP, TP and Aspect in Old English and First Language Acquisition”, Nominal Determination: Typology, Context Constraints, and Historical Emergence. Amsterdam, John Benjamins社, 2007 ⑥学外での活動：日本英語学会評議員・日本英文学会大会準備委員・近代英語協会（理事）を歴任 ⑦趣味：料理、水泳、旅行、そして下手なピアノ ⑧何かを始めるのに、遅すぎるということはありません。ただ、今日、始めない人は、明日になっても多分、始めることはできないでしょう。青臭いくらい、真正面から物事に取り組んでください ⑨火曜日 4時限目、場所：80年館 6階 619研究室

やま した
山 下 あつし
敦 教授

文学修士



①ドイツ語・ドイツの文学・比較文学 ②ドイツ語圏の文学と芸術 ③日本独文学会、日本独文学会中国四国支部 ④1978年東京大学文学部卒業、1981年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、1981年東京大学文学部助手、1984年岡山大学教養部講師、1988年共立女子大学文芸学部専任講師、2002年同教授、2010年法政大学文学部教授 ⑤論文：1.『喧騒の世界、ルナパーク』— ジョージ・グロスにおける街のイメージ（日本独文学会中国四国支部『ドイツ文学論集』1989年11月）2.「ブラジル音楽の“街角”」（共立女子大学文学芸術研究所『文学芸術』1991年7月）3.「世紀末ウィーンのデカダンスとは」（共立女子大学文学芸術研究所『研究叢書』1993年3月）4.「カエターノ・ヴェローゾの詞の世界 — ブラジル文化の一断面」（共立女子大学文学芸術研究所『文学芸術』1994年7月）5.「シュテファン・ツヴァイクの『ブラジル論』」（日本独文学会中国四国支部『ドイツ文学論集』1995年10月）6.「ミロ・ドールの見た中欧の夢」（『共立女子大学文芸学部紀要』1999年1月）7.「ヘルダーリンの詩における夜明け — 詩的精神についての解釈付き」（共立女子大学総合文化研究所神田分室『文学芸術』2000年7月）8.「アドルフ・ロースの感性 — ウィーン世紀末建築家の内包した現代感覚と装飾 - 付：《翻訳》アドルフ・ロース『装飾と犯罪』」（共立女子大学総合文化研究所神田分室『研究叢書』2001年2月）9.「凝固した絵画空間 — グスタフ・クリムトの肖像画 —」（『平成12年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書』平成16年度9月）10.「海の形象 — ゲーテがシチリアで見たもの —」（法政大学英文学会『英文学誌』第57号 2015年3月） 翻訳：1.ヴァティカン教皇庁立図書館本ファクシミリ版「サンドロ・ボッティチェリ ダンテ『神曲』の挿絵」解説書（共訳、1986年12月、岩波書店）2.【「静物画の秘密展」カタログ I～XI章解説】「ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展」（2008年7月-9月 国立新美術館で開催）カタログ（2008年7月、東京新聞発行）⑦散歩・歌舞伎・世界の大衆音楽 ⑧大学において外国語を学ぶことは、世界には日常的に接しているもの以外に多種多様な文化が、現実に存在しているという事実を身近に感じ、自分たちの文化を相対的に捉える視線を養うための入り口となります。また、文学や芸術など人間の精神的遺産に接することは、最終的には私たちが生きる現在を考えることにつながります。常に、時空を超えた人間の精神的所産と身近な文化現象との結びつきを感じとれる想像力を養ってください。⑨木曜日 17:00-18:00

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



たん じ あい 教授

文学修士

①「基礎ゼミ」「二年代演習」「英文学史」「英米文学講義」「文学研究方法論」「英米文学演習」②イギリス文学③日本英文学会④札幌北高等学校卒業、東京大学文学部卒業、東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専門課程修士課程修了。博士課程中退、1980年4月北海道大学文学部専任講師、1984年7月助教授、1985年4月埼玉大学教養学部助教授、1989年4月東京大学教養学部助教授、1996年4月東京大学大学院総合文化研究科助教授、1998年4月教授、2012年4月法政大学文学教授、2013年6月東京大学名誉教授⑤『神を殺した男 ダーウィン革命と世紀末』（1994年4月、講談社）、『モダニズムの詩学 解体と創造』（1994年5月、みすず書房）、『ドラキュラの世紀末 ヴィクトリア朝外国恐怖症の文化研究』（1997年11月、東京大学出版会）、『知の教科書 批評理論』（2003年10月、講談社、共編著）、『英米小説の読み方』（2009年2月、岩波書店、共著）、『放送大学教材 文学研究への招待』（2018年3月、放送大学協会、共編著）。ジュリアン・バーンズ『10 1/2 章で書かれた世界の歴史』（1991年6月、白水社、共訳）、ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』（1998年7月、集英社、翻訳）、ブラム・ストーカー『完訳詳注版 ドラキュラ』（2000年4月、水声社、共訳）、ブレンダ・マドクス『ノーラ ジェイムズ・ジョイスの妻になった女』（2001年6月、集英社、共訳）⑥日本英文学会事務局長、理事、会長⑦旅行、温泉、人との談笑、飲食、映画、音楽⑧たゆまぬ努力を重ね、自分の潜在的可能性を開花させ、魅力的な人間になってください。⑨火曜日15時半～16時半。80年館丹治研究室。準備等の関係上、質問相談内容等を事前にメールで連絡してください。

かわ さき たか こ 教授
Ph. D. (Linguistics)



①言語学演習、応用言語学、英語音声学②理論言語学（音韻論、言語習得理論）③日本第二言語習得学会、日本認知科学会、日本音韻論学会、International Speech Communication Association④関西学院大学文学部英米文学科卒業、George Mason University, Dept. of English M. A.; McGill University, Dept. of Linguistics Ph. D. 立教大学嘱託講師を経て2000年法政大学文学部着任⑤“SV, [voice] and Coda Constraints” (*Formal Linguistic Society of Mid-America IV Proceedings*. Indiana University Linguistic Club, 1995), Voicing and Coda Constraints. (*McGill University Working Papers in Linguistics*. Vol. 11 1996), “Effects of Instruction on Second Language Acquisition of the Japanese Long Distance Reflexive Zibun” (*Canadian Journal of Linguistics* 41, 1996, 共著), “The Researcher Gave the Subject a Test about Himself: Problems of Ambiguity and Preference in the Investigation of Reflexive Binding” (*Language Learning* 47, 1997, 共著), *Coda Constraints: Optimizing Representations* (Ph. D. Dissertation. McGill University, Montreal, Canada. 1998), “Spreading and Final Exceptionality” (*『音韻研究』* 第3号 開拓社 2000), “Visual Factors in the Perception of L2 Text Difficulty.” (*『英文学誌』* 第49号 2007, 共著), 「L2 英語摩擦音の知覚における高周波数帯域情報の利用」(*『法政大学文学部紀要』* 第65号, 2012, 共著), 「L2 知覚における抑制効果-類似度判定タスクによる検証」(*『日本認知科学会第25回大会発表論文集』* 2014, 共著), “Persistent Sensitivity to Acoustic Detail in Non-Native Segments: The Perception of English Interdentals by Japanese Listeners.” (*English Language and Literature*, 54. 2014, 共著), 『第二言語習得キータム事典』(開拓社 2017, 共訳), 「L2 音韻カテゴリーの構築過程における音響的手がかりの利用と抑制-日本語母語話者による英語摩擦音習得-」(*『名詞句と音声・音韻の習得 (第二言語習得モノグラフシリーズ)』* くろしお出版 2017, 共著)他⑦読書、手ぬぐい・文房具収集、ドラクエ⑧求めよ、さらば与えられん。叩けよ、されば開かれん。⑨2018年度のオフィスアワーは、木曜3時間目。研究室は80年館602号室でございます。

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



ブライアン・ウィスナー 教授

Ph.D. (応用言語学)

①学部：英語教育学演習、英語表現演習 (Speaking / Writing)、2 年次演習。
大学院：理論言語学・認知科学 A、言語科学方法論 B ②第二言語習得・英語教育学 ③大学英語教育学会、全国語学教育学会、外国語教育メディア学会
④学歴：オハイオ大学、M.A.、テンブル大学、Ph.D. 職歴：2008 年より法政大学専任講師、2011 年より准教授、2018 年より現職 ⑤著書：「会話リスニングを TOEIC テストで」(鶴見書店、2005 年、共著)、「新・英検 2 級サクセスコース」(金星堂、2007 年、共著)、「TOEIC TEST 総合レッスン」(鶴見書店、2007 年、共著)、「英語教育学の実証的研究法入門」(研究社、2012 年、共著)、「MY WAY: English Communication I」(三省堂、2013 年、共著)、「MY WAY: English Expression I」(三省堂、2013 年、共著)、「MY WAY: English Communication II」(三省堂、2014 年、共著)、「MY WAY: English Expression II」(三省堂、2014 年、共著)、「MY WAY: English Communication III」(三省堂、2015 年、共著)、「英検 2 級 Success Course: リニューアル問題対応」(金星堂、2017 年、共著)、「MY WAY: English Communication I New Edition」(三省堂、2017 年、共著)、「MY WAY: English Expression I New Edition」(三省堂、2017 年、共著)、「英検 2 級 マスターコース: リニューアル問題対応」(金星堂、2018 年、共著)。論文：“Developing English Typing Software Based on the JACET 8000 Word List” (LET 2004 Conference Proceedings, 2004 年、共著)、“Benefits of Going Multimedia” (JALT 2004 Conference Proceedings, 2005 年)、“Acquisition of the Easy-to-V Structure” (中部大学国際関係学部紀要第 35 号、2005 年)、“PASEO-A Model Pre-Academic Language Program” (中部大学教育研究第 5 号、2006 年、共著)、“Classical Item Analysis of an In-House English Placement Test: Issues in Appropriate Item Difficulty and Placement Precision” (JACET 中部支部紀要第 5 号、2007 年、共著)、「古典的項目分析とラッシュモデリングを用いた英語熟達度テストの分析」(高崎経済大学論集 第 50 巻第 3・4 合併号、2008 年、共著)、“An Analysis of the Oxford Placement Test and the Michigan English Placement Test as L2 Proficiency Tests” (法政大学文学部紀要 第 58 号、2009 年、共著)、“Anxiety, Fluency, and Proficiency in L2 Writing” (英文学誌 第 52 号、2010 年、共著)、“Applying the Rasch Model in the Validation of a Test of Metalinguistic Knowledge” (法政大学文学部紀要 第 61 号、2010 年、共著)、“Validating a Second-Language Oral Skills Self-Assessment Instrument” (JACET 中部支部紀要 9 号、2011 年、共著)、“L2 Tasks and Educational Contexts in Japan: A Qualitative Analysis of Japanese High School English Teachers' Beliefs” (JABAET Journal 16、2012 年、共著)、“Dimensionality in the Measurement of the Two-Axis Model of Learning Motivation” (法政大学文学部紀要 第 65 号、2012 年、共著)、“Reexamining Japanese EFL Learners' Demotivating Factors” (英文学誌 第 55 号、2013 年、共著)、他 ⑦コーヒーを飲むこと、読書 ⑧ Study hard! ⑨金曜日 1 限 80 年館 801 研究室

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

やま さき あき こ
山 崎 暁 子 准教授



学術修士、MA in Children's Literature

①English 2、Cultures of the English-Speaking World、入門英語、英米文学演習 ②イギリス児童文学 ③日本イギリス児童文学会、International Research Society for Children's Literature ④東京大学卒業、東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、博士課程単位取得満期退学、サリー大学ローハンプトン校MA修了、埼玉工業大学准教授を経て、2014年4月より現職 ⑤論文：“Why Change Names? On the Translation of Children's Books” (*Children's Literature in Education* Vol. 33, No. 1, 2002年)、「物語の限界を超えて—ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作品における求心力と遠心力」(『ネバーランド』Vol. 2, 2005年)、「Otherness Through Elves: Into Elfland and Beyond” (*Children's Literature in Education* Vol. 39, No. 4, 2008年)、「物語における笑い—ダイアナ・ウィン・ジョーンズと宮藤官九郎」(『埼玉工業大学人間社会学部紀要』第9号、2011年)、「アニメ映画『ハウルの動く城』を通して見る小説*Howl's Moving Castle*」(『英文學誌』第58号、2016年) 他。訳書：ポール・オースター編『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』(共訳、新潮社、2005年)、マルカム・ラウリー『火山の下』(共訳、白水社、2010年)、ポール・オースター、J. M. クッツェー『ヒア・アンド・ナウ 往復書簡2008-2011』(共訳、岩波書店、2014年)、ジャネット・フレイム『潟湖』(白水社、2014年)、『アーサーとジョージ』(共訳、中央公論新社、2016年) ⑦映画や演劇の鑑賞、読書 ⑧現代では即効性が重視される傾向がありますが、学問とは結果が出るまでに時間のかかるものです。大学では一生学び続けるための土台となる技法やものの見方を身につけてください。⑨月曜3限 (BT1305研究室)



こ じま なお と
小 島 尚 人 助教

修士(学術)

①英米文化概論、英米文学特殊講義、英米文学演習、Comparative Culture、二年次演習、基礎ゼミ ②アメリカ文学 ③日本アメリカ文学会、アメリカ学会、日本英文学会、Modern Language Association ④東京大学教養学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、同博士後期課程単位取得満期退学、ニューヨーク州立大学オールバニ校東アジア研究科非常勤講師を経て2016年4月より法政大学文学部英文学科助教 ⑤「ギルバート・オズモンドはどこ出身か——*The Portrait of a Lady*と南北和解のナラティブ」(『英文學誌』第60号、2018年)、「アメリカ作家の自己形成——ヘンリー・ジェイムズのヨーロッパ旅行と初期紀行文」(『英文學誌』第59号、2017年)、“What Mary Knew: The Location of the Reader in Charles Brockden Brown's *Edgar Huntly*” (『ストラータ』第26号、2013年)、「「視点」の創出と初期ヘンリー・ジェイムズの自己形成 1869-1870」(『言語態』第11号、2011年)、「生きるジャック／死ぬマーティン——Jack London の *Martin Eden* における「作者」の位置」(『アメリカ太平洋研究』第10号、2010年)、“The Author's Metamorphosis: The Location of 'the Author' in John Barth's *LETTERS*” (『言語情報科学』第8号、2010年) ⑦動物園に行くこと ⑧ムチャや背伸びから生まれる本物もきっとある ⑨火曜 13:00~14:30、一口坂校舎 904 号室

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

はん べい ちゅん
韓 沛 君 助教



博士（国際関係学）

①Cross-cultural Studies, Academic Writing/Writing, Speaking. ②移民と多文化共生研究、英語グローバル教育、比較社会文化論、異文化コミュニケーション研究、国際関係及び東アジア地域研究 ③学術英語学会, アジア太平洋国際学会, Association for Asian Studies The International Academic Forum, The Asiatic Society of Japan, International Political Science Association など ④国立台湾大学卒業、米国ジョージタウン大学院修士課程修了、早稲田大学国際学術院国際関係学博士後課程修了、中国雲南大学国際関係研究科訪問研究員、明治学院大学英文学科、及び武蔵大学グローバル教育センターの非常勤講師を経て、2017年4月より現職 ⑤* “A Comparative Study on Education Systems and Peer Relations in American and Japanese Schools” (Journal of Asia-Pacific Studies, No.30 pp.239-255, 2018年1月)、* 「レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド」の第10章（共著、大修館書店2015年12月）、* “A Comparative Study on Immigration Policies in East Asia: Japan and South Korea” (International Association for Asia-Pacific Studies Vol.5 pp.226-235; 2014年12月)、* “Hybridized Identities, Perplexed Inbetweenness—an Empirical Study on the Taiwanese Diaspora in Contemporary Japan” (Transactions of the Asiatic Society of Japan Vol.5-1, pp.123-129 (Tokyo: Subaru Ltd.); 2009年12月)、* “Hidden inbetweenness: an Exploration of Taiwanese Transnational Identity in Contemporary Japan” (The Journal of Asian Ethnicity, Vol.8 No.2, pp.121-132. (London: Routledge Press.) 2008年6月) ⑥国際学会の英語論文審査員、子供の教育 ⑦コンサートや演劇の鑑賞、ダンス ⑧学生生活を悔いなく、精一杯過ごしてください。若くて可能性に富む皆さんだからこそ、基礎的な力を身につけつつ、自由な発想で豊かに物事を捉えられるようになっていただきたいです。進歩したいという強い気持ちを持って、仲間と共にがんばれば、必ず結実します。一緒に頑張りましょう！ ⑨月曜日15時～16時（一口坂校舎、704研究室）

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

史 学 科



後 藤 篤 子 教授

文学修士

①「西洋史概説Ⅰ・Ⅱ」「西洋前近代史演習」「西洋古代史」「西洋史特講Ⅰ」「西洋史外書講読Ⅰ」②ローマ史（特に帝政後期）③歴史学会、史学会、日本西洋古典学会、Society for the Promotion of Roman Studies（イギリス）、他 ④1975年3月東京教育大学文学部史学科卒業、1978年3月東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修士課程修了、1984年3月同第1種博士課程単位取得満期退学、1987年3月東洋英和女学院短期大学国際教養科専任講師就任（～1989年3月）、1989年4月法政大学文学部（史学科）助教授、1999年4月教授 ⑤論文：「シドニウス・アポリナリスにおける“ローマニズム”」『史学雑誌』91-10（1982年10月）、「ローマ帝国の『キリスト教化』をめぐって—ローマン・アフリカの場合—」『法政史学』44（1992年）他。編訳：ピーター・ブラウン『古代から中世へ』山川出版社、2006年。共編訳：『西洋古代史料集』（東京大学出版会、1987年）。共訳：エドワード・ギボン著『図説ローマ帝国衰亡史』東京書籍、2004年。共著：『世界歴史大系・フランス史1』山川出版社、1995年。『西洋古代史研究入門』（伊藤貞夫編）東京大学出版会、1997年。『岩波講座・世界歴史7』岩波書店、1998年。『地中海世界史1』青木書店、2000年。歴史学研究会編『世界史史料1 古代オリエントと地中海世界』岩波書店、2012年、他 ⑦数独パズル ⑧大学生活が充実したものになるかどうかは、個々人の主体的な取り組みに依るところ大だと思います。試行錯誤の余裕があるのも若者の特権でしょう。勉強はもとより、積極的にいろいろな事にチャレンジして下さい。⑨木曜日17:00～18:00。

か のう ただし
加 納 格 教授



国際学修士

①西洋史概説Ⅲ、Ⅳ。特講Ⅳ（ロシア帝政史）、特講Ⅴ（ソヴィエト史）、西洋近現代史演習②ロシア近代史、旧ソ連地域の社会政治動向 ③ロシア史研究会、ソビエト史研究会、日本政治学会 ④愛知教育大学教育学部卒業、東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程博士課程単位取得満期退学。東京大学教養学部助手、立教大学、法政大学、東京女子大学他の非常勤講師、愛知県立大学外国語学部助教授、法政大学文学部助教授を経て現職 ⑤（論文）「1905年革命のトルドヴィキ」『歴史学研究』518号、1983年。「第一・第二国会における辺境・民族問題」『ロシア史研究』39号、1984年。「ゼムストヴォ運動とロシアの政治変革」『西洋史学』142号、1986年。「1905年革命の中の地主貴族たち」『スラブ研究』37号、1990年。「ロシア帝国末期の自治・連邦論と現在」『一橋論叢』109巻2号、1993年2月。「ロシア1905年革命期の政府内改革」『愛知県立大学外国語学部紀要』27号、1995年。「連邦自治論の現在—ポスト・ソ連空間の統合をめぐって」『ロシア研究』21号、日本国際問題研究所。「国家統合論考」『ロシア史研究』59号、1996年。「ロシアとCIS 統合問題」『ユーラシア研究』13号、1996年。「ロシア帝国末期の政治参加と国家統合」『愛知県立大学外国語学部紀要』29号、1997年。「専制から立憲へ：国家基本法改訂—1906年」『ロシア史研究』63号、1998年10月。「ロシア帝国と日露戦争への道—1903年から開戦前夜を中心に」『法政大学文学部紀要』53号、2006年。「ロシア難民と国際社会」『法政大学文学部紀要』61号、2010年。「ロシア帝国と極東政策—ポーツマス講和から韓国併合まで」『法政史学』72号、2011年。「ロシアの社会主義について」『歴史地理教育 特集<ロシア革命100年>』871号、2017年11月号、歴史教育者協議会。（共著）『<社会主義と現代世界3>社会主義の現実Ⅱ ソ連・中国』山川出版社、1990年。『危機の<社会主義>ソ連』社会評論社、1991年。『<世界の歴史と文化>ロシア』新潮社、1994年。『<国際情勢ベーシックシリーズ>CIS 旧ソ連地域』1996年。『帝国と帝国主義』有志舎、2012年。『人びとの社会主義』有志舎、2013年。『われわれの歴史と歴史学』有志舎、2012年12月。『「3・11」と歴史学』有志舎、2013年10月。（単著）『ロシア帝国の民主化と国家統合—20世紀初頭の改革と革命』御茶の水書房、2001年。『ニコライ2世とその治世—戦争・革命・破局』東洋書店。⑥特になし ⑦旅で人に会えること、特に長く生きた人に会って話を聞くこと（日本人、外国人を問わず）。しかし、最近は会える機会をもてないので、結局無趣味。⑧若い時というのは、何かと無理がきく時代だと感じている。何らかの「理論」も、そんな「無理」という一種の「不合理」体験の上に築かれる気がする。ということの本を読むにも、本を手にとって行動するにも是非「無理」してほしい。⑨金曜日、午後0時半～1時20分（研究室）、出来れば事前にアポをとって下さい。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

なか むら じゅん
中 村 純 教授



文学修士

①ギリシアの文化と社会（西洋史特講Ⅷ）、西洋史演習、西洋史Ⅰ、Ⅱ。②古代ギリシア史 ③史学会、日本西洋古典学会ほか ④1982年東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻博士課程単位取得満期退学、1985年法政大学第一教養部専任講師、1988年同助教授、1994年同教授 ⑤「アテネ民主政と戦争（2）—シチリア遠征」、『言語と文化』11、法政大学言語・文化センター 2014年1月、「アテネ民主政と戦争—ミュティレネ叛乱とピュロス遠征」、『言語と文化』10、法政大学言語・文化センター 2013年1月、「デーモス、デマゴグそしてデモクラシー—前5世紀後半のアテネ民主政について」、『西洋史研究』34、西洋史研究会 2005年11月ほか ⑥特に言うべきことはない ⑦ただぼっと生きていること ⑧教室でお会いしましょう。 ⑨月曜日 14:00—15:00。



お ぐち まさ し
小 口 雅 史 教授

文学修士

①日本古代史演習 ②日本古代中世史、北方史、敦煌吐魯番学、電子史料学 ③史学会、日本古文書学会、法制史学会、木簡学会、東方学会、日本歴史学会、国史研究会、漢字文献情報処理学会他。④1985年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得、同年弘前大学人文学部講師、1987年同助教授を経て、1996年本学教授着任。2002～2003年ベルリン・フンボルト大学客員研究員、2006年～2012年同大学客員教授。2006年～2010年学習院大学非常勤講師。2012年デュッセルドルフ・ハインリッヒ＝ハイネ大学客員教授、2014年～国立歴史民俗博物館共同研究員。⑤『デジタル古文書集 日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編』（同成社、1999年）、『津軽安藤氏と北方世界』（編著、河出書房新社、1995年）、『北の環日本海世界』（共編、山川出版社、2002年）、『土地と在地の世界を探索』（共著、山川出版社、1996年）、『北の内海世界』（共著、山川出版社、1999年）、『土地所有史』（共著、山川出版社、2002年）他 ⑥青森県史企画編集副委員長、日本古文書学会理事（事務局長）、国史研究会副会長、東北史学会評議員、延喜式研究会事務局長 ⑦オペラ、コントラクトブリッジ、山スキー ⑧大学は多様な価値観との出会いの場です。自分と違った価値観をいろいろと受けとめてください。⑨木曜日 5限（BT1516号室）

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

なが い じゅん いち
長 井 純 市 教授



文学修士

①日本近代史、日本近代史料学、日本近代史演習、日本史概説Ⅳ、日本史特講Ⅹ
②日本近現代政治史 ③史学会、日本史研究会、法政大学史学会 ④1980年3月東京大学文学部国史学科卒業、1992年3月法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学、1992年4月聖心女子大学非常勤講師（～1998年3月）、1993年6月～1998年3月文部省職員、1998年4月法政大学専任講師、1999年4月同助教授（のち准教授）、2010年4月教授 ⑤共編著「田中光顕関係文書紹介（1）～（13続）」（『法政大学文学部紀要』第52～65号、2005～2012年）、同「同（11）（続）（付）杉原夷山宛田中光顕書翰紹介」（同第65号、2012年）、編著「杉原夷山宛田中光顕書翰紹介（続）」（同第66号、2013年）、共編著「寺内正毅宛杉山茂丸書翰紹介」（同第68号、2014年3月）、同「早崎梗吉資料について」（塩沢裕仁編『関野貞大陸調査と現在（いま）』東京大学東洋文化研究所、2014年9月）同『棚橋小虎日記・昭和20年』（法政大学大原社会問題研究所、2009年）、同『同・昭和17年』（同上、2010年）、同『同・昭和18年』（同上、2014年）、著書『河野広中』（吉川弘文館、2009年）、論文「中国をめぐる河野広中の周辺」（同第76号、2011年9月）、同「A year in America」（『法政大学文学部紀要』第71号、2015年9月）。⑦雑談 ⑧学びの中に長い人生を満喫する秘訣があります。学びを通して、柔軟かつ豊かで自立的な洞察力・判断力と批判的精神を養って下さい ⑨月曜日13：30～15：00、研究室（ボアソナード・タワー15階1505室）



しお ばろ ひと
塩 沢 裕 仁 教授

博士（人間・環境学）

「東洋史概説Ⅰ・Ⅱ」「東洋史物質資料演習」「東洋考古・美術史」「東洋史外書講読Ⅰ」ほか ②中国考古学・中国古代歴史地理学 ③東方学会、日本中国考古学会、秦漢史研究会、魏晉南北朝史学会、唐代史研究会、朝鮮史研究会ほか ④1991年3月法政大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学、2010年7月京都大学大学院人間・環境学研究科博士（論文）学位取得。中国洛陽外国語学院特聘教授、東京大学東洋文化研究所特任研究員を経て、2013年3月法政大学文学部准教授、2016年3月同教授 ⑤単著：『東漢魏晉南北朝都城境域研究』洛陽博物館文化叢書、2009年、『千年帝都洛陽—その遺跡と人文・自然環境—』雄山閣、2010年、『後漢魏晉南北朝都城境域研究』雄山閣、2013年。共著：『水経注疏訳注・渭水編』東洋文庫、（上）2008年、（下）2011年、『千年帝都洛陽—洛陽の遺跡と観光—』龍門石窟研究院・河南人民出版社、2009年、『水経注疏訳注・洛水伊水編』東洋文庫、2015年、『古代東アジアの道路と交通』勉誠出版、2011年、『関野貞大陸調査と現在』東京大学東洋文化研究所、2012年、同Ⅱ、2014年ほか。論文：「東漢洛陽城都城境域與洛陽八閤」『洛陽博物館建館50周年論文集』大象出版社、2008年、「漢魏洛陽城の都市空間」『史潮』新67号、歴史学会、2010年、「漢魏洛陽城穀水水文考」『東洋史研究』71巻2号、東洋史研究会、2012年、「函谷関遺跡考証—四つの函谷関遺跡について—」『東京大学東洋文化研究所紀要』169冊、2016年ほか。調査報告：「洛陽における都城遺跡の保護とその問題点」『中国考古学』11号、日本中国考古学会、2011年、「大青山北麓の六鎮関連遺跡」『大青山一帯の北魏城址の研究』、2013年、「城壁・烽火台遺構よりみた潼関城址」『国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」』2017年ほか ⑥東洋文庫兼任研究員、世界文化遺産洛陽龍門石窟客員研究員など ⑦旅行（ひたすら歩くこと）⑧在学中、頭の柔らかい内の語学の習得を勧めます。また、留学や旅行を通じて知見の拡大に努めてください。⑨本年度は在外研究のため、不在です。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



お ぐら じゅん いち 教授
小 倉 淳 一

文学修士

①日本考古学、考古学概論、日本考古学演習、日本史概説Ⅰ②東日本の弥生時代社会 ③日本考古学協会、法政考古学会、法政大学史学会、西相模考古学会 ④1998年法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士後期課程満期退学、1998年東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学助手、1998年財団法人横浜市ふるさと歴史財団学芸課学芸係（横浜市歴史博物館）、2004年法政大学文学部専任講師、2012年同准教授⑤著書・論文：「北総地域における弥生時代後期の土器様相について」『法政考古学』第16集（1991）法政考古学会、「千葉県佐倉市大崎台遺跡の宮ノ台式土器について」『法政考古学』第20集記念論文集（1993）法政考古学会、「東京湾東岸地域の宮ノ台式土器」・『史館』第27号（1996）史館同人、「宮ノ台式土器の東と西-回転結節文の分布と変遷から-」『法政考古学』第30集記念論文集（2003）法政考古学会、「宮ノ台式土器にみる櫛描文の地域的変遷-印旛沼沿岸地域の概要理解のために-」『法政史学』第61号（2004）法政大学史学会、「宮ノ台式の地域差と周辺-宮ノ台式土器分布域の東側から-」『考古学リーダー5 南関東の弥生土器』（2005）六人書房、「印旛沼をめぐる弥生文化」『考古学ジャーナル』557号（2007）ニュー・サイエンス社、「小シーボルトと日本考古学の黎明期」『小シーボルトと日本の考古・民族学の黎明』（2011）同成社、「関東地方における弥生時代の溝」『論集 環濠集落の諸問題 2015』（2015）環濠論集刊行会、「弥生時代中期の南関東地方における環濠の造営時期」『法政考古学』第43集（2017）法政考古学会、等 ⑥所属学会の活動が主体です。⑦演劇・映画鑑賞。⑧失敗を恐れず、顔を上げて進んでほしい。⑨月曜14：00-15：00、17：00-18：00（BT15階1501、または考古学資料室）

きた がわ たか こ 准教授
北 川 香 子

博士（文学）

①主な科目：東洋中世史、東洋史特講 ②現在の専門分野：カンボジア初の女子校創設者マリカ王女について、植民地期カンボジア村落社会史 ③所属学会・団体：東南アジア学会、日本カンボジア研究会、東南アジア歴史研究会 ④略歴：東京大学文学部卒、同大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程修了、2018年より現職 ⑤業績（著書・論文等）：『世界各国史 東南アジア史Ⅰ-大陸部』（共著、山川出版社、1999年）、*From Japan to Arabia: Ayutthaya's Maritime Relations with Asia*（共著、Bangkok、1999年）、『岩波講座東南アジア史第4巻 東南アジア近世国家群の展開』（共著、岩波書店、2001年）、『岩波講座東南アジア史 別巻』（共著、岩波書店、2003年）、『山川 世界史小辞典 改訂新版』（共著、山川出版社、2004年）、『カンボジア史再考』（単著、連合出版、2006年）、『新版 東南アジアを知る辞典』（共著、平凡社、2008年）、『アンコール・ワットが眠る間に-カンボジア 歴史の記憶を訪ねて』（単著、連合出版、2009年）、『東南アジア史研究の展開』（共著、山川出版社、2009年）、「アン・ドゥオン王の道-19世紀中葉カンボジアの国内ルート再編について-」『南方文化』19（単著、1992年）、「18世紀クメール語書簡の発見-近藤重蔵関係資料『外国関係書簡』から-」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』64（単著、2014年）、「カンボジア人書記通訳官リー・サム」『南方文化』42（単著、2016年）、「海の反乱-植民地期カンボジア、コムポート地方の1885年反仏反乱」『順天堂グローバル教養論集』2（単著、2017年）など ⑦趣味：ガーデニング、手芸 ⑧学生へのメッセージ：楽しいことを探しましょう。人生はおもしろおかしく生きるべきだと思います。 ⑨オフィス・アワー：水曜日の2時限



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

おお つか のり ひろ
大 塚 紀 弘 専任講師



博士（文学）

①日本中世史演習、日本古文書学、日本史特講、日本史概説 ②日本中世史、対外関係史、仏教史 ③史学会、仏教史学会 ④2007年11月東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、2013年4月法政大学文学部史学科専任講師
⑤『中世の寺院と都市・権力』（共著、山川出版社、2007年）、『「人のつながり」の中世』（共著、山川出版社、2008年）、『中世禅律仏教論』（単著、山川出版社、2009年）、『日本の対外関係4倭寇と「日本国王」』（共著、吉川弘文館、2010年）、『戦後歴史学用語辞典』（共著、東京堂出版、2012年）、『週刊朝日百科 新発見！日本の歴史 21 鎌倉時代 4 鎌倉仏教の主役は誰か』（共著、朝日新聞出版、2013年）、『中世寺社の空間・テキスト・技芸』（共著、勉誠出版、2014年）、『鎌倉研究の未来』（共著、山川出版社、2014年）、『日本史のまめまめしい知識 第1巻』（共著、岩田書院、2016年）、『南朝研究の最前線』（共著、新泉社、2016年）、『中世の門跡と公武権力』（共著、戎光祥出版、2017年）、『古代国家と北方世界』（共著、同成社、2017年）、『日宋貿易と仏教文化』（単著、吉川弘文館、2017年） ⑦美術鑑賞、史跡見学 ⑧平凡な毎日に満足せず、新しいことに挑戦して下さい。そこから未来は拓けてきます。 ⑨木曜日14時から15時（BT15階1502）。



まつ もと けんしろう
松 本 剣志郎 専任講師

博士（文学）

①日本史概説Ⅲ、日本近世史演習、日本近世史料学 ②日本近世史、都市論、記憶論 ③関東近世史研究会、地方史研究協議会、都市史学会、日本アーカイブズ学会、日本古文書学会、日本史研究会、白山史学会、法政大学史学会、歴史学研究会ほか ④2007年東洋大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程修了、2005年世田谷区立郷土資料館歴史専門調査員、2010年東洋大学文学部助教、2014年武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館学芸員、2015年本学助教着任 ⑤「江戸の公共負担組合と大名家」（『社会経済史学』83巻1号、2017年）、「江戸の橋梁維持と武家屋敷組合」（『比較都市史研究』36巻1号、2017年）、「江戸における公儀地の論理」（『法政史学』88号、2017年）、『悪の歴史』日本編下（共著、清水書院、2017年）ほか ⑥世田谷区史編さん委員、東洋大学人間科学総合研究所客員研究員 ⑦書画骨董 ⑧「学藝を以て性を養ふべし」（秋草道人）。博物館・美術館でたくさん良いものをみること。 ⑨火曜12:30～13:00（BT1504研究室）

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

地 理 学 科

なか また ひとし
中 俣 均 教授



博士（理学・東京大学）

①文化地理学（1）・（2）、人文地理学演習（2）、ほか ②文化地理学、沖縄地域研究、島嶼（＝島々）の地理学 ③日本地理学会、人文地理学会、日本島嶼学会ほか。法政大学沖縄文化研究所・所長（2015～）④東京大学理学部、同大学院理学系研究科 ⑤【近年のものに限って掲載】論文「離島という社会生活空間とその変貌」（法政大学沖縄文化研究所編『沖縄八重山の研究』（相模書房）、2000年）；監修『世界地理百科大事典 第3巻 ヨーロッパ』（朝倉書店、2000年）；項目執筆・浮田典良編『最新地理学辞典』（大明堂、2002年）；論文「文化地理学の潮流」（高橋伸夫編『21世紀の人文地理学展望』（古今書院、2003年）；編著『国土空間と地域社会』シリーズ・人文地理学第9巻、（朝倉書店、2004年）；論文「文化地理学からみた日本語一言語地図への惜別—」日本語学（明治書院）2004年12月号；項目執筆「Ⅱ-3、（1）言語」（山本正三他編『日本の地誌2 日本総論Ⅱ（人文・社会編）』（朝倉書店、2006年）；論文「もう一人の沖縄学の父—仲松弥秀の学問—」沖縄文化研究33（法政大学沖縄文化研究所、2007年）；論文「沖縄県・多良間島の集落の空間構造、（平岡昭利編『離島研究Ⅲ』（海青社、2007年）；項目執筆「長岡」（平岡昭利編『地図で読み解く日本の地域変貌』（海青社、2008年）、編著『空間の文化地理』シリーズ・人文地理学第7巻、（朝倉書店、2011年）；書評『海の狩人 沖縄漁民—糸満ウミンチュの歴史と生活史—』加藤久子著（現代書館）、（法政大学沖縄文化研究所所報71、2012年）；論文「離島に住むことに誇りの持てる離島振興を」しま（日本離島センター）232号、2013年；項目執筆「文化地理学」（人文地理学会編『人文地理学事典』（丸善出版、2013年）；単著『渡名喜島—地割制と歴史的集落景観の保全—』（古今書院、2014年）；共著『人文地理学概論（1）（2）』（法政大学通信教育部、2014年）；分担執筆「保全すべき文化景観としての居住空間—諸施策をめぐって—」（森隆男編著『住まいと集落が語る風土—日本・琉球・朝鮮—』（関西大学出版部、2014年）；論文「辺境の小島の交流と連携—負の景観遺産を現代に活かす—」地理61-4（古今書院、2016年）；論文「車窓景観観察についての私的エピソード」地理62-12（古今書院、2017年）

⑥日本島嶼学会会長（2015～19）⑦50年来の地方私鉄廃止路線跡探訪。⑧大学とは、学問研究を通じて人格形成をはかるところ。近年、大学の専門学校化や企業化などが専ら「外圧」により進展し、学問の府であることが希薄になるにつれて、そのことが案外、忘れられているような気がします。法政もその例外ではない面も…。⑨木曜日：6限（18:30～20:00）、できるだけ前もって来訪の意思だけでも通告してください（hnkm@hosei.ac.jp）。

なか しま こう いち
中 島 弘 一 教授

博士（理学）

①教養化学LA・LB、サイエンスラボA・B、光と色の科学、化学概論（教職）
②分子—半導体間の電荷移動の機構について ③日本化学会 ④1983年立教大学大学院理学研究科化学専攻博士前期課程修了、1983年法政大学第一教養部助手、1996年同専任講師、1998年同助教授、2002年同教授、2002年コーネル大学客員研究員、2003年より文学部教授。⑤論文：“光と色と色覚”，化学と教育，65（2017）22-27。⑧興味を持つこと、興味を持ったらとことん調べる。⑨毎週火曜日の4時限目、研究室（BT10階、1010号室）まで来てください。



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



よし だ さとし
吉 田 智 教授

博士（理学）

①入門物理学Ⅰ・Ⅱ、サイエンスラボA・B、原子核と素粒子、教職物理学実験Ⅰ・Ⅱ、②原子核理論、超新星爆発における元素合成に寄与する原子核構造の理論的解明 ③日本物理学会 ④1997年3月東北大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程修了。1996年4月－1997年3月日本学術振興会特別研究員。1997年4月法政大学第一教養部助手。2000年4月同専任講師。2002年4月同助教授、2003年4月より法政大学文学部所属。2005年4月－9月会津大学客員研究員、2005年10月－2006年3月フランス・オルセー原子核物理学研究所客員研究員 ⑤Structure of neutron-deficient Pt,Hg (Physical Review C50巻、1994)、Shape and superdeformed structure in Hg (Physical Review C50巻、1994)、Multi nucleon transfer reactions and fusion (Nuclear Physics A588巻、1995)、Surface properties of Cs isotopes (Physical Review C52巻、1995)、中性子、陽子過剰核の深部非弾性散乱における多核子移行反応 (素粒子論研究91巻、1995)、重イオンの表面のぼやけと非圧縮率との相関 (素粒子論研究93巻、1996)、Shape dependence of pairing gap energies and the structure of Hg and Pb isotopes (Physical Review C55巻、1997)、Incompressibility and density distributions in asymmetric nuclear systems (Physical Review C58巻、1998)、Spin-orbit interactions in mean field theories (Nuclear Physics A658巻、1999)、New spin-orbit parameters of Skyrme interactions (Nuclear Physics A688巻、2001)、Neutron skin thickness and equation of state in asymmetric nuclear matter (Physical Review C69巻、2004)、Isovector nuclear matter properties and neutron skin thickness (Physical Review C73巻、2006)、Giant neutron halos in the non-relativistic mean field approach (Physical Review C74巻、2006)、Pairing correlations and effective mass (Physical review C77巻、2008)、Nuclear matter properties and equation of state of neutron matter (J.Physics.Conf.Ser.321巻、2011)、New Finite-Range Droplet Mass Model and Equation-of-State Parameters (Physical Review Letters108巻、2012) 他 ⑦クラシック音楽鑑賞、旅行 ⑧些細なことでもいいので何か1つ、やり遂げてみよう。必ずできる。⑨国内研究のため設定しておりません。

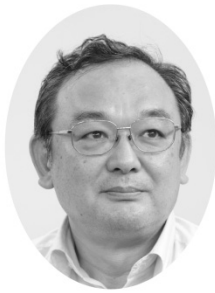
こめ いえ し の ぶ
米 家 志乃布 教授

博士（人文科学）

①「歴史地理学(1)(2)」、「人文地理学演習(5)」、「地理学Ⅰ・Ⅱ」、「地理学LA・LB」など②歴史地理学、シベリア・ロシア極東・北海道の地域研究、日本・ヨーロッパ諸国・ロシアの地図史研究 ③日本地理学会、人文地理学会、歴史地理学会、日本地図学会④1995年8月お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程中退、1995年9月～1998年3月お茶の水女子大学文教育学部地理学科助手、1998年4月法政大学第一教養部専任講師、2000年4月同助教授、2001年3月博士（人文科学）取得、2002年10月～2003年3月京都大学文学部地理学研究室研修員、2003年4月法政大学文学部地理学科に移籍、2003年4月～2004年3月ロシア科学アカデミー東洋学研究所客員研究員、2007年4月法政大学文学部教授、2007年7月～2008年3月北海道大学スラブ研究センター客員研究員・北海道大学客員教授 ⑤幕末における鯨集荷システムの再編（人文地理51-1、1999年）、幕末蝦夷地の絵図にみる地域情報の把握（歴史地理学198、2000年、平成11～13年度歴史地理学会学会賞）、19世紀の地図作製と「蝦夷地」（地理47-2、2002年）、ロシア帝国とシベリア図（藤井譲治・杉山正明・金田章裕編『大地の肖像』京都大学学術出版会、2006年）、20世紀前半のシベリア・ロシア極東における植民都市と地図作製（法政大学文学部紀要第62号、2011年）、ベーリングの第一次カムチャツカ探検とシベリア図（法政大学文学部紀要第64号、2012年）、地図から見る近世日本意識の変遷と「蝦夷地」（国際日本学第9号、2012年）、レーメゾフの『公務の地図帳』と描かれたシベリア地域像（法政大学文学部紀要第66号、2013年）、人びとにとっての近世日本のかたち（田中優子編『日本人は日本をどうみてきたか－江戸からみる自意識の変遷』笠間書院、2015年）など ⑥歴史地理学会評議員 ⑦旅行、散歩 ⑧楽しい学生生活を過ごしてください

⑨木曜日13:30～15:00 BT1318

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



伊 藤 達 也 教授

博士（環境学）

社会経済地理学（2）、人文地理学特講（4） ②水資源・環境問題研究 ③日本地理学会、経済地理学会、水資源・環境学会 ④1983 年金沢大学法文学部史学科地理学専攻卒業、1986 年金沢大学大学院文学研究科修士課程地理学コース修了、1990 年名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程史学地理学専攻単位取得満期退学、1990 年金城学院大学短期大学部専任講師、1994 年助教授、1997 年金城学院大学現代文化学部助教授、2002 年教授、2007 年博士号（博士（環境学）名古屋大学大学院環境学研究科）取得、2008 年法政大学文学部教授 ⑤[著書] 1.『水資源計画の欺瞞－木曽川水系連絡導水路計画の問題点－』（単著：ユニテ、2008 年）、2.『水資源・環境研究の現在－板橋郁夫先生傘寿記念－』（共編著：成文堂、2006 年）、3.『木曽川水系の水資源問題－流域の統合管理を目指して－』（単著：成文堂、2006 年）、4.『水資源開発の論理－その批判的検討－』（単著：成文堂、2005 年）、[論文] 1.「韓国の水辺環境改変事業の特徴－韓国 4 大河川再生事業を事例に－」（単著）『地理科学』72－3、2017 年、2.「環境問題への地理学のかかわり」（単著：竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015 年）、3.「일본 하천관리정책의 변화과정과 댐·하구언 문제의 요인（日本におけるダム・河口堰計画の見直しと問題点）」（伊藤達也・이철우(李 哲雨)（共著）『한국지역지리학회지』（韓国地域地理学会誌）20－2、2015 年）、4.「地理学と水資源研究の関わりを求めて」（単著：藤田佳久・阿部和俊編『日本の経済地理学 50 年』古今書院、2014 年）、⑥水資源・環境学会理事 ⑦あえて言えば調査を兼ねた旅行。年に 1、2 度、目的なくローカル線に乗るのが至福、⑧明らかに私よりも体力と頭の柔軟さがある学生の皆さん、ぜひ学生生活を通じて自分の持つ能力を最大限に発揮してください。⑨毎週月曜日 15:00～16:00 80 年館 617 号室

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

まえ もく ひで あき
前 奎 英 明 教授



博士（文学）

①地理実習（2）、地形学及び実験Ⅰ・Ⅱ、地図学Ⅱほか ②自然地理学、地形学、第四紀学 ③日本地理学会、日本第四紀学会、東京地学協会、地理科学学会、日本活断層学会、アメリカ地球物理学連合、日本地球惑星科学連合 ④1984年広島大学文学部史学科卒、1990年広島大学大学院文学研究科地理学専攻単位取得退学、1990年広島大学総合地誌研究試料センター助手、1994年山口大学教育学部助教授、1999年広島大学学校教育学部助教授、2001年広島大学大学院教育学研究科助教授、2007年同大学院教授、2013年法政大学文学部教授 ⑤沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究. 地理科学、vol.60-3、pp.136-142、2005、室戸半島の第四紀地殻変動と地震隆起. 地質学雑誌、vol.112、補遺、17-26、2006. Limestones as a paleobathymeter for reconstructing past seismic activities: Muroto-misaki, Shikoku, southwestern Japan. Global and Planetary Change. vol.66、52-64、2009. The last deglacial history of Lützow-Holm Bay, East Antarctica. Journal of Quaternary Science、DOI:10.1002/jqs.1465、2011. Late Holocene Asian monsoon variations recorded in Lake Rara sediment. Western Nepal. Journal of Quaternary Science、DOI:10.1002/jqs.1568、2012. Quartz OSL Dating of sand dunes in Ghaggar Basin, Northwestern India. Geochronometria、vol.39-3、221-226、2012. 古代文明と環境 -インダス文明を中心に-. 地理科学、vol.67、pp.109-120、2012. Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97-106, AGU, Washington, D. C., doi:10.1029/2012GM001218、2012. ⑥山口県地域活断層調査委員会委員（1996-98）、高知県地域活断層調査委員会委員（1997）、地震調査研究推進本部専門委員（科学技術庁1996-2001）、南海トラフにおける海溝型巨大地震災害軽減のための地震発生機構のモデル化・観測システムの高度化に関する総合的検討委員会委員（（財）地震予知総合研究振興会1996-2001） ⑦スポーツ観戦、温泉旅行 ⑧大学は教科書（=教員）から学ぶところではなく、教科書（=教員）を批判するところ ⑨本年度は国内研究のため、不在です。



かた おか よし はる
片 岡 義 晴 准教授

文学修士

①地理実習（1）、社会経済地理学（3）、人文地理学演習（1） ②農業地理学 ③経済地理学会、人文地理学会、日本地理学会、日本農業経済学会、日本農業市場学会 ④1988年法政大学大学院博士課程単位取得 ⑤「福岡県黒木町における共同製茶の変容」経済地理学年報Vol.39 No.4（1993）他 ⑥月曜日15：30～16：30、80年館618研究室

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

こ 寺 浩 二 准教授



修士（教育学）

①海洋・陸水学および実験、自然地理学演習（2） ②自然地理学（海洋・陸水学、水文学） ③日本地理学会、日本陸水学会、日本水文科学会、水文・水資源学会、自然災害科学会ほか ④早稲田大学理工学部卒、同大学大学院教育学研究科修了、1989年4月～1996年3月法政大学文学部地理学科兼任助手、1996年4月～2008年3月同専任講師、2008年4月～同准教授 ⑤白子川流域における白子宿近傍の湧水—人工改変に伴う流出機構の変化（その1）—（水利科学、192、1990年）、四万十川の塩水遡上問題について（法政大学文学部紀要、36、1991年）、多摩川における河川敷利用の変遷について（水文・水資源学会誌、7-3、1994年）、沙漠の徒歩調査—沙漠中央部の水文環境を探る—（地理、39-3、1994年）、タクラマカン沙漠南域及び中央部の夏季の陸水の性質（法政大学タクラマカン沙漠調査報告書、沙漠・水・人間、1995年）、富士山南麓地下水に与えた渇水の影響（法政大学文学部紀要、42、1997年）、河川の流域特性に関する水文地理学的一考察（法政大学文学部紀要、43、1998年）他 ⑥日本水文科学会集会委員長、日本陸水学会学術幹事・会計幹事、陸水物理研究会運営委員 ⑦漕艇、水泳ほか ⑧苦勞を買ってでもして下さい。生涯の財産が築けるはず。そうした前向きな学生生活を期待します。⑨月曜日11:10～12:40、火曜日11:10～12:40 ポアソナードタワー1208研究室



こ はら たけ あき 准教授

博士（人間・環境学）

①社会経済地理学（1）、人文地理学特講（3）、人文地理学演習（3）、地誌学概論（2）、地理実習（1） ②社会経済地理学、都市地理学、都市開発論 ③日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、地理科学学会、日本都市地理学会、日本都市計画学会、日本都市学会、法政大学地理学会ほか ④1998年京都大学総合人間学部卒業、2000年京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了、2006年京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了、2006年京都大学研修員、2007年京都大学大学院人間・環境学研究科助教、2010年法政大学文学部専任講師、2016年法政大学文学部准教授 ⑤1935年の京都市における就業地と居住地—『日本全国諸会社役員録』を用いての分析—（地域と環境8・9、2009年）、『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—』（編著、海青社、2012年）、土地所有の変遷にみる近現代—京都市岡崎・南禅寺地区を事例に—（日本都市学会年報47、2014年）、『都市空間と産業集積の経済地理分析』（分担執筆、日本評論社、2015年）、『葛飾・柴又地域文化的景観調査報告書』（分担執筆、柴又地域文化的景観調査委員会・葛飾区教育委員会、2015年）ほか ⑥日本地理学会資格専門委員、日本地理学会集会委員、経済地理学会総務委員など ⑦スポーツ全般（観る：何でも、行う：テニス）、街歩きなど ⑧責任ある「自由」（学ぶ、遊ぶetc.）を大いに享受し、positiveに学生生活を送って下さい。⑨金曜日4限（小原研究室（BT1212））

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー



やま ぐち たか こ
山 口 隆 子 准教授

博士（学術）

①気候・気象学及び実験Ⅰ・Ⅱ、地理学読図演習(1)・(2)、自然地理学演習(1)
②気候学、生気象学、ヒートアイランド、都市緑化、百葉箱、熱中症 ③日本地理学会、日本気象学会、日本生気象学会、日本造園学会 ④1995年お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業、1996年東京都立大学大学院理学研究科修士課程地理学専攻中退、1996年東京都入都（造園職）建設局において都立公園・霊園・動物園の設計・維持管理を担当後、東京都環境科学研究所研究員、環境局都市地球環境部・自然環境部において地球温暖化対策、ヒートアイランド対策、自然保護、自然公園を担当、2008年博士（学術）取得（お茶の水女子大学）、2017年法政大学文学部地理学科准教授 ⑤『ヒートアイランドと都市緑化』（成山堂書店、2009年）、「都市におけるクールスポットー自治体での取組みと事例」（空気調和・衛生工学会誌83(8)、2009年）、『持続可能な低炭素社会Ⅲー国家戦略・個別政策・国際政策ー』（分担執筆、北海道大学出版会、2011年）、「ヒートアイランド対策」（日本生気象学会誌50(2)、2013年） ⑥日本生気象学会誌編集委員、日本生気象学会熱中症予防研究委員会委員 ⑦読書（年間300冊程度）、旅行、屋上巡り ⑧学生時代ほど自由な時間はありません。充実した毎日を過ごしてください。⑨木曜日2限（BT1209研究室）

は さ だ こう だい
羽佐田 紘 大 助教

博士（地理学）

①自然環境論、安全管理・救急救命学、インターンシップⅠ・Ⅱ ②自然地理学、環境地理学、地形学、GIS ③日本地理学会、日本地形学連合、日本地球惑星科学連合 ④2011年南山大学総合政策学部卒業、2013年名古屋大学大学院環境学研究科博士課程（前期課程）修了、2016年名古屋大学大学院環境学研究科博士課程（後期課程）修了、2016年名古屋大学大学院環境学研究科研究員、中京大学ほか3校非常勤講師、2017年法政大学文学部助教 ⑤矢作川下流低地における完新世の堆積土砂量と蓄積炭素量の時系列的変動（共著、地形33、2012年）、GISを用いたボーリングデータ解析に基づく濃尾平野の3次元構造と堆積土砂量の復原（単著、地理学評論88、2015年、2015年度日本地理学会賞（若手奨励部門））、Carbon storage in a Holocene deltaic sequence: An example from the Nobi Plain, central Japan（共著、Quaternary International 397、2016年） ⑥知立市史調査協力員 ⑦スポーツ（野球、スキーなど）、旅行など ⑧時間は限られています。目の前のことに一生懸命取り組んで、学生生活を十分に楽しんでください。⑨火曜日3限（13:30～15:00）



凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

心理学科

たか はし とし はる
高 橋 敏 治 教授



医学博士

①脳の科学, 精神保健学 I・II, 研究法 I・II, 演習 I, 精神生理学特講 ②睡眠科学, 生理心理学, 精神保健学 ③日本睡眠学会, 日本時間生物学会, 日本精神神経学会, Sleep Research Society ほか ④1980 年弘前大学医学部卒業, 1980 年東京慈恵医科大学研修医, 1989 年日本航空健康管理室, 1995 年東京慈恵医科大学精神医学教室講師, 2001 年法政大学文学部教育学科心理学コース教授, 2003 年法政大学文学部心理学教授, 2008 年米国シカゴ Rush 大学行動科学部客員教授, 米国パルアルト Stanford 大学医学部客員教授 ⑤高橋敏治(2017) 時差ぼけと光環境 睡眠医療, 11, 525-530., 高橋敏治 (2016) 睡眠のトピックス 2—入眠障害の新たな指標による実験的検討を中心に— 2015 年度弘前神経科学研究所紀要, 79-87., 高橋敏治 (2014) 概日リズム睡眠障害—3) 時差型の病態— 睡眠医療 8, 197-201., 高橋敏治 (2013) 概日リズム睡眠障害-時差型(時差障害) 日本臨床, 71 巻増刊号 5, 416-419., 高橋敏治 (2012) 精神疾患による不眠 千葉茂編, 意識と睡眠 脳とこころのプライマリケア 5. (株) シナジー, 東京, pp571-579., 高橋敏治 (2012) 時差障害, 交代制勤務障害 野沢胤美編, 睡眠医学 アトラス—検査と臨床— 東興交易 (株) 医書出版部, 東京, pp42-48., Takahashi T, et al. (2009) Effects of Intermittent Bright Light Exposure during Daytime on Daytime Sleepiness, Cognition, and Performance. *Sleep* 32, A415. ⑥NPO 法人いろえんぴつ理事, 積善会曾我病院評議員 ⑦山登り, 読書(時代小説) ⑧人との出逢いを大切に ⑨木曜日 13 時 30 分～14 時 30 分 BT1109 研究室



よし むら ひろ かず
吉 村 浩 一 教授

教育学博士

①認知心理学・認知心理学特講・心理学基礎実験Ⅱ・演習Ⅱ・研究法Ⅰ・研究法Ⅱ・社会心理学特講 ②知覚・認知心理学。特に、逆さめがねを着用することによって生じる空間知覚の混乱と、そのめがねを長時間着用することによって進行する順応過程の追跡。「逆さめがね」とは、目の前の視野が上下入れ換わったり左右入れ換わったりして見えるめがねのことです。私たちの視覚システムはあまりに精巧にできているため、正常な働きを見ているだけではその仕組みの巧みさをうまく理解することができません。そこで、正常な関係を逆さめがねを着けることでいったん破壊し、知覚のメカニズムを裏側から捉えることを目指す研究を行っています。最近では、アニメーションの動きや美術作品の鑑賞に知覚がどのように関わっているかについての研究にも取り組んでいます。③日本心理学会、日本基礎心理学会、日本認知心理学会、日本アニメーション学会。展示学会。④1980年京都大学大学院教育学研究科博士課程満期退学後、京都大学教養部助手、金沢大学文学部助教授、明星大学人文学部教授を経て、2003年本学着任。⑤著書：1. 『心理学モノグラフ21 左右反転めがねの世界』(単著：1993年、日本心理学会) 2. 『心理学と出会う』(編著：1995年) 3. 『特殊事例がひらく心の世界』(編著：1996年) 4. 『3つの逆さめがね [改訂版]』(単著：1997年) 5. 『図的に心理学』(単著：1999年) 6. 『逆さめがねが街をゆく—上下逆さの不思議生活—』(共著：1999年) 7. 『知覚は問題解決過程—アーヴィン・ロックの認知心理学—』(単著：2001年) 8. 『逆さめがねの左右学』(単著：2002年) 9. 『鏡の中の左利き—鏡像反転の謎』(単著：2004年、以上ナカニシヤ出版) 10. 『心のことば—心理学の言語・会話データ—』(単著：1998年、培風館) 11. 『知覚の可塑性と行動適応』(共著：1998年、ブレン出版) 12. 『心理学史の新しいかたち』(共著：2005年、誠信書房)。13. 『運動現象のタキシノミー：心理学は“動き”をどう捉えてきたか』(単著：2006年、ナカニシヤ出版) 論文(逆さめがね研究以外のものを挙げます)：1. 「心理学における事例研究の役割」(『心理学評論』1989年32巻177-196ページ) 2. 「変換視研究における内観報告法」(『心理

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

学評論』1991年34巻383-411ページ) 3. 「知覚環境論からみたヒューマン・インターフェイス問題」(『社会環境研究』1996年創刊号1-17ページ) 4. 文章表現のヒューマン・インターフェイス―“分かりやすい表現”を求めて―(『金沢大学文学部論集行動科学哲学篇』2000年20号1-19ページ) 5. 『“そうですね”の会話分析の枠組み―心理学とエスノメソドロジーからの検討―』(『社会環境研究』1996年5号1-9ページ) 6. 「金沢大学心理学研究室で見つかった35ミリフィルムを追って―心理学における1920年代の映画利用―」(『明星大学心理学年報』2001年19号1-19ページ) 7. 「単純化された要素図形の動き―無生物としての知覚―」(『明星大学心理学年報』2002年20号41-58ページ) 8. 「アーヴィン・ロックの運動知覚論―動画によるプレゼンテーションを輻輳させて―」(『基礎心理学研究』2002年20巻115-129ページ) 9. 「歴史なき心理学科で歴史を想う―城戸幡太郎と矢田部達郎―」(『法政大学文学部紀要』2004年49号75-97ページ) 10. Relationship between frames of reference and mirror-image reversals. (『Perception』2007年36巻1049-1056ページ. Tabata, T. と共著) 11. 「直交3軸のうち1軸反転が生み出す形・動き知覚の歪み―不可能図形と影絵の回転による検討―」(『アニメーション研究』2009年10巻A, 27-36ページ) 12. 「絵画に顕在するものを展示解説文に生かす意義」(『展示学』2012年50号042-051ページ) 13. 「カタログに載らなかった竹井製作所・竹井機器工業の心理学実験機器を通して記憶学習実験機器の起源を探る」(『心理学史・心理学論』2013年14/15号57-69ページ) ⑥心理学の古典的機器のアーカイブ化 ⑦「逆さまグッズ」の収集と作成。⑧心理学の守備範囲は本当に広いものです。心の働きを広く捉えていろいろな心理学を楽しんでください。⑨火曜日15:10~16:40

わた なべ やよ い
渡 辺 弥 生 教授

教育学博士



①発達心理学、発達心理学特講、演習Ⅰ、研究法Ⅰ、研究法Ⅱ、学校カウンセリング特論(大学院)、発達心理学特論(大学院)、心理学研究法演習ⅠⅡ(大学院)、心理学特殊研究ⅠⅡ(大学院)、②社会性や感情リテラシーの発達、いじめ、不登校などの学校危機予防教育(ソーシャルスキルトレーニング、Social and Emotional Learning)、育児ストレスと介入、思いやりなど道徳性の発達と教育、③日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本カウンセリング学会、日本心理臨床学会、日本乳幼児教育学会、教育実践学会、American Psychological Association, National Association of School Psychologists, International School Psychology Association, Association for Moral Education ④筑波大学大学院博士課程心理学研究科、筑波大学心理学系、静岡大学、途中、Harvard University, University of California, Santa Barbaraで在外研究員、を経て、2001年から本学着任。⑤著書:『中学生・高校生のためのソーシャルスキルトレーニング』(明治図書)、『中1ギャップを乗り越える方法』(宝島社)、『世界の学校予防教育』(金子書房)、『子どもの「10歳の壁」とは何か?―乗り越えるための発達心理学』(光文社)、'Natural Disasters' Brock, S.E. & Jimerson, S.R. (Eds.) Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, (National Association of School Psychologists.), 『子どもの感情表現ワークブック』(明石書店)、『10代を育てるソーシャルスキル教育』(北樹出版)、『11歳の身の上相談』(講談社)、『絵本で育てるソーシャルスキル』(明治図書)、『親子のためのソーシャルスキル』(サイエンス社)、『幼児・児童における分配の公正さに関する研究』(風間書房)、等他。

論文:『ソーシャルスキルトレーニングの“これまで”と“これから”―介入に予防にそして教育へと』(日本学校心理学会年報、印刷中)『ソーシャルスキル・トレーニングが中学生のレジリエンスに与える影響について』(教育心理学研究, 2017)、『児童の感情リテラシーは教育しうるか―発達のアウトラインの支援のありから―』(エモーション・スタディーズ, 2016), 『School psychology research and practice in East Asia: Perspectives on the past, present, and future directions of the field』(School Psychology International, 2016), 『Children's motives for admitting to prosocial behavior』(Frontiers in Psychology Developmental Psychology, 2016) 『Developmental and gender trends in emotional literacy and interpersonal competence among Japanese Children.』(The International Journal of Emotional Education, 2015), 『Differences between Japanese and U.S. Children's Performance on "Zoo U": A game-based social skills assessment』(Games for Health Journal, 2015), 『予防教育としてのレジリエンスの育成』(臨床心理学, 2016) 『健全な学校風土をめざすユニバーサルな学校予防教育―免疫力を高めるソーシャル・スキル・トレーニング

凡例:①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

とソーシャル・エモーショナル・ラーニング』（教育心理学年報、2015）『学校予防教育に必要な「道徳性・向社会的行動」の育成』（発達心理学研究、2014）、等他 ⑥日本教育心理学会理事、日本学校心理学会理事、日本SEL研究会理事、School Psychology Quarterly, Journal of Moral Education, International Journal of School and Educational Psychologyのエディター、野間教育研究所非常勤研究員、千代田区教育委員会いじめ問題対策委員会委員、日本学術振興会委員ほか、⑦映画・演劇・音楽・美術鑑賞・テニス ⑧Cool Brain & Hot Heart ⑨本年度は国内研究のため、不在です。HP：<http://sites.google.com/site/emywata/> ライフスキル教育研究所 (<http://www.hosei-shinri.jp/psychology/lsei.html>)



ふく だ ゆ き 教授
福田 由 紀 教授

博士（心理学）

①心理学概論，言語心理学，教育心理学，言語心理学特講，研究法Ⅰ(4)，研究法Ⅱ(4) ②言語心理学：文章理解時に喚起される読み手の感情に関する心理学的研究 ③日本心理学会，日本教育心理学会，日本読書学会，日本認知心理学会，日本認知科学会，日本発達心理学会④1991年筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了，1991年東京純心女子短期大学専任講師，1997年東京純心女子大学専任講師，2000年本学着任 ⑤著書：1.「教育心理学-言語力からみた学び-（共著：培風館 2016）」2.「言語心理学入門-言語力を育てる-」（編著者：培風館 2012年）3.「心理学要論-こころの世界を探る」（編著者：培風館 2010年）4.「ことばが意味をもつために-言葉と思考の発達-」（分担執筆：福村書店『図で理解する発達-新しい発達心理学への招待』、2010年）論文：1. 福田由紀・蘓原遥・菊池理紗『言語心理学で何を学べるか？-言語学との学問イメージ比較-』（法政大学文学部紀要，印刷中）2. 福田由紀・佐藤志保『ポジティブな文章を読むと気分が良くなるのか？』（読書科学，59,161-171. 2017年）3. 福田由紀・土清水咲菜・荒井弘和『状況モデルの更新回数は物語の面白さを促進するのか？』（法政大学文学部紀要，73,99-108. 2016年）4. 福田由紀・檜原拓真『何が朗読らしく思わせるのか？』（法政大学文学部紀要，71,125-134. 2015年）5. 福田由紀・檜原拓真『朗読をすると気分がよくなるのか？-音読と比較して-』（読書科学，57,23-34. 2015年）⑥文化審議会国語分科会委員⑦スポーツをすることと見る。冬はスキーに凝っています。ボードゲーム（TVゲームではなく）をすることも好きです。それから，推理小説を読むこと。ただし，犯人はあたりません。あとは，映画鑑賞かな。⑧自分の思っていることを，過不足なく相手に伝えられるような表現力を学生時代に養っておくといいいのでは…。⑨オフィス・アワーは月曜日 3 限（BT1110，福田の研究室）です。その時間以外は，メールでアポイントをとってください！
yfukuda@hosei.ac.jp

しま むね さとる 教授
島 宗 理 教授

Ph. D. in Psychology

①心理学基礎実験、行動分析学、行動分析学特講、産業組織心理学 ②行動分析学、組織行動マネジメント ③日本行動分析学会、日本心理学会、日本教育心理学会、特殊教育学会、国際行動分析学会 ④千葉大学で実験的行動分析学を学び、1986年（株）サンシステムに就職。ソフトウェア開発の仕事に携わりながら、87年より慶應義塾大学社会学研究科に入学し、応用行動分析学を学ぶ。89年より Western Michigan University へ留学、組織行動マネジメントを学ぶ。1992年 Ph.D.を取得。帰国後、コンサルタントとして3年間勤務した後、1995年に鳴門教育大学へ。同大学の学校教育研究センター及び高度情報研究教育センター助教授を経て、2006年より本学着任 ⑤著書には『パフォーマンスマネジメント：問題解決のための行動分析学』（米田出版）、『行動分析学入門』（産業図書）。『インストラクショナルデザイン：教師のためのルールブック』



凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴（学歴を含む） ⑤業績（著書・論文等）
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

(米田出版)、『人は、なぜ約束の時間に遅れるのかー素朴な疑問から考える「行動の原因」ー』(光文社新書)、『使える行動分析学ーじぶん実験のすすめー』(ちくま書房)など。論文には『知的障害がある生徒が講義を聞きながらメモをとるように指導する』(行動分析学研究, 2015, 29(2), 86-93, 共著)、『会計事務所で働くパート従業員を対象とした参加型マネジメント』(行動分析学研究, 2016, 31(1), 2-14, 共著)、『子どもの気になるクセをなおす方法』(教育と医学, 64(3), 246-254, 単著)などがある ⑦テニス、クライミング、スノーボードなど ⑧社会が直面する課題の多くは人間の行動問題として捉えられます。行動分析学は問題解決に役立つ心理学です。教育、福祉、医療、企業、行政など、将来、仕事で本格的に心理学を活かしたい学生諸君を歓迎します。参考 HP : <http://www.hosei-shinri.jp/simamune/> ⑨春学期：金曜4時限、秋学期：火曜4時限、場所は研究室(富士見坂校舎6F9号室)。



ふじ た てつ や 教授
藤 田 哲 也

博士(教育学)

①基礎ゼミ I・II、心理学測定法 I、演習 II、研究法 I・II、学習心理学、学習心理学特講。②認知心理学・教育心理学の中でも、学習及び記憶に関すること。特に、より効果的な記憶のしかたと、動機づけについて。③日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会、初年次教育学会、日本教育工学会、Psychonomic Society など。④1995 年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了、その後、京都大学教育学部助手、京都光華女子大学文学部専任講師及び助教授を経て、2003 年法政大学文学部に助教授として着任 ⑤最近のもののみ挙げます。著書：1.『学習の基礎』『学習意欲』『学習の進め方』『授業の方法』(共著：「教育心理学概論」放送大学教育振興会、2009 年)、2.「絶対役立つ教養の心理学」(共著。編集を担当：ミネルヴァ書房、2009 年)、3.『記憶過程と学習』(共著：「教育心理学」学文社、2010 年)、4.「絶対役立つ教養の心理学ー展開編ー」(共著。編集を担当：ミネルヴァ書房、2013 年)、5.「絶対役立つ臨床心理学」(監修：ミネルヴァ書房、2016 年)。6.「絶対役立つ教育相談」(監修：ミネルヴァ書房、2017 年)。論文：1.「授業支援ツールの受け止め方の違いについての検討」(共著：『日本教育工学雑誌』、2011 年)、2.「大学一年生と社会人の間をうめる初年次教育」(単著：『発達』、2012 年)、3.「大学における異なる授業間での授業通信の受け止められ方の比較ー受講生の専攻による相互行為の差異ー」(共著：『日本教育工学雑誌』、2013 年)、4.「初年次教育学会誌への投稿論文執筆について」(単著：『初年次教育学会誌』、2015 年)。⑦実はこう見えて、漫画の鬼です。小学生の頃から買い集めていますから、現在の蔵書は数千冊に及んでいます(正確な数は恐ろしくて調べられません)。ただ、ゆっくり読んでいる時間がないのが最近の悩みでして、読む作品も、すっかり保守的(昔から好きな作家のもの中心)になりました。買うスピードの方が読むスピードより速いので、まだ読んでいない本が増える一方です(単なるコレクター?!)。他にも映画を観るのが好きですが、やはり映画館に行っている時間がないので、もっぱら DVD やブルーレイで観ることになりがちです。漫画と同様、買うだけ買って、まだ見ていない DVD・ブルーレイもたくさん家にあります(やっぱりコレクター!?)。LD の悲劇を繰り返さないよう、買ったなら観ようと思っているのですが…! ⑧言うまでもなく、大学というのは基本的に学問をするところです。何かについて専門的に研究するのは当たり前なので、大学卒業後に「学生時代は何をしていましたか?」と尋ねられたときに「～の研究をしていました」というだけでは、当たり前すぎて面白くありません。研究以外にも、サークル活動や地域社会での活動、友だちづくりなど、プラスαの「何か」を大学で極めてください。そして卒業後に胸を張って「私は大学で～を一生懸命やりました」と言えるようになってください。⑨木曜日 13:30-14:30、場所は BT11 階のスタディールームにて。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

お ち けい た
越 智 啓 太 教授

修士 (心理学)

①犯罪心理学、社会心理学 ②犯罪捜査への心理学の応用、恋愛心理学 ③日本心理学会ほか④1992年学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了後、警視庁科学捜査研究所、東京家政大学文学部心理教育学科助教授、を経て現職
⑤著書 著作:「ケースで学ぶ犯罪心理学」などいろいろ⑦なし⑧とくになし
⑨火曜日 6 時限目 (心理学実習室付近)



た じま けい いち
田 嶋 圭 一 教授

Ph. D (Linguistics, Cognitive Science)

①学部: 認知科学入門、認知科学特講、言語学特講I・II (日本言語学特殊研究A・B)、演習II、研究法I・II。大学院: 音声言語科学特論、音声言語科学演習、英語音声・応用研究A・B、心理学英語論文作成指導ほか ②言語心理学、音声学、言語学、認知科学 ③日本音響学会、日本音声学会、日本音韻論学会、日本言語学会、日本英語学会、日本認知心理学会、日本認知科学会、Acoustical Society of America ④米国ブラウン大学卒業 (1991)、米国インディアナ大学大学院修士課程修了 (1995)、米国インディアナ大学大学院博士課程修了 (1998)、ATR人間情報通信研究所客員研究員 (1999-2001)、国際電気通信基礎技術研究所客員研究員 (2001-2002)、ATR人間情報科学研究所客員研究員 (2002-2003)、ATR人間情報科学研究所マルチリンガル学習研究室非常勤研究員 (2003-2006)、法政大学文学部専任講師 (2003-2006)、法政大学文学部准教授 (2006-2012)、法政大学文学部教授 (2012-) ⑤【著書】「音声学を学ぶ人のためのPraat入門」(共著、ひつじ書房、2017) 【論文】1. “Effects of temporal correction on intelligibility of foreign-accented English” (共著、*Journal of Phonetics*, 1997) 2. “Speech Rhythm in English and Japanese: Experiments in Speech Cycling” (博士論文、1998) 3. “Speech rhythm of ‘stress-timed’ and ‘mora-timed’ languages” (単著、「音韻研究」、2001) 4. “Syllable structure and the perception of second language speech” (共著、『文法と音声3』くろしお出版、2001) 5. “Speech rhythm and its relation to issues in phonetics and cognitive science” (単著、『音声研究』、2002) 6. “Speech rhythm in English and Japanese” (共著、*Papers in Laboratory Phonology VI: Phonetic Interpretation*, Cambridge University Press, 2004) 7. “Relevance of phonetics in phonology” (単著、*English Linguistics*, 2007) 8. “Training English listeners to perceive phonemic length contrasts in Japanese” (共著、*Journal of the Acoustical Society of America*, 2008) 9. 「母親特有の話し方は日本語リズムの獲得に役立つか? : 対乳児音声における特殊拍音素の分布から」(共著、『電子情報通信学会技術研究報告』、2008) 10. 「依頼に対する回答の仕方が話し手の性格印象に与える影響: 回答表現の直接性と間の取り方に注目して」(共著、『法政大学文学部紀要』、2010) 11. 「音声学・音韻論が英語教育に与える示唆」(単著、『最新言語理論を英語教育に活用する』、開拓社、2012) ほか ⑥理化学研究所脳科学総合研究センター言語発達研究チーム非常勤研究員 (2004-)、日本音声学会広報委員 (2001-2009)、日本音声学会編集委員 (2007-2012)、日本音声学会評議員 (2010-) ⑦音楽 (今でもたまにバンドで演奏しています) ⑧お金は使えばなくなりますが、学んだことは誰からも奪われることのない一生の財産になります。そんな気持ちで学生生活を送って下さい。また、勉強以外にも大学ではこれをやりました、と言える何かを見つけてください。最後に、大学を卒業する前に、一生付き合える友達を作ってください。⑨火曜日4限目、またはメール (tajima@hosei.ac.jp) や口頭でアポを取って下さい。



凡例: ①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

あら い ひろ かず
荒 井 弘 和 教授



博士（人間科学）

①スポーツ総合演習、スポーツ心理学特講、スポーツ心理学、アスリートのキャリアマネジメント ②アスリートの心理サポート ③日本スポーツ心理学会、日本健康心理学会、日本心理学会、日本感情心理学会、日本行動療法学会その他 ④1998年日本大学文理学部卒業、2003年早稲田大学大学院博士後期課程修了、2003年大阪工業大学嘱託講師、2007年大阪人間科学大学専任講師 ⑤Perception of Japanese collegiate athletes about the factors related to mentoring support (Journal of Physical Education Research 2016年)、The effect of romantic relationships on collegiate athletes' lives with special attention to gender differences (European Journal of Physical Education and Sport Science 2017年)。分担執筆：スポーツメンタルトレーニング教本（大修館書店2016年）⑥日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業 競技団体サポートスタッフ、日本スポーツ心理学会理事⑦甘いものを食べること ⑧これからの社会を作っていくのは学生のみなさんです。一緒に勉強しましょう。⑨火曜日12時00分から13時00分、個人研究室（80年館817室）



はやし よう いち
林 容 市 専任講師

博士（体育科学）

①研究法Ⅰ・Ⅱ、身体活動と健康、スポーツ総合演習 ②応用健康科学、生理心理学、健康心理学 ③日本体育学会、日本体力医学会、日本健康支援学会、American College of Sports Medicine、日本測定評価学会など ④2005年に筑波大学大学院博士課程体育科学研究科を修了し、博士号を取得。筑波大学大学院人間総合科学研究科研究員、千葉工業大学工学部教育センター助教を経て、2011年本学着任 ⑤著書（分担執筆）：転倒関連体力の改善が転倒予防に及ぼす効果（「高齢者のための転倒予防-転倒の基礎理論から介入実践まで-」、杏林書院、2012）、全身持久力とエクササイズ（「エクササイズ科学 健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践」、文光堂、2012）など。論文：強度を自己選択した有酸素性運動中における生理的要因の経時変化と自覚的運動強度との相互関係（体育学研究 52: 119-131、2007、共著）、個人の性格特性と減量後の体重維持に関連したセルフエフィカシーとの関係（体力科学 57: 197-206、2008、共著）、Acute Effects of Aerobic Exercise on Cognitive Function in Older Adults (J. Gerontology: Psychological Sciences 64B: 356-363、2009、共著) など。⑥日本測定評価学会理事など ⑧大学での様々な学びを通じて物事を捕らえる視野を広げ、他者と比較してではなく、自分自身が納得できる充実した学生生活を過ごして欲しいと願っています。⑨月曜日15:30から16:30（富士見坂校舎第3研究室）。

凡例：①主な科目 ②現在の専門分野 ③所属学会・団体 ④略歴(学歴を含む) ⑤業績(著書・論文等)
⑥学外での活動 ⑦趣味 ⑧学生へのメッセージ ⑨オフィス・アワー

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO



学生証番号	
氏 名	